

茨城県教育財団文化財調査報告第308集

薬師後遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成21年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第308集

やく し うしろ
薬 師 後 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成21年3月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団



I 区全景



II 区全景



Ⅲ区全景



Ⅳ区全景



第5号掘立柱建物跡



第130号住居跡



鳥の絵がヘラで刻まれている須恵器坏（第11号住居跡出土）



「真」という文字が刻まれている石製紡錘車（第715号土坑出土）

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭において地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。その一環としての首都圏中央連絡自動車道建設事業は、首都圏の中核都市を相互に結ぶことにより地域の核となる都市群を形成し、さらにこれらの地域における交通の円滑化を図り、地域の自立性を高める拠点となる都市整備を目的として計画されたものです。

しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である薬師後遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成18年6月から発掘調査を実施しています。

本書は、そのうち、平成18年度と平成19年度の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、稲敷市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成 21 年 3 月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉 節生

例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18・19年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷市椎塚字薬師後1,376番地ほかに所在する薬師後遺跡の発掘調査報告書である。

2 遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査 平成18年6月1日～平成19年3月31日
平成19年6月1日～平成20年3月31日
整 理 平成19年4月1日～平成20年3月31日
平成20年6月2日～平成21年3月31日

3 発掘調査は、調査課長川井正一（平成18年度）、瓦吹堅（平成19年度）のもと、以下の者が担当した。

平成18年度	首席調査員兼班長	川又清明	
	主任調査員	青木仁昌	平成18年6月1日～12月31日
	主任調査員	大関 武	平成18年6月1日～平成19年3月31日
	主任調査員	青木 亨	平成19年1月1日～1月31日
	主任調査員	井上琢哉	平成19年2月1日～3月31日
	主任調査員	松本直人	平成18年12月1日～平成19年3月31日
平成19年度	首席調査員兼班長	川村満博	
	首席調査員	成島一也	平成19年6月1日～平成20年3月31日
	主任調査員	飯田浩彦	平成20年3月1日～3月31日
	主任調査員	齋藤真弥	平成19年8月1日～8月31日
	主任調査員	花見勝博	平成19年9月1日～10月31日
	主任調査員	小室弘毅	平成20年3月1日～3月31日
	副主任調査員	小林 悟	平成19年7月1日～平成20年3月31日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

平成19年度	主任調査員	大関 武	平成19年4月1日～6月30日
			平成19年10月1日～平成20年3月31日
	調査員	鹿島直樹	平成19年7月1日～平成20年1月31日
平成20年度	首席調査員兼班長	成島一也	平成20年6月2日～平成21年3月31日
	主任調査員	齋藤和浩	平成20年7月1日～8月31日
	調査員	早川麗司	平成21年1月1日～平成21年3月31日

なお、執筆分担は以下の通りである。

大関	第1章第2節～第3章第2節，第3節4～6，第5節4・5，第7節
鹿島	第3章第3節1～3，7，第5節1～3・6，第7節
成島	第1章第2節，第3章第1・2節，第4節2・3・5，第6節2・3・5，第7節
齋藤	第4節1～3，第6節1～3
早川	第4節2～5，第6節2～5

凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X軸 = -7,280m、Y軸 = +45,720mの交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1,2,3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに、小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1,2,3…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

2 抄録の北緯及び東経の欄は、世界測地系に変換したものを掲載した。

3 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SI-住居跡 SB-掘立柱建物跡 SK-土坑 TP-陥し穴 SD-溝跡 SM-地点貝塚
UP-地下式坑 SF-道路跡 HG-遺物包含層 P-柱穴





遺物 TP-拓本記録土器 DP-土製品 Q-石器・石製品 M-金属製品・古銭 N-自然遺物・貝
土層 K-攪乱

4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は住居跡・掘立柱建物跡・土坑・方形竪穴遺構・火葬土坑・地下式坑・陥し穴・地点貝塚・道路跡・溝跡は60分の1、遺物包含層は60分の1・120分の1・180分の1・300分の1に縮尺して掲載することを基本とした。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

	= 焼土・赤彩・施釉・朱墨・鉄分付着範囲		= 火床面・繊維土器断面								
	= 竈構築材・粘土・炭化物・黒色処理・砂・灰		= 柱痕跡・貝散布・油煙・墨								
●	= 土器	○	= 土製品	□	= 石器・石製品	△	= 金属製品・古銭	▲	= 貝	-----	= 硬化面

5 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

6 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、m・cm、kg・gである。なお、現存値は（ ）で、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ記載の土器片、土製品、石器・石製品、金属製品・古銭ごとに通し番号とし、本文・挿図・写真図版に記した番号も同一である。

7 竪穴住居跡の「主軸」は炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N-10°-E）。

目 次

－ 上 卷 －

序	
例言	
凡例	
目次	
概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	13
第1節 遺跡の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 I区の遺構と遺物	17
1 旧石器時代の遺物	17
2 縄文時代の遺構と遺物	17
(1) 陥し穴	17
(2) 遺物包含層	18
(3) 遺構外出土遺物	20
3 古墳時代の遺構と遺物	21
(1) 竪穴住居跡	21
(2) 土坑	64
(3) 遺構外出土遺物	66
4 奈良平安時代の遺構と遺物	66
(1) 竪穴住居跡	67
(2) 掘立柱建物跡	164
(3) 土坑	189
(4) 地点貝塚	199
(5) 遺物包含層	200
(6) 遺構外出土遺物	204

5 中世近世の遺構と遺物	205
(1) 方形竪穴遺構	205
(2) 火葬土坑	208
(3) 土坑	211
(4) 溝跡	213
(5) 遺構外出土遺物	218
6 その他の遺構	218
土坑	218
第4節 II区の遺構と遺物	234
1 縄文時代の遺物	234
2 古墳時代の遺構と遺物	236
(1) 竪穴住居跡	236
(2) 土坑	313
(3) 遺物包含層	315
(4) 遺構外出土遺物	319
3 奈良平安時代の遺構と遺物	320
(1) 竪穴住居跡	320

－ 中 卷 －

3 奈良平安時代の遺構と遺物	335
(1) 竪穴住居跡	335
(2) 竪穴状遺構	395
(3) 土坑	398
(4) 遺構外出土遺物	404
4 中世近世の遺構と遺物	405
(1) 方形竪穴遺構	405
(2) 地下式坑	406
(3) 粘土貼土坑	407
(4) 土坑	408
(5) 遺構外出土遺物	418
5 その他の遺構と遺物	419
(1) 竪穴住居跡	419
(2) 地点貝塚	420

(3) 道路跡……………	421	(2) 溝跡……………	627
(4) 溝跡……………	422	(3) 土坑……………	631
(5) 土坑……………	428	(4) 遺構外出土遺物……………	634
(6) ピット群……………	438		
(7) 遺構外出土遺物……………	442		
第5節 III区の遺構と遺物……………	443		
1 旧石器時代の遺物……………	443	第7節 まとめ……………	635
2 縄文時代の遺構と遺物……………	443	付章……………	660
(1) 陥し穴……………	443	写真図版	
(2) 遺構外出土遺物……………	444	抄録	
3 古墳時代の遺構と遺物……………	445		
(1) 竪穴住居跡……………	445		
(2) 遺物包含層……………	531		
(3) 遺構外出土遺物……………	534		
4 奈良平安時代の遺構と遺物……………	536		
竪穴住居跡……………	536		
5 中世近世の遺構と遺物……………	544		
(1) 溝跡……………	544		
(2) 遺構外出土遺物……………	547		
6 その他の遺構……………	547		
(1) 竪穴住居跡……………	547		
(2) 土坑……………	549		
第6節 IV区の遺構と遺物……………	561		
1 縄文時代の遺物……………	561		
2 古墳時代の遺構と遺物……………	563		
(1) 竪穴住居跡……………	563		
(2) 土坑……………	590		
(3) 遺構外出土遺物……………	591		
3 奈良平安時代の遺構と遺物……………	591		
(1) 竪穴住居跡……………	591		
(2) 掘立柱建物跡……………	613		
(3) 土坑……………	615		
(4) 遺構外出土遺物……………	616		
4 中世近世の遺構と遺物……………	617		
土坑……………	617		
5 その他の遺構と遺物……………	619		
(1) 竪穴住居跡……………	619		

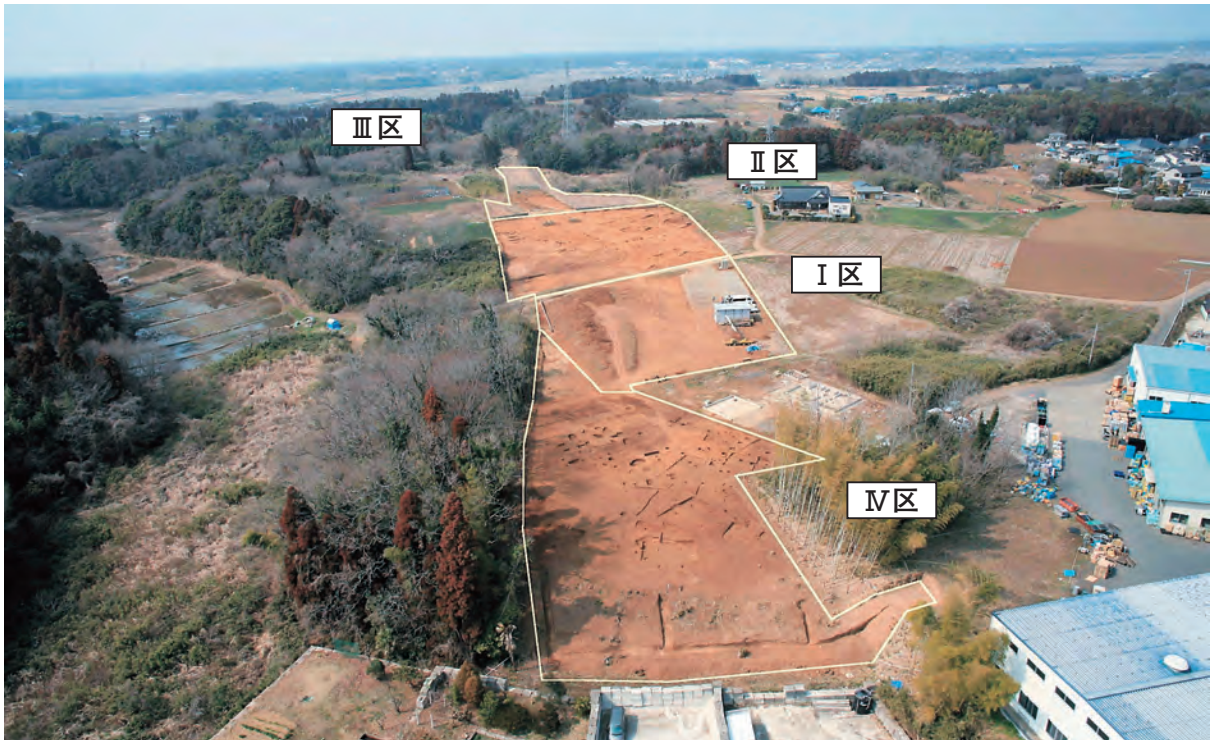
－ 下巻 －

やくしうしろいせき がいよう 薬師後遺跡の概要



【調査のあらまし】

薬師後遺跡は、稲敷市の南部（旧江戸崎町）、小野川と利根川にはさまれた標高28mの台地の上にあります。今回の発掘調査は、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）を建設する前に、その予定地内で確認された昔の人々の生活の跡や土器などの道具を写真や図面などに記録して、将来へ残すために行いました。その記録は、当時の人々のくらしを知るための手がかりとなります。私たちの祖先が営んできた生活の様子を知ることが、地域の歴史をひもとくための貴重な資料になります。



【調査の内容】

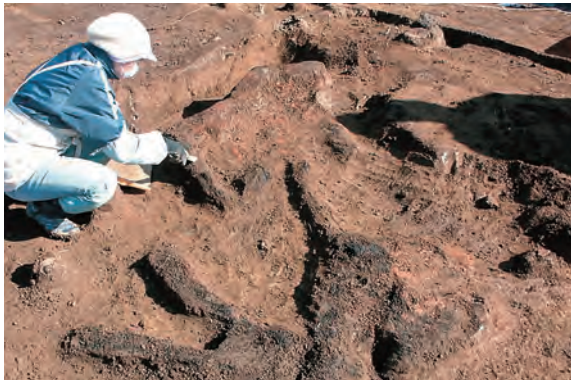
薬師後遺跡は平成18年度と平成19年度の2回に渡り、調査を行いました。旧石器時代の石器、縄文時代の陥し穴と遺物包含層、古墳時代（約1700～1400年前）の竪穴住居跡93軒、地点貝塚及び遺物包含層3か所、奈良・平安時代（約1300～1000年前）の竪穴住居跡81軒、掘立柱建物跡18棟、竪穴状遺構2基、地点貝塚3か所及び遺物包含層、中世（約800～600年前）の方形竪穴遺構7基、火葬施設5基、地下式坑及び粘土貼土坑などを調査し、この遺跡が昔から人々の生活の場であったことが分かりました。



当時の住居には、屋根を支えるための柱や出入りのための階段を支える柱があり、その柱を立てるための穴が掘られています。また、コンロにあたる竈かまどが作られています。



一辺が約8mの大形の住居跡は、南部分が張り出し、4か所の支柱穴と、それを補助する柱穴が3か所確認されました。床面の中央に一番大きな柱があったと思われます。



住居跡から、たくさんの炭化材と赤く焼けた土が出土しました。炭化材はアカガシという木の種類で、柱に使われていました。使えなくなった柱を意図的に燃やしたようです。



住居跡の柱穴から、土師器はじきの坏つぎや高坏かめなど、たくさんの土器が出土しました。住居を使用しなくなり、埋め戻された時に、投げ込まれたようです。



住居跡の竈かまどの中から須恵器すゑきの坏つぎが出土しました。竈から出土したにもかかわらず、坏は火を受けてなく、竈神を祭るために置いたようです。坏には2羽の鳥が描かれました。水鳥のようですが、土器を焼く前に、細いヘラのようなもので刻まれています。



5 × 3間の大形の掘立柱建物跡です。掘立柱建物跡は大形のものから小形のものまで、全部で18棟が確認されました。倉庫や住まいとして使われていたと考えられます。



直径2 m、深さ1.5mの大形の土坑で、底面の中央がくぼんでいます。土器や炭化材、焼けた土が出土しました。採取した土の分析から、古代の「氷室」の可能性が高まりました。



平安時代の土坑から出土した石製の紡錘車です。糸を紡ぐための道具で、「真」という文字が刻まれています。特別なお祈りやまじないに際し、使用されたと考えられます。



土玉や管状土錘は、魚をとるための網の重りといわれています。1軒の住居跡の中から50個以上の土玉が出土しており、漁労が盛んに行われていたことが想像できます。

【調査で分ったこと】

薬師後遺跡の集落が最も栄えたのは古墳時代の終わり（約1400年前）と奈良時代から平安時代の前半（約1300～1100年前）です。住居である竪穴住居跡、倉庫の掘立柱建物跡などを中心に集落が作られていました。集落の範囲は台地の西部（Ⅲ区）から次第に全域へと広がり、やがて東部（Ⅰ・Ⅳ区）に集中して平安時代の後半にはなくなっていきました。

ほとんどの竪穴住居には、竈と屋根を支える柱の穴・出入り口の穴が備えられ、一部の住居には物を蓄えるための穴や壁際に溝を持つものもあります。また、増築したり、竈を

何回か作り替えた住居跡も確認できました。便利になるように、工夫しながら生活していた当時の人々の知恵がよく分かります。

また、出土した土器の多くは、素焼きの土師器^{かま}、窯で焼かれた須恵器といわれるものです。土器は形や用途から、食事用の坏や椀、貯蔵用や煮炊き用の甕^{かめ}、米を蒸すための甑^{こしき}などに分けられます。他にも、石で作った道具（石製品）の白玉・有孔円板・剣形模造品、竈の上に乗せた甕を支えるための支脚^{しきゃく}、魚をとるための網の重りといわれている土玉、糸を紡ぐ道具である紡錘車^{とうす}、刀子といわれる小刀や鎌など、日常生活で普段から使用された様々な道具が出土しています。これらの道具は周辺の地域だけでなく、遠方の人々との交流から伝わってきた物も多いと考えられます。特に、当時の高級品である東海地方で生産された灰釉陶器^{かいゆうとうき}・緑釉陶器^{りよくゆうとうき}といった施釉陶器^{せゆう}や、文字が使われていたことを示す円面硯^{えんめんけん}という硯^{すずり}、土器の表面に文字が書かれている墨書土器^{ぼくしょ}や朱書土器^{しゆしょ}、刻書土器^{こくしょ}が数多く出土していることから、集落の中に地方の役人階級や裕福な人々が暮らしていたことが想像されます。

遺跡が位置している稲敷市椎塚地区は、平安時代の中頃に表された『和名類聚抄』という書物の中に載っている「信太郡小野郷」という地域に当たると考えられています。これらのことから、薬師後遺跡はこの地域一帯の中心的な集落であったと思われます。

【難しい用語の説明】

土 師 器^{じき}…古墳時代から使用された、野外で焼かれた素焼きの赤い色をした土器です。

須 恵 器^{すゑき}…登窯^{のぼりがま}の中で焼かれた、硬質^{こうしつ}で灰色をした土器です

白 玉^{うすだま}…小さな玉で、穴にひもを通して首かざりにしました。

剣形模造品^{けんがたもぞうひん}…剣の形をまねたお祭り用の作り物です。ぶら下げるために穴があいています。

有 孔 円 板^{ゆうこうえんばん}…丸い鏡の形をまねたお祭り用の作り物です。穴が1か所あけられた単孔円板^{たんこうえんばん}、2か所あけられた双孔円板^{そうこうえんばん}に分けられます。

氷 室^{ひむろ}…冬場にできた氷を溶けないように保管するための施設です。

灰 釉 陶 器^{かいゆうとうき}…木灰を使った釉薬^{ゆうやく}（うわぐすり）を塗^ぬって焼いた灰色の陶器です。

緑 釉 陶 器^{りよくゆうとうき}…鉛を使った釉薬^{ゆうやく}を塗^ぬって焼いた緑色の陶器です。

円 面 硯^{えんめんけん}…まわりに縁を設けた丸い形の硯^{すずり}で、下に脚が付いています。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、首都圏の核となる都市群の発展と交通の円滑化を図るために、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の建設を進めている。

平成16年9月29日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成17年3月8日に現地踏査、平成18年2月21～23日に試掘調査を実施し、薬師後遺跡が所在することを確認した。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に薬師後遺跡が所在する旨回答した。

平成18年2月24日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成18年2月27日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成18年3月9日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業（茨城県）に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成18年3月13日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、薬師後遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

また、平成19年2月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道事業に係る平成19年度埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成19年2月27日、茨城県教育委員会教育長から国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、薬師後遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年6月1日から平成19年3月31日、平成19年6月1日から平成20年3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

薬師後遺跡の調査は、平成18年6月1日から平成19年3月31日まで、平成19年6月1日から平成20年3月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

平成18年度

工程 \ 期間	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 遺構除却 土壌確認	■						■			
遺構調査			■							
遺物洗浄 写真整理			■							
補足調査 撤収										■

平成19年度

工程 \ 期間	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 遺構除却 土壌確認	■				■					
遺構調査			■							
遺物洗浄 写真整理			■							
補足調査 撤収										■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

薬師後遺跡は、茨城県稲敷市椎塚字薬師後1,376番地ほかに所在している。

遺跡が所在する稲敷市は、茨城県の南部に位置し、北は霞ヶ浦南岸に面し、東は横利根川、南は利根川を挟んで千葉県と境を接している。地形は、稲敷台地と呼ばれる標高20～30mの洪積台地と、小野川を含む霞ヶ浦水系と利根川水系による沖積低地からなっている。これらの水系に挟まれた台地は、北西方向のつくば市から続く筑波・稲敷台地の最東南端に当たる。市域の稲敷台地は、小野川右岸の神宮寺台地と左岸の江戸崎台地に分かれるが、いずれの台地上もごく緩やかな起伏をもち、縁辺部は多数の谷津が複雑に入り組み、樹枝状に開析されている。市域の南西部から流入して、北に向きを変えて流れる小野川は、北東部の霞ヶ浦の「江戸崎入り」に注いでいる。

稲敷台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤となり、下部から上部にかけて成田層下部、成田層上部、龍ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層、表土層の順に堆積している。堆積状況は、水平かつ単調である。

当遺跡は、小野川右岸の神宮寺台地の南部に位置し、台地の南西部から樹枝状に入り込んだ利根川水系の谷津に挟まれた標高25～28mの舌状台地上に立地している。遺跡の調査前の現況は畑地、山林、及び荒地である。

第2節 歴史的環境

薬師後遺跡の所在する地域は、台地、低地、河川、湖沼と変化に富んだ自然環境を示し、神宮寺台地及び江戸崎台地上には、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』¹⁾に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡として、明確な生活の痕跡はあまり確認できないが、小野川左岸の中峰遺跡〈2〉で5か所の石器集中地点が調査されている²⁾。彫器2点、ナイフ形石器1点を含む、359点の石器が出土し、石器製作跡と考えられる。また、霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸の秋平遺跡〈3〉からナイフ形石器が出土している³⁾。

縄文時代の遺跡は、霞ヶ浦水系と利根川水系に挟まれた台地上に貝塚が多く確認されており、明治期から知られている著名なものも少なくない。小野川左岸の村田貝塚〈4〉は、ハマグリを主体とする前期から中期の貝塚で、土器のほか岩偶などが出土している⁴⁾。また、児松遺跡〈5〉で中期の住居跡1軒と中期から後期の遺物包含層1か所が、中峰遺跡で中期の土坑2基がそれぞれ調査されている⁵⁾。霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸の吹上貝塚〈6〉は、中期の貝塚である⁶⁾。また、楯の台古墳群⁷⁾・思川遺跡⁸⁾〈8〉で早期の炉穴、中佐倉貝塚⁹⁾〈9〉で前期の住居跡と地点貝塚がそれぞれ調査されている。小野川右岸の高田岡貝塚〈10〉は、中期の貝塚である。また、椎塚貝塚〈11〉はヤマトシジミを主体とする後期の貝塚で、注口土器・山形土偶・ヤスが突き刺さったタイの頭骨などが出土している著名な貝塚である¹⁰⁾。道成寺貝塚〈12〉は、ヤマトシジミを主体とする後期から晩期の貝塚で、無文で器厚が薄い製塩用の粗製土器が多数出土している¹¹⁾。霞ヶ浦「江戸崎入り」右岸の塚原貝塚〈13〉は、後期の貝塚である。また、広畑貝塚〈14〉はハマグリを主体とする後期から晩期の貝塚で、炭酸カルシウムの付着する製塩用の粗製土器が多数出土しており¹²⁾、現在、国の史跡に指定されている。

柏木遺跡〈15〉で前期の陥し穴が調査されている¹³⁾。霞ヶ浦南岸の所作貝塚〈16〉は前期、天神台貝塚〈17〉は後期の貝塚である。利根川左岸の福田貝塚〈18〉は、ハマグリを主体とする後期の貝塚で、人面装飾付注口土器・鳥形土器・筒形土偶・山形土偶・土板などが出土している著名な貝塚である¹⁴⁾。

弥生時代の遺跡は少ないが、近年、後期集落の調査例が増えている。小野川左岸では堂ノ上遺跡〈19〉で2軒¹⁵⁾、霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では楯の台古墳群で6軒、大日山古墳群〈20〉で8軒¹⁶⁾、思川遺跡で3軒、秋平遺跡で1軒の住居跡がそれぞれ調査されている。その内、大日山古墳群は、土器様相から集落の形成時期が中期後葉まで遡ることが判明している。また、思川久保遺跡〈21〉でも当該期の住居跡が確認されている¹⁷⁾。

古墳時代の遺跡は、台地上や縁辺部に集落跡と古墳が隣接するように点在している。小野川左岸では、中峰遺跡で前・後期の住居跡4軒が、堂ノ上遺跡で後期の集落跡がそれぞれ調査されている。霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では、池平遺跡〈22〉で前期から後期¹⁸⁾、大日山古墳群・中佐倉貝塚で中期から後期、二の宮貝塚〈23〉、思川遺跡、秋平遺跡で後期の集落跡がそれぞれ調査されている¹⁹⁾。また、楯の台古墳群では前期から後期の集落跡と、後期の古墳群が調査されている。この古墳群は、全長約40mの前方後円墳が主墳で、箱式石棺が確認されている。姫宮古墳群〈24〉は、全長約32mの前方後円墳が主墳である²⁰⁾。水神峯古墳〈25〉は、内部赤彩の箱式石棺や武器・馬具などの副葬品から6世紀前葉の築造と考えられている²¹⁾。霞ヶ浦「江戸崎入り」右岸では、柏木遺跡で前・後期の集落跡が調査されている。霞ヶ浦南岸の西原古墳群〈26〉は、全長約34mの前方後円墳が主墳で、箱式石棺が確認されており、直刀・勾玉が出土している²²⁾。前山古墳〈27〉は、径約30mの円墳で、切石積横穴式石室が確認されている²³⁾。利根川左岸の諏訪原古墳群〈28〉は、円墳だけで構成された古墳群で、箱式石棺が確認されている²⁴⁾。幸田古墳群〈29〉は、全長約45mの前方後円墳が主墳で、1号墳は埴輪を有している²⁵⁾。福田古墳群〈30〉は、全長約55mの前方後円墳が主墳で、箱式石棺・横穴式石室が確認されており、埴輪を有しているものもある²⁶⁾。東大沼古墳群〈31〉は、全長約40mの前方後円墳が主墳で、調査された7号墳は、箱式石棺や直刀・鉄鏃などの副葬品から6世紀後葉の築造と考えられている²⁷⁾。このような古墳時代の遺跡分布をみると、前期から中期にかけての急激な変化は認められないが、中期後葉から後期前葉になって新しく形成された集落や築造された古墳が数多く認められる。

奈良時代に編纂された『常陸国風土記』によると、信太郡は東を「信太流海」、南を「榎浦流海」に挟まれており、郡内を「東海大道」が通っていた。その官道沿いには常陸国最初の駅家「榎浦津」が設置されていた²⁸⁾。また、平安時代に編纂された『倭名類聚抄』によると、信太郡は大野、高来、小野、朝夷、高田、子方、志万、中家、島津、信太、乗浜、稲敷、阿弥、駅家の14郷に分かれていた。当遺跡が所在する椎塚は、『新編常陸国誌』によると小野郷内に比定されている²⁹⁾。小野川左岸の下君山廃寺跡は、当遺跡西方約5kmに所在する寺院跡で、8世紀前半の重弧文軒平瓦、9世紀前半の国分寺系素縁複弁十葉花文軒丸瓦及び均整唐草文軒平瓦が出土しており、信太郡の郡寺跡と推定されている³⁰⁾。霞ヶ浦「江戸崎入り」左岸では、秋平遺跡で8～11世紀、思川遺跡で8～11世紀、中佐倉貝塚で8・10～11世紀、楯の台古墳群で9世紀、池平遺跡で10世紀の集落跡、二の宮貝塚で10～11世紀の掘立柱建物跡を伴う集落跡がそれぞれ調査されており、これらは信太郷内の村落に比定されている。霞ヶ浦「江戸崎入り」右岸では、柏木遺跡で8～10世紀の掘立柱建物を伴う集落跡が調査されており、高田郷内の村落に比定されている。また、霞ヶ浦南岸の幸田遺跡・幸田台遺跡は、当遺跡東方約5kmに所在する8～10世紀の掘立柱建物を伴う集落跡で、同じ高田郷内に比定されている³¹⁾。その他、塔の前廢寺跡〈32〉は単宇型式の寺院跡で、8世紀前半の鋸齒文縁複弁花文軒丸瓦及び重弧文軒平瓦が出土している³²⁾。このような奈良・平安時代の遺跡分布をみると、古墳時代後期から継続する集落と、奈良・平安時代になって新しく形成された集落がそれぞれ認められるが、いずれもの集落も11世紀後半以降の様相に

については不明な部分が多い。

平安時代末期には古代の郡の解体が進み、信太郡内も小野川を挟んで東西に分かれ、東には東条庄、西には信太庄がそれぞれ立庄され、中世へとつながっていく。利根川左岸の東条城跡〈33〉は、東条庄の地頭として入部した常陸平氏一族東条氏の居城跡といわれている³³⁾。南北朝時代になると、当地域は争乱の舞台となる。霞ヶ浦南岸の神宮寺城跡〈34〉は、南朝方の北畠親房が常陸国で最初に入城した城で、現在、県の史跡に指定されている³⁴⁾。南北朝時代末期になると、関東管領上杉氏被官の土岐原氏が信太庄惣政所として当地域に移住する。小野川左岸の江戸崎城跡〈35〉は、この土岐原（土岐）氏の居城跡で、戦国時代ここを拠点に一大勢力を築いた。その勢いは、天正18（1590）年の佐竹氏による常陸国統一まで約200年間続いた。この城跡の本格的な調査は行われていないが、工事の際、人骨・土師質土器・漆器・塔婆・石塔・古銭などが出土している³⁵⁾。また、楯の台古墳群でも中世後半の主郭部が確認され、それに伴う堀跡が調査されている。その他、中峰遺跡で地下式坑4基・火葬土坑3基、二の宮貝塚で地下式坑・土坑墓、秋平遺跡で方形竪穴遺構・火葬土坑がそれぞれ調査されている。

近世初期、佐竹義宣は江戸崎城に弟芦名盛重を配して領国経営に当たったが、慶長7（1602）年に秋田へ国替えとなる。慶長8（1603）年には青山忠俊が入部して江戸崎藩が成立するが、同15（1610）年に移封されて廃藩となる。その後、元和5（1619）年には丹羽長重が入部して再び立藩するが、同8（1622）年に移封されて再び廃藩となり、江戸崎城は廃城になったといわれている。また、霞ヶ浦「江戸崎入り」右岸の古谷城跡〈36〉は、慶長8（1603）年に丹羽長重が古渡藩の成立時に陣屋を置いた城跡で、元和5（1619）年に江戸崎城に移るまで続いたが、江戸崎藩への移封によって廃城になったといわれている³⁶⁾。その他、二の宮貝塚で近世の地点貝塚、大日山古墳群で大日塚、迎山塚〈37〉で優婆神塚³⁷⁾、十三塚〈38〉で十三塚³⁸⁾がそれぞれ調査されている。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 本橋弘巳「中峰遺跡・児松遺跡 一般国道465号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第286集 2008年3月
- 3) 大賀建ほか『秋平遺跡・池平遺跡・中佐倉貝塚 ザ・インペリアル・ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』江戸崎町佐倉地区遺跡発掘調査会 1999年11月
- 4) 茨城県史編さん原始古代史専門委員会編『茨城県史料 考古資料編－先土器・縄文時代－』茨城県 1979年3月
- 5) 前掲註2)に同じ。
- 6) 江戸崎史編さん委員会編『江戸崎町史』江戸崎町 1993年3月
- 7) 間宮正光ほか『楯の台古墳群 第2・3次発掘調査報告書』江戸崎町教育委員会 2001年3月
- 8) 鈴木美治「一般県道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 二の宮貝塚・大日山古墳群・思川遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第65集 1991年3月
- 9) 前掲註3)に同じ
- 10) 前掲註4)に同じ
- 11) 前掲註4)に同じ
- 12) 前掲註4)に同じ
- 13) 松浦敏「一般県道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 柏木古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第74集 1992年3月
- 14) 渡辺誠ほか「福田（神明前）貝塚」『古代学研究所研究報告』第2輯 1991年3月
- 15) 茨城県教育財団編『年報26－平成18年度－』2007年8月
- 16) 前掲註8)に同じ
- 17) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡・古墳発掘調査報告書Ⅶ（平成2・3年度）』茨城県教育委員会 1993年3月
- 18) 前掲註3)に同じ
- 19) 前掲註8)に同じ
- 20) 間宮正光『姫宮古墳群1・2号墳・水神峯古墳』江戸崎町教育委員会 2000年10月
- 21) 前掲註20)に同じ
- 22) 茨城県教育庁文化課編『重要遺跡報告書Ⅲ』茨城県教育委員会 1986年3月

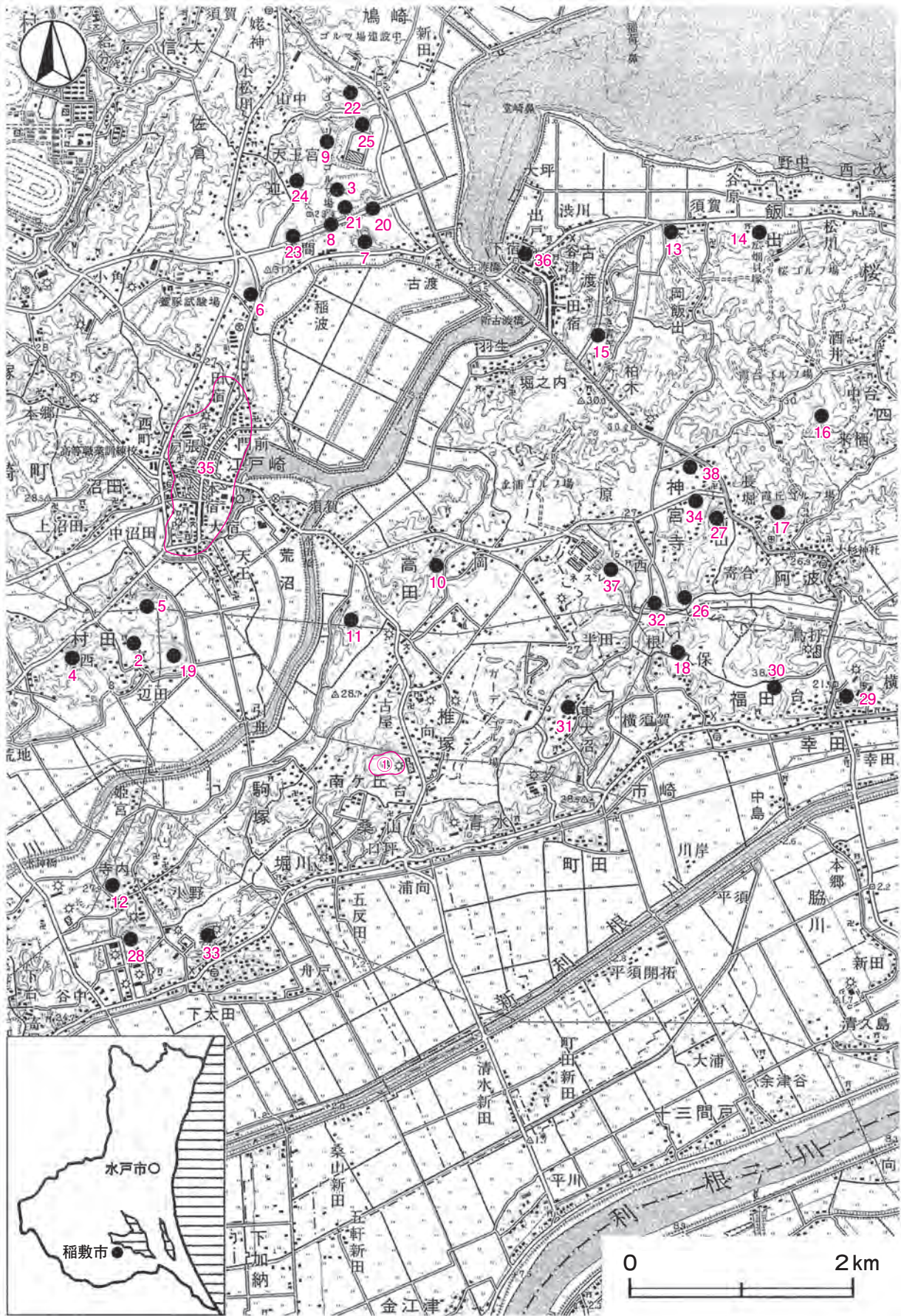
- 23) 茨城県史編さん原始古代史専門委員会編『茨城県史料 考古資料編 - 古墳時代 -』茨城県 1974年2月
- 24) 新利根村史編纂委員会編『新利根村史 (一)』新利根村 1981年11月
- 25) 東町史編纂委員会編『東町史 資料編 - 原始古代 -』東町 1998年3月
- 26) 前掲註25) に同じ
- 27) 森田忠治ほか「東大沼古墳群第7号墳発掘調査報告書」『東町立歴史民俗資料館文化財調査報告』第1集 2000年3月
- 28) 秋本吉徳『風土記 (一) 常陸国風土記』講談社 1979年4月
- 29) 中山信名修・栗田寛補『宮崎報恩会版 新編常陸国誌』崙書房 1979年12月
- 30) 瓦吹堅ほか『学術調査報告4 茨城県における古代瓦の研究』茨城県立歴史館 1994年3月
- 31) 間宮正光『幸田遺跡・幸田台遺跡 東台団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』東村教育委員会 1995年3月
- 32) 前掲註30) に同じ
- 33) 新利根村史編纂委員会編『新利根村史 (三)』新利根村 1984年3月
- 34) 茨城県教育庁文化課編『国・県指定史跡調査報告書』茨城県教育委員会 1979年3月
- 35) 平田満男ほか『江戸崎町史編さん資料 (3) 江戸崎城関連資料編』江戸崎町史編さん委員会 1987年3月
- 36) 茨城県教育庁文化課編『重要遺跡報告書Ⅱ (城館跡)』茨城県教育委員会 1985年3月
- 37) 人見暁郎『迎山古墳 (調査報告)』桜川村教育委員会 1986年11月
- 38) 前掲註34) に同じ

参考文献

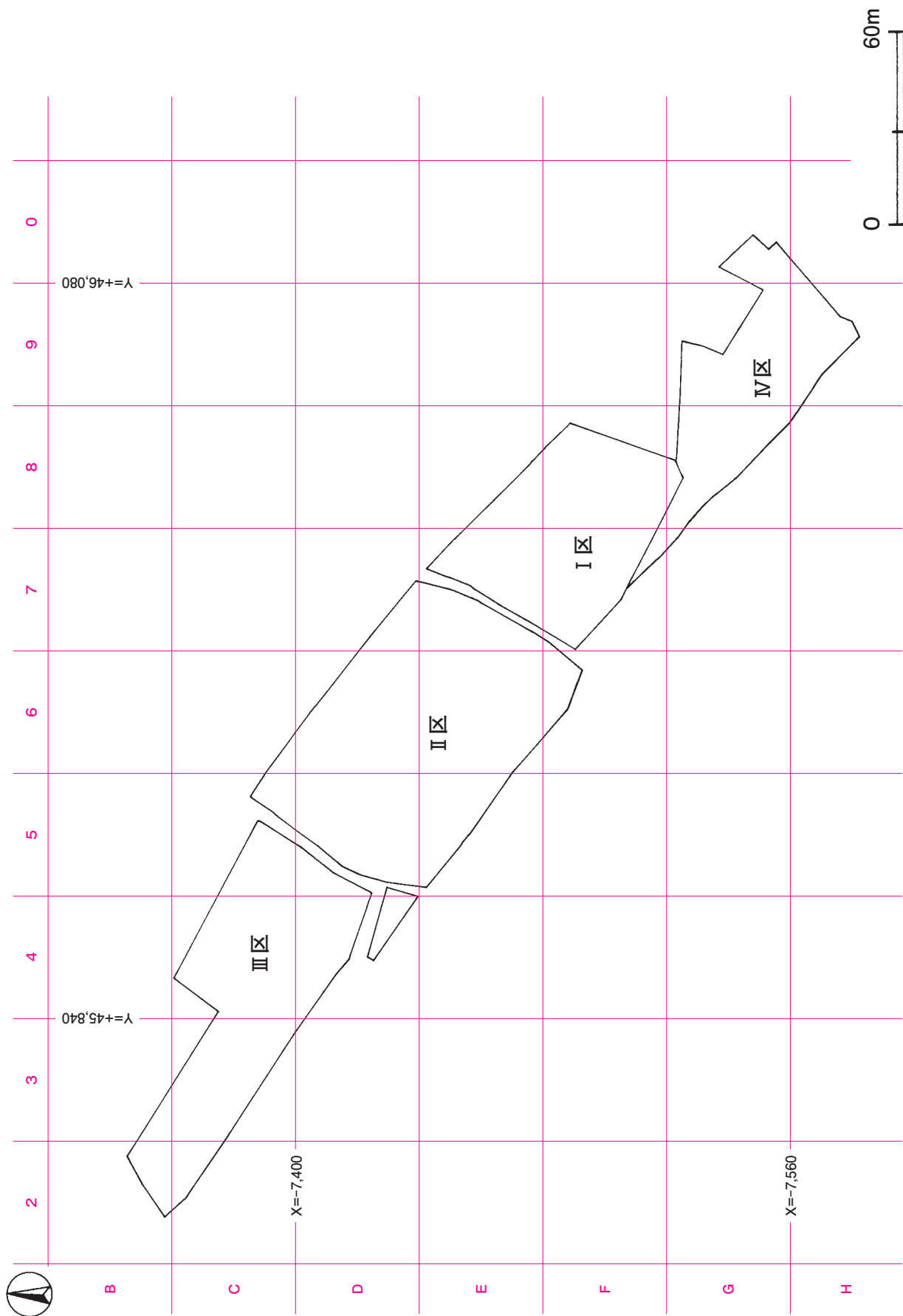
- ・茨城県農地部農地計画課 『土地分類基本調査 佐原』 1988年12月

表1 薬師後遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	薬師後遺跡	○	○		○	○	○	○	21	思川久保遺跡		○	○	○			
2	中峰遺跡	○	○		○		○		22	池平遺跡				○	○		
3	秋平遺跡	○		○	○	○	○		23	二の宮貝塚				○	○	○	○
4	村田貝塚		○		○		○		24	姫宮古墳群				○			
5	児松遺跡		○		○				25	水神峯古墳				○			
6	吹上貝塚		○	○					26	西原古墳群				○			
7	楯の台古墳群		○	○	○	○	○		27	前山古墳				○			
8	思川遺跡		○	○	○	○			28	諏訪原古墳群				○			
9	中佐倉貝塚		○		○	○			29	幸田古墳群				○			
10	高田岡貝塚		○						30	福田古墳群				○			
11	椎塚貝塚		○						31	東大沼古墳群				○			
12	道成寺貝塚		○						32	塔の前廃寺跡					○		
13	塚原貝塚		○						33	東条城跡				○	○	○	
14	広畑貝塚		○						34	神宮寺城跡				○	○	○	○
15	柏木遺跡		○		○	○			35	江戸崎城跡						○	○
16	所作貝塚		○						36	古谷城跡							○
17	天神台貝塚		○						37	迎山塚							○
18	福田貝塚		○			○			38	十三塚						○	
19	堂ノ上遺跡		○	○	○												
20	大日山古墳群		○	○	○		○	○									



第1図 薬師後遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院5万分の1「佐原」）



第2図 薬師後遺跡調査区設定図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

薬師後遺跡は、茨城県稲敷市椎塚字薬師後1,376番地ほかに所在し、南西部から樹枝状に入り込んだ利根川水系の谷津に挟まれた標高25～28mの舌状台地上に立地している。調査面積は16,270㎡（平成18年度7,833㎡、平成19年度8,437㎡）で、調査前の現況は畑地、山林及び荒地である。

調査の結果、陥し穴2基（縄文時代）、竪穴住居跡183軒（古墳時代93、奈良・平安時代81、時期不明9）、掘立柱建物跡18棟（奈良・平安時代）、竪穴状遺構2基（奈良・平安時代）、方形竪穴遺構7基（中世・近世）、火葬土坑5基（中世・近世）、地下式坑1基（中世・近世）、粘土貼土坑1基（中世・近世）、土坑628基（古墳時代8、奈良・平安時代28、中世・近世102、時期不明490）、溝跡49条（中世・近世26、時期不明23）、道路跡2条（時期不明）、地点貝塚6か所（古墳時代1、奈良・平安時代3、時期不明2）、遺物包含層5か所（縄文時代1、古墳時代3、奈良・平安時代1）、ピット群5か所（時期不明）を検出した。遺跡は、古墳時代後期から平安時代中期が主体の集落跡である。

遺物は、収納コンテナ（60×40×20cm）に245箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・椀・高台付椀・皿・高台付皿・高坏・鉢・壺・甕・甑・置き竈）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・高盤・瓶・壺・甕・甑・円面硯）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、灰釉陶器（椀・瓶・壺）、緑釉陶器（段皿）、陶器（平碗・折縁小皿・反り皿・片口鉢）、土製品（勾玉・小玉・土玉・球状土錘・管状土錘・紡錘車・支脚）、石器（ナイフ形石器・搔器・磨製石斧・磨石・砥石）、石製品（管玉・白玉・紡錘車）、鉄製品（刀子・鍬・鎌・鏝・釘）、銅製品（耳環・煙管）、古銭（北宋銭）、貝（ヤマトシジミ・ハマグリ・モノアラガイ・カワニナ・カキ・イシガイ・ヒロクチカノコ）、骨（ニワトリ）などである。

第2節 基本層序

基本層序を確認するテストピットは、調査Ⅰ区北西部のE7c0区、調査Ⅱ区北西部のD5d5区、調査Ⅲ区南東部のD4g0区、調査Ⅳ区南部のG8h0区にそれぞれ設置した。Ⅰ区の地表面の標高は27.3mで、地表面から1.2m、Ⅱ区の地表面の標高は28.3mで、地表面から2.3m、Ⅲ区の地表面の標高は28.6mで、地表面から2.3m、Ⅳ区の地表面の標高は25.3mで、地表面から1.0mをそれぞれ掘削し、基本土層図は第3図に示した。土層は15層に分層され、第1層が表土層（耕作土層・腐植土層）、第2～14層が関東ローム層、そして第15層が常総粘土層に対比される。以下、Ⅰ区からⅣ区を対応させながら、各層の特徴を述べる。

第1層は暗褐色の耕作土層及び腐植土層である。粘性・締まりはほとんどなく、層厚はⅠ区で15～20cm、Ⅱ区で24～30cm、Ⅲ区で15～25cm、Ⅳ区で20～26cmである。

第2層は褐色のソフトローム層である。粘性は普通で、締まりは弱く、層厚はⅢ区で10～25cmである。なお、Ⅰ区とⅡ区、Ⅳ区では耕作による削平のためか、本層を確認できなかった。

第3層は褐色のソフトローム層とハードローム層の間層（漸移層）である。第1黒色帯（第1ブラックバンド、BBⅠ）は明瞭でない。第3層と第4層の間は不整合面である。粘性・締まりは普通で、層厚はⅠ区で10～35cm、Ⅲ区で10～30cmである。なお、Ⅱ区とⅣ区では本層を確認できなかった。

第4層は褐色のハードローム層である。ガラス質微粒子（バブル型火山ガラス）を微量含んでいることから、

約2.6～2.9万年前に降灰したとされる始良丹沢火山灰(AT)の降灰層と考えられる。また、黒色微粒子を微量含み、粘性・締まりとも強く、層厚はⅠ区で10～25cm、Ⅱ区で24～35cm、Ⅲ区で40～55cmである。なお、Ⅳ区では本層を確認できなかった。

第5層は褐色のハードローム層である。ガラス質微粒子・黒色微粒子を微量含んでいるが、第4層よりは含有量が少ない。粘性・締まりとも強く、さらに第4層より締まっている。層厚はⅢ区で30～50cmである。なお、Ⅰ区とⅡ区では本層と第4層を分層することができなかった。また、Ⅳ区では本層を確認できなかった。

第6層は褐色のハードローム層で、第2黒色帯(第2ブラックバンド、BBⅡ)最上部と思われる。赤色微粒子(スコリア)・黒色微粒子を微量含み、粘性・締まりとも強く、さらに第5層より締まっている。層厚はⅡ区で5～16cmである。なお、Ⅰ区とⅢ区、Ⅳ区では本層を確認できなかった。

第7層は暗褐色のハードローム層で、第2黒色帯(BBⅡ)上部と思われる。赤色微粒子(スコリア)を微量含み、粘性・締まりとも強く、層厚はⅠ区で15～30cm、Ⅱ区で13～25cm、Ⅲ区で25～45cmである。なお、Ⅳ区では本層を確認できなかった。

第8層は暗褐色のハードローム層で、第2黒色帯(BBⅡ)下部と思われる。第7層よりは明るい。赤色微粒子(スコリア)・白色微粒子(パミス)・黄色微粒子(パミス)・黒色微粒子を微量含み、粘性・締まりとも極めて強く、さらに第7層より締まっている。層厚はⅠ区で20～30cm、Ⅱ区で19～30cm、Ⅲ区で30～35cmである。なお、Ⅳ区では本層を確認できなかった。

第9層は褐色のハードローム層である。赤色微粒子(スコリア)を少量含み、粘性・締まりとも強く、層厚はⅡ区で10cm～34cm、Ⅳ区で40～46cmである。この層までが立川ローム層に比定される。なお、Ⅰ区とⅢ区では本層を確認できなかった。

第10層は褐色のハードローム層である。白色微粒子を少量含み、粘性・締まりとも強く、層厚はⅡ区で29～50cmである。この層以下が武蔵野ローム層に比定される。

第11層は褐色のハードローム層である。白色粒子を極少量含み、粘性・締まりとも極めて強く、層厚はⅡ区で4～16cmである。

第12層は褐色のハードローム層である。粘性・締まりとも極めて強く、さらに第11層より締まっている。層厚はⅡ区で7～23cmである。

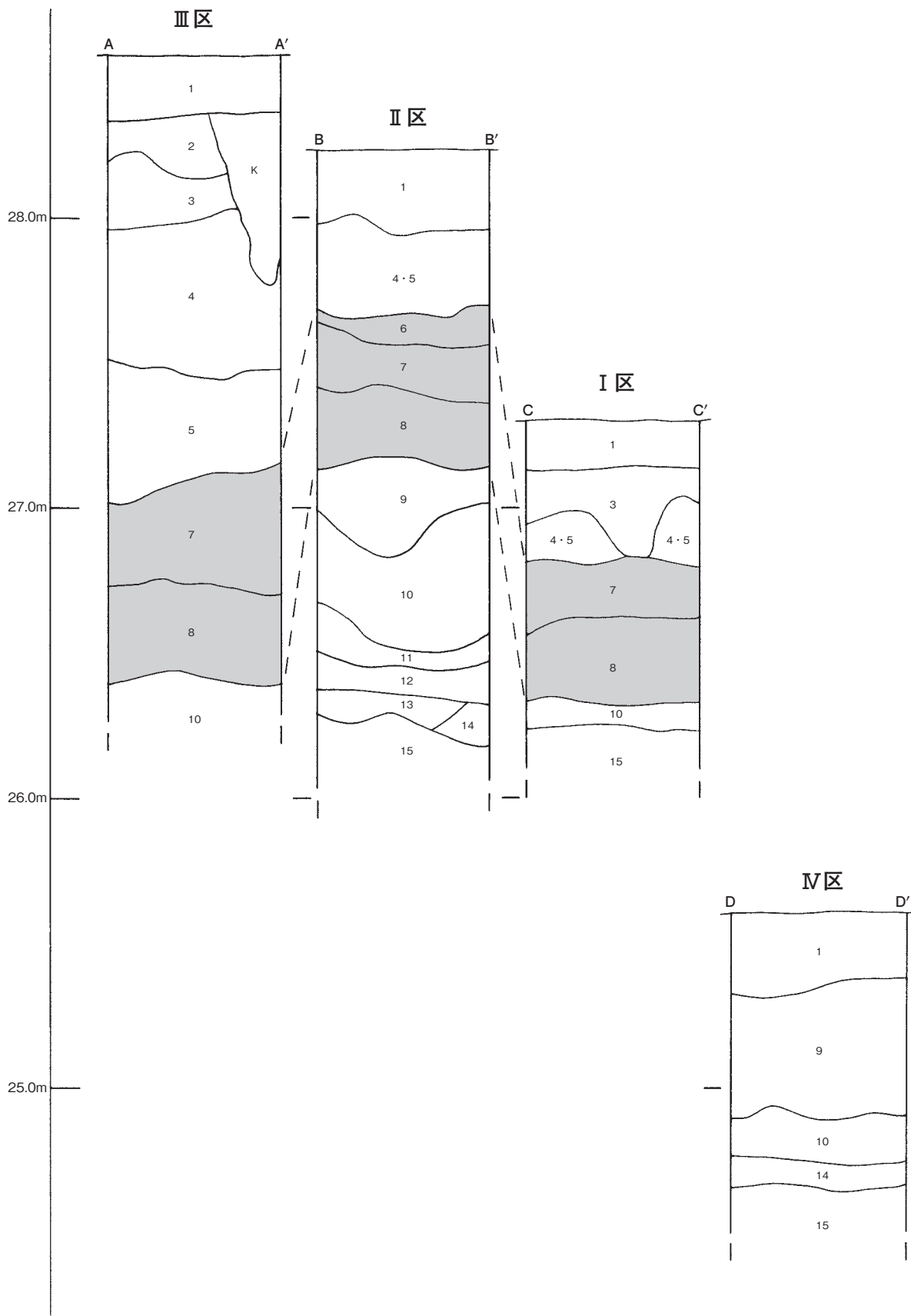
第13層はにぶい褐色のハードローム層である。粘性・締まりとも強く、特に粘性は第14層と同様に極めて強いことから、常総粘土層の直上層と考えられる。層厚はⅡ区で0～14cmである。

なお、Ⅰ区とⅢ区、Ⅳ区では第10～13層を分層することができなかったが、武蔵野ローム層と常総粘土層の間層としてとらえた。褐色またはにぶい褐色のハードローム層で、粘性・締まりとも極めて強い。Ⅰ区とⅢ区では黒色粒子(鉄分)を少量含み、層厚はⅠ区で10～15cm、Ⅲ区で10cm以上、Ⅳ区で14～21cmである。

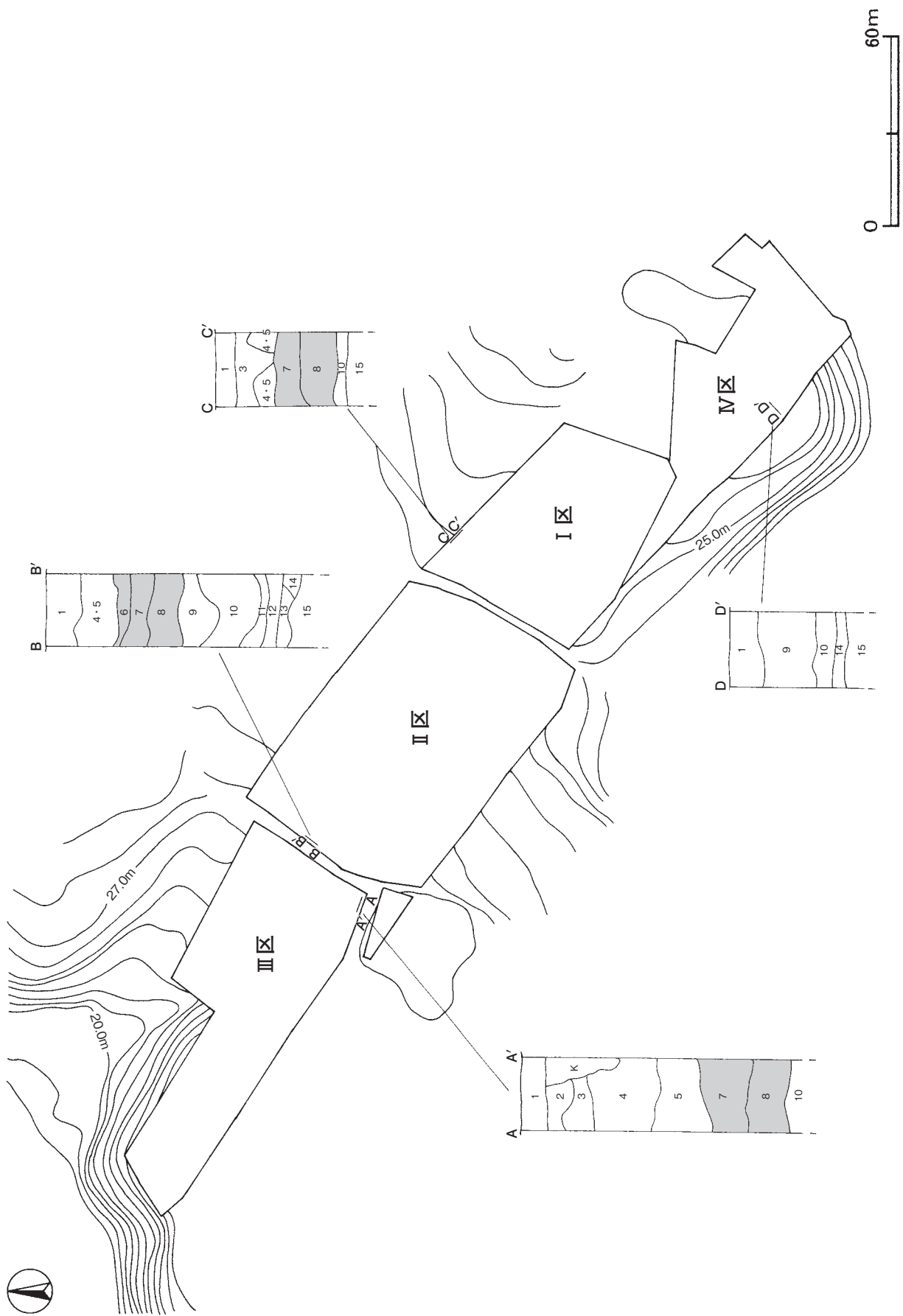
第14層はにぶい黄橙色または灰黄褐色の常総粘土層の直上層である。黒色粒子(鉄分)を少量含んでいる。また、Ⅰ区では黄白色微粒子を微量含んでいる。この含有物は箱根東京軽石層の東京パミス(TP)に比定されるものと考えられる。粘性・締まりとも極めて強く、層厚はⅠ区で10cm以上、Ⅱ区で0～30cm、Ⅳ区で6～11cmである。なお、Ⅲ区では対応する層まで掘下げなかったため不明である。この層までが武蔵野ローム層に比定される。

第15層以下は灰白色の常総粘土層である。黒色粒子(鉄分)を少量含み、粘性・締まりとも極めて強い。

Ⅰ区からⅣ区までの標高差と地層の堆積状況はだいぶ異なることが分かる。特に、Ⅳ区は他の区と比べて標高差が約3mであるが、第2黒色帯以上の地層が欠如している。遺構は、Ⅰ区では第3層上面、Ⅱ区では第4層上面、Ⅲ区では第2層上面、Ⅳ区では第9層上面でそれぞれ確認した。



第3图 基本土层图

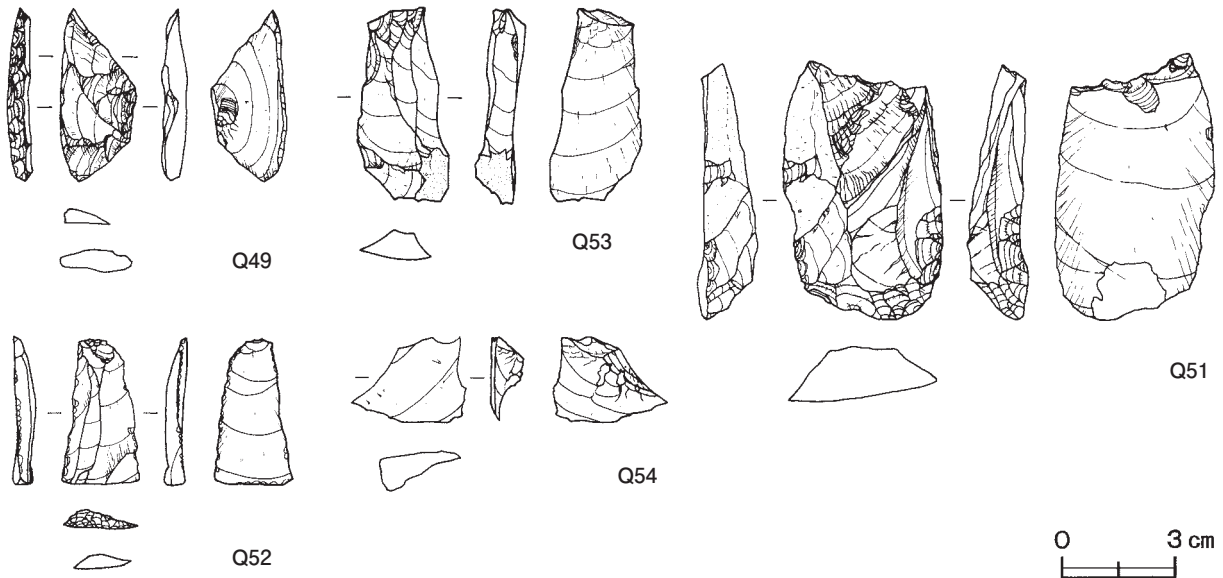


第4図 薬師後遺跡テストピット設定図

第3節 I 区の遺構と遺物

1 旧石器時代の遺物

I 区の調査では、表土層、遺構確認面及び遺構の覆土中から、旧石器時代のナイフ形石器、搔器、剥片などが出土している。ここでは、確認された遺物の実測図を掲載し、計測値などを一覧表で記載した。



第5図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第5図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q49	ナイフ形石器	4.5	2.0	0.7	4.5	頁岩	横長剥片を素材とし、一側縁に腹面からブランディングを施す	SI51 覆土中	PL63
Q51	搔器	6.8	4.2	1.6	42.7	頁岩	縦長剥片を素材とし、腹面側から急角度の調整を施す。刃部は弧状を呈し、背面に自然面を残す	HG2 覆土中	PL63
Q52	二次加工を有する剥片	3.9	2.1	0.6	3.6	頁岩	縦長剥片を素材とし、下端部を腹面から切除している。両側縁に微細な二次加工剥離痕を有する	第1号方形竪穴遺構覆土中	
Q53	剥片	5.2	2.5	1.3	11.5	瑪瑙	縦長剥片 背面の一部に自然面を残す 打面は単剥離面打面	SI46 覆土中	PL63
Q54	剥片	2.3	3.1	0.9	3.9	瑪瑙	横長剥片	SI24 覆土中	

2 縄文時代の遺構と遺物

I 区の当時代の遺構は、陥し穴1基と遺物包含層1か所が確認された。以下、遺構と遺物、遺構外出土遺物について記述する。

(1) 陥し穴

第2号陥し穴 (第6図)

位置 調査第I区南西部のF7a3区、標高25.3mの台地上に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層の第3層上面から掘り込んでいる

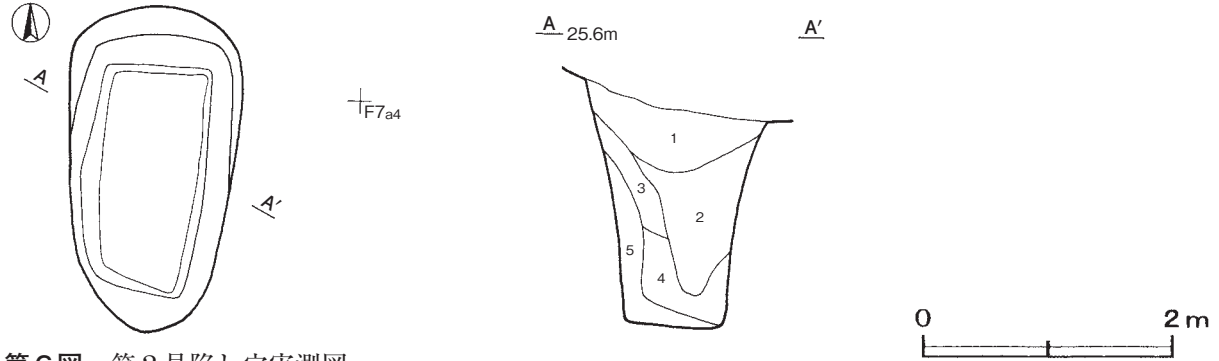
規模と形状 長軸2.60m、短軸1.40mの楕円形で、深さは1.90mである。底面は平坦で、壁は直立している。長軸方向はN-0°である。

覆土 5層からなる。不自然な堆積状況と、ロームブロックを多く含む堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 5 褐色 | 粘土粒子多量, ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | | |

所見 時期は、重複関係から縄文時代と考えられる。



第6図 第2号陥し穴実測図

(2) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第7・8図)

位置 調査第I区南西部のE7i3～F7d5区で、標高26.0mの台地の南斜面に位置している。

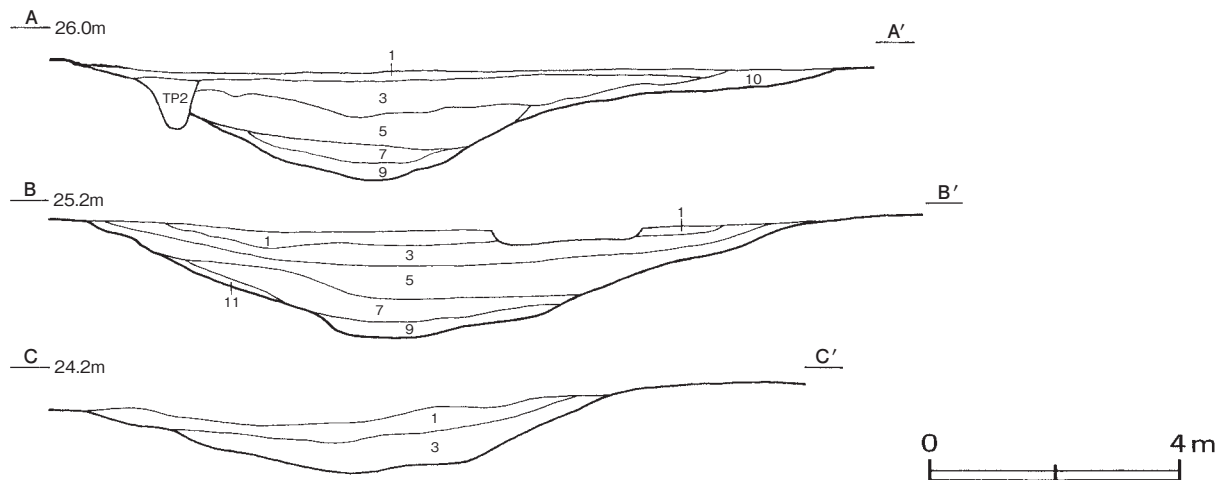
重複関係 第23・46号住居に掘り込まれ、第3層上面から第2号陥し穴に掘り込まれている。

調査方法 南北方向に1本、東西方向に2本の土層観察用ベルトを設定。北東方向から時計回りで1区、2区と地区を設定、総数で6区を設定した。また、遺物は地区ごとに層位に分けて記録をしながら取り上げた。

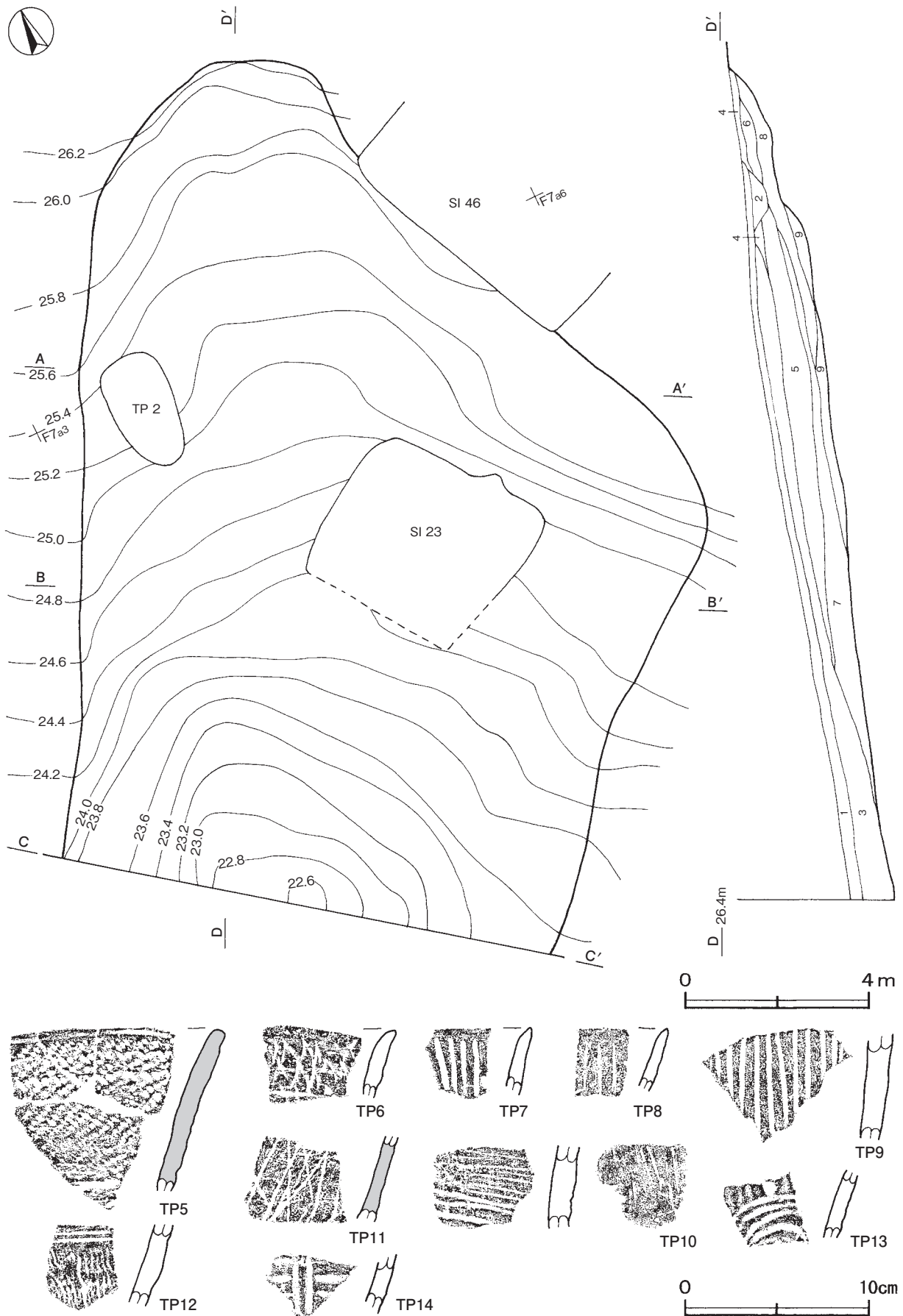
土層 11層に分けられる。第1～4層は含有物が少なく粒子が細かい自然堆積層で、第5～11層はブロック状のロームが主体となる人為堆積層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|---------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 (しまり弱い) |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 明褐色 | ロームブロック多量 (粘性弱い) | 11 褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック多量 | | |



第7図 第1号遺物包含層実測図



第8図 第1号遺物包含層・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片168点（鉢類）が出土している。出土位置は、第2・3・5区からの出土が多く、出土層位は第1～4層に多く含まれている。また、土師器片、須恵器片、土製品や石製品、金属製品なども出土しているが、周囲に分布する住居跡からの流れ込みと考えられる。

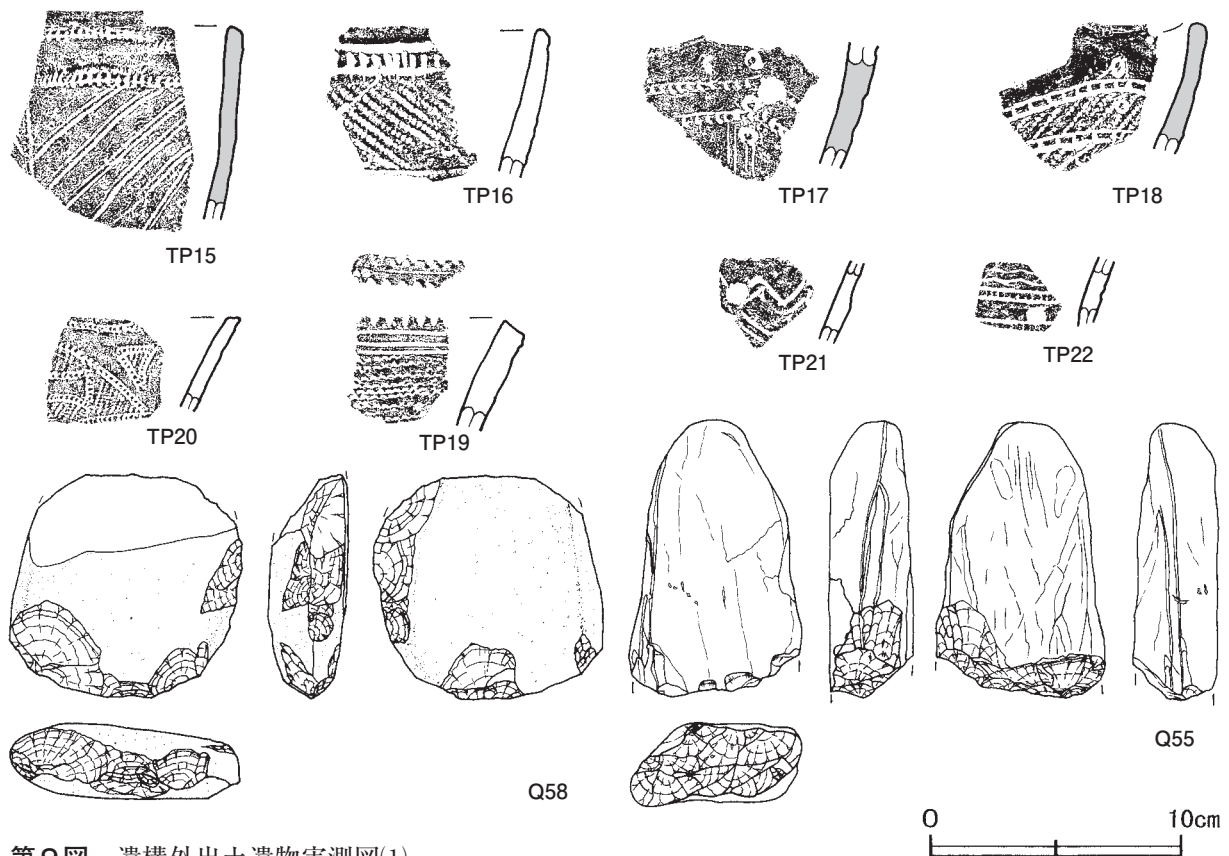
所見 時期は、出土土器から縄文時代早期から前期に堆積したものと考えられる。

第1号遺物包含層出土遺物観察表（第8図）

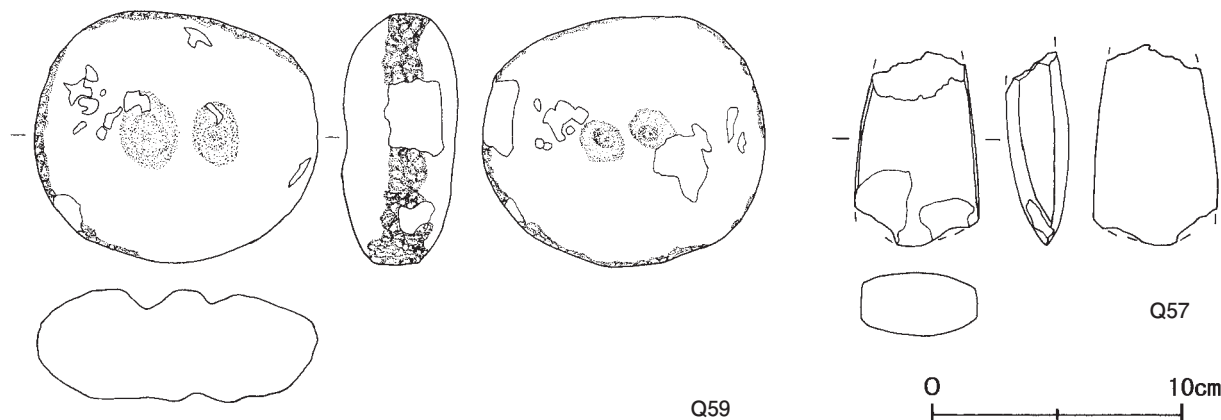
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	単節縄文LR施文	覆土中	PL63 前期前半
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	貝殻腹縁による波状文施文	覆土中	前期後半
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部縦位の沈線を施文	覆土中	早期前半
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	縦位の沈線施文	覆土中	早期前半
TP9	縄文土器	深鉢	石英	橙	普通	縦位の平行沈線施文	覆土中	早期前半
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	普通	内外面条痕文	覆土中	早期後半
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	格子状の沈線施文	覆土中	前期前半
TP12	縄文土器	深鉢	石英・長石	明褐	普通	横位の平行沈線下櫛歯状工具による波状櫛歯文施文	覆土中	中期中葉
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄橙	普通	沈線施文	覆土中	早期前半
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	平行沈線施文	覆土中	早期前半

(3) 遺構外出土遺物（第9・10図）

今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない縄文時代の遺物が出土している。ここでは、実測図及び遺物観察表で揭示する。



第9図 遺構外出土遺物実測図(1)



第10図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第9・10図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外面に半裁竹管による二条の爪形刺突文胴部半裁竹管による沈線施文	HG2 覆土中	PL63 前期前半
TP16	縄文土器	深鉢	石英	浅黄橙	普通	単節縄文RLを施文後、口辺部に平行沈線と刺突文を施文	表土中	PL63 前期後半
TP17	縄文土器	深鉢	石英	灰白	普通	波状口縁 口縁部に沿って半裁竹管による爪形文施文後、円形刺突文付加	HG2 覆土中	PL63 前期中葉
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	波状口縁 単節縄文を施文後有節沈線文を施し、円形刺突文を施文	SI16 覆土中	PL63 前期中葉
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内外端部に刻み、口唇部直下に3本の平行沈線施文 下位に平行する貝殻文施文	SI46 覆土中	PL63 早期中葉
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	連続爪形文による幾何学的文様施文 区画内単節縄文施文	表土中	PL63 前期後半
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	半裁竹管による二段の連続山形文施文	SI18 覆土中	前期後半 補修孔
TP22	縄文土器	深鉢	石英	橙	普通	半裁竹管による連続山形文施文 二条の連続爪形文施文	SI18 覆土中	前期後半 補修孔

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 55	礫器	(11.0)	6.7	3.4	(327.4)	流紋岩	扁平な長円形の礫の一端に刃部をもつ	HG2 覆土中	
Q 57	磨製石斧	(7.7)	4.9	2.4	(152.4)	緑色凝灰岩	定角式 刃部平面形は円刃 断面は両刃	SI46 覆土中	
Q 58	打製石斧	(9.0)	9.3	3.3	(326.6)	ホルンフェルス	刃部は表裏に加撃してつくり出す	SI48 覆土中	
Q 59	磨石	10.0	11.2	4.5	745.3	砂岩	使用面は全側面 表裏各2穴	SI56 覆土中	

3 古墳時代の遺構と遺物

I区の当時代の遺構は、竪穴住居跡18軒、土坑3基が確認された。以下、遺構と遺物、遺構外出土遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

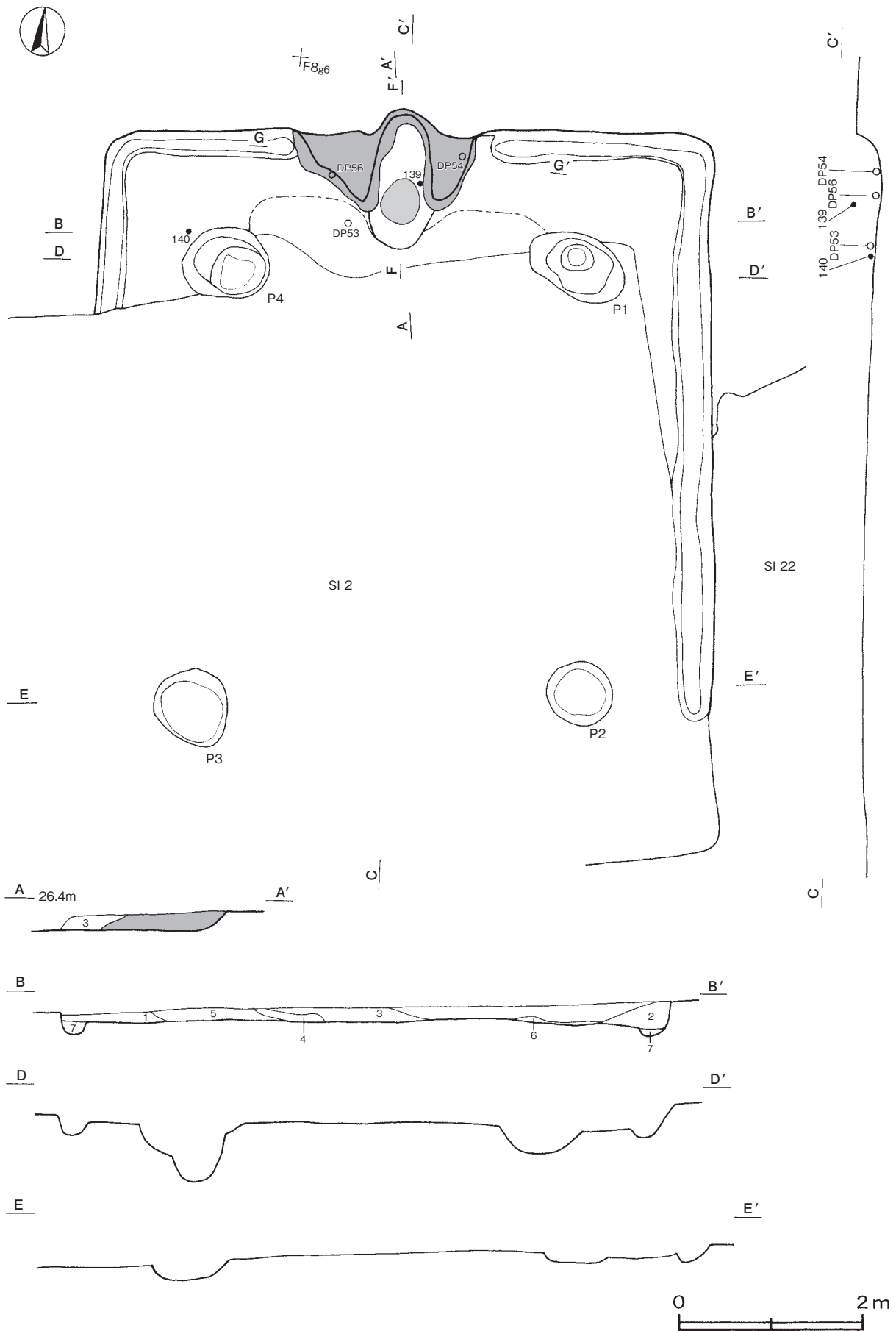
第13号住居跡 (第11・12図)

位置 調査I区南東部のF 8 g6区、標高26.2mの台地上に位置している。

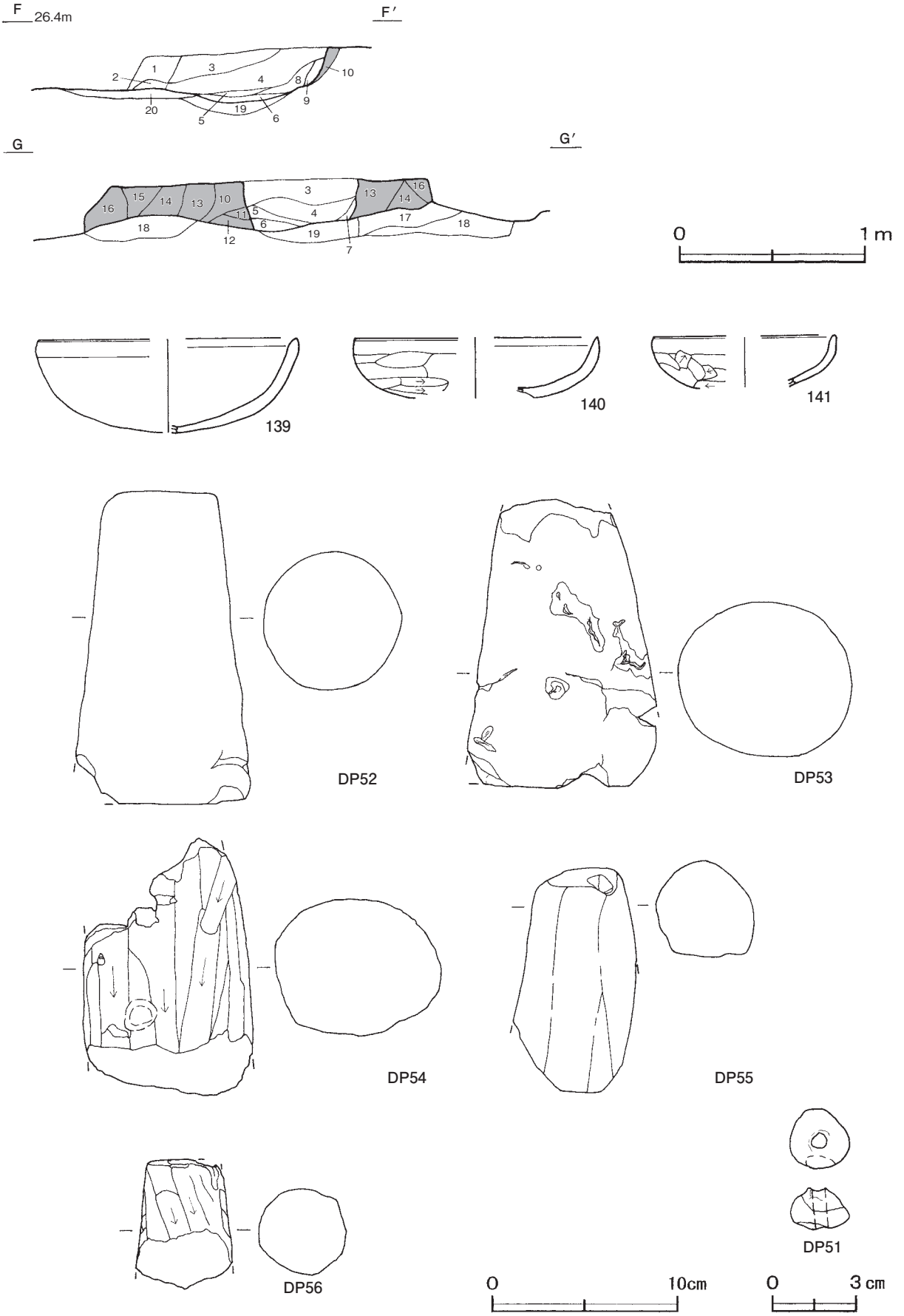
重複関係 第22号住居跡を掘り込み、第2号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南壁が第2号住居に掘り込まれているため、東西軸が6.66mで、南北軸は7.60mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は12~18cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認された壁下には幅24~42cm、深さ8~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。



第11图 第13号住居跡実測図



第12図 第13号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで146cm、燃焼部幅52cmである。袖部は第17～19層の粘土・ローム・焼土を主体とした土で基部とし、第10～16層の砂質粘土やロームを混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	15 にぶい褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量
4 暗赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量	17 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 灰褐色	粘土粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7 灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	19 灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	20 にぶい赤褐色	焼土粒子多量
9 黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		
10 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量		
11 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量		
12 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量		

ピット 4か所。P1～P4は深さ10～65cmで、主柱穴である。

覆土 7層に分けられる。ロームブロックを含み、焼土粒子・炭化粒子の混入や不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	6 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
		7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片300点（坏類138、甕類161、甌1）、土製品10点（土玉1、支脚9）、鉄滓1点が出土している。141は北東部の覆土中から出土したものと竈内の覆土中から出土したものが接合、140は北西部の覆土下層、DP53は竈左袖外側の覆土下層、139は竈内の覆土上層、DP52は竈内の覆土中、DP54は竈右袖の内部、DP56は竈左袖内部からそれぞれ出土している。

所見 竈の袖内部から出土している土製支脚は、支脚として使用した後に竈袖部の補強材として転用されたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	土師器	坏	[13.8]	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白・にぶい橙	普通	内・外面摩耗	竈内上層	30%
140	土師器	坏	[13.2]	(3.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り 内面磨耗	下層	30%
141	土師器	坏	[9.8]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り	覆土中	20%

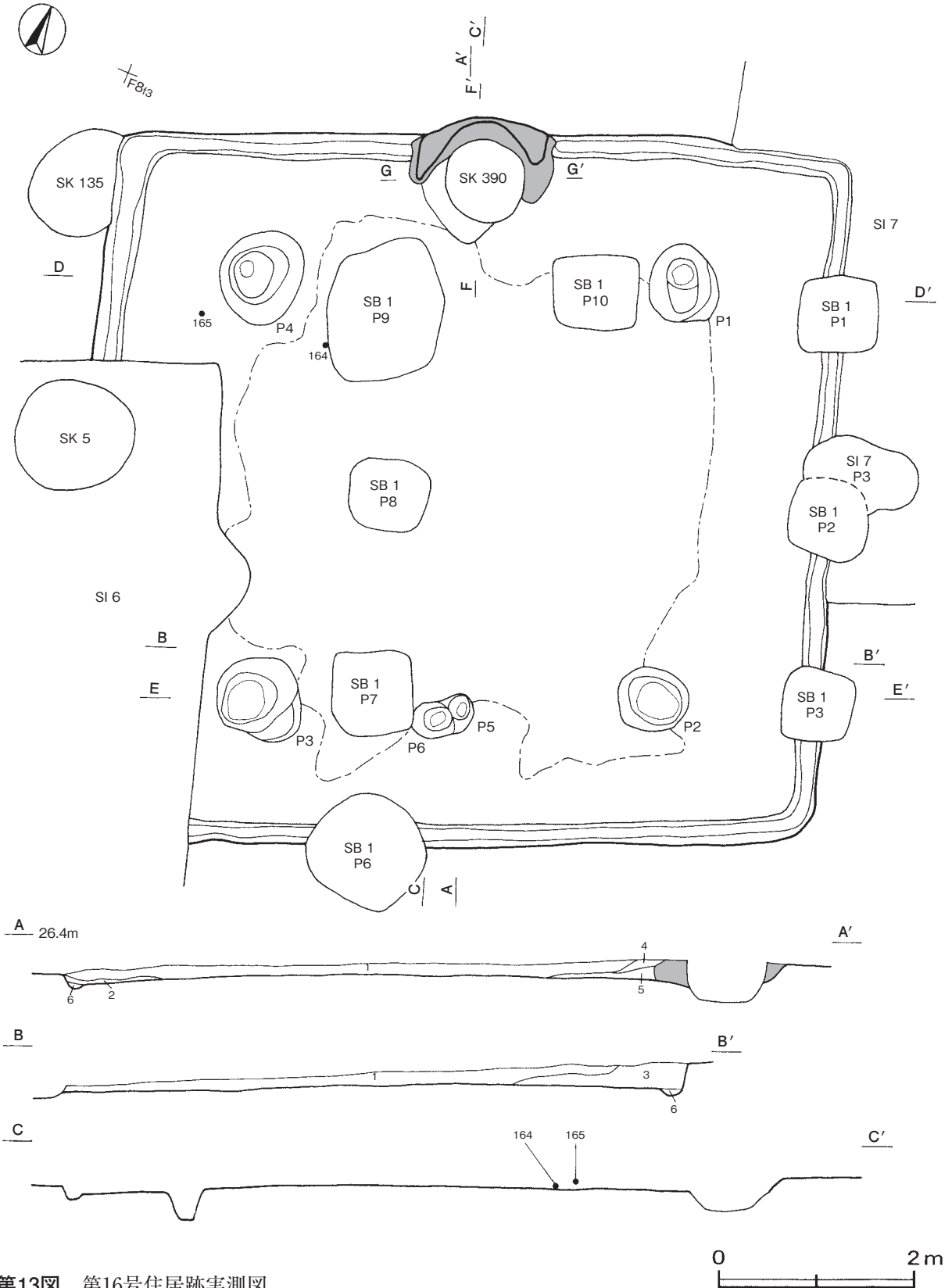
番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP51	球状土錘	2.1	2.2	0.5	5.5	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL47

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP52	支脚	16.7	6.0	(9.5)	(1025.1)	粘土	外面ナデ 基部欠損	竈内	
DP53	支脚	(15.5)	(6.0)	(10.3)	(879.3)	粘土	外面ナデ 受部・基部欠損	下層	
DP54	支脚	(7.7)	(8.9)	(13.8)	(673.8)	粘土	外面削り 受部・基部欠損 指頭痕	竈右袖部	
DP55	支脚	(12.1)	4.9	(6.7)	(348.5)	粘土	外面削り 基部欠損	覆土中	
DP56	支脚	(7.0)	(3.9)	(5.2)	(120.6)	粘土	外面削り 基部欠損	竈左袖部	

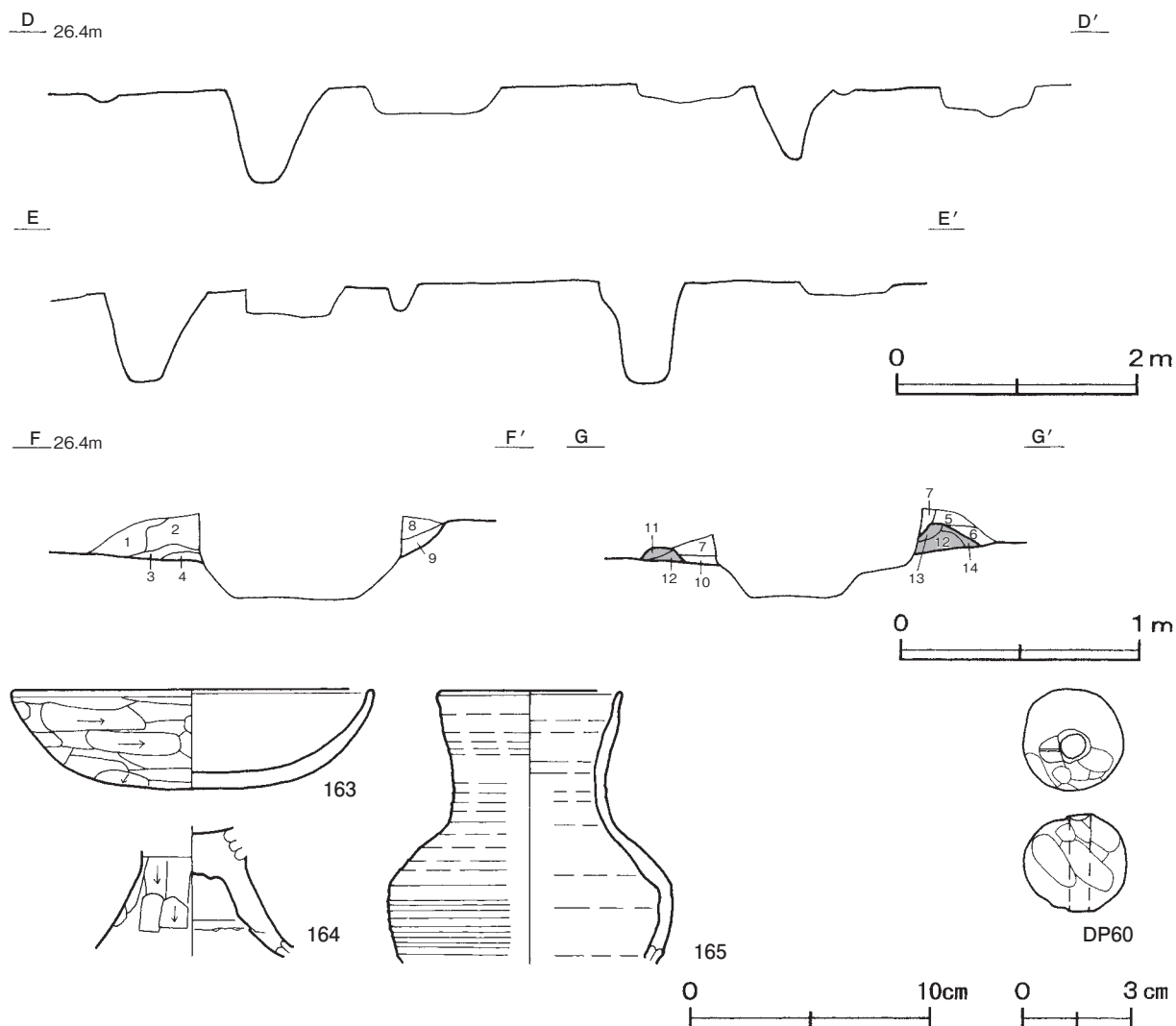
第16号住居跡（第13・14図）

位置 調査I区南東部のF 8 f4区，標高26.3mの台地上に位置している。

重複関係 第6・7号住居，第1号掘建柱建物，第5・135・390号土坑に掘り込まれている。



第13図 第16号住居跡実測図



第14図 第16号住所跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸7.60m，短軸7.30mの方形で，主軸方向はN-20°-Wである。壁高は3～28cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅18～42cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されているが，中央部を第390号土坑に掘り込まれている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで，燃烧部幅は44cmと推定される。袖部は第11～14層の粘土やロームを混ぜた土で構築されている。煙道部は壁外に29cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | 粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ60～85cmで，支柱穴である。P5・P6は深さ24cmと32cmで，南壁中央部に位置していることや，硬化面の広がり方などから出入り口施設に伴うピットである。

覆土 6層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	4 にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量	5 にぶい褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片303点(坏類70, 高坏1, 鉢1, 甕類230, 甌1), 須恵器片2点(瓶), 土製品1点(球状土錘)が出土している。164は北西部の覆土下層, 163は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表(第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	坏	15.0	4.1	-	長石・石英・赤色粒子・小礫	灰白	普通	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り	覆土中	60% PL33
164	土師器	高坏	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面へラ削り 内面輪積痕あり	下層	10%
165	須恵器	瓶	7.5	(11.3)	-	長石・石英	褐灰	普通	頸部外面2条の平行沈線 肩部外面1条の平行沈線	中層	30% PL38

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP60	球状土錘	2.8	2.7	0.7	18.8	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL47

第18号住居跡(第15・16図)

位置 調査I区南東部のF 8e7区, 標高26.3mの台地上に位置している。

重複関係 第5・24・26・45号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m, 短軸5.74mの方形で, 主軸方向はN-9°-Eである。壁高は6~12cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 竈焚口部周辺から中央部にかけて踏み固められている。確認された西・南壁下には幅10~28cm, 深さ8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されているが, 右袖部は消失し, 左袖部だけが現存している。規模は, 焚口部から煙道部まで112cm, 燃焼部幅46cmである。袖部は粘土やロームを混ぜた土で構築されていると考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ, 火床面から緩斜して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗赤褐色	焼土粒子中量, 粘土粒子微量	3 暗赤褐色	焼土ブロック多量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量

ピット 3か所。P1~P3は深さ48~58cmで, 主柱穴と考えられる。

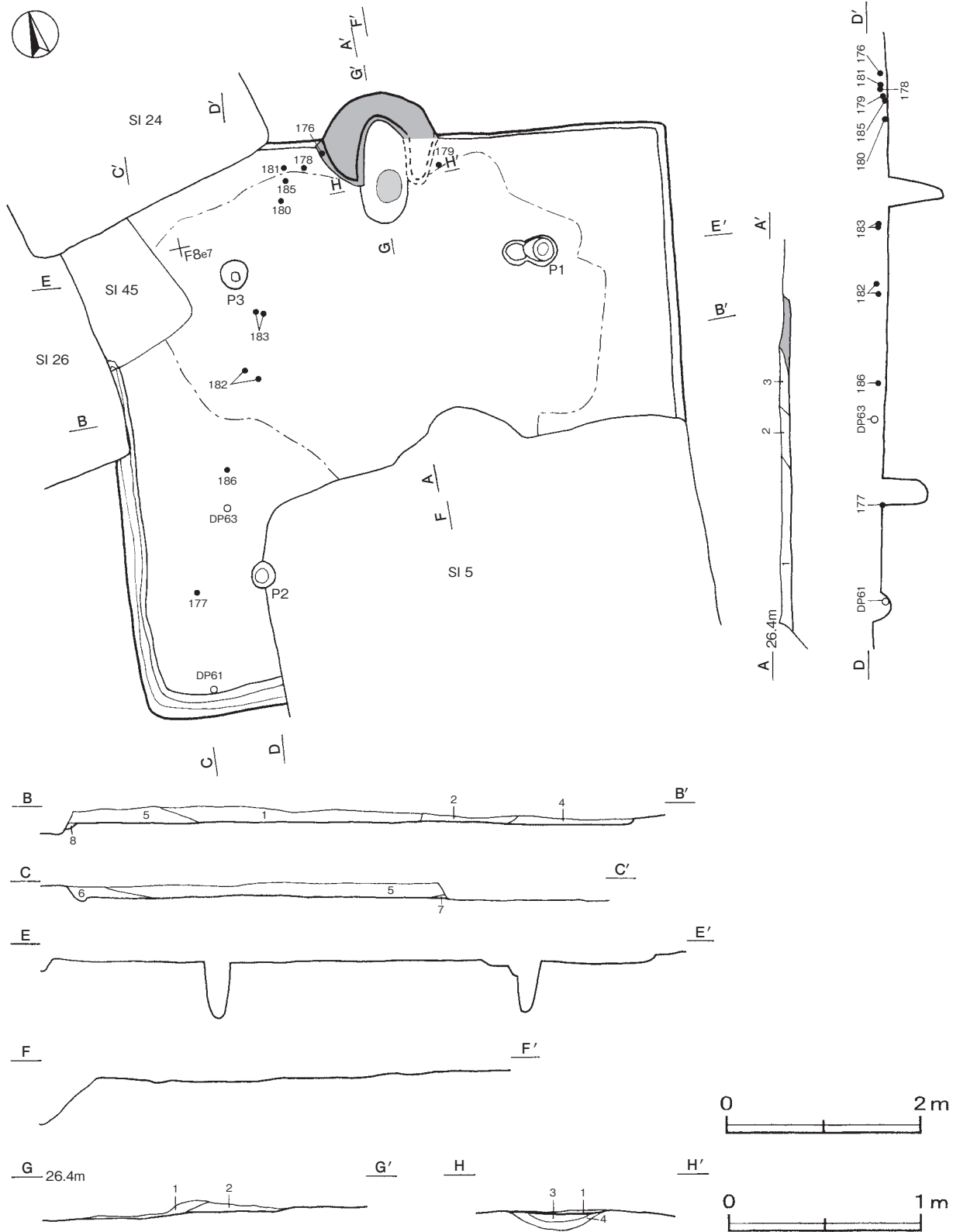
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

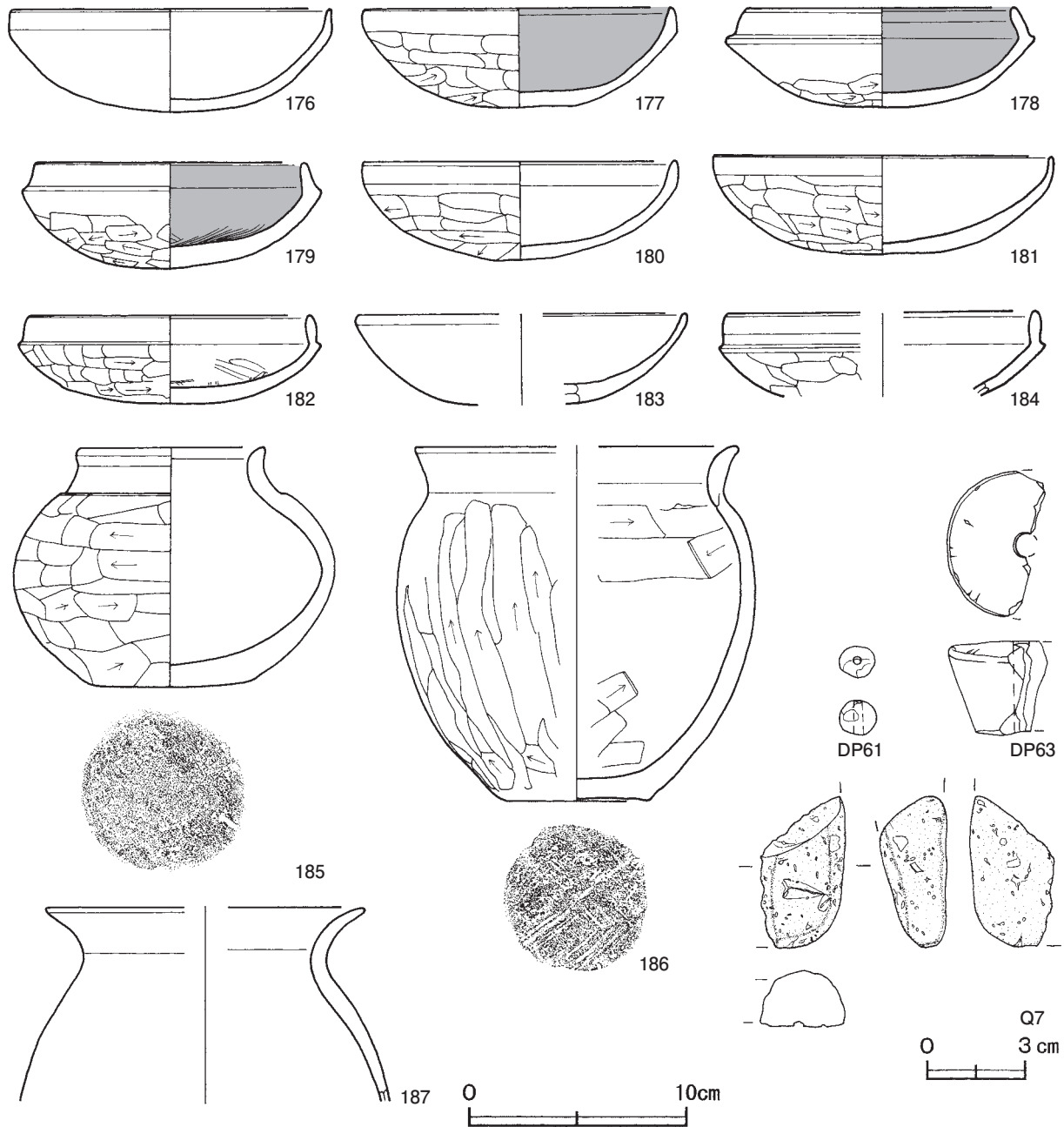
1 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック微量(縮まり弱い)
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	焼土ブロック少量	8 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片271点(坏類165, 壺2, 甕類104), 土製品10点(土玉2, 球状土錘2, 支脚4, 紡錘車2), 鉄製品1点(不明), 自然遺物1点(不明種子)が出土している。179は竈右袖外側の覆土下層, 177は南西部の床面直上, DP61は南西コーナー部の覆土下層, 181は竈左袖外側の覆土下層, 178・185は床面直上から正位の状態で, 180は逆位の状態でそれぞれ出土している。

所見 竈左袖外側の床面から出土している坏や壺は、ほぼ完形であるため廃棄ではなく、意図的に置かれたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第15図 第18号住居跡実測図



第16図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
176	土師器	坏	14.6	4.4	-	長石・石英・雲母	橙・褐	普通	口縁部横ナデ	上層	100% PL33
177	土師器	坏	14.2	4.5	-	長石・石英・雲母・小礫	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上・正位	100% PL33
178	土師器	坏	12.3	4.5	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口縁部横ナデ 体部外面下端ヘラ削り	床面直上・正位	100% PL33
179	土師器	坏	12.3	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	下層	95% PL33
180	土師器	坏	14.4	4.5	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上・逆位	95% PL33
181	土師器	坏	15.4	4.5	-	長石・石英・白色粒子	明褐灰	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	90% PL33
182	土師器	坏	12.9	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	明褐灰	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	上層～中層	60%
183	土師器	坏	[15.1]	(4.1)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	内・外面磨耗	中層	30%
184	土師器	坏	[14.0]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	20%

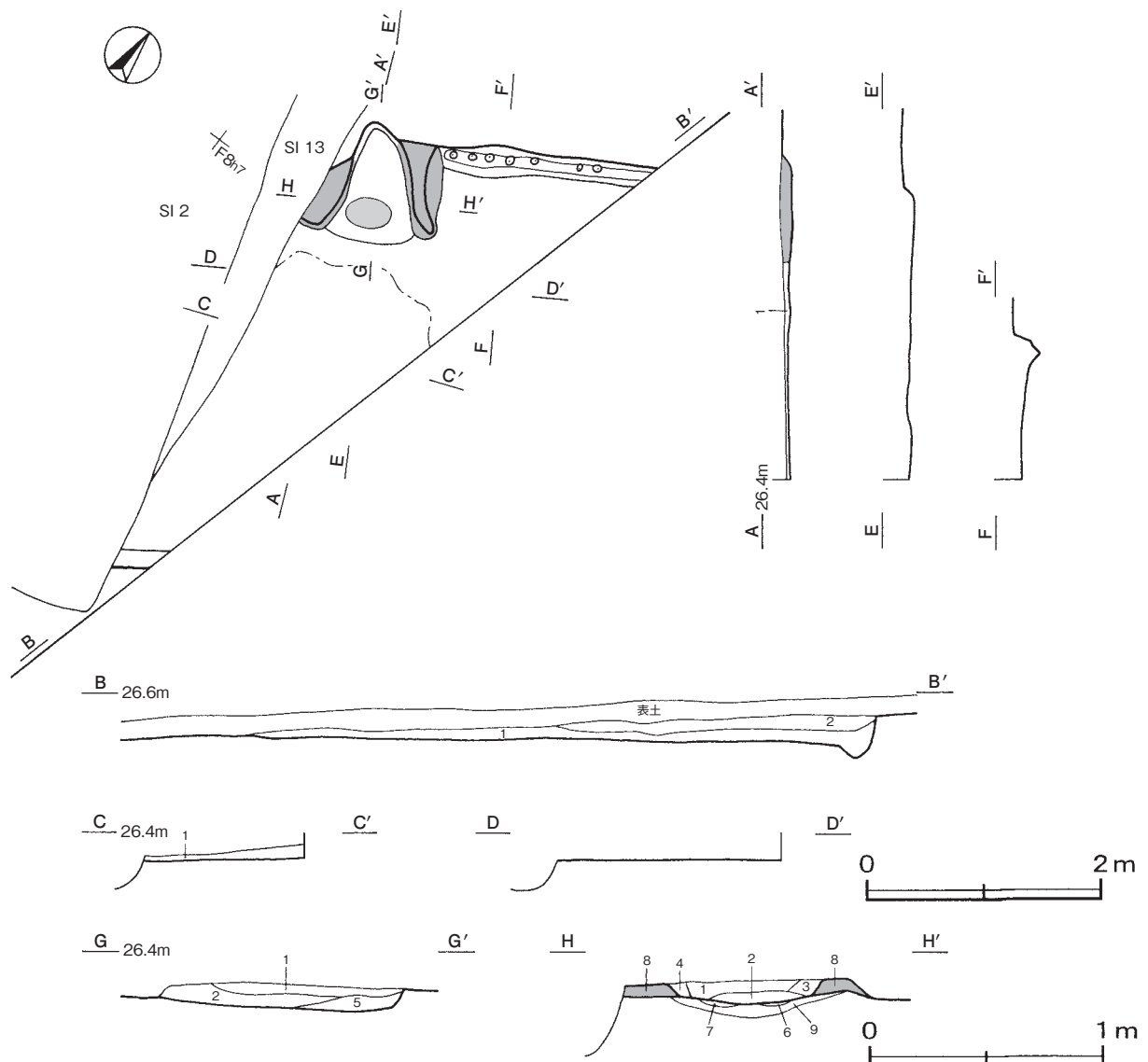
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
185	土師器	小形壺	8.4	11.0	7.6	長石・石英・白色粒子・礫	明赤褐	普通	口縁部から頸部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上・正位	100% PL34
186	土師器	小形甕	[14.6]	16.1	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層	60% PL33
187	土師器	小形甕	[14.4]	(8.9)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	内・外面磨耗	覆土中	10%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP61	土玉	1.1	1.0	0.3	0.9	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL47
DP63	紡錘車	(4.4)	2.9	(0.8)	(28.5)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 半分欠損	中層	PL47

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	不明石製品	(4.6)	(2.6)	2.0	(7.5)	軽石	外面削り	覆土中	

第22号住居跡（第17図）

位置 調査Ⅰ区南東部のF 8 h7区、標高26.2mの台地上に位置している。



第17図 第22号住居跡実測図

重複関係 第2・13号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第2・13号住居に掘り込まれ、東部が調査区域外へ延びているため、南北軸が2.10mで、東西軸は1.60mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は15～20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北壁下には幅18～28cm、深さ10cmでV字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm、燃焼部幅63cmである。袖部は第8層で、粘土やローム、焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|----------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 7 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 にぶい褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

ピット 7か所。北壁の壁溝内にすべてが穿たれている。深さ10cmほどで、規模や配置から壁柱穴と考えられる。

覆土 2層に分けられる。覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

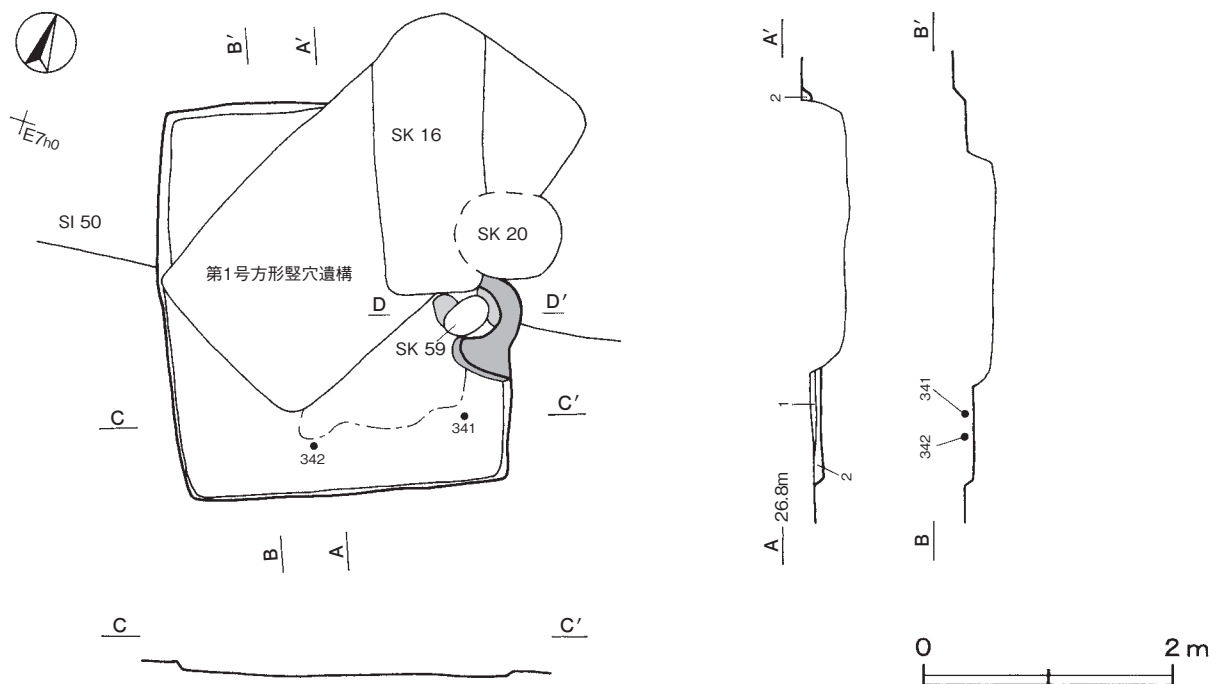
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 |
|-------|----------------------|-------|----------------------|

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 土製品3点(支脚)が出土している。これらは細片のため図示できないが、竈内の覆土中からの出土である。

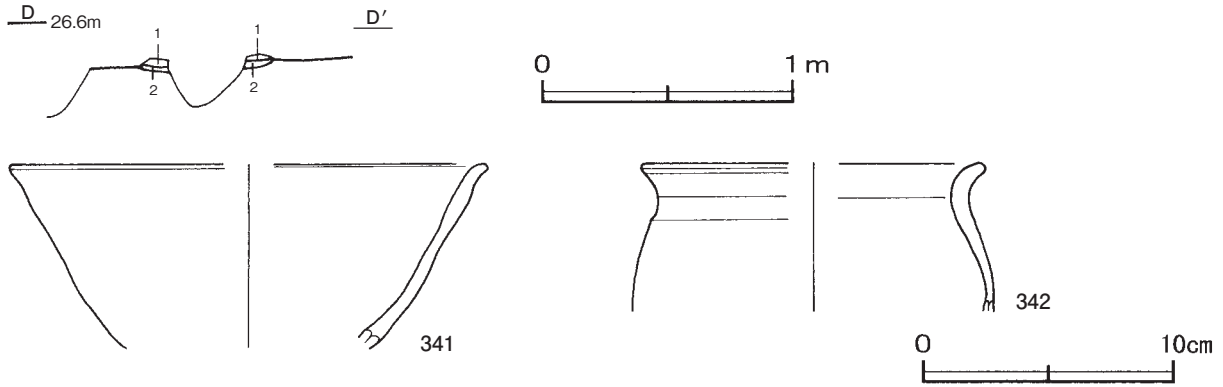
所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀代と考えられる。

第36号住居跡 (第18・19図)

位置 調査I区中央部北寄りのE7h0区、標高26.5mの台地上に位置している。



第18図 第36号住居跡実測図



第19図 第36号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第50号住居跡を掘り込み，第1号方形竪穴遺構，第16・20・59号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.12m，短軸2.68mの長方形で，主軸方向はN-66°-Eである。壁高は8～12cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央に付設されているが，第59号土坑に掘り込まれている。規模は，焚口部から煙道部まで52cm，燃烧部幅32cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されていると考えられる。火床部の掘り込みは不明で，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込んでおらず，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック微量 2 褐色 ロームブロック中量

覆土 2層に分けられる。覆土が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量

遺物出土状況 土師器片9点（坏類1，甕類7，甑1）が出土している。341・342は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
341	土師器	鉢	[18.6]	(7.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内・外面磨耗	下層	20%
342	土師器	小形甕	[14.6]	(5.8)	-	長石・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	下層	10%

第37号住居跡（第20図）

位置 調査I区北西部のE7e6区，標高27.4mの台地上に位置している。

重複関係 第15号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸が3.96m，東西軸が3.85mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-10°-Wである。

床 露出した状態で確認された。平坦で，中央部が踏み固められている。北側及び東側の一部には幅16～40cm，深さ2～3cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は、焚口部から煙道部まで90cm、燃焼部幅41cmである。袖部は第9・10層の粘土やローム、焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床面から緩斜して立ち上がっている。

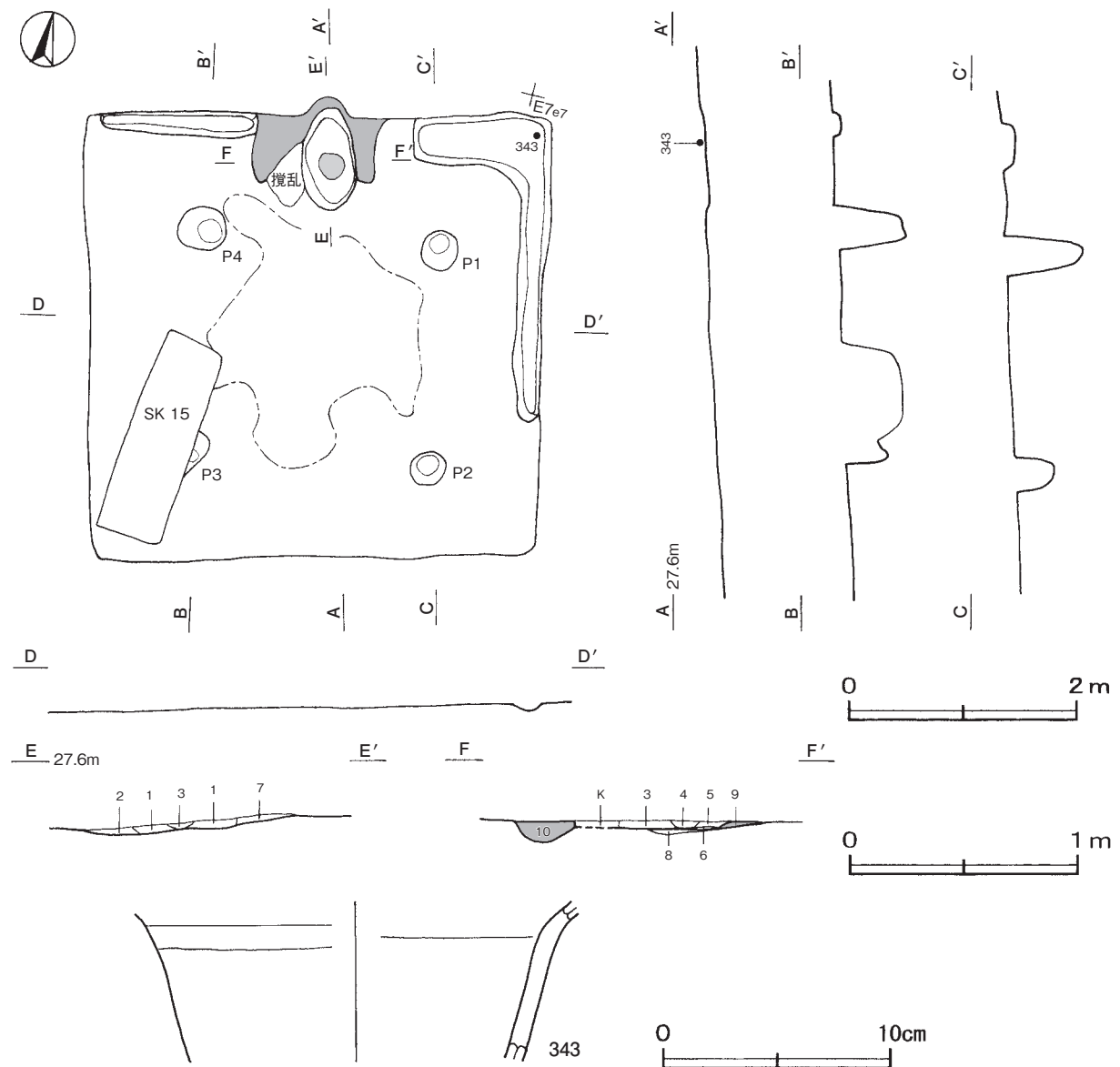
竈土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 褐色 焼土粒子・粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック微量 | 9 褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 橙色 粘土粒子中量, 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | |
| 6 暗赤褐色 焼土粒子少量 | |

ピット 4か所。P1～P4は深さ33～68cmで、支柱穴である。

遺物出土状況 土師器片26点（甕類25, 甌1）、須恵器片1点（甕）が出土している。343は壁溝内の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



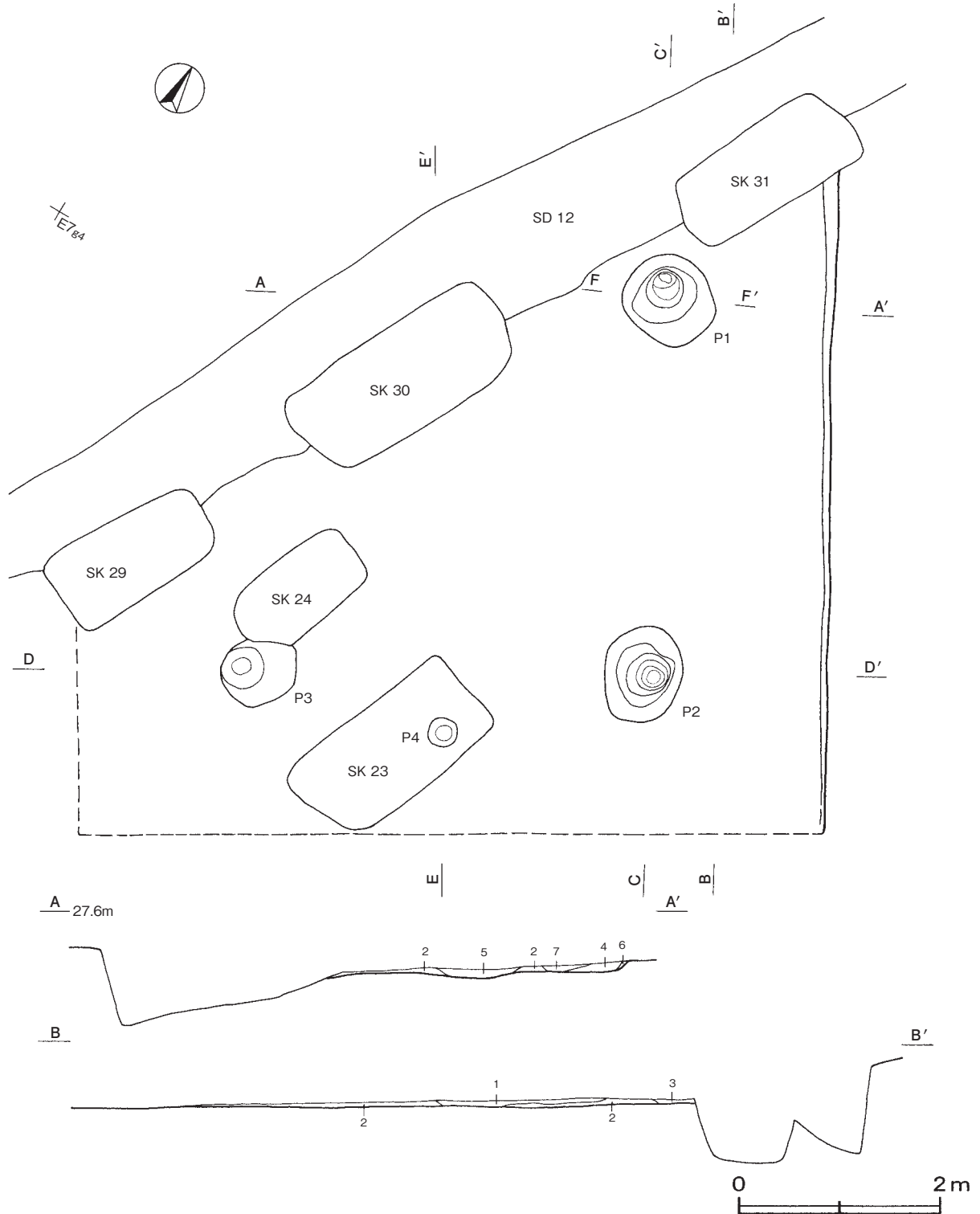
第20図 第37号住居跡・出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第20図）

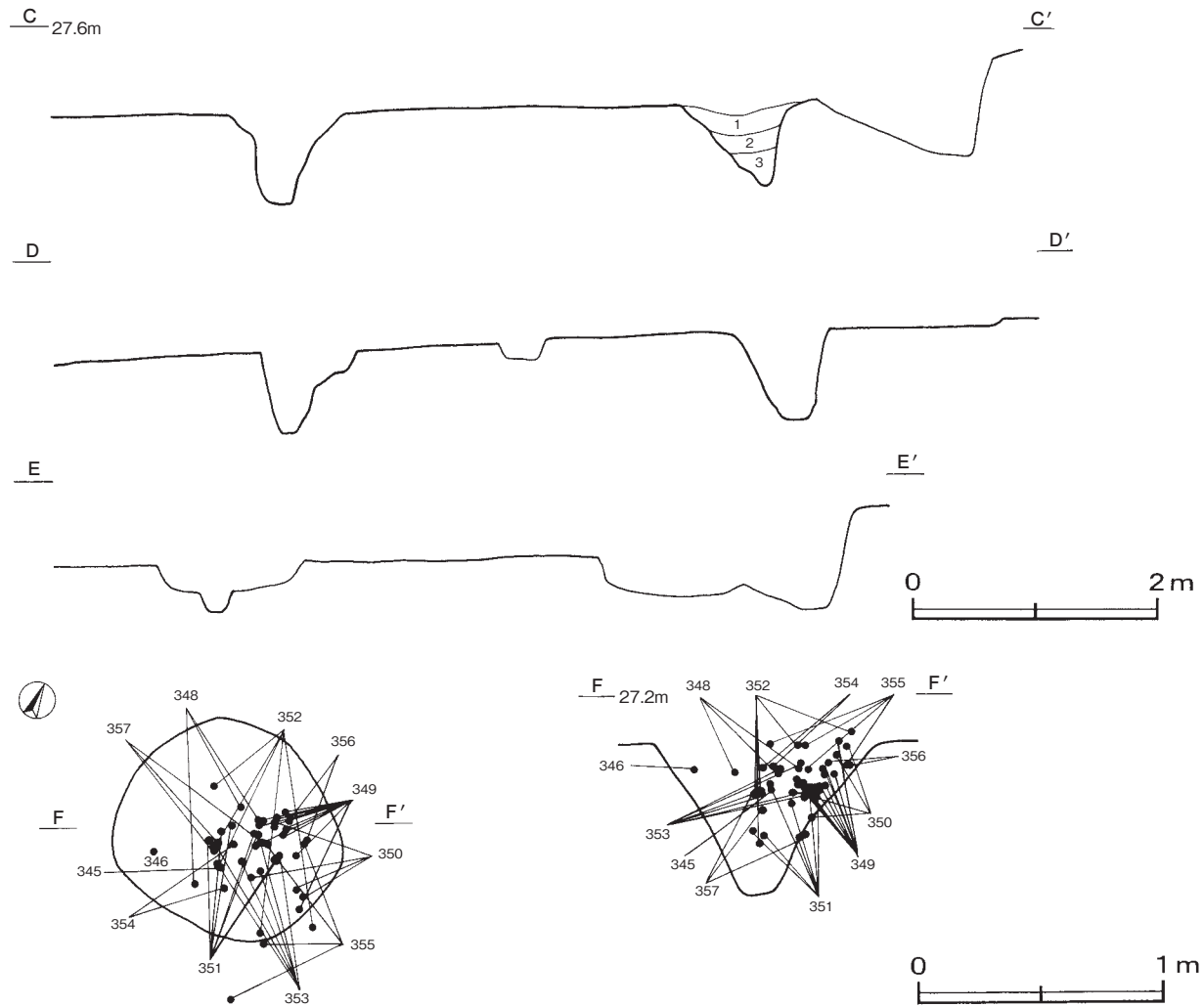
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
343	土師器	甌	(19.6)	(6.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ	壁溝上層	10%

第38号住居跡（第21～25図）

位置 調査I区北西部のE 7 g5区，標高27.5mの台地上に位置している。



第21図 第38号住居跡実測図(1)



第22図 第38号住居跡実測図(2)

重複関係 第23・24・29～31号土坑，第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北側が第12号溝に掘り込まれ，西壁・南壁が削平されているため，東西軸が7.46m，南北軸が6.52mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-30°-Wである。壁高は6～8cmで，壁は直立している。

床 平坦で，硬化面は認められない。

ピット 4か所。P1～P3は深さ63～71cmで，支柱穴と考えられる。P4は深さ40cmで，南壁中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。また，P1～P3の覆土はロームブロックが主体であるが，焼土の含有率も高い。

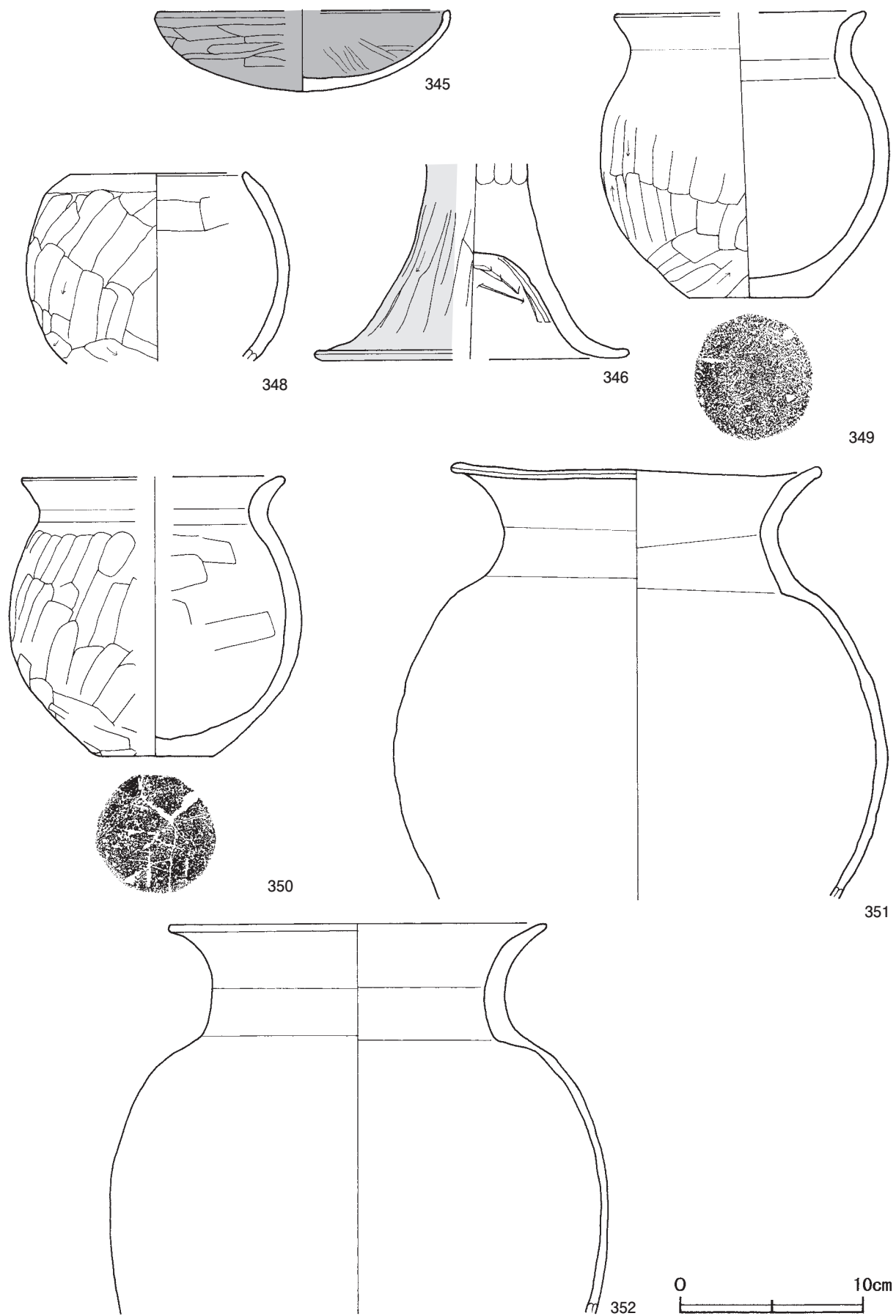
ピット (P1) 土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量 | |

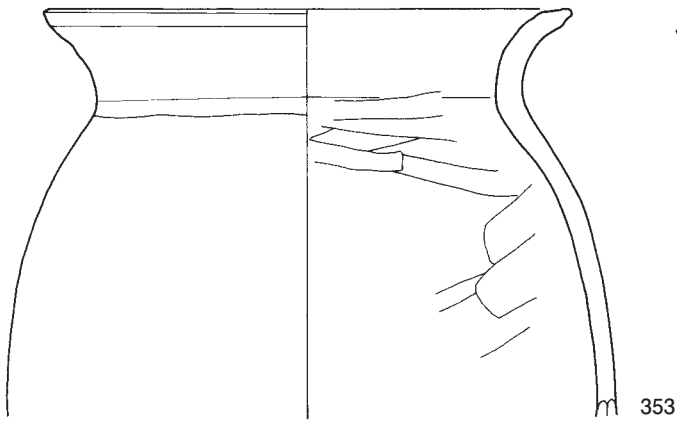
覆土 7層に分けられる。覆土が薄く，堆積状況は不明である。焼土と炭化物の含有率が高い。

土層解説

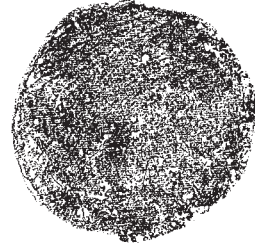
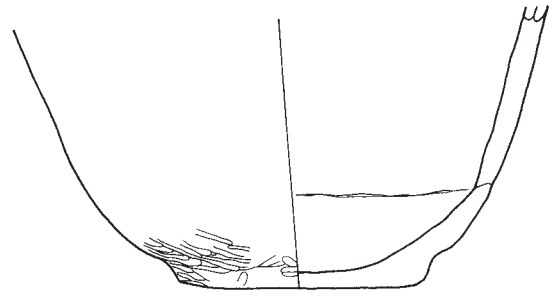
- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量 | |



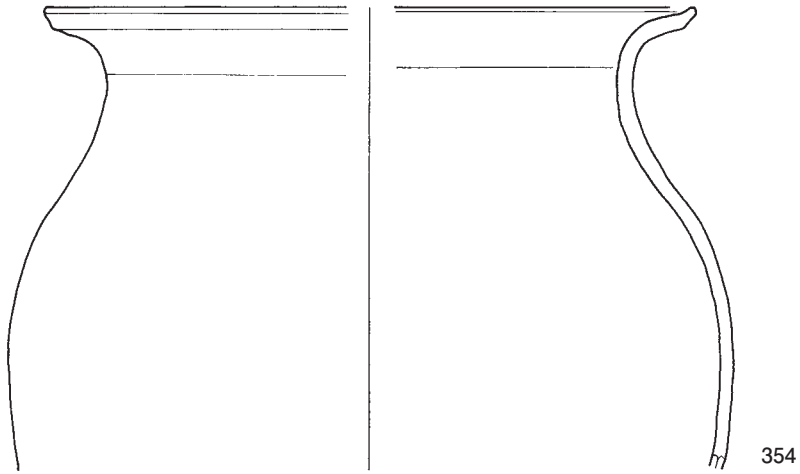
第23図 第38号住居跡出土遺物実測図(1)



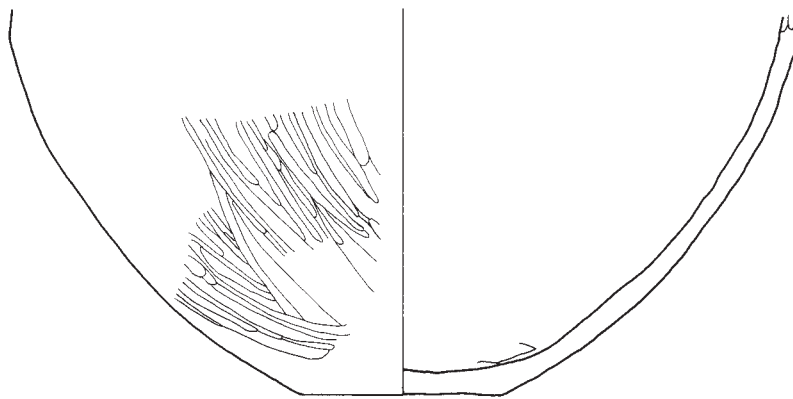
353



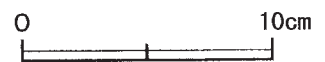
356



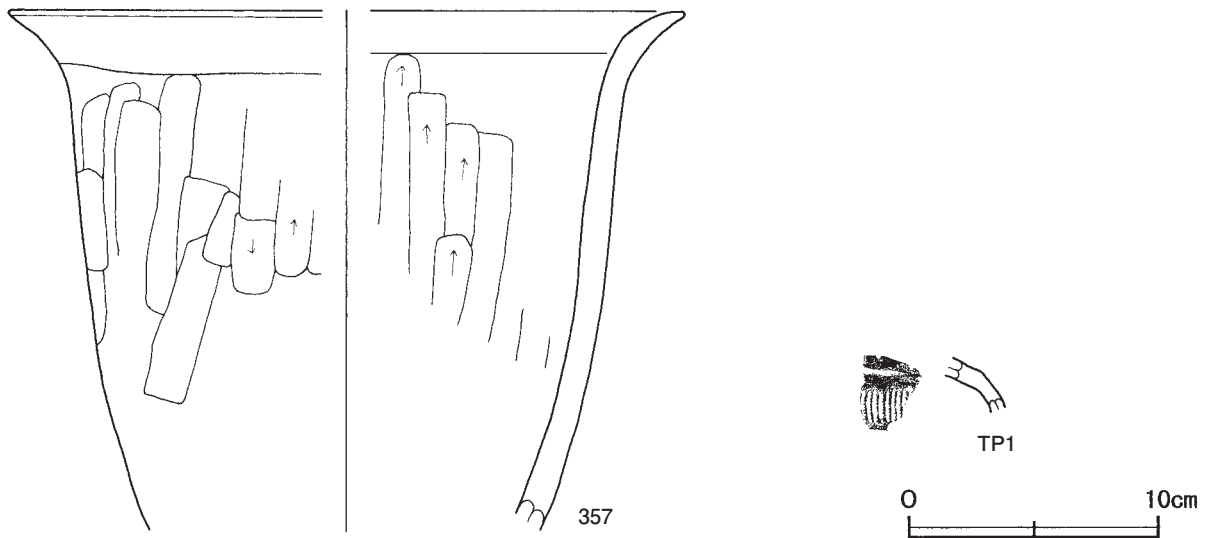
354



355



第24図 第38号住居跡出土遺物実測図(2)



第25図 第38号住居跡出土遺物実測図(3)

遺物出土状況 土師器片154点(坏類21, 高坏1, 甕類122, 甗10), 須恵器片4点(坏類, 壺, 甕類, 甗), 土製品5点(土玉1, 支脚4)が出土している。特にP1内の覆土上層から覆土中層にかけて遺物の集中が見られる。353・355はP1付近の床面からP1内覆土中層, 345・346・348・349・354・356はP1内の覆土上層, 350・351・357はP1内の覆土上層から覆土中層にかけてそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀前葉と考えられる。覆土の堆積状況から焼失住居と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表(第23～25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
345	土師器	坏	[15.8]	4.3	-	長石・石英・白色粒子	褐灰	普通	口縁部横ナデ 体部から底部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	P1内中層	30%
346	土師器	高坏	-	(10.6)	[17.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部ヘラ削り 脚部端外面横ナデ	P1内上層・横位	40%
348	土師器	椀	9.6	(10.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	頸部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	P1内上層	80% PL34
349	土師器	小形甕	[13.6]	15.5	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	P1内上層	90% PL33
350	土師器	小形甕	[14.4]	15.1	5.8	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	P1内上～中層	40%
351	土師器	甕	20.2	(23.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 内・外面剥離, 磨耗	P1内上～中層	40% PL34
352	土師器	甕	20.4	(21.1)	-	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	口縁部横ナデ	P1内覆土中	40% PL34
353	土師器	甕	20.8	(16.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラナデ 口縁部端つまみ上げ	P1付近床面・P1内上～中層	30%
354	土師器	甕	[26.0]	(18.4)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面磨耗 顕著 口縁部端つまみ上げ	P1内上層	20%
355	土師器	甕	-	(15.3)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 内面ナデ	P1付近下層～P1内上層	30%
356	土師器	甕	-	(11.3)	9.6	長石・石英	橙	普通	体部外面下端ヘラ磨き 内面ナデ	P1内上層	30%
357	土師器	甗	[27.0]	(20.6)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラ削り	P1内上～中層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP1	須恵器	甗	長石	灰	普通	肩部外面上位に一条の平行沈線 体部外面に櫛歯状工具による刺突紋	覆土中	10%

第39号住居跡(第26図)

位置 調査I区北西部のE7a8区, 標高27.9mの台地上に位置している。

重複関係 第2号方形竪穴遺構, 第26・35・36・45・47～49・51・53号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東壁, 南壁は削平されているため, 東西軸が4.72m, 南北軸は4.24mしか確認できなかった。方形または長方形と推測される。主軸方向はN-25°-Eである。壁高は4cmで, 壁は緩斜して立ち上がっている。

床 北東部が硬く踏み固められているが、他の遺構によって掘り込まれているため平坦でない。

竈 北壁に付設されているが、袖部・火床部・焚口などの大部分は他の遺構に掘り込まれている。規模は火床部から煙道部まで36cm、燃烧部幅26cmである。袖部は第9層のロームを主体とした土で基部とし、第4～7層の粘土やローム・焼土を混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

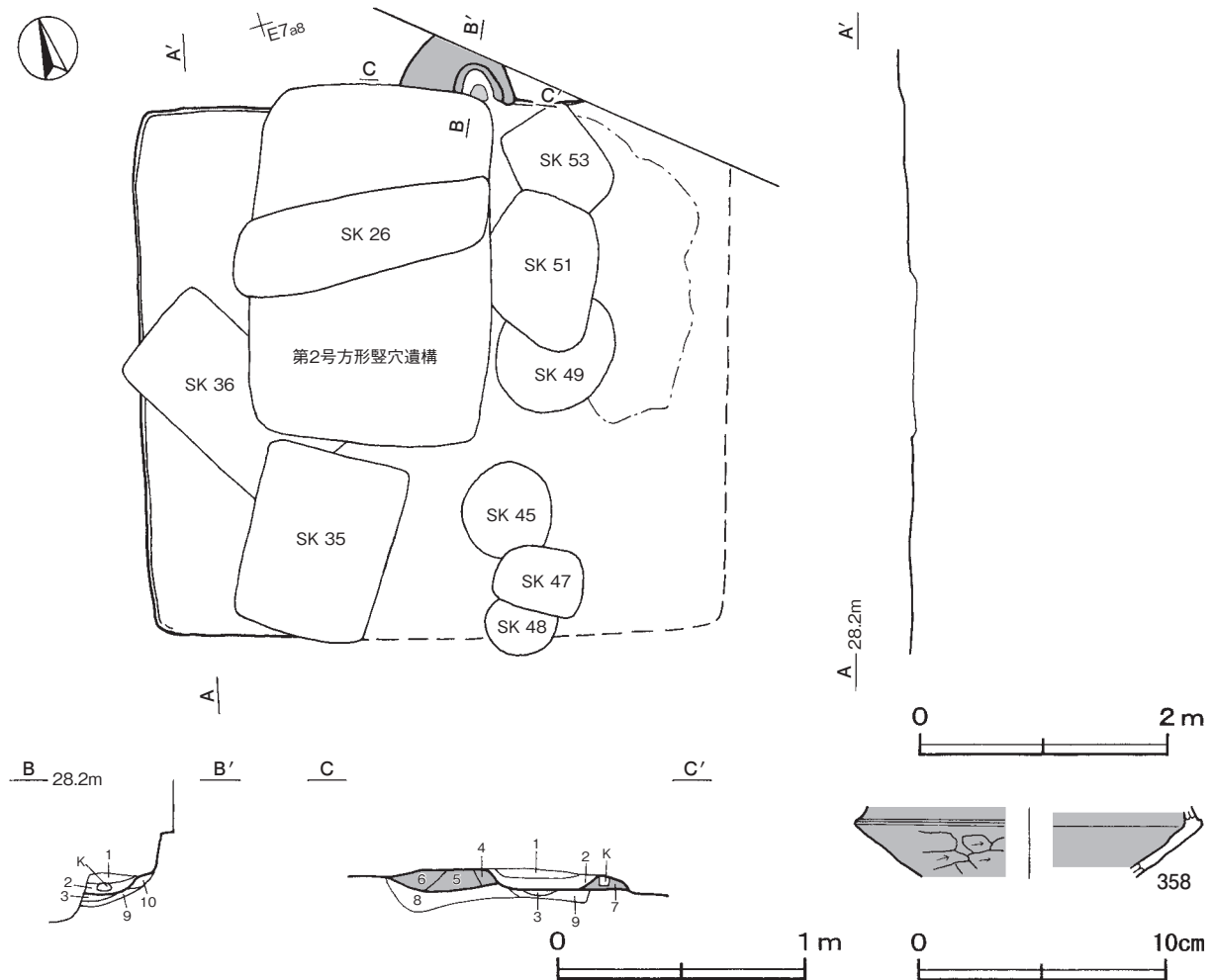
竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|---------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量（締まり弱） |
| 3 赤褐色 | 焼土粒子多量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 5 にぶい暗褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

覆土 覆土がほとんどない状況で検出されており、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片38点（坏類14、甕類24）が出土している。覆土もほとんどなく、多くの遺構に掘り込まれているため、細片が確認できただけである。358は北西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第26図 第39号住居跡・出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第26図）

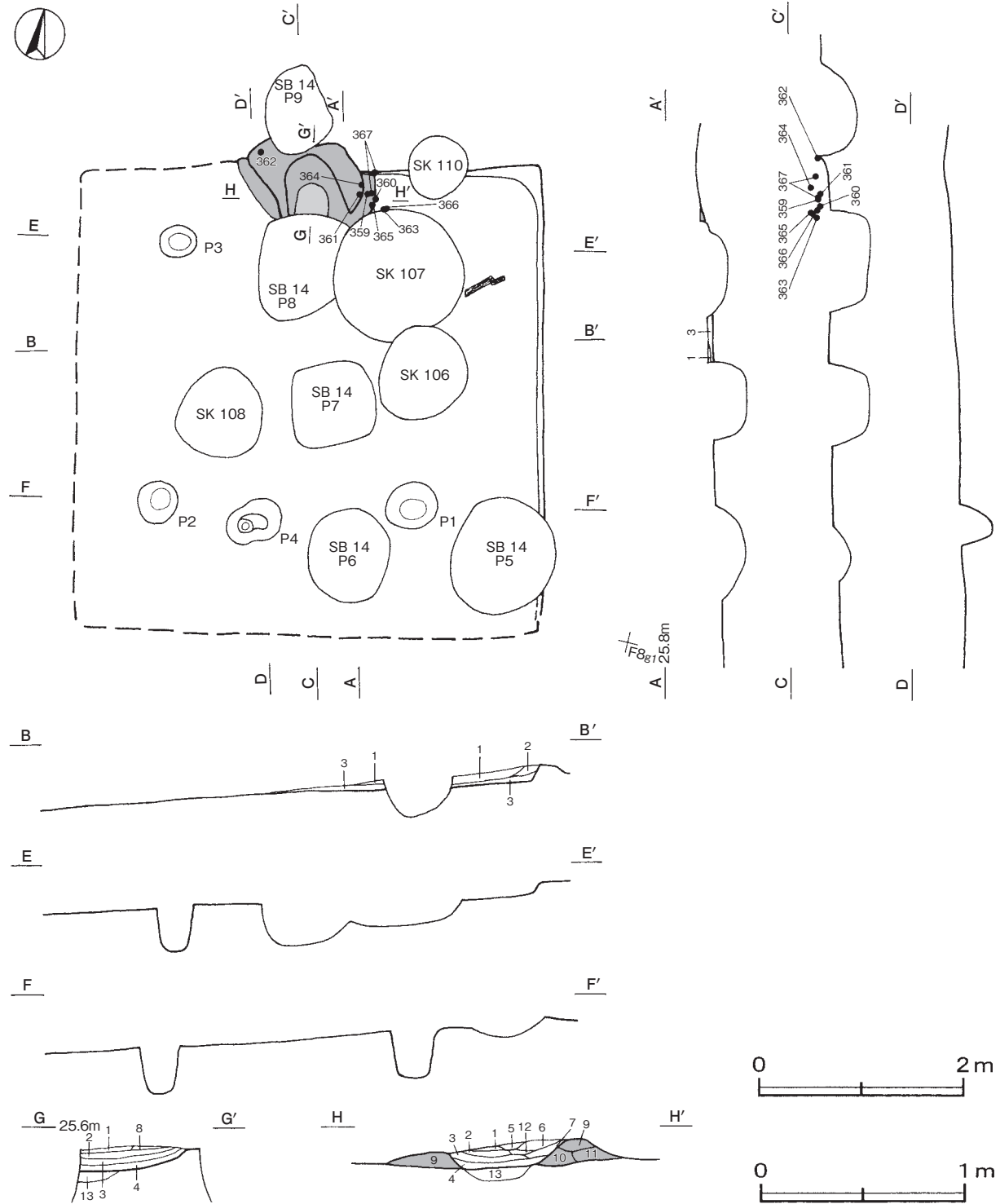
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
358	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	10%

第40号住居跡 (第27・28図)

位置 調査I区南西部のF7f0区, 標高25.6mの台地上に位置している。

重複関係 第14号掘立柱建物, 第106～108・110号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南壁, 西壁と北壁西部が削平されているため, 東西軸が4.58m, 南北軸が4.56mしか確認できなかった。方形と推測され, 主軸方向はN-12°-Wである。壁高は14cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。



第27図 第40号住居跡実測図

床 東部の床面が一部残っているだけで、ほかは削平されている。残存部は平坦であり、硬化面は認められない。

竈 北壁に付設されている。焚口部などの竈前面は他の遺構によって掘り込まれているため、規模は火床部から煙道部まで60cm、燃焼部幅52cmである。袖部第9～11層の粘土やローム、焼土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込まず、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 9 にぶい褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム粒子中量 | 10 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 11 にぶい褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック微量 |
| 6 赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・粘土粒子微量 | 13 明赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 | |

ピット 4か所。P1～P3は深さ43～47cmで、支柱穴と考えられる。P4は深さ32cmで、南壁に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

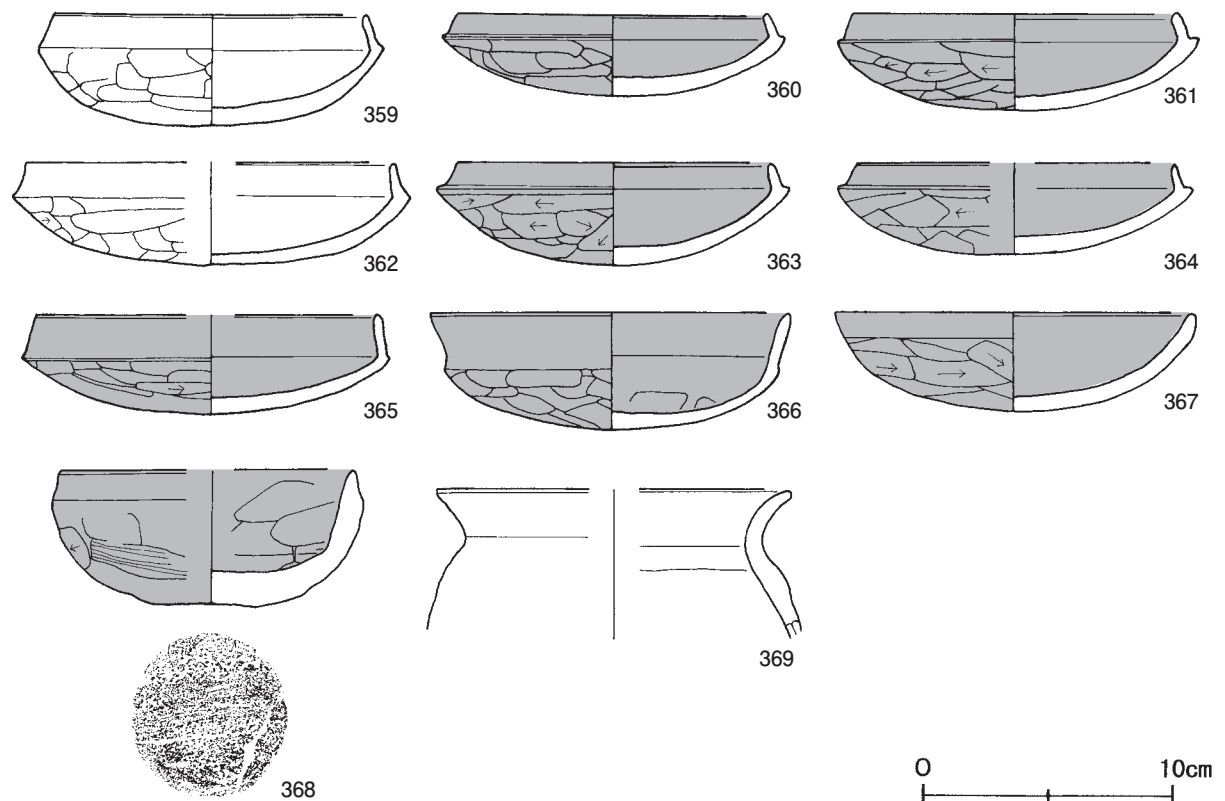
覆土 3層に分けられる。覆土が薄く、堆積状況は不明である。焼土と炭化物の含有率が高い。

土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片75点(坏類37, 甕類38), 土製品1点(支脚)が出土している。359・361・363～367は竈右袖脇の覆土上層から正位, 360は斜位, 362は竈左袖脇の覆土上層から正位でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第28図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
359	土師器	坏	12.4	4.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	80% PL33
360	土師器	坏	12.3	3.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	50% PL34
361	土師器	坏	13.0	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	90% PL34
362	土師器	坏	[15.6]	3.9	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	70% PL34
363	土師器	坏	12.5	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	70% PL34
364	土師器	坏	[12.6]	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	60% PL34
365	土師器	坏	[13.6]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	80% PL35
366	土師器	坏	14.2	4.6	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面ヘラナデ	上層	100% PL35
367	土師器	坏	14.3	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	80% PL35
368	土師器	坏	[11.6]	5.3	5.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面一部ヘラ削り 内面ヘラナデ	上層	70% PL35
369	土師器	小形甕	[14.0]	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤橙	普通	口縁部横ナデ	上層	10%

第43号住居跡（第29図）

位置 調査I区南部中央のF 8 e1区、標高26.0mの台地上に位置している。

重複関係 第8・15・31号住居、第102・103号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第15号住居、南部を第8号住居、西部を第31号住居にそれぞれ掘り込まれているため、東西軸が4.10m、南北軸が4.00mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下に幅19～25cm、深さ4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで92cm、燃焼部幅32cmである。袖部は第11・12層のロームを主体とした土で基部とし、第7～9層の粘土やローム、焼土を混ぜた土を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼみ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外まで掘り込んでおらず、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	8 にぶい褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	10 明赤褐色	焼土ブロック多量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	11 にぶい褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・粘土粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量		
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量		

ピット 深さ14cmで、主柱穴の可能性はある。

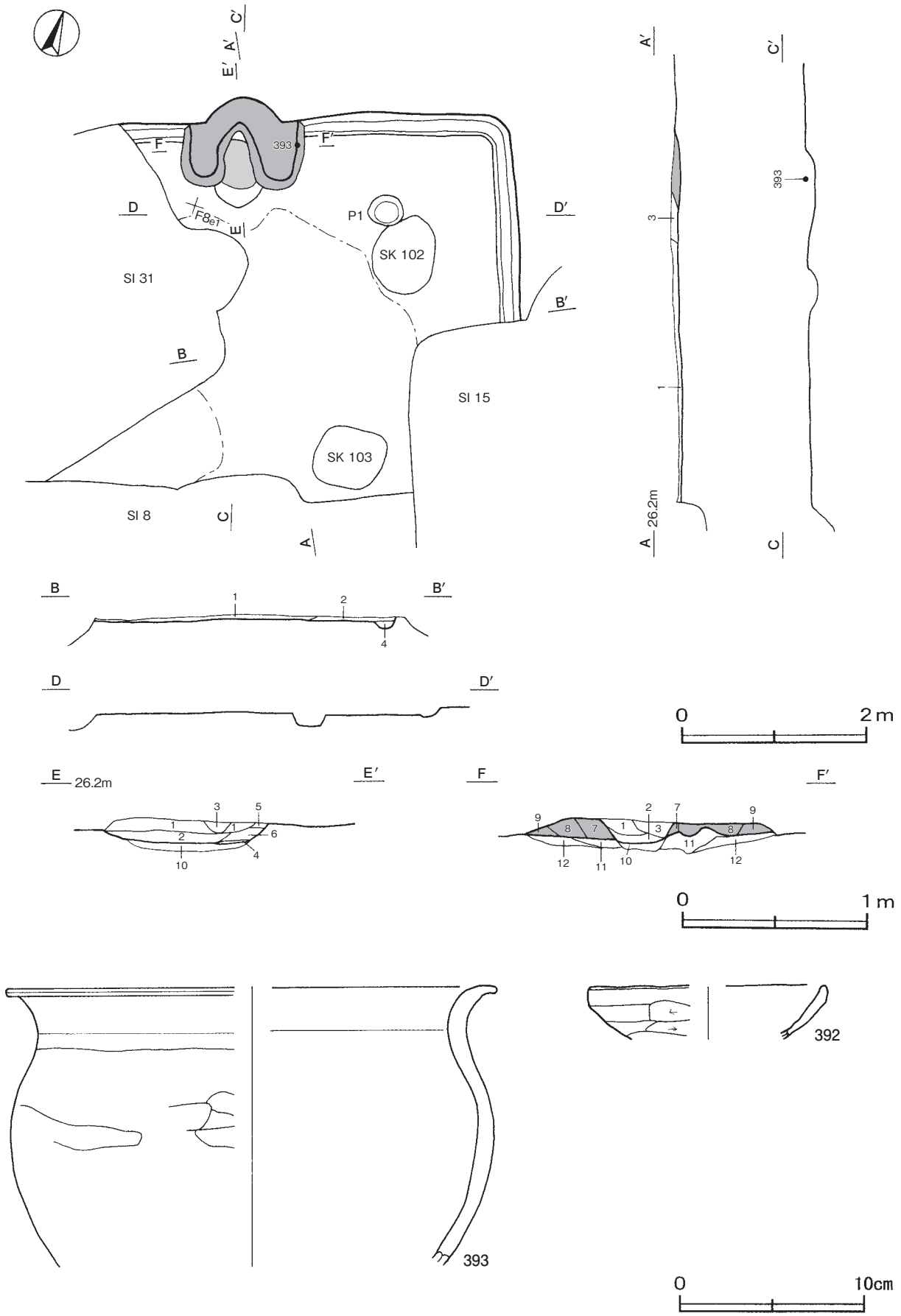
覆土 4層に分けられる。覆土が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	4 黒褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片22点（坏類1、甕類21）が出土している。393は竈右袖部の覆土上層から出土したものと西部の覆土中から出土したものが接合している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第29図 第43号住居跡・出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
392	土師器	坏	[12.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	10%
393	土師器	甕	[26.4]	(15.0)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層・覆土中	20%

第46号住居跡（第30～33図）

位置 調査I区北西部のE7j6区、標高26.3mの台地上に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第44号住居、第3号掘立柱建物、第28・371号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.04m、短軸5.86mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は46cmで、壁は直立している。

床 平坦で、P4から竈にかけての中央部が踏み固められている。壁下には幅16～28cm、深さ2～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。ほかに北東コーナー部の床面から長軸1.70cm、短軸110cm、厚さ約20cmの焼土ブロックを多量に含む土の塊が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで118cm、燃焼部幅54cmである。袖部は粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 8 灰褐色 | 粘土粒子多量 |
| 4 黒褐色 | 灰少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P1～P3は深さ42～56cmで、主柱穴と考えられる。P4は深さ29cmで、南壁中央部に位置していることや、硬化面の広がり方などから、出入口施設に伴うピットである。

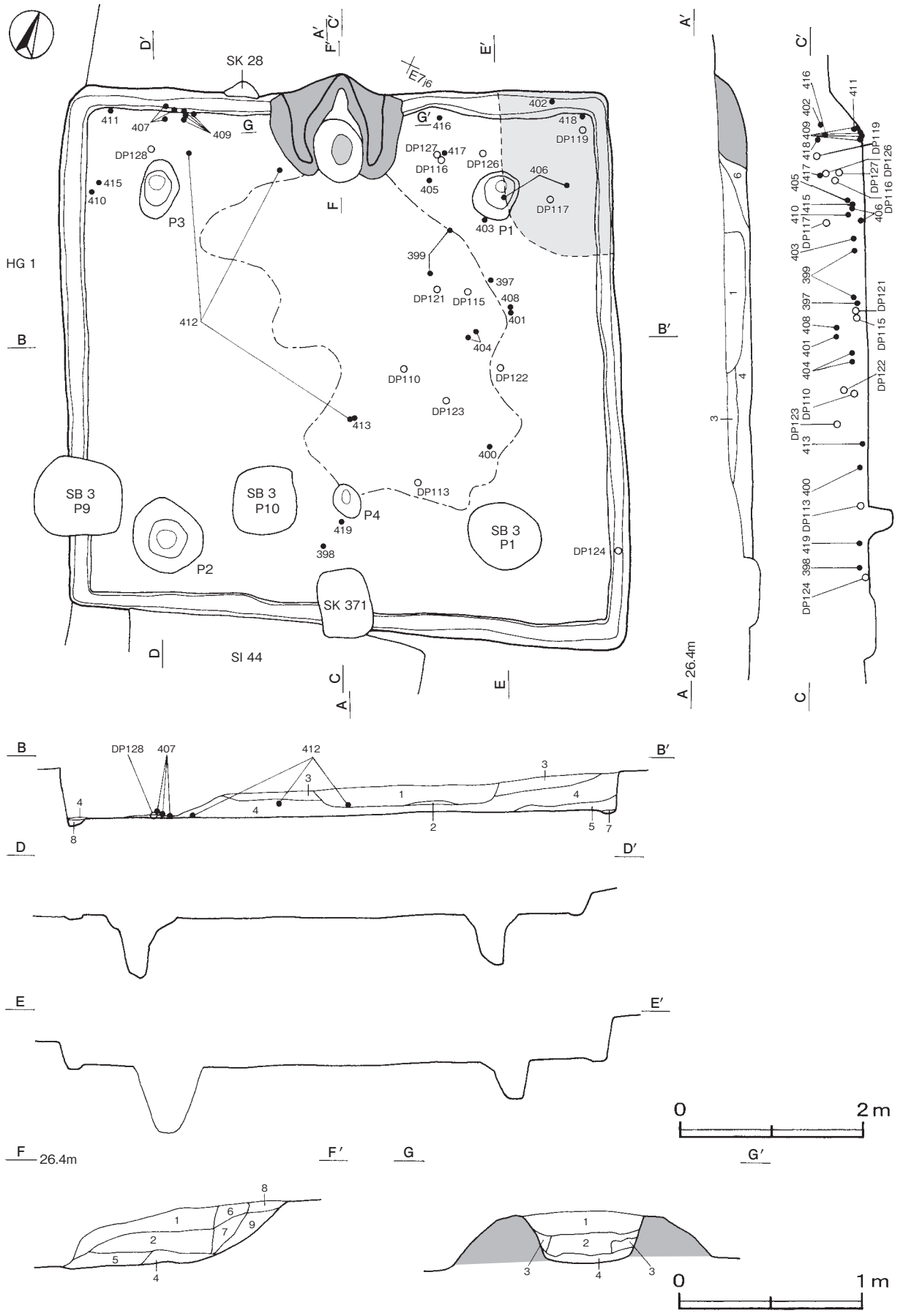
覆土 8層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。焼土と炭化物の含有率が高い。

土層解説

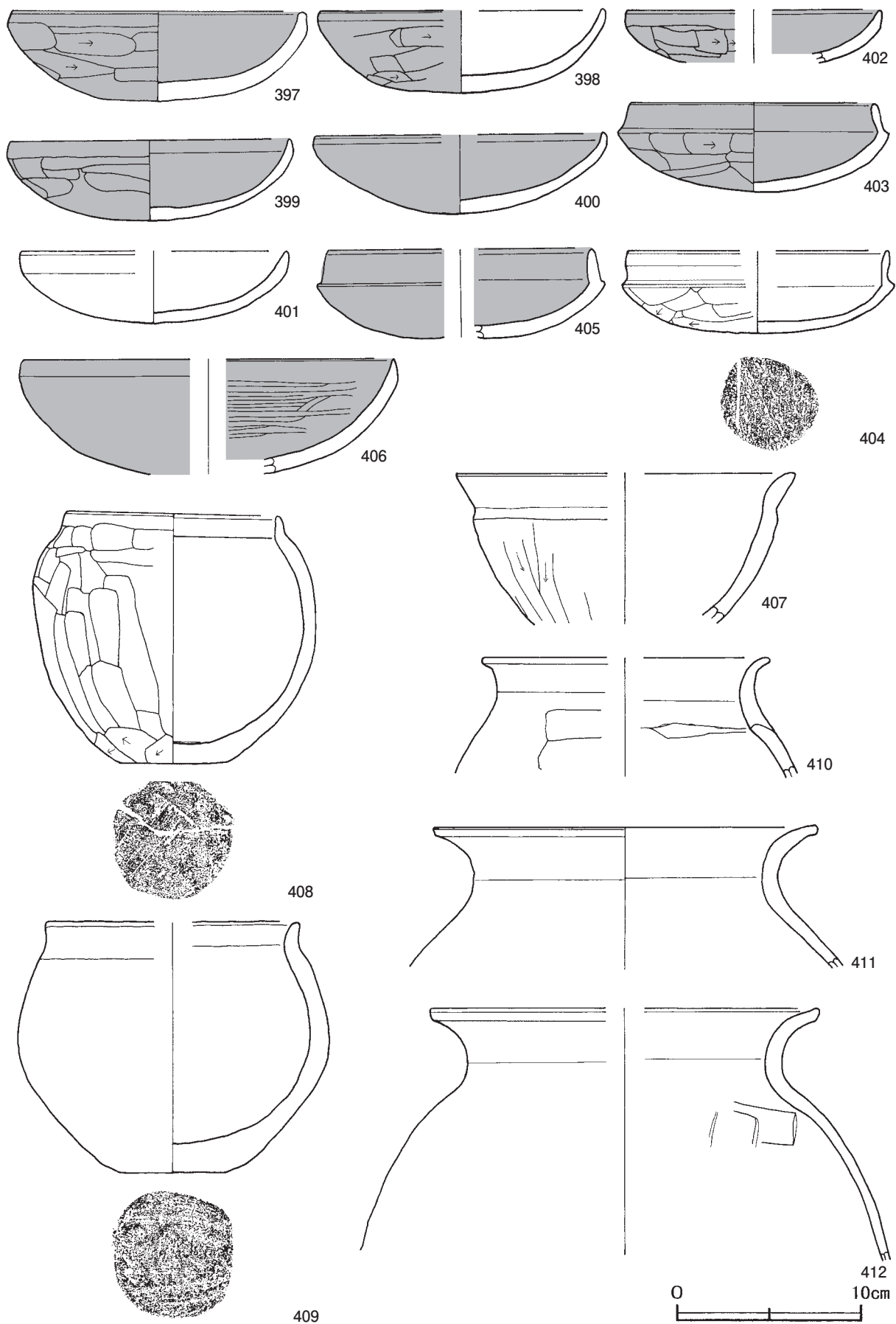
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1369点（坏類565、鉢1、甕類799、甗2、ミニチュア土器2）、須恵器片13点（瓶12、甕類1）、土製品40点（土玉8、球状土錘21、支脚9、勾玉2）、鉄滓2点が出土している。412は中央部から北西部の覆土中層から覆土下層、397は北東部の覆土下層、404は中央部の床面直上、DP113・DP124は南東部の覆土下層、419は南部の覆土下層、407は北西部の覆土中層から覆土下層、411・DP128は覆土下層、409は覆土下層から床面にかけてそれぞれ出土している。

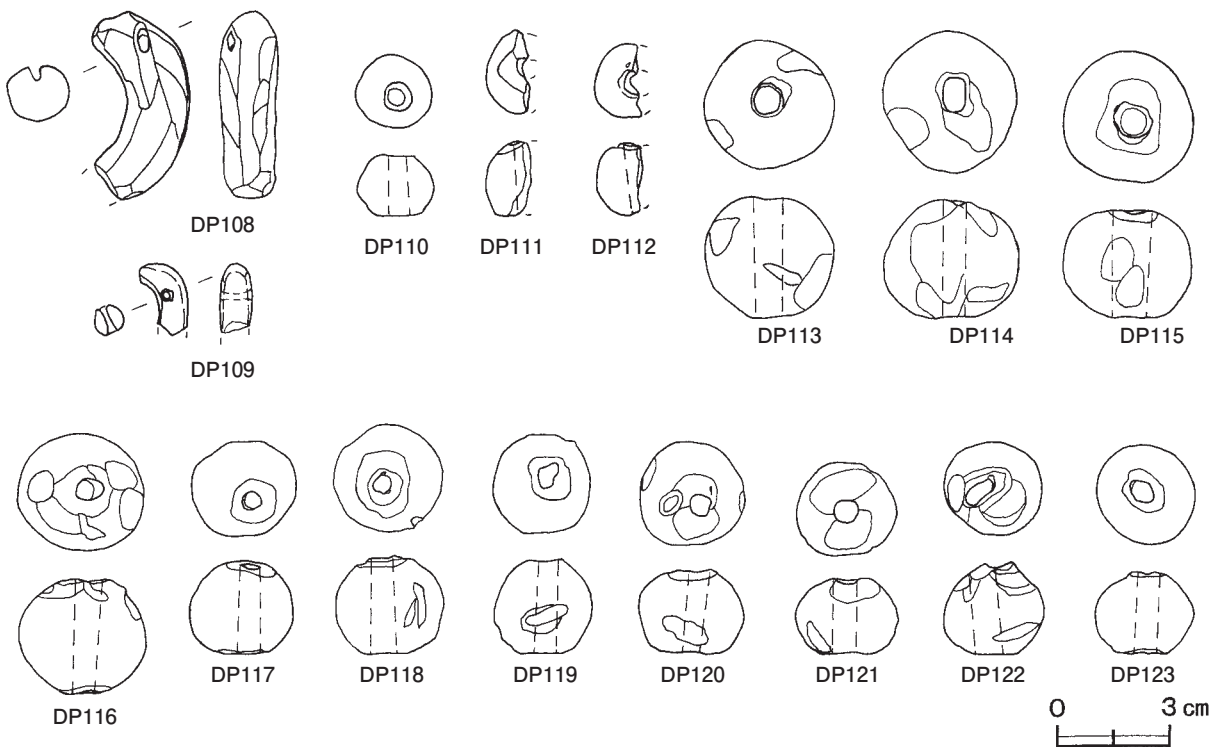
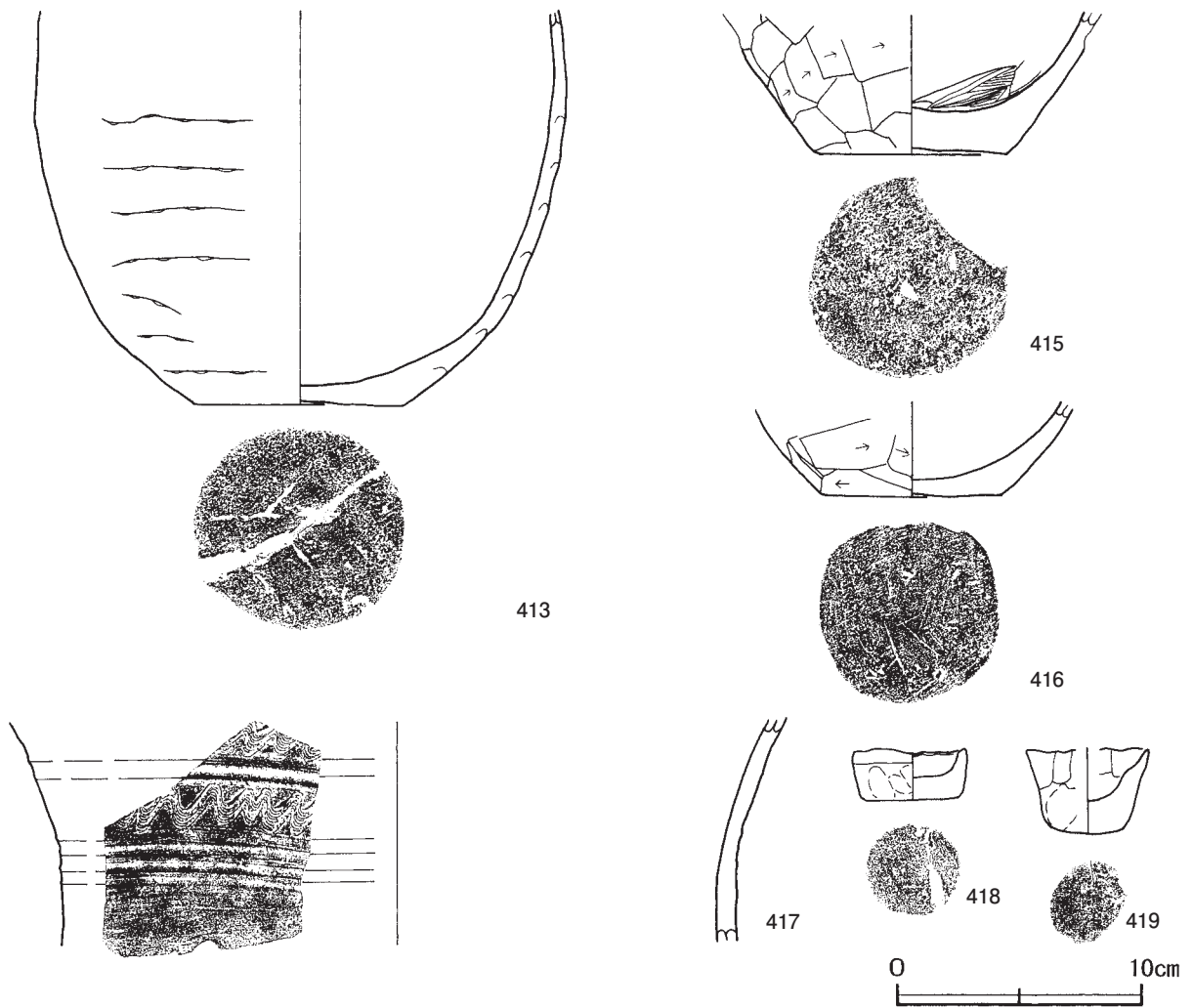
所見 堆積した覆土の含有物や、北東コーナー部の焼土の堆積などから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



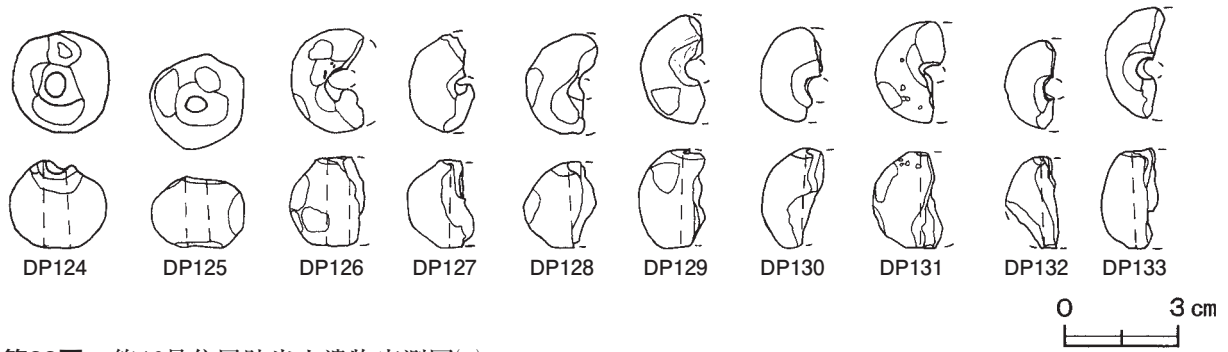
第30图 第46号住居跡実測図



第31图 第46号住居跡出土遺物実測図(1)



第32图 第46号住居跡出土遺物実測図(2)



第33図 第46号住居跡出土遺物実測図(3)

第46号住居跡出土遺物観察表 (第31 ~ 33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
397	土師器	坏	15.7	5.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	90% PL35
398	土師器	坏	[15.2]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	80% PL35
399	土師器	坏	15.2	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	70% PL35
400	土師器	坏	[15.6]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	内・外面磨耗	中層	70% PL35
401	土師器	坏	[14.4]	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内・外面磨耗	中層	20%
402	土師器	坏	[13.8]	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	20%
403	土師器	坏	13.2	4.8	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 内面ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	70% PL35
404	土師器	坏	[14.0]	4.4	5.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	30%
405	土師器	坏	[14.4]	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ	中層	30%
406	土師器	坏	[20.0]	(6.2)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラ磨き	中層~PI内上層	20%
407	土師器	鉢	[18.4]	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層~下層	10%
408	土師器	小形甕	11.4	13.2	6.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 頸部外面ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	80% PL36
409	土師器	小形甕	[13.6]	13.5	6.0	長石・石英・白色粒子	にぶい赤褐	普通	内・外面磨耗	下層~床面	50% PL36
410	土師器	甕	[15.4]	(6.3)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 輪積痕	中層	10%
411	土師器	甕	20.6	(7.6)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面磨耗	下層	20%
412	土師器	甕	[21.0]	(13.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部内面ヘラ削り 口縁端部つまみ上げ	中層~下層	20%
413	土師器	甕	-	(16.0)	8.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	内・外面磨耗顕著 外面輪積痕	中層	40%
415	土師器	甕	-	(5.7)	7.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層	20%
416	土師器	甕	-	(3.9)	7.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部から底部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	上層	20%
417	須恵器	甕	-	(9.0)	-	長石・石英・礫	灰	普通	頸部外面櫛歯描波状文(10条)区画する沈線が中段2本, 下段3本を施文	上層	10%
418	土師器	ミニチュア土器	4.5	2.1	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面ナデ 体部外面指頭痕	上層	90% PL64
419	土師器	ミニチュア土器	[5.0]	3.5	3.0	長石・石英	浅黄橙	普通	内・外面指頭痕	下層	90% PL64

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP108	勾玉	(5.0)	(2.6)	1.4	(17.2)	粘土	外面ナデ 穿孔部未貫通	覆土中	PL47
DP109	勾玉	(1.9)	(1.3)	0.8	(1.9)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL47

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP111	土玉	(1.2)	2.0	(0.5)	(4.7)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP112	土玉	(1.3)	1.9	(0.6)	(3.9)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP110	球状土錘	2.1	1.7	0.5	6.0	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL47
DP113	球状土錘	3.5	3.3	0.8	(36.5)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	
DP114	球状土錘	3.6	3.1	0.6	(37.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP115	球状土錘	3.5	2.9	1.0	30.6	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP116	球状土錘	3.3	3.0	0.7	(32.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	
DP117	球状土錘	2.8	2.5	0.6	18.7	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP118	球状土錘	2.8	2.6	0.7	(21.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP119	球状土錘	2.6	2.5	0.6	(17.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	
DP120	球状土錘	2.8	2.2	0.6	(17.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP121	球状土錘	2.7	2.0	0.6	(12.1)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DP122	球状土錘	2.6	2.4	0.8	(14.8)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DP123	球状土錘	2.6	2.2	0.6	10.8	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP124	球状土錘	2.5	2.4	0.7	12.7	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	
DP125	球状土錘	2.5	1.9	0.6	11.4	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP126	球状土錘	2.8	2.4	0.6	(11.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	
DP127	球状土錘	(2.6)	2.3	0.5	(9.5)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DP128	球状土錘	(1.9)	2.3	(0.5)	(9.4)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	
DP129	球状土錘	(1.8)	2.6	0.7	(10.4)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP130	球状土錘	(1.7)	2.7	(0.6)	(8.5)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP131	球状土錘	(2.7)	2.6	(0.6)	(10.2)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP132	球状土錘	(2.4)	2.5	(0.2)	(6.0)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP133	球状土錘	(3.0)	2.6	(0.5)	(8.6)	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	

第48号住居跡（第34～36図）

位置 調査Ⅰ区南東部のF 8 b4区，標高26.2mの台地上に位置している。

重複関係 第49号住居，第365号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.88m，短軸3.33mの長方形で，主軸方向はN-18°-Wである。壁高は8～14cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，P 5から竈にかけての中央部が踏み固められている。壁下には幅22～30cm，深さ5～7cmで，U字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで110cm，燃焼部幅54cmである。袖部は粘土やロームを混ぜた土によって構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 6 明赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ39～51cmで，支柱穴である。P 5は深さ20cmで，南壁中央部に位置していることや，硬化面の広がり方などから，出入り口施設に伴うピットである。

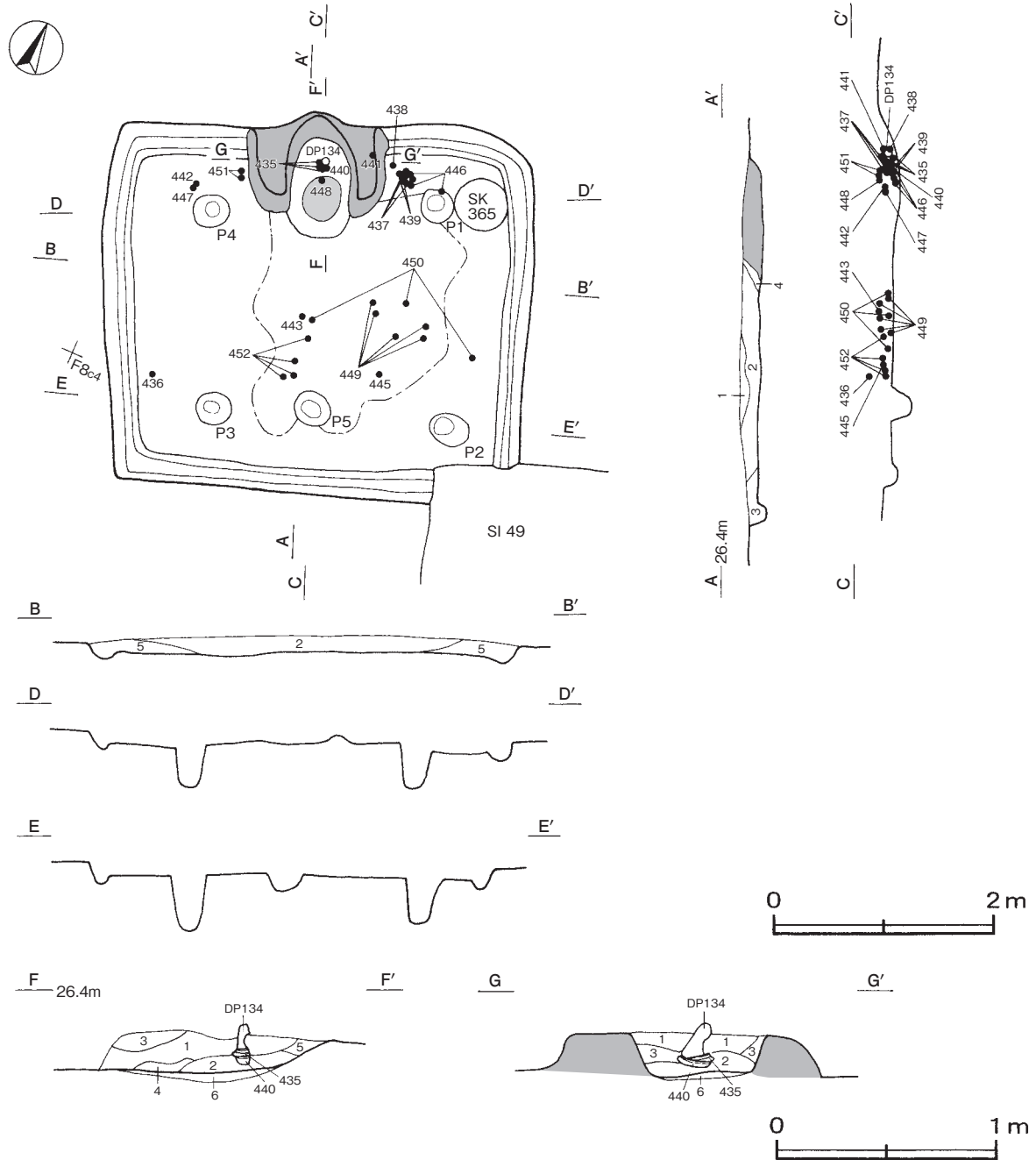
覆土 5層に分けられる。含有物は細かい粒子が主体であり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

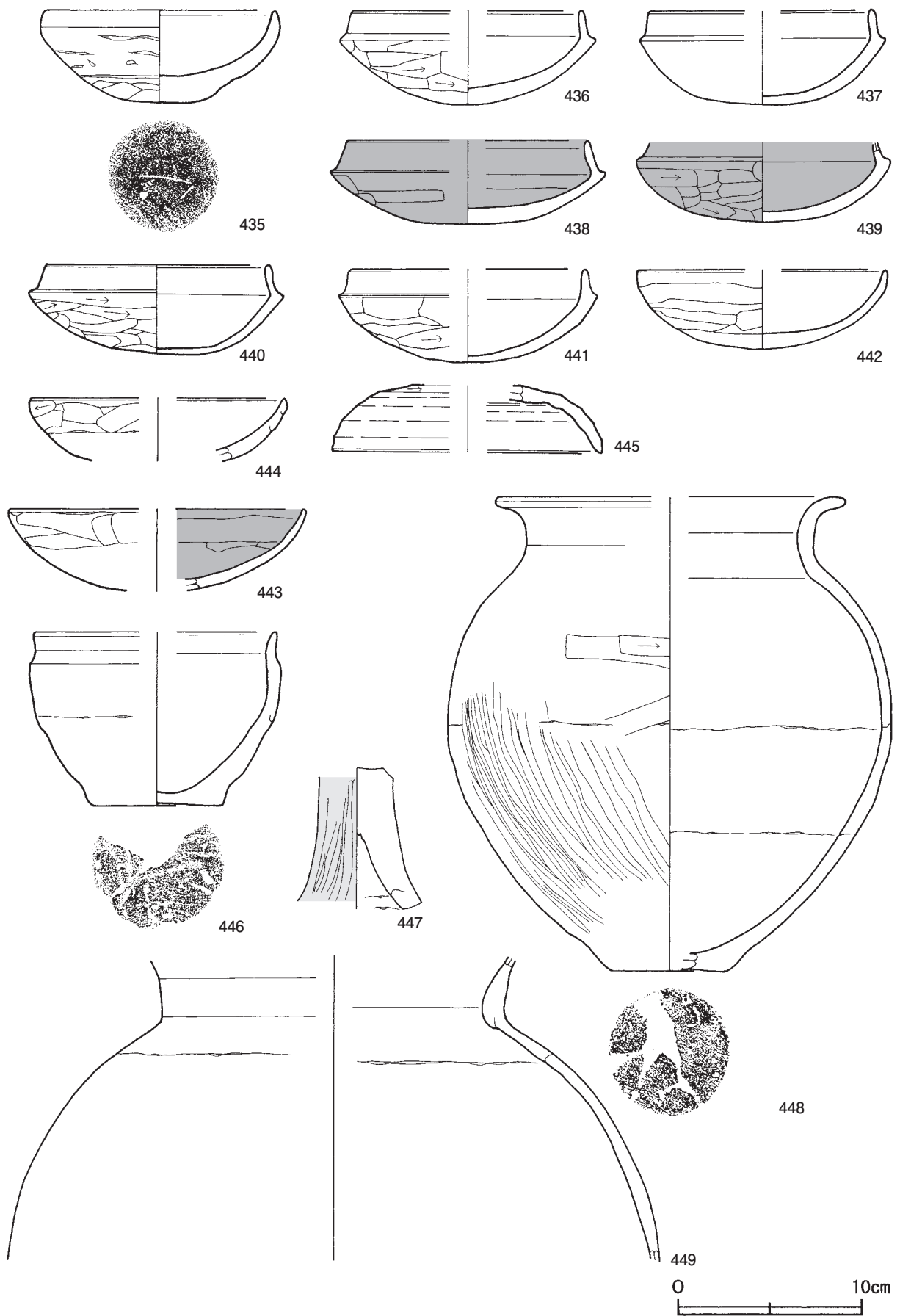
- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片169点（坏類55, 碗1, 高坏5, 甕類105, 甗3）, 須恵器片1点（蓋）, 土製品1点（支脚）が出土している。竈内からは火床部から浮いた状態で435と440の坏2個が重なり, その中にDP134が直立して出土している。450は中央部から東部の覆土下層から床面直上, 435は北部中央の覆土上層から覆土下層, 440は覆土下層, 441は北東部の覆土下層, 437は覆土下層から床面直上, 438・439・446は床面直上からそれぞれ出土している。

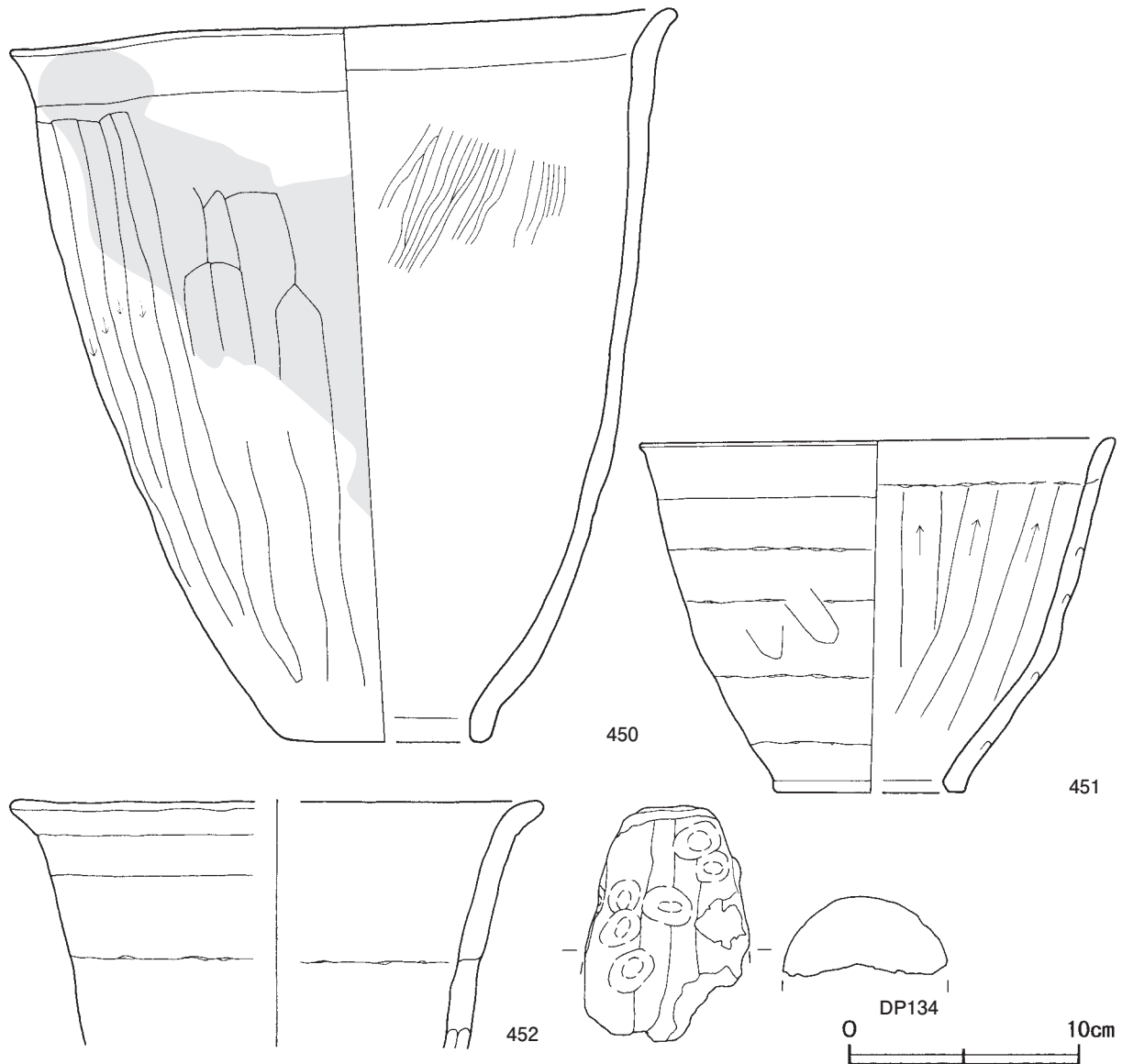
所見 竈内から出土している坏2点と支脚については, 完全に火床面から離れた状態で出土していることから, これらは元の位置をとどめていないと考えられる。時期は, 出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第34図 第48号住居跡実測図



第35图 第48号住居跡出土遺物実測図(1)



第36図 第48号住居跡出土遺物実測図(2)

第48号住居跡出土遺物観察表 (第35・36図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
435	土師器	坏	12.4	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面中位輪積痕下端ヘラ削り	上層~下層	90% PL35
436	土師器	坏	[12.4]	5.1	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	70% PL35
437	土師器	坏	[12.1]	5.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部磨耗	下層~床面	70% PL35
438	土師器	坏	[13.0]	4.4	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内面ヘラナデ	床面直上	60% PL36
439	土師器	坏	-	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面直上	70%
440	土師器	坏	12.0	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	95%
441	土師器	坏	[12.8]	5.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	50%
442	土師器	坏	[13.4]	4.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	90% PL36
443	土師器	坏	[15.8]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 内面ヘラナデ	上層	40%
444	土師器	坏	[13.8]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り 輪積痕	覆土中	20%
445	須恵器	蓋	[14.4]	(3.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部ヘラ削り	上層	30%
446	土師器	椀	[13.2]	9.4	7.1	長石・石英・赤色粒子・礫	橙	普通	口縁部横ナデ	床面直上	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
447	土師器	高坏	-	(7.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き 内面輪積痕	中層	10%
448	土師器	甕	[18.6]	25.6	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り下端ヘラ磨き 輪積痕	上層	70% PL39
449	土師器	甕	-	(16.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面磨耗 輪積痕	上層	30%
450	土師器	甌	28.4	31.8	8.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削り後一部ヘラ磨き	下層～床面	95%
451	土師器	甌	20.5	15.3	8.0	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラ削り 輪積痕	上層～中層	100% PL37
452	土師器	甌	[22.6]	(10.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 内・外面輪積痕	中層	40%

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP134	支脚	(10.2)	3.4	(7.1)	(211.7)	粘土	外面ヘラナデ 指頭圧痕 下端部・側面半分欠損	上層	

第49号住居跡 (第37・38図)

位置 調査I区南東部のF 8c5区, 標高26.2mの台地上に位置している。

重複関係 第48・60号住居跡を掘り込み, 第17・55号住居, 第6号掘立柱建物, 第81・87・283・285・290号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.65m, 短軸5.52mの方形で, 主軸方向はN-17°-Wである。壁高は10～14cmで, 壁は直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には幅24～32cm, 深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部やや西寄りに付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで83cm, 燃焼部幅41cmである。袖部は粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部の掘り込みは壁外に出ず, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量	4 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	5 暗赤褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量
		7 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ66～82cmで, 主柱穴である。P5は深さ11cmで, 南壁中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットである。

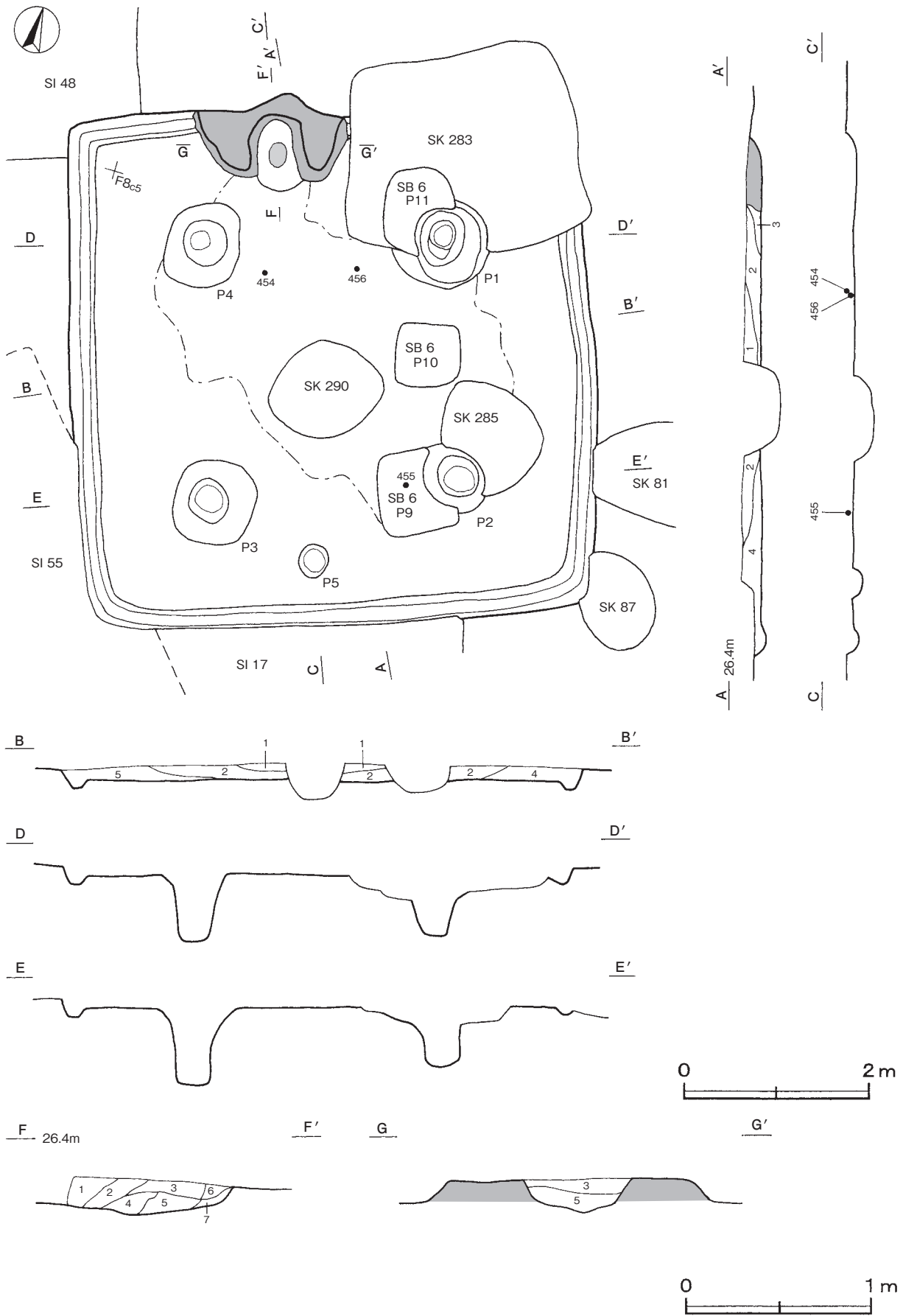
覆土 5層に分けられる。含有物は細かい粒子が主体であり, レンズ状の堆積状況を示すことから, 自然堆積である。

土層解説

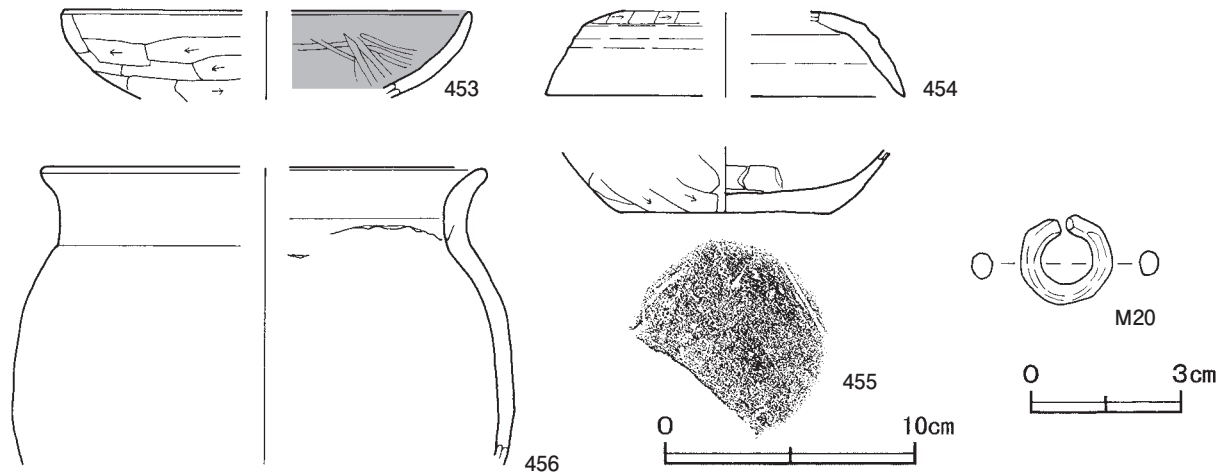
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片437点 (坏類112, 甕類324, 甌1), 須恵器片1点 (蓋), 金属製品1点 (耳環) が出土している。454は中央部の覆土上層, 456は覆土下層, 455は南東部P2付近の覆土上層, M20は北東部の覆土中, 456は北西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第37图 第49号住居跡実測図



第38図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
453	土師器	坏	[16.2]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面へら削り 内面へら磨き	覆土中	10%
454	須恵器	蓋	[14.4]	(3.3)	-	長石・石英・白色粒子	黄灰	普通	天井部外面へら削り 口縁部横ナデ	上層	30%
455	土師器	甕	-	(2.5)	8.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部から底部へら削り	上層	20%
456	土師器	甕	[17.4]	(11.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内・外面磨耗 内面頸部輪積痕	下層	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	耳環	1.7	1.7	0.4~0.5	4.5	銅	鍍金	覆土中	PL64

第50号住居跡（第39・40図）

位置 調査I区北部中央のE7g0区、標高26.9mの台地上に位置している。

重複関係 第36号住居、第1・4・5号方形竪穴遺構、第16・20・59・66・176・219・221・227・235・248・268・269・301・309・310・331・353・354・356号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東壁南部と南壁が削平されているため、東西軸が6.96mで、南北軸は7.20mしか確認できなかった。方形と推測され、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は6cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

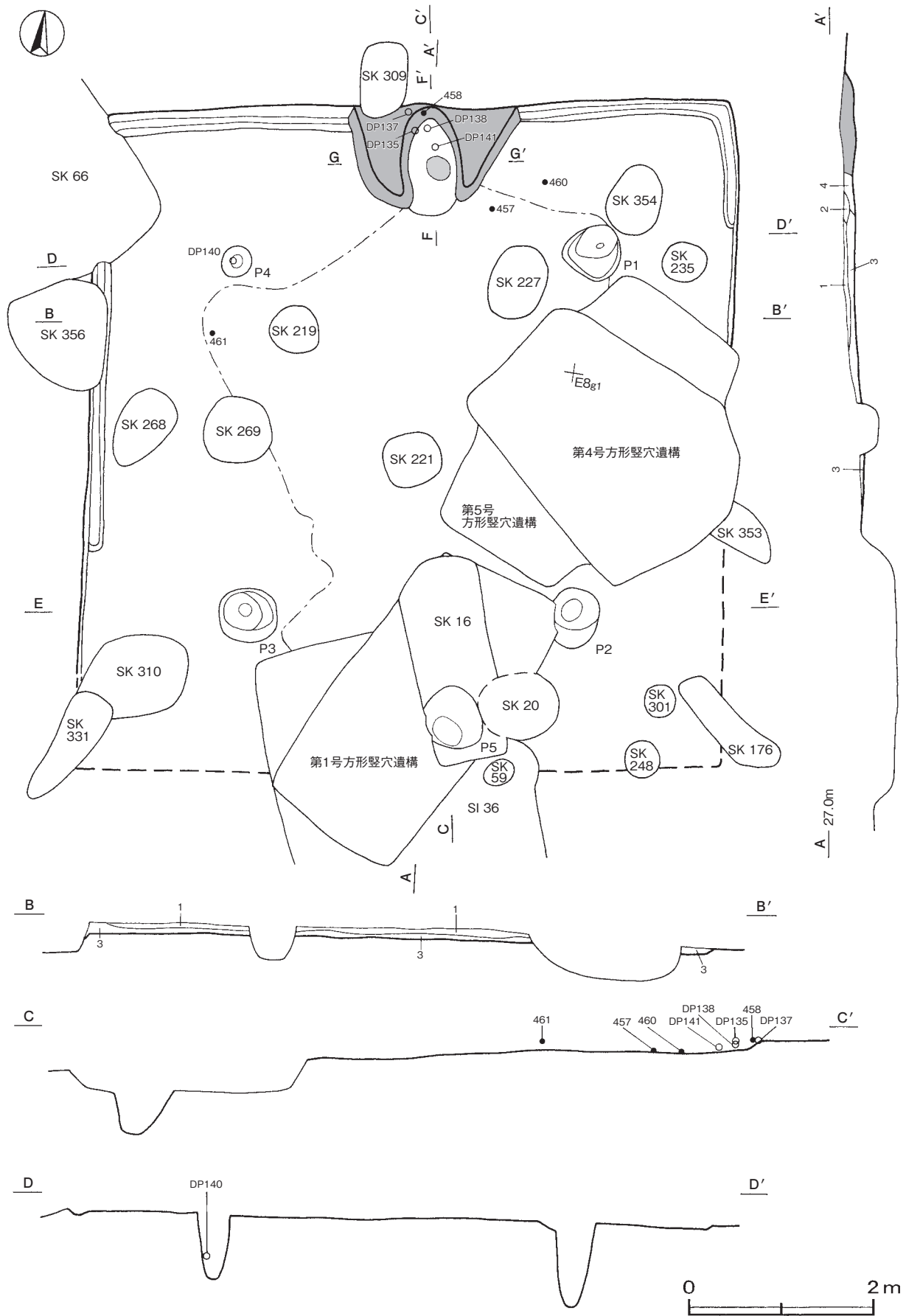
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16~28cm、深さ3cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

竈 北壁中央に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm、燃焼部幅52cmである。袖部は粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に4cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

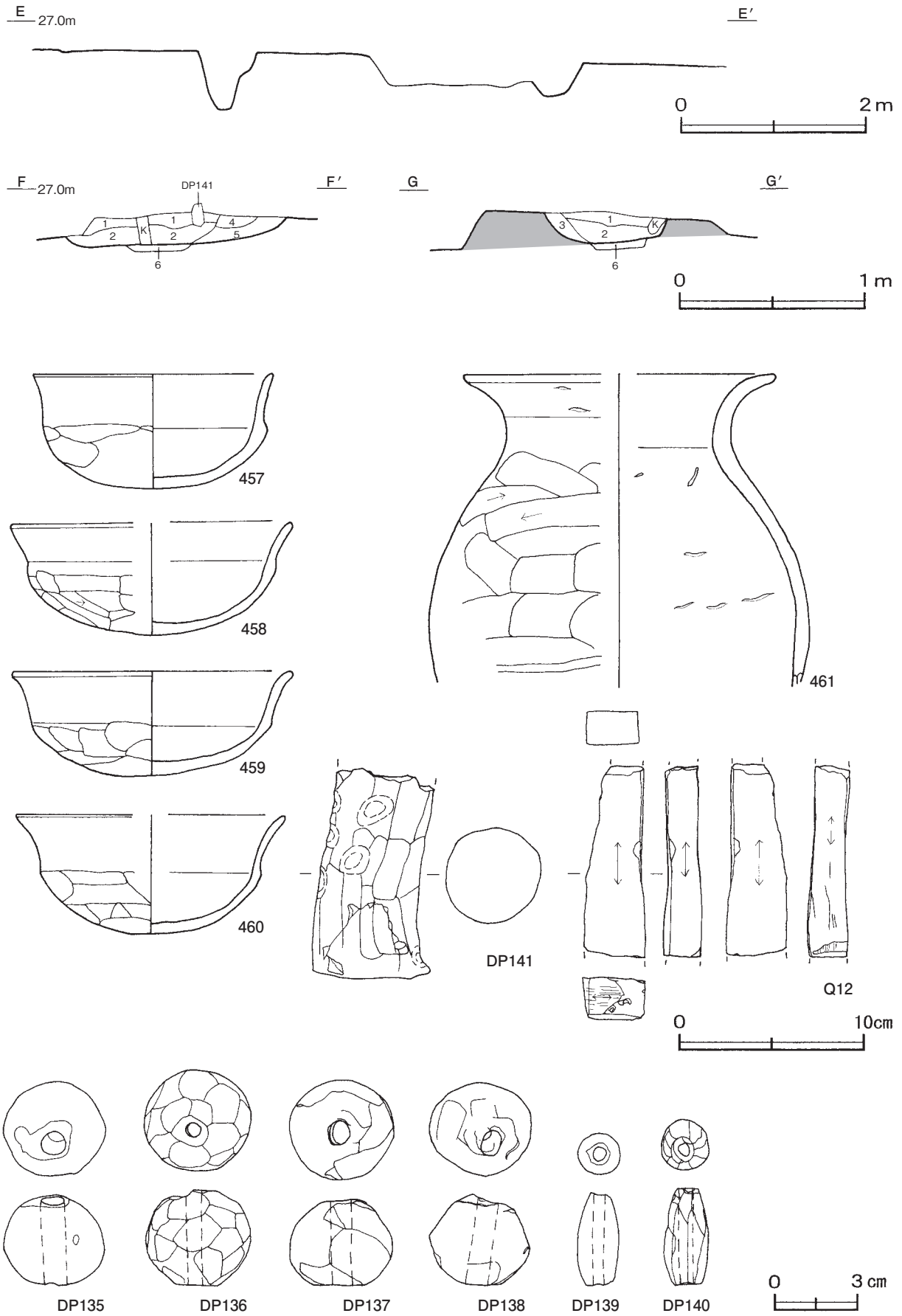
竈土層解説

1 褐赤色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック少量	5 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック微量	6 明赤褐色	焼土ブロック中量

ピット 5か所。P1~P4は深さ35~90cmで、支柱穴である。P5は深さ80cmで、南壁推定線中央部付近に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第39図 第50号住居跡実測図



第40図 第50号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分けられるが、覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片100点（坏類65，甕類35），須恵器片2点（蓋1，甕類1），土製品7点（球状土錘4，管状土錘2，支脚1），石器1点（砥石）が出土している。457・460は北東部の覆土下層，DP140はP4内の覆土中層，DP137は竈左袖部脇，458・DP135・DP141は竈内の覆土上層，DP138は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 竈内から出土している支脚は火床面から離れた状態であるため，元の位置をとどめていないと考えられる。時期は，出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。

第50号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師器	坏	13.0	6.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	90% PL36
458	土師器	坏	[15.0]	6.0	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	60%
459	土師器	坏	15.0	5.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	50% PL36
460	土師器	坏	[14.6]	6.3	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	50% PL36
461	土師器	甕	[16.8]	(16.8)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層	20%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP135	球状土錘	3.7	3.2	0.9	38.3	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	竈内上層	
DP136	球状土錘	3.8	3.5	0.6	45.2	粘土	外面削り 一方向からの穿孔	覆土中	
DP137	球状土錘	3.7	3.1	0.7	39.9	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP138	球状土錘	3.6	3.3	0.8	34.3	粘土	外面ヘラナデ 一方向からの穿孔	竈内中層	

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP139	管状土錘	1.5	3.4	0.4	6.6	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL47
DP140	管状土錘	1.7	3.6	0.4	8.8	粘土	外面ナデ 一方向からの穿孔	P4内中層	PL47

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP141	支脚	(10.2)	(5.3)	6.2	(403.7)	粘土	外面ヘラナデ 指頭痕 上端部欠損	竈内上層	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	砥石	(10.3)	3.3	1.8	(110.5)	凝灰岩	砥面5面 両端欠損	覆土中	PL47

第54号住居跡（第41・42図）

位置 調査I区中央部のE8il区，標高26.4mの台地上に位置している。

重複関係 第42・51号住居，第17号掘立柱建物，第63号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 中央部から西側の大部分が第42・51号住居によって掘り込まれているため，南北軸が5.96mで，東西軸は2.48mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され，主軸方向はN-26°-Wである。壁高は6～12cmで，壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅14～20cm、深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ60cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 2層に分けられるが、覆土が薄く堆積状況は不明である。また、覆土中に炭化材の含有率が高い

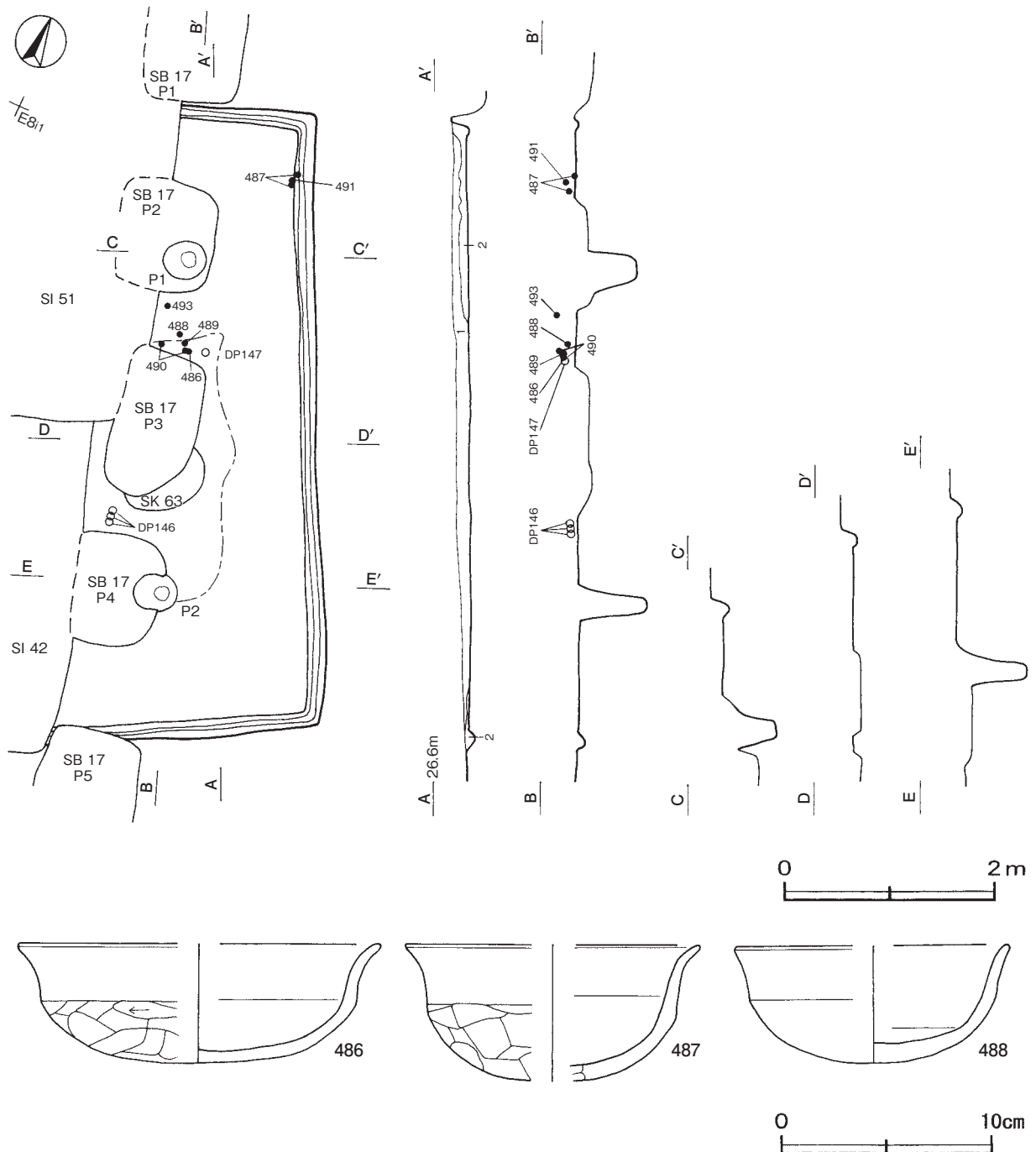
土層解説

1 暗赤褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量

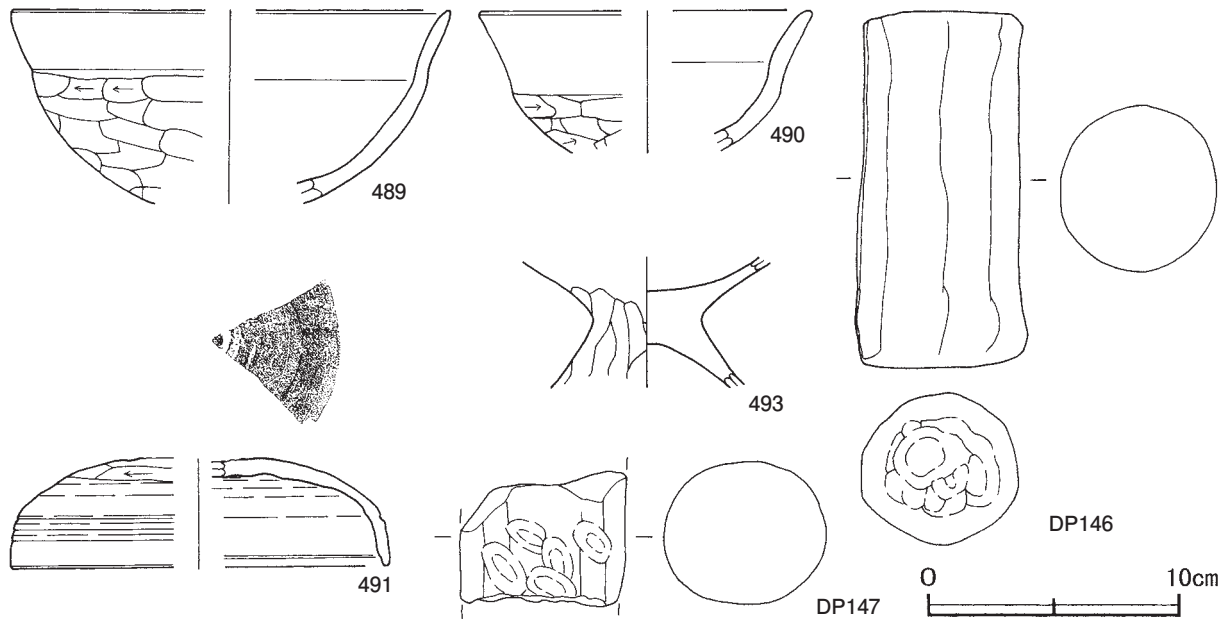
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片246点（坏類186、高坏1、甕類59）、須恵器片2点（坏類、蓋）、土製品2点（支脚）が出土している。487は北東コーナー部の覆土中層から床面にかけて出土している。

所見 堆積覆土の炭化材の含有率から焼失住居の可能性が考えられる。時期は、出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる。



第41図 第54号住居跡・出土遺物実測図



第42図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表 (第41・42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
486	土師器	坏	[17.0]	5.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	30%
487	土師器	坏	[14.0]	6.4	-	長石・石英・赤色粒子・小礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層～床面	30%
488	土師器	坏	[12.8]	5.5	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	内・外面磨耗	中層	20%
489	土師器	坏	[17.4]	(7.6)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	20%
490	土師器	坏	[13.0]	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	上層～中層	20%
491	須恵器	蓋	[14.8]	(4.3)	-	長石・小礫	黄灰	普通	天井部ヘラ削り 天井肩部と口縁端部内面に1条の平行沈線	中層	10%
493	土師器	高坏	-	(5.1)	-	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り	上層	10%

番号	種別	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP146	支脚	14.0	6.2	6.7	(794.1)	粘土	外面ヘラナデ 下端部指頭痕 一部欠損	中層	
DP147	支脚	(5.4)	(6.3)	(6.6)	(209.5)	粘土	外面ヘラ削り 指頭痕 両端欠損	中層	

第56号住居跡 (第43図)

位置 調査I区北東部のE 8 f4区、標高26.3mの台地上に位置している。

規模と形状 北側が調査区域外に延びているため、東西軸が4.62mで、南北軸は4.16mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は52～64cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。また、調査区域外に延びる北側を除く壁下には幅22～34cm、深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。ほかに、床面から多量の炭化材が出土している。

ピット 3か所。P1・P2は深さ58cmで、支柱穴と考えられる。P3は深さ22cmで、南壁中央部に位置していることや、硬化面の広がり方などから、出入り口施設に伴うピットである。

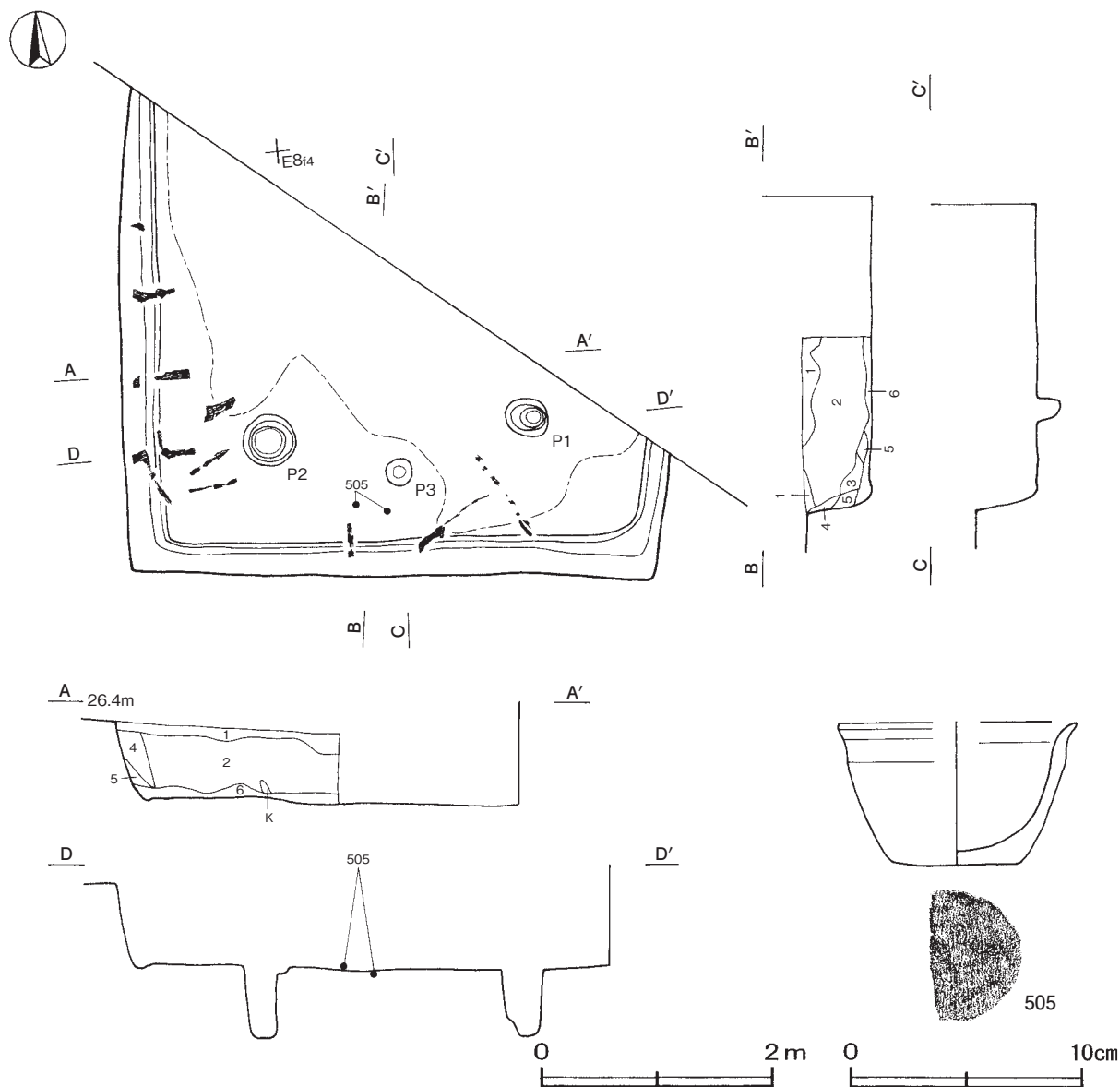
覆土 6層に分けられる。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物、粘土ブロックなどが多く混入していることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化材・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量 | 6 黒褐色 | 炭化材中量, ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片126点（坏類17, 埴1, 甕類107, 甗1）, 須恵器片6点（坏類）が出土しているが, 細片が多い。505は南部中央の覆土下層から検出した炭化材の中から出土している。

所見 堆積覆土の炭化材の含有率や, 床面からの炭化材の出土状況などから焼失住居と考えられる。時期は, 出土土器から古墳時代と考えられる。



第43図 第56号住居跡・出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
505	土師器	碗	[10.3]	6.2	5.5	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	内・外面磨耗	下層	40% PL38

第57号住居跡（第44図）

位置 調査Ⅰ区南西部のF7d9区、標高25.8mの台地上に位置している。

重複関係 第47号住居、第100号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北側が第47号住居に掘り込まれ、南西側も削平されているため、東西軸が3.32m、南北軸が3.30mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は2cmで、壁は直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16～24cm、深さ4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。

ピット 深さ7cmで、南壁推定線中央部付近に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

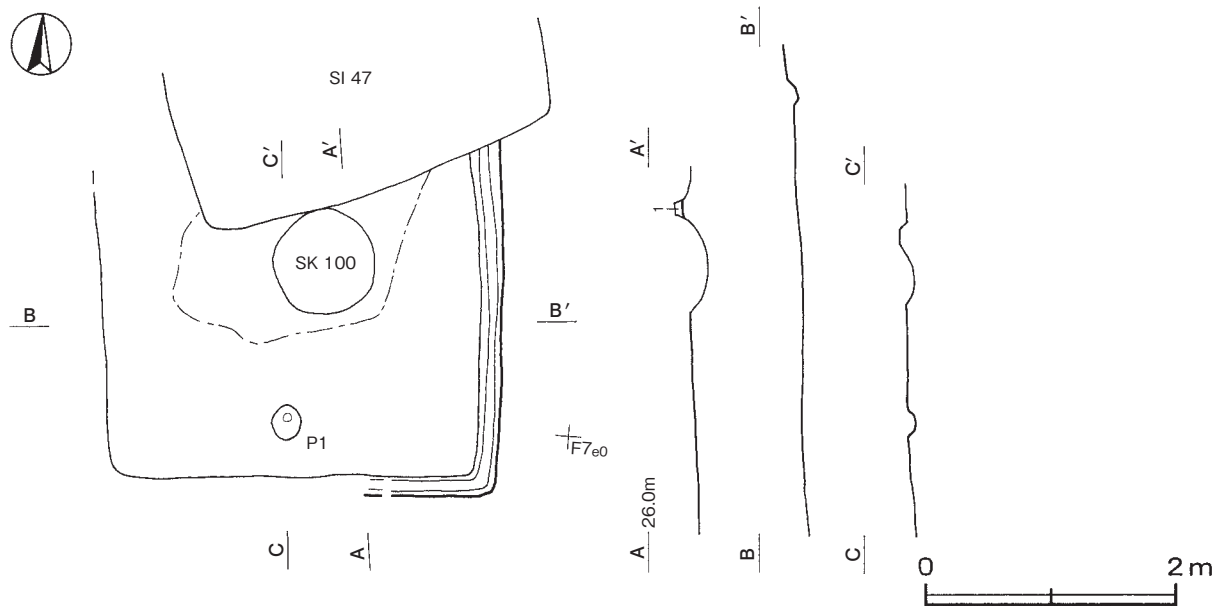
覆土 単一層であり、覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点（坏類12, 甕類1）、須恵器片2点（坏類, 瓶）が出土している。住居の覆土も薄く、遺物は覆土中からの出土で全て細片であり、図示できない。

所見 時期は、細片の出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第44図 第57号住居跡実測図

第60号住居跡（第45図）

位置 調査Ⅰ区南東部のF8d5区、標高26.2mの台地上に位置している。

重複関係 第17・49・55号住居、第74号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.62m、短軸3.44mの方形で、主軸方向はN-46°-Eである。壁高は6～10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 深さ12cmで、規模や配置から機能・性格を推測することはできない。

覆土 2層に分けられるが、覆土が薄く堆積状況は不明である。

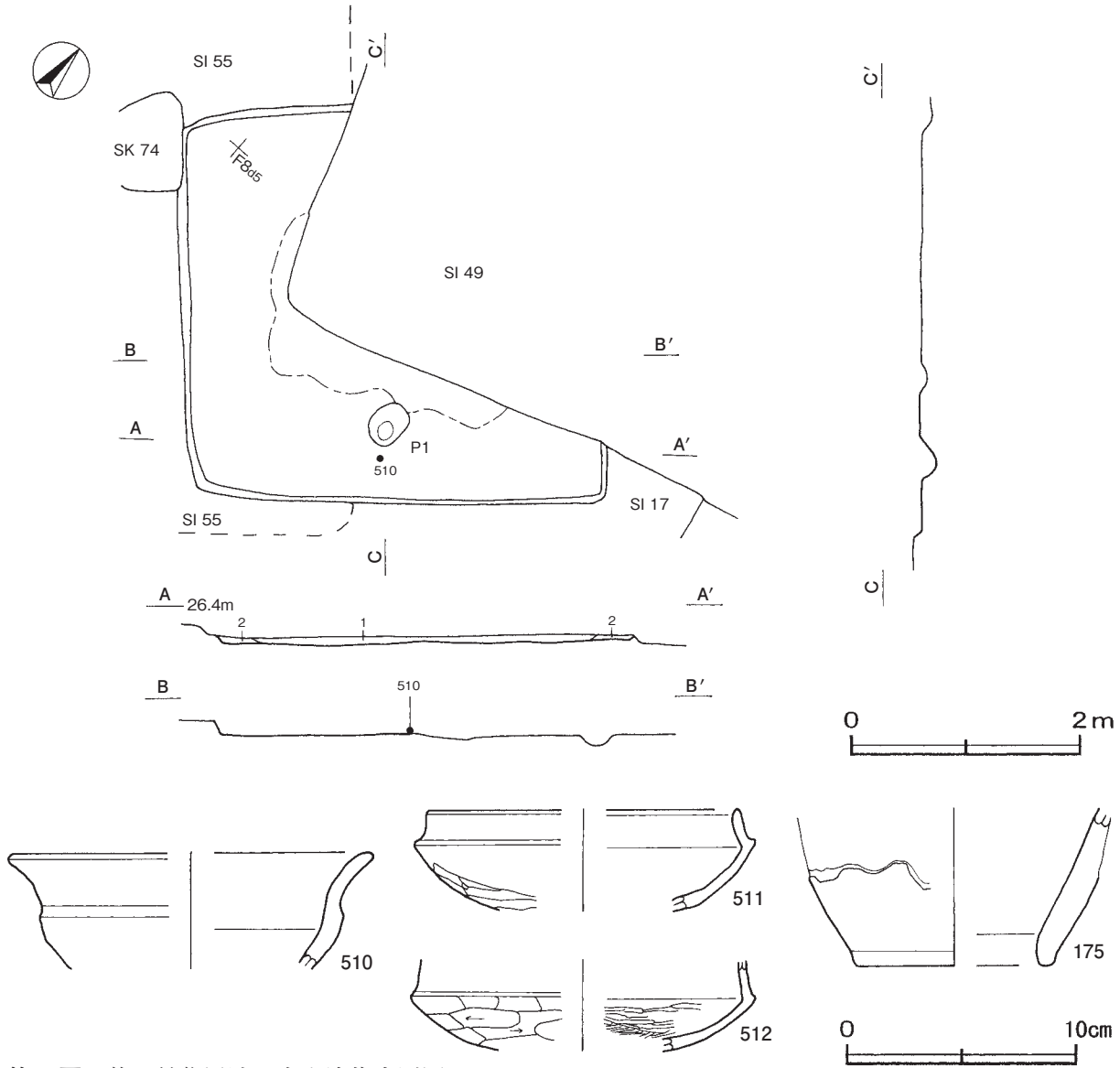
土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片44点(坏類23, 甕類21)が出土している。510はP1付近の床面直上から, 511・512は東コーナー部の覆土下層, 175は南部の覆土上層から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第45図 第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
510	土師器	坏	[15.5]	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面磨耗	床面直上	10%
511	土師器	坏	[13.4]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	10%
512	土師器	坏	-	(3.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	10%
175	土師器	甕	-	(6.8)	8.4	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面剥離・磨耗 底部単孔式	上層~下層	20%

表2 住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
13	F 8 h6	N-5°-W	[長方形]	(7.60)×6.66	12~18	平坦	一部	4	-	-	竈1	-	人為	土師器, 土製品, 鉄滓	7世紀前葉	SI22→本跡→SI 2
16	F 8 f4	N-20°-W	方形	7.60×7.30	3~28	平坦	一部	4	2	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	7世紀前葉	本跡→SI 6・7, SB 1, SK 5・135・390
18	F 8 e7	N-9°-E	方形	6.00×5.74	6~12	平坦	一部	3	-	-	竈1	-	自然	土師器, 土製品, 不明鉄製品, 種別不明種子	6世紀後葉	本跡→SI 5・24・26・45
22	F 8 h7	N-32°-W	[方形長方形]	2.10×(1.60)	15~20	平坦	一部	-	-	7	竈1	-	不明	土師器, 土製品	6世紀代	本跡→SI 2・13
36	E 7 h0	N-66°-E	長方形	3.12×2.68	8~12	平坦	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器	6世紀後葉	SI50→本跡→第1号方形竈穴遺構, SK16・20・59
37	E 7 e6	N-10°-W	方形	3.96×(3.85)	0	平坦	一部	4	-	-	竈1	-	-	土師器, 須恵器	7世紀前葉	本跡→SK15
38	E 7 g5	N-30°-W	[方形長方形]	(7.46)×(6.52)	6~8	平坦	-	3	1	-	-	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品	7世紀前葉	本跡→SK23・24・29~31, SD12
39	E 7 a8	N-25°-E	[方形長方形]	4.72×(4.24)	4	凸凹	-	-	-	-	竈1	-	不明	土師器	6世紀後葉	本跡→第2号方形竈穴遺構, SK26・35・36・45~49・51・53
40	F 7 f0	N-12°-W	[方形]	(4.58)×(4.56)	14	平坦	-	3	1	-	竈1	-	不明	土師器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SB14, SK106~108・110
43	F 8 e1	N-16°-W	[方形長方形]	(4.10)×(4.00)	10	(平坦)	一部	[1]	-	-	竈1	-	不明	土師器	6世紀後葉	本跡→SI 8・15・31, SK102・103
46	E 7 j6	N-23°-W	方形	6.04×5.86	46	平坦	全周	3	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 鉄滓	6世紀後葉	HG1→本跡→SI44, SB 3, SK28・371
48	F 8 b4	N-18°-W	長方形	3.88×3.33	8~14	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀後葉	本跡→SI49, SK365
49	F 8 c5	N-17°-W	方形	5.65×5.52	10~14	平坦	全周	4	1	-	竈1	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	7世紀前葉	SI48・60→本跡→SI17・55, SB 6, SK81・87・283・285・290
50	E 7 g0	N-9°-W	[方形]	(7.20)×6.96	6	平坦	一部	4	[1]	-	竈1	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品, 石器	6世紀前葉	本跡→SK6 第1・4・5号方形竈穴遺構, SK16・20・39・66・176・210・221・227・235・283・285・289・300・309・310・331・333・354・356
54	E 8 i1	N-26°-W	[方形長方形]	5.96×(2.48)	6~12	平坦	一部	[2]	-	-	-	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品	6世紀前葉	本跡→SI42・51, SB17, SK63
56	E 8 f4	N-8°-E	[方形長方形]	4.62×(4.16)	52~64	平坦	[全周]	[2]	1	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	古墳時代	
57	F 7 d9	N-4°-W	[方形長方形]	(3.32)×(3.30)	2	平坦	一部	-	[1]	-	-	-	不明	土師器, 須恵器	7世紀前葉	本跡→SI47, SK100, 段切状遺構
60	F 8 d5	N-46°-E	方形	3.62×3.44	6~10	平坦	-	-	-	1	-	-	不明	土師器	6世紀後葉	本跡→SI17・49・55, SK74

(2) 土坑

第28号土坑 (第46図)

位置 調査I区北西部のE 7 j5区, 標高26.1mの台地に位置している。

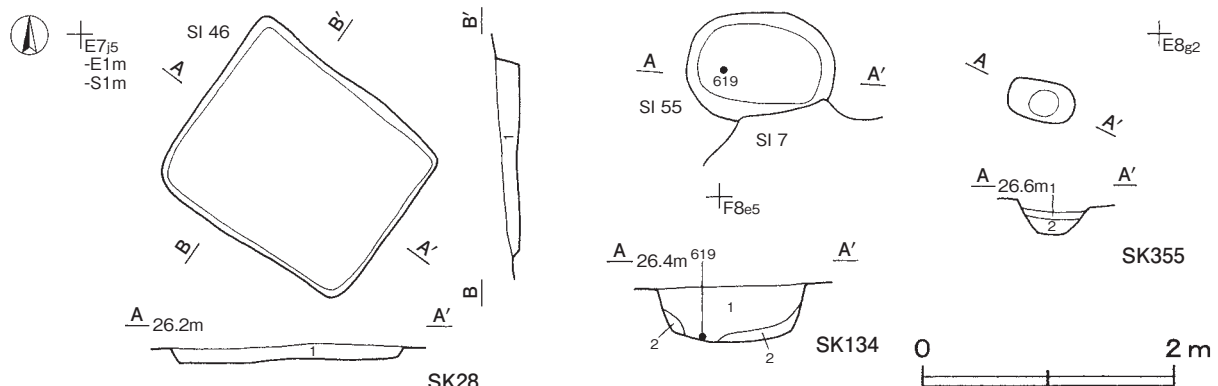
重複関係 第46号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.82m, 短軸1.56mの長方形で, 長軸方向はN-28°-Wである。深さは8~18cmで, 底面は平坦であり, 壁は直立している。

覆土 単一層であり, 粒子が細かい自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

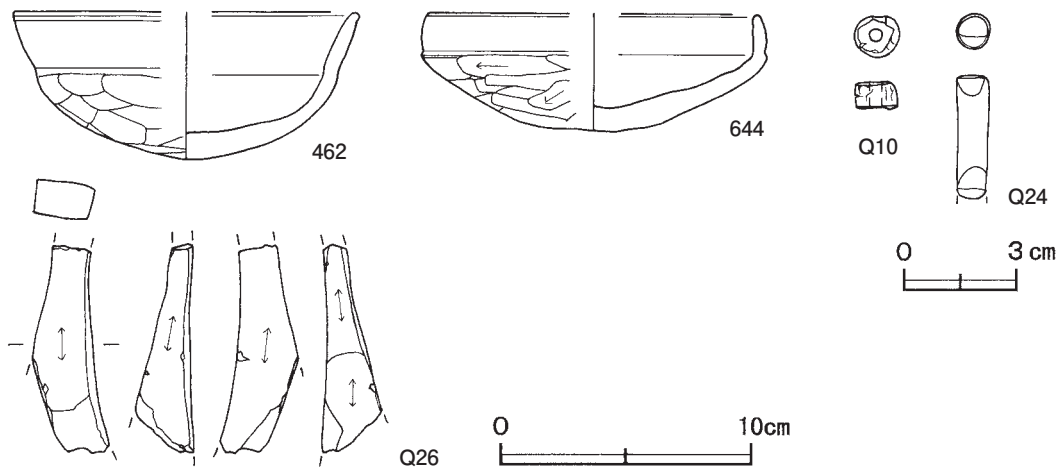


第46図 第28・134・355号土坑実測図

遺構 番号	位 置	長軸・長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長軸・長径×短軸・短径(m)	深さ (cm)						
134	F 8 d5	N-90°-W	楕円形	1.22 × 0.89	37	平坦	外傾	人為	土師器	6世紀前半	本跡→SI 7・55
355	E 8 g1	N-73°-W	楕円形	0.54 × 0.32	26	皿状	緩斜	自然	土師器	古墳時代	

(3) 遺構外出土遺物 (第48図)

今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない古墳時代の遺物が出土している。ここでは実測図及び遺物観察表で掲示する。



第48図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
644	土師器	坏	[13.0]	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り 口縁部下端に1条の平行沈線	SK371 覆土中	40% PL44
462	土師器	坏	[13.7]	5.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ヘラ削り	SI51 覆土中	45%

番号	種別	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 10	白玉	1.1	0.7	0.4	1.0	滑石	側面は円筒形 一方向からの穿孔	SI42 覆土中	
Q 24	不明石製品	0.9	(3.2)	-	4.0	滑石	未穿孔	SM1 覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 26	砥石	(8.3)	3.1	(2.4)	46.9	擬灰岩	砥面5面 両端欠損	HG1 覆土中	

4 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡42軒、掘立柱建物跡17棟、土坑16基、地点貝塚2か所、遺物包含層1か所が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

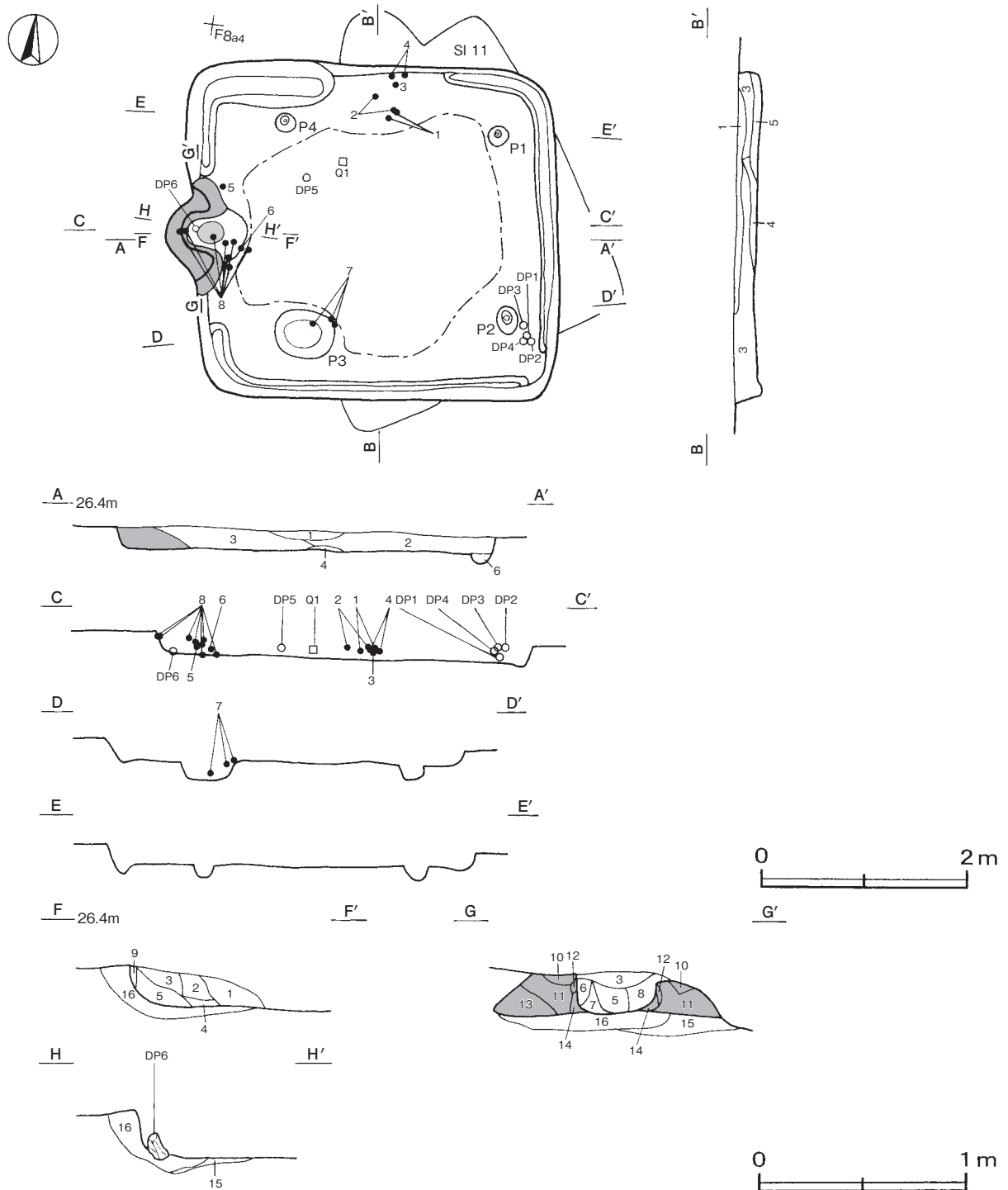
(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第49・50図)

位置 調査I区中央部のF 8 a4区, 標高26.2mの台地平坦部に位置している。

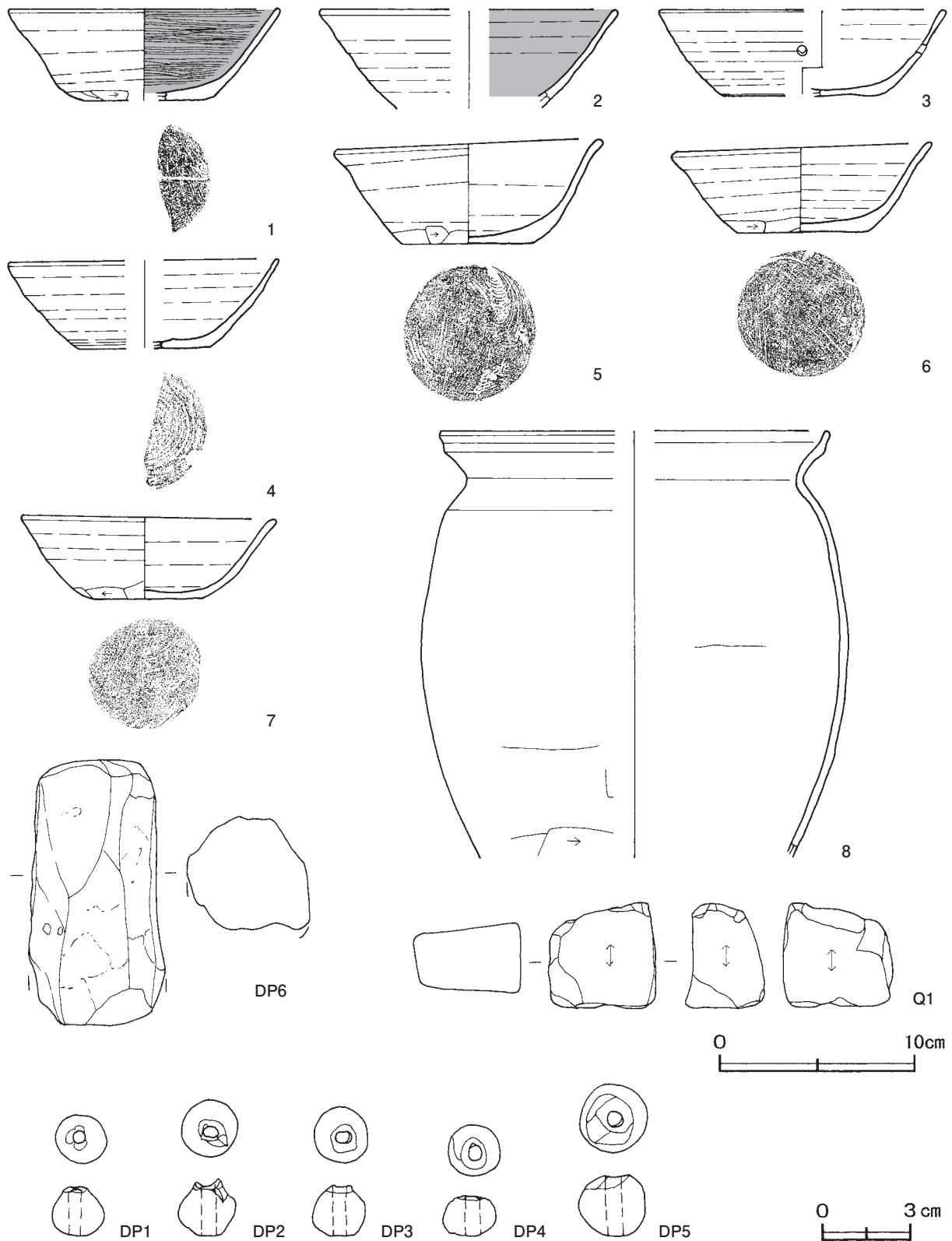
重複関係 第11号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.50m, 短軸3.22mの方形で, 主軸方向はN-97°-Wである。壁高は18~20cmで, ほぼ直立している。



第49図 第1号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北側の一部を除く壁下には幅12～36cm、深さ4～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第50図 第1号住居跡出土遺物実測図

竈 西壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで64cm、燃焼部幅31cmである。袖部は第10～14層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。また、火床部内に土製支脚が設置されている。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量
3	灰褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
5	灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	12	にぶい赤褐色	焼土粒子少量
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量	13	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
			15	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
			16	黒褐色	砂質粘土粒子微量

ピット 4か所。深さ12～20cmで、支柱穴である。

覆土 6層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	6	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量			
4	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土ブロック微量			

遺物出土状況 土師器片523点（坏類301・高台付碗8・甕類214）、須恵器片135点（坏類55・甕類78・甗2）、土製品8点（土玉類7・支脚1）、石器1点（砥石）が出土している。6は竈焚口部から正位の状態、8は竈焚口から煙道部、7はP3覆土からそれぞれ出土している。また、DP1～4は南東コーナー部の覆土下層からまとめて出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.8	4.7	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	70% PL48
2	土師器	坏	[15.2]	(5.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通		下層	20%
3	土師器	坏	[14.4]	4.4	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り 体部に穿孔あり	下層	30%
4	土師器	坏	[13.8]	4.4	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	下層	40%
5	須恵器	坏	13.6	5.3	6.8	長石・石英・針状鉱物	黄褐	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	下層	90% PL48 稲敷A
6	須恵器	坏	13.0	4.6	6.6	長石・石英・針状鉱物	灰黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	竈焚口部	90% PL48 稲敷A
7	須恵器	坏	12.8	4.3	5.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P3内上層～下層	60% PL48 稲敷A
8	土師器	甕	[19.8]	(21.7)	-	長石・石英・白雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈焚口部～煙道部	30%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	土玉	1.8	1.6	0.4	5.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60
DP2	土玉	1.9	1.8	0.5	5.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60
DP3	土玉	1.8	1.7	0.5	5.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60
DP4	土玉	1.8	1.3	0.5	4.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60
DP5	球状土錘	2.3	2.1	0.5	12.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	支脚	(13.5)	(7.0)	5.6	(481.5)	粘土	ヘラ削り	竈火床部	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	5.3	5.6	4.1	157.1	凝灰岩	砥面3面	中層	PL63

第2号住居跡（第51～53図）

位置 調査I区東部のF 8 h6区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13・22号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸7.68m、短軸6.64mの長方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は16cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで128cm、燃焼部幅75cmである。袖部は第11～14層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量	13 灰褐色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	14 灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 黒褐色	焼土粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量	18 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
7 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	19 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量	20 にぶい黄褐色	ローム粒子少量
9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	21 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
10 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量	22 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
11 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
12 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ70～86cmで、主柱穴である。P 5は深さ24cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

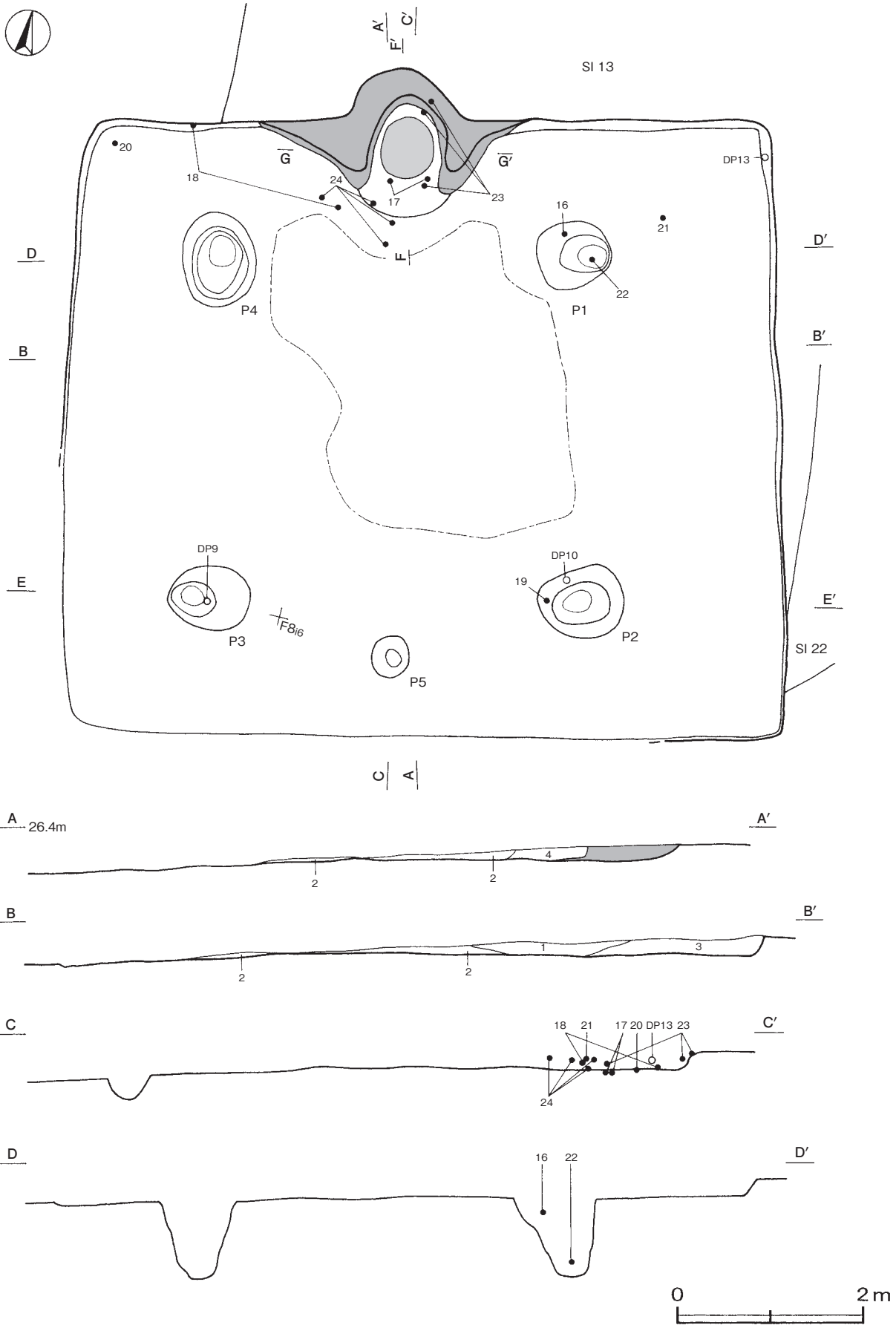
覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

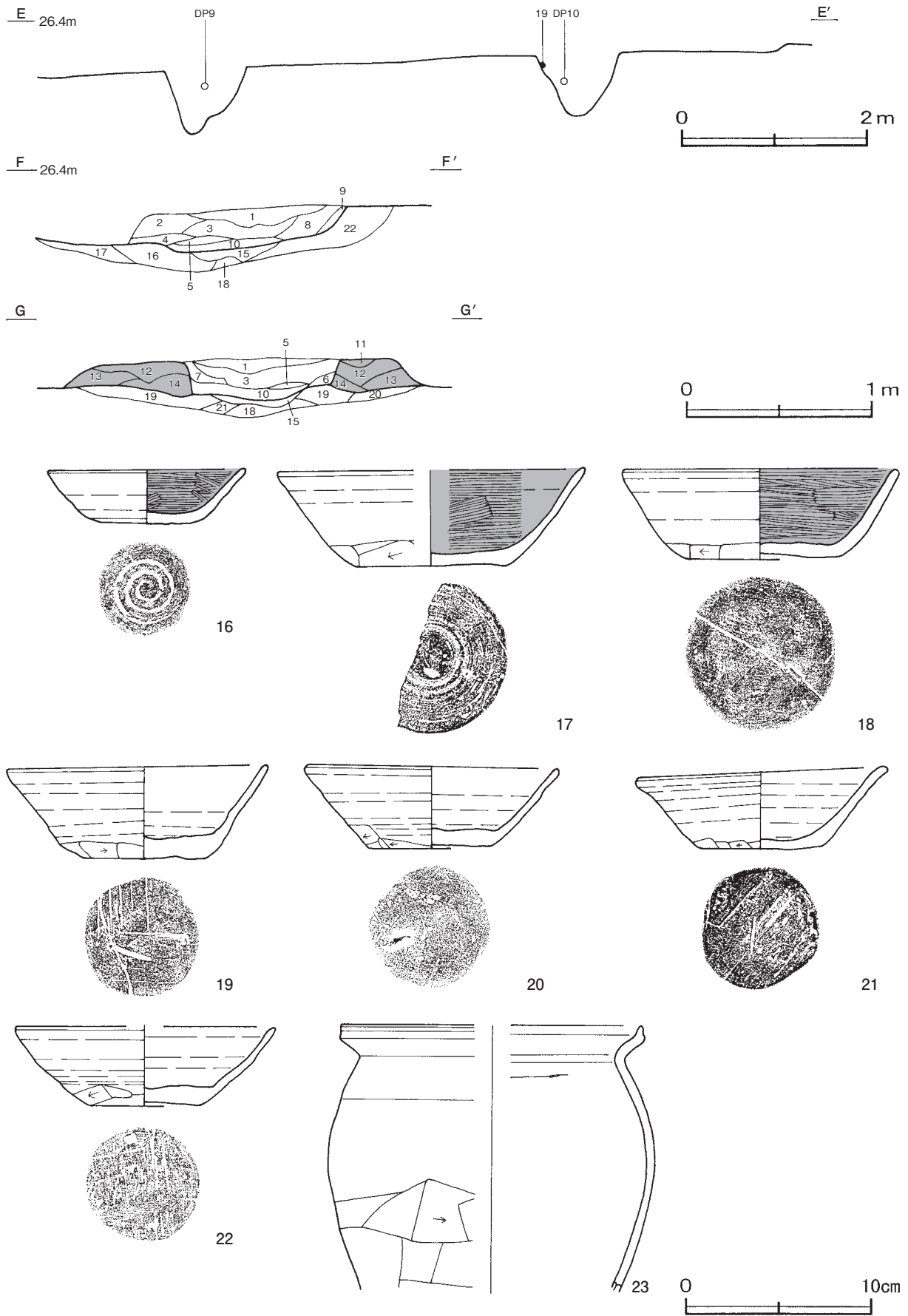
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片507点（坏類94・高台付椀3・甕類410）、須恵器片313点（坏類150・高台付坏1・高盤1・蓋39・瓶類4・甕類110・甌8）、土製品10点（球状土錘6・管状土錘1・支脚片3）が出土している。17は竈焚口部、23は竈焚口から煙道部、24は竈焚口部と竈手前の下層、16はP 1覆土内から逆位の状態、22はP 1覆土内、19・DP10はP 2覆土内、DP9はP 3覆土内からそれぞれ出土している。また、20は北西コーナー部の床面直上から正位の状態出土している。18は北壁際の床面と竈袖部左側の覆土下層から散らばって出土している。

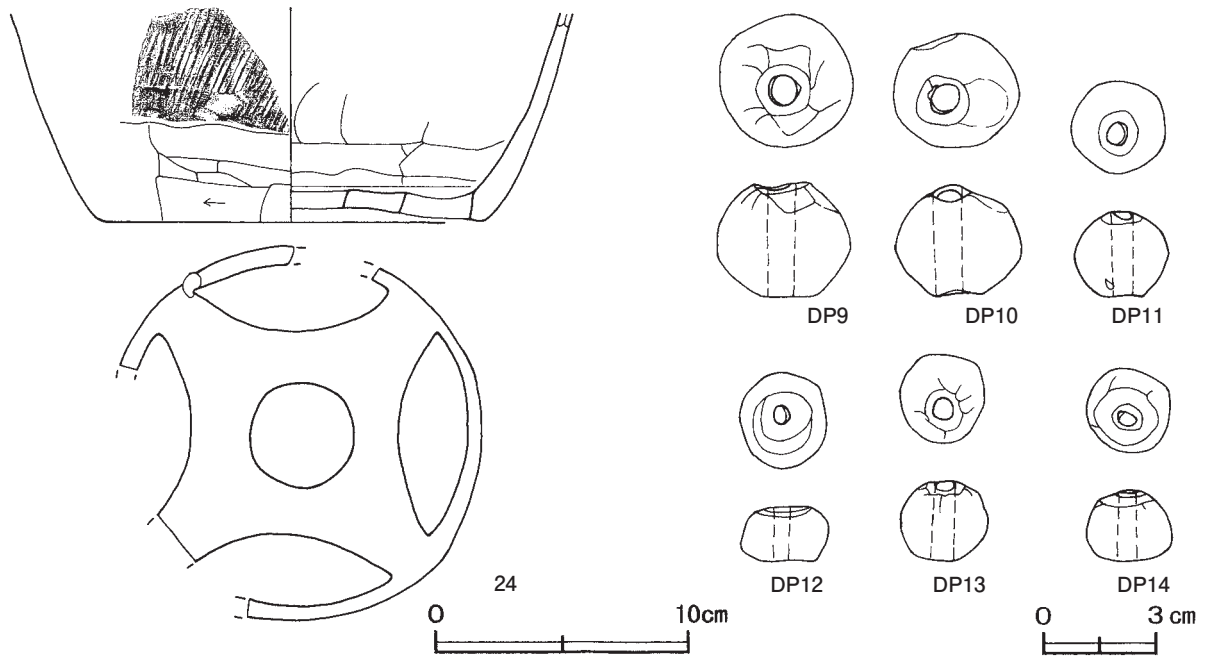
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第51图 第2号住居跡実測图



第52図 第2号住居跡・出土遺物実測図



第53図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表 (第52・53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
16	土師器	坏	10.6	2.9	4.8	長石・石英・白雲母・赤色粒子	橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	P 1 内上層	80% PL48
17	土師器	坏	[16.6]	5.1	8.4	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	竈焚口部	40%
18	土師器	坏	14.6	4.8	8.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	下層～床面直上	80% PL48
19	須恵器	坏	14.0	5.0	6.4	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤褐	普通 二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P 2 内上層	90% PL48 稲敷A 底部外面ヘラ書き「一」
20	須恵器	坏	13.6	4.5	6.6	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	80% PL48 稲敷A
21	須恵器	坏	13.2	4.5	6.4	長石・石英・白雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	内下層	60% PL48 新治A
22	須恵器	坏	[14.0]	4.2	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	P 1 内下層	50% 稲敷A 底部外面ヘラ書き「一」
23	土師器	甕	[16.0]	(14.2)	-	長石・石英・白雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈焚口部～煙道部	20%
24	須恵器	甕	-	(8.3)	15.2	長石・石英・白雲母	灰	良好	5孔式底部 体部外面縦位の平行叩き、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈焚口部・下層	20% 新治A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 9	球状土錘	3.5	3.0	0.7	37.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	P 3 内上層	PL60
DP10	球状土錘	3.3	2.9	0.7	24.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	P 2 内中層	PL60
DP11	球状土錘	2.5	2.3	0.5	12.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP12	球状土錘	2.3	1.5	0.4	9.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP13	球状土錘	2.3	2.2	0.6	10.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60
DP14	球状土錘	2.3	1.8	0.5	9.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60

第3号住居跡 (第54・55図)

位置 調査I区中央部のE 8 i4区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号掘立柱建物跡を掘り込み、第152・154号土坑に掘り込まれている。また、第2号地点貝塚が第1層上面に堆積している。

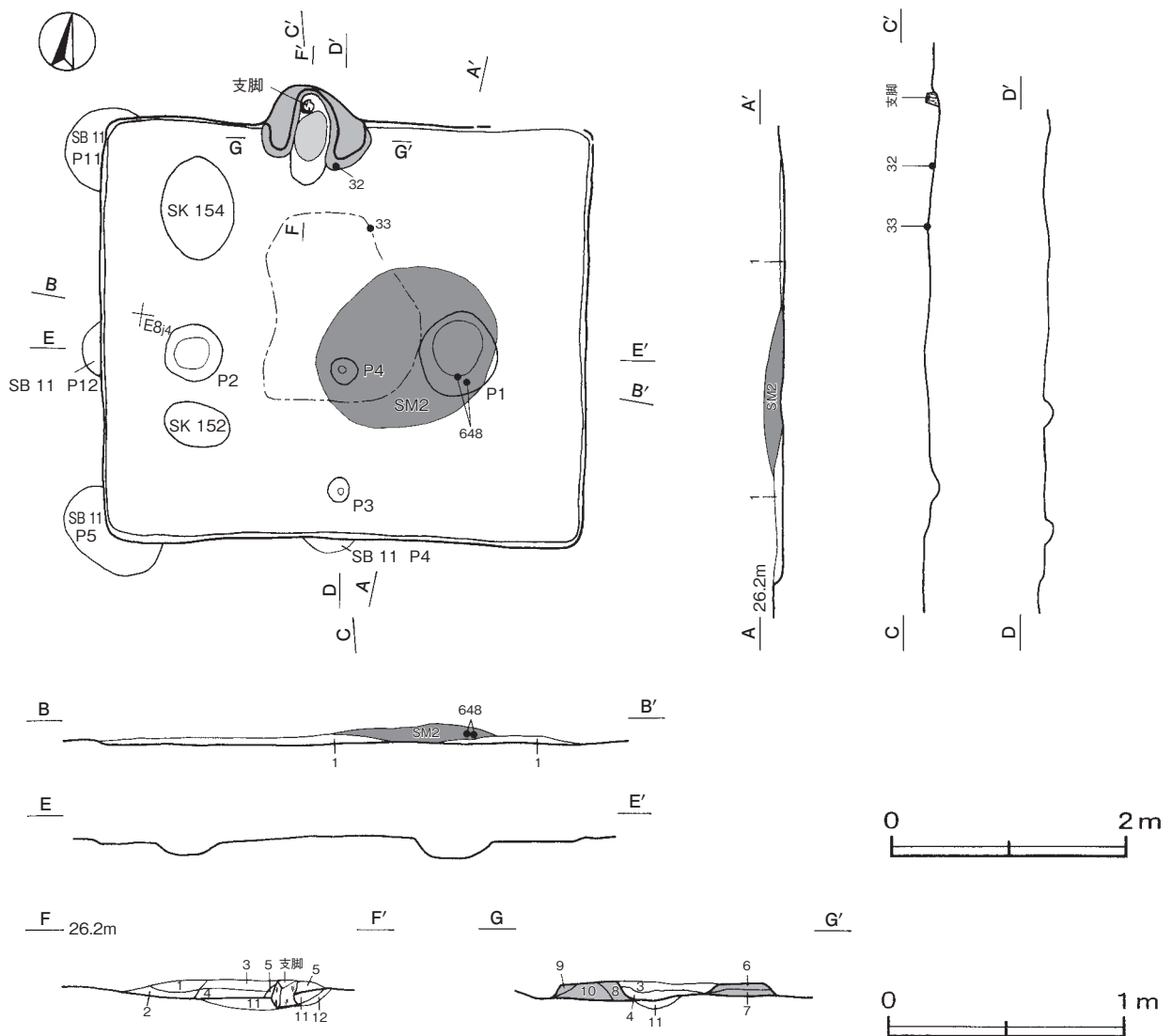
規模と形状 長軸4.10m，短軸3.52mの長方形で，主軸方向はN-9°-Wである。壁高は2～6cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで82cm，燃烧部幅35cmである。袖部は第6～10層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から12cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。また，火床部内に土製支脚が設置されている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第54図 第3号住居跡，第2号地点貝塚実測図

ピット 4か所。P1・P2は深さ12・16cmで、主柱穴である。P3は深さ10cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ10cmで、主柱穴間に位置しているが、性格は不明である。

覆土 層厚が薄く、遺存するのが1層だけであるため、堆積状況は不明である。

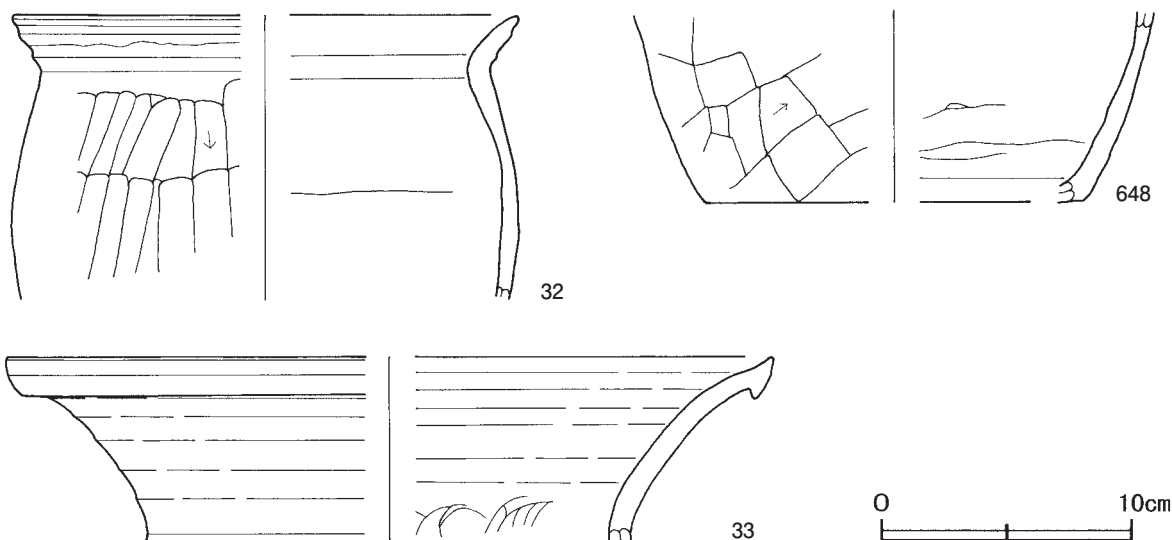
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

第2号地点貝塚 東部の覆土第1層の上面に長径1.56m、短径1.34mの楕円形の範囲で貝塚が確認された。貝層は混土貝層の単一層で、厚さは14cmである。出土した貝は、ヤマトシジミ18993点（右殻9612、左殻9381）、ハマグリ1点、モノアラガイ2点である。これらの貝殻は、住居の廃絶後、時間があまり経たないうちに、一括投棄されたものである。

遺物出土状況 土師器片101点（坏類26・甕類75）、須恵器片20点（坏類11・高台付坏2・蓋2・甕類5）、土製品1点（支脚）が出土している。32は竈袖部右側、33は竈焚口部前側の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第55図 第3号住居跡，第2号地点貝塚出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
32	土師器	甕	[20.0]	(11.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	20%
33	須恵器	甕	[30.6]	(7.3)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	頸部内面当具痕	床面直上	10% 木葉下

第2号地点貝塚出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
648	須恵器	甕	-	(7.6)	[15.0]	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	混土貝層中	10% 稲敷A

第4号住居跡（第56図）

位置 調査I区東部のF8c8区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込み、第1・79・80号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東側が調査区域外に延び、壁が削平されているが、遺物及び床の広がりから推測した規模は、一辺4.0mである。主軸方向がN-14°-Wの方形と推測される。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

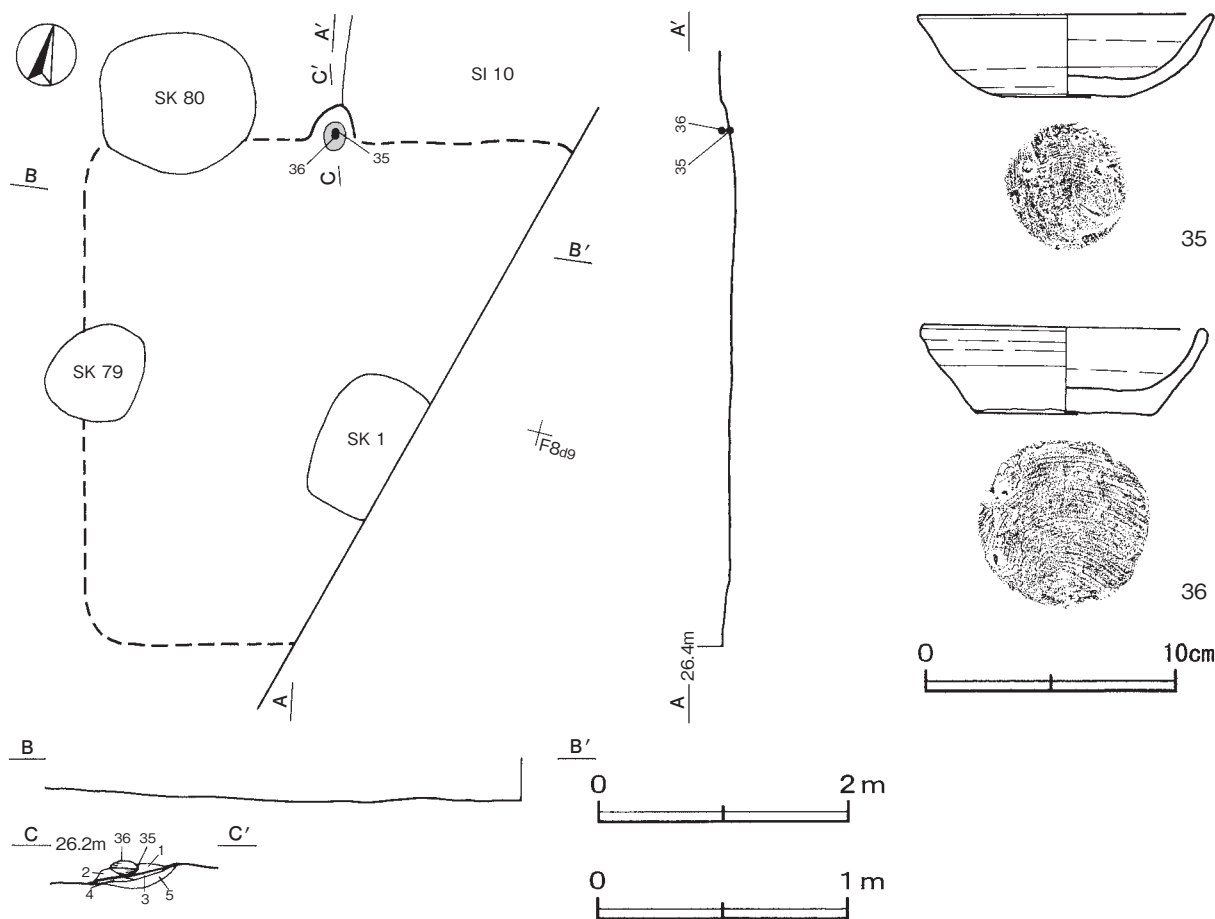
竈 北壁中央部に付設されているが、袖部は削平されている。確認できた規模は火床部から煙道部まで38cmで、確認できた燃焼部幅は38cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片23点（坏類12・高台付椀6・甕類5）、須恵器片3点（甕類）が出土している。35・36は35が下、36が上の合わせ口の状態で竈火床面から出土している。これは住居の廃棄時に、竈祭祀のために35と36を合わせ口にして火床部内に納入したものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第56図 第4号住居跡・出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第56図）

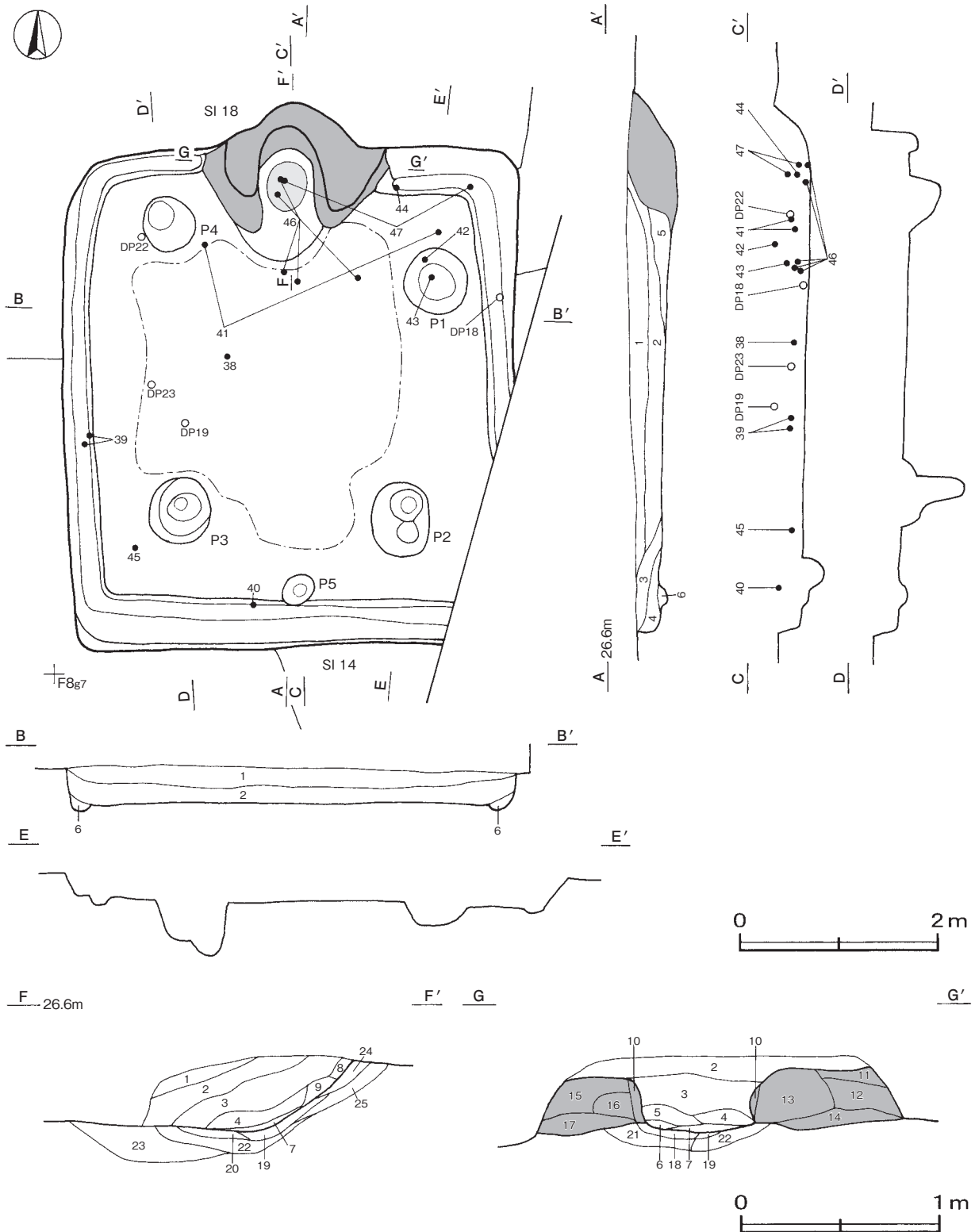
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	土師器	坏	11.6	3.4	5.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	竈火床部	100% PL50
36	土師器	坏	11.2	3.5	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	竈火床部	90% PL51

第5号住居跡 (第57・58図)

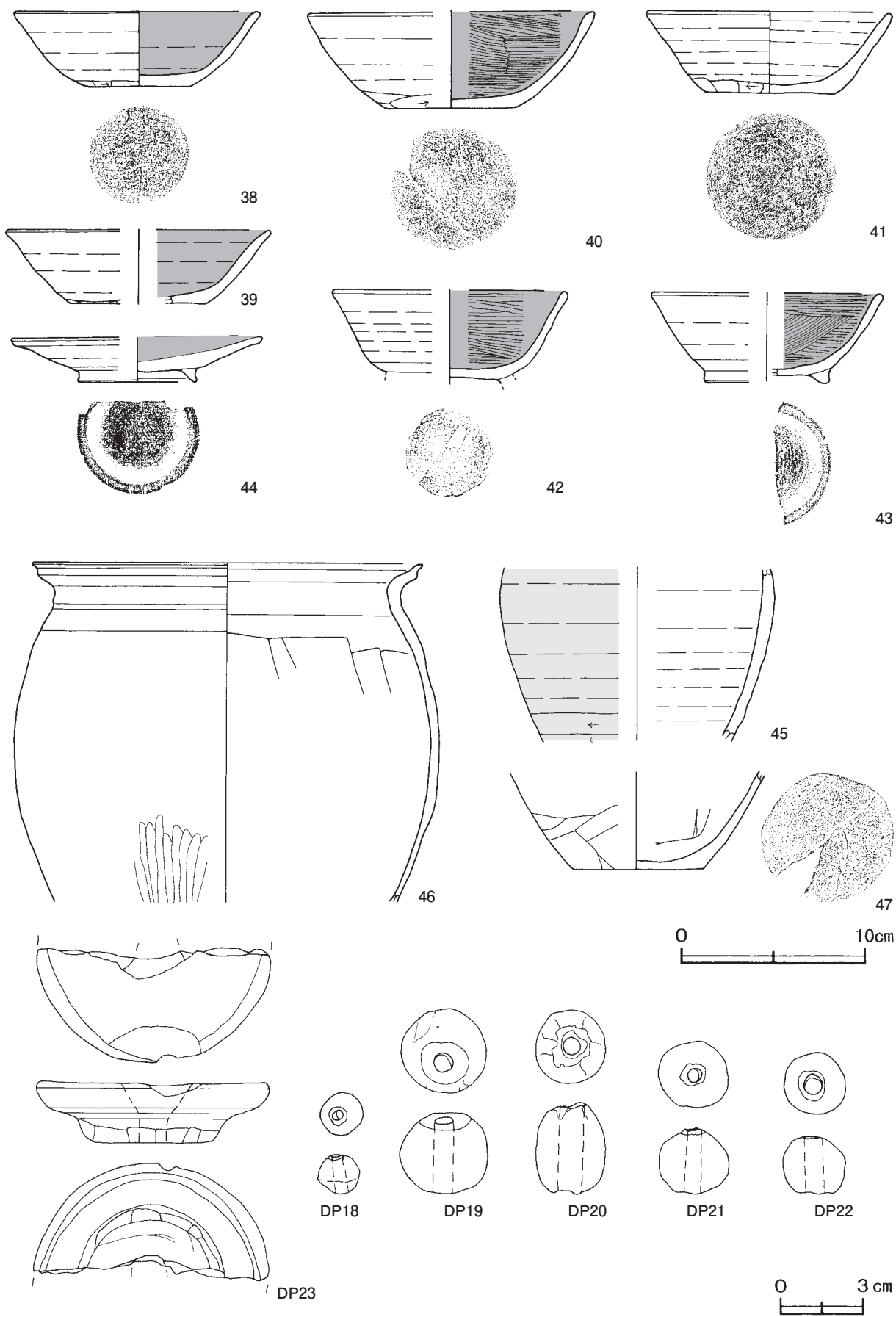
位置 調査I区東部のF8f7区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14・18号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.04m、短軸4.54mの長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は22~32cmで、ほぼ直立している。



第57図 第5号住居跡実測図



第58图 第5号住居跡出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅18～24cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っているが、南壁下の壁溝は、壁から22～26cm内側を巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで138cm、燃焼部幅55cmである。袖部は第10～17層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に26cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐 色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	16	灰 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量
3	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	18	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	19	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	20	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物微量	21	暗 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
8	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	22	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
9	灰 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	23	黒 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	24	暗 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
11	灰 褐 色	焼土粒子少量	25	暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量
12	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量			
13	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量			
14	灰 褐 色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量			

ピット 5か所。P1～P4は深さ24～64cmで、支柱穴である。P5は深さ24cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5	暗 褐 色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	6	黒 褐 色	ロームブロック微量
3	黒 褐 色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量			
4	黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片1261点（坏類520・高台付椀41・皿40・高台付皿3・蓋1・鉢3・甕類653）、須恵器片288点（坏類67・高台付坏2・高台付皿1・盤2・蓋19・瓶類15・甕類172・甌10）、灰釉陶器片1点（長頸瓶）、土製品16点（土玉類6・管状土錘1・紡錘車1・支脚片6・不明2）、石器1点（砥石）、鉄製品2点（不明）が出土している。46は竈火床部と焚口部前側の覆土下層、47は竈火床部と北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、DP18は東壁際の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
38	土師器	坏	13.0	4.1	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部手持ちへら削り	下層	70% PL49
39	土師器	坏	14.0	4.0	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら削り	下層	40%
40	土師器	坏	[15.2]	5.2	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面横位のへら磨き 底部手持ちへら削り	中層	40%
41	須恵器	坏	13.2	4.5	7.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転へら削り	下層	80% PL49 稲敷A
42	土師器	高台付椀	[12.4]	(5.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のへら磨き 底部ナデ後高台貼り付け	中層	40%
43	土師器	高台付椀	[12.4]	4.8	[6.6]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のへら磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	30%
44	土師器	高台付皿	[13.4]	2.4	6.4	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のへら磨き 底部回転糸切り後高台貼り付け	下層	40%
45	灰釉陶器	長頸瓶	-	(9.4)	-	緻密	釉明赤褐胎土灰白	良好	体部下端回転へら削り	下層	40% PL49 猿投

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
46	土師器	甕	21.2	(18.3)	-	長石・石英・白雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下半縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈火床部・下層	20%
47	土師器	甕	-	(5.3)	7.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	竈火床部・中層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP18	土玉	1.5	1.4	0.5	3.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	PL62
DP19	球状土錘	3.1	2.9	0.7	24.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL62
DP20	球状土錘	2.5	3.3	0.9	21.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP21	球状土錘	2.6	2.3	0.6	15.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP22	球状土錘	2.3	2.0	0.7	10.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL62
DP23	紡錘車	[8.5]	2.2	(1.6)	(60.2)	粘土	断面2段の逆台形 ナデ・削り 一方向からの穿孔	下層	PL63

第6号住居跡（第59・60図）

位置 調査I区南部のF 8 g3区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・16号住居跡を掘り込み、第5～10・13号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸5.42m、東西軸が4.68mで、南北軸は4.68mしか確認できなかった。長方形と推測され、主軸方向はN-72°-Eである。壁高は16cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで88cm、燃焼部幅30cmである。袖部は第4～8層のロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	黒褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	12	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック多量	13	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ8・14cmで、P2のほうが新しい。両方とも西壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

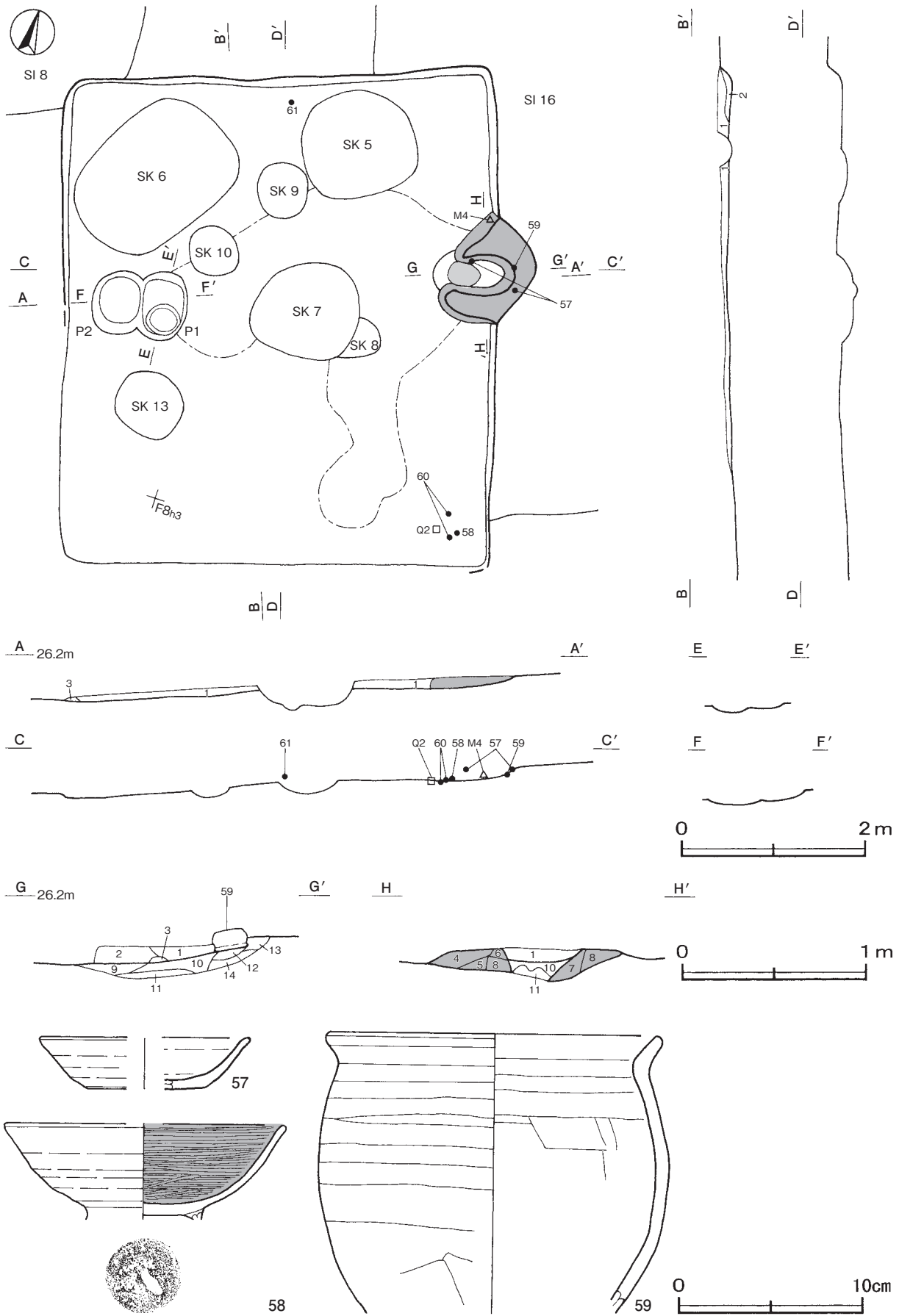
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

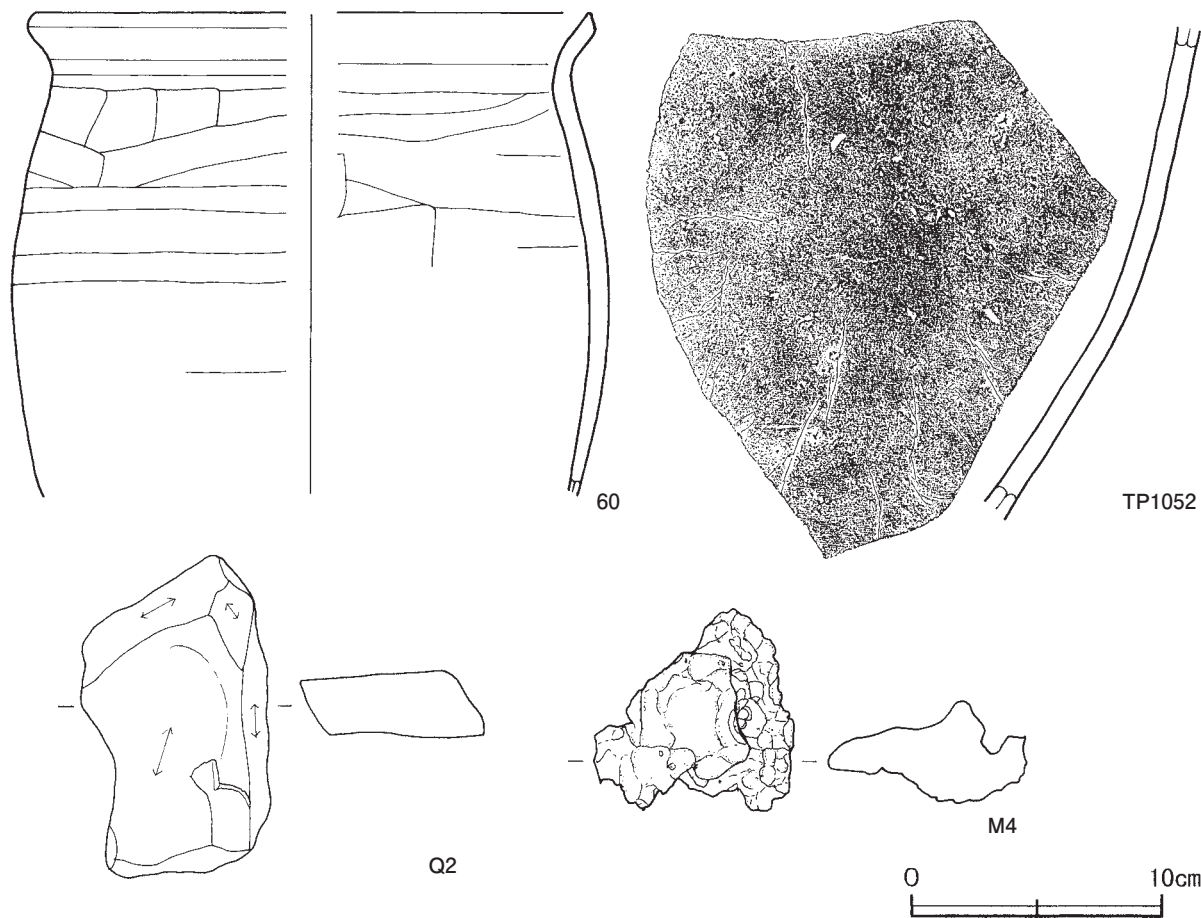
1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	2	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
---	-----	-----------------------	---	----	----------------

遺物出土状況 土師器片404点（坏類125・高台付椀6・皿2・甕類270・甌1）、須恵器片19点（坏類5・甕類14）、石器1点（砥石）、鉄滓1点（椀状滓）が出土している。59は竈煙道部から伏せ置かれたような逆位の状態で出土している。これは住居の廃棄時に、竈祭祀のために59を煙道部に納入したものと考えられる。57は竈火床から煙道部にかけて出土している。また、58・60・Q2は南東コーナー部、61は北壁際の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第59图 第6号住居跡・出土遺物実測図



第60図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表 (第59・60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
57	土師器	皿	[11.4]	2.8	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	竈火床～煙道部	40%
58	土師器	高台付椀	[15.0]	(5.1)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面直上	50%
59	土師器	甕	18.0	(15.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈煙道部	30% PL52
60	土師器	甕	[22.2]	(19.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面横位のヘラナデ 内面ヘラナデ	床面直上	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP1052	須恵器	甕	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部内面強いナデ	床面直上	10% 木葉下

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	12.7	7.4	2.6	351.3	雲母片岩	砥面3面	床面直上	PL63

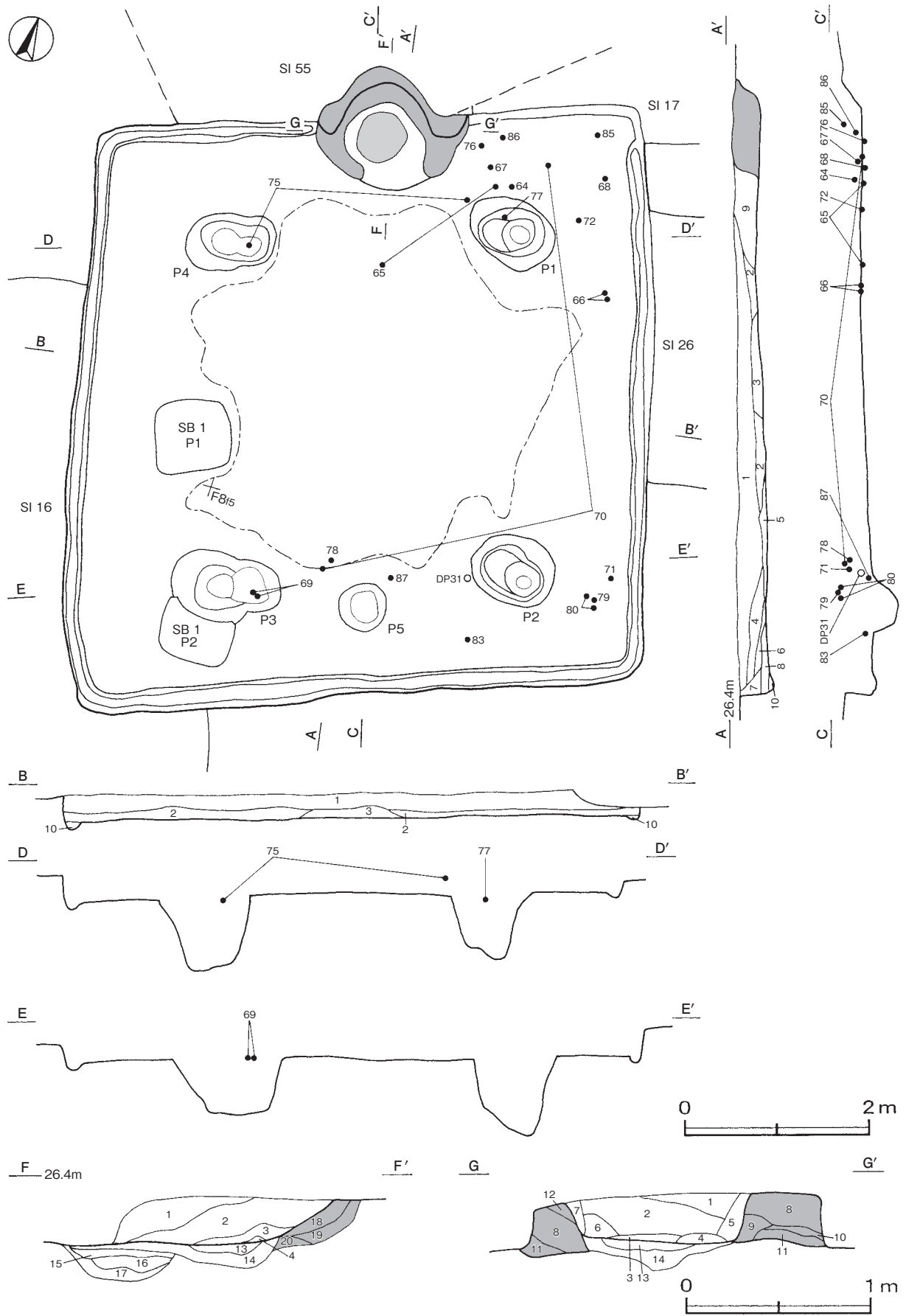
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	鉄滓	8.0	8.0	4.0	168.0	鉄	椀状滓	下層	PL64

第7号住居跡 (第61～63図)

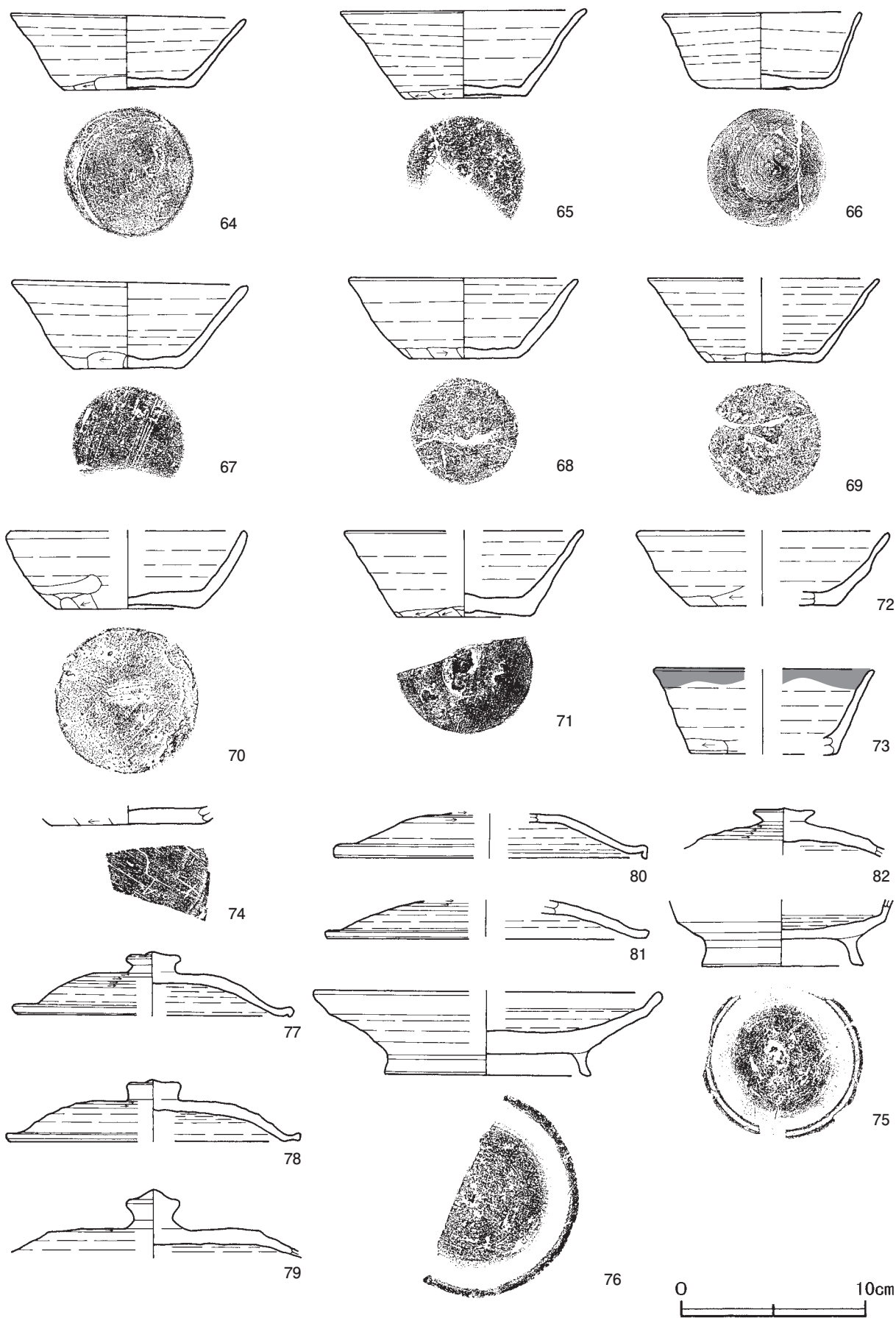
位置 調査I区中央部のF 8e5区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号住居跡、第134号土坑を掘り込み、第17・26・55号住居、第1号掘立柱建物に掘り込まれている。

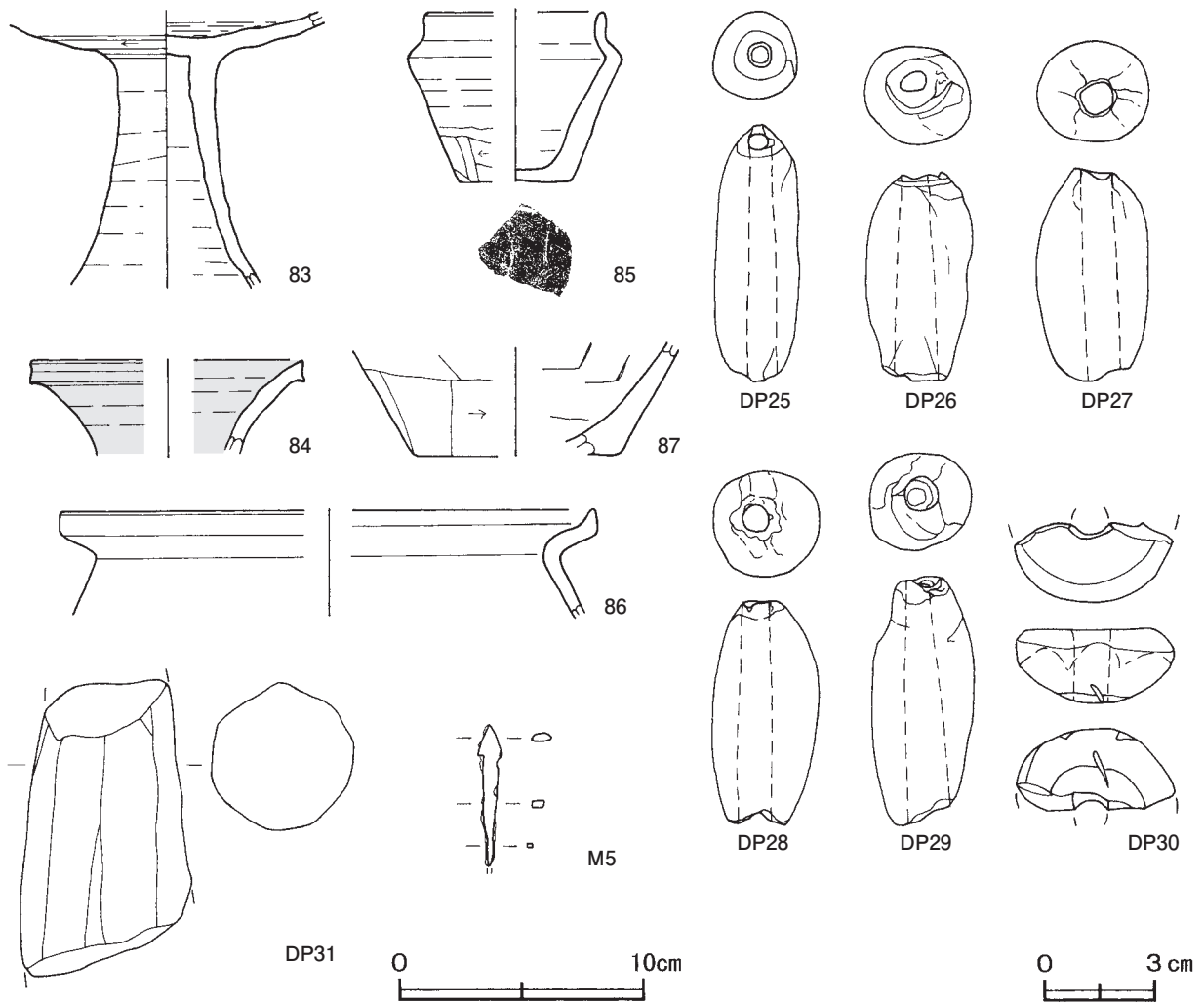
規模と形状 長軸6.18m、短軸6.16mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は24～32cmで、ほぼ直立している。



第61图 第7号住居跡実测图



第62図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第63図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北側の一部を除く壁下には幅12～24cm、深さ4～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅89cmである。袖部は第8～12層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11	灰 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子
2	灰 褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	12	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
3	黒 褐色	焼土ブロック少量、炭化物微量	13	暗 赤 褐色	焼土粒子中量
4	暗 赤 褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	14	暗 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
5	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15	暗 赤 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量
6	灰 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	16	黒 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
7	灰 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量	17	黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
8	灰 褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量	18	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
9	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	19	黒 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
10	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量	20	灰 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ62～88cmで、主柱穴である。P5は深さ28cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロック及び粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量	10 黒褐色	ロームブロック微量
5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
6 褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片1328点（坏類210・高台付椀2・皿4・甕類1112）、須恵器片779点（坏類225・高台付坏7・盤25・高盤7・蓋83・瓶類4・短頸壺1・甕類414・甌13）、灰釉陶器片6点（瓶類5・長頸瓶1）、土製品20点（土玉類1・管状土錘13・紡錘車1・支脚片5）、軽石1点、鉄製品2点（鎌1・不明1）が出土している。77はP1内、69はP3内からそれぞれ出土している。また、65・76は竈袖部右側、66は東壁際、72はP1付近、87はP5付近、68は北東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。75はP4内とP1付近の覆土下層、70はP1付近の床面とP5付近の覆土中層からそれぞれ散らばって出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表（第62・63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
64	須恵器	坏	12.6	4.2	7.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後回転ヘラ削り	下層	100% PL49 稲敷A
65	須恵器	坏	13.4	4.7	6.6	長石・石英・白雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	床面直上	70% PL49 新治A
66	須恵器	坏	10.8	4.2	6.4	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後回転ヘラ削り	床面直上	70% PL49 稲敷A
67	須恵器	坏	12.8	4.8	6.0	長石・石英・白雲母	明赤褐	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	60% PL49 新治A
68	須恵器	坏	12.4	4.4	6.0	長石・石英・白雲母	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	60% PL49 新治A
69	須恵器	坏	[12.6]	4.5	6.2	長石・石英・白雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	P3内上層	60% 新治A
70	須恵器	坏	[12.8]	4.2	7.8	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層～床面	50% 稲敷A 底部外面へ突き出し
71	須恵器	坏	[12.8]	4.7	7.4	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	中層	40% 稲敷A
72	須恵器	坏	[13.6]	4.1	[8.0]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	明褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	床面直上	20% 稲敷A
73	須恵器	坏	[12.0]	4.6	[8.0]	長石・石英・針状鉱物	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土中	20% 稲敷A 口縁部内外面に油塗付
74	須恵器	坏	-	(1.0)	[8.4]	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土中	10% 稲敷A 底部外面へ突き出し
75	須恵器	高台付坏	-	(3.6)	8.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け 高台端部に沈線が巡る	P4内上層・下層	40% 新治B
76	須恵器	盤	[17.6]	4.5	11.0	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床面直上	50% 稲敷B
77	須恵器	蓋	[14.8]	3.4	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	扁平擬宝珠状つまみ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	P1内上層	40% 稲敷B
78	須恵器	蓋	[15.6]	3.2	-	長石・石英・白雲母	オリーブ灰	良好	断面逆台形状つまみ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	中層	30% 新治A
79	須恵器	蓋	-	(3.7)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	擬宝珠状つまみ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	上層	40% 稲敷B
80	須恵器	蓋	[16.8]	(2.4)	-	長石・石英・黒色粒子	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	上層	30% 稲敷B
81	須恵器	蓋	[17.4]	(2.0)	-	長石・石英・白雲母	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土中	30% 新治A
82	須恵器	蓋	-	(2.5)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	扁平擬宝珠状つまみ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中	10% 稲敷B
83	須恵器	高盤	-	(11.1)	-	長石・石英・白雲母	オリーブ灰	良好	盤部下端回転ヘラ削り後脚貼り付け	下層	30% 新治A
84	灰釉陶器	長頸瓶	[11.0]	(3.8)	-	緻密	釉オリーブ灰胎土灰白	良好		覆土中	10% PL59 猿投
85	須恵器	小形短頸壺	[7.2]	6.9	[4.6]	長石・石英・黒色粒子	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層	20% 稲敷B

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
86	土師器	甕	[21.8]	(4.3)	—	長石・石英・白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	下層	10%
87	土師器	甕	—	(4.6)	8.4	長石・石英・白雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面・上層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP25	管状土錘	2.3	7.0	0.9	32.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP26	管状土錘	2.9	5.6	1.3	35.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP27	管状土錘	3.0	5.8	0.9	41.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP28	管状土錘	2.9	6.0	0.9	43.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP29	管状土錘	2.7	6.8	1.3	40.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL62
DP30	紡錘車	(5.3)	2.0	1.1	(17.1)	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL62

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP31	支脚	(12.0)	(7.0)	(5.1)	(382.0)	粘土	ヘラ削り	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	鎌	(5.9)	1.0	0.4	(4.9)	鉄	三角形鎌 茎部一部欠損	覆土中	

第8号住居跡（第64・65図）

位置 調査I区南部のF8fl区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第43号住居跡を掘り込み、第6・15・31・32号住居、第2・14号掘立柱建物、第145号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.90m、短軸6.52mの方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は22cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで170cm、燃焼部幅44cmである。袖部は第13～19層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

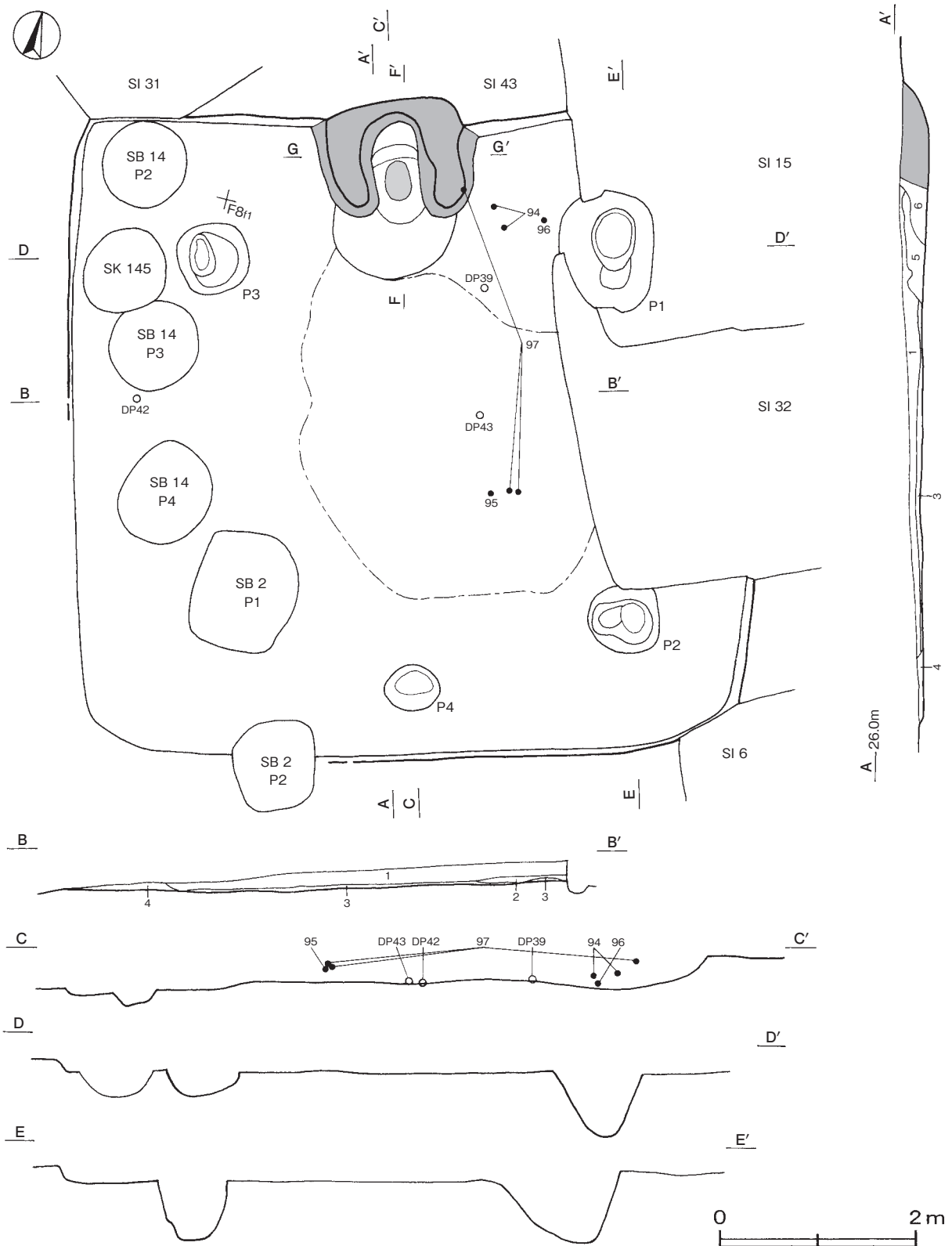
1	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
2	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	13	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	14	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、砂質粘土粒子微量	16	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量、砂質粘土粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
8	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	18	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量
9	暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量	19	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
10	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量
			21	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量

ピット 4か所。P1～P3は深さ24～72cmで、主柱穴である。主柱穴は本来4か所あったと思われるが、南西部の1か所は第2号掘立柱建物のP1に掘り込まれているため遺存していない。P4は深さ18cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

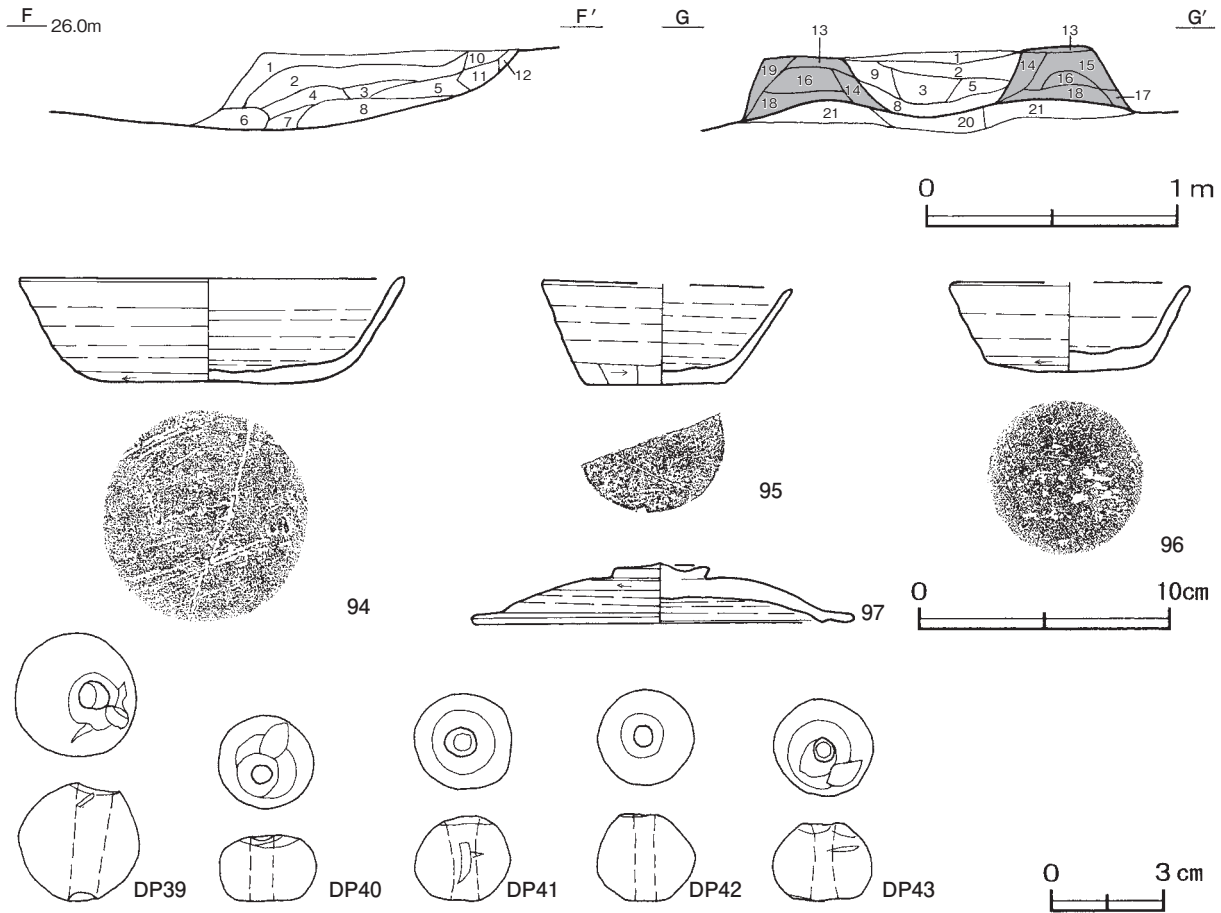
覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | | |



第64図 第8号住居跡実測図



第65図 第8号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1409点（坏類185・甕類1219・甗5），須恵器片209点（坏類107・高台付坏1・蓋・瓶類8・甕類49・甗2），土製品13点（土玉類10・管状土錘1・支脚片2），鉄製品1点（不明）が出土している。96は竈袖部右側，DP39は竈焚口部前側，DP42は西壁際，DP43は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
94	須恵器	坏	15.2	4.2	8.0	長石・石英・白雲母	灰	良好	底部周縁回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	80% PL49新治A
95	須恵器	坏	[9.8]	4.1	5.8	長石・石英・白雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	50% 新治A
96	須恵器	坏	[9.6]	3.6	6.4	長石・石英・白雲母	灰	良好	底部周縁回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	60% 新治A
97	須恵器	蓋	15.0	2.5	-	長石・石英・白雲母	灰	普通二次焼成	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中～下層	60% PL49新治A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	球状土錘	3.2	3.1	0.9	29.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	PL60
DP40	球状土錘	2.5	1.7	0.6	11.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP41	球状土錘	2.6	2.2	0.9	15.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP42	球状土錘	2.6	2.3	0.5	13.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	PL60
DP43	球状土錘	2.6	2.0	0.7	13.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	PL60

第9号住居跡 (第66・67図)

位置 調査I区東部のF 8 b8区, 標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第33号住居跡を掘り込み, 第10号住居, 第80・82号土坑に掘り込まれている。

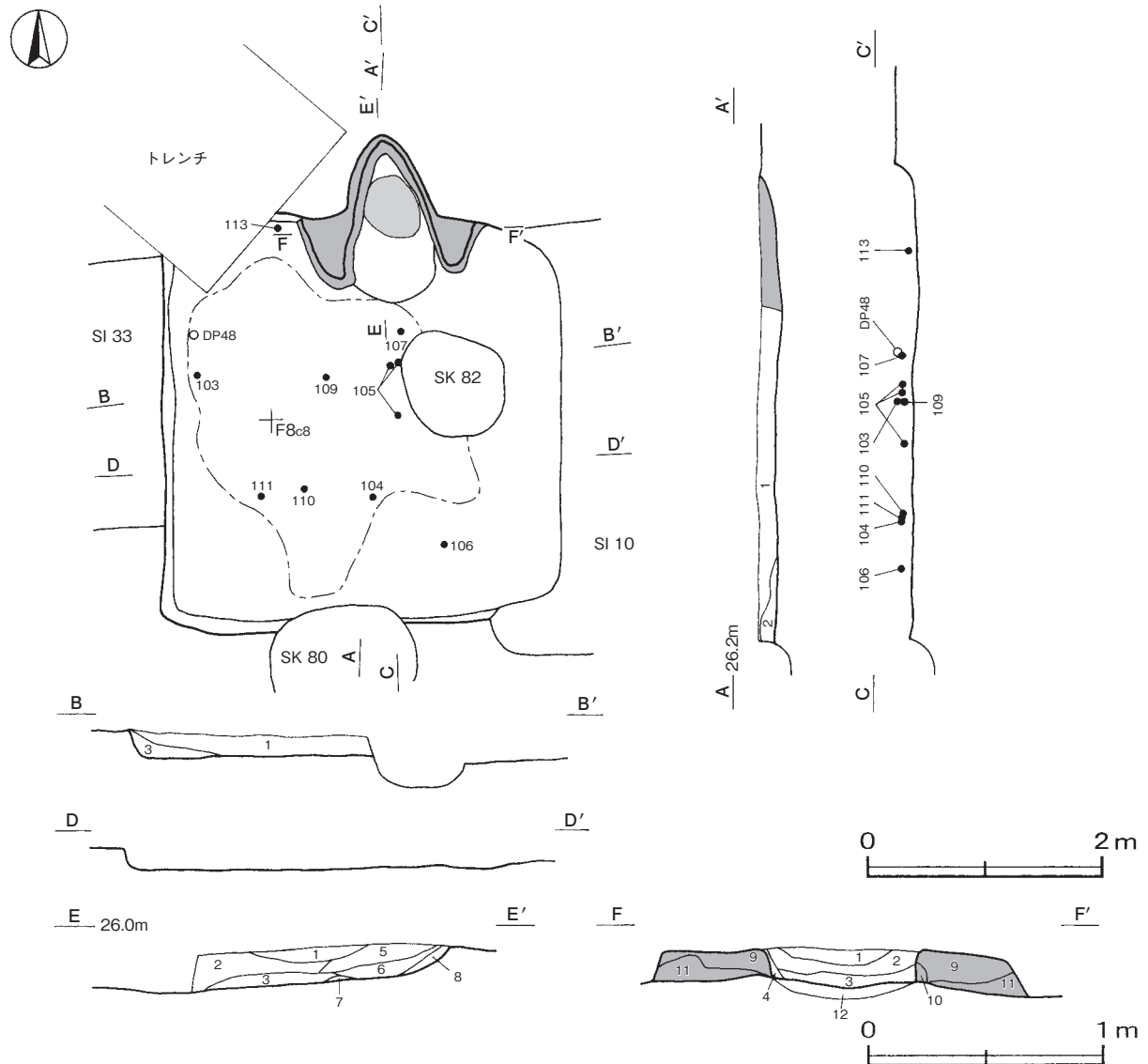
規模と形状 一辺3.40mの方形と推測され, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は14~16cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

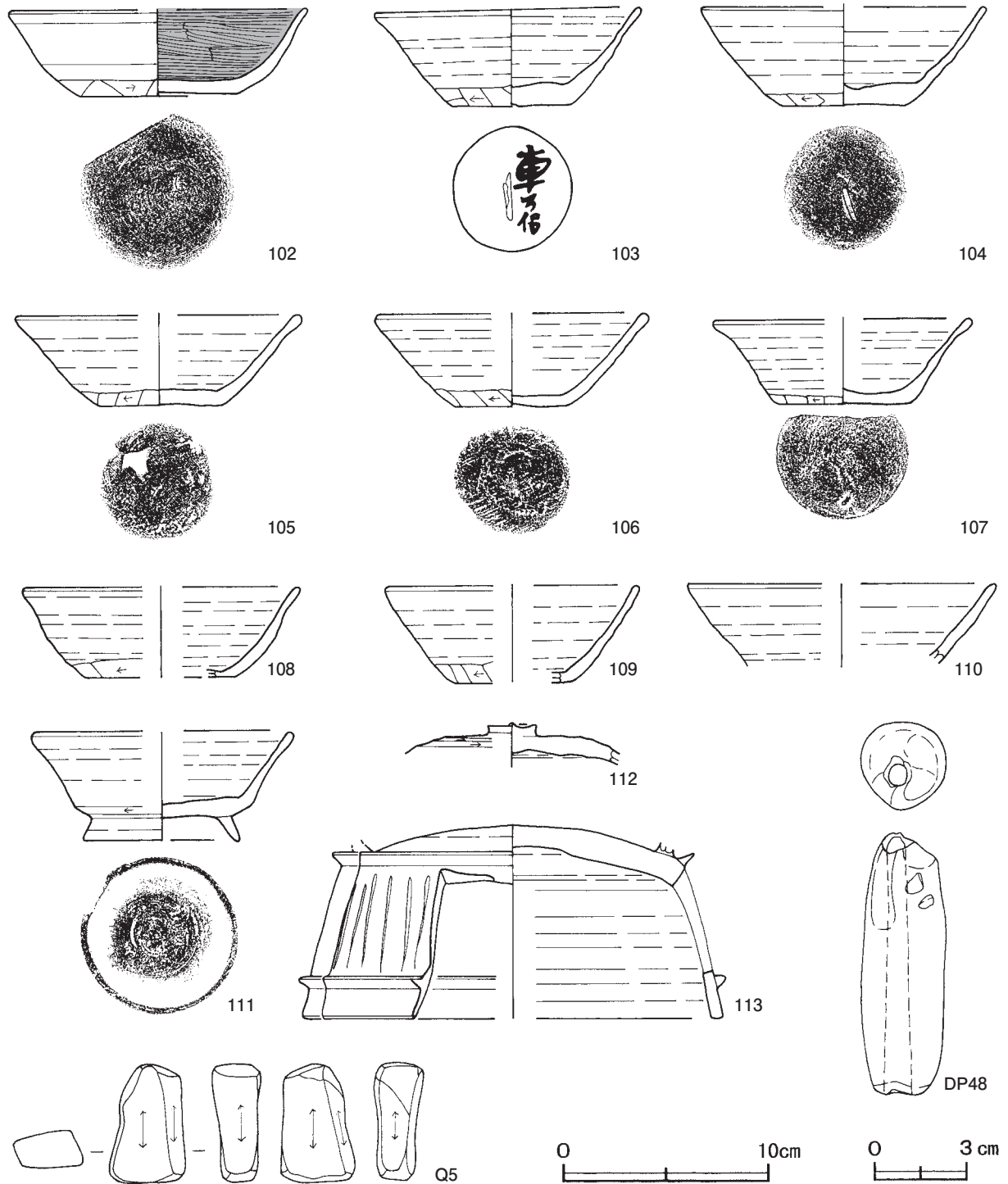
竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで134cm, 燃焼部幅49cmである。袖部は第9~11層の砂質粘土を混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に68cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量, 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 灰褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 灰褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量 | 11 灰褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 焼土ブロック少量 | 12 灰褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |



第66図 第9号住居跡実測図



第67図 第9号住居跡出土遺物実測図

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土
粒子微量 | 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| | 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片347点(坏類164・高台付碗3・甕類180), 須恵器片199点(坏類125・高台付坏5・盤7・蓋23・甕類37・甌1・円面硯1), 土製品5点(管状土錘1・支脚片4), 砥石1点, 鉄製品2点(不明), 鉄滓1点が出土している。113は竈袖部左側の床面直上から出土しているが, 全体として床面からの出土遺物

は少ない。107は竈焚口部前側，106は南壁際，103・111は西壁際，104・105・109・110は中央部の覆土下層からそれぞれ出土しており，これらは住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。なお，113の円面硯は第55号住居跡から出土した破片と接合している。

所見 時期は，投棄された土器群とあまり差はないと思われ，9世紀中葉と考えられる。

第9号住居跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
102	土師器	坏	[14.4]	4.1	7.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ切り	覆土中	60% PL50
103	須恵器	坏	13.0	4.8	5.8	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	80% PL50 稲敷A 底部外縁ヘラ磨き[-]黒書[車万図]
104	須恵器	坏	[13.8]	4.8	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	60% 稲敷A 底部外縁ヘラ磨き[-]
105	須恵器	坏	[13.6]	4.4	5.8	長石・石英・白雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	60% 新治A
106	須恵器	坏	[13.0]	4.5	5.4	長石・石英・白雲母	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	下層	40% 新治A
107	須恵器	坏	[12.4]	4.1	6.4	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	40% 新治B
108	須恵器	坏	[13.4]	4.3	[7.2]	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新治A
109	須恵器	坏	[12.2]	4.7	[5.8]	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	30% 新治A
110	須恵器	坏	[14.8]	(3.9)	-	長石・石英・針状鉱物	オリーブ黒	普通		下層	20% 稲敷A
111	須恵器	高台付坏	[12.4]	5.3	7.4	長石・石英・白雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	下層	60% 新治A
112	須恵器	蓋	-	(2.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中	20% 稲敷B
113	須恵器	円面硯	-	9.3	[20.2]	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	透し孔5か所 脚部に6条以上の鋭い沈線	床面・SI55 覆土中	20% PL50 稲敷A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP48	管状土錘	2.7	8.5	0.9	54.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	砥石	5.7	3.6	2.3	50.9	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL61

第10号住居跡（第68・69図）

位置 調査I区東部のF 8 b8区，標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居跡・第82号土坑を掘り込み，第4号住居に掘り込まれている。

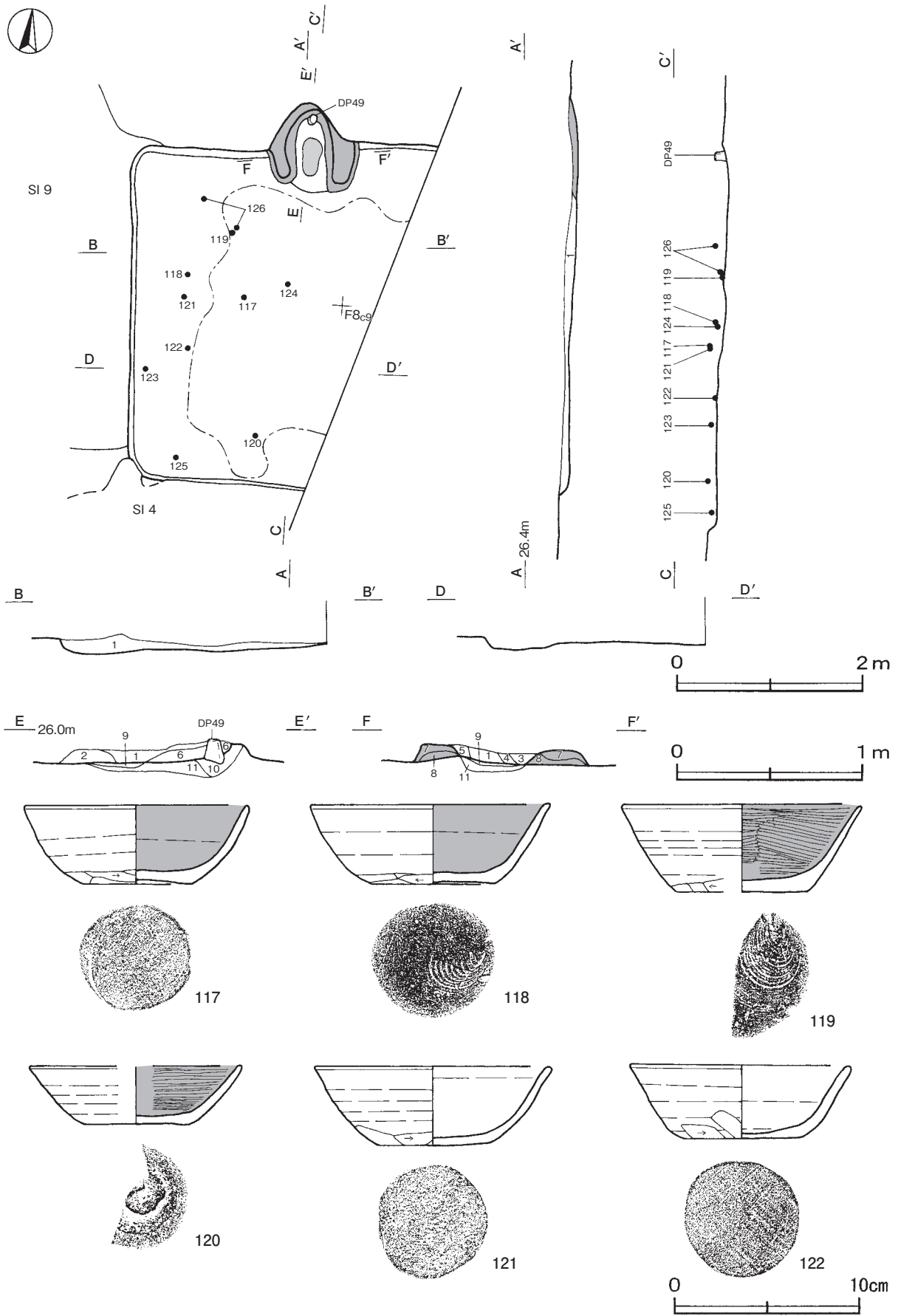
規模と形状 南東側が調査区域外に延びているため，南北軸が3.66mで，東西軸は3.20mしか確認できなかった。方形と推測され，主軸方向はN-2°-Wである。壁高は4～22cmで，ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

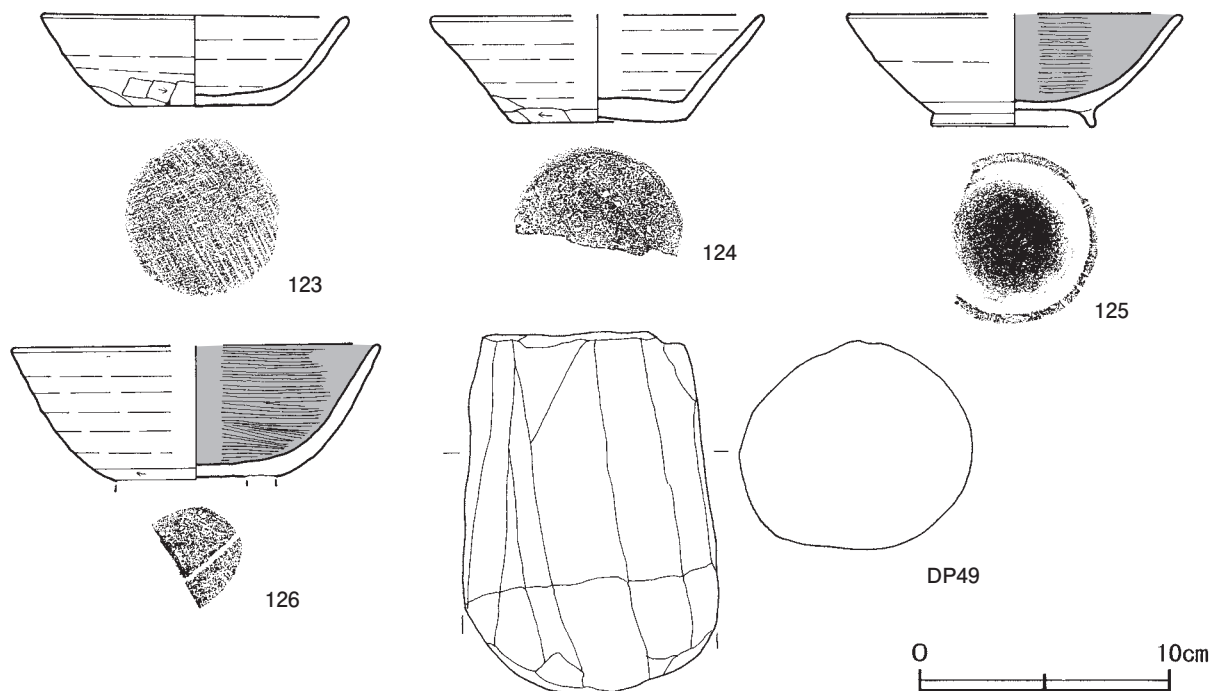
竈 北壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで92cm，燃焼部幅31cmである。袖部は第7・8層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。火床部内に土製支脚を設置している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗 赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 4 暗 赤褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 10 黒 褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 暗 褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | | |



第68图 第10号住居跡・出土遺物実測図



第69図 第10号住居跡出土遺物実測図

覆土 層厚が薄く、遺存するのは1層だけであるが、ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片407点(坏類260・高台付碗9・皿4・甕類134), 須恵器片68点(坏類23・高台付坏3・盤5・蓋5・瓶類3・甕類29), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(不明)が出土している。122は西壁際から正位の状態, 119は竈袖部左側の床面直上からそれぞれ出土している。また, 126は竈袖部左側の床面から覆土下層にかけて散らばって出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表(第68・69図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
117	土師器	坏	12.0	4.2	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	下層	95% PL50
118	土師器	坏	12.8	4.4	6.8	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	下層	70% PL51
119	土師器	坏	12.8	4.7	[6.2]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	床面直上	60% PL51
120	土師器	坏	[11.4]	3.1	5.6	長石・石英・白雲母・赤色粒子	黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	下層	20%
121	須恵器	坏	12.6	4.3	5.8	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	95% PL51 稲敷A
122	須恵器	坏	11.8	4.0	6.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	95% PL51 稲敷A
123	須恵器	坏	12.2	3.7	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	70% PL51 稲敷A
124	須恵器	坏	[13.2]	4.2	[7.0]	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	40% 稲敷A
125	土師器	高台付碗	[12.2]	4.4	6.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	30%
126	土師器	高台付碗	[14.6]	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層～床面	40%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP49	支脚	(14.3)	(10.2)	8.1	(1070.3)	粘土	ヘラ割り	竈火床部	

第11号住居跡（第70図）

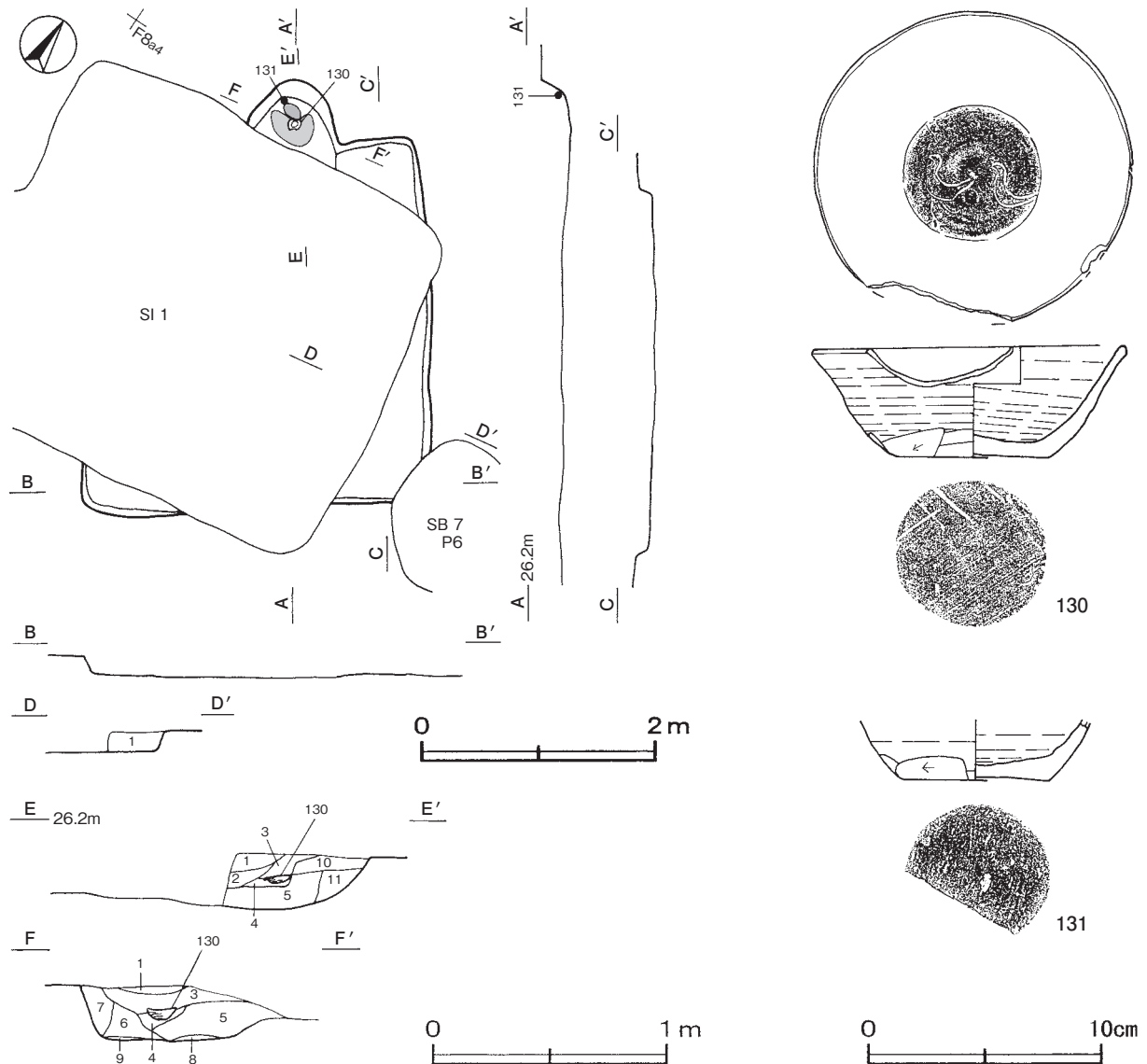
位置 調査I区中央部のF 8 a4区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号住居、第7号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.96mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は10～16cmで、ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

竈 北西壁中央部に付設されているが、袖部は第1号住居に掘り込まれている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで130cm、燃焼部幅61cmである。火床部の掘り込みは不明で、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に56cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。火床面に支脚を設置していた痕跡がある。なお、第1～3層は130の須恵器を埋納した孔の覆土である。



第70図 第11号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

覆土 掘り込まれている部分が多く、遺存するのは1層だけであるが、ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片52点（坏類31・高台付椀1・甕類20）、須恵器片7点（坏類6・蓋1）が出土している。130は竈火床部から正位の状態出土している。竈の土層観察と130の須恵器の出土状況から、竈を破壊して、そこへ埋納孔を掘ったものと思われ、これは住居の廃絶時に、竈祭祀のために130をその埋納孔内に納入したものと考えられる。131は竈煙道部から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	須恵器	坏	13.2	4.8	6.6	長石・石英・白雲母	橙	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	竈火床部	90% PL50 新治 A 底部内面鳥の絵ヘラ描き
131	須恵器	坏	-	(2.6)	6.2	長石・石英・針状鉱物	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	竈煙道部	20% 稲敷 A

第12号住居跡（第71・72図）

位置 調査I区南部のF7f8区、標高25.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・15号掘立柱建物、第166号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西側と北西部が段切状の平場で削平されているため、南北軸は6.2mで、東西軸が6.22mしか確認できなかった。方形と推測され、主軸方向がN-32°-Wである。壁高は10～20cmで、ほぼ直立している。

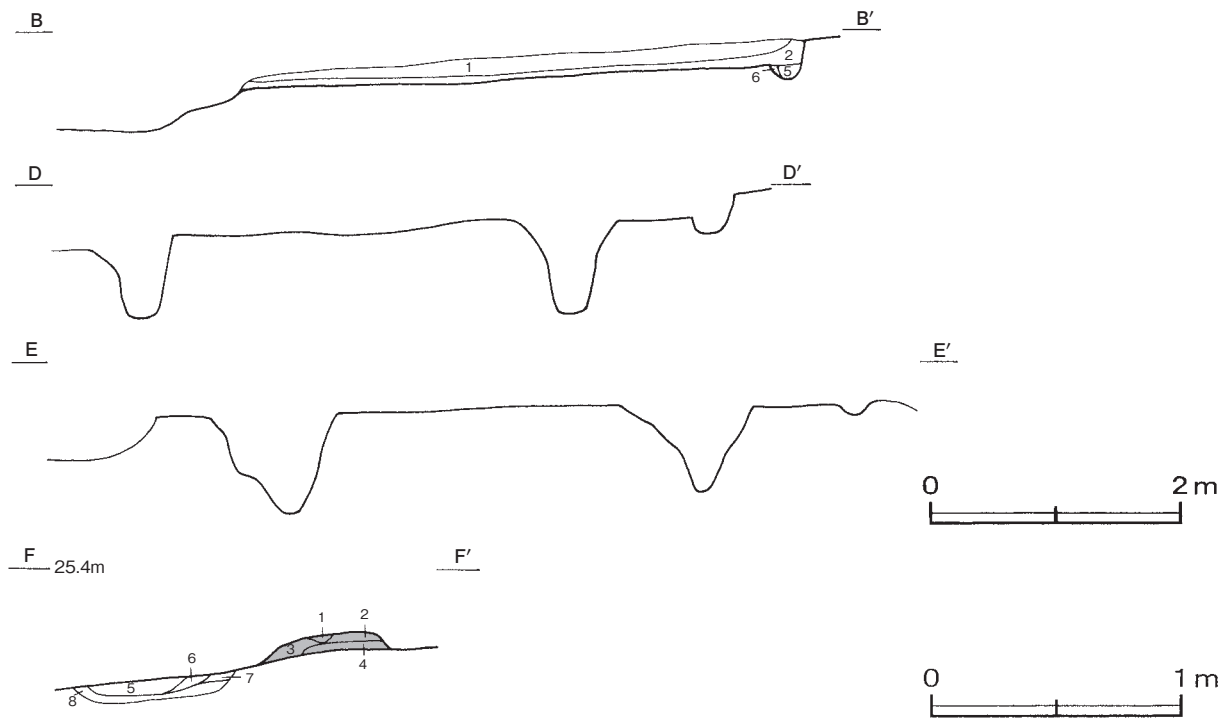
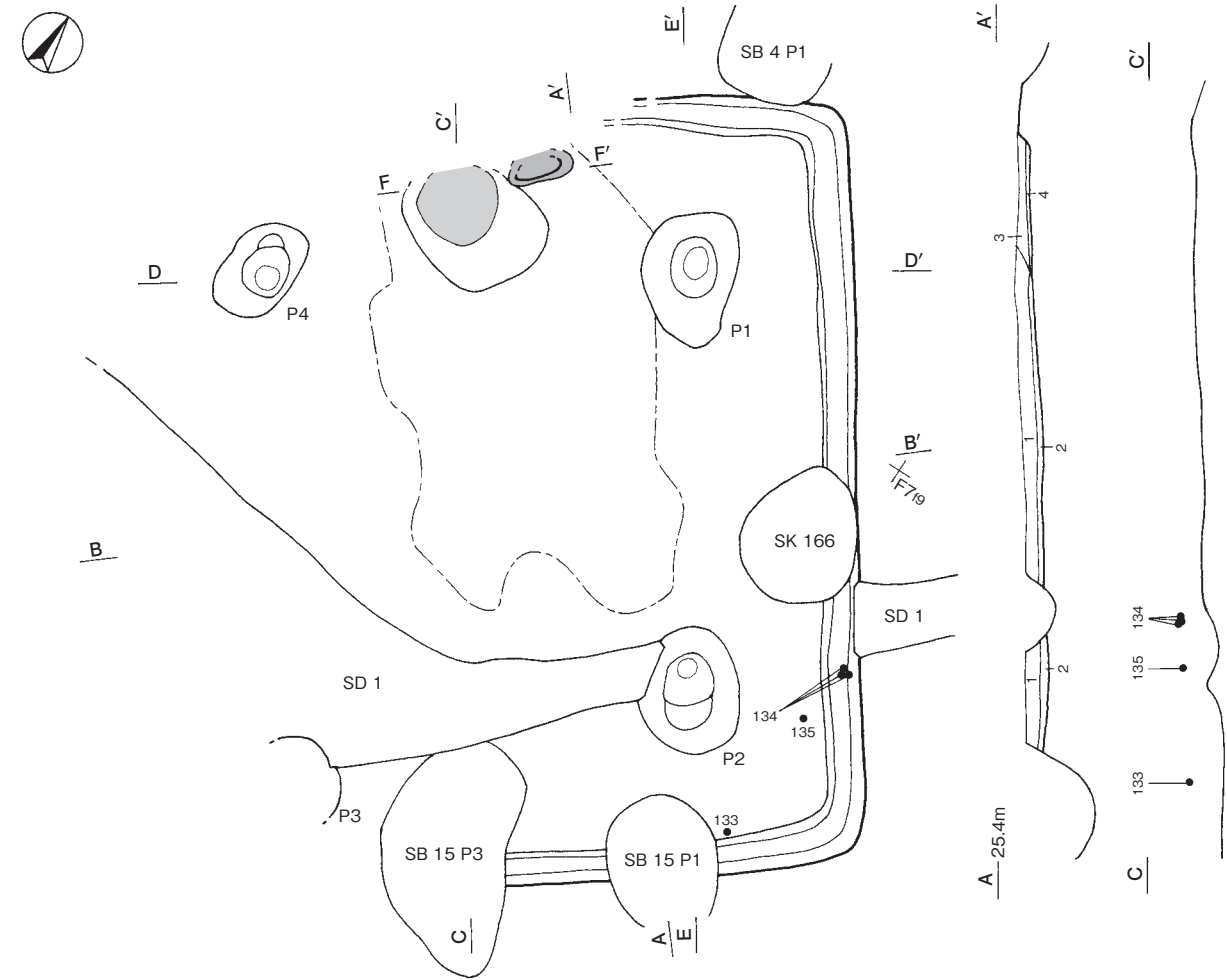
床 遺存している部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅22～28cm、深さ4～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されているが、袖部及び煙道部は削平されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで102cm、燃焼部幅88cmである。袖部は第1～4層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 |

ピット 4か所。深さ66～74cmで、主柱穴である。



第71图 第12号住居跡実測図

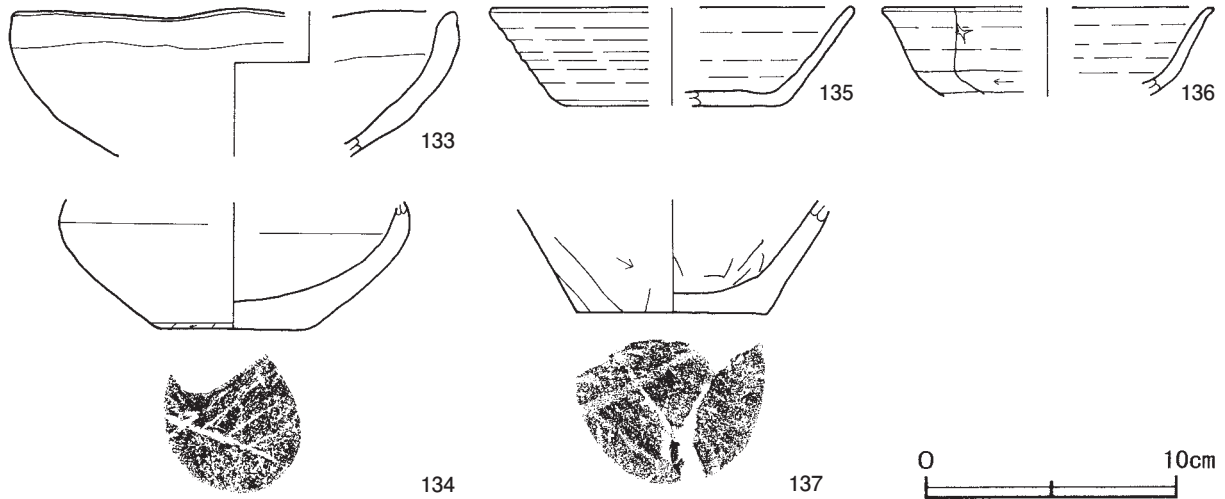
覆土 6層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片453点(坏類192・甕類260・手捏土器1), 須恵器片118点(坏類84・高台付坏1・盤6・高盤2・蓋14・瓶類2・甕類9), 土製品3点(土玉類・支脚片・不明), 鉄製品1点(不明)が出土している。全体として床面からの出土遺物は少ない。134は北東壁際, 133・135は東コーナー部の覆土下層から出土しており, これらは住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 投棄された土器群とあまり差はないと思われ, 8世紀前葉と考えられる。



第72図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
133	土師器	坏	[17.4]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	30%
134	土師器	坏	-	(5.1)	5.2	長石・石英・針状鉱物	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部木葉痕	下層	30%
135	須恵器	坏	[14.4]	3.9	[9.2]	長石・石英・白雲母	灰黄	良好	底部手持ちヘラ削り	下層	30% 新治A
136	須恵器	坏	[13.0]	(3.5)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	底部周縁回転ヘラ削り	覆土中	20% 稲敷A 体部外面刻書□
137	土師器	甕	-	(4.5)	7.6	長石・石英	橙	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈内	20%

第14号住居跡(第73図)

位置 調査I区東部のF8f7区, 標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東側が調査区域外に延び, 北西部が第5号住居に掘り込まれているため, 南北軸が5.1mで, 東西軸は3.4mしか確認されなかった。長方形または方形と推測され, 主軸方向はN-11°-Wである。壁高は16~34cmで, ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

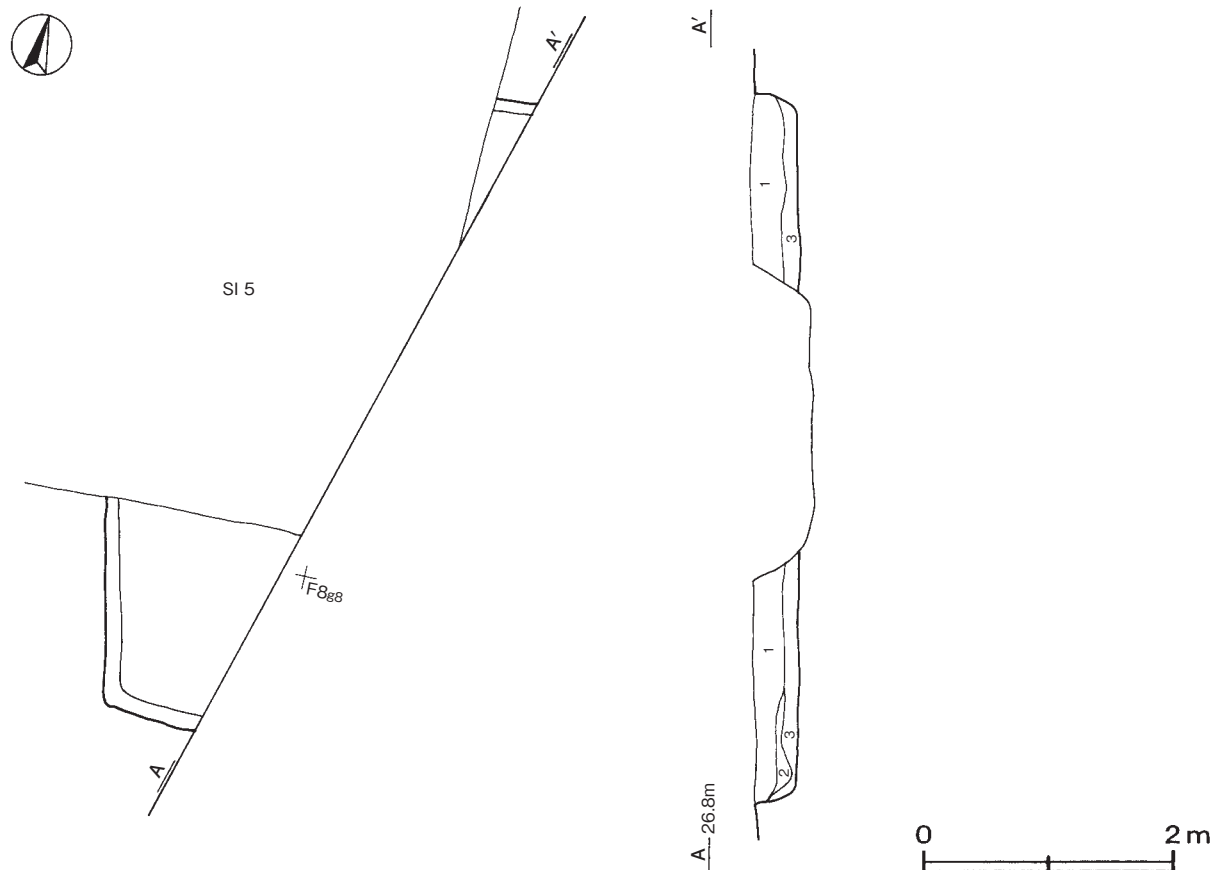
覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片4点(甕類), 須恵器片1点(盤)が出土しているが, いずれも細片で図示できない。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から8世紀代と考えられる。



第73図 第14号住居跡実測図

第15号住居跡 (第74～76図)

位置 調査I区中央部のF 8e2区, 標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・32・43号住居跡を掘り込み, 第5号掘立柱建物, 第60号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.20m, 短軸4.14mの方形で, 主軸方向はN-20°-Wである。壁高は20～30cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北側を除く壁下には幅14～22cm, 深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

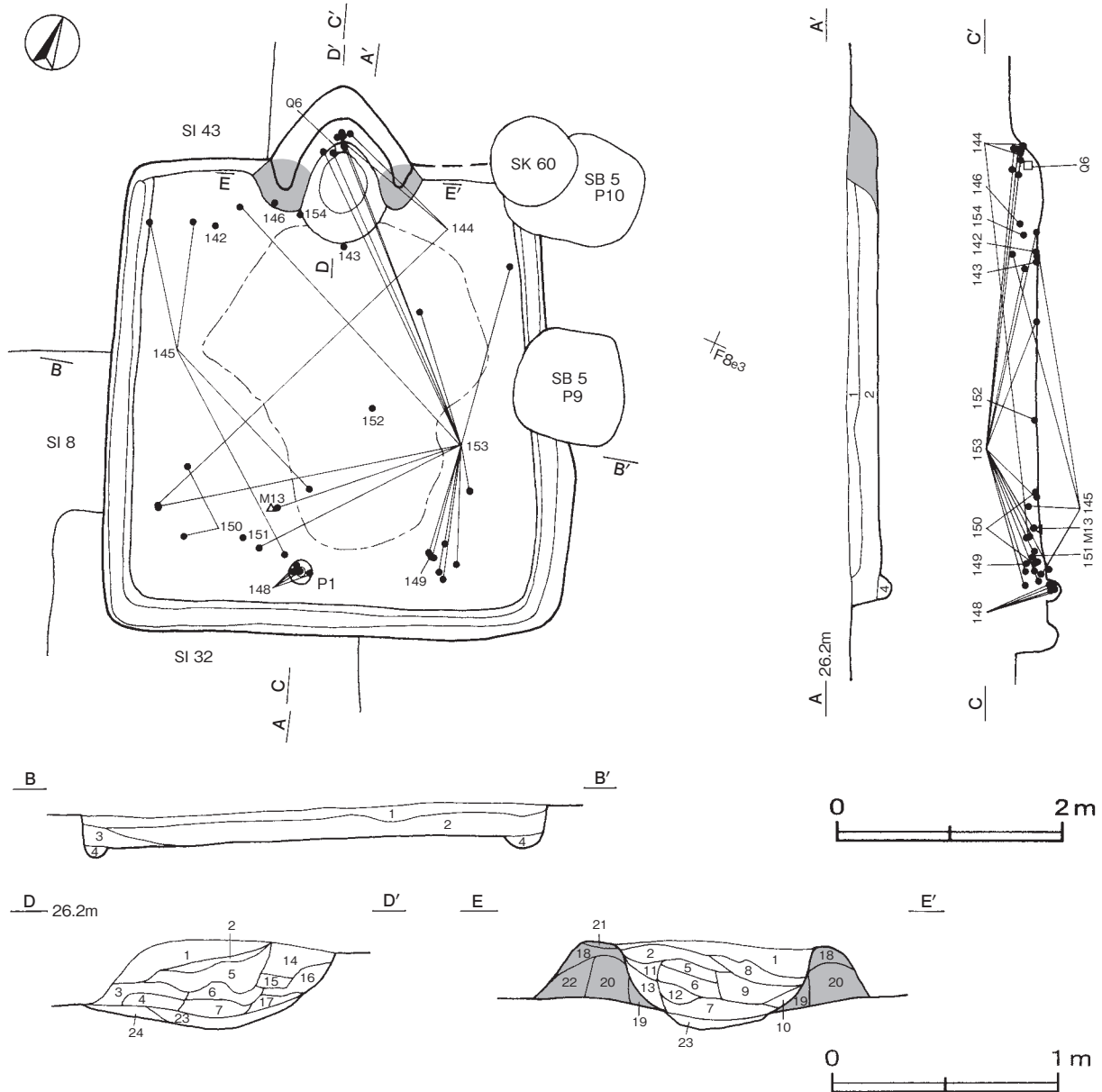
竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで110cm, 燃焼部幅66cmである。袖部は第18～22層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。また, 火床部内に雲母片岩の砥石を転用した支脚が設置されている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	15 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	16 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒色	炭化物中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量	17 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック微量	18 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	19 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
7 暗褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	20 暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック微量	21 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	22 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	23 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
11 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	24 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土ブロック少量		
13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量		

ピット 深さ12cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。



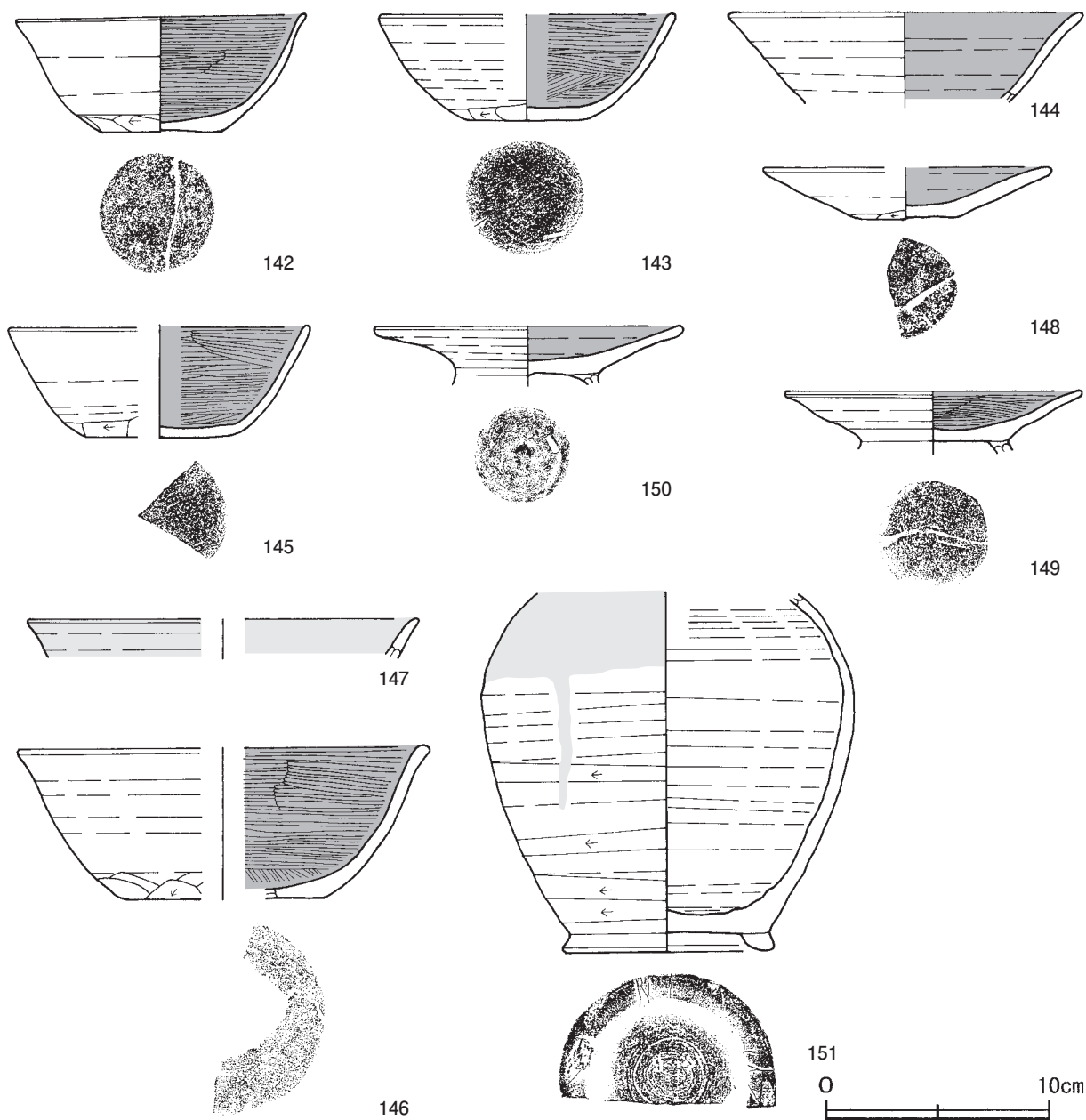
第74図 第15号住居跡実測図

土層解説

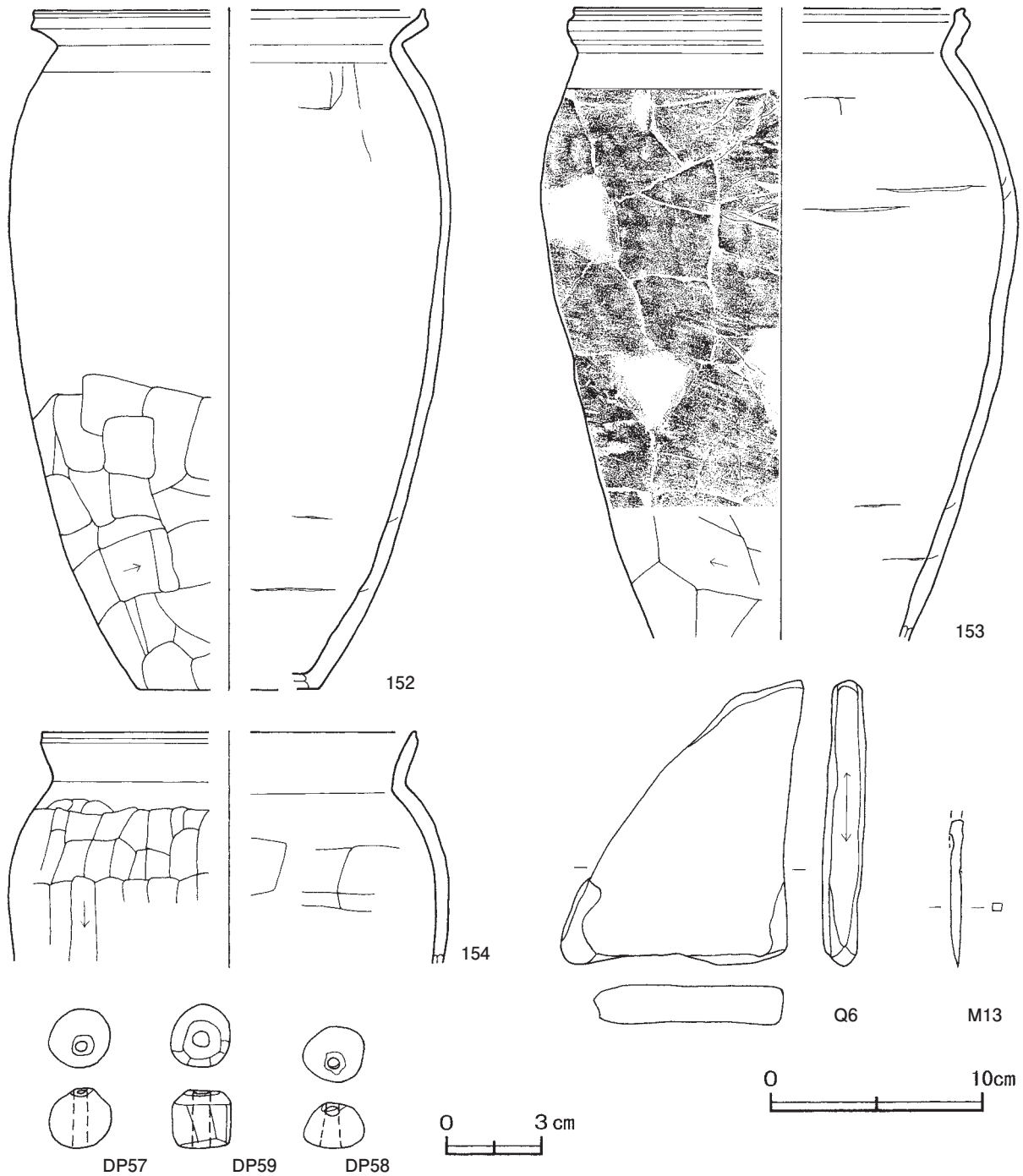
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1023点 (坏類462・椀1・高台付椀18・皿28・高台付皿2・甕類512), 須恵器片131点 (坏類22・瓶類4・甕類102・甌3), 灰釉陶器片2点 (椀1, 長頸瓶1), 土製品3点 (土玉), 石器1点 (砥石), 鉄製品4点 (鏃1・不明3) が出土している。144は竈煙道部と西壁際の覆土, 148はP 1内からそれぞれ出土している。また, 150は西壁際, 142は竈袖部左側, 143は竈焚口部前側, M13はP 1付近, 152は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。153は竈煙道部と東・西・南・北壁際, 145は西壁際とP 1付近の床面から覆土中層にかけてそれぞれ散らばって出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第75図 第15号住居跡出土遺物実測図(1)



第76図 第15号住居跡出土遺物実測図(2)

第15号住居跡出土遺物観察表 (第75・76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
142	土師器	坏	13.0	5.2	5.4	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	床面直上	70% PL53
143	土師器	坏	[13.2]	4.7	5.4	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り後 手持ちヘラ削り	床面直上	40%
144	土師器	坏	15.8	(4.0)	-	長石・石英・針状鉾物	にぶい黄橙	普通		竈煙道部 西壁際	40%
145	土師器	坏	[13.4]	4.9	[6.2]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層～ 床面直上	30%
146	土師器	坏	[18.2]	6.7	[9.0]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	中層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
147	灰釉陶器	椀	[17.4]	(17)	-	緻密	釉オリーブ黄 胎土灰白	良好		覆土中	10% PL59 猿投
148	土師器	皿	[12.4]	2.2	4.4	長石・石英・ 赤色粒子	明黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P 1 内下層	40%
149	土師器	高台付皿	13.0	(27)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	90% PL51
150	土師器	高台付皿	13.8	(26)	-	長石・石英・針状 鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床面直上	80% PL51
151	灰釉陶器	長頸瓶	-	(16.1)	9.2	緻密	釉オリーブ 灰白 胎土灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	下層	40% PL52 猿投
152	土師器	甕	[18.0]	32.1	[8.4]	長石・石英・ 白雲母	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	床面直上	60% PL52
153	土師器	甕	[18.2]	(29.7)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き後ナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈煙道部・ 中層	80% PL52
154	土師器	甕	[17.6]	(10.8)	-	長石・石英・針状 鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP57	土玉	1.9	1.8	0.4	6.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP58	土玉	1.9	1.4	0.7	3.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP59	土玉	2.0	1.8	0.5	7.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ・長さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	砥石	13.4	11.3	1.9	353.3	雲母片岩	砥面1面 支脚転用	竈火床部	PL60

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 13	鎌	(6.9)	0.5	0.4	(5.0)	鉄	長頸鎌 鎌身部一部欠損	床面直上	

第17号住居跡（第77図）

位置 調査I区中央部のF 8 d5区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7・49・60号住居跡を掘り込み、第55号住居、第6号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.24m、短軸3.60mの長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は4～14cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで76cm、燃焼部幅39cmである。袖部は第7～10層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
4	暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
			11	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量

ピット 深さ32cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

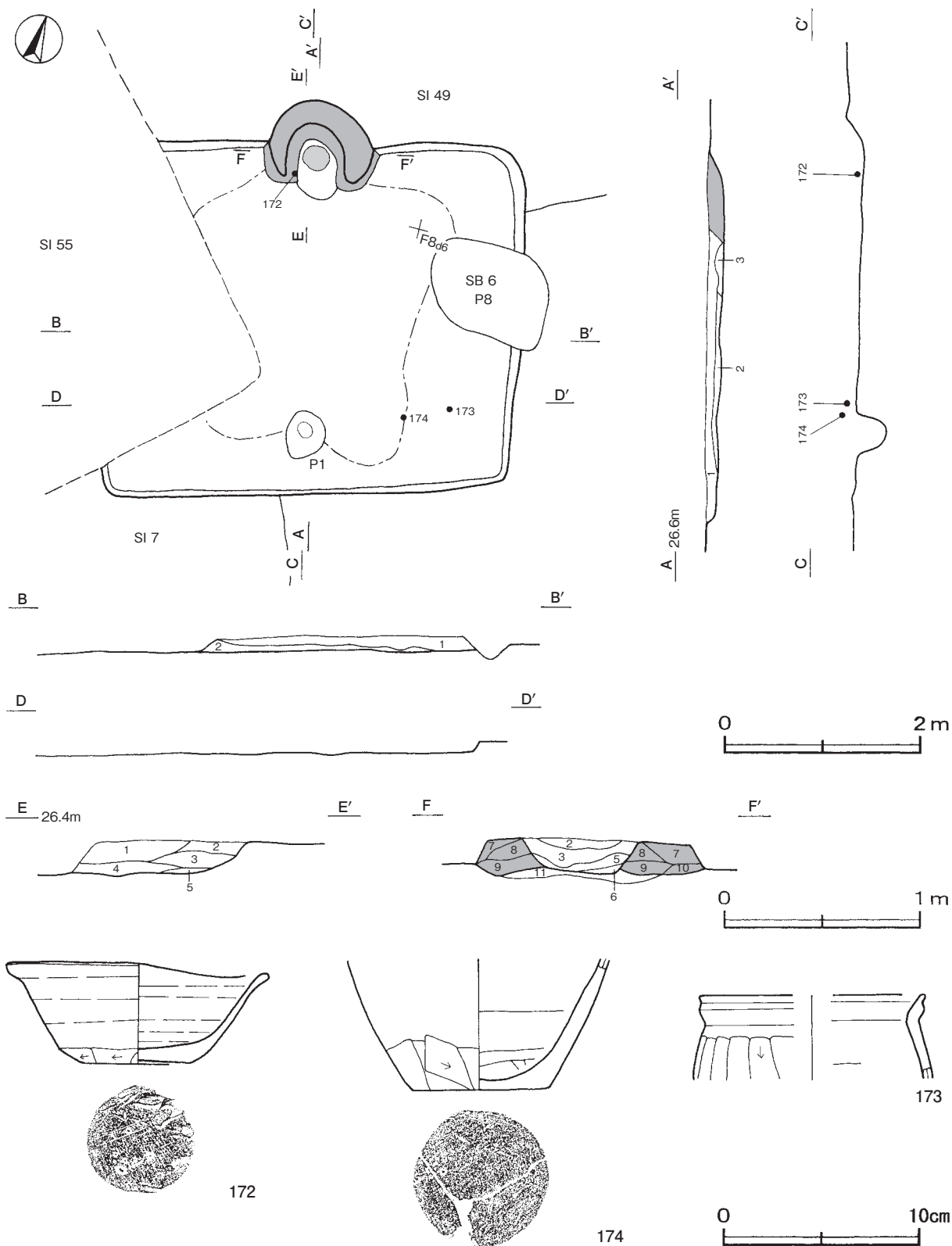
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片497点（坏類135・高台付椀4・皿12・甕類346）、須恵器片87点（坏類31・高台付坏1・蓋4・

瓶類4・甕類44・甌3), 灰釉陶器片1点(瓶類), 土製品2点(支脚片・不明), 鉄製品2点(不明), 鉄滓1点が出土している。172は竈火床部から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第77図 第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
172	須恵器	坏	13.2	5.2	5.4	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	竈火床部	80% PL51 新治B
173	土師器	小形甕	[11.4]	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	30%
174	土師器	甕	-	(6.7)	7.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	下層	40%

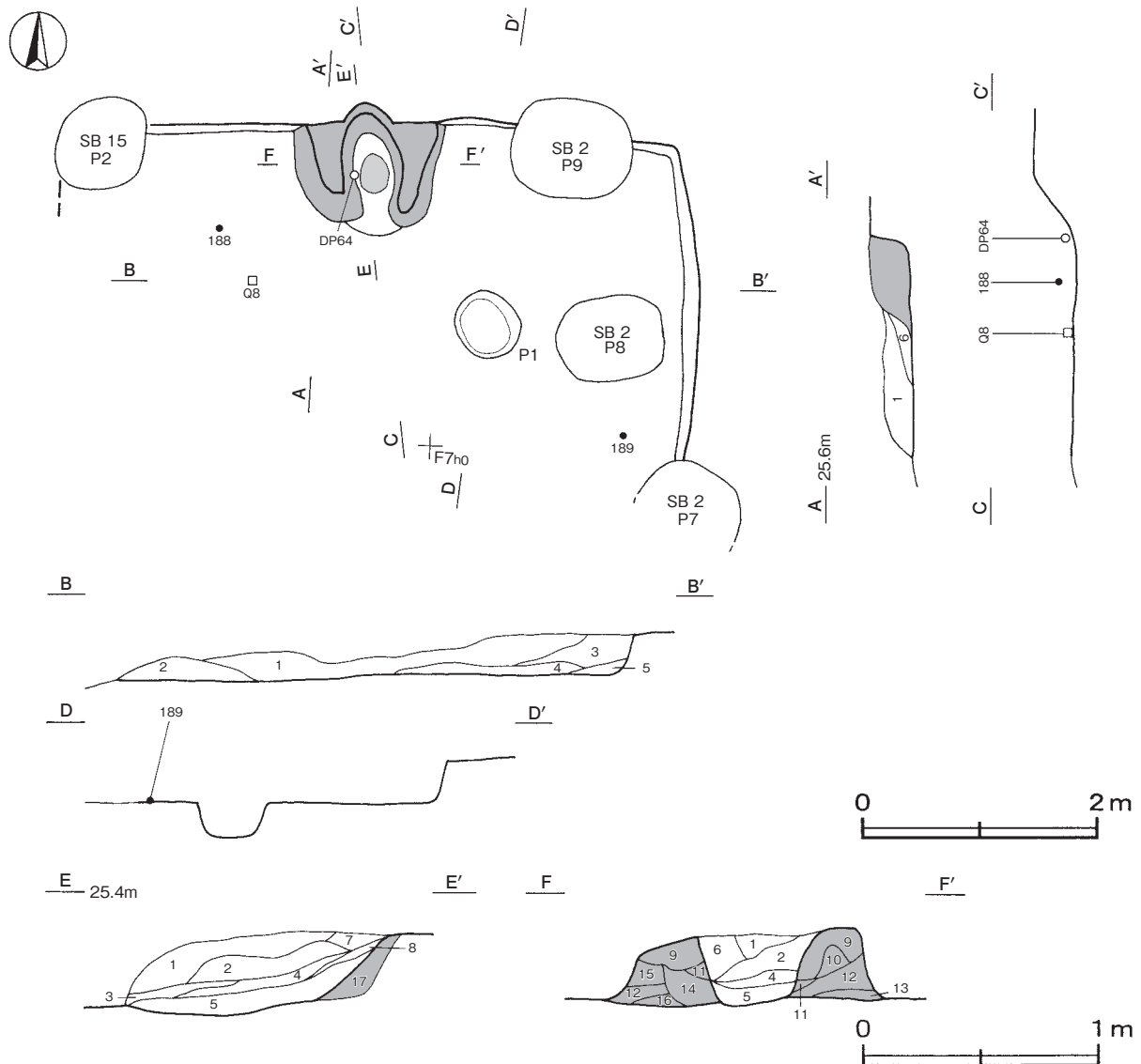
第19号住居跡 (第78・79図)

位置 調査I区南部のF 7 g9区、標高25.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2・15号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南西側が段切状の平場で削平され、北西部が第15号掘立柱建物、北東部が第2号掘立柱建物に掘り込まれているため、東西軸が4.65m、南北軸が3.3mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向がN-3°-Wである。壁高は34~44cmで、ほぼ直立している。

床 確認できた部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。



第78図 第19号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅33cmである。袖部は第9～16層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 12 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量 | 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| | | 17 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |

ピット 深さ30cmで、主柱穴である。

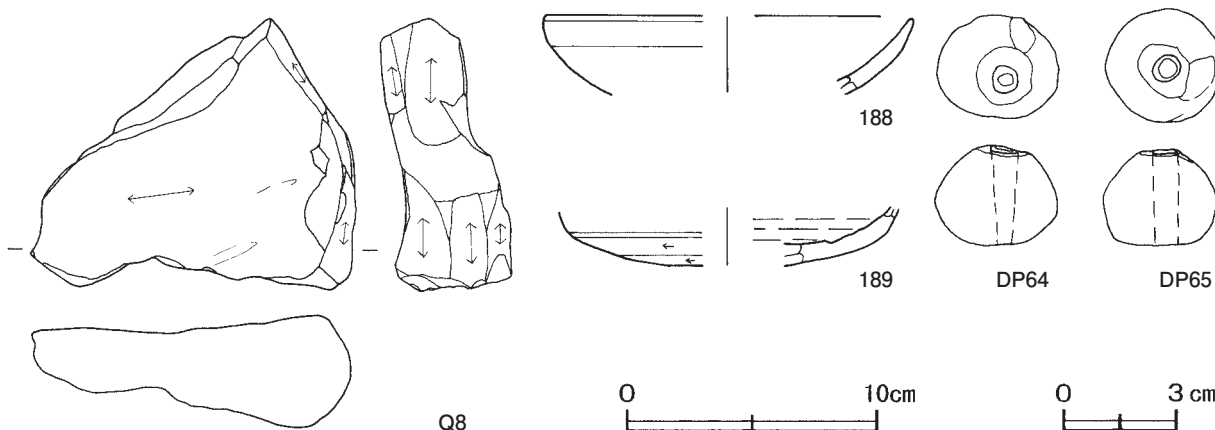
覆土 6層に分けられる。ロームブロックや粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片137点(坏類34・甕類103)、須恵器片15点(坏類10・蓋2・甕類3)、土製品3点(土玉類)、石器1点(砥石)が出土している。DP64は竈火床部から出土している。また、Q8は竈袖部左側、189は東壁際の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第79図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表(第79図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
188	土師器	坏	[14.6]	(3.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	10%
189	須恵器	坏	-	(2.3)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部周縁回転ヘラ削り	床面直上	10% 稲敷B
番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP64	球状土錘	3.2	2.6	0.7	22.2	粘土	ナデ	一方向からの穿孔	竈火床部	PL63	
DP65	球状土錘	3.0	2.6	0.7	24.8	粘土	ナデ	一方向からの穿孔	覆土中	PL63	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	10.8	13.0	5.3	564.3	砂岩	砥面 2面	床面直上	PL60

第20号住居跡（第80～83図）

位置 調査Ⅰ区中央部のE 8j2区，標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第119・161号土坑，第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.36m，短軸5.68mの長方形で，主軸方向はN-15°-Wである。壁高は22～34cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には幅16～26cm，深さ2～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで126cm，燃烧部幅55cmである。袖部は第20～27層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。また，火床部内に土製支脚が設置されている。

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	17 灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
3 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	19 灰褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	20 灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量	21 黒褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 黒色	焼土粒子・炭化粒子微量	22 暗赤褐色	焼土粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	23 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
8 灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	24 灰褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
9 黒褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	25 灰褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
10 灰褐色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	26 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
11 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量	27 暗褐色	炭化粒子少量，焼土粒子微量
12 灰褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	28 黒色	焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
13 暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	29 灰褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
14 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	30 にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量
15 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量	31 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16 暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	32 黒褐色	炭化粒子微量
		33 暗褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子微量

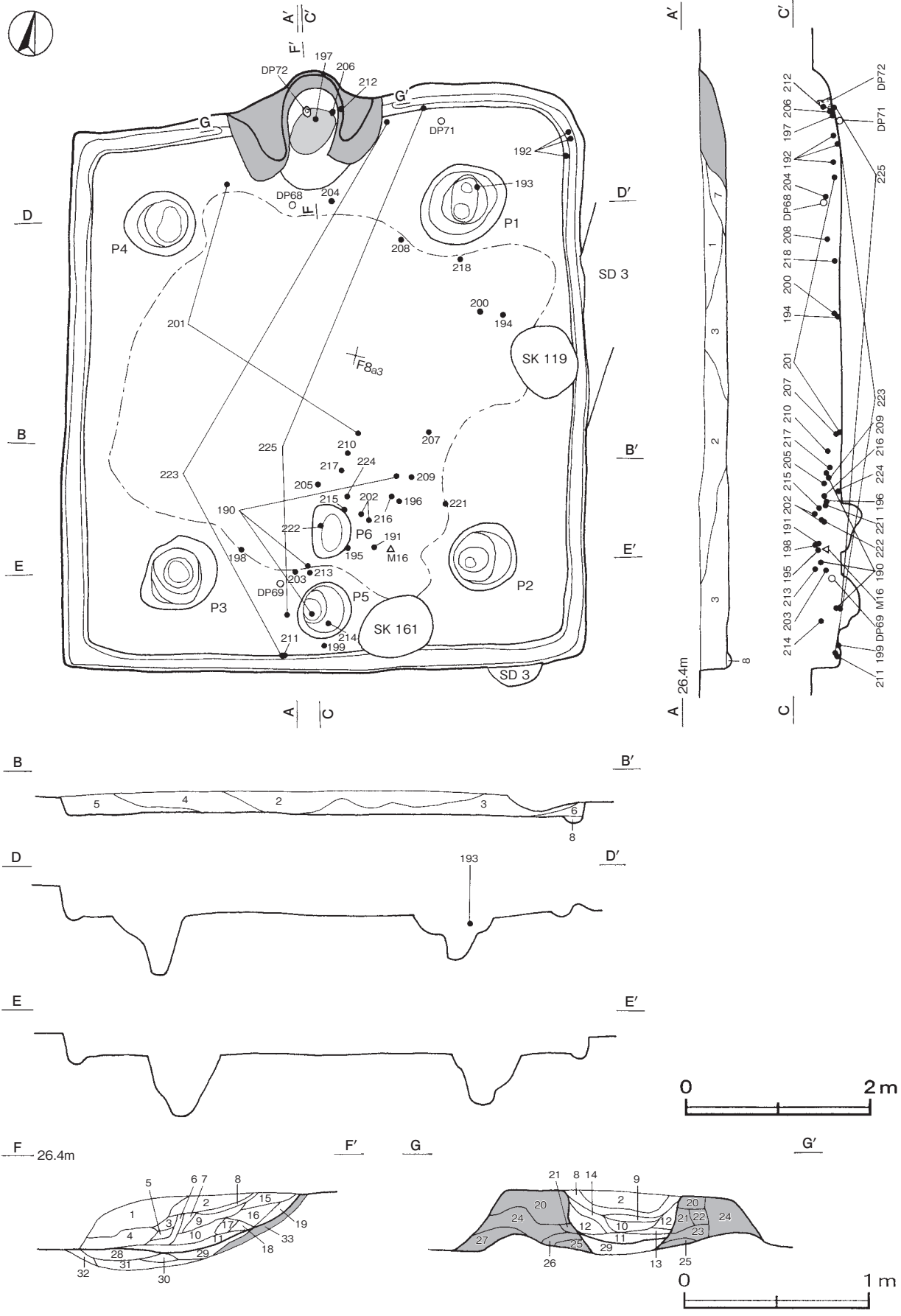
ピット 6か所。P 1～P 4は深さ52～68cmで，主柱穴である。P 5は深さ24cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ26cmで，P 5の内側に位置しているが，性格は不明である。

覆土 8層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

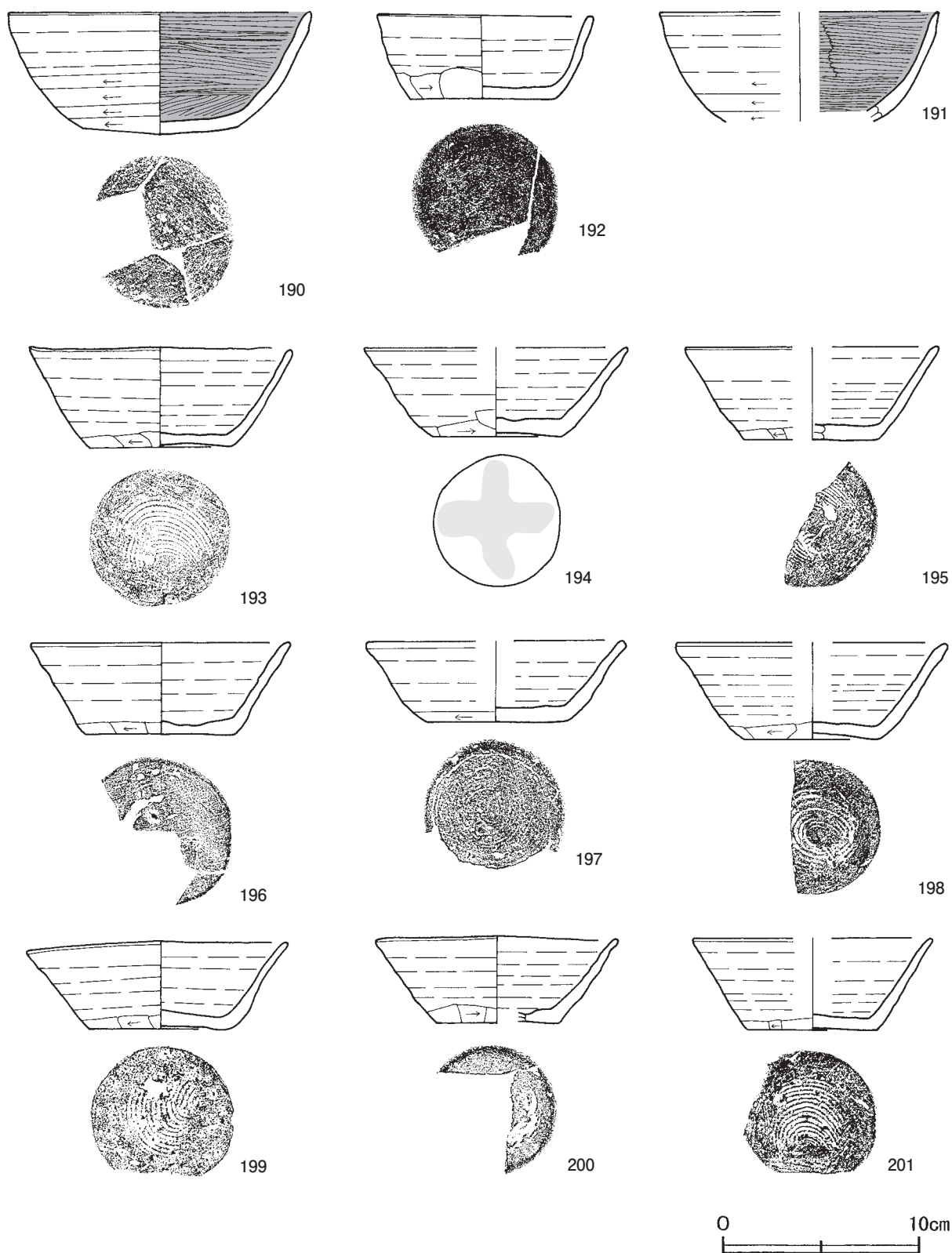
1 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	7 黒褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	8 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片951点（坏類90・高台付椀2・甕類858・甌1），須恵器片454点（坏類264・高台付坏14・蓋55・瓶類8・甕類107・甌6），灰釉陶器片4点（瓶類），土製品19点（土玉類6・管状土錘11・支脚2），鉄製品2点（刀子・不明）が出土している。197・206・212は竈火床部，193はP 1内から正位の状態それぞれ出土している。また，211は南壁際から正位の状態，DP71は竈袖部右側，194は東壁際，199は南壁際，224

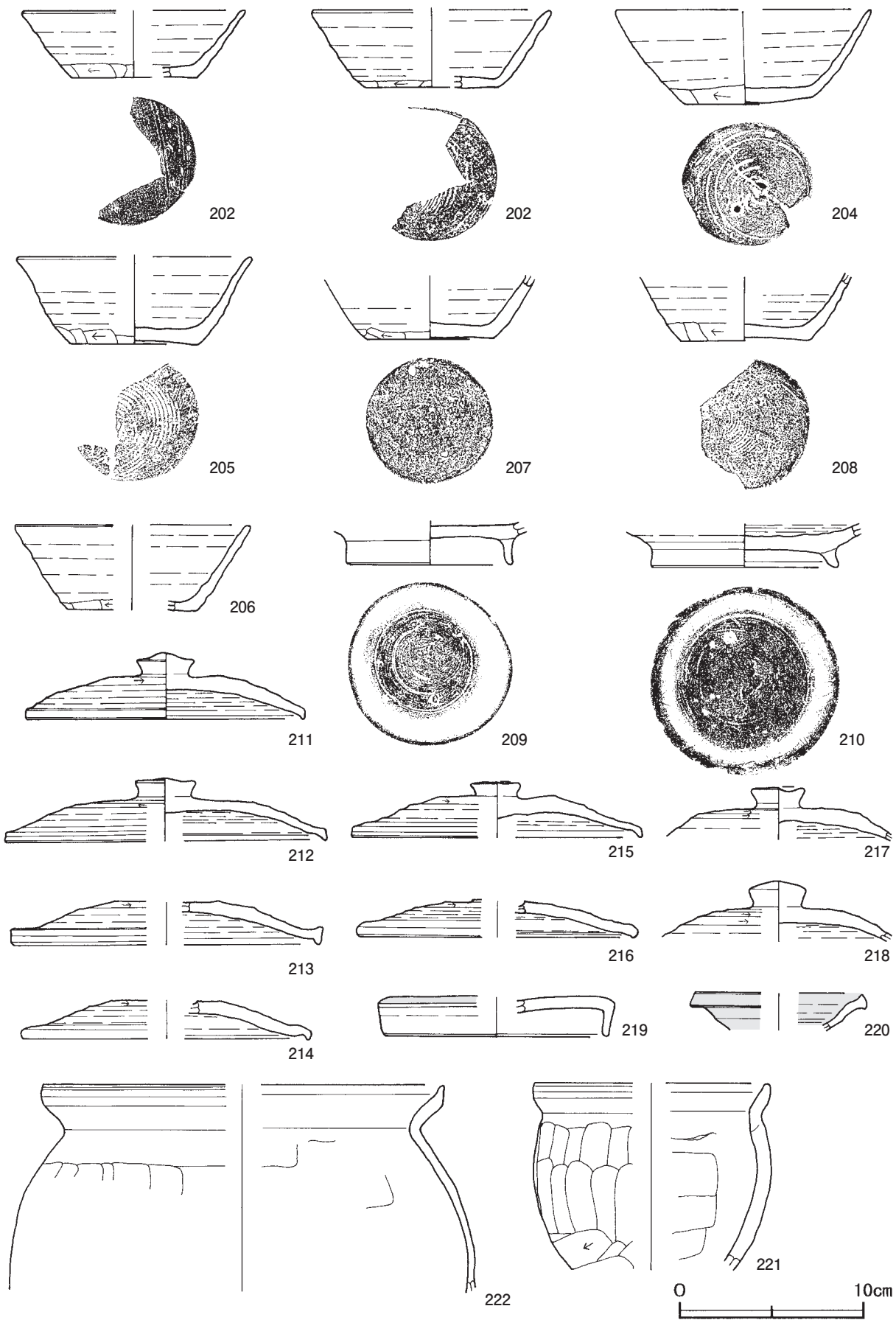


第80图 第20号住居跡実測図

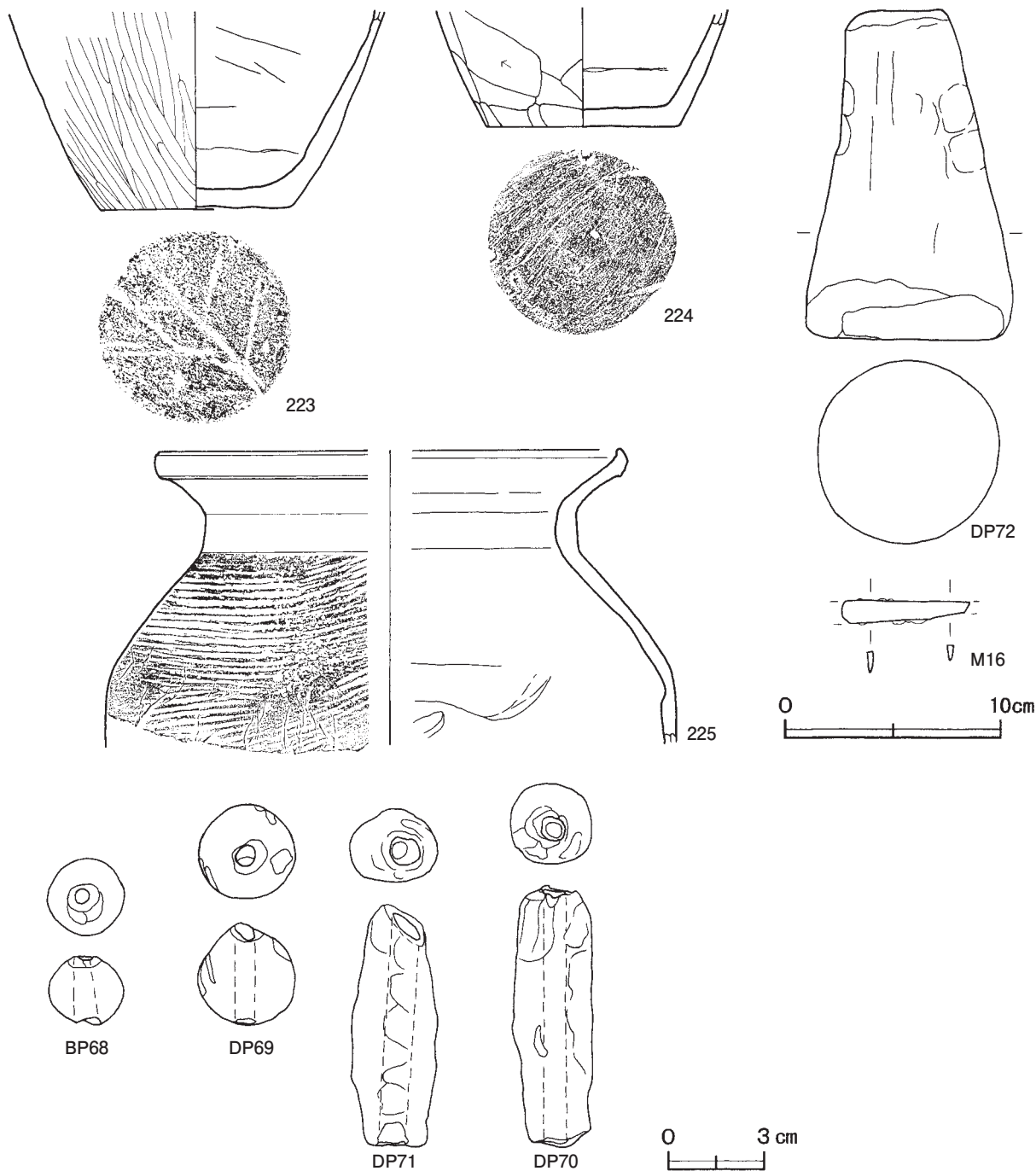
はP 6 付近, 207は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。223は竈袖部右側と南壁際の床面直上, 225は南壁際と北壁際の床面直上, 201は中央部の床面直上と竈袖部左側の覆土下層, 190はP 5の上面とP 6 付近の覆土下層から中層, 192は北東コーナー部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ散らばって出土している。所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第81図 第20号住居跡出土遺物実測図(1)



第82図 第20号住居跡出土遺物実測図(2)



第83図 第20号住居跡出土遺物実測図(3)

第20号住居跡出土遺物観察表 (第81 ~ 83図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
190	土師器	坏	15.4	6.2	7.8	長石・石英・白雲母	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	P 5 上面 中層~下層	70% PL51
191	土師器	坏	[14.0]	(5.5)	-	長石・石英・白雲母	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り のヘラ磨き	中層	20%
192	須恵器	坏	10.8	4.4	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 持ちヘラ削り	下層~床面	60% PL52 新治B
193	須恵器	坏	13.2	5.1	7.2	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 回転糸切り後手持ちヘラ削り	P 1 内上層	100% PL52 稲敷B
194	須恵器	坏	[13.2]	4.5	6.4	長石・石英・針状鉱物	灰オリーブ	良好	体部下端手持ちヘラ削り 持ちヘラ削り	床面直上	80% PL52 稲敷A 底部外面未善[+]
195	須恵器	坏	[12.8]	4.7	[7.8]	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 回転糸切り後手持ちヘラ削り	中層	40% 稲敷B
196	須恵器	坏	13.0	4.6	7.6	長石・石英	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 持ちヘラ削り	中層	70% PL52 新治B
197	須恵器	坏	[13.0]	4.1	7.0	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り	竈火床部	50% 新治B

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
198	須恵器	坏	[13.6]	4.9	7.0	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	中層	40% 稲敷B
199	須恵器	坏	13.2	4.4	7.2	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	床面直上	60% PL53 稲敷B
200	須恵器	坏	12.2	4.4	6.2	長石・石英	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部手	下層	60% PL53 新治B
201	須恵器	坏	[12.0]	4.6	6.6	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	下層～床面	40% 稲敷B
202	須恵器	坏	[12.0]	3.6	6.8	長石・石英	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部手	中層	40% 新治B
203	須恵器	坏	[12.8]	4.2	7.2	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	中層	30% 稲敷B
204	須恵器	坏	[13.7]	5.1	6.8	長石・石英・ 針状鉱物	オリーブ 黒	普通	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	中層	30% 稲敷A
205	須恵器	坏	[12.6]	4.7	7.0	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	中層	30% 稲敷B
206	須恵器	坏	[12.6]	4.6	[7.0]	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	竈火床部	20% 稲敷B
207	須恵器	坏	-	(3.5)	6.8	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部手	床面直上	20% 稲敷B
208	須恵器	坏	-	(3.7)	[7.0]	長石・石英・ 黒色粒子	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 転系切り後手持ちヘラ削り	底部回	中層	30% 稲敷B
209	須恵器	高台付坏	-	(2.2)	8.8	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	中層	中層	30% 稲敷B
210	須恵器	盤	-	(2.4)	10.0	長石・石英・ 白雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	中層	覆土中層	40% 新治A
211	須恵器	蓋	15.0	3.6	-	長石・石英・ 白雲母・赤色粒子	灰黄	良好	扁平擬宝珠状つまみ ヘラ削り後つまみ貼り付け	天井部回転	床面直上	95% PL53 新治A
212	須恵器	蓋	[17.4]	3.4	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	断面逆台形状つまみ ヘラ削り後つまみ貼り付け	天井部回転	竈火床部	30% 稲敷B
213	須恵器	蓋	[16.6]	(2.4)	-	長石・石英・ 白雲母	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	天井部回転	中層	30% 新治A
214	須恵器	蓋	[15.4]	(2.1)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	天井部回転	中層	20% 稲敷B
215	須恵器	蓋	[15.6]	3.0	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り 付け	天井部回転	中層	20% 稲敷A
216	須恵器	蓋	[14.8]	(2.0)	-	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	天井部回転	中層	20% 稲敷B
217	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	長石・石英・ 白雲母	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り 付け	天井部回転	下層	20% 新治A
218	須恵器	蓋	-	(3.2)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り 付け	天井部回転	下層	20% 稲敷A
219	須恵器	蓋	[12.0]	(2.2)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	天井部自然釉	天井部自然釉	P1内覆土中	10% PL53 猿投
220	灰釉陶器	長頸瓶	[9.2]	(2.0)	-	緻密	軸オリーブ黄 胎土灰白	良好	頸部外面稜 内面沈線2条	頸部外面稜	覆土中	10% PL59 猿投
221	土師器	小形甕	[12.6]	(10.0)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	中層	20%
222	土師器	甕	[21.8]	(11.2)	-	長石・石英・ 白雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	中層	20%
223	土師器	甕	-	(9.1)	8.8	長石・石英・ 白雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面下半縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	体部外面下半縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面直上	20%
224	土師器	甕	-	(5.4)	9.0	長石・石英・ 針状鉱物・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	口縁部内・外面横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	床面直上	20%
225	須恵器	甕	[21.6]	(13.7)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰白	良好	口縁部内・外面横位のヘラ削り 平行叩き 頸部から体部内面当具痕	口縁部内・外面横位のヘラ削り 平行叩き 頸部から体部内面当具痕	床面直上	20% 稲敷A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP68	球状土錘	2.4	2.1	0.8	10.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	PL61
DP69	球状土錘	3.0	3.1	0.6	26.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL61
DP70	管状土錘	2.7	8.1	0.7	51.1	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP71	管状土錘	2.7	7.6	0.9	35.6	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	床面直上	PL61

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP72	支脚	15.4	4.6	9.7	1105.2	粘土	ナデ 指頭痕	竈火床部	PL63

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	刀子	(6.0)	1.1	0.3	(5.2)	鉄	刃部・茎部一部欠損	中層	

第21号住居跡（第84図）

位置 調査 I 区東部の F 8 d7区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

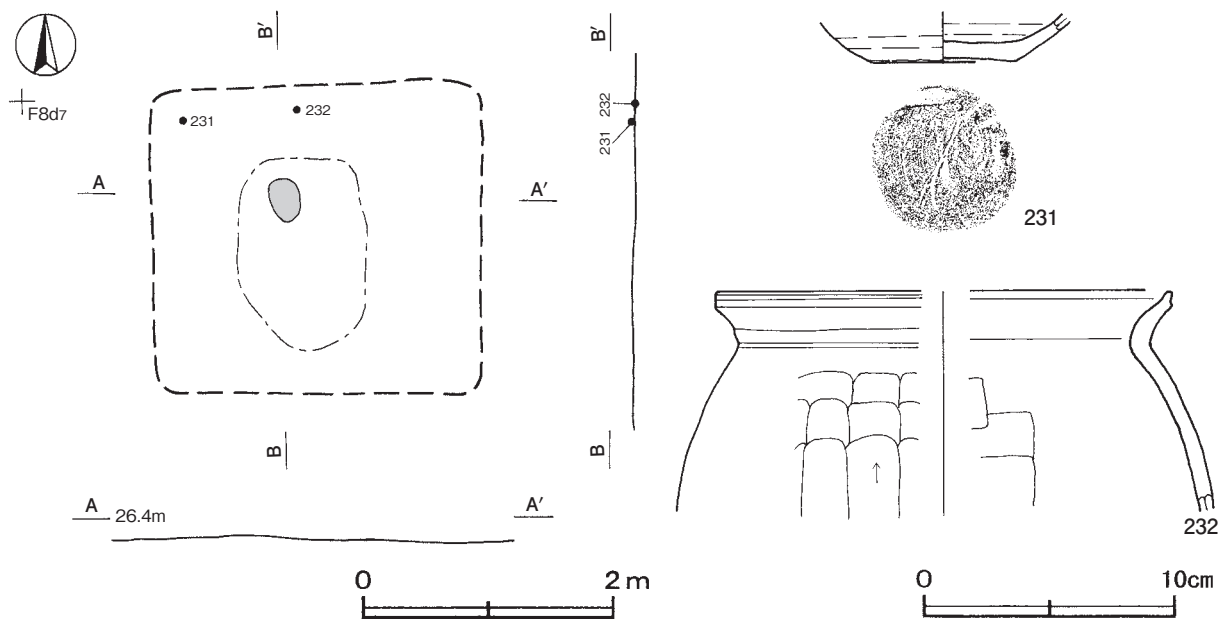
規模と形状 壁が削平されているが、遺物及び床の広がりから推測した規模は、東西軸が2.6m、南北軸が2.5mである。主軸方向及び形状は不明である。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部北寄りに付設されており、長径36cm、短径26cmの楕円形の地床炉である。炉床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面はわずかに赤変している。

遺物出土状況 土師器片2点（坏・甕）が出土している。232は北壁際、231は北西コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第84図 第21号住居跡・出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
231	土師器	坏	-	(1.9)	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	床面直上	30%
232	土師器	甕	[18.0]	(8.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	10%

第23号住居跡（第85・86図）

位置 調査I区西部のF7b4区、標高25.2mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第25号土坑に掘り込まれている。

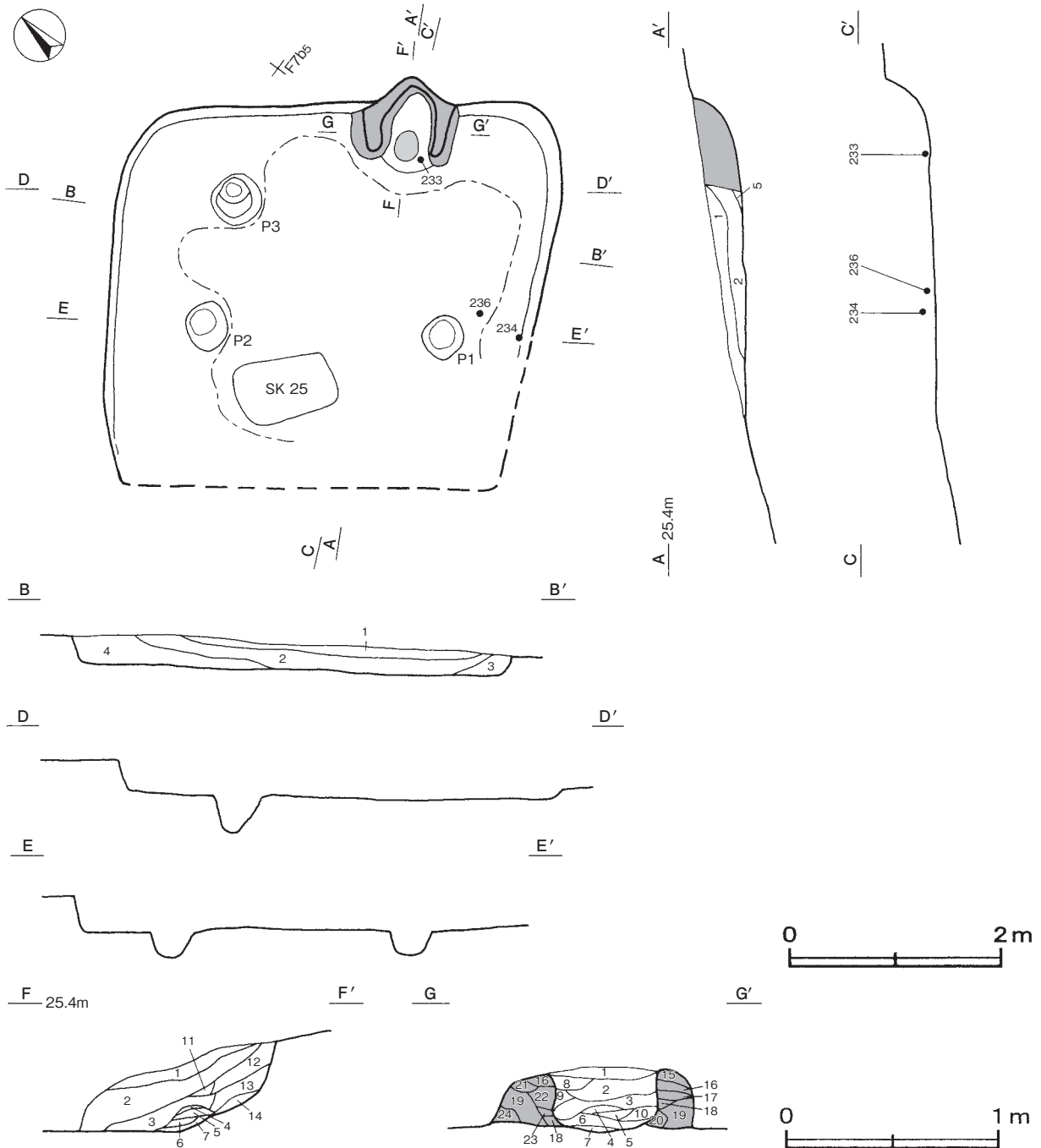
規模と形状 東西軸が4.16mで、南北軸は3.60mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-55°-Eである。壁高は36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

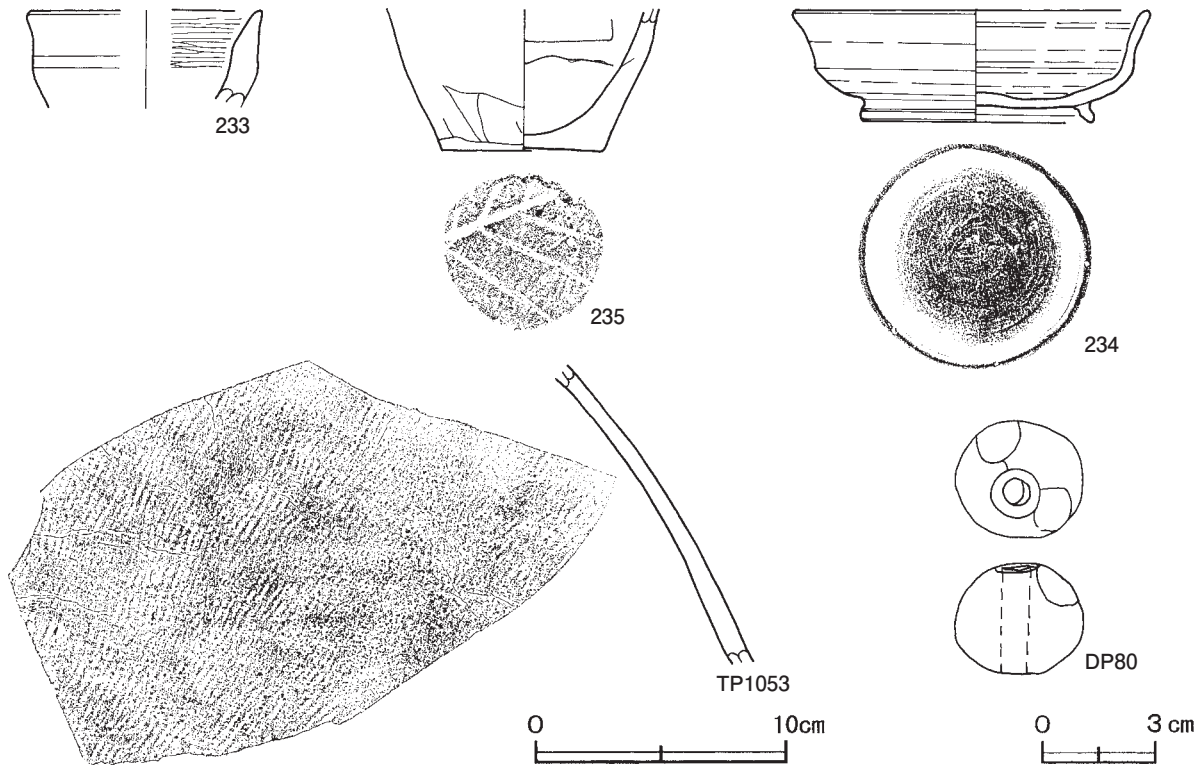
竈 北東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで80cm、燃焼部幅39cmである。袖部は第15～24層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 砂質粘土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 15 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 17 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 黒色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 19 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 | 20 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 | 22 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 23 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | 24 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 12 黒褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |
| 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第85図 第23号住居跡実測図



第86図 第23号住居跡出土遺物実測図

ピット 3か所。深さ24～38cmで、主柱穴である。

覆土 5層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------------|---|-----|----------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子 | 3 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 微量 | 4 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | 砂質粘土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 | 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片261点（坏類22・甕類239），須恵器片36点（坏類18・高台付坏2・蓋6・瓶類3・甕類7），土製品1点（球状土錘）が出土している。233は竈火床部から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
233	土師器	坏	[9.2]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面横位のヘラ磨き 体部内・外面ナデ	竈火床部	10%
234	須恵器	高台付坏	14.2	4.5	9.0	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	下層	60% PL53 新治B
235	土師器	甕	-	(5.6)	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	竈覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP1053	須恵器	甕	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部外面斜位の平行叩き, 自然釉内面磨れ	下層	5% 猿投

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP80	球状土錘	3.4	2.9	0.8	31.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第24号住居跡 (第87・88図)

位置 調査I区東部のF8d6区, 標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18・26・45号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.74m, 短軸2.26mの長方形で, 主軸方向はN-75°-Eである。壁高は6~16cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

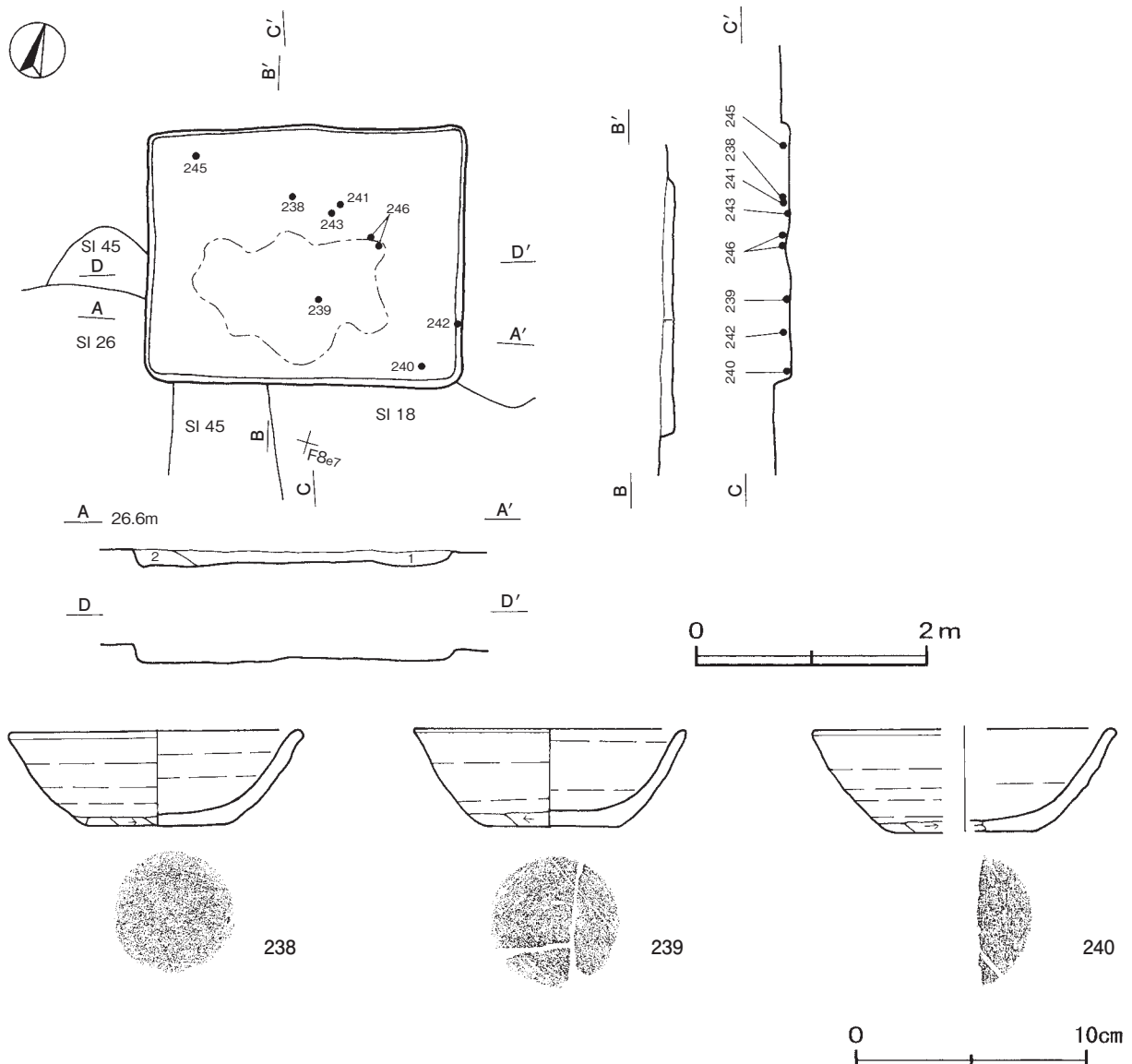
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

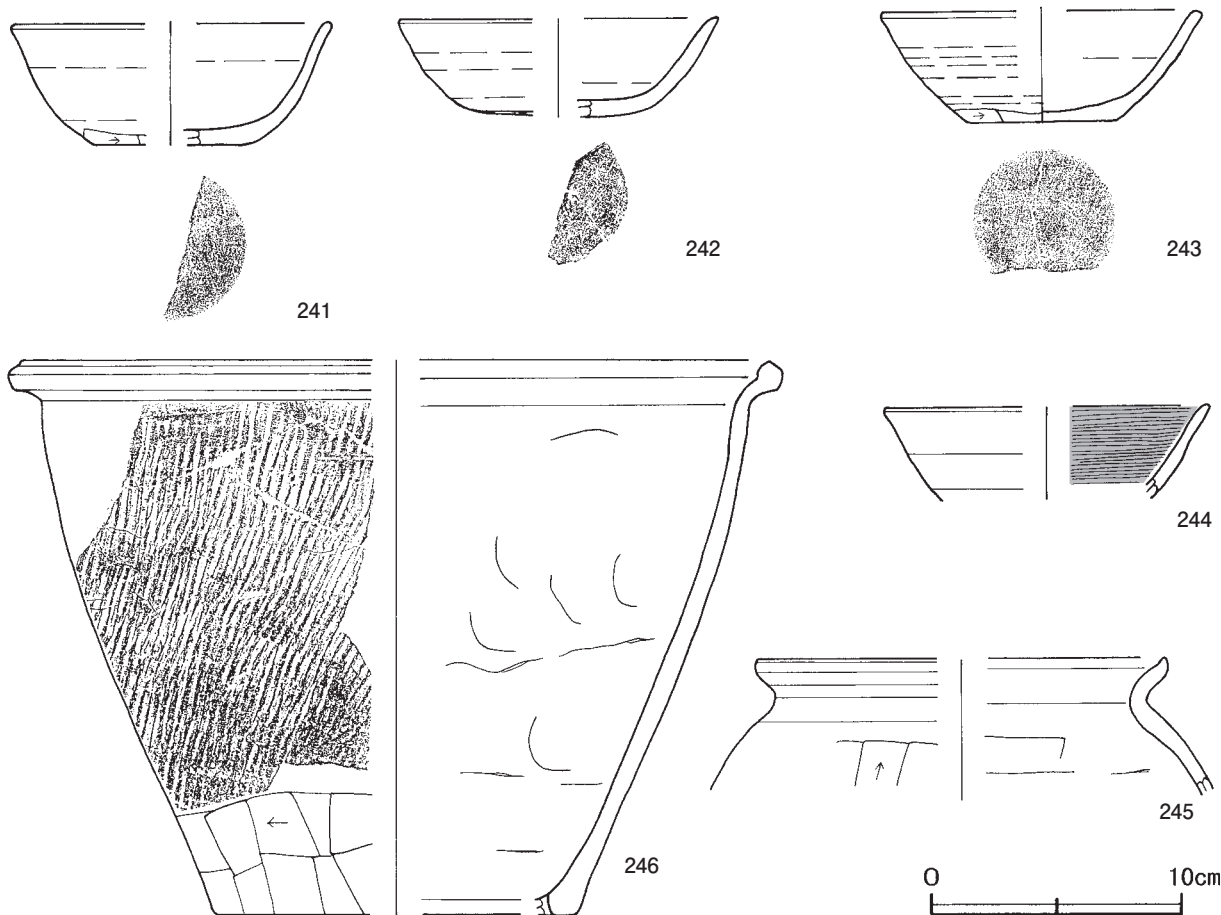
- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片88点(坏類42・高台付椀3・甕類43), 須恵器片29点(坏類8・高台付坏1・甕類18・甑2)が出土している。238・239はどちらも中央部から正位の状態, 240・242は南東コーナ一部, 245は北西コーナ一部, 241・246は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第87図 第24号住居跡・出土遺物実測図



第88図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第87・88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
238	土師器	坏	12.4	4.1	5.4	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	80% PL53
239	土師器	坏	11.6	4.3	5.8	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	80% PL53
240	土師器	坏	[13.0]	4.4	[6.0]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	50%
241	土師器	坏	[12.6]	4.8	[6.0]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	30%
242	土師器	坏	[12.6]	3.8	[5.4]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	20%
243	土師器	坏	[12.6]	4.4	5.8	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	60%
244	土師器	坏	[12.8]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面横位のヘラ磨き	覆土中	10%
245	土師器	甕	[16.2]	(5.4)	-	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	10%
246	須恵器	甌	[30.0]	22.0	[14.4]	長石・石英・白雲母	灰	良好	口縁部内・外面クロナデ 体部外面縦位の平行叩き、下端横位のヘラ削り 内面当具痕	床面直上	20% 新治A

第25号住居跡（第89・90図）

位置 調査I区中央部のF7c0区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第58号住居跡、第243号土坑を掘り込み、第160・162・163号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

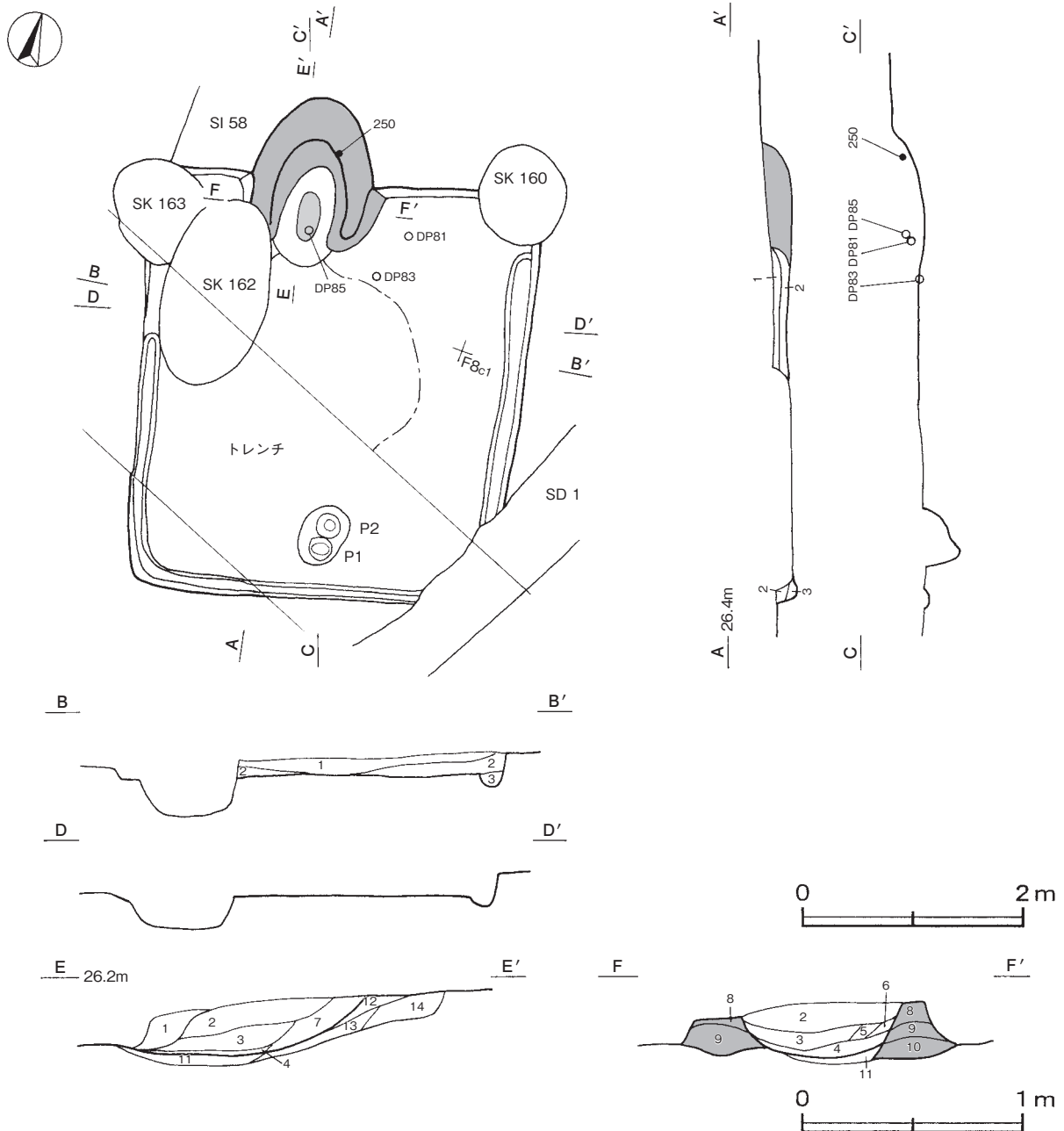
規模と形状 長軸3.84m、短軸3.58mの方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁高は10～24cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北側を除く壁下には幅16～22cm、深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで114cm、燃焼部幅48cmである。袖部は第8～10層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量 | 10 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |



第89図 第25号住居跡実測図

ピット 2か所。P1・P2は深さ24cm・30cmで、P2のほうが新しい。両方とも南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

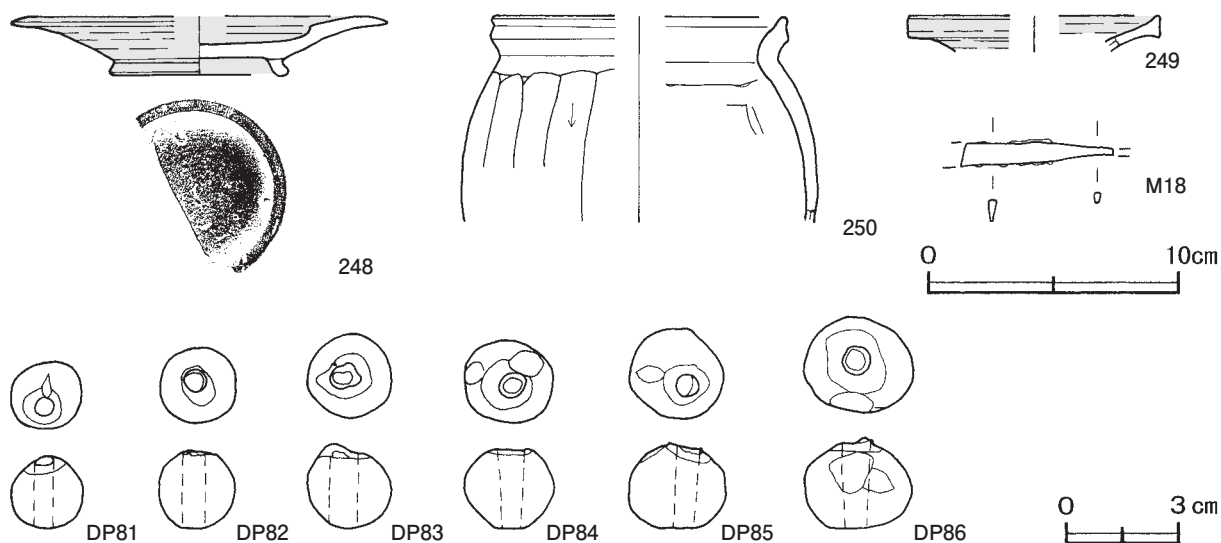
覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片369点(坏類126・高台付椀4・甕類239), 須恵器片43点(坏類14・高盤1・甕類27・甌1), 土製品6点(土玉類), 鉄製品1点(刀子)が出土している。DP85は竈火床部, 250は竈煙道部からそれぞれ出土している。また, DP83は竈袖部右側の床面直上から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第90図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	緑釉陶器	段皿	[20.0]	2.3	7.0	緻密	釉暗オリーブ 胎土にふい黄橙	良好	内面段り付け 底部回転糸切り後高台貼	覆土中	30% PL53 猿投
249	灰釉陶器	長頸瓶	[10.0]	(1.4)	-	緻密	釉灰黄 胎土灰黄	良好		覆土中	10% PL59 猿投
250	土師器	小形甕	[11.6]	(8.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈煙道部	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP81	土玉	1.9	1.8	0.5	5.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL60
DP82	土玉	2.0	2.1	0.6	7.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP83	球状土錘	2.2	2.2	0.8	8.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	PL60
DP84	球状土錘	2.4	2.1	0.7	11.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP85	球状土錘	2.5	2.2	0.6	14.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	竈火床部	PL60
DP86	球状土錘	2.9	2.4	0.8	16.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	刀子	(6.2)	1.0	0.3	(5.2)	鉄	刃部・茎部一部欠損	覆土中	

第26号住居跡（第91～93図）

位置 調査I区東部のF 8 e6区，標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7・18・45号住居跡を掘り込み，第24号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m，短軸2.92mの長方形で，主軸方向はN-11°-Wである。壁高は18～24cmで，ほぼ直立している。

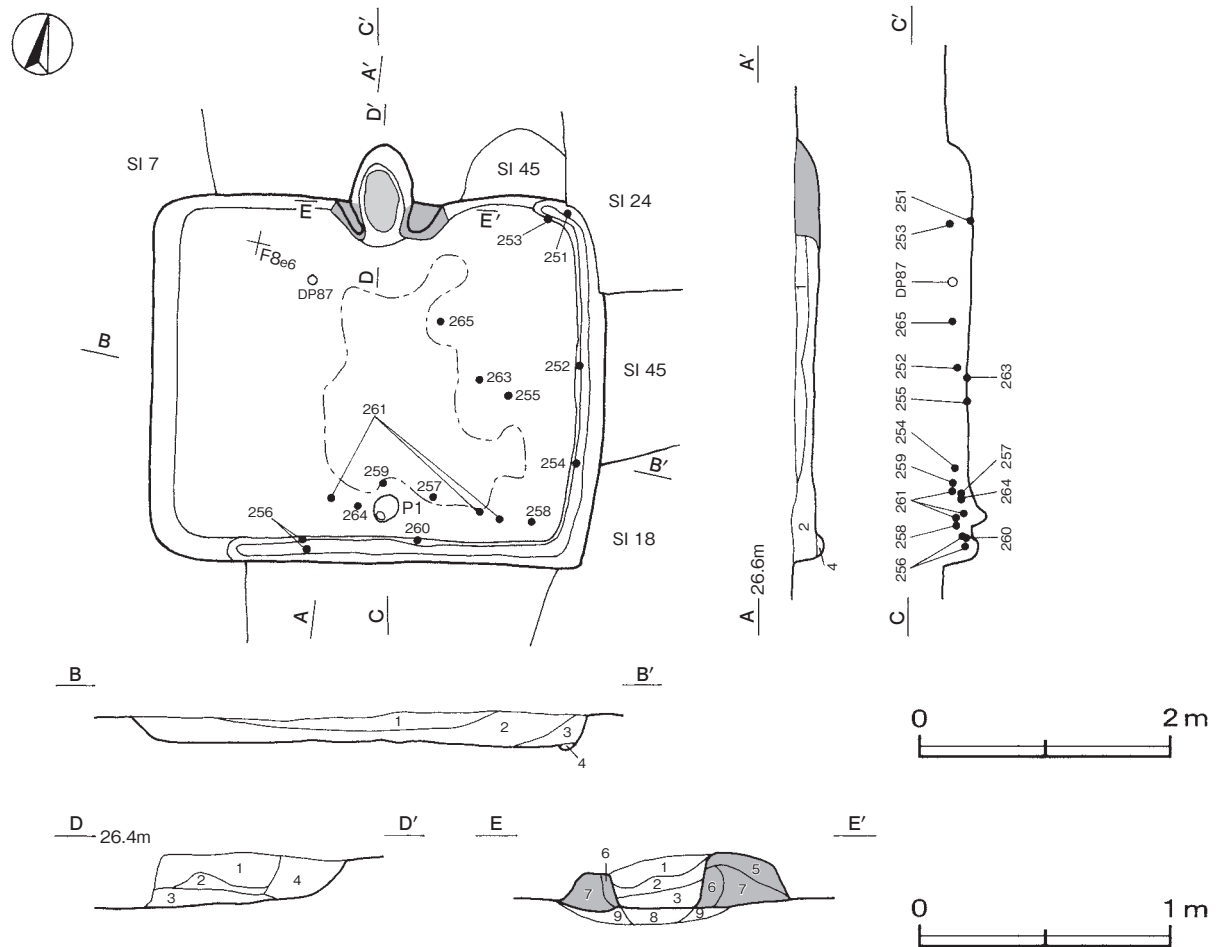
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北側を除く壁下には幅16～24cm，深さ2～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで82cm，燃烧部幅33cmである。袖部は第5～7層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

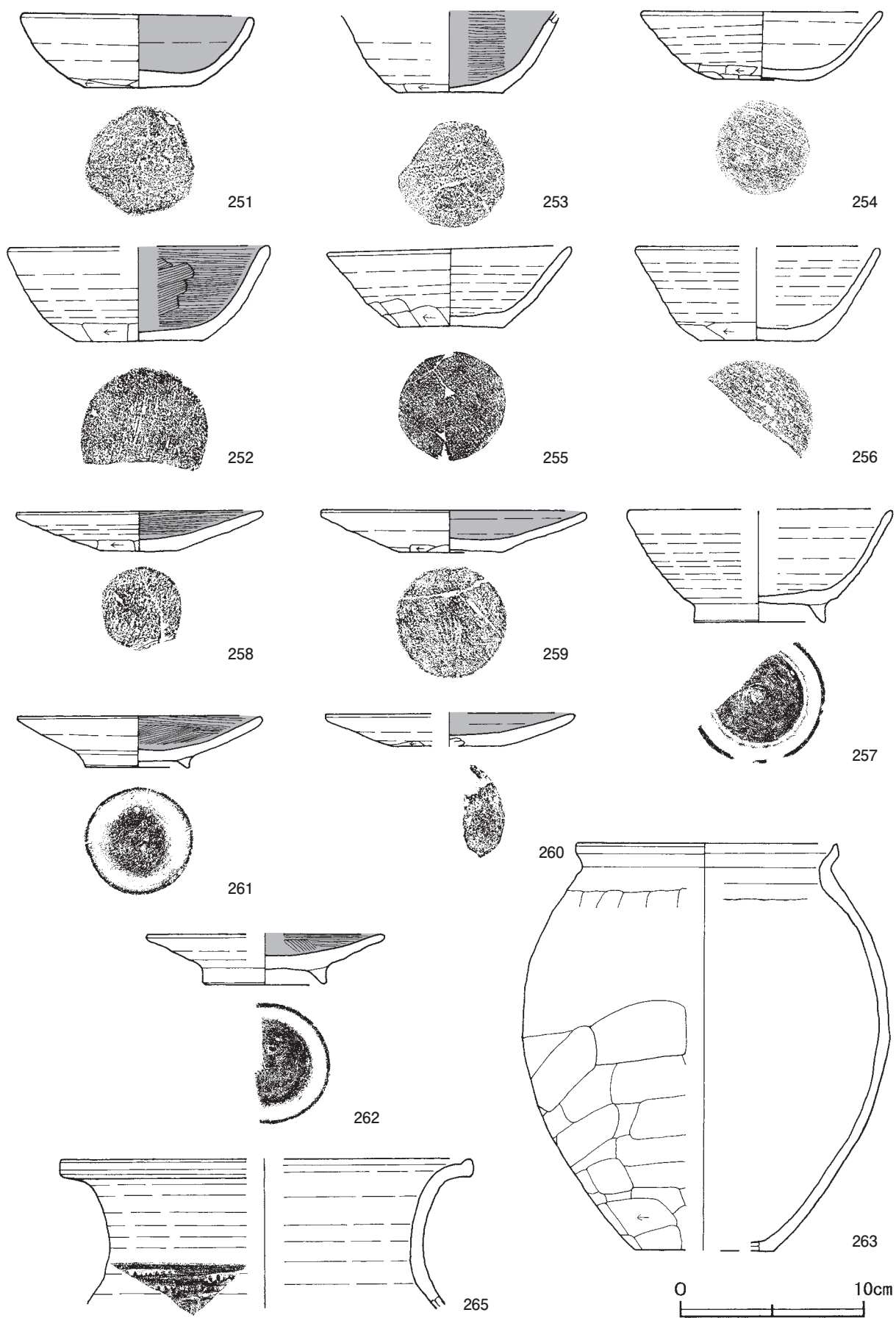
竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 灰褐色 | 焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

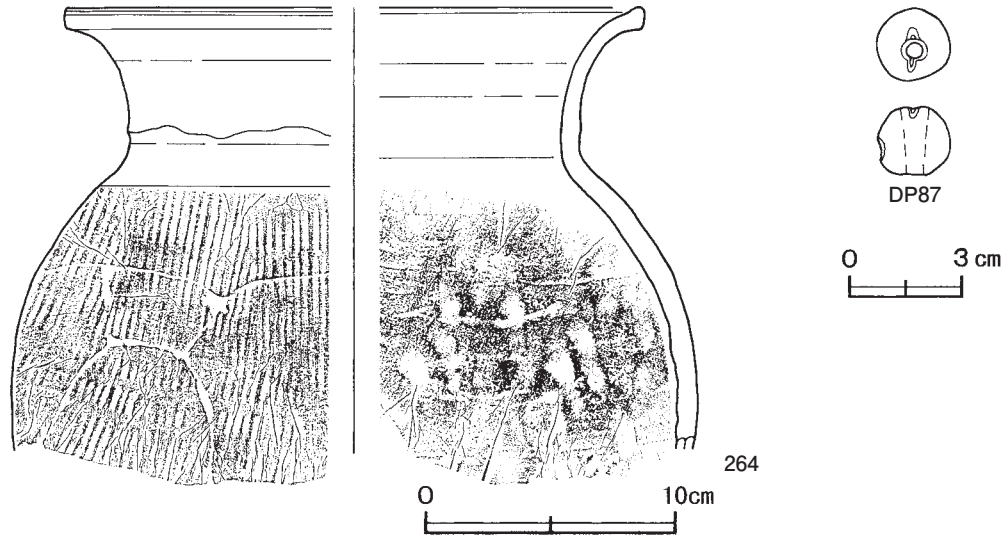
ピット 深さ14cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第91図 第26号住居跡実測図



第92図 第26号住居跡出土遺物実測図(1)



第93図 第26号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片486点（坏類191・皿18・高台付皿4・甕類272・甌1），須恵器片91点（坏類45・高台付坏2・盤4・高盤1・蓋2・甕類37），土製品2点（土玉類）が出土している。251は北東コーナー壁溝覆土から逆位の状態で出土している。また、255は東壁際から正位の状態、257はP1付近、260は南壁際、263は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。256は南側壁溝の上面から出土している。261は南壁際の床面から覆土下層にかけて散らばって出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表（第92・93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	土師器	坏	12.4	4.0	5.8	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	北東コーナー壁溝内	90% PL53
252	土師器	坏	[14.0]	5.1	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	60%
253	土師器	坏	-	(4.4)	5.8	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	30%
254	須恵器	坏	12.8	3.8	5.2	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	100% 稲敷A
255	須恵器	坏	13.2	4.4	5.8	長石・石英・針状鉾物	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	100% PL54 稲敷A
256	須恵器	坏	[13.0]	5.1	6.4	長石・石英・針状鉾物	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	南壁溝上面	40% 稲敷A
257	須恵器	高台付坏	[14.2]	6.1	7.0	長石・石英・針状鉾物	にぶい黄	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床面直上	30% 稲敷A
258	土師器	皿	13.4	2.2	4.2	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	70% PL54
259	土師器	皿	14.0	2.2	5.8	長石・石英赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	60% PL54
260	土師器	皿	[13.4]	1.8	[5.4]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	赤橙	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	50%
261	土師器	高台付皿	13.0	2.8	5.6	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層～床面直上	100% PL54
262	土師器	高台付皿	[12.6]	2.7	6.4	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	覆土中	20%
263	土師器	小形甕	14.2	22.0	[7.6]	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	70% PL56
264	須恵器	甕	[23.0]	(17.5)	-	長石・石英・針状鉾物	灰黄	普通	口縁部内・外面クロナデ 体部外面縦位の平行叩き 頸部から体部内面当具痕	下層	30% 稲敷A
265	須恵器	甕	[22.2]	(8.1)	-	長石・石英・針状鉾物	灰	良好	口縁部内・外面クロナデ 体部外面縦位の平行叩き	下層	30% 稲敷A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP87	土玉	1.9	1.8	0.7	7.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

第27号住居跡（第94図）

位置 調査I区中央部のF7a8区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号土坑に掘り込まれている。

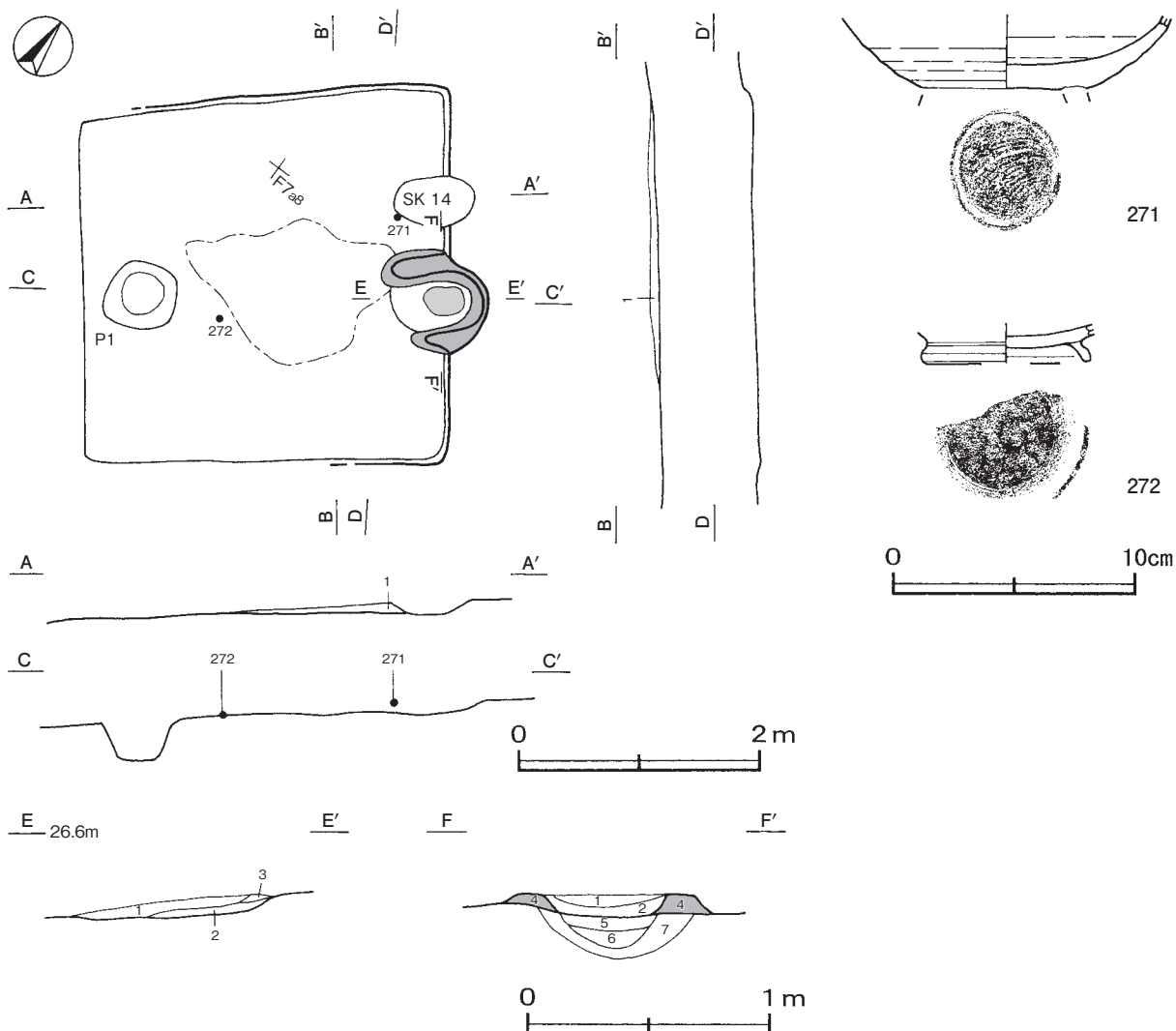
規模と形状 南北軸が2.98mで東西軸は3.10mしか確認できなかった。方形または長方形と推測され、主軸方向はN-52°-Eである。壁高は6cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで76cm、燃烧部幅38cmである。袖部は第4層のロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | |



第94図 第27号住居跡・出土遺物実測図

ピット 深さ36cmで、南西壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 層厚が薄く、遺存するのが1層だけであるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片57点（坏類15・高台付椀4・甕類38）、須恵器片4点（坏類3・高台付坏1）が出土している。272は中央部の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
271	土師器	高台付椀	-	(3.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ナデ 底部回転糸切り後高台貼り付け	下層	20%
272	土師器	高台付椀	-	(1.5)	[6.8]	長石・石英・白雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ナデ 底部ナデ後高台貼り付け	床面直上	10%

第28号住居跡（第95～98図）

位置 調査I区中央部のF 8c3区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第96号土坑を掘り込み、第55号住居、第5号掘立柱建物、第136号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.32m、短軸5.74mの長方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は6～20cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅12～20cm、深さ4～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されているが、右袖部は第5号掘立柱建物に掘り込まれている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで122cmで、確認できた燃焼部幅は70cmである。袖部は第6層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量
 2 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
 3 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量、ローム粒子微量
 5 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
 6 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量

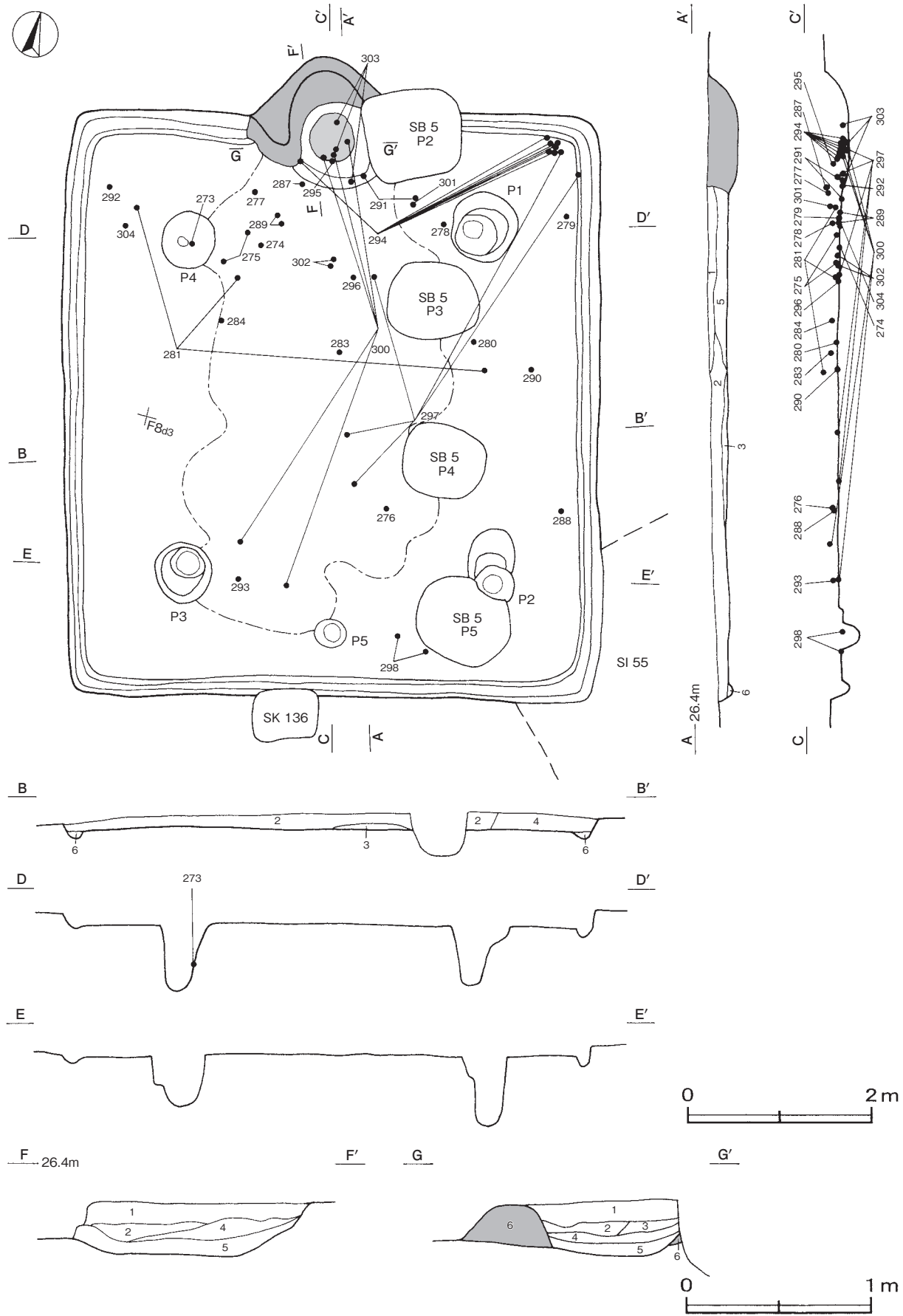
ピット 5か所。P1～P4は深さ56～76cmで、主柱穴である。P5は深さ22cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

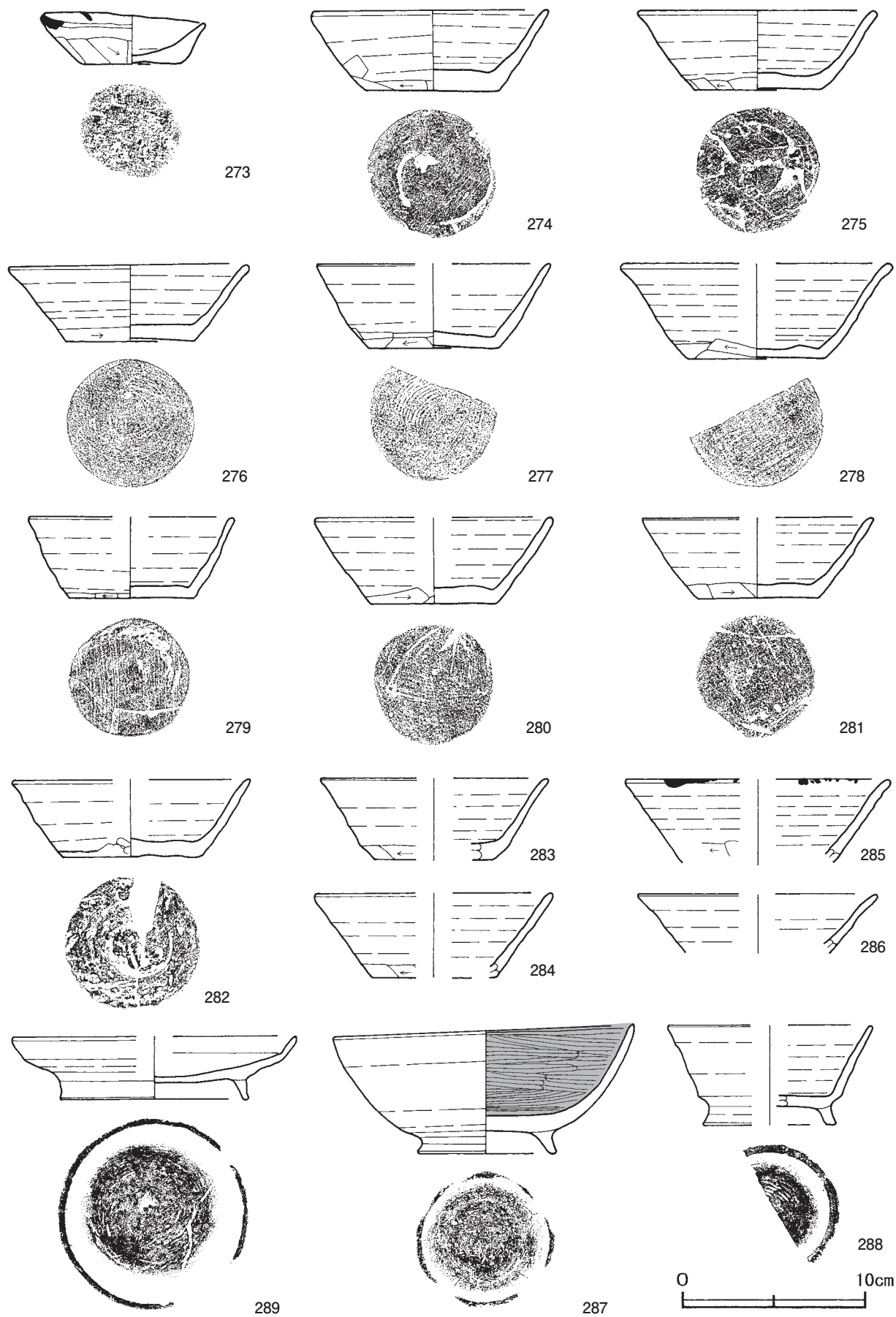
土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・砂質粘土粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

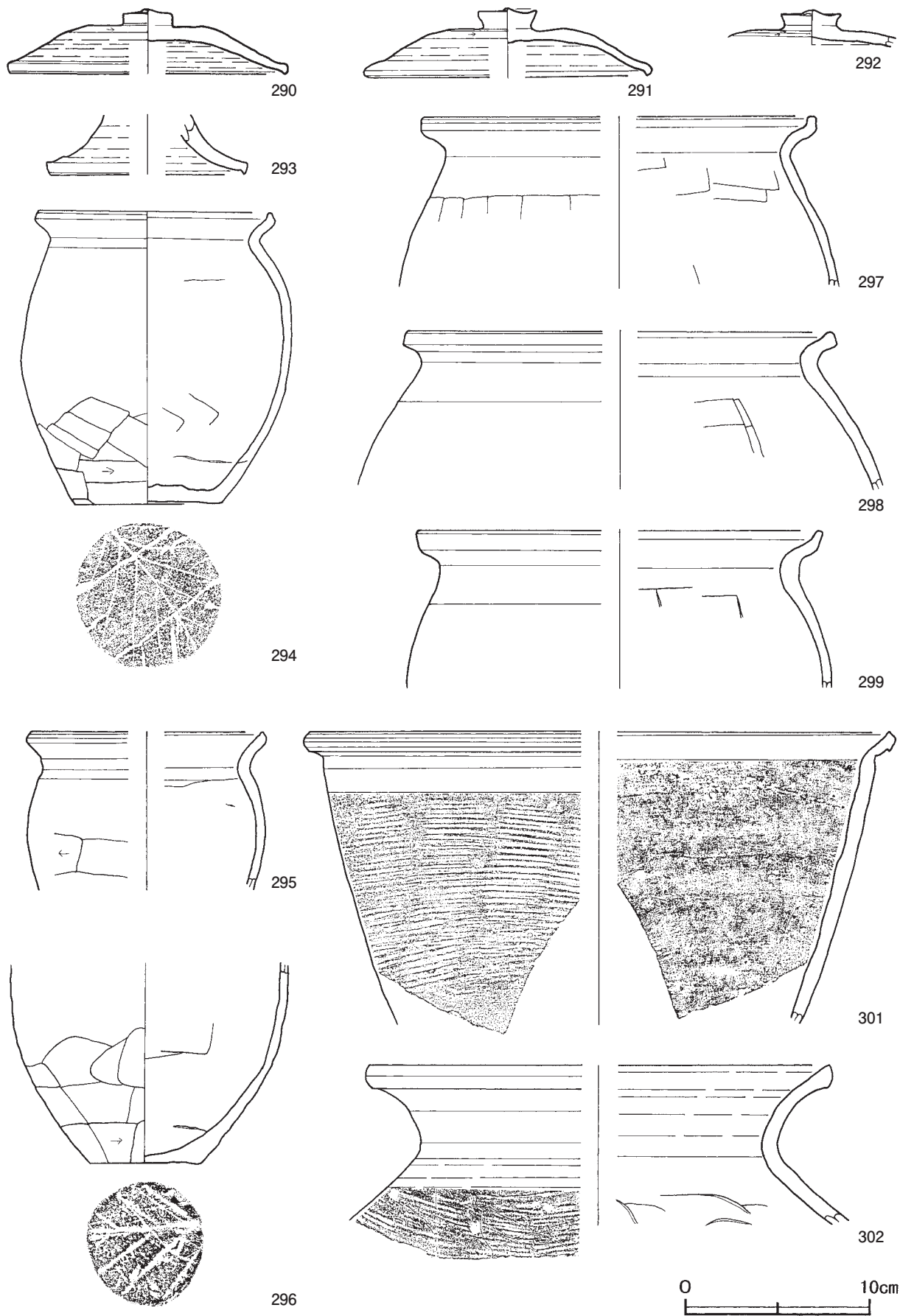
遺物出土状況 土師器片668点（坏類77・高台付椀9・皿3・甕類579）、須恵器片288点（坏類129・高台付坏9・盤1・蓋33・瓶類5・甕類104・甌5・円面硯2）、土製品7点（球状土錘1・管状土錘5・支脚片1）、鉄滓1点が出土している。303は竈焚口から火床部、295は竈火床部、291は竈焚口部と竈手前の覆土下層、300は竈火床部とP3付近の覆土下層、273はP4内から正位の状態でそれぞれ出土している。また、274は竈焚口



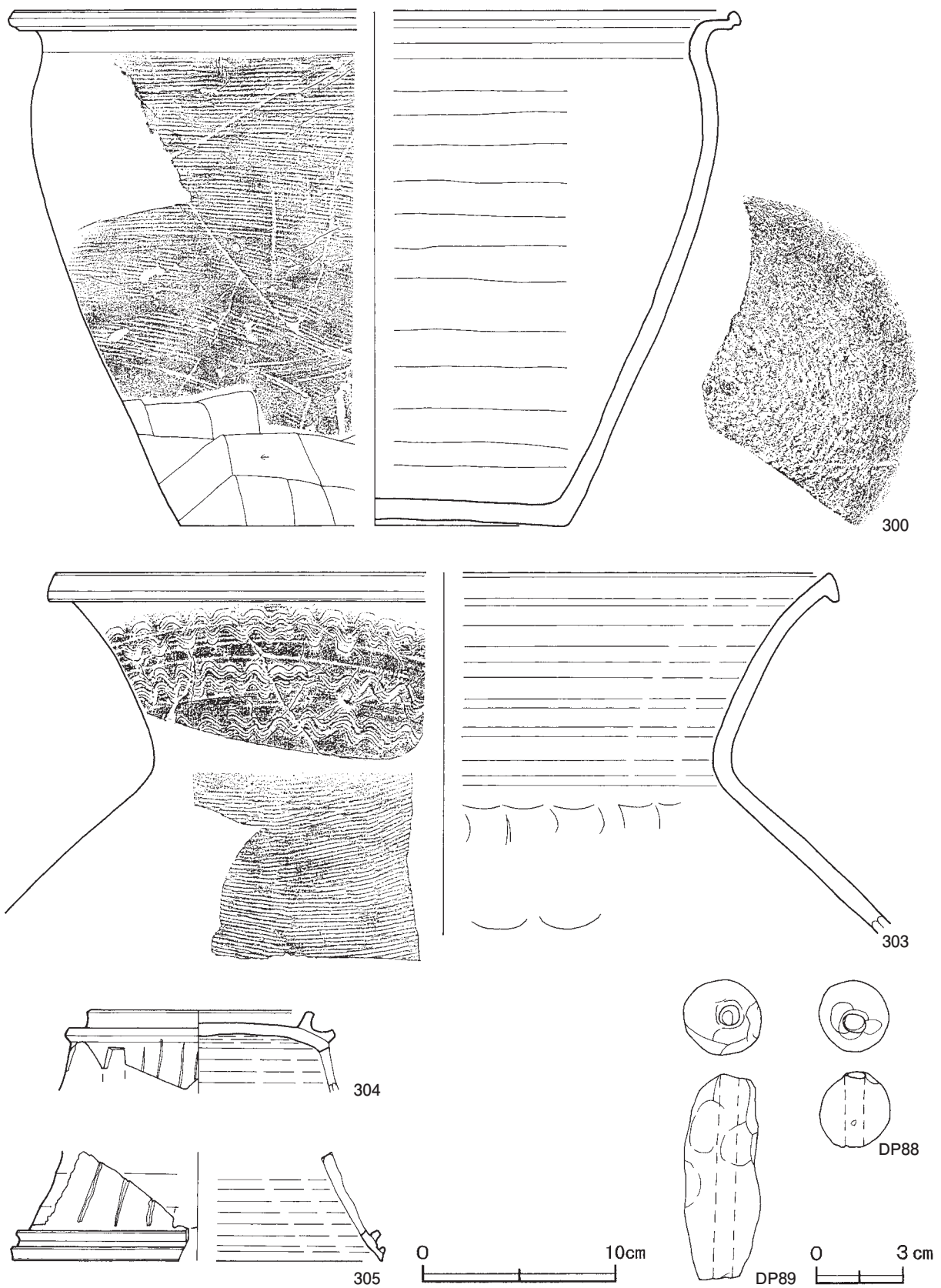
第95图 第28号住居跡実测图



第96図 第28号住居跡出土遺物実測図(1)



第97图 第28号住居跡出土遺物実測図(2)



第98図 第28号住居跡出土遺物実測図(3)

部前側から正位の状態, 275はP 4付近, 294は北東コーナー部からつぶれた状態, 302は竈焚口部前側, 279・280・288・290は東壁際, 298は南壁際, 292・304は西壁際, 296は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。297は北東コーナー部と中央部の床面直上, 281はP 4付近の床面と東壁際の覆土中層からそれぞれ散らばって出土している。なお, 303の甕は第20号住居跡から出土したものと同一個体である。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表 (第96～98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
273	土師質土器	小皿	8.8	2.6	5.4	長石・石英・白雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P 4内中層	100% PL54 口縁部内外面油煙付着
274	須恵器	坏	12.8	4.4	7.2	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	床面直上	90% PL54 稲敷A
275	須恵器	坏	12.8	4.3	6.8	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	床面直上	90% PL54 稲敷A
276	須恵器	坏	13.0	4.2	7.0	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	下層	70% PL54 新治B
277	須恵器	坏	[12.6]	4.6	7.0	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	中層	50% 稲敷B
278	須恵器	坏	[14.6]	5.2	7.4	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	40% 新治A
279	須恵器	坏	[11.2]	3.9	6.6	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	床面直上	60% 稲敷A
280	須恵器	坏	[12.8]	4.7	6.8	長石・石英・針状鉱物	灰オリーブ	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	40% 稲敷A
281	須恵器	坏	[12.4]	4.4	6.4	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層～床面	40% 新治B
282	須恵器	坏	[12.8]	4.2	7.4	長石・石英・針状鉱物	黄褐	普通 二次焼成	底部回転ヘラ削り	覆土中	50% 稲敷A
283	須恵器	坏	[12.2]	4.4	[6.6]	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	20% 稲敷A
284	須恵器	坏	[12.8]	4.1	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	暗灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り	下層	20% 新治B
285	須恵器	坏	[14.4]	(4.5)	-	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り	P 4内覆土中	10% 新治A 口縁部内外面油煙付着
286	須恵器	坏	[13.0]	(3.2)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	良好		覆土中	10% 稲敷A
287	土師器	高台付椀	16.2	7.0	7.4	長石・石英	にぶい黄橙	良好	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	中層	70% PL54
288	須恵器	高台付坏	[11.0]	5.4	[7.0]	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部回転糸切り後高台貼り付け	床面直上	40% 稲敷B
289	須恵器	盤	[15.4]	3.4	10.2	長石・石英・白雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	床面直上	60% 新治A
290	須恵器	蓋	[15.0]	3.4	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面直上	40% 稲敷B
291	須恵器	蓋	[15.2]	3.7	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	竈焚口部・下層	30% 稲敷B
292	須恵器	蓋	-	(2.0)	-	長石・石英	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	床面直上	30% 新治B
293	須恵器	高盤	-	(3.2)	[10.6]	長石・石英	黄灰	良好		下層	10% 新治B
294	土師器	小形甕	12.6	15.9	8.0	長石・石英・白雲母	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面直上	80% PL55
295	土師器	小形甕	[12.6]	(8.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床部	20%
296	土師器	甕	-	(10.8)	6.2	長石・石英・白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 下端ヘラナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	床面直上	50%
297	土師器	甕	[21.0]	(9.2)	-	長石・石英・白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面直上	20%
298	土師器	甕	[22.8]	(8.5)	-	長石・石英・白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面直上	20%
299	土師器	甕	[21.6]	(8.5)	-	長石・石英・白雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	10%
300	須恵器	鉢	[37.4]	26.6	[20.0]	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	体部横位の平行叩き 下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床部・下層	30% 稲敷A
301	須恵器	鉢	[31.4]	(15.7)	-	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	体部横位の平行叩き 内面当具痕	中層	20% 稲敷A
302	須恵器	甕	[25.0]	(8.6)	-	長石・石英	灰	良好	体部横位の平行叩き 頸部から体部内面当具痕	床面直上	20% 新治B
303	須恵器	甕	[40.0]	(18.7)	-	長石・石英	褐灰	良好	口縁部外面幅波状文を施文 体部横位の平行叩き 頸部から体部内面当具痕	竈焚口～火床部 S120 覆土中	10% 新治B
304	須恵器	円面硯	11.4	(4.1)	-	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	脚部に6条以上の鋭い沈線・透し孔6か所	床面直上	40% PL55 木葉下
305	須恵器	円面硯	-	(5.6)	[19.0]	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	脚部に3条以上の鋭い沈線・透し孔6か所	P 1内覆土中	10% PL55 稲敷B

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP88	球状土錘	2.4	2.6	0.8	13.9	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP89	管状土錘	2.6	7.1	0.7	48.2	土(長石・石英)	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	覆土中	PL61

第29号住居跡（第99図）

位置 調査Ⅰ区中央部のE7h7区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第35号住居跡を掘り込み、第12号掘立柱建物、第229号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.30m、短軸2.76mの長方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は2~4cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。東側と西側の一部の壁下には幅12~18cm、深さ2~4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで102cm、燃焼部幅41cmである。袖部は第3層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

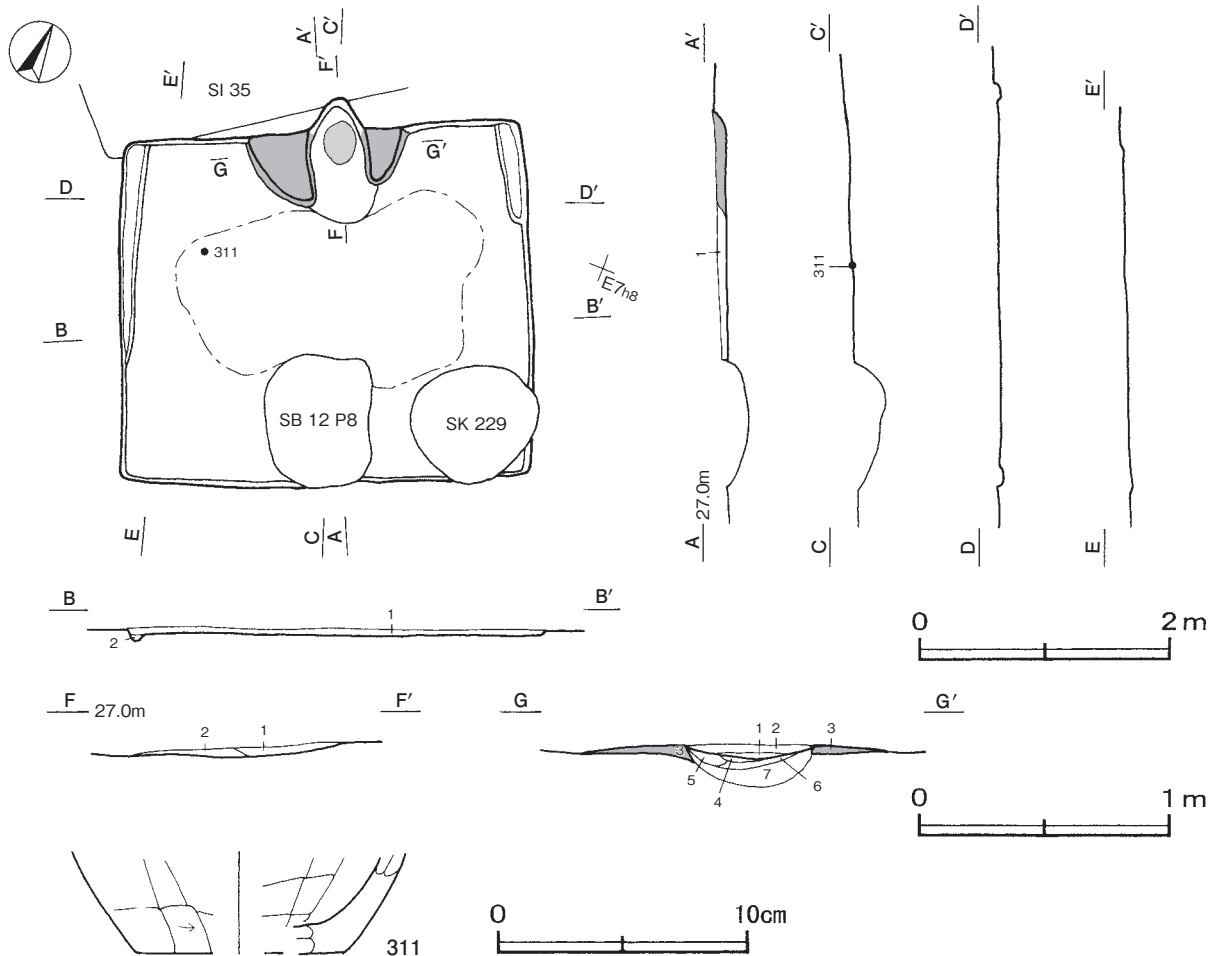
竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | |

覆土 層厚が薄く、壁溝の覆土以外遺存するのが1層だけであるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
|------------------------|--------------------|



第99図 第29号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）が出土している。311は中央部の床面直上から出土している。

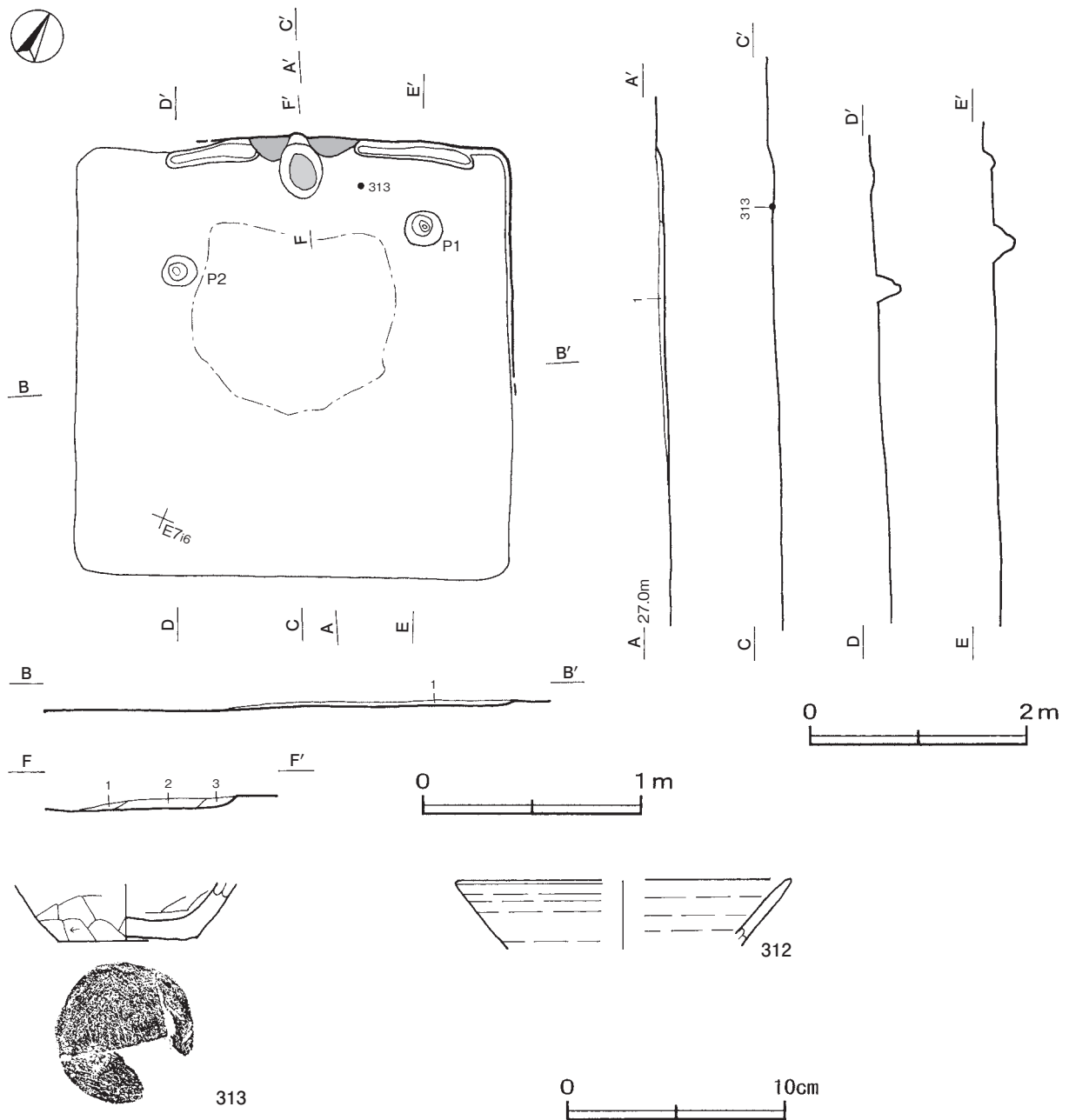
所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
311	土師器	甕	-	(3.9)	[8.4]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下端ヘラナデ ナデ 内面ヘラナデ 底部木葉痕カ	床面直上	10%

第30号住居跡（第100図）

位置 調査I区中央部のE7h6区、標高26.9mの台地平坦部に位置している。



第100図 第30号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 東西南北軸4.00mが確認され、方形と推測される。主軸方向はN-21°-Wである。壁高は4cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北側の壁下には幅18～20cm、深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されているが、袖部は一部削平されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで66cm、燃焼部幅37cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されていたものと思われる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に6cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック少量、砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 | | |

ピット 2か所。深さ22・24cmで、支柱穴である。

覆土 層厚が薄く、遺存するのが1層だけであるため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点（甕類）、須恵器片2点（坏・甕類）が出土している。313は竈袖部右側の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
312	須恵器	坏	[15.4]	(3.1)	-	長石・石英・白雲母	橙	普通二次焼成		覆土中	10% 新治A
313	土師器	甕	-	(2.6)	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラナデ 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	床面直上	10%

第31号住居跡（第101・102図）

位置 調査I区中央部のF7e0区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・43号住居跡・第14号掘立柱建物跡を掘り込み、第146・340号土坑に掘り込まれている。

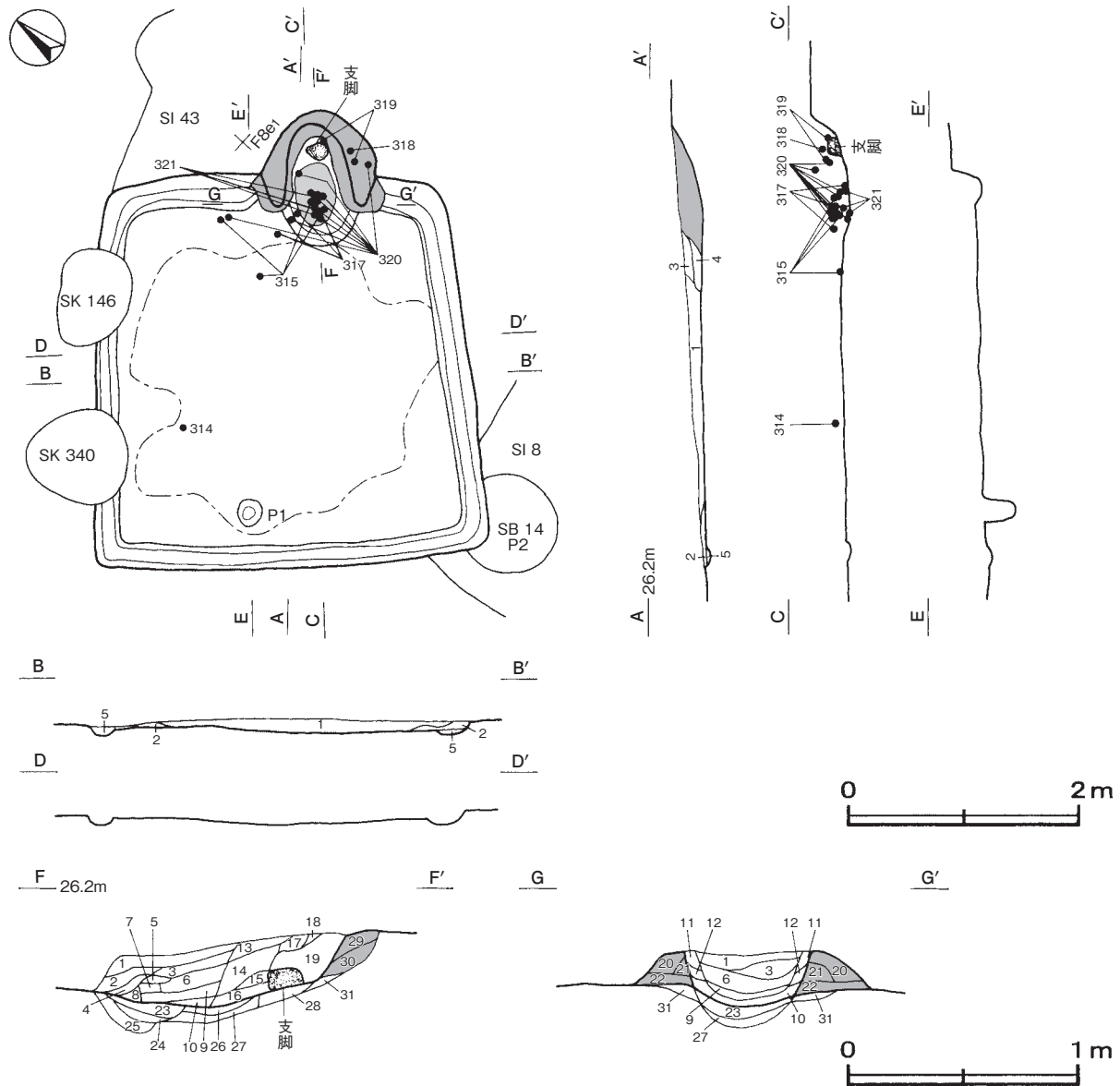
規模と形状 長軸3.40m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-50°-Eである。壁高は0～22cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16～26cm、深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで104cm、燃焼部幅43cmである。袖部は第20～22層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。また、火床部内に支脚として雲母片岩が設置されている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 7 明赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | | 10 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 |
| | | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物微量 |



第101図 第31号住居跡実測図

- | | | | |
|-----------|-------------------------------------|-----------|--------------------------------------|
| 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 22 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 14 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物微量 | 23 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 15 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 | 24 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 16 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 25 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 17 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 26 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック微量 |
| 18 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 27 褐色 | ロームブロック中量 |
| 19 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 28 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 20 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 29 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| | | 30 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物微量 |
| | | 31 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |

ピット 深さ28cmで, 南西壁際中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

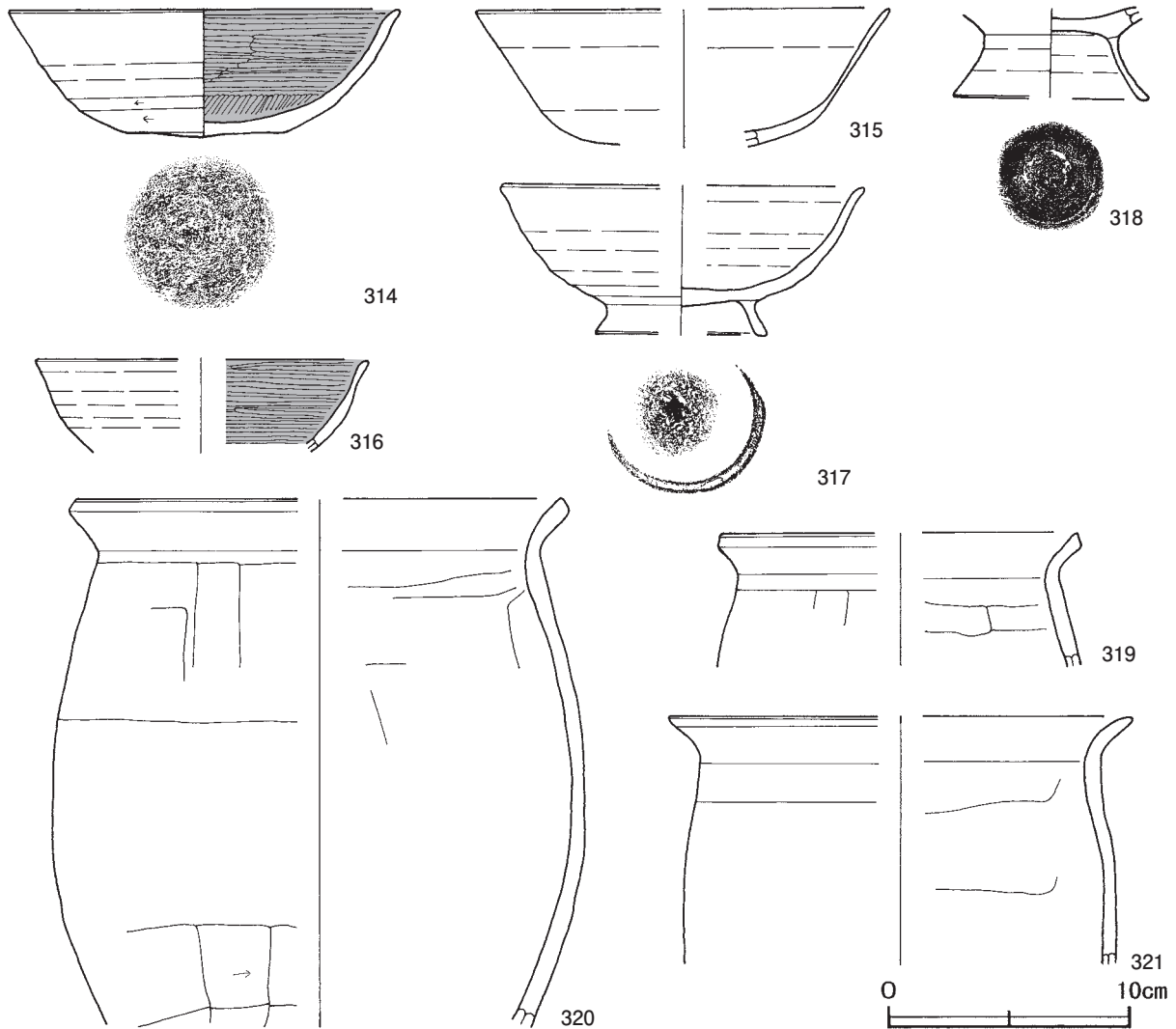
覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片433点（坏類208・高台付椀16・皿2・甕類207）、須恵器片20点（坏類8・蓋1・甕類10・甌1）、石製品1点（支脚）が出土している。321は竈火床部、315・317は竈火床部と焚口部前側、320は竈焚口から火床部と右袖部及び袖部左側、319は竈煙道部と右袖部、318は竈右袖部からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第102図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
314	土師器	坏	16.0	5.2	6.6	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部ヘラ切り後回転ヘラ削り	下層	90% PL57
315	土師器	坏	[17.0]	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通		竈火床部・下層	20%
316	土師器	坏	[13.7]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
317	土師器	高台付椀	[14.8]	6.1	[7.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	底部ヘラ切り後高台貼り付け 高台端部に沈線が巡る	竈火床部・ 下層	30%
318	土師器	高台付椀	-	(3.8)	[8.0]	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	底部ヘラ切り後高台貼り付け	竈右袖部	10%
319	土師器	小形甕	[14.6]	(5.4)	-	長石・石英・ 針状鉱物	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈煙道部 竈右袖部	10%
320	土師器	甕	[20.0]	(21.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈焚口~火床部・ 下層	40%
321	土師器	甕	[19.0]	(10.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	竈火床部	20%

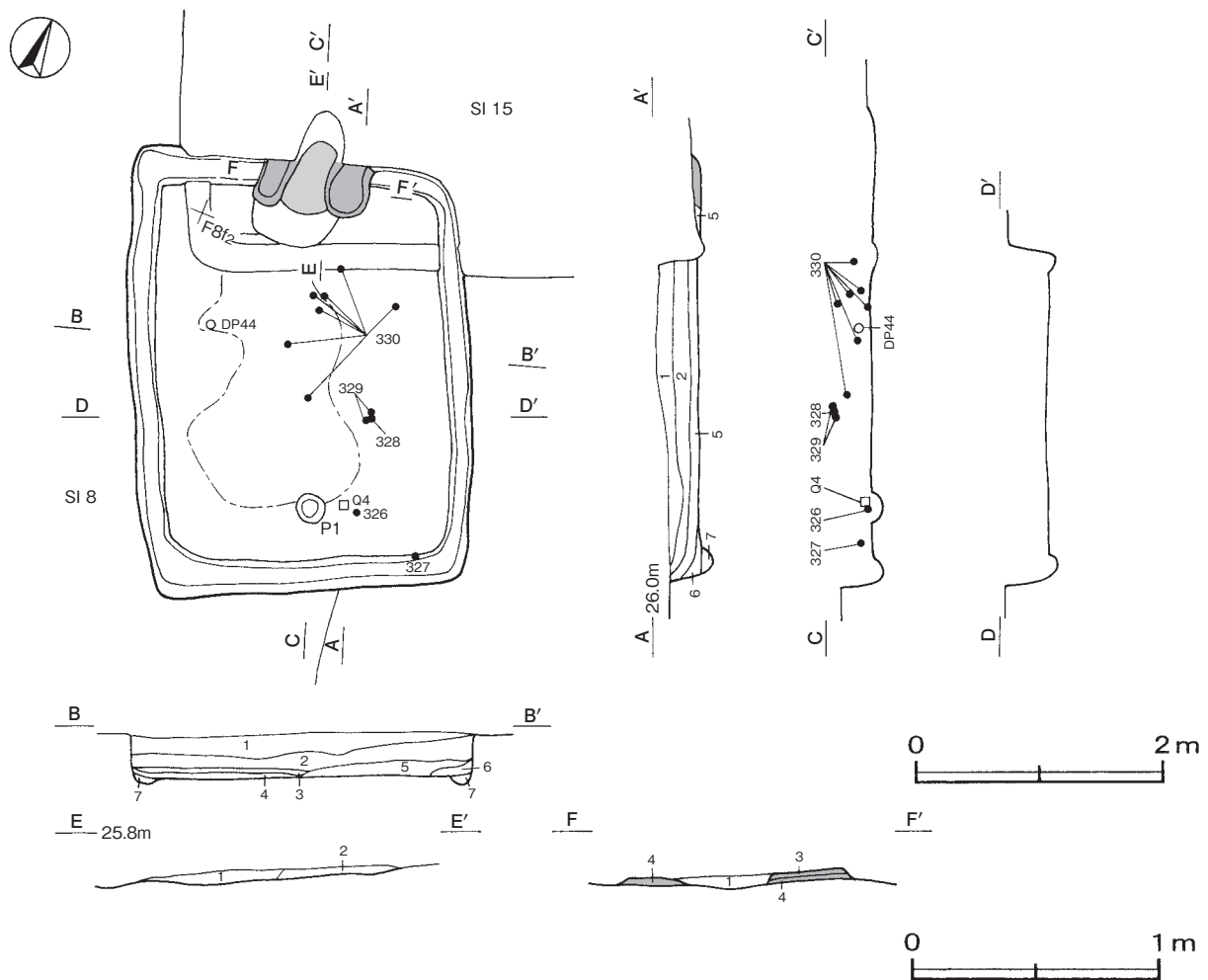
第32号住居跡（第103・104図）

位置 調査I区南部のF 8 f2区、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込み、第15号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.42m、短軸2.74mの長方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は8~32cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅14~18cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。



第103図 第32号住居跡実測図

竈 北壁中央部に付設されており、上部が第15号住居跡に掘り込まれている。規模は焚口部から煙道部まで112cm、燃烧部幅35cmである。袖部は第3・4層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に42cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子砂質粘土粒子微量 | 3 褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 深さ10cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

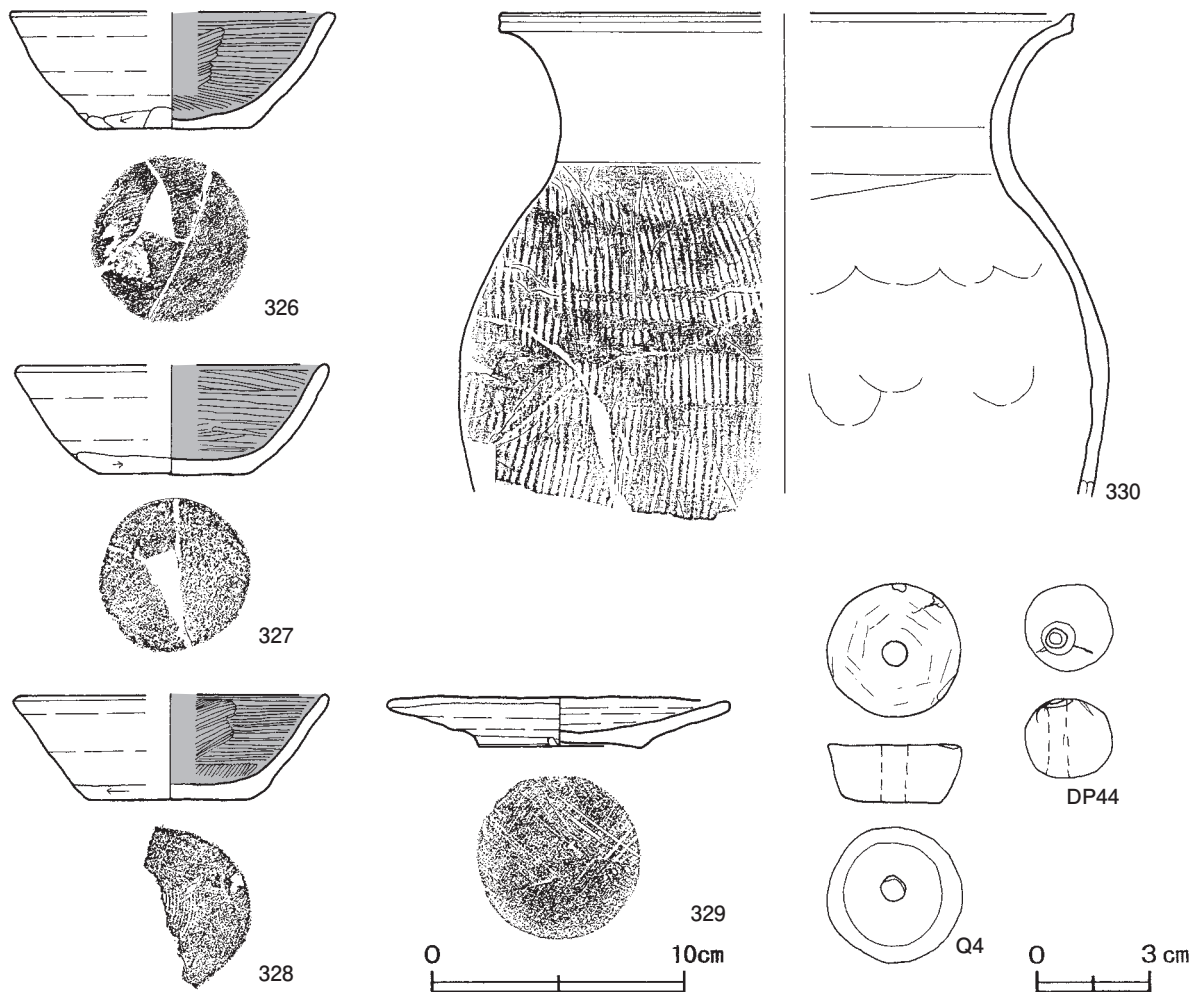
覆土 7層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片113点（坏類34・皿1・甕類78）、須恵器片35点（坏類10・蓋9・甕類16）、土製品1点（球状土錘）、石製品1点（紡錘車）が出土している。326・Q4はP1付近の床面直上から出土している。また、330は中央部の床面から覆土中層と東壁際の覆土中層から散らばって出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第104図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
326	土師器	坏	12.8	4.6	6.4	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	床面直上	60% PL55
327	土師器	坏	[12.2]	4.3	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	40%
328	土師器	坏	[12.2]	4.2	6.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	上層	30%
329	土師器	皿	13.4	2.0	6.6	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	底部手持ちヘラ削り	上層	90% PL56
330	須恵器	甕	[22.8]	(20.1)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部縦位の平行叩き 頸部から体部内面当具痕	中層～床面	30% 稲敷A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP44	球状土錘	2.4	2.1	0.7	11.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	紡錘車	3.5	1.6	0.7	33.6	蛇紋岩	一方向からの穿孔 上面に同心六角形状の線刻	床面直上	PL61

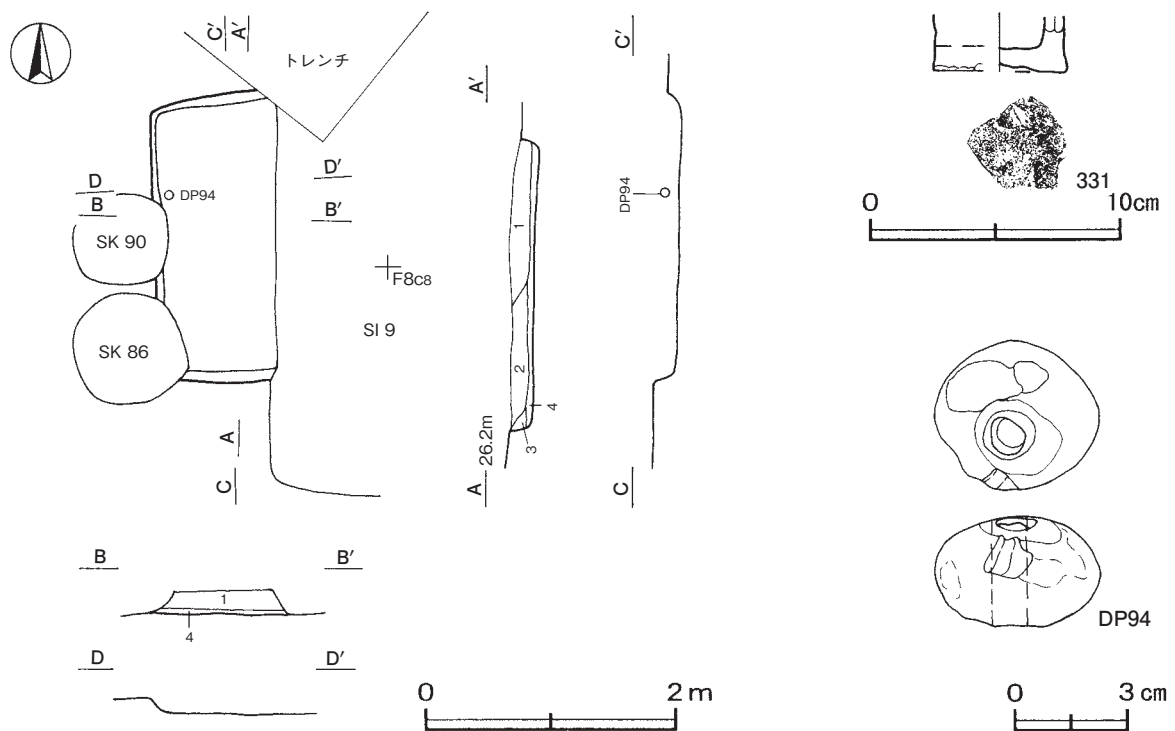
第33号住居跡（第105図）

位置 調査I区東部のF 8 b7区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居、第86・90号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第9号住居に掘り込まれているため、南北軸が2.32m、東西軸は1.0mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は8～16cmで、ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。



第105図 第33号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片75点（坏類15・皿1・甕類59）, 須恵器片19点（坏類12・高台付坏1・盤2・壺1・甕類3）, 土製品1点（球状土錘）が出土している。全体として床面からの出土遺物は少ない。DP94は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土から出土した土器群とあまり差はないと思われ、8世紀後葉と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
331	須恵器	壺	-	(2.2)	[5.2]	長石・石英	灰	良好	底部手持ちヘラ削り	覆土中	10% 東海産壺G

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP94	球状土錘	4.4	2.9	0.9	46.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

第34号住居跡（第106図）

位置 調査I区中央部のF7b9区、標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第52号住居跡、第13号掘立柱建物跡、第169号土坑を掘り込み、第101・112・170・261号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.32m、短軸3.14mの方形で、主軸方向はN-62°-Eである。壁高は8~12cmで、ほぼ直立している。

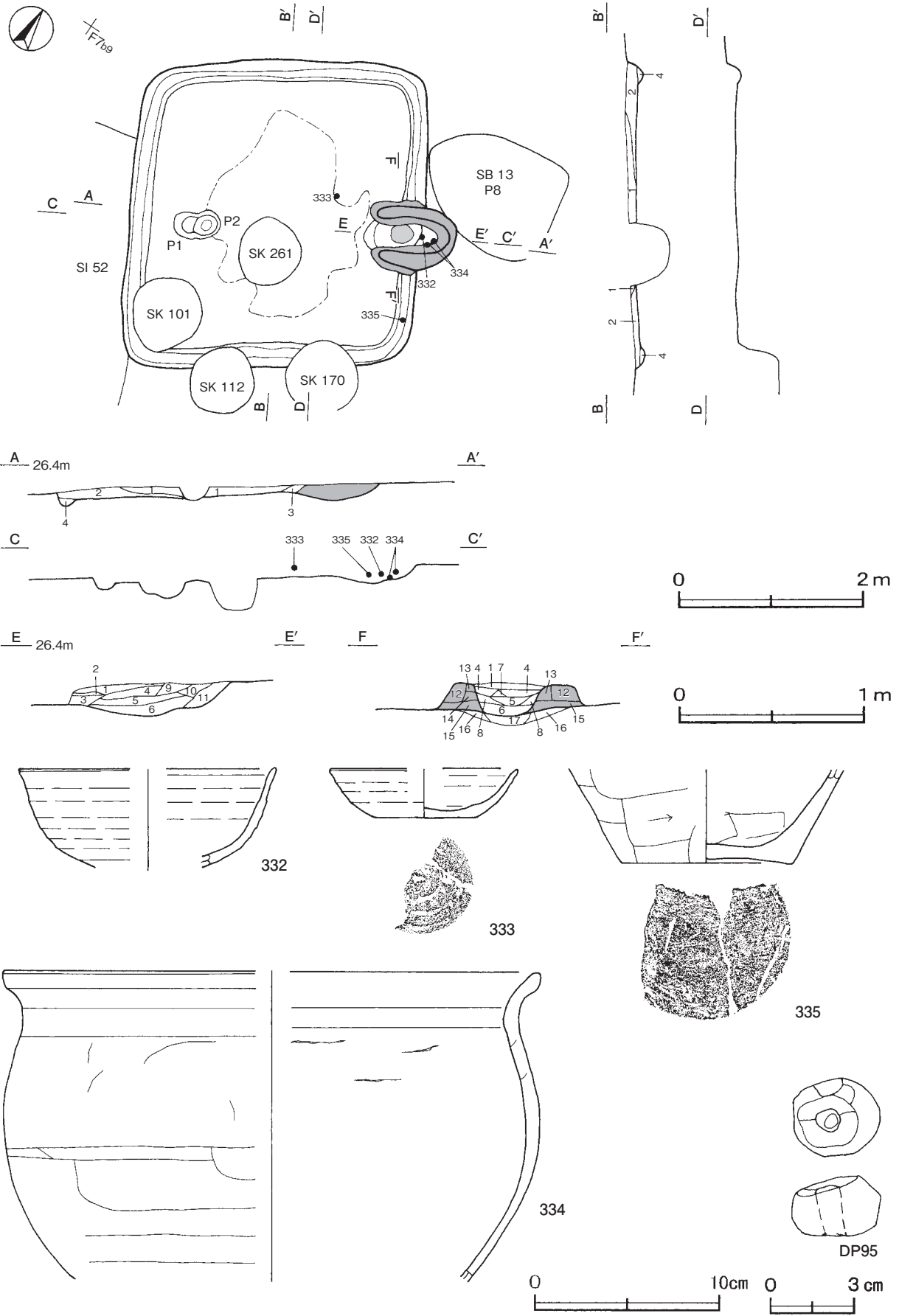
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16~22cm、深さ6~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで92cm、燃焼部幅25cmである。袖部は第12~15層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 13 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | 砂質粘土ブロック多量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ14・18cmで、P2のほうが新しい。両方とも南西壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第106图 第34号住居跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片195点(坏類80・高台付椀13・皿2・甕類100), 須恵器片18点(坏類8・甕類9・甌1), 土製品1点(球状土錘)が出土している。332・334は竈火床部から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀後葉と考えられる。

第34号住居跡出土遺物観察表(第106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土師器	坏	[13.8]	(5.3)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通		竈火床部	30%
333	土師器	坏	[10.2]	2.6	5.6	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	下層	40%
334	土師器	甕	[29.0]	(16.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ, 下半横位のヘラナデ 内面ヘラナデ	竈火床部	20%
335	土師器	甕	-	(5.0)	9.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	下層	20%

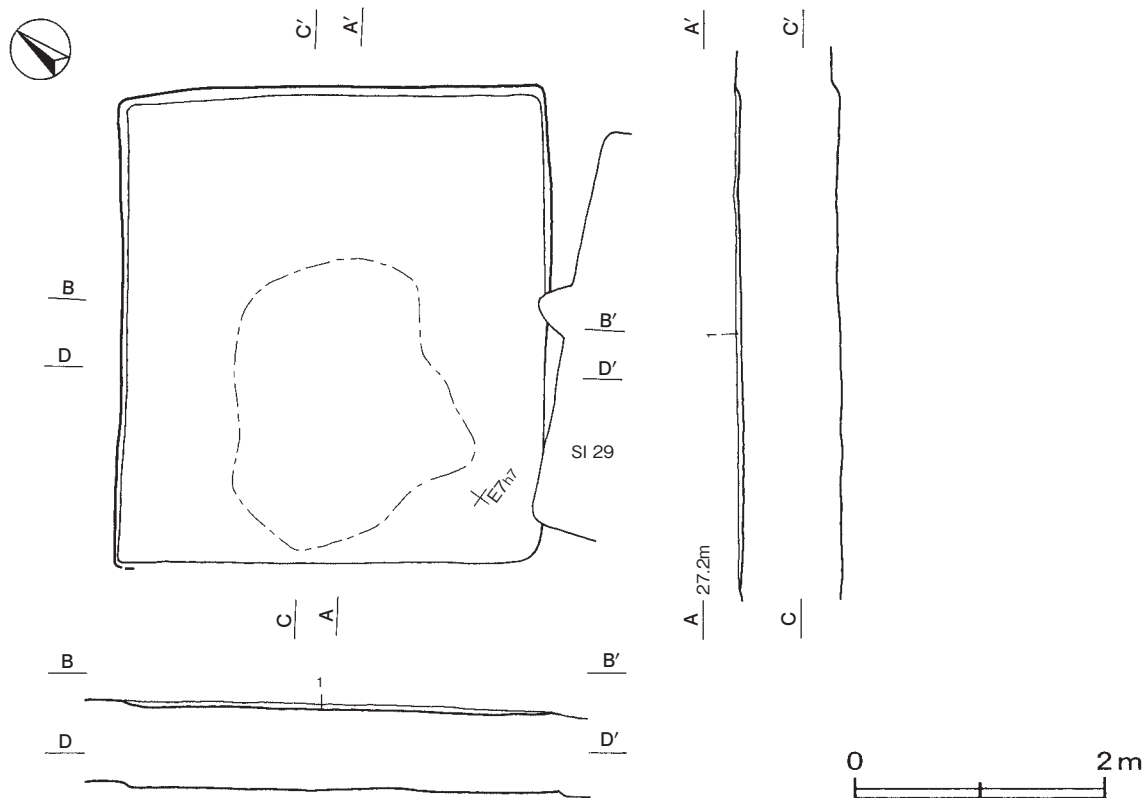
番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP95	球状土錘	3.2	2.1	0.9	21.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第35号住居跡(第107図)

位置 調査I区中央部のE7g7区, 標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第29号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸が3.40mで, 南北軸は3.76mしか確認できなかった。長方形または方形で, 主軸方向はN-55°-Eである。壁高は6cmで, ほぼ直立している。



第107図 第35号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

覆土 層厚が薄く、遺存するのが1層だけであるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

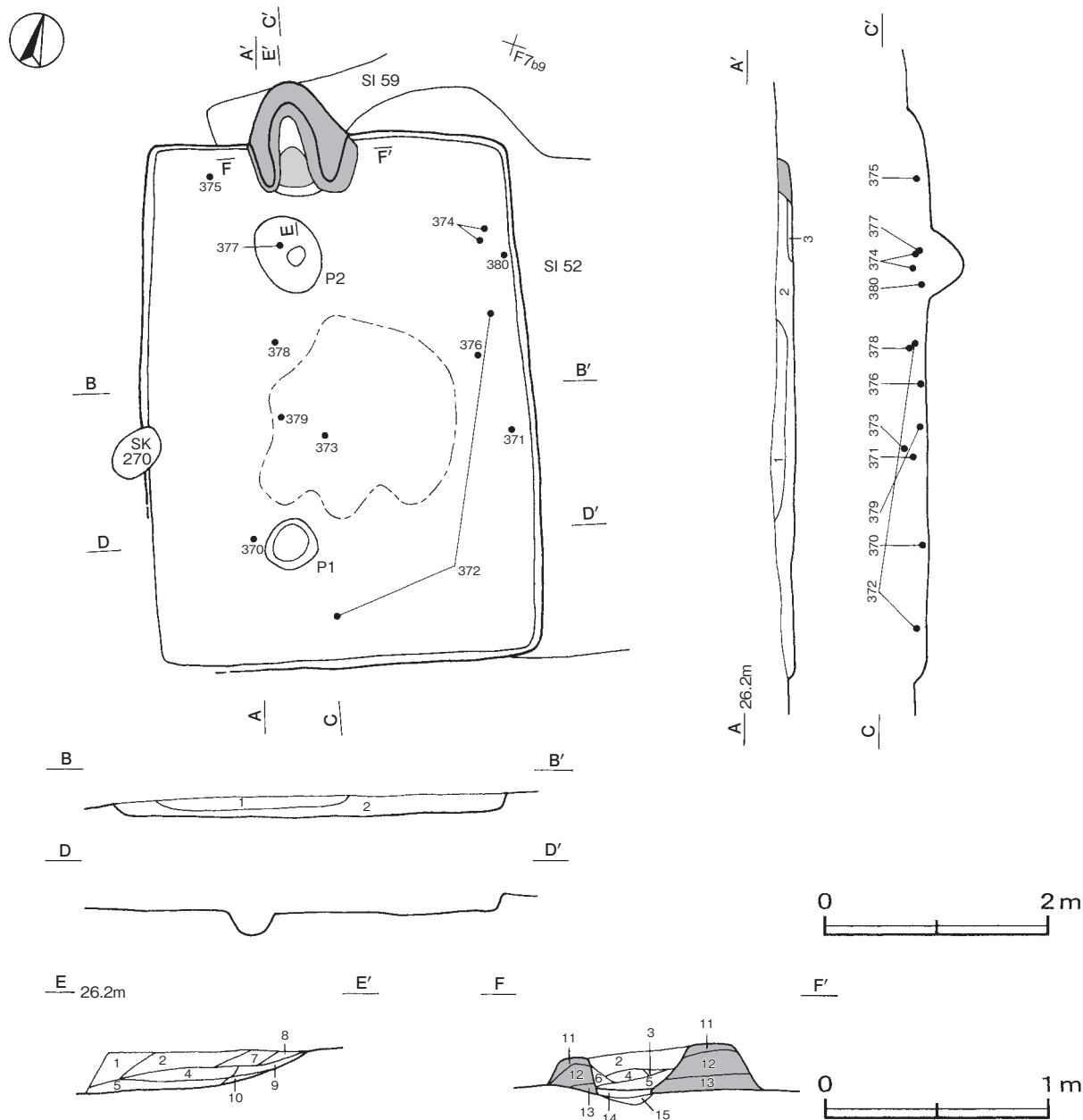
遺物出土状況 土師器片11点（坏類2・甕類9），須恵器片1点（蓋）が、いずれも細片で図示できない。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀代と考えられる。

第41号住居跡（第108～110図）

位置 調査I区中央部のF7b8区，標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第52・59号住居跡を掘り込み，第40・270号土坑に掘り込まれている。



第108図 第41号住居跡実測図

規模と形状 長軸4.72m, 短軸3.48mの長方形で, 主軸方向はN-19°-Wである。壁高は8~24cmで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており, 規模は焚口部から煙道部まで86cm, 燃焼部幅25cmである。袖部は第11~13層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量	12 暗褐色	砂質粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
6 黒褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 暗褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
8 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量		

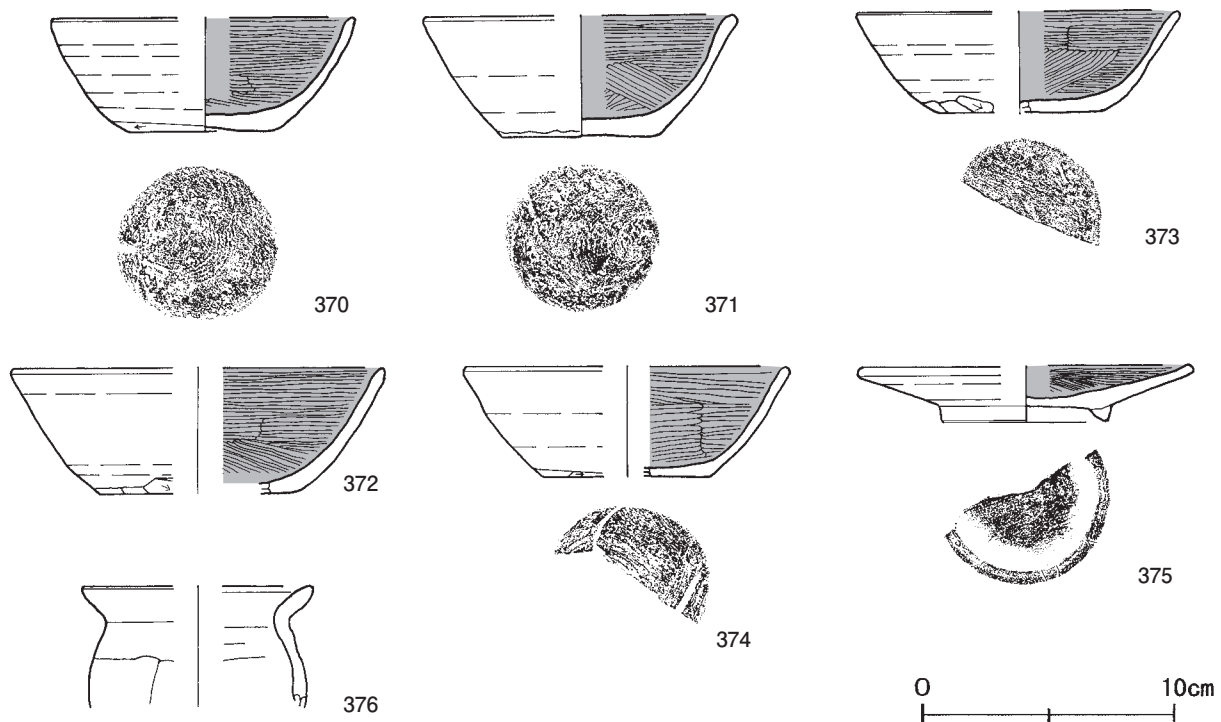
ピット 2か所。P1は深さ22cmで, 南壁際中央部に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ32cmで, 竈焚口部前側に位置しているが, 性格は不明である。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

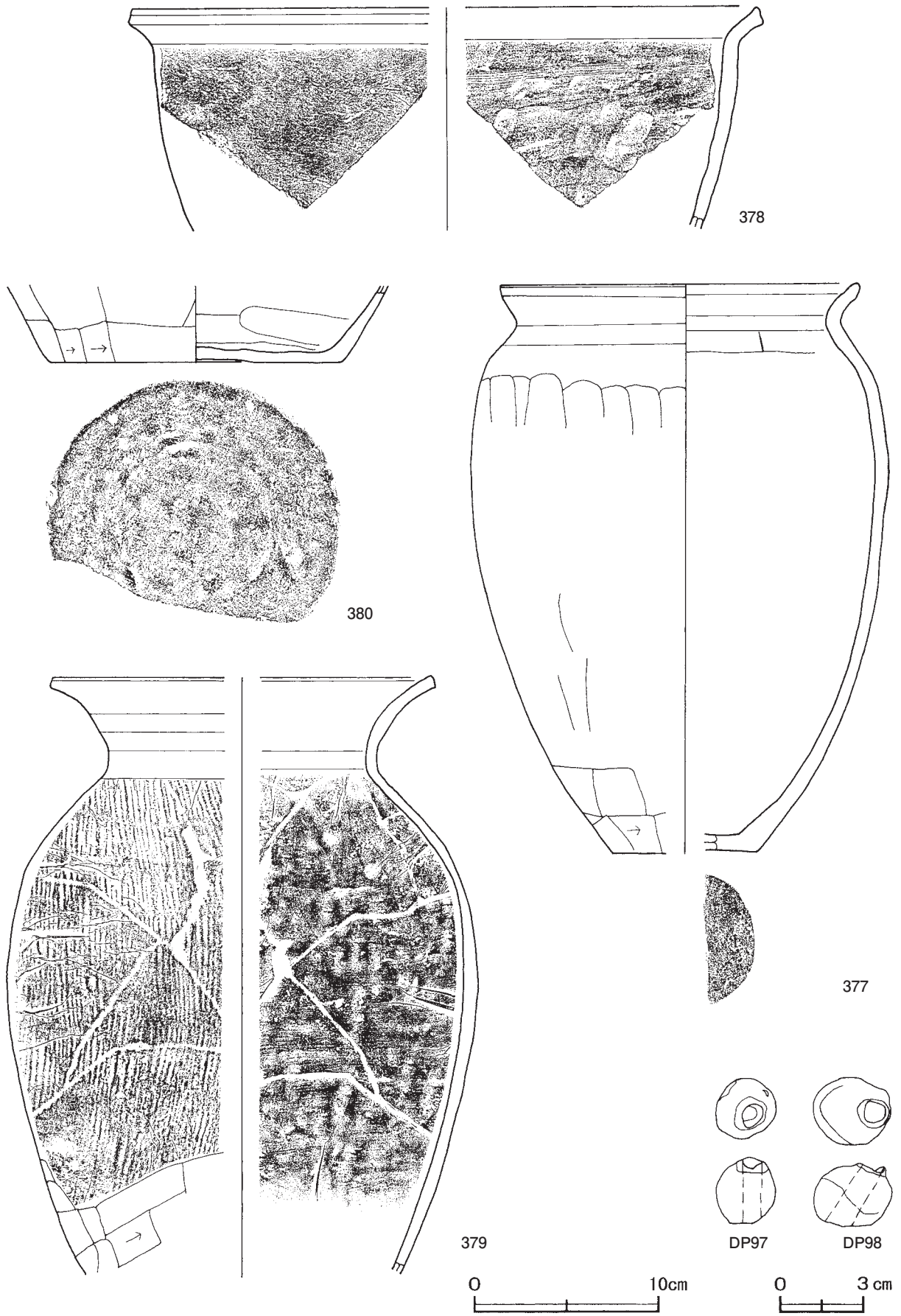
土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	2 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
		3 黒褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片847点(坏類251・高台付碗7・皿33・高台付皿4・甕類552), 須恵器片94点(坏類18・高台付坏2・蓋10・瓶類3・甕類60・甌1), 土製品5点(土玉類4・支脚片1), 鉄製品1点(不明)が出土している。370はP1付近, 376・380は東壁際, 379は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。また, 377はP2上面から出土している。



第109図 第41号住居跡出土遺物実測図(1)



第110図 第41号住居跡出土遺物実測図(2)

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表（第109・110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
370	土師器	坏	[12.0]	4.5	5.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り	床面直上	50%
371	土師器	坏	[12.4]	4.8	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り	下層	50%
372	土師器	坏	[14.8]	5.0	[7.8]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	30%
373	土師器	坏	[12.8]	4.0	[6.4]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	中層	20%
374	土師器	坏	[12.8]	4.4	[6.6]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	下層	20%
375	土師器	高台付皿	[13.0]	2.2	6.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	50%
376	土師器	小形甕	[9.0]	(4.8)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ 内面ヘラナデ	床面直上	10%
377	土師器	甕	19.4	30.8	[7.8]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	P2上面	70% PL55
378	須恵器	鉢	[33.8]	(11.9)	-	長石・石英・針状鉱物	灰黄	良好	体部外面横位の平行叩き後ナデ、内面ヘラナデ	下層	10% 稲敷A
379	須恵器	甕	[20.4]	(32.4)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き、下端横位のヘラ削り 頸部から体部内面当具痕	床面直上	40% 稲敷A
380	須恵器	甕	-	(4.2)	15.8	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面直上	10% 稲敷A

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP97	球状土錘	2.2	2.4	0.7	8.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP98	球状土錘	2.8	2.3	0.9	13.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61

第42号住居跡（第111・112図）

位置 調査I区中央部のE 8 j1区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第51・54号住居跡を掘り込み、第17号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.94m、短軸3.58mの長方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は8~26cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで100cm、燃焼部幅68cmである。袖部は第9層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。また、火床部内に土製支脚が設置されている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	6 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	7 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
3 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量	8 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	9 灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

ピット 深さ14cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

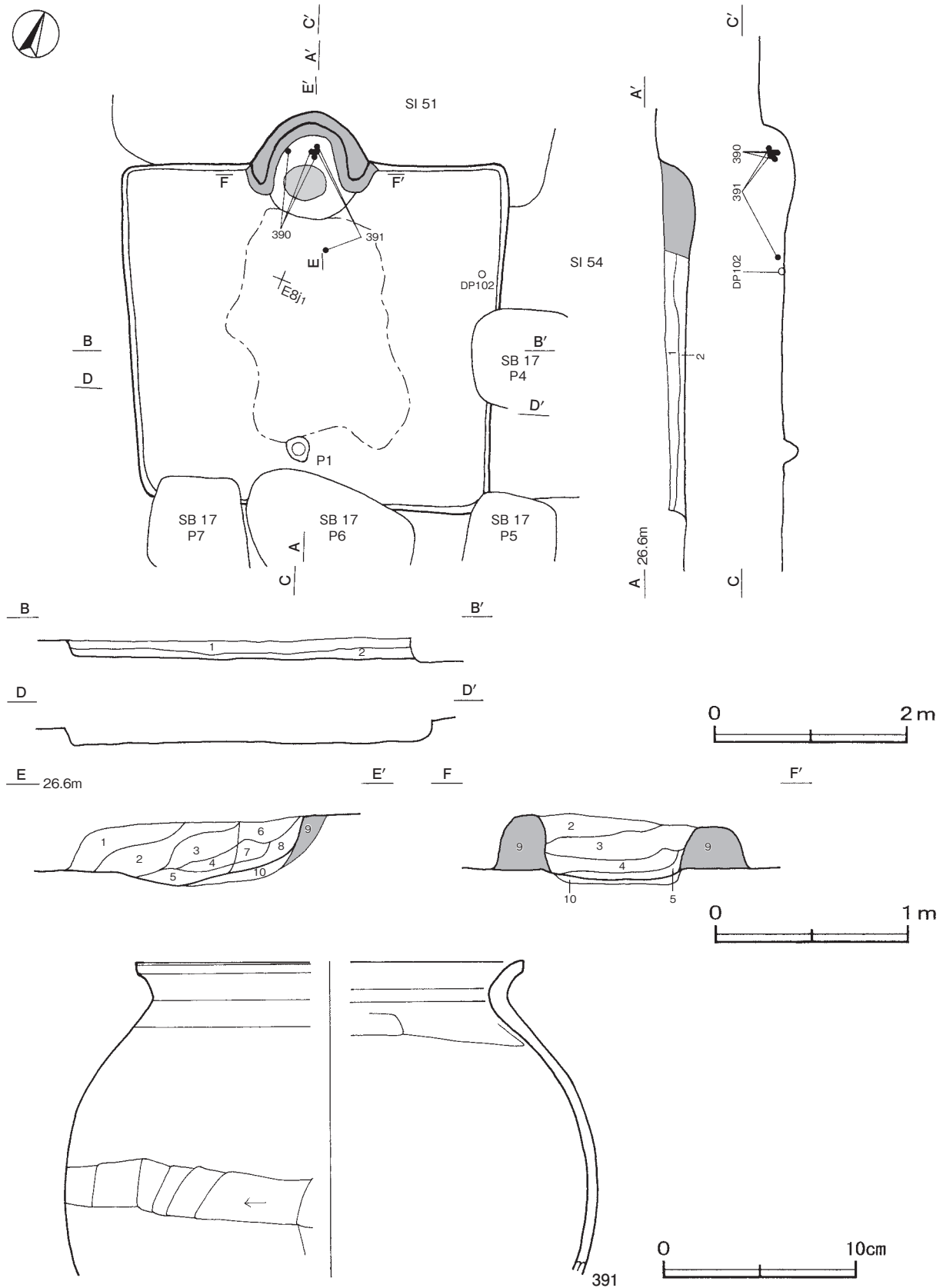
覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
-------	--------------------	-------	-----------------------

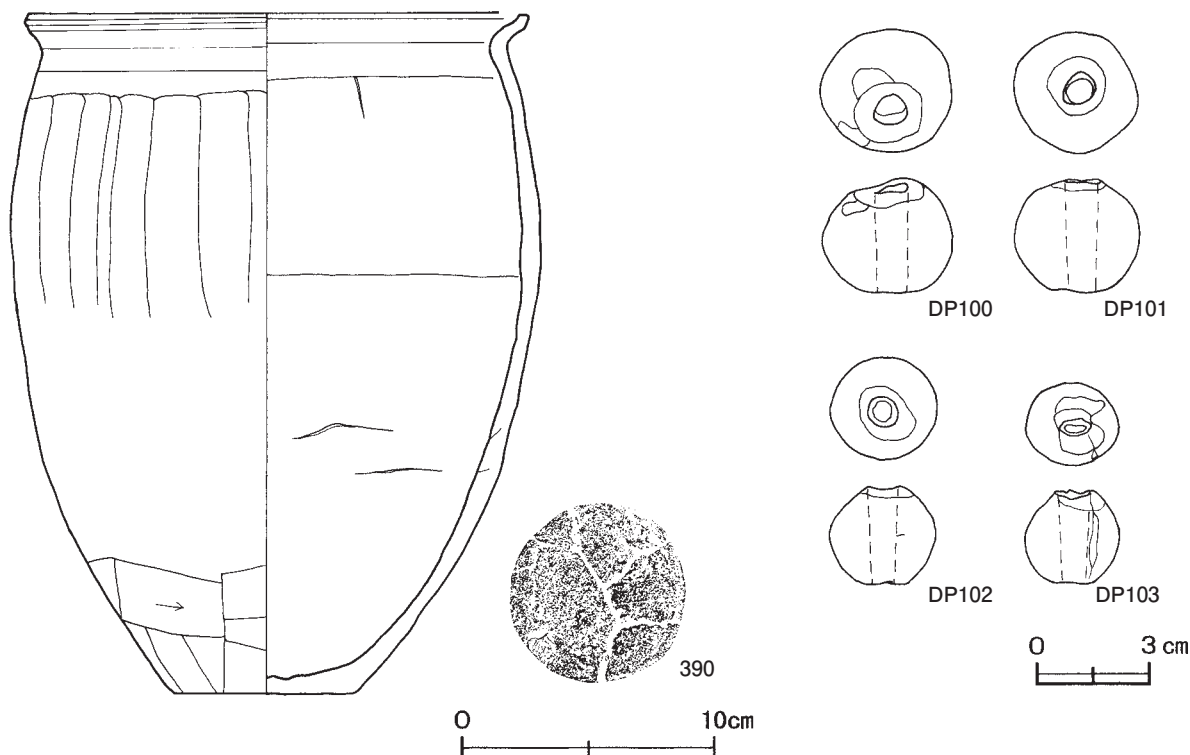
遺物出土状況 土師器片505点（坏類41・高台付椀2・皿8・高台付皿2・甕類452）、須恵器片63点（坏類21・高台付坏4・蓋4・瓶類2・甕類32）、土製品8点（土玉類6・支脚2）が出土している。390は竈煙道部、

391は竈煙道部と焚口部前側の覆土下層からそれぞれ出土している。また、DP102は東壁際の床面直上から出土している。



第111図 第42号住居跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第112図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表 (第111・112図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
390	土師器	甕	19.8	27.2	7.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	竈煙道部	90% PL55
391	土師器	甕	[20.0]	(16.1)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部から頸部埋・外面横ナデ 体部外面ナデ、下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈煙道部・下層	30%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP100	球状土錘	3.5	3.0	0.9	33.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP101	球状土錘	3.3	3.0	0.9	30.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60
DP102	球状土錘	2.8	2.6	0.8	19.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	PL60
DP103	球状土錘	2.5	2.5	0.8	13.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL60

第44号住居跡 (第113図)

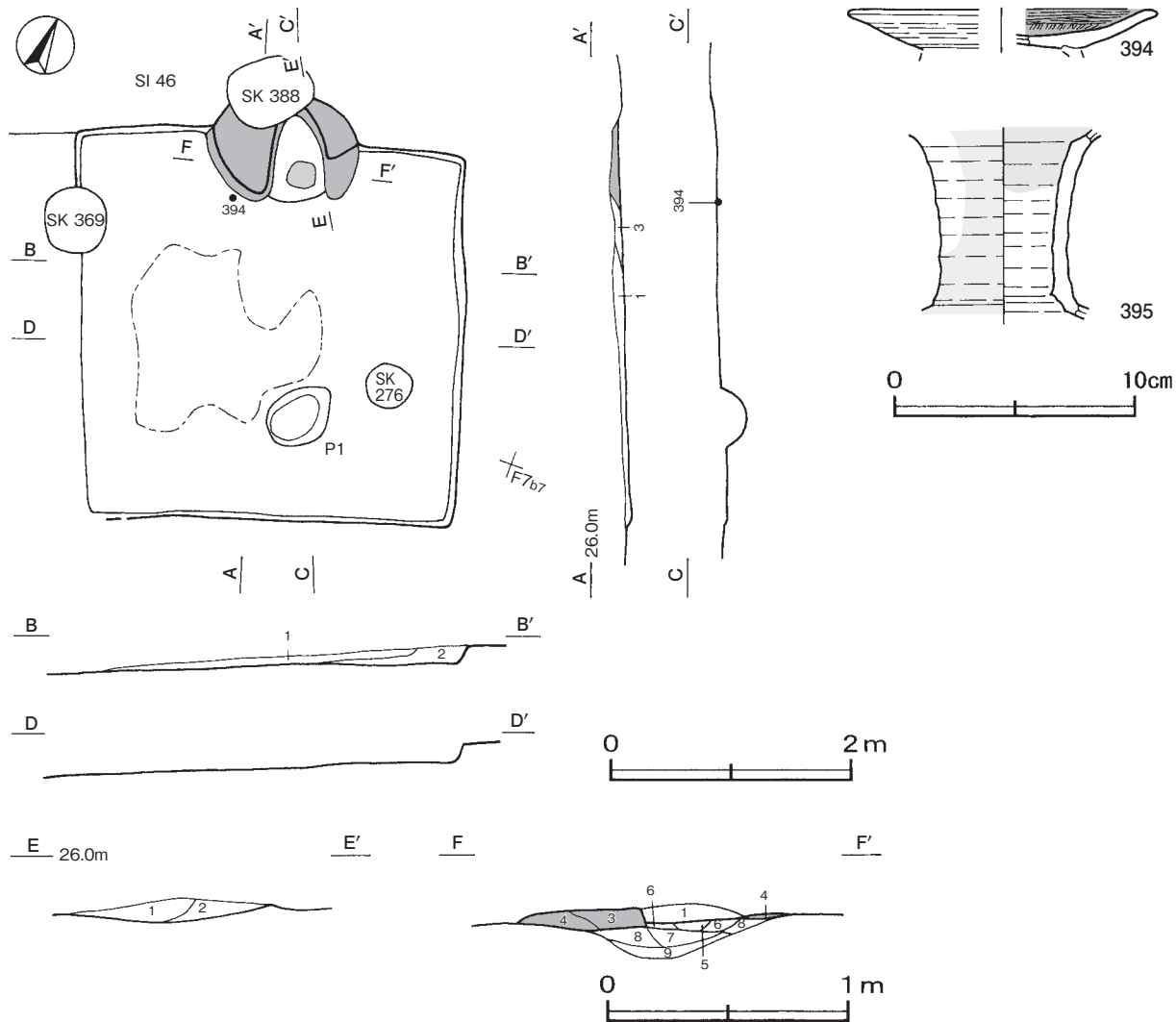
位置 調査I区中央部のF7a6区、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号住居跡、第371号土坑を掘り込み、第3号掘立柱建物、第276・369・388号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.26m、短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は16cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されているが、煙道部は第388号土坑に掘り込まれている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで78cmで、確認できた燃焼部幅は41cmである。袖部は第3・4層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は



第113図 第44号住居跡・出土遺物実測図

壁外に18cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

ピット 深さ24cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片142点（坏類82・高台付椀3・皿2・高台付皿1・甕類54），須恵器片40点（坏類20・蓋4・甕類14・甌2），灰陶陶器片1点（長頸瓶）が出土している。394は竈袖部左側の床面直上から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第44号住居跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
394	土師器	高台付皿	[12.2]	(1.6)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のへら磨き 底部ナデ後高台貼り付け	床面直上	10%
395	灰釉陶器	長頸瓶	-	(7.8)	-	緻密	釉灰白 胎土灰白	良好		覆土中	10% PL56 猿投

第45号住居跡（第114図）

位置 調査Ⅰ区東部のF 8 d6区、標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号住居跡を掘り込み、第24・26号住居に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第26号住居、北東部が第24号住居に掘り込まれているが、遺存している部分から一辺2.3mで、主軸方向がN-24°-Wの方形と推測される。壁高は17cmではほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

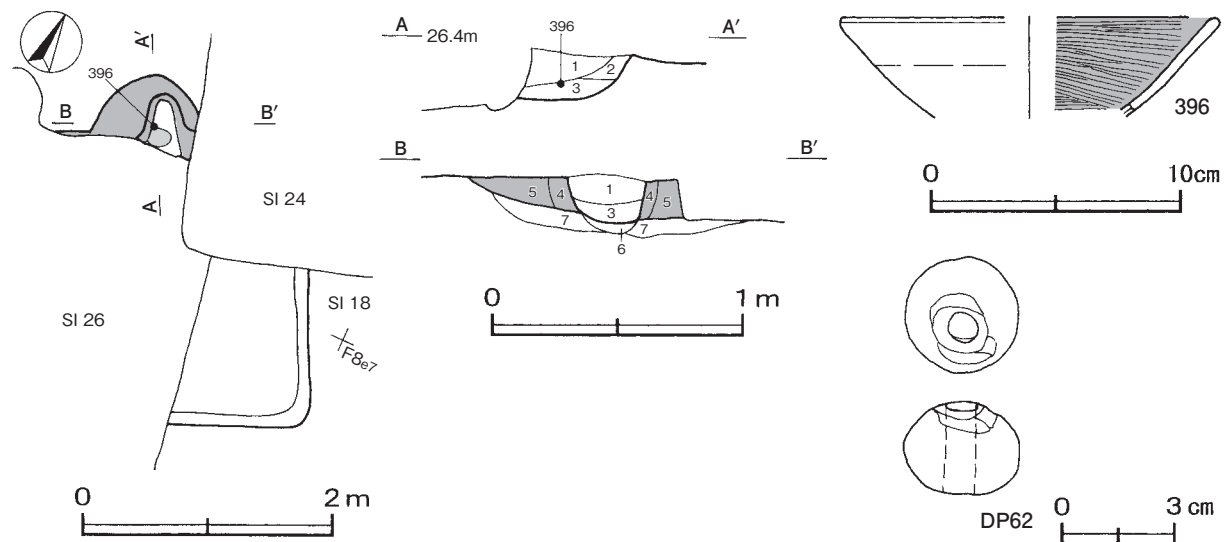
竈 北壁中央部に付設されているが、右袖部は第24号住居、左袖部は第26号住居にそれぞれ掘り込まれている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで45cm、燃烧部幅27cmである。袖部は第4・5層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片5点（坏類2・皿1・甕類2）、土製品1点（球状土錘）が出土している。396は竈火床部から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第114図 第45号住居跡・出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
396	土師器	坏	[15.0]	(3.9)	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	内面横位のヘラ磨き	竈火床部	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP62	球状土錘	3.0	2.5	0.8	21.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第47号住居跡 (第115・116図)

位置 調査I区中央部のF7d9区、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第57号住居跡を掘り込み、第54・55・100号土坑に掘り込まれている。

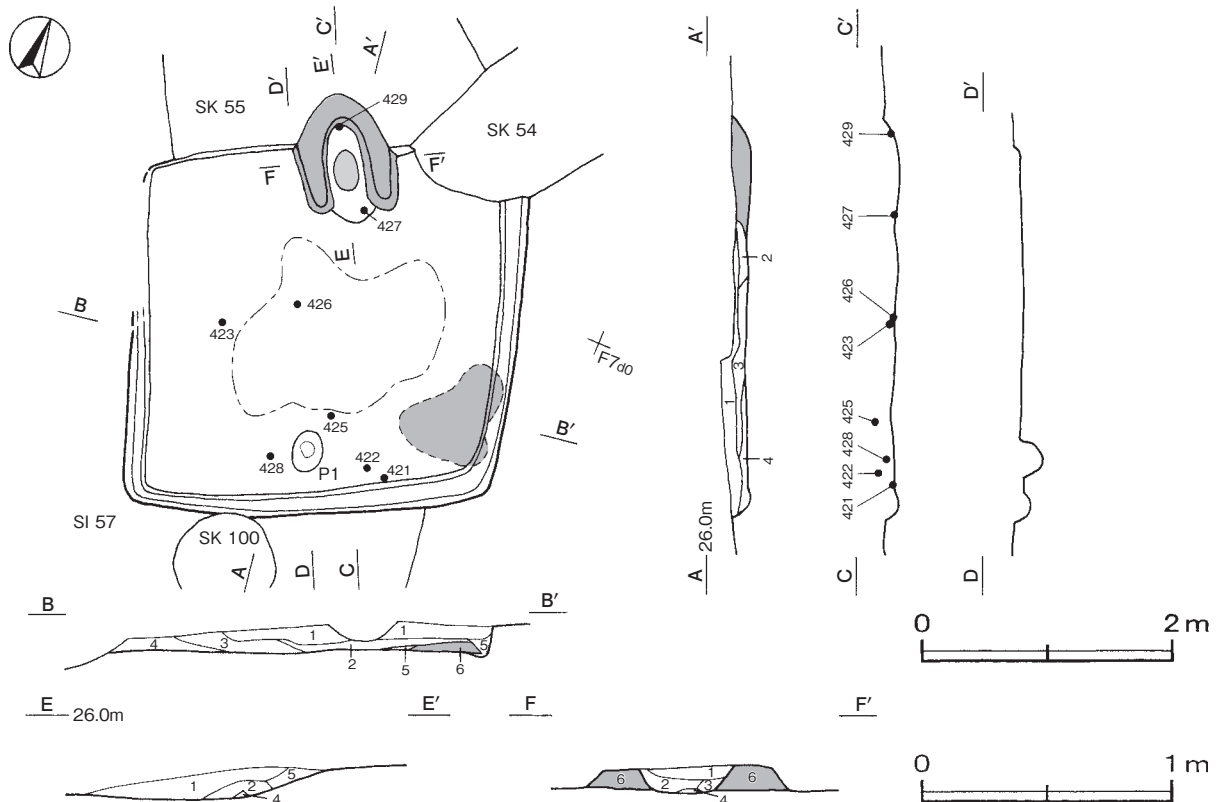
規模と形状 長軸3.06m、短軸2.92mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は8~24cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北側を除く壁下には幅14~20cm、深さ2~6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、南東コーナー部の床面から径約40cm、厚さ約4cmの粘土塊が検出されている。

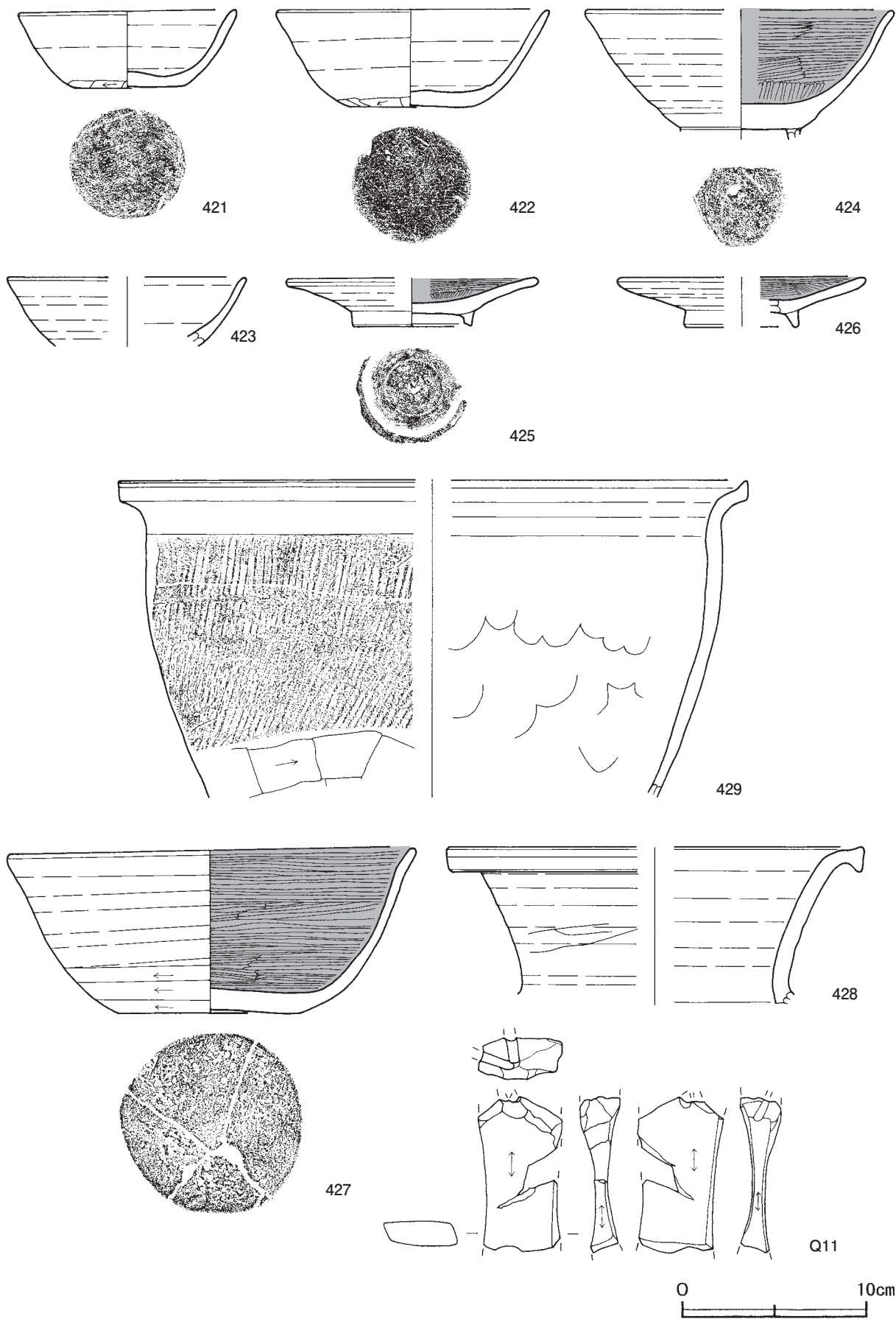
竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで82cm、燃焼部幅28cmである。袖部は第6層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量 |
| 3 黒色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量 | | |
| 4 にぶい褐色 | 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | | |



第115図 第47号住居跡実測図



第116図 第47号住居跡出土遺物実測図

ピット 深さ20cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロック及び粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|----------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 6 にぶい黄橙色 | 粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片235点（坏類83・高台付椀4・皿11・高台付皿3・鉢1・甕類133）、須恵器片32点（坏類6・蓋1・甕類22・甗2・円面硯1）、灰釉陶器片1点（広口壺）、石器1点（砥石）が出土している。427は竈焚口部から正位の状態、429は竈煙道部からそれぞれ出土している。また、421は南壁際から逆位の状態、423は西壁際、426は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第47号住居跡出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
421	土師器	坏	11.8	4.2	6.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ切り	床面直上	100% PL56
422	土師器	坏	14.6	5.2	6.6	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	80% PL56
423	土師器	坏	[13.0]	(4.7)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通		床面直上	20%
424	土師器	高台付椀	[16.6]	(6.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	覆土中	40%
425	土師器	高台付皿	[13.4]	2.6	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	40%
426	土師器	高台付皿	[13.0]	2.7	[6.0]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	床面直上	20%
427	土師器	鉢	22.0	8.9	9.8	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部ヘラ削り	竈焚口部	100% PL56
428	灰釉陶器	広口壺	[22.4]	(8.4)	-	緻密	釉にぶい赤褐胎土にぶい黄橙	良好		下層	20% 猿投 PL58
429	須恵器	鉢	[34.0]	(17.1)	-	長石・石英・針状鉱物	浅黄	普通	体部縦位の平行叩き、下端横位のヘラ削り 内面当具痕	竈煙道部	20% 稲敷A

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	砥石	(8.3)	4.5	2.2	(62.9)	凝灰岩	揚げ砥石 砥面4面 一方向からの穿孔2か所	覆土中	PL61

第51号住居跡（第117～119図）

位置 調査I区中央部のE7i0区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54号住居跡を掘り込み、第42号住居、第13・17号掘立柱建物、第389号土坑に掘り込まれている。

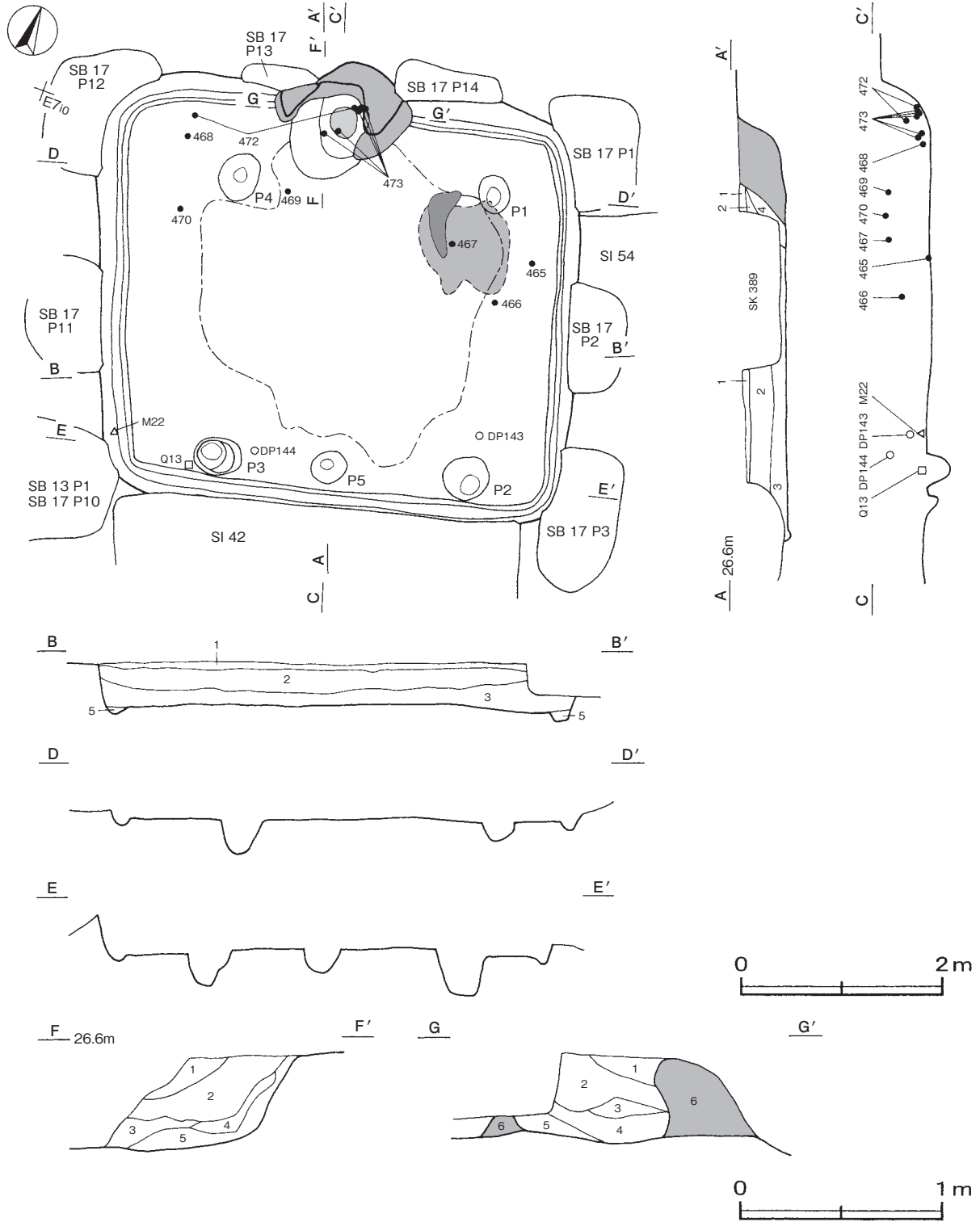
規模と形状 長軸4.74m、短軸4.16mの長方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は44～52cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅16～20cm、深さ4～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。また、北東区の床面から径約50cm、厚さ約10cmの粘土ブロックを多量に含む土が確認されている。

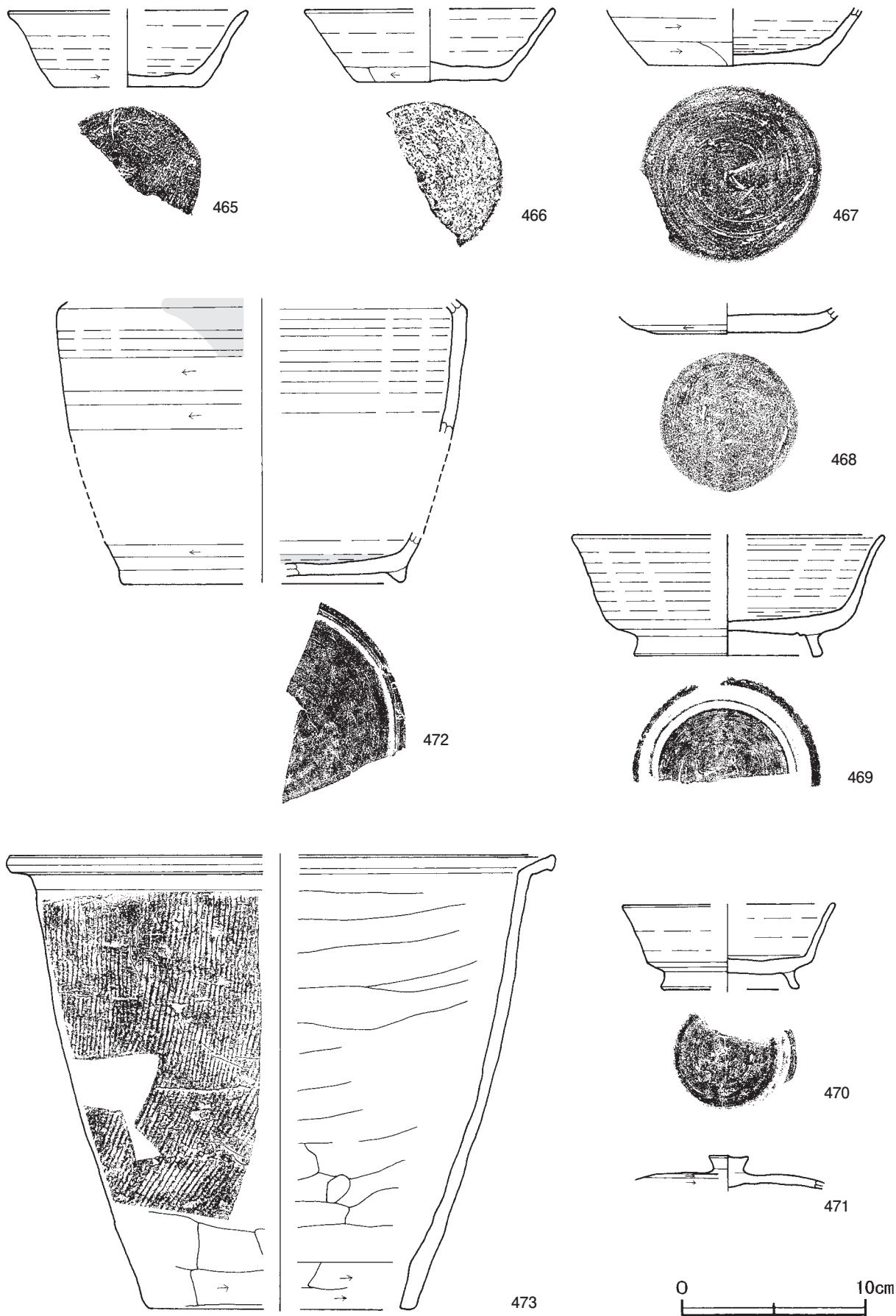
竈 北壁中央部に付設されているが、左袖部は第17号掘立柱建物に掘り込まれている。確認された規模は焚口部から煙道部まで102cm、燃焼部幅57cmである。袖部は第6層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 灰褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | | |



第117図 第51号住居跡実測図



第118图 第51号住居跡出土遺物実測図(1)

ピット 5か所。P1～P4は深さ20～48cmで、主柱穴である。P5は深さ24cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

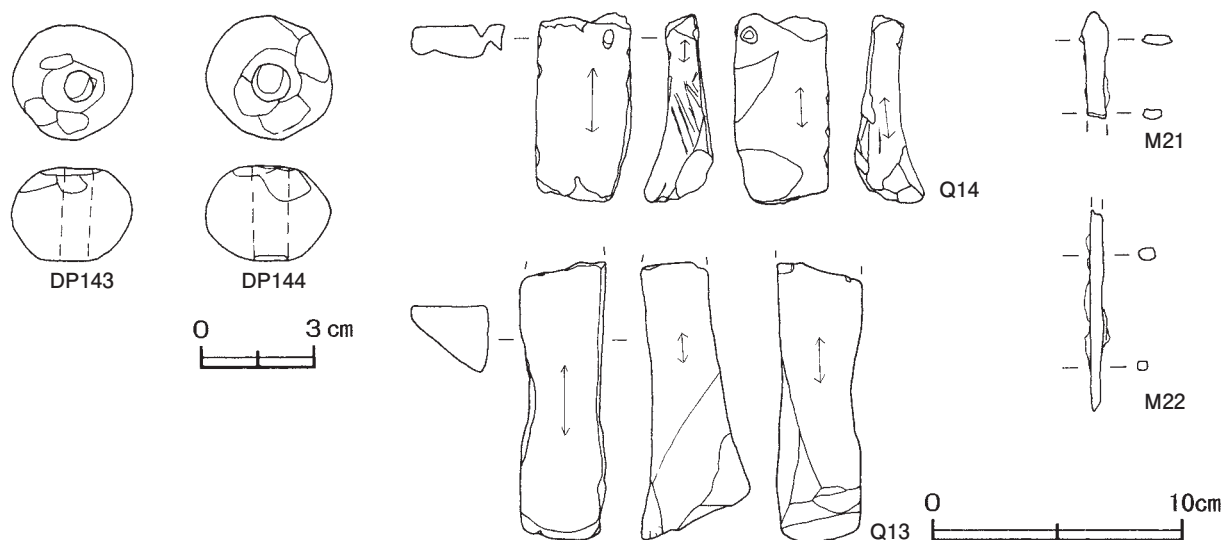
覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | | |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片509点（坏類10・甕類499），須恵器片120点（坏類80・高台付坏2・盤4・蓋12・瓶類2・甕類20），灰釉陶器片1点（短頸壺），土製品5点（土玉類4・支脚片1），石器2点（砥石），鉄製品2点（鎌），ヤマトシジミ173点（右殻103・左殻70）が出土している。473は竈火床部，472は竈火床部と北西コーナー部の覆土中からそれぞれ出土している。また，465は東壁際の床面直上から出土している。なお，ヤマトシジミは北東区の覆土上層からまとめて出土しており，住居の廃絶後に一括投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第119図 第51号住居跡出土遺物実測図(2)

第51号住居跡出土遺物観察表（第118・119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
465	須恵器	坏	[12.8]	4.1	[8.0]	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	床面直上	40% 新治B
466	須恵器	坏	[13.4]	3.9	8.2	長石・石英・針状鉱物	灰	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	中層	30% 稲敷A
467	須恵器	坏	-	(3.2)	9.4	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	上層	30% 新治B
468	須恵器	坏	-	(1.4)	7.4	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	下層	20% 稲敷A 内面彫り着 転用痕
469	須恵器	高台付坏	[16.8]	6.5	9.8	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け 底部外面に沈線が巡る	上層	40% 稲敷A
470	須恵器	高台付坏	[11.2]	4.5	[7.0]	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	上層	30% 稲敷B
471	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英・針状鉱物	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	覆土中	20% 稲敷A
472	灰釉陶器	短頸壺	-	[15.4]	[15.2]	緻密	釉灰オリブ胎土灰	良好	体部外面回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	竈火床部・覆土中	10% PL61 猿投
473	須恵器	甌	[29.6]	24.6	[14.2]	長石・石英	灰	良好	体部縦位の平行叩き, 下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈火床部	20% 新治B

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP143	球状土錘	3.2	2.5	0.8	23.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL61
DP144	球状土錘	3.3	2.5	1.0	24.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL61

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	砥石	(11.0)	3.4	4.4	(184.5)	凝灰岩	砥面3面	下層	PL61
Q 14	砥石	7.5	3.8	2.8	82.4	凝灰岩	砥面4面のうち2面に溝状研磨痕 二方向からの穿孔(未貫通)	覆土中	PL62

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 21	鎌	(4.2)	1.2	0.5	(5.0)	鉄	柳葉形長頸鎌 茎部欠損	覆土中	
M 22	鎌	(8.0)	0.9	0.5	(9.8)	鉄	長頸鎌 鎌身部欠損	下層	

第52号住居跡（第120・121図）

位置 調査Ⅰ区中央部のF7b8区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第59号住居跡を掘り込み、第34・41号住居、第40・101号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m、短軸4.36mの方形と推測され、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は6～16cmで、ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北側の一部を除く壁下には幅18～26cm、深さ6～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されているが、左袖部は第41号住居に掘り込まれている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで126cm、燃烧部幅116cmである。袖部は第7・8層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部の掘り込みは不明で、遺存する火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	6	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量	7	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
3	黒色	焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化物微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
			11	褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～28cmで、支柱穴である。P5は深さ26cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

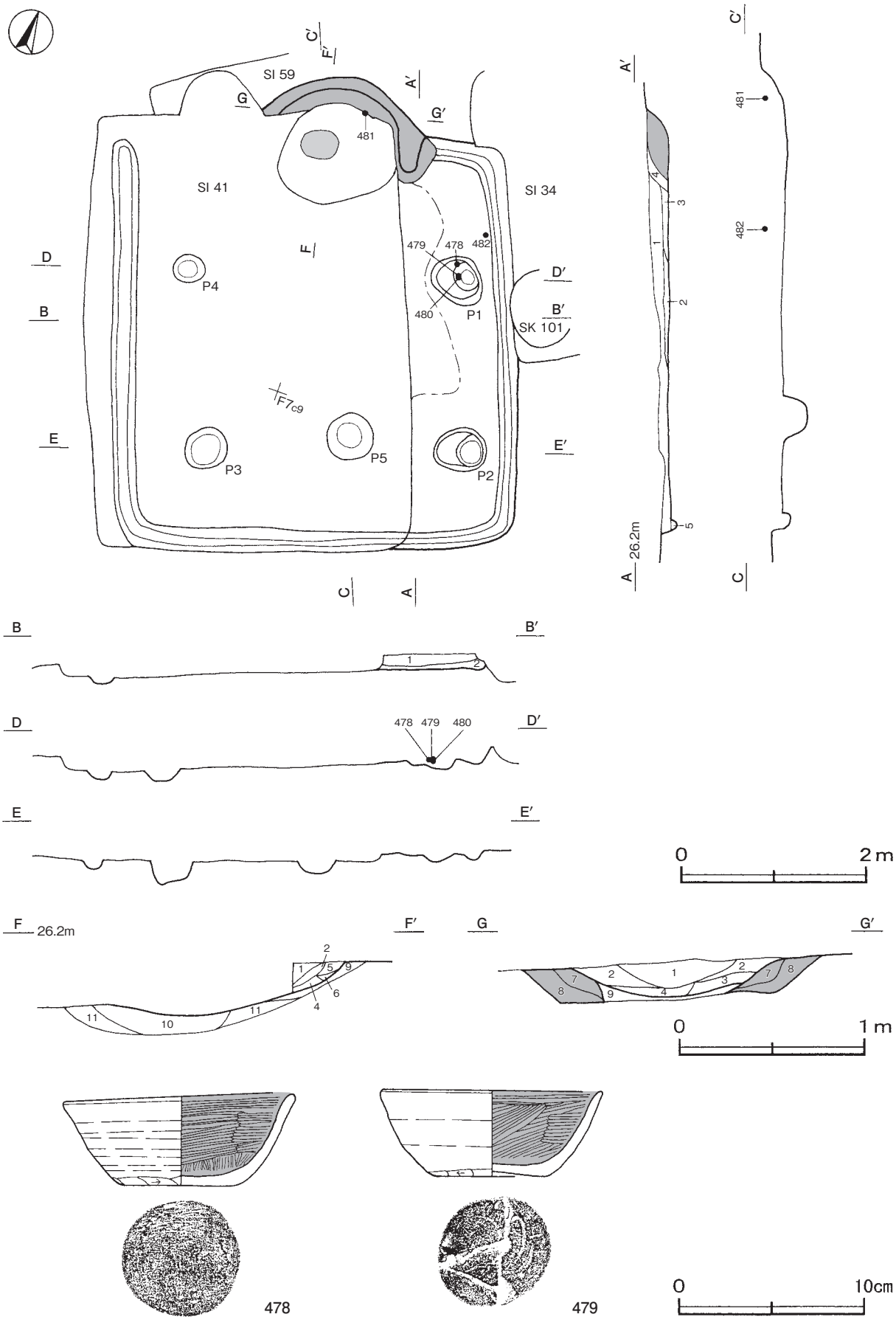
覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

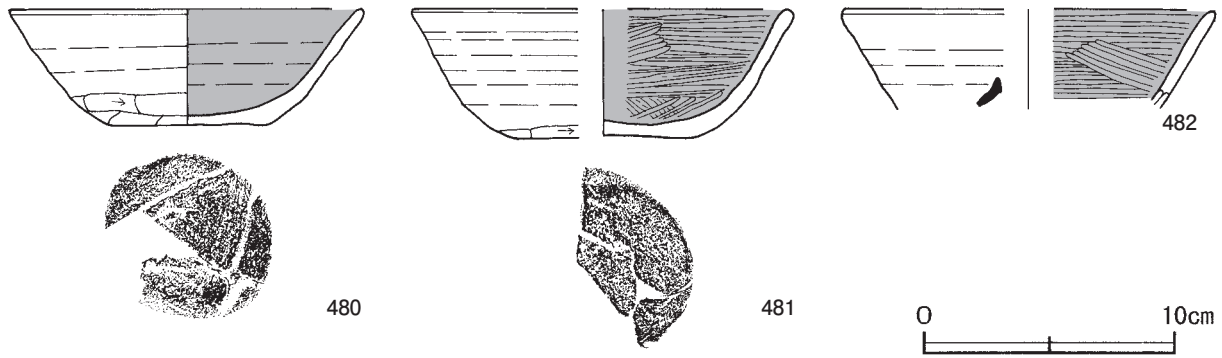
1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	4	暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片88点（坏類38・皿4・甕類46）、須恵器片15点（坏類7・甕類8）が出土している。481は竈煙道部、478はP1の上面から正位の状態、479・480は479が上、480が下の重なった状態でP1の上面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第120图 第52号住居跡・出土遺物実測図



第121図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第120・121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
478	土師器	坏	12.4	5.0	6.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ切り	P 1 上面	90% PL56
479	土師器	坏	11.8	4.7	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り	P 1 上面	90% PL56
480	土師器	坏	14.0	4.6	6.4	長石・石英・針状鉱物	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P 1 上面	70% PL56
481	土師器	坏	[15.0]	5.1	[7.0]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り	竈煙道部	30%
482	土師器	坏	[14.8]	(3.9)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き	中層	10% PL56 体部外面 墨書「□」

第53号住居跡（第122図）

位置 調査 I 区中央部の F 8 a1 区，標高26.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号掘立柱建物，第64号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.84m，短軸3.48mの長方形で，主軸方向はN-23°-Wである。壁高は4～6cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されているが，煙道部は第64号土坑に掘り込まれている。確認できた規模は焚口部から燃烧部まで35cm，燃烧部幅72cmである。袖部は第2層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部の掘り込みは不明で，火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量，焼土粒子微量

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ12～26cmで，支柱穴である。P 4は深さ14cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 層厚が薄く，堆積状況は不明である。

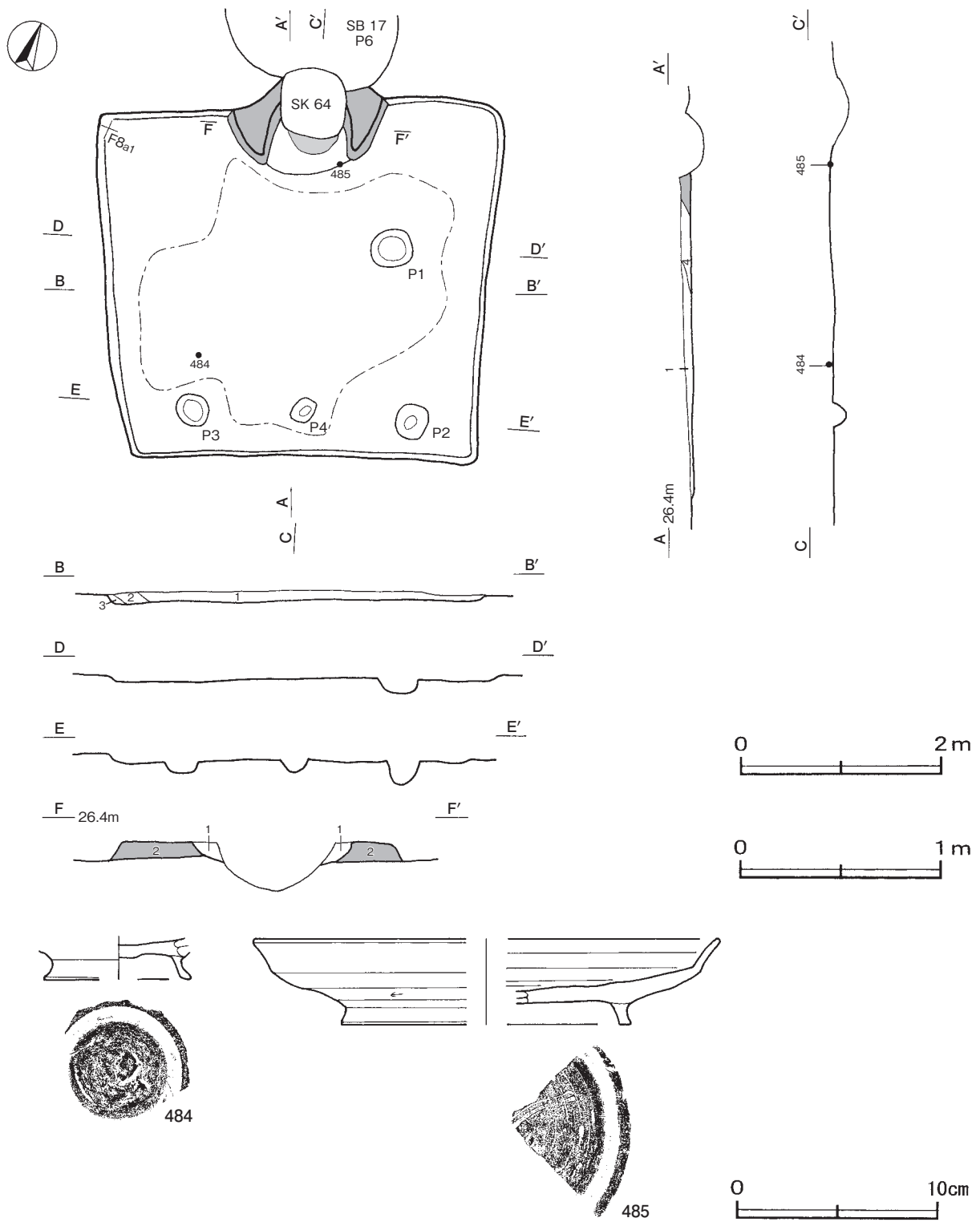
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片49点（坏類9・高台付碗1・甕類38・甌1），須恵器片9点（坏類5・盤1・蓋1・甕類2），土製品1点（土玉類）が出土している。485は竈焚口部から出土している。また，484はP 3付近の床面直上か

ら出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第122図 第53号住居跡・出土遺物実測図

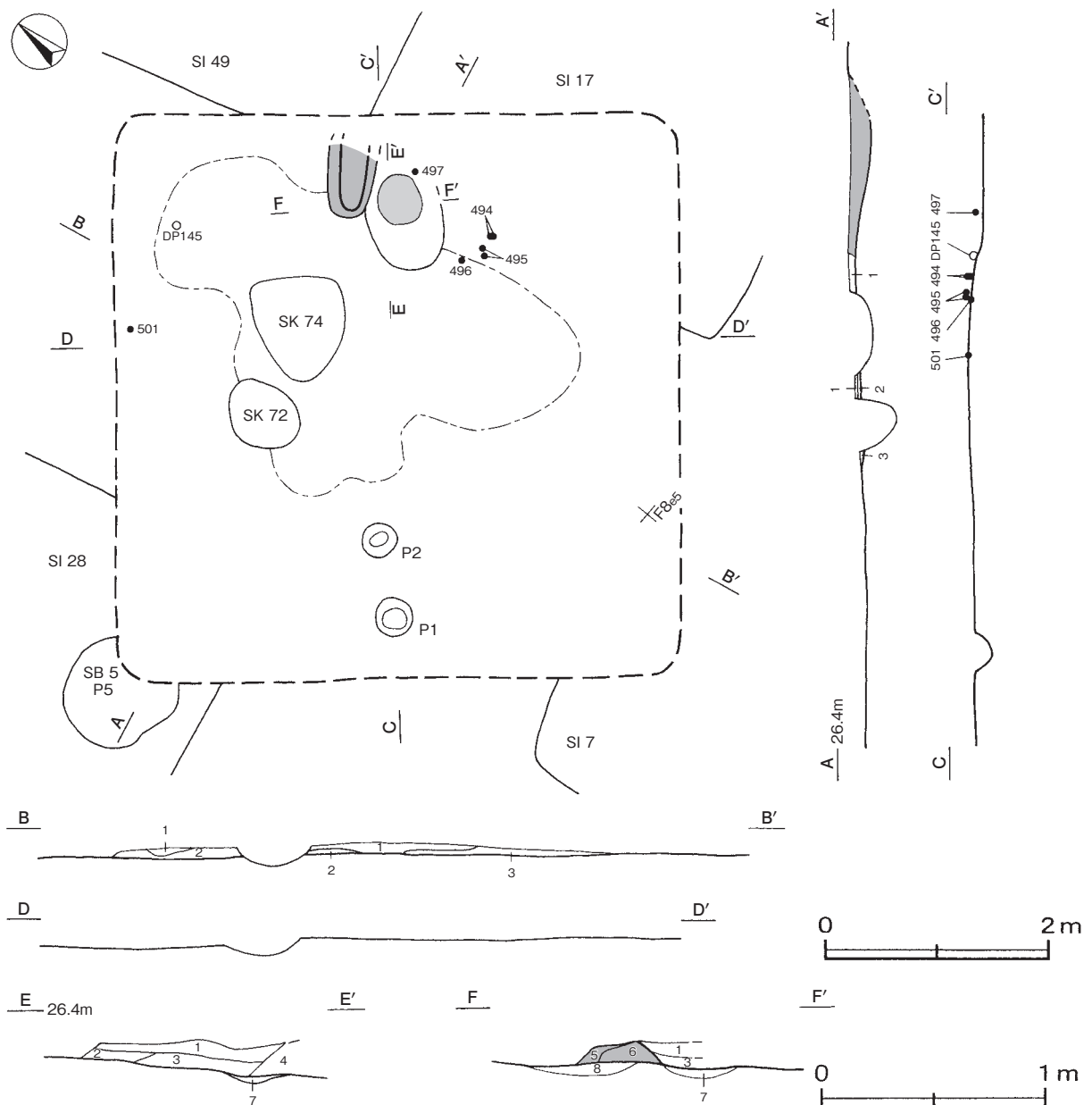
第53号住居跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
484	土師器	高台付椀	-	(2.0)	[6.4]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	内面横位のへら磨き 底部回転へら切り後高台貼り付け	床面直上	10%
485	須恵器	盤	[23.2]	4.3	[14.4]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄	普通 二次焼成	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り後高台貼り付け	竈焚口部	20% 稲敷 A 底部外面へら書き「二」

第55号住居跡 (第123・134図)

位置 調査 I 区中央部の F 8 d4区, 標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7・17・28・49・60号住居跡, 第5号掘立柱建物跡, 第134号土坑を掘り込み, 第72・74号土坑に掘り込まれている。



第123図 第55号住居跡実測図

規模と形状 壁が削平されているが、遺物及び床の広がりから推測した規模は、一辺5.0mで、主軸方向がN-50°-Eの方形と推測される。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁中央部に付設されているが、右袖部及び煙道部は削平されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで92cmで、確認できた燃焼部幅は52cmである。袖部は第5・6層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

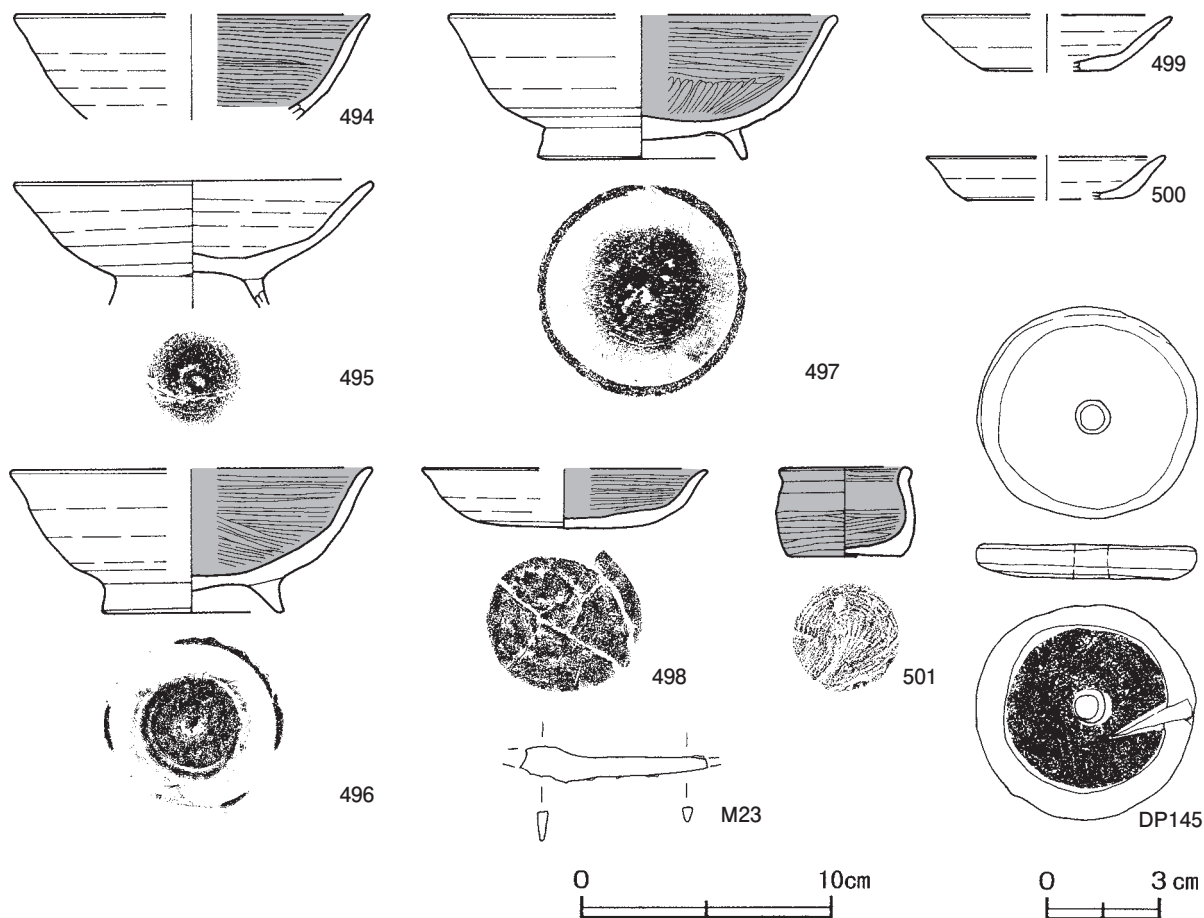
ピット 2か所。P1は深さ14cmで、南西壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ20cmで、P1の内側に位置しているが、性格は不明である。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片147点（坏類49・高台付碗11・皿5・小壺1・甕類81）、須恵器片8点（坏1・瓶類1・甕類6）、土製品1点（須恵器甕片転用紡錘車）、鉄製品1点（刀子）が出土している。497は竈火床部、501は



第124図 第55号住居跡出土遺物実測図

北西壁際の床面を少し掘りくぼめて逆位にして埋納した状態でそれぞれ出土している。また、494～496は竈焚口部前側、DP145は北西壁際の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀後葉と考えられる。

第55号住居跡出土遺物観察表（第124図）

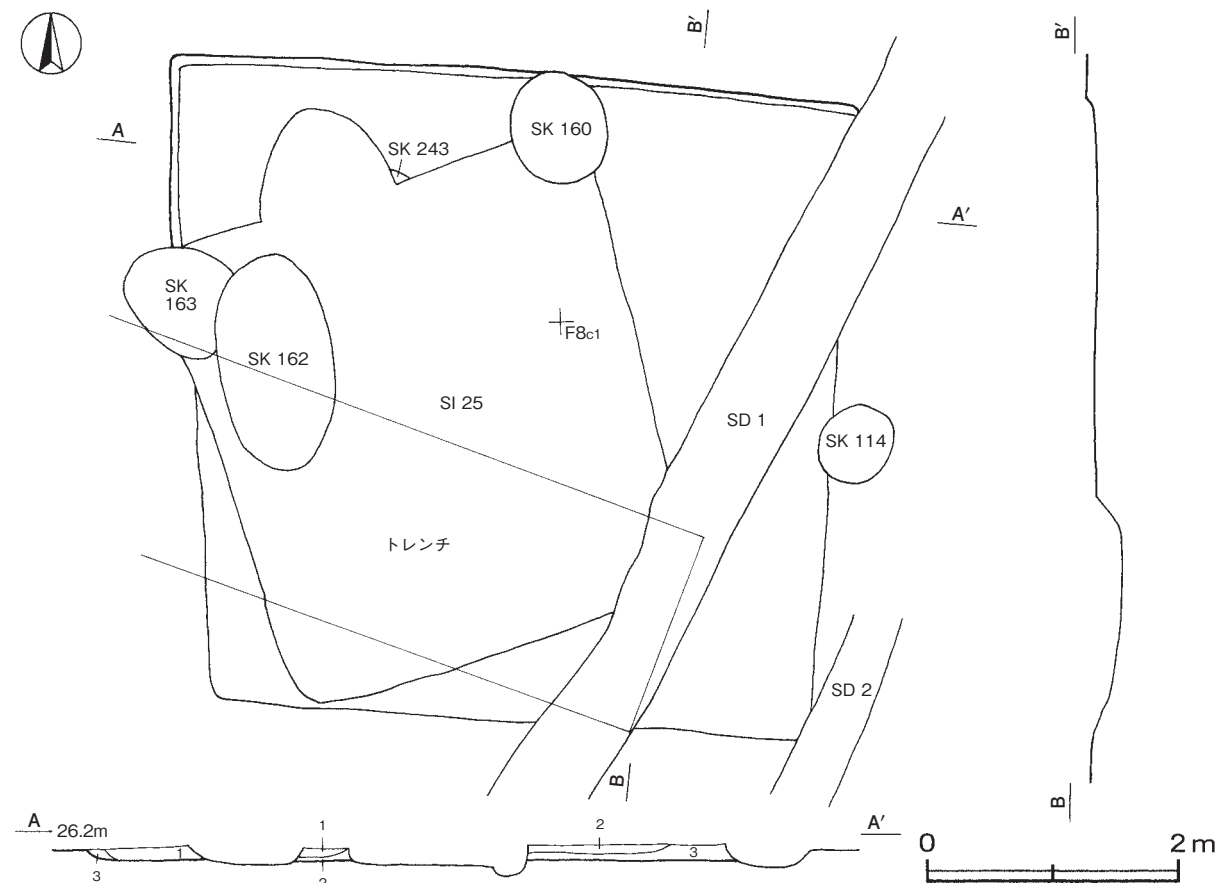
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
494	土師器	坏	[14.2]	(4.1)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のへら磨き	床面直上	20%
495	土師器	高台付椀	14.2	(5.0)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転へら削り 底部回転へら削り後高台貼り付け	床面直上	70% PL56
496	土師器	高台付椀	[14.2]	5.7	6.8	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のへら磨き 底部ナデ後高台貼り付け	床面直上	60%
497	土師器	高台付椀	[15.4]	5.7	8.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のへら磨き 底部回転へら削り後高台貼り付け	竈火床部	60%
498	土師器	皿	[11.4]	2.4	6.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のへら磨き 底部回転へら削り	覆土中	60%
499	土師器	小皿	[9.8]	2.2	[5.0]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転へら削り	覆土中	20%
500	土師器	小皿	[9.4]	1.7	[6.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転へら削り	覆土中	20%
501	土師器	小形壺	5.0	3.6	4.4	長石・石英・針状鉱物	黒褐	普通	体部下半横位のへら磨き 内面横位のへら磨き 底部回転糸切り	床面直上	100% PL57

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP145	紡錘車	5.8	0.9	1.0	33.0	粘土	須恵器甕体部片転用 一方向からの穿孔	床面直上	PL63

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 23	刀子	(7.5)	1.4	0.4	(9.3)	鉄	刃部・茎部一部欠損	覆土中	

第58号住居跡（第125・126図）

位置 調査I区中央部のF7b0区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。



第125図 第58号住居跡実測図

重複関係 第25号住居，第114・160・162・163・243号土坑，第1・2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸が5.46m，南北軸が5.14mしか確認できなかった。方形と推測され，主軸方向はN-6°-Eである。壁高は6cmで，ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で，硬化面は認められない。

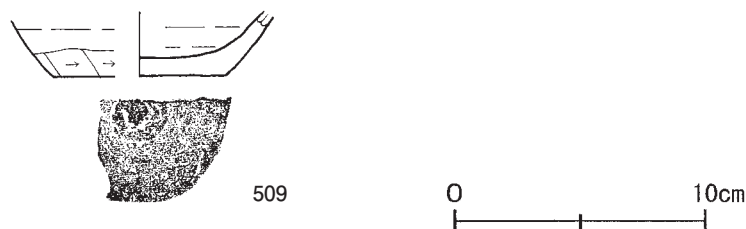
覆土 層厚が薄く，遺存するのが3層だけであるため，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片48点（坏類5・甕類43），須恵器片1点（坏）が出土している。全体として床面からの出土遺物は少ない。509は北区の覆土中から出土している。

所見 時期は，覆土から出土した土器群とあまり差はないと思われ，9世紀前葉と考えられる。



第126図 第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
509	須恵器	坏	-	(2.5)	[7.0]	長石・石英・白雲母	橙	普通二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	10%新治A

第59号住居跡（第127図）

位置 調査I区東部のF7b8区，標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第41・52号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が第41・52号住居に掘り込まれているため，東西軸が3.06mで，南北軸が1.2mしか確認できなかった。主軸方向がN-57°-Eの方形と推測され，壁高は8～14cmで，ほぼ直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

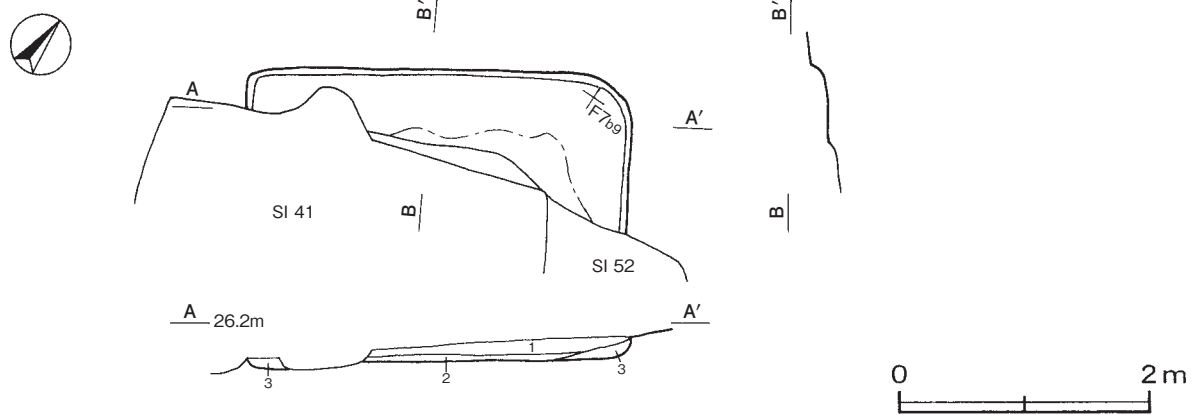
覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片17点（坏類4・甕類13）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀代と考えられる。



第127図 第59号住居跡実測図

表4 竪穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	F 8 a4	N-97°-W	方形	3.50×3.22	18~20	平坦	全周	4	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 土玉, 球状土錘, 支脚, 砥石	9世紀中葉	SI11 → 本跡
2	F 8 h6	N-14°-W	長方形	7.68×6.64	16	平坦	-	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘	9世紀中葉	SI13・22 → 本跡
3	E 8 i4	N-9°-W	長方形	4.10×3.52	2~6	平坦	-	2	1	1	-	竈1	不明	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SB11 → 本跡 → SM2, SK152・154
4	F 8 c8	[N-14°-W]	[方形]	[4.0]×[4.0]	-	平坦	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器	10世紀中葉	SI10 → 本跡 → SK1・79・80
5	F 8 f7	N-1°-W	長方形	5.04×4.54	22~32	平坦	全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土玉, 球状土錘, 須恵器, 新羅	9世紀後葉	SI14・18 → 本跡
6	F 8 g3	N-72°-E	長方形	5.42×(4.68)	16	平坦	-	-	2	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 砥石, 鉄滓	10世紀後葉	SI8・16 → 本跡 → SK5~10・13
7	F 8 e5	N-21°-W	方形	6.18×6.16	24~32	平坦	全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土玉, 球状土錘, 須恵器, 新羅, 文, 鏡, 鉄滓	9世紀前葉	SI16, SK134 → 本跡 → SI17・26・55, SB1
8	F 8 f1	N-13°-W	方形	6.90×6.52	22	平坦	-	[4]	1	-	-	竈1	人為	須恵器, 球状土錘	8世紀前葉	SI43 → 本跡 → SI6・15・31・32, SB2・14, SK145
9	F 8 b8	N-3°-E	[方形]	[3.40]×[3.40]	14~16	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 管状土錘, 砥石	9世紀中葉	SI33 → 本跡 → SI10, SK80・82
10	F 8 b8	[N-2°-W]	[方形]	3.66×(3.2)	4~22	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 支脚	9世紀後葉	SI9, SK82 → 本跡 → SI4
11	F 8 a4	N-35°-W	方形	3.10×2.96	10~16	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	須恵器	9世紀中葉	本跡 → SI1, SB7
12	F 7 f8	[N-32°-W]	[方形]	(6.22)×6.2	10~20	平坦	全周	4	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡 → SB4・15, SK166, SD1
14	F 8 f7	[N-11°-W]	[長方形]	5.1×(3.4)	16~34	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	8世紀代	本跡 → SI5
15	F 8 e2	N-20°-W	方形	4.20×4.14	20~30	平坦	全周	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 灰釉陶器, 土玉, 砥石, 鉄滓	10世紀前葉	SI8・32・43 → 本跡 → SB5, SK60
17	F 8 d5	N-13°-W	長方形	4.24×3.60	4~14	平坦	-	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SI7・49・60 → 本跡 → SI55, SB6
19	F 7 g9	[N-3°-W]	[長方形]	(5.4)×(3.3)	34~44	平坦	-	(1)	-	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 砥石	8世紀前葉	本跡 → SB2・15
20	E 8 j2	N-15°-W	長方形	6.36×5.68	22~34	平坦	全周	4	1	1	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 土玉, 球状土錘, 支脚, 刀子	9世紀前葉	本跡 → SK119・161, SD3
21	F 8 d7	不明	不明	[2.6]×[2.5]	-	平坦	-	-	-	-	-	炉1	不明	土師器	10世紀中葉	
23	F 7 b4	N-55°-E	[長方形]	4.16×(3.60)	36	平坦	-	3	-	-	-	竈1	自然	土師器, 須恵器, 球状土錘	8世紀中葉	第1号遺物包含層 → 本跡 → SK25
24	F 8 d6	N-75°-E	長方形	2.74×2.26	6~16	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SI18・26・45 → 本跡
25	F 7 c0	N-14°-W	方形	3.84×3.58	10~24	平坦	全周	-	2	-	-	竈1	人為	土師器, 灰釉陶器, 土玉, 球状土錘, 須恵器, 新羅, 刀子	9世紀後葉	SI8, SK243 → 本跡 → SK160・162・163, SD1
26	F 8 e6	N-11°-W	長方形	3.60×2.92	18~24	平坦	半周	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 土玉	9世紀中葉	SI7・18・45 → 本跡 → SI24
27	F 7 a8	N-52°-E	方形	(3.10)×2.98	6	平坦	-	-	1	-	-	竈1	不明	土師器	10世紀後葉	本跡 → SK14
28	F 8 c3	N-12°-W	長方形	6.32×5.74	6~20	平坦	全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 管状土錘	9世紀前葉	SK96 → 本跡 → SI55, SB5, SK136
29	E 7 h7	N-24°-W	長方形	3.30×2.76	2~4	平坦	一部	-	-	-	-	竈1	不明	土師器	10世紀前葉	SI35 → 本跡 → SB12, SK229
30	E 7 h6	N-21°-W	[方形]	(4.00)×(4.00)	4	平坦	一部	2	-	-	-	竈1	不明	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
31	F 7 e0	N-50°-E	方形	3.40×3.28	22	平坦	全周	-	1	-	-	竈1	人為	土師器	10世紀後葉	SI8・43, SB14 → 本跡 → SK146・340
32	F 8 f2	N-24°-W	長方形	3.42×2.74	8~32	平坦	全周	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘, 須恵器, 新羅	9世紀後葉	SI8 → 本跡 → SI15
33	F 8 b7	[N-2°-W]	[長方形]	2.32×(1.0)	8~16	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	須恵器, 球状土錘	8世紀後葉	本跡 → SI9, SK86・90
34	F 7 b9	N-62°-E	方形	3.32×3.14	8~12	平坦	全周	-	2	-	-	竈1	人為	土師器, 球状土錘	10世紀後葉	SI52, SB13, SK169 → 本跡 → SK101・112・170・261
35	E 7 g7	N-55°-E	[長方形]	(3.76)×3.40	6	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	-	8世紀代	本跡 → SI29

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
41	F 7 b8	N-19°-W	長方形	4.72×3.48	8~24	平坦	-	-	1	1	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘	9世紀後葉	SI52・59→本跡→SK40・270
42	E 8 j1	N-23°-W	長方形	3.94×3.58	8~26	平坦	-	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 球状土錘	10世紀前葉	SI51・54→本跡→SB17
44	F 7 a6	N-20°-W	方形	3.26×3.20	16	平坦	-	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 灰釉陶器	10世紀前葉	SI46, SK371→本跡→SB3, SK276・369・388
45	F 8 d6	[N-24°-W]	[方形]	[2.3]×[2.3]	17	平坦	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器, 球状土錘	9世紀中葉	SI18→本跡→SI24・26
47	F 7 d9	N-21°-W	方形	3.06×2.92	8~24	平坦	半周	-	1	-	-	竈1	人為	土師器, 須恵器, 灰釉陶器, 砥石	9世紀後葉	SI57→本跡→SK54・55・100
51	E 7 i0	N-16°-W	長方形	4.74×4.16	44~52	平坦	全周	4	1	-	-	竈1	人為	須恵器, 灰釉陶器, 球状土錘, 砥石, 炭燼	8世紀後葉	SI54→本跡→SI42, SB13・17, SK389
52	F 7 b8	N-20°-W	[方形]	4.48×(4.36)	6~16	平坦	全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器	9世紀後葉	SI59→本跡→SI34・41, SK40・101
53	F 8 a1	N-23°-W	長方形	3.84×3.48	4~6	平坦	-	3	1	-	-	竈1	不明	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡→SB17, SK64
55	F 8 d4	[N-50°-E]	[方形]	[5.0]×[5.0]	-	平坦	-	-	1	1	-	竈1	人為	土師器, 紡錘車, 刀子	10世紀後葉	SI7・17・28・49・60, SB5, SK134→本跡→SK72・74
58	F 7 b0	N-6°-E	方形	(5.46)×(5.14)	6	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	須恵器	9世紀前葉	本跡→SI25, SK114・160・162・163・243, SD1・2
59	F 7 b8	[N-57°-E]	[方形]	3.06×(1.2)	8~14	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	9世紀代	本跡→SI41・52

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第128・129図)

位置 調査I区南部のF 8 f4区, 標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7・16号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-19°-Wの南北棟である。規模は, 桁行5.85m, 梁行4.8mで, 面積は28.1㎡である。柱間寸法は, 桁行1.95m(6尺5寸), 梁行2.4m(8尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

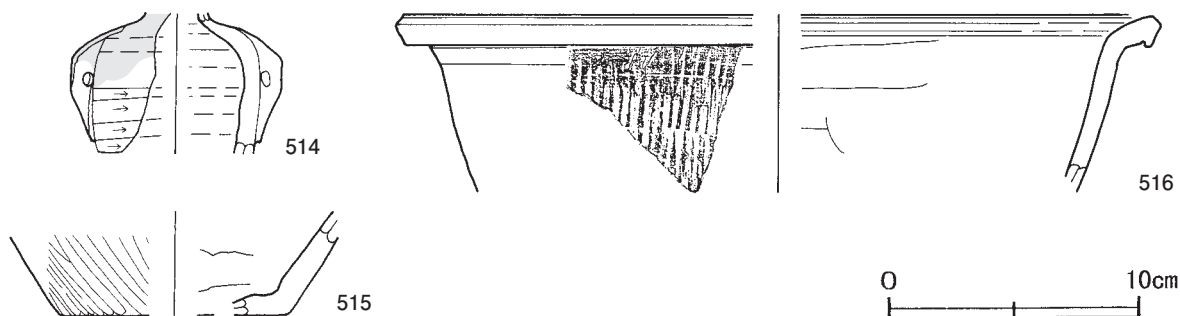
柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で, 深さは14~34cmである。土層は, 第1・2層が柱痕跡に相当し, 第3~7層が埋土で, 版築状に突き固められている。

土層解説

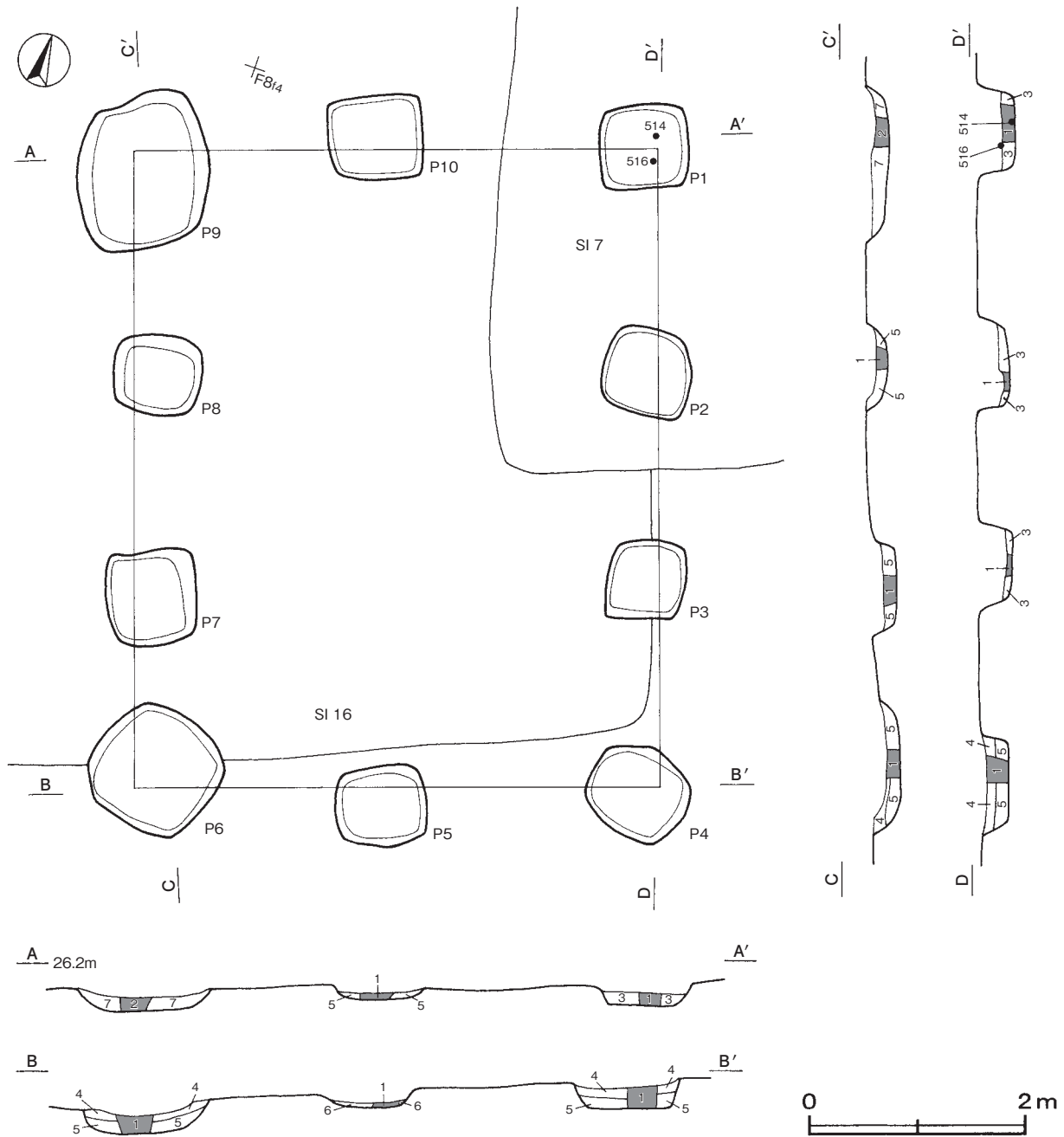
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片73点(坏類25・甕類48), 須恵器片22点(坏類13・蓋1・双耳瓶1・甕類7)が出土している。514はP1の柱痕跡の底面から出土している。また, 516はP1, 515はP2の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡は, 確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され, 倉庫というよりは居宅的な性格を有していたものと考えられる。時期は, 出土土器や重複関係, 同じような桁行方向の掘立柱建物跡から9世紀中葉と考えられる。



第128図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第129図 第1号掘立柱建物跡実測図

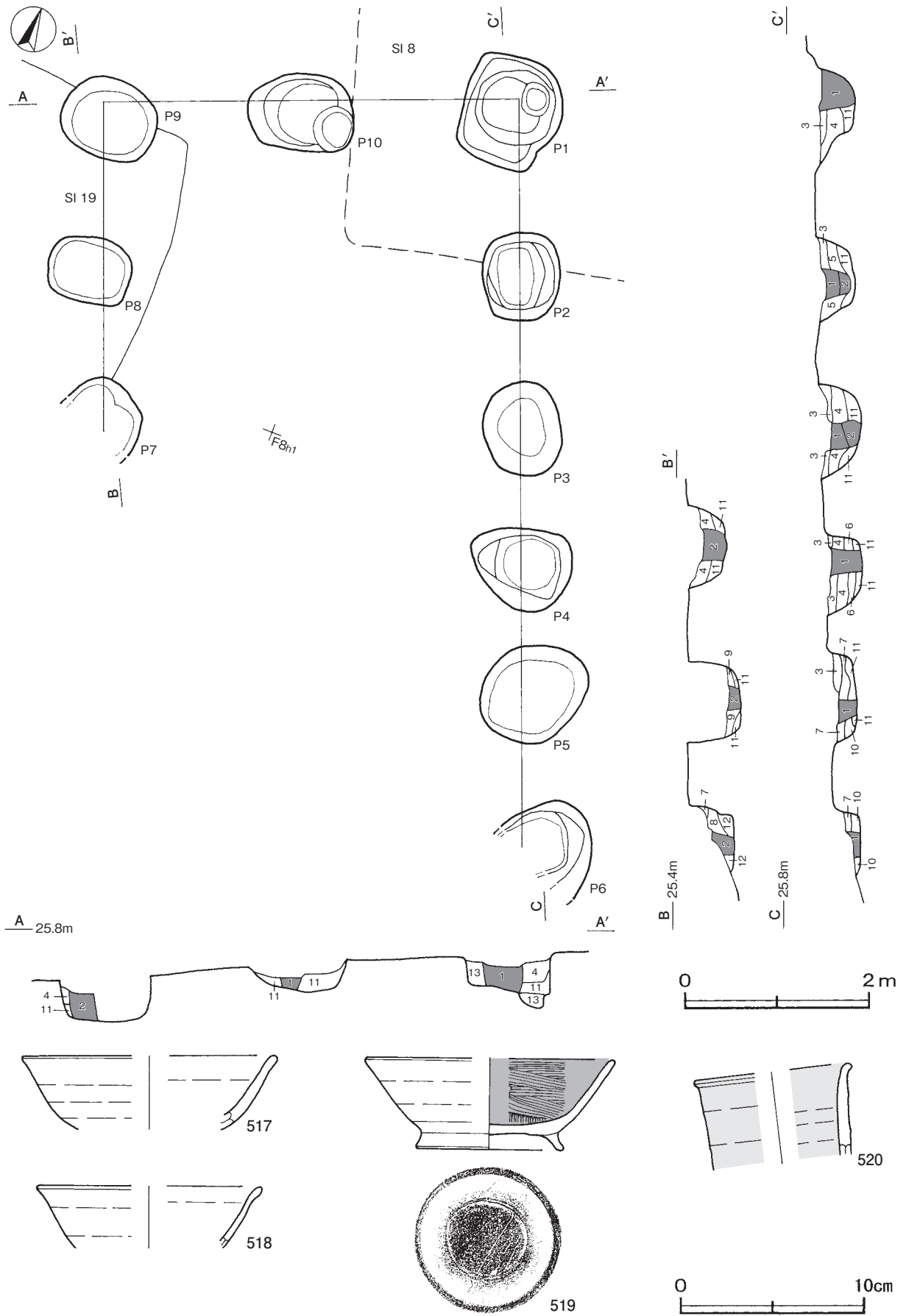
第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
514	須恵器	双耳瓶	-	(5.5)	-	長石・石英・ 黒色粒子	釉灰オリブ 胎土灰	良好	体部回転ヘラ削り後耳貼り付け 外面自然釉	P1柱痕跡底面	30% PL59 猿投
515	土師器	甕	-	(4.1)	[9.0]	長石・石英・ 白雲母	にぶい赤褐	普通	体部下半縦位のヘラ磨き 内面ヘ ラナデ 底部木葉痕カ	P2埋土中層	10%
516	須恵器	鉢	[30.0]	(7.0)	-	長石・石英・ 白雲母	黄灰	良好	体部縦位の平行叩き 内面ヘラナ デ	P1埋土中	10% 新治A

第2号掘立柱建物跡 (第130図)

位置 調査I区南部のF7g0区、標高25.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・19号住居跡を掘り込んでいる。



第130图 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 南西側が段切り状に削平されているため、確認できたのは桁行5間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-21°-Wの南北棟と推定される。確認できた規模は、桁行8.2m以上、梁行4.5mで、面積は36.9㎡以上である。柱間寸法は、桁行1.65m（5尺5寸）、梁行2.25m（7尺5寸）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、深さは30～60cmである。土層は、第1・2層が柱痕跡に相当し、第3～13層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	8	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	12	黒褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
			13	褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片85点（坏類20・高台付椀3・蓋1・甕類61）、須恵器片20点（坏類8・高台付坏2・蓋5・瓶類2・甕類3）、灰釉陶器片1点（平瓶）が出土している。518・519はP1、517はP4、520はP7の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、すべての柱穴が確認できたわけではないが、大形の上屋構造もつ側柱建物と想定される。しかし、梁行が2間しかないことから、居宅というよりは倉庫的な性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
517	土師器	坏	[13.6]	(3.9)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通		P4埋土中	10%
518	土師器	坏	[12.0]	(3.3)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通		P1埋土中	10%
519	土師器	高台付椀	[13.4]	4.9	7.8	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	橙	普通	内面横位のへら磨き 底部手持ちへら削り後高台貼り付け	P1埋土中	30%
520	灰釉陶器	平瓶	[8.4]	(4.9)	-	緻密	釉オリーブ黄胎土灰白	良好		P7埋土中	10% PL61 猿投

第3号掘立柱建物跡（第131図）

位置 調査I区中央部のF7b6区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号住居跡を掘り込んでいる。また、出土土器から第44号住居跡、第371号土坑よりも新しい。その他、第276・369・388号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

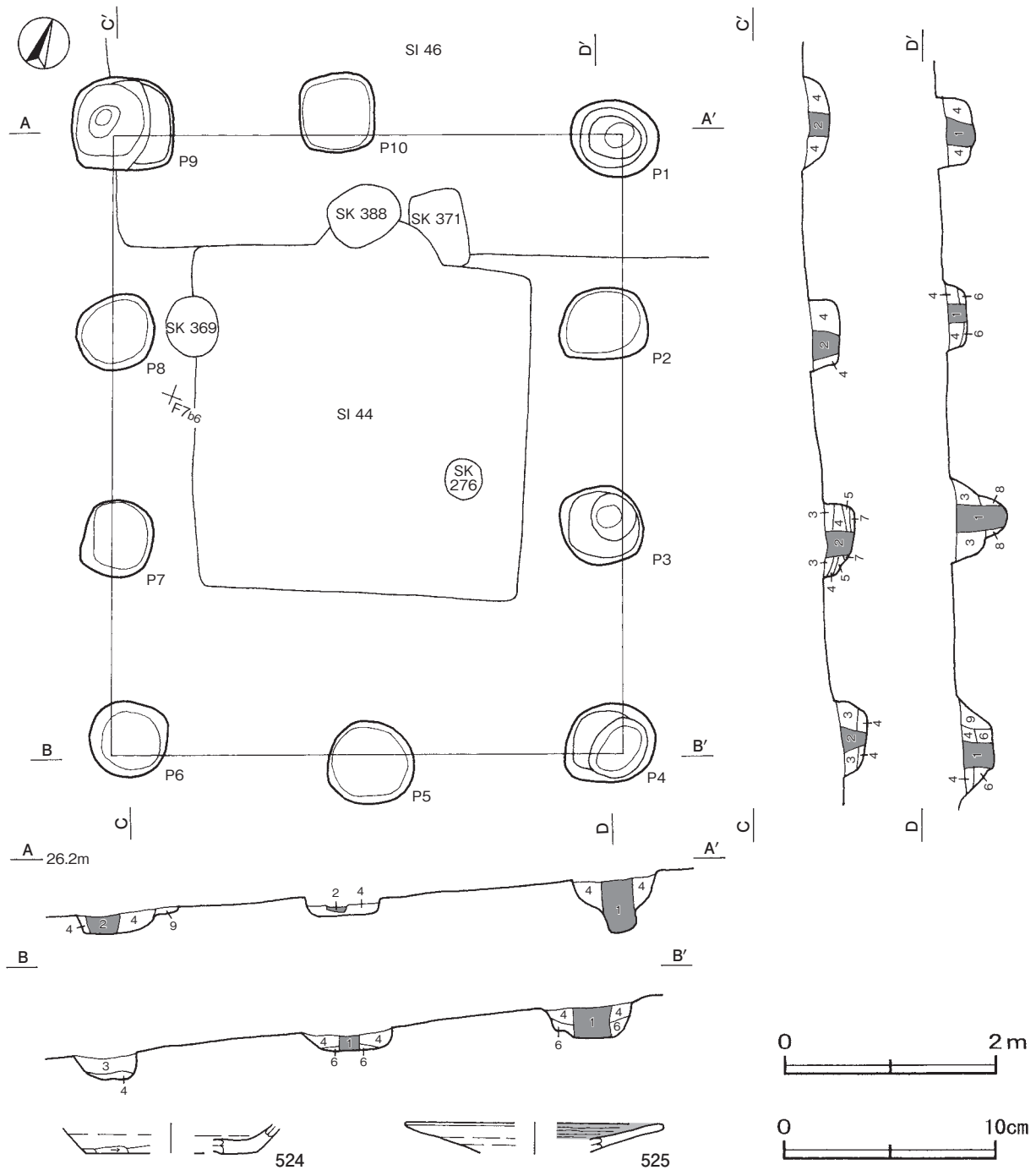
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-21°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.85m、梁行4.8mで、面積は28.1㎡である。柱間寸法は、桁行1.95m（6尺5寸）、梁行2.4m（8尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は隅丸方形で、深さは16～60cmである。土層は、第1・2層が柱痕跡に相当し、第3～9層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

1	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
			9	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片71点（坏類28・皿1・甕類42）、須恵器片5点（坏類3・瓶類1・甕類1）が出土している。524はP2、525はP3の埋土からそれぞれ出土している。



第131図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

所見 本跡は、確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され、倉庫というよりは居宅的な性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
524	須恵器	坏	-	(1.4)	[8.0]	長石・石英・白雲母	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	P 2埋土中	10% 新治A
525	土師器	皿	[12.2]	(1.3)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄	普通	内面横位のヘラ磨き	P 3埋土中	10%

第4号掘立柱建物跡（第132図）

位置 調査I区中央部のF7e8区、標高25.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居跡を掘り込み、第4号溝に掘り込まれている。

規模と構造 北西部が第4号溝に掘り込まれているため、確認できたのは桁行1間以上、梁行1間以上の側柱建物跡で、桁行方向がN-24°-Wの南北棟と推測される。確認できた規模は、桁行1.95m以上、梁行2.4m以上である。柱間寸法は、桁行1.95m（6尺5寸）、梁行2.4m（8尺）である。

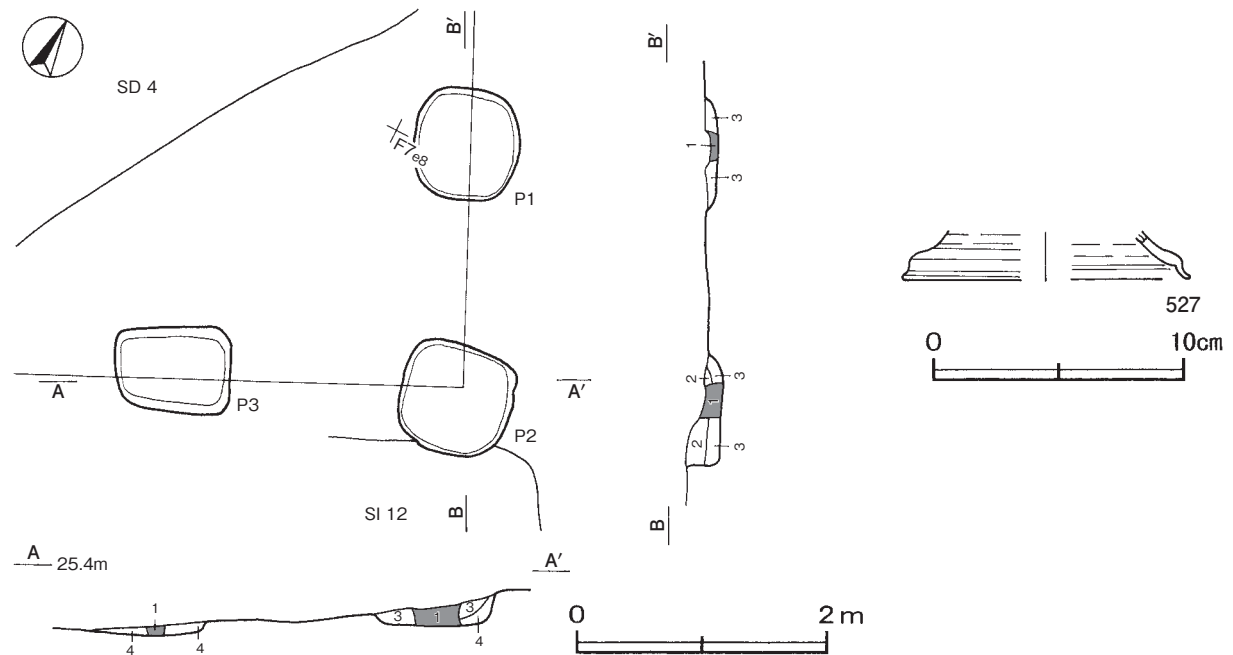
柱穴 3か所。平面形は隅丸方形で、深さは12～30cmである。土層は、第1層が柱痕跡に相当し、第2～4層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 4 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）、須恵器片3点（坏類2・高盤1）が出土している。527はP1の埋土から出土している。

所見 本跡は、桁行、梁行とも1間以上ということしか確認できず不明な部分が多いが、他の掘立柱建物と同じように南北棟の側柱建物と想定され、倉庫としての性格が考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。



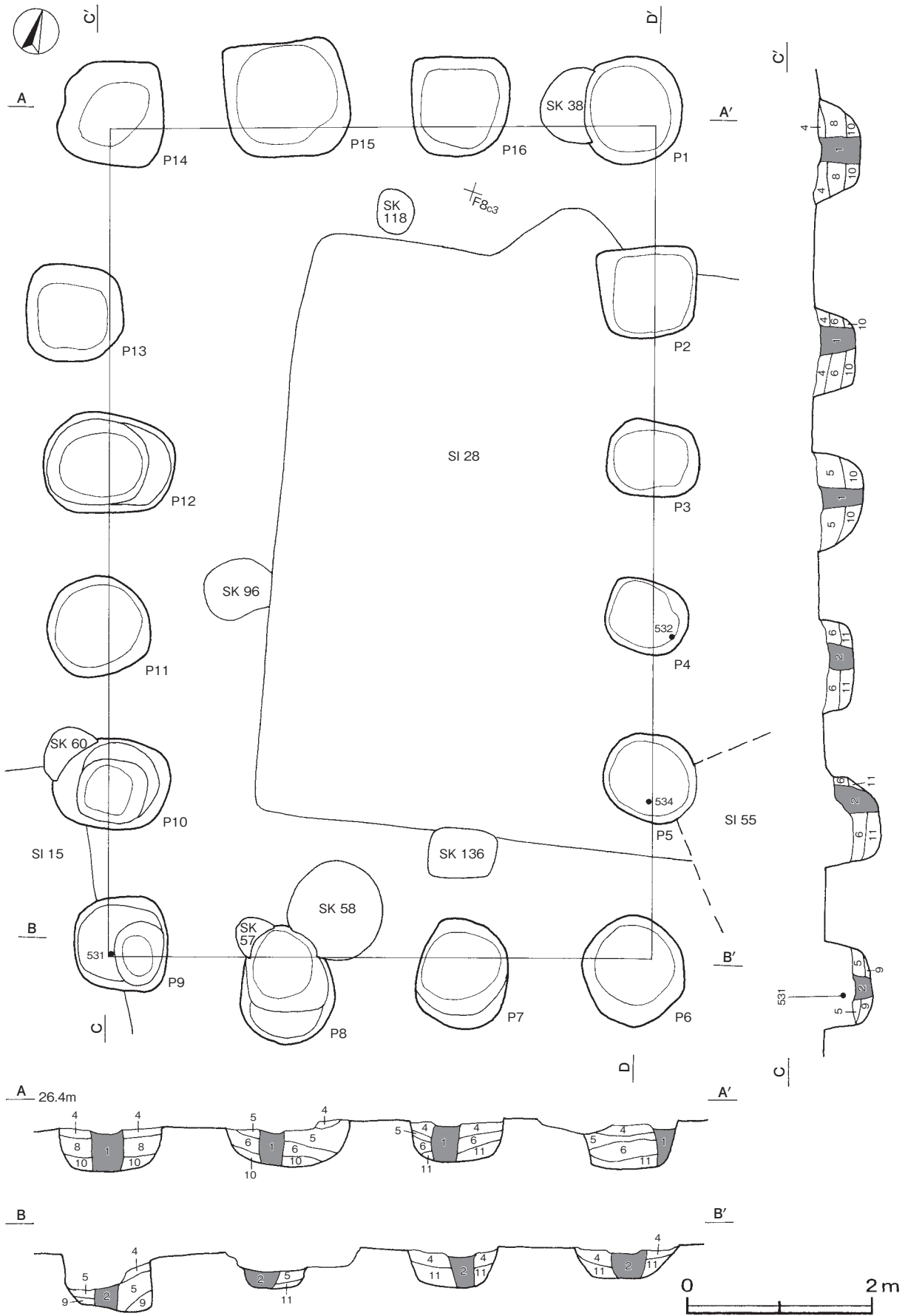
第132図 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第132図）

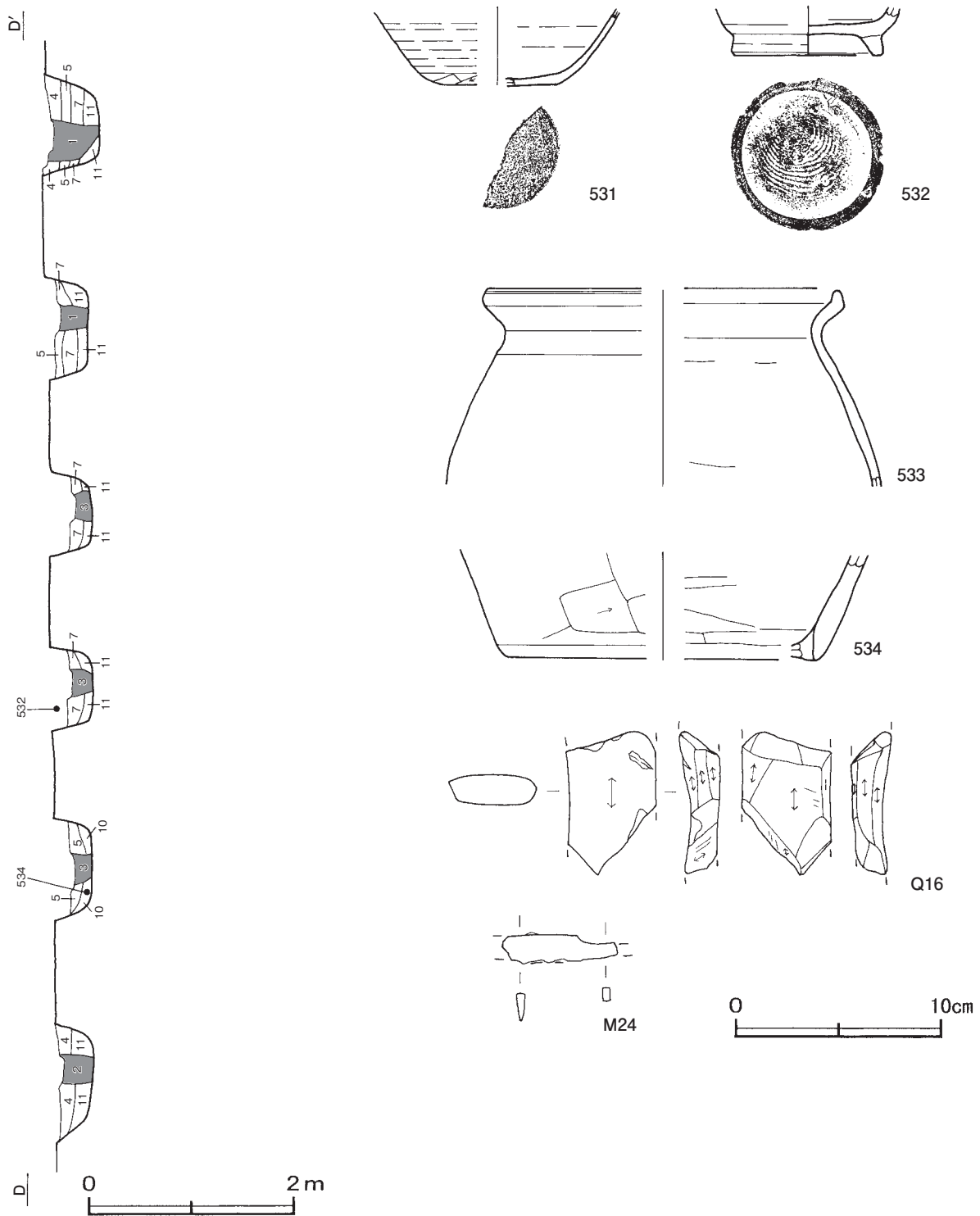
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
527	須恵器	高盤	-	(1.9)	[11.4]	長石・石英・黒色粒子	灰	良好		P1埋土中	10% 相数B

第5号掘立柱建物跡（第133図）

位置 調査I区中央部のF8c2区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。



第133图 第5号掘立柱建物跡実測図



第134図 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第15・28住居跡，第96号土坑を掘り込み，第55号住居，第38・57・58・60号土坑に掘り込まれている。その他，第118・136号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行5間，梁行3間の側柱建物跡で，桁行方向がN-18°-Wの南北棟である。規模は，桁行9.0m，梁行5.85mで，面積は52.7㎡である。柱間寸法は，桁行1.8m（6尺），梁行1.95m（6尺5寸）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 16か所。平面形は隅丸方形で、深さは38～62cmである。土層は、第1～3層が柱痕跡に相当し、第4～11層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	8 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片124点（坏類28・高台付椀2・甕類94）、須恵器片46点（坏類14・高台付坏2・蓋8・盤1・瓶類2・甕類18・甗1）、土製品1点（土玉類）、石器1点（砥石）、鉄製品1点（刀子）が出土している。531はP9の柱痕跡から出土している。534はP5の柱掘り方の底面から出土している。また、533はP2、532はP4、M24はP8、Q16はP15の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から大形の上屋構造をもつ側柱建物と想定され、居宅としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀中葉と考えられる。

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
531	土師器	坏	-	(3.7)	[5.6]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P9柱痕跡中層	30%
532	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	7.2	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部回転糸切り後高台貼り付け	P4埋土上層	40% 稲敷B
533	土師器	甕	[17.0]	(9.6)	-	長石・石英・白雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	P2埋土中	10%
534	須恵器	甗	-	(5.2)	[15.0]	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	P5柱掘り方底面	10% 新治A

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	砥石	(6.9)	4.3	2.0	(62.0)	凝灰岩	砥面5面 うち1面に溝状研磨痕	P15埋土中	PL62

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	刀子	(6.2)	1.4	0.5	(6.7)	鉄	刃部・茎部一部欠損	P8埋土中	

第6号掘立柱建物跡（第135・136図）

位置 調査I区東部のF8b6区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

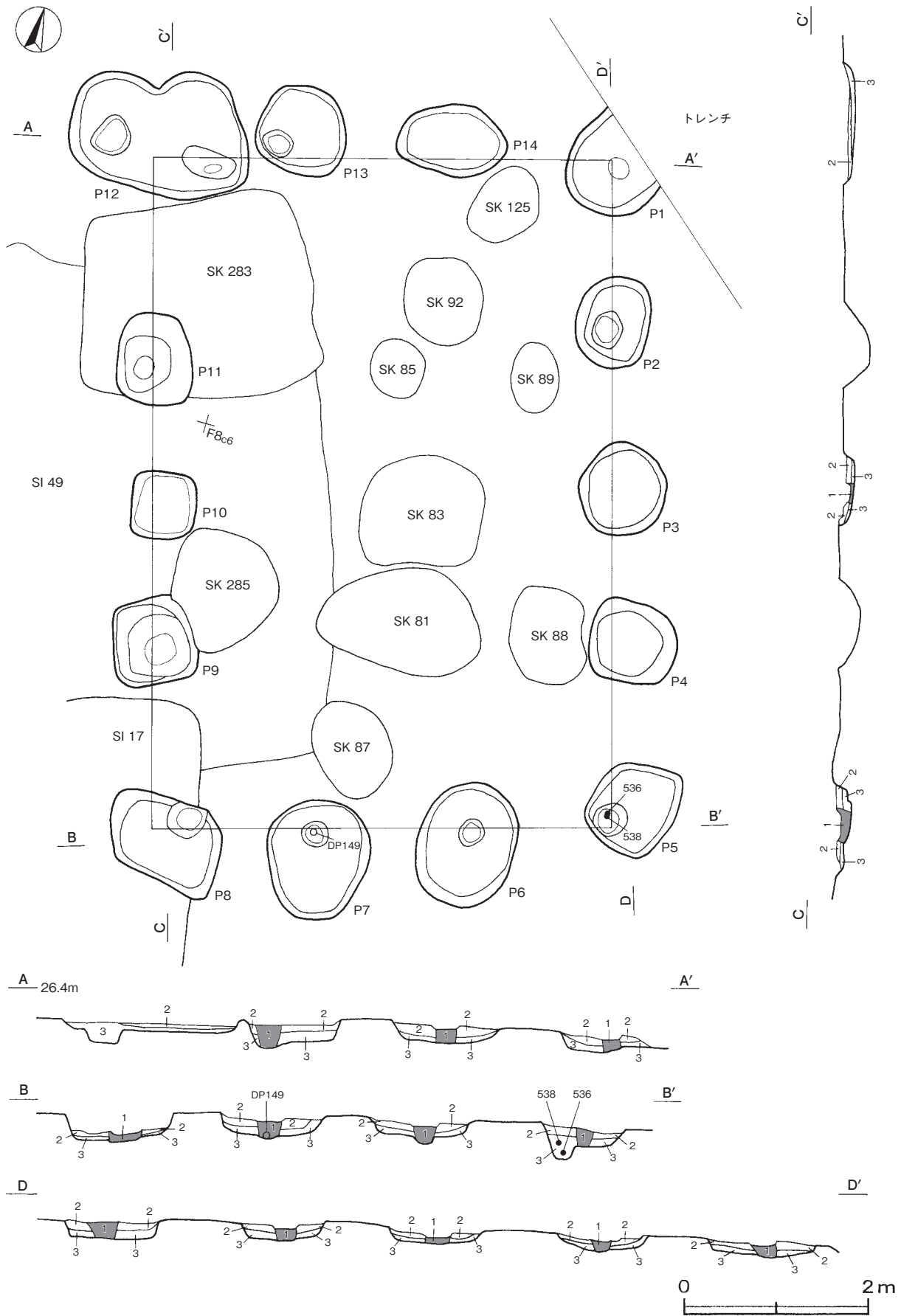
重複関係 第17・49号住居跡、第283号土坑を掘り込み、第285号土坑に掘り込まれている。また、出土土器から第83・88号土坑よりも新しい。その他、第81・85・87・89・92・125号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-16°-Wの南北棟である。規模は、桁行7.2m、梁行4.95mで、面積は35.6㎡である。柱間寸法は、桁行1.8m（6尺）、梁行1.65m（5尺5寸）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 14か所。平面形は隅丸方形で、深さは12～40cmである。土層は、第1層が柱痕跡に相当し、第2・3層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

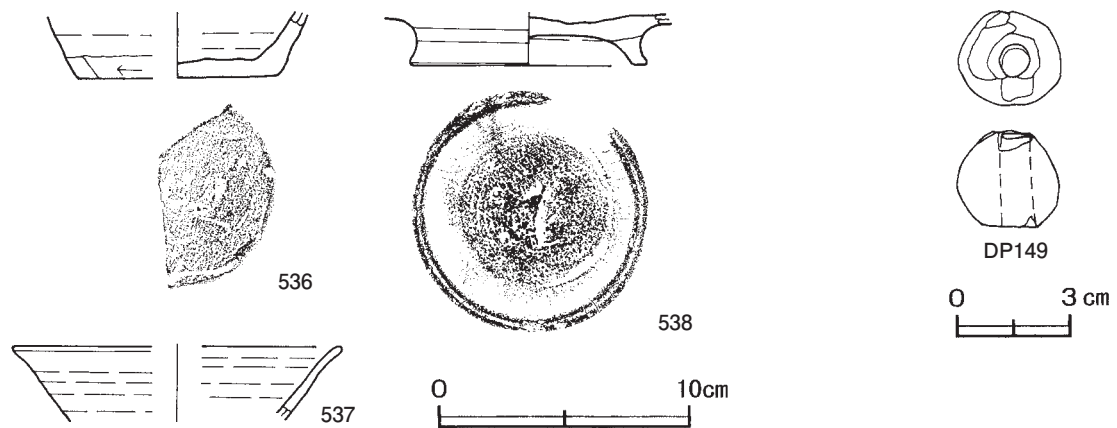
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		



第135図 第6号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片30点（坏類9・高台付椀1・甕類20），須恵器片8点（坏類6・盤1・蓋1），土製品1点（球状土錘）が出土している。DP149はP7の柱痕跡の底面から出土している。また、536・538はP5、537はP13の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から中形の上屋構造をもつ側柱建物と想定され、居宅としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から9世紀後葉と考えられる。



第136図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
536	須恵器	坏	-	(2.6)	[8.0]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り・底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	P5埋土下層	20% 稲敷A
537	須恵器	坏	[13.0]	(2.9)	-	長石・石英・白雲母	にぶい黄	良好		P13埋土中	10% 新治A
538	須恵器	盤	-	(2.0)	9.4	長石・石英	にぶい黄橙	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け高台端部に沈線が巡る	P5埋土下層	20% 新治B

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP149	球状土錘	2.7	2.5	0.9	18.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	P7柱痕跡底面	

第7号掘立柱建物跡（第137図）

位置 調査I区中央部のF8a5区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号住居跡を掘り込んでいる。その他、第144号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向がN-20°-Wの正方棟である。規模は桁行、梁行とも4.2mで、面積は17.6㎡である。柱間寸法は、桁行2.1m（7尺）、梁行2.1m（7尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

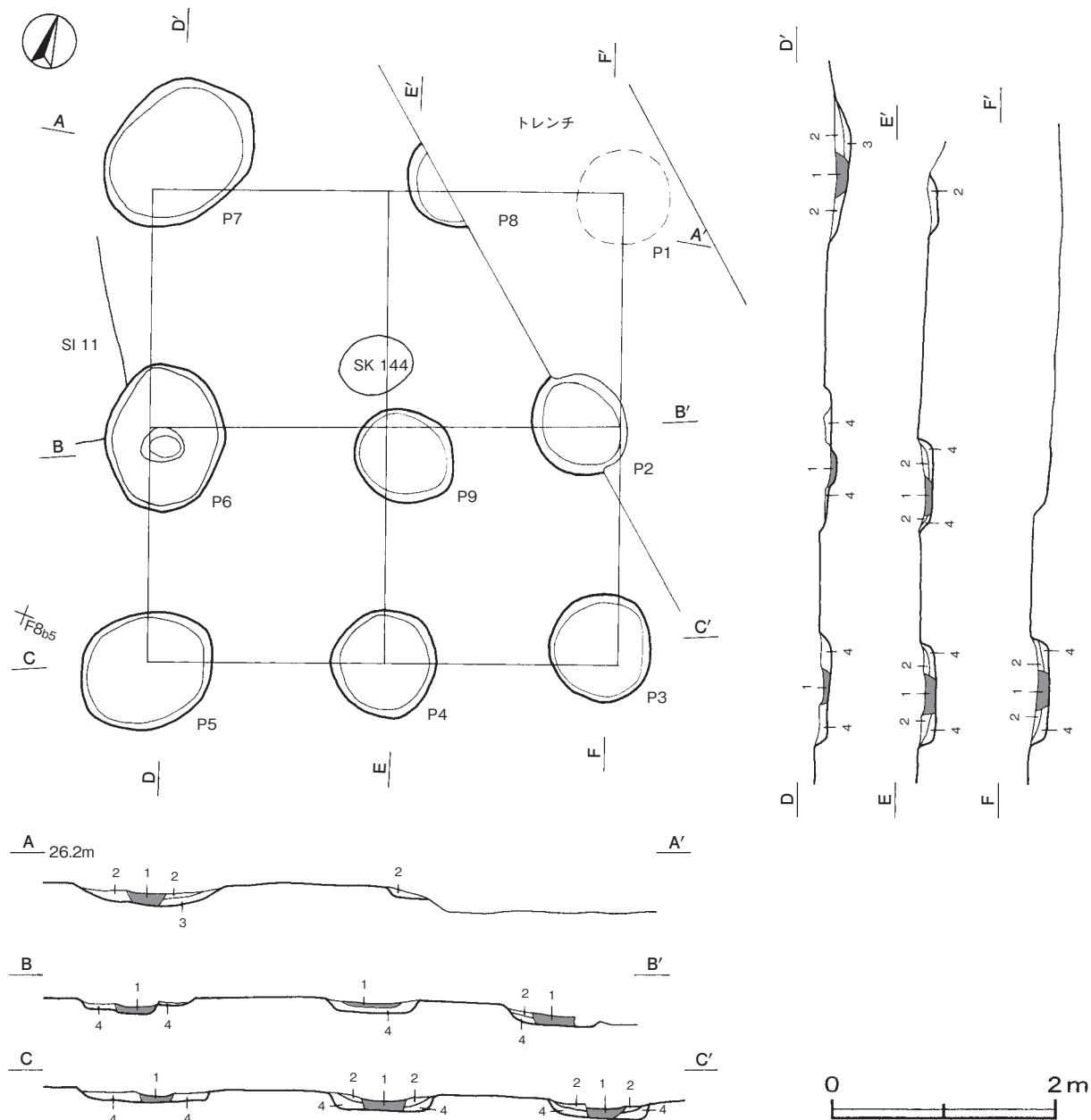
柱穴 9か所。平面形は円形で、深さは14～22cmである。土層は、第1層が柱痕跡に相当し、第2～4層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片7点（甕類），須恵器片1点（甕類）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から小形の総柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から9世紀中葉と考えられる。



第137図 第7号掘立柱建物跡実測図

第8号掘立柱建物跡 (第138・139図)

位置 調査I区中央部のE 8 h3区, 標高26.2mの台地平坦部に位置している。

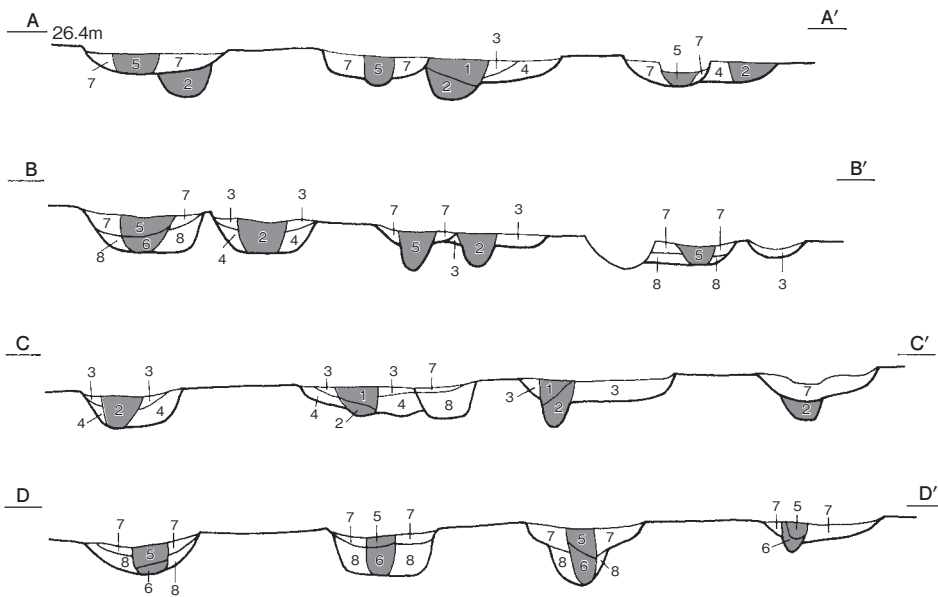
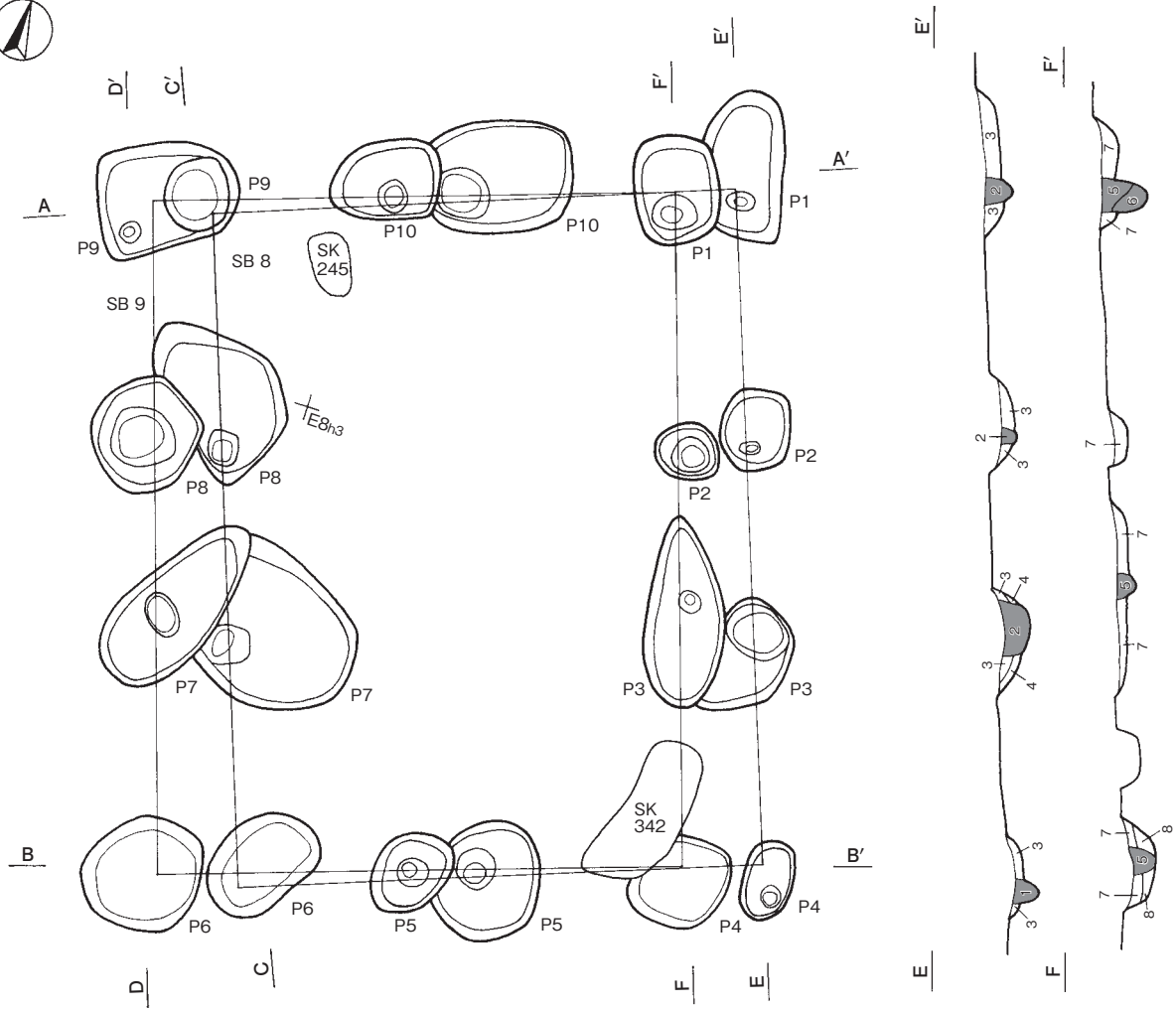
重複関係 第9号掘立柱建物, 第342号土坑に掘り込まれている。その他, 第245号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-20°-Wの南北棟である。規模は, 桁行5.4m, 梁行4.2mで, 面積は22.7㎡である。柱間寸法は, 桁行1.8m (6尺), 梁行2.1m (7尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

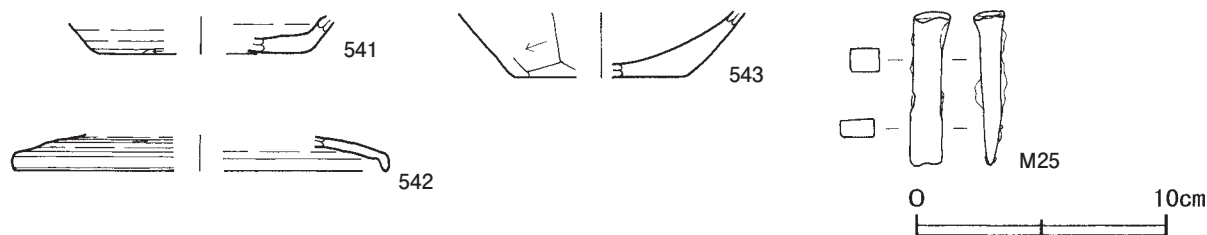
柱穴 10か所。平面形は円形で, 深さは16~40cmである。土層は, 第1・2層が柱痕跡に相当し, 第3・4層が埋土で, 版築状に突き固められている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |



第138图 第8·9号掘立柱建物跡実测图



第139図 第8・9号掘立柱建物跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片20点（坏類6・甕類14），須恵器片2点（坏1・甕類1），鉄製品1点（鑿）が出土している。541はP6，M25はP7の埋土からそれぞれ出土している。

所見 本跡は，確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され，倉庫というよりは居宅的な性格を有していたものと考えられ，同じ規模で西側に位置する第9号掘立柱建物へ建て替えられたものと思われる。時期は，出土土器や重複関係，同じような桁行方向の掘立柱建物跡から9世紀中葉と考えられる。

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
541	須恵器	坏	-	(1.4)	[8.0]	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P6埋土中	10% 新治B
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M25	鑿	6.1	1.6	1.2	37.5	鉄				P7埋土中	PL62

第9号掘立柱建物跡（第139図）

位置 調査I区中央部のE8h3区，標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号掘立柱建物跡を掘り込み，第342号土坑に掘り込まれている。その他，第245号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-18°-Wの南北棟である。規模は，桁行5.4m，梁行4.2mで，面積は22.7㎡である。柱間寸法は，桁行1.8m（6尺），梁行2.1m（7尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形で，深さは18～50cmである。土層は，第5・6層が柱痕跡に相当し，第7・8層が埋土で，版築状に突き固められている。

土層解説

5 暗褐色 ロームブロック少量
6 褐色 ローム粒子少量
7 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片6点（甕類6），須恵器片3点（坏類・蓋・甕類）が出土している。542・543はP1の埋土から出土している。

所見 本跡は，確認できた柱穴群から規格性のある中形の側柱建物と想定され，倉庫というよりは居宅的な性格を有していたものと考えられ，同じ規模で東側に位置する第8号掘立柱建物から建て替えられたものと思われる。時期は，出土土器や重複関係，同じような桁行方向の掘立柱建物跡から9世紀後葉と考えられる。

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第139図)

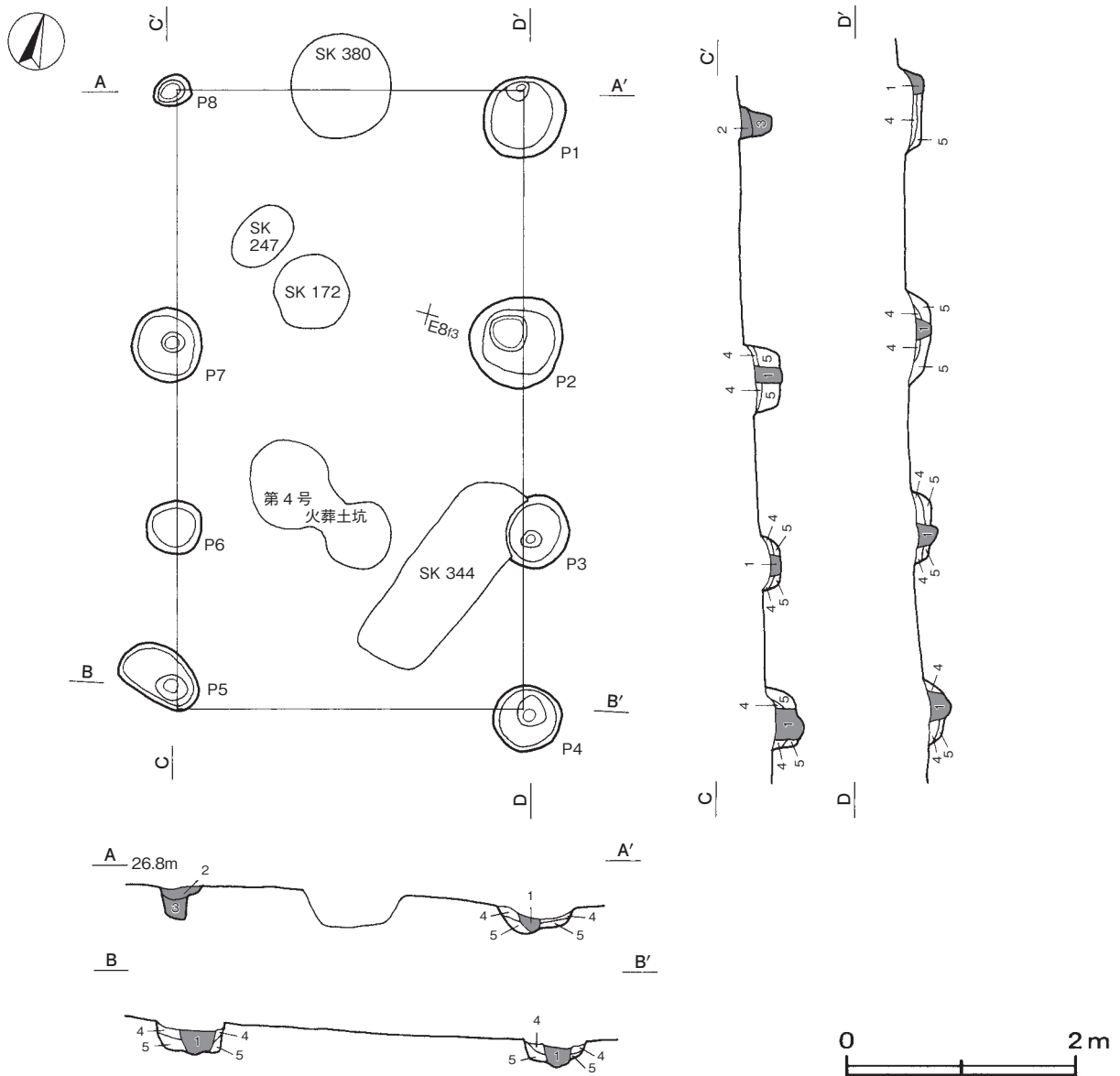
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
542	須恵器	蓋	[14.8]	(1.4)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り	P 1 埋土中	10% 種数B
543	土師器	甕	-	(2.6)	[7.0]	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	P 1 埋土中	10%

第10号掘立柱建物跡 (第140図)

位置 調査I区中央部のE 8 f2区, 標高26.7mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号火葬土坑, 第344号土坑に掘り込まれている。その他, 第172・247・380号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-15°-Wの南北棟である。規模は, 桁行5.4m, 梁行3.0mで, 面積は16.2㎡である。柱間寸法は, 桁行1.8m (6尺), 梁行3.0m (10尺) で, 柱筋はほぼ揃っている。



第140図 第10号掘立柱建物跡実測図

柱穴 8か所。平面形は円形で、深さは18～34cmである。土層は、第1～3層が柱痕跡に相当し、第4・5層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

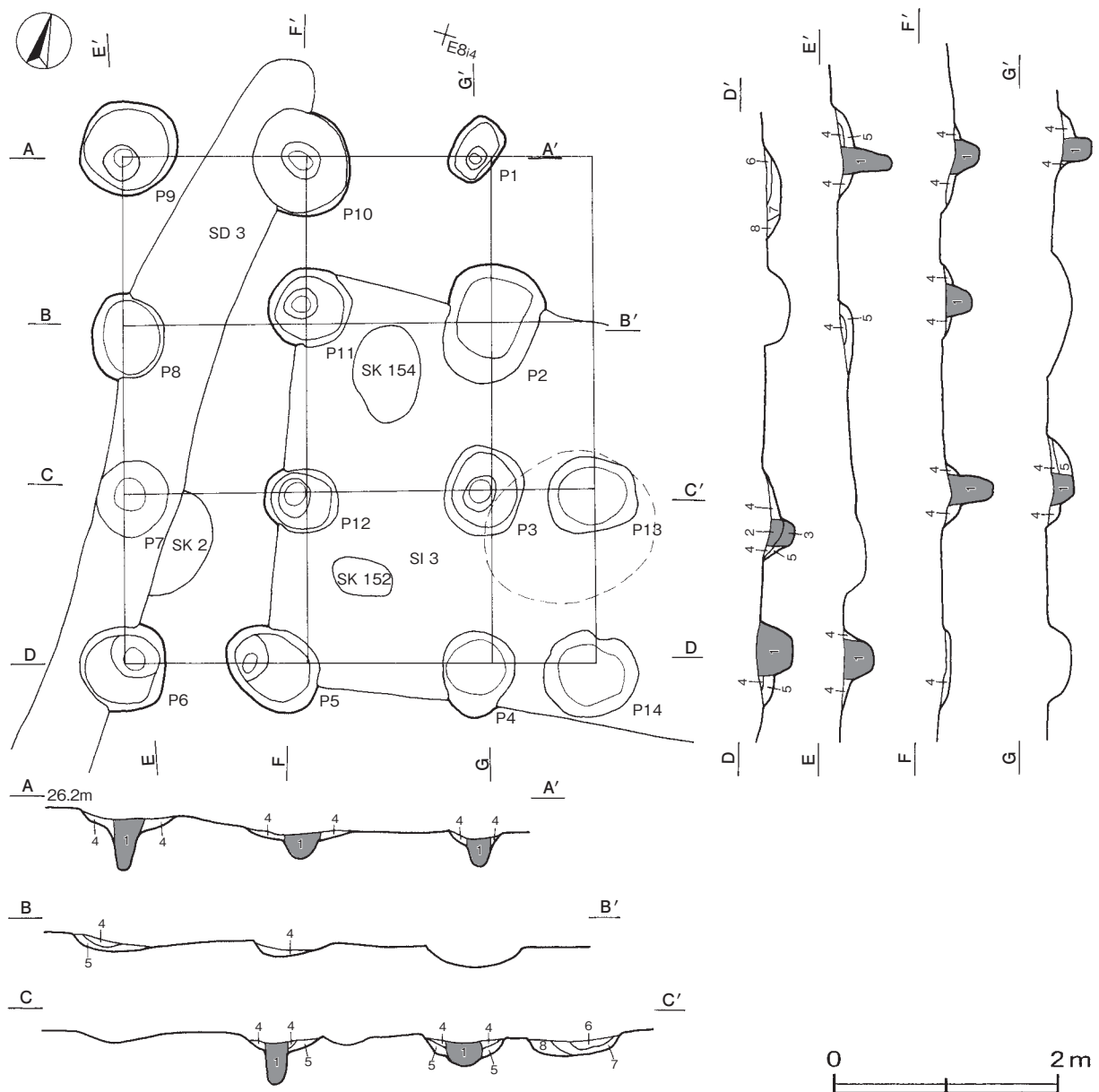
- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片4点（甕類）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から小形の側柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。

第11号掘立柱建物跡（第141・142図）

位置 調査I区中央部のE 8 i3区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。



第141図 第11号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第3号住居, 第2・152・154号土坑, 第3号溝に掘り込まれている。また, 第2号地点貝塚よりも古い。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の総柱建物跡で, 北側の柱穴が確認できなかったが, 東庇が付属していたものと思われる。桁行方向がN-16°-Wの南北棟である。規模は桁行4.5m, 身舎の梁行3.3m, 庇を含めた梁行4.2mで, 身舎の面積は14.9㎡, 庇を含めた面積は18.9㎡である。柱間寸法は, 桁行1.5m(5尺), 梁行1.65m(5尺5寸)で, 柱筋はほぼ揃っている。また, 庇は, 身舎との間隔が0.9m(3尺)で, ほぼ均等に配置されている。

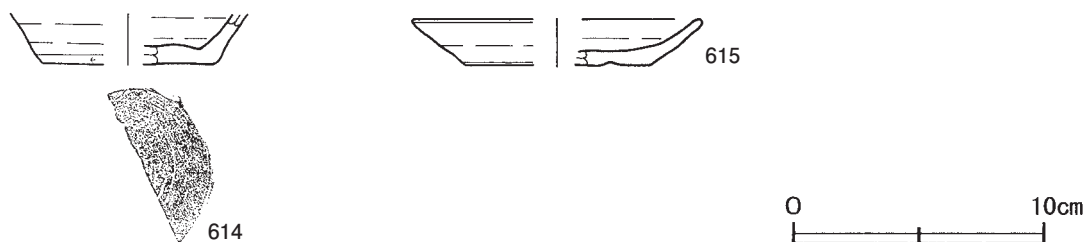
柱穴 14か所。P1~P12の平面形は円形で, 深さは12~56cmで, 身舎の柱穴である。土層は, 第1~3層が柱痕跡に相当し, 第4・5層が埋土で, 版築状に突き固められている。また, P13・P14の平面形は円形で, 深さは14cm・16cmで, 庇の柱穴である。土層は, 第6~8層であるが, 明確な柱痕跡や埋土の突き固め痕跡は確認できなかった。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片16点(坏類4・高台付椀1・皿1・甕類9・甑1), 須恵器片1点(坏)が出土している。614・615はP13の埋土から出土している。

所見 本跡は, 確認できた柱穴群から東庇の付く小形の総柱建物と想定され, 倉庫としての性格を有していたものと考えられる。時期は, 出土土器や重複関係, 同じような桁行方向の掘立柱建物跡から9世紀後葉と考えられる。



第142図 第11号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
614	須恵器	坏	-	(2.0)	[6.8]	長石・石英・針状鉱物	暗灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	P 13埋土中	10% 稲敷A
615	土師器	皿	[11.4]	1.9	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	P 13埋土中	20%

第12号掘立柱建物跡(第143図)

位置 調査I区中央部のE7h8区, 標高26.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第29号住居跡を掘り込んでいる。また, 出土土器から第229号土坑よりも古い。その他, 第68・230・231・244・293・298・339・360・368・372・382・387号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向がN-75°-Eの東西棟である。規模は, 桁行6.9m, 梁行5.4mで, 面積は37.3㎡である。柱間寸法は, 桁行2.1m(7尺), 梁行2.7m(9尺)を基調としているが, 東側のP1・P10の柱間, P3・P4の柱間は2.7m(9尺)と幅が広がっている。

柱穴 10か所。平面形は円形で, 深さは14~56cmである。土層は, 第1・2層が柱痕跡に相当し, 第3・4

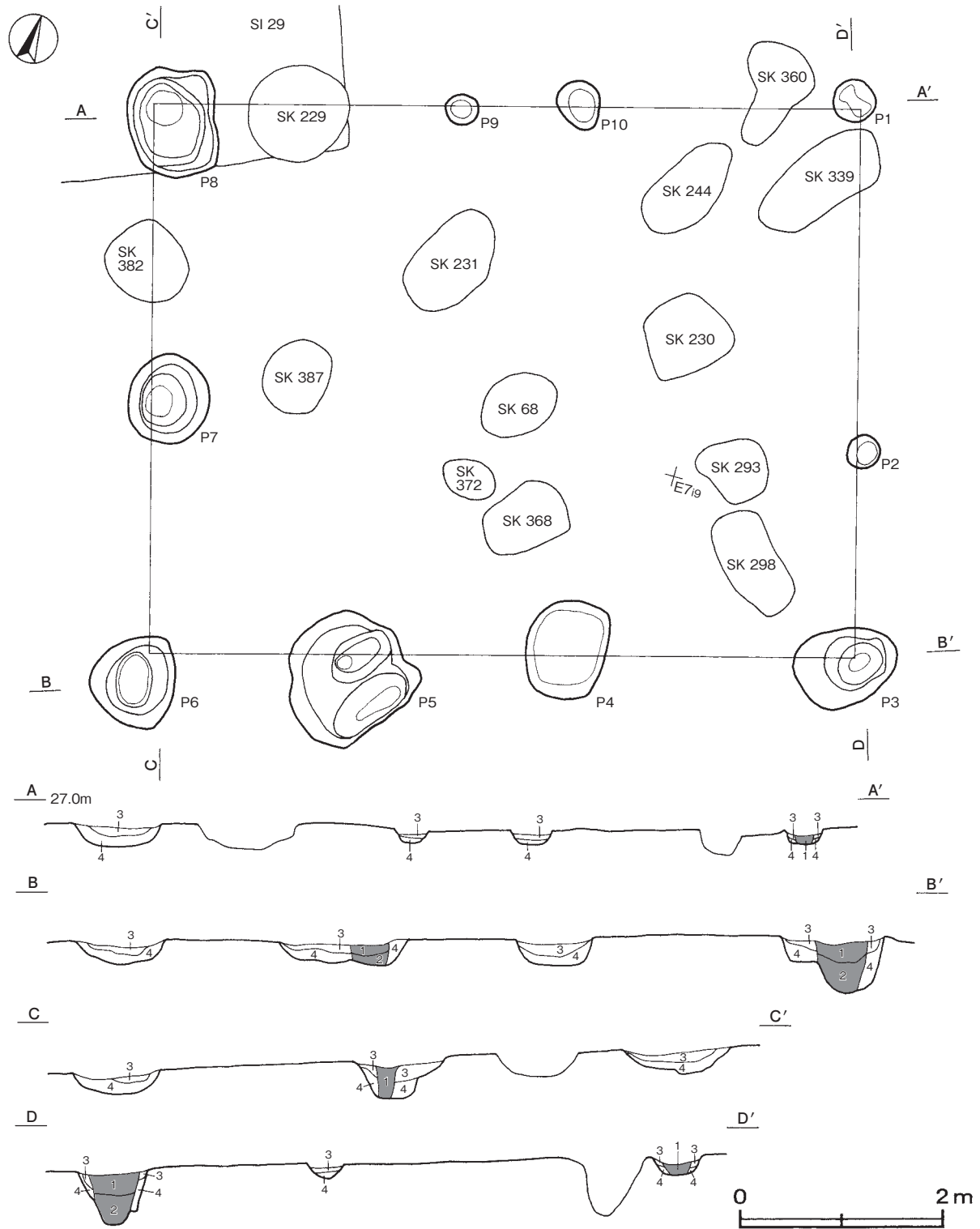
層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片4点（坏類1・甕類3），須恵器片3点（蓋1・甕類2）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

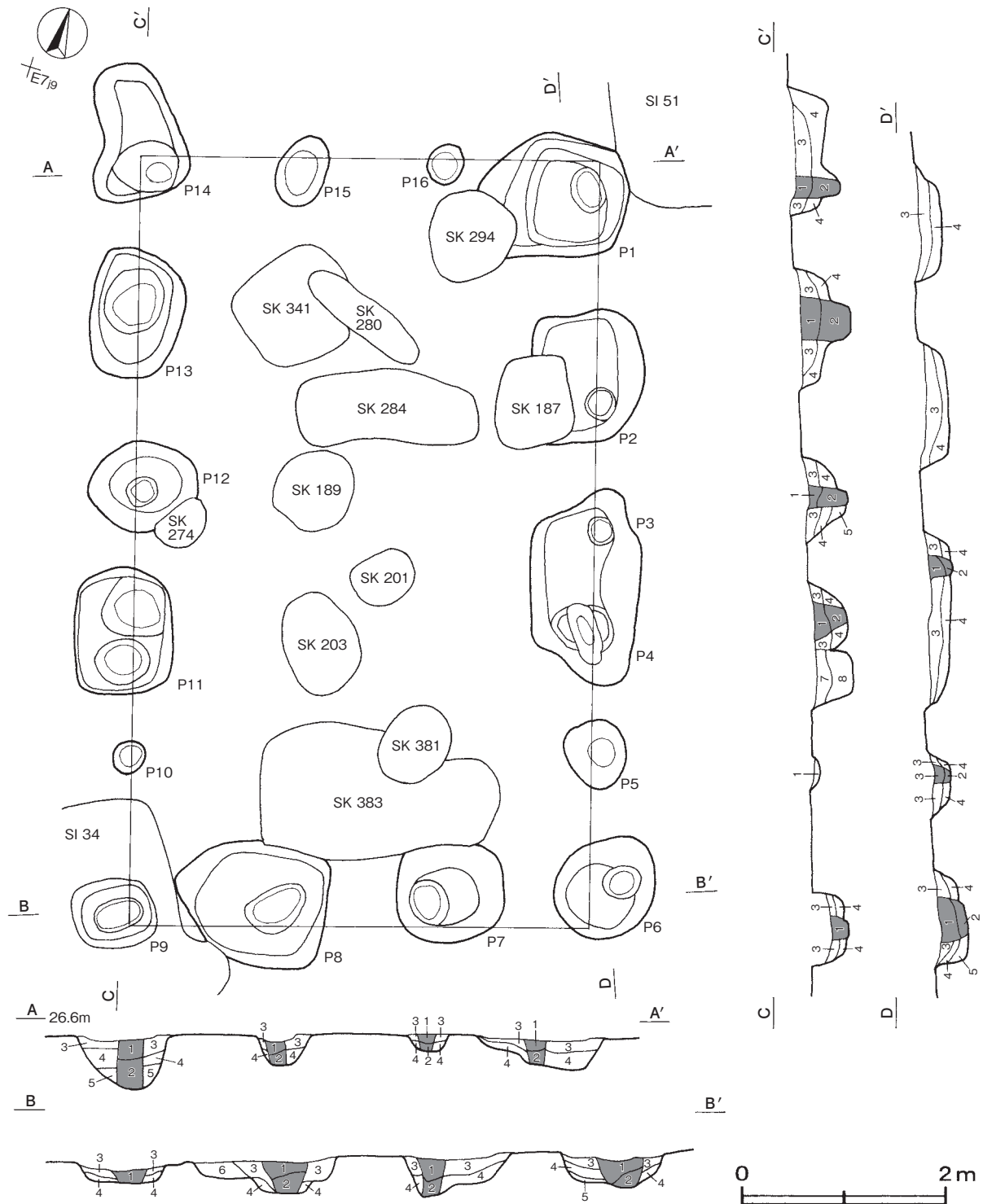


第143図 第12号掘立柱建物跡実測図

所見 本跡は、確認できた柱穴群から中形の上屋構造の側柱建物と想定される。しかし、柱穴の掘り方が一様でないことから、居宅というよりは倉庫的な性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、直角に振れるような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。

第13号掘立柱建物跡 (第144図)

位置 調査I区中央部のE7j0区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。



第144図 第13号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第51号住居跡，第17号掘立柱建物跡を掘り込み，第34号住居，第187・274・294・383号土坑に掘り込まれている。その他，第189・201・203・280・284・341・381号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行5間，梁行3間の側柱建物跡で，桁行方向がN-18°-Wの南北棟である。規模は，桁行7.5m，梁行4.5mで，面積は33.8㎡である。柱間寸法は，桁行1.5m（5尺），梁行1.5m（5尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 16か所。平面形は隅丸方形で，深さは12～58cmである。P1～P4は，第17号掘立柱建物跡のP8～P10とほぼ同じ位置を掘り込んでいる。土層は，第1・2層が柱痕跡に相当し，第3～6層が埋土で，版築状に突き固められている。第7・8層は柱抜き取り痕跡である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ロームブロック少量（3層よりブロック小）
4 褐色	ロームブロック微量	8 褐色	ロームブロック微量（4層よりブロック小）

遺物出土状況 土師器片17点（坏類2・甕類15），須恵器片5点（坏類2・甕類3）が出土しているが，いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は，確認できた柱穴群から中形の上屋構造をもつ側柱建物と想定され，居宅としての性格を有していたものと考えられる。時期は，出土土器や重複関係，同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀中葉と考えられる。

第14号掘立柱建物跡（第145・146図）

位置 調査I区南部のF7f0区，標高25.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・40号住居跡を掘り込み，第31号住居，第106・107・145号土坑に掘り込まれている。その他，第110号土坑とも重複しているが新旧関係は不明である。

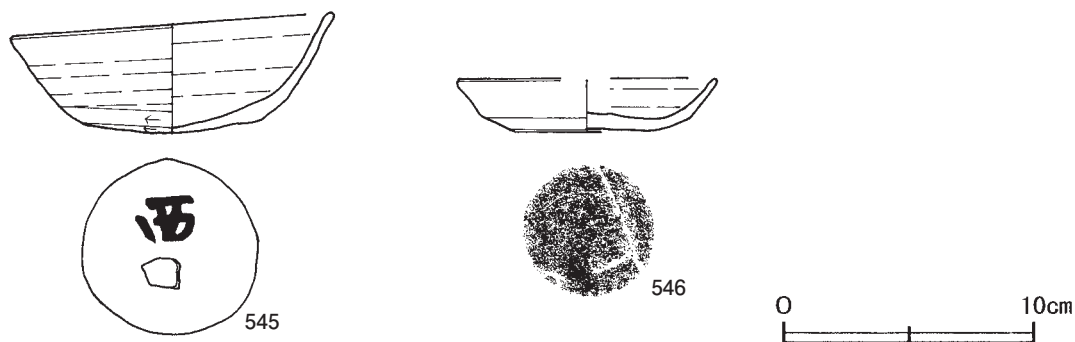
規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-19°-Wの南北棟である。規模は，桁行4.5m，梁行3.0mで，面積は13.5㎡である。柱間寸法は，桁行1.5m（5尺），梁行1.5m（5尺）で，柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形で，深さは20～60cmである。土層は，第1～3層が柱痕跡に相当し，第4～6層が埋土で，版築状に突き固められている。

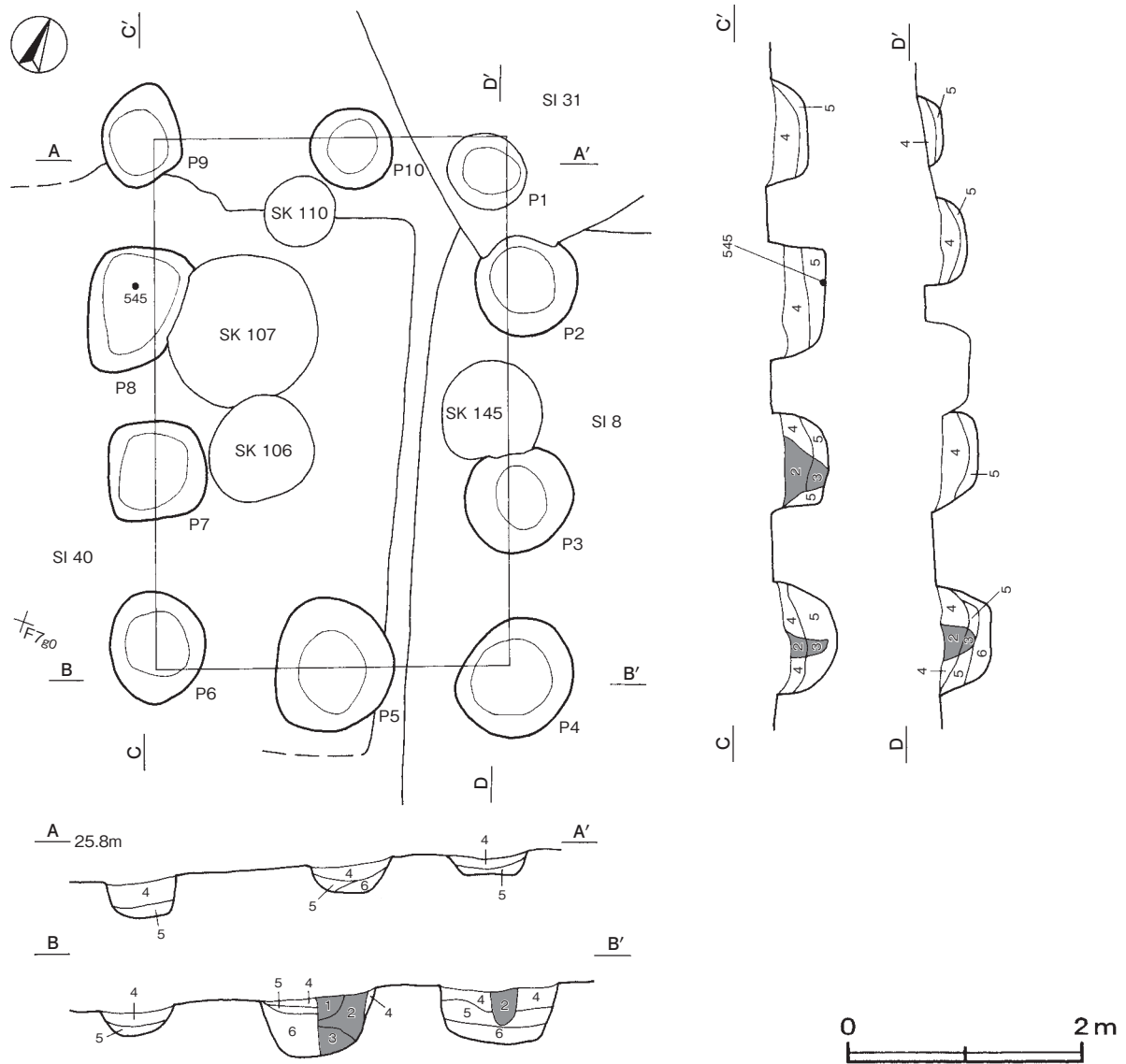
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片32点（坏類9・高台付椀1・皿1・甕類21），須恵器片5点（坏類1・蓋1・甕類3）が出土している。545はP8の柱掘り方の底面から正位の状態出土している。この545の土師器は，底部穿孔



第145図 第14号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第146図 第14号掘立柱建物跡実測図

されている点や、「西」という墨書を有している点から、建物の建設時に地鎮のために545を柱穴内に納入したものと考えられる。また、546はP1の埋土から出土している。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から小形の側柱建物と想定され、倉庫としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀中葉と考えられる。

第14号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
545	土師器	坏	12.8	4.3	7.0	長石・石英・針状鉾物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	P8柱掘り方底面	90% PL58 底部穿孔 底部外面墨書「西」
546	土師器	皿	[10.2]	2.1	5.4	長石・石英・針状鉾物	黄橙	普通	底部回転糸切り	P1埋土中	30%

第15号掘立柱建物跡（第147図）

位置 調査I区南部のF7g9区，標高25.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12・19号住居跡を掘り込み，第165号土坑，第1号溝に掘り込まれている。

規模と構造 南西側が段切り状に削平されているため，確認できたのは桁行1間以上，梁行1間以上の側柱建物跡で，桁行方向がN-24°-Wの南北棟と推測される。確認できた規模は，桁行2.1m以上，梁行1.9m以上である。柱間寸法は，桁行2.1m（7尺），梁行1.95m（6尺5寸）である。

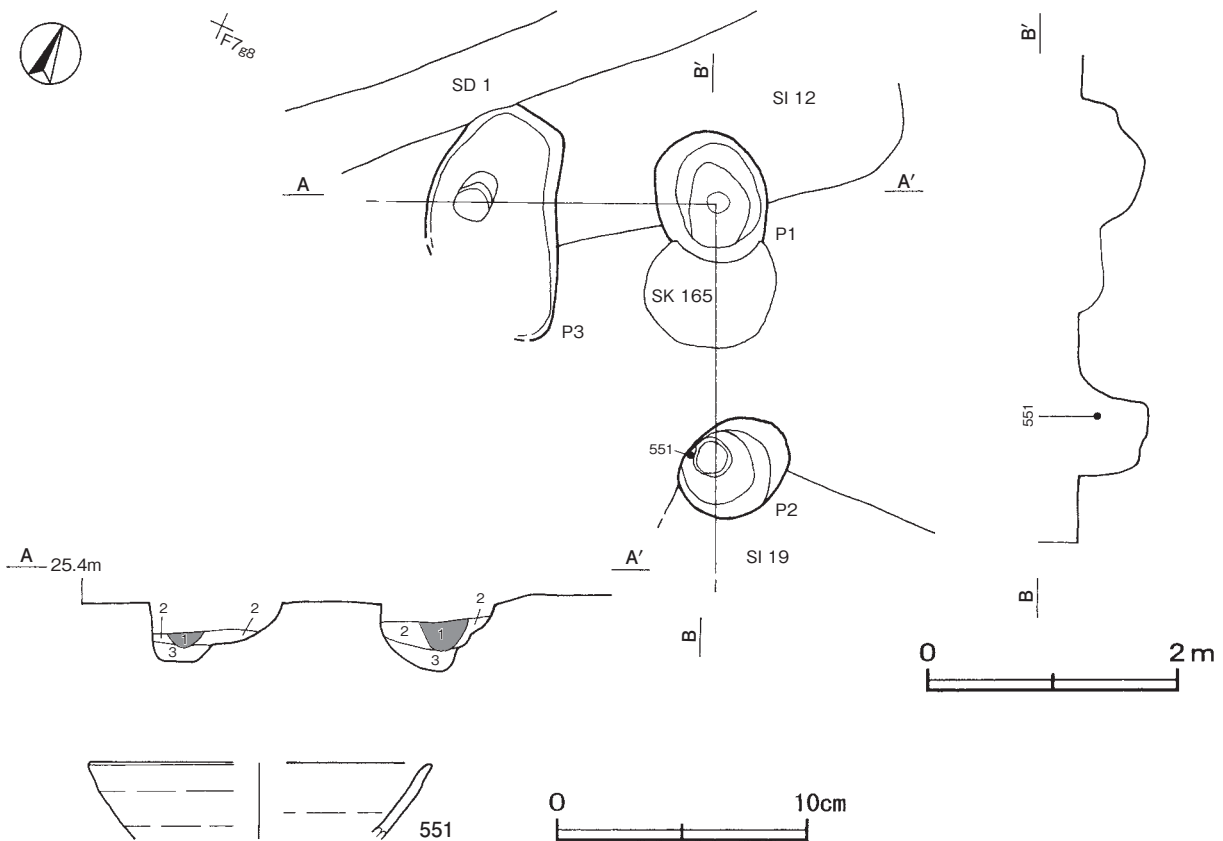
柱穴 3か所。平面形は円形で，深さは48～56cmである。土層は，第1層が柱痕跡に相当し，第2・3層が埋土で，版築状に突き固められている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点（坏）が出土している。551はP2の埋土から出土している。

所見 本跡は，桁行，梁行とも1間以上ということしか確認できず不明な部分が多いが，他の掘立柱建物と同じように南北棟の側柱建物と想定され，倉庫としての性格が考えられる。時期は，出土土器や重複関係，同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。



第147図 第15号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
551	土師器	坏	[13.6]	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通		P2埋土上層	10%

第16号掘立柱建物跡（第148図）

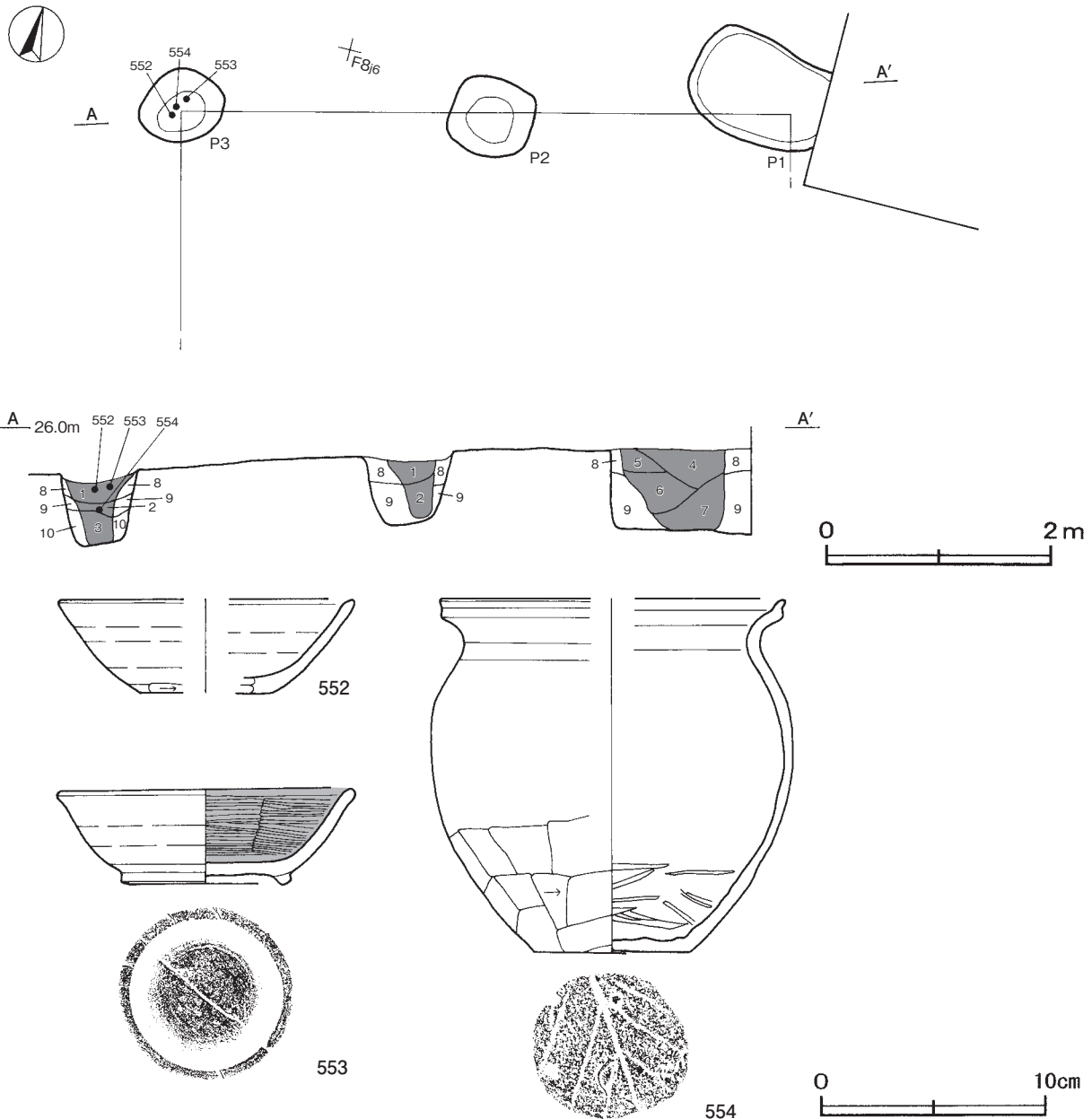
位置 調査I区南部のF 8 j6区，標高25.9mの台地平坦部に位置している。

規模と構造 南東側が段切り状に削平されているため，確認できたのは梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向がN-14°-Wの南北棟と推測される。確認できた規模は，梁行5.4mである。柱間寸法は，梁行2.7m（9尺）である。

柱穴 3か所。平面形は円形で，深さは66～76cmである。土層は，第1～7層が柱抜き取り痕跡に相当し，第8～10層が埋土で，版築状に突き固められている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 9 褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 10 褐色 | ローム粒子中量 |



第148図 第16号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点（坏・高台付椀・甕）が出土している。552～554はP3の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は、梁行2間ということしか確認できず不明な部分が多いが、他の掘立柱建物と同じように南北棟の側柱建物と想定され、倉庫としての性格が考えられる。時期は、出土土器、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
552	土師器	坏	[12.8]	4.1	[5.8]	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	P3柱抜き取り痕上層	30%
553	土師器	高台付椀	13.0	4.2	7.4	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後高台貼り付け	P3柱抜き取り痕上層	90% PL57
554	土師器	甕	[15.4]	15.6	7.0	長石・石英・白雲母	にぶい褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部木葉痕	P3柱抜き取り痕中層	60% PL58

第17号掘立柱建物跡（第149図）

位置 調査I区中央部のE7i0区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第42・51・53・54号住居跡を掘り込み、第13号掘立柱建物、第44・63・64・187・294号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-15°-Wの南北棟である。規模は、桁行7.8m、梁行4.95mで、面積は38.6㎡である。柱間寸法は、桁行1.95m（6尺5寸）、梁行1.65m（5尺5寸）で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 14か所。平面形は隅丸方形で、深さは18～54cmである。P8～P10は、第13号掘立柱建物のP1～P4にほぼ同じ位置を掘り込まれている。土層は、第1・2層が柱抜き取り痕跡、第3・4層が柱痕跡にそれぞれ相当し、第5～9層が埋土で、版築状に突き固められている。

土層解説

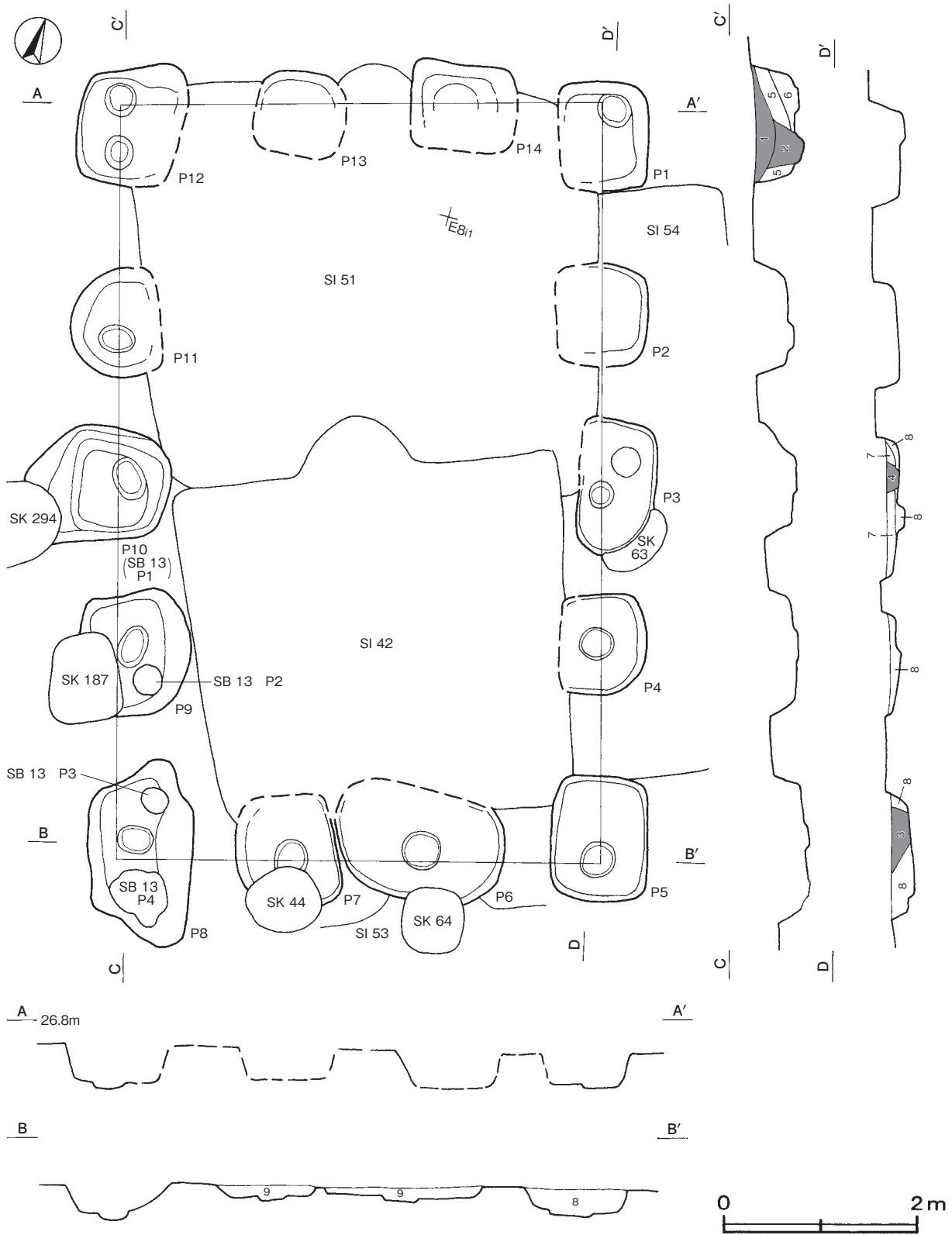
1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
2	黒褐色	ローム粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
			9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片27点（坏類5・甕類21・甗1）、須恵器片5点（坏類2・甕類3）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。

所見 本跡は、確認できた柱穴群から中形の上屋構造をもつ側柱建物と想定され、居宅としての性格を有していたものと考えられる。時期は、出土土器や重複関係、同じような桁行方向の掘立柱建物跡から10世紀前葉と考えられる。

表5 掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁間	規模				柱穴			主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
				桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	構造	柱穴数	平面形				深さ (cm)
1	F8f4	N-19°-W	3×2	5.85×4.8	28.1	1.95	2.4	側柱	10	隅丸方形	14～34	土師器・須恵器	9世紀中葉	SI7・16→本跡
2	F7g0	[N-21°-W]	(5)×2	(8.2)×4.5	(36.9)	1.65	2.25	側柱	(10)	隅丸方形	30～60	土師器・灰釉陶器	10世紀前葉	SI8・19→本跡
3	F7b6	N-21°-W	3×2	5.85×4.8	28.1	1.95	2.4	側柱	10	隅丸方形	16～60	土師器・須恵器	10世紀前葉	SI44・46、SK371→本跡
4	F7e8	[N-24°-W]	(1)×(1)	(1.95)×(2.4)	(4.7)	1.95	2.4	側柱	(3)	隅丸方形	12～30	須恵器	10世紀前葉	SI12→本跡→SD4
5	F8c2	N-18°-W	5×3	9.0×5.85	52.7	1.8	1.95	側柱	16	隅丸方形	38～62	土師器・須恵器・砥石・刀子	10世紀中葉	SI15・28、SK96→本跡→SI55、SK38・57・58・60



第149图 第17号掘立柱建筑物迹实测图

遺構 番号	位 置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模				柱穴				主な出土遺物	時期	備 考 重複関係(古→新)
				桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁柱間 (m)	梁柱間 (m)	構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)			
6	F 8 b6	N-16°-W	4×3	72×4.95	35.6	1.8	1.65	側柱	14	隅丸方形	12~40	須恵器・球 状土錘	9世紀後葉	SI17・49, SK83・88・ 283→本跡→SK285
7	F 8 a5	N-20°-W	2×2	42×42	17.6	2.1	2.1	総柱	9	円形	14~22	-	9世紀中葉	SI11→本跡
8	E 8 h3	N-20°-W	3×2	54×42	22.7	1.8	2.1	側柱	10	円形	16~40	須恵器・鏝	9世紀中葉	本跡→SB9, SK342
9	E 8 h3	N-18°-W	3×2	54×42	22.7	1.8	2.1	側柱	10	円形	18~50	土師器・須 恵器	9世紀後葉	SB8→本跡→ SK342
10	E 8 f2	N-15°-W	3×1	54×30	16.2	1.8	3.0	側柱	8	円形	18~34	-	10世紀前葉	本跡→第4号火 葬土坑, SK344
11	E 8 i3	N-16°-W	3×2.5	45×42	18.9	1.5	1.65	総柱・ 庇	14	円形	12~56	土師器・須 恵器	9世紀後葉	本跡→SI3, SK2・ 152・154, SM2, SD3
12	E 7 h8	N-75°-E	3×2	69×54	37.3	2.1	2.7	側柱	10	円形	14~56	-	10世紀前葉	SI29→本跡→ SK229
13	E 7 j0	N-18°-W	5×3	75×45	33.8	1.5	1.5	側柱	16	隅丸方形	12~58	-	10世紀中葉	SI51, SB17→本跡→SI34, SK187・274・294・383
14	F 7 f0	N-19°-W	3×2	45×30	13.5	1.5	1.5	側柱	10	円形	20~60	土師器	10世紀中葉	SI8・40→本跡→SI31, SK106・107・145
15	F 7 g9	[N-24°-W]	(1)×(1)	(21)×(1.9)	(4.0)	2.1	1.95	[側柱]	(3)	円形	48~56	土師器	10世紀前葉	SI12・19→本跡 →SK165, SD1
16	F 8 j6	[N-14°-W]	2×(-)	(-)×(5.4)	(-)	(-)	2.7	不明	(3)	円形	66~76	土師器	10世紀前葉	
17	E 7 i0	N-15°-W	4×3	78×4.95	38.6	1.95	1.65	側柱	14	隅丸方形	18~54	-	10世紀前葉	SI12・31・33・54→本跡→ SB13, SK44・63・64・187・294

(3) 土坑

第7号土坑 (第150・152図)

位置 調査I区南部のF 8 g3区, 標高25.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号住居跡, 第8号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.26m, 短径1.14mの円形である。深さは16cmで, 底面に深さ20cmのピットを有し, 壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ロームブロックを含む単一層で, 一度に埋めたような堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片15点(坏類3・甕類12), 鉄製品1点(刀子)が出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から10世紀代と考えられるが, 性格は不明である。

第7号土坑出土遺物観察表 (第152図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 26	刀子	(10.8)	0.9	0.5	(8.6)	鉄	切先部欠損 中央で曲がる	覆土中	PL60

第38号土坑 (第150・151図)

位置 調査I区中央部のF 8 b3区, 標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.90m, 短径0.88mの円形である。深さは12cmで, 底面は皿状を呈し, 壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片30点（坏類6・高台付椀1・皿1・甕類22）が出土している。566は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀中葉と考えられるが、性格は不明である。

第38号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師器	甕	[20.0]	(8.9)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	上層	10%

第55号土坑（第150・151図）

位置 調査I区中央部のF7c9区、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第47号住居跡を掘り込み、第54号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.06m、短軸2.70mの隅丸長方形で、長軸方向はN-35°-Wである。深さは14cmで、底面はほぼ平坦であり、壁面は外傾して立ち上がっている。また、北西壁寄りの底面に炉を思わせる焼土や、南東壁面に竈を思わせる掘り込みと焼土が確認できた。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックや焼土を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片60点（坏類17・高台付椀3・皿1・甕類39）、須恵器片3点（甕類）、鉄製品1点（鎌）が出土している。576は底面から出土している。また、M27は覆土下層から出土している。

所見 本跡は、底面に炉を思わせる焼土や、壁面に竈を思わせる掘り込みと焼土が確認でき、住居の可能性も考えられるが、明確ではない。時期は、出土土器や重複関係から10世紀中葉と考えられる。

第55号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
575	土師器	坏	[13.2]	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き	覆土中	10%
576	土師器	高台付椀	[18.6]	6.3	[7.0]	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後 高台貼り付け	底面	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	鎌	(4.5)	2.3	0.2	(5.6)	鉄	曲刃鎌 切先部欠損	下層	

第60号土坑（第150・151図）

位置 調査I区中央部のF8d2区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号住居跡、第5号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.76m、短径0.70mの円形である。深さは32cmで、底面に深さ14cmのピットを有し、壁面は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックや粘土を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子
微量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子
微量 | 4 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片8点（坏類3・甕類5）、須恵器片4点（甕類3・甌1）が出土している。582・583は覆土下層、581は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀中葉と考えられるが、性格は不明である。

第60号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
581	土師器	坏	14.4	5.1	6.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き 底部回転糸切り後手持ちヘラ削り	上層	100% PL58
582	土師器	坏	[15.2]	5.1	6.0	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	明黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	60%
583	須恵器	甌	-	(11.7)	[12.6]	長石・石英・針状鉱物	橙	普通	体部外面縦位の平行叩き後ナデ、下端手持ちヘラ削り、輪積痕 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	下層	20% 稲敷A

第63号土坑（第150・152図）

位置 調査I区中央部のE 8 il区、標高26.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54号住居跡、第17号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.82m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-41°-Wである。深さは22cmで、底面は皿状を呈し、壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。焼土や炭化物、及び粘土を含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒
子微量 | 2 | 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
|---|-----|-------------------------------|---|-----|-----------------------|

遺物出土状況 土師器片25点（坏類8・甕類17）、須恵器片1点（坏類）、土製品3点（土玉類2・支脚片1）が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀代と考えられるが、性格は不明である。

第63号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP152	球状土錘	3.3	3.1	0.8	32.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第72号土坑（第150・151図）

位置 調査I区中央部のF 8 d4区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第55号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.68m、短径0.62mの円形である。深さは30cmで、底面は皿状を呈し、壁面は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックや焼土を含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片16点（坏類4・高台付椀2・皿2・甕類8），須恵器片2点（蓋・甕類）が出土している。588は覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から10世紀後葉と考えられるが，性格は不明である。

第72号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
587	土師器	坏	[12.2]	(3.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通		覆土中	10%
588	土師器	高台付椀	[15.8]	5.7	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面横位のへら磨き 底部ナデ後高台貼り付け	下層	40%

第82号土坑（第150・151図）

位置 調査I区東部のF 8 b8区，標高25.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居跡を掘り込み，第10号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.98m，短径0.88mの楕円形で，長径方向はN-50°-Wである。深さは28cmで，底面に深さ14cmのピットを有し，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片3点（甕類），須恵器片7点（坏類3・高台付坏1・甕類3）が出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられるが，性格は不明である。

第82号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
597	須恵器	坏	[14.2]	4.5	[7.2]	長石・石英・白雲母	灰黄	良好	体部下端手持ちへら削り 底部手持ちへら削り	覆土中	20% 新治A
598	須恵器	高台付坏	[12.6]	4.8	[8.6]	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	底部ナデ後高台貼り付け	覆土中	20% 稲敷B

第83号土坑（第150・151図）

位置 調査I区東部のF 8 c6区，標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.34m，短軸1.18mの隅丸長方形で，長軸方向はN-80°-Eである。深さは24cmで，底面はほぼ平坦であり，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土を含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 3 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片36点（坏類7・甕類29），須恵器片11点（坏類7・蓋3・甕類1），土製品2点（管状土錘）が出土している。599は覆土中層，601は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられるが、性格は不明である。

第83号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
599	須恵器	坏	12.8	5.1	6.8	長石・石英	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	中層	60% PL58 新治B
600	須恵器	坏	[13.2]	4.9	7.0	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土中	30% 新治A
601	須恵器	蓋	[11.8]	2.6	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	扁平擬宝珠状つまみ 天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	上層	10% 稲敷B

第86号土坑（第150・151図）

位置 調査I区東部のF8c7区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第33号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.96m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-21°-Wである。深さは14cmで、底面に深さ12cmのピットを有し、壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片7点（坏類1・甕類6）、須恵器片2点（坏類）が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられるが、性格は不明である。

第86号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
604	土師器	甕	[20.0]	(5.5)	-	長石・石英・白雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ内面ヘラナデ	覆土中	10%

第88号土坑（第150・151図）

位置 調査I区東部のF8c7区、標高26.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.12m、短径0.80mの不整楕円形で、長径方向はN-26°-Wである。深さは14cmで、底面に深さ18cmのピットを有し、壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックや粘土を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片4点（甕類）、須恵器片3点（坏類2・甕類1）が出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀中葉と考えられるが、性格は不明である。

第88号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
605	須恵器	坏	[12.4]	4.4	[6.4]	長石・石英・白雲母	灰白	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	覆土中	30% 新治A

第94号土坑（第150・151図）

位置 調査Ⅰ区中央部のF 8 e3区，標高26.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.16m，短径1.00mの楕円形で，長径方向はN-38°-Eである。深さは26cmで，底面はほぼ平坦であり，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックや焼土を含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片8点（坏類4・高台付椀1・甕類3）が出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀前葉と考えられるが，性格は不明である。

第94号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
606	土師器	高台付椀	-	(2.0)	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	10%

第117号土坑（第150・152図）

位置 調査Ⅰ区中央部のF 7 d0区，標高26.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m，短径0.96mの円形である。深さは20cmで，底面はほぼ平坦であり，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量 2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点（坏類・甕）が出土している。613は覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から10世紀中葉と考えられるが，性格は不明である。

第117号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
613	土師器	甕	-	(10.3)	[11.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	上層	10%

第132号土坑（第150・151図）

位置 調査Ⅰ区東部のF 8 b7区，標高26.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.74m，短径0.58mの楕円形で，長径方向はN-50°-Wである。深さは14cmで，底面は皿状を呈し，壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片4点（坏類2・甕類1・甗1）が出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から10世紀前葉と考えられるが，性格は不明である。

第132号土坑出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
616	土師器	坏	[12.8]	4.1	6.2	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	覆土中	30%

第162号土坑（第150・152図）

位置 調査I区中央部のF7c0区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第25・58号住居跡、第163号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.70m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは34cmで、底面はほぼ平坦であり、壁面は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックや焼土、及び炭化物を含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片13点（皿1・甕類12）、須恵器片1点（坏類）、石器1点（砥石）が出土している。623は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から10世紀前葉と考えられるが、性格は不明である。

第162号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
623	土師器	甕	[19.0]	(5.4)	-	長石・石英・針状鉱物	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q19	砥石	(5.5)	4.7	2.1	(49.6)	凝灰岩	砥面3面	うち1面に溝状研磨痕	覆土中	PL62

第169号土坑（第150・151図）

位置 調査I区中央部のF7b9区、標高26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.78m、短径0.76mの円形である。深さは30cmで、底面は皿状を呈し、壁面は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量 3 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片8点（坏類4・皿1・甕類3）、須恵器片2点（坏・甕類）が出土している。626は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられるが、性格は不明である。

第169号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
626	須恵器	坏	-	(2.1)	7.4	長石・石英・黒色粒子	灰オリーブ	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	中層	20% 稲敷B

第283号土坑（第150・152図）

位置 調査I区中央部のF 8 b5区，標高26.2mの台地平坦部に位置している。

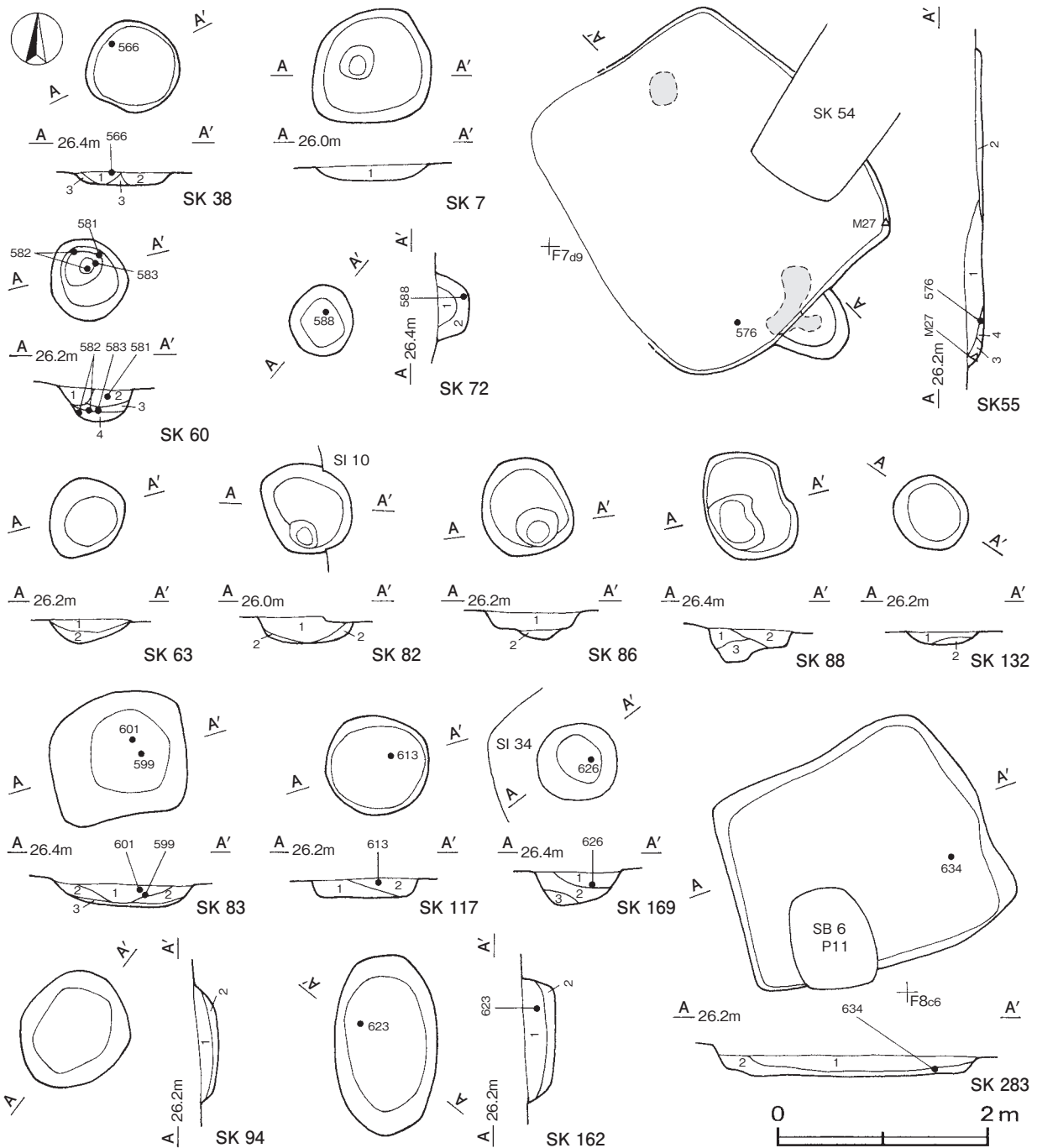
重複関係 第49号住居跡を掘り込み，第6号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.48m，短軸2.20mの隅丸長方形で，長軸方向はN-69°-Eである。深さは26cmで，底面はほぼ平坦で，壁面は外傾して立ち上がっている。

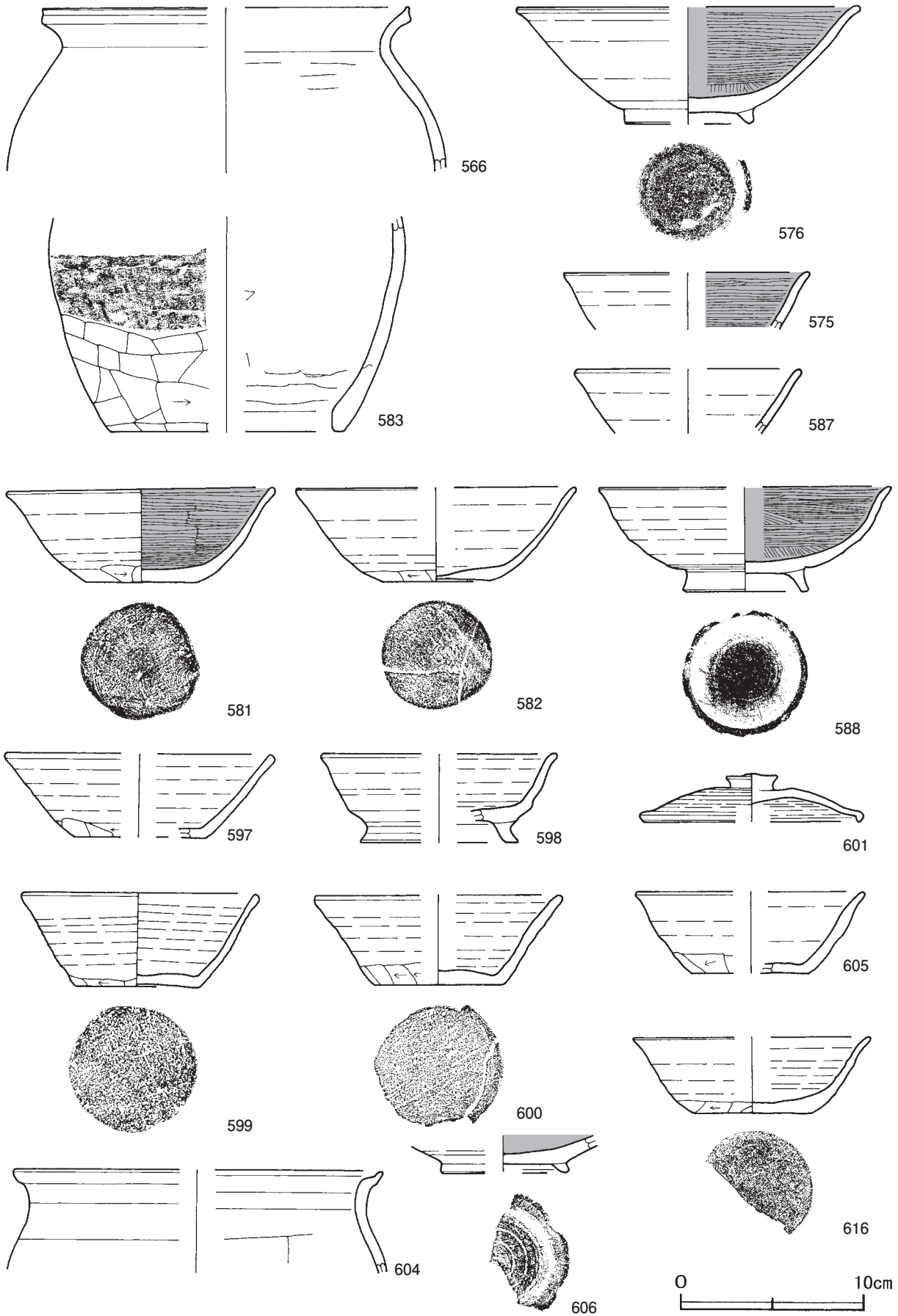
覆土 2層に分けられる。ロームブロックや焼土を含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

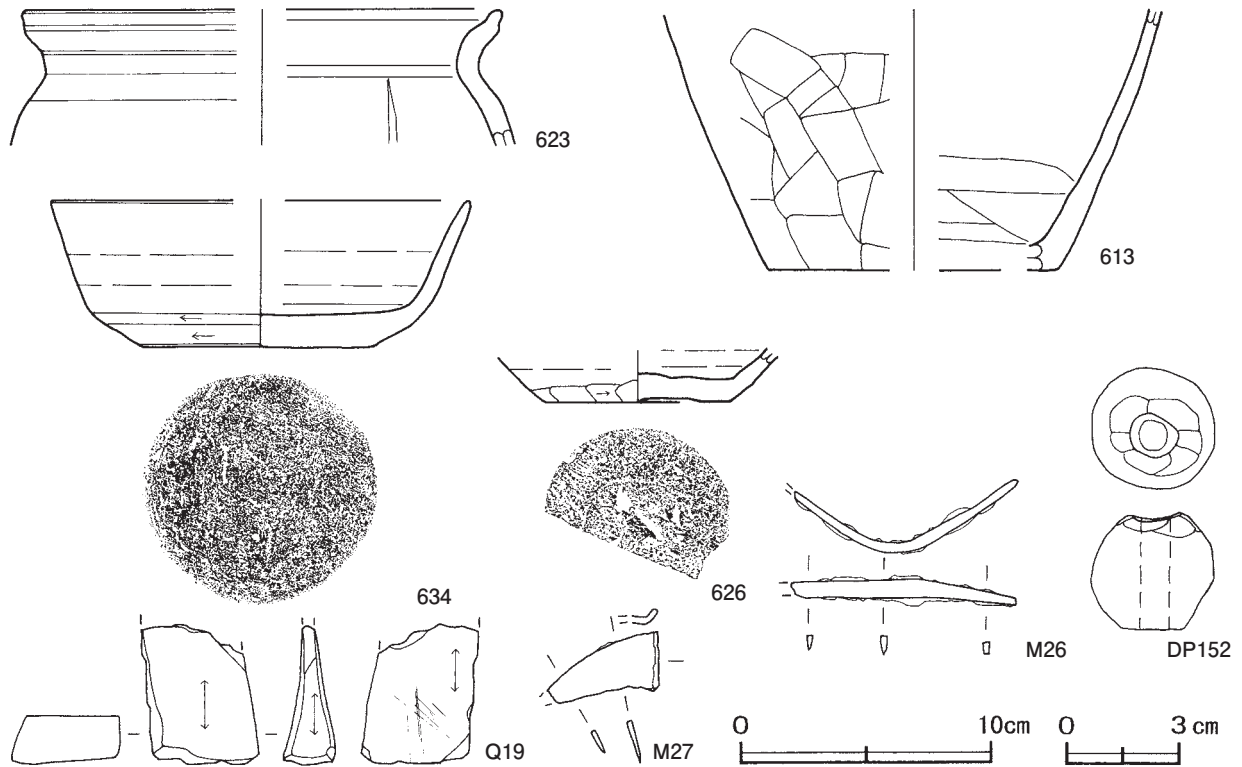
1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量



第150図 土坑実測図



第151图 土坑出土遺物実測図(1)



第152図 土坑出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片27点（坏類5・甕類22），須恵器片2点（坏類）が出土している。634は覆土下層から出土している。

所見 本跡は，住居の可能性も考えられるが，明確ではない。時期は，出土土器や重複関係から8世紀前葉と考えられる。

第283号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
634	須恵器	坏	[16.6]	5.8	9.0	長石・石英・白雲母	灰オリーブ	良好	底部周縁回転ヘラ削り 底部手持ちヘラ削り	下層	40% 新治A

表6 土坑一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	高さ (cm)						
7	F 8 g3	-	円形	1.26 × 1.14	16(36)	ピット	緩斜	人為	土師器, 刀子	10世紀代	SI6, SK8 →本跡
38	F 8 b3	-	円形	0.90 × 0.88	12	皿状	緩斜	人為	土師器	10世紀中葉	SB5 →本跡
55	F 7 c9	N - 35° - W	隅丸長方形	3.06 × 2.70	14	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 鉄鎌	10世紀中葉	SI47 →本跡 → SK54
60	F 8 d2	-	円形	0.76 × 0.70	32(46)	ピット	外傾	人為	土師器, 須恵器	10世紀中葉	SI15, SB5 →本跡
63	E 8 i1	N - 41° - W	楕円形	0.82 × 0.70	22	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 球状土錘	10世紀代	SI54, SB17 →本跡
72	F 8 d4	-	円形	0.68 × 0.62	30	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	10世紀後葉	SI55 →本跡
82	F 8 b8	N - 50° - W	楕円形	0.98 × 0.88	28(42)	ピット	緩斜	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	SI9 →本跡 → SI10
83	F 8 c6	N - 80° - E	隅丸長方形	1.34 × 1.18	24	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀中葉	本跡 → SB6
86	F 8 c7	N - 21° - W	楕円形	0.96 × 0.86	14(26)	ピット	緩斜	人為	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI33 →本跡

遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
88	F 8 c7	N-26°-W	不整楕円形	1.12 × 0.80	14(32)	ピット	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	9世紀中葉	本跡→SB6
94	F 8 e3	N-38°-E	楕円形	1.16 × 1.00	26	平坦	緩斜	人為	土師器	10世紀中葉	
117	F 7 do	-	円形	1.00 × 0.96	20	平坦	緩斜	人為	土師器	10世紀中葉	SK116→本跡
132	F 8 b7	N-50°-W	楕円形	0.74 × 0.58	14	皿状	緩斜	人為	土師器	10世紀前葉	
162	F 7 c0	N-5°-W	楕円形	1.70 × 0.98	34	平坦	外傾	人為	土師器, 須 恵器, 砥石	10世紀前葉	SI25・58, SK163 →本跡
169	F 7 b9	-	円形	0.78 × 0.76	30	皿状	外傾	人為	土師器, 須 恵器	9世紀前葉	本跡→SI34
283	F 8 b5	N-69°-E	隅丸長方形	2.48 × 2.20	26	平坦	外傾	人為	土師器, 須 恵器	8世紀前葉	SI49→本跡→SB6

(4) 地点貝塚

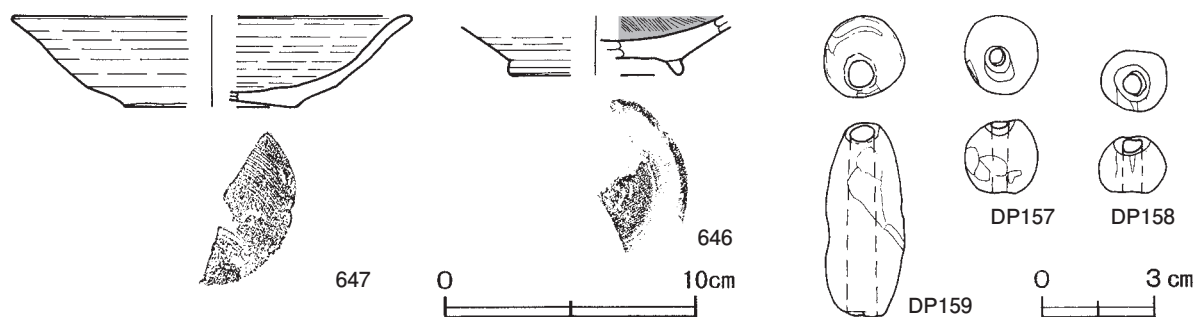
第1号地点貝塚 (I区全体図)

位置 調査I区北部のE7d8区, 標高27.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 地表面に径約15.0mの範囲で貝の散布が見られたため調査を行ったが, 削平及び攪乱を受けており, 明瞭な地山への掘り込みは確認できなかった。

遺物出土状況 表土と覆土を分けることができなかったため, 出土遺物の点数は表土層出土のものも含むが, 土師器片1186点 (坏類370・高台付椀13・皿1・甕類802), 須恵器片147点 (坏類63・高台付坏7・蓋7・瓶類6・甕類64), 土製品4点 (土玉類3・管状土錘1), 石器2点 (砥石), 鉄製品3点 (不明), 鉄滓2点, ヤマトシジミ1174点 (右殻529・左殻645), カワニナ1点, ニワトリ類の骨2点 (頸椎骨・左烏口骨) が出土している。646・647・DP157～159は北東区から出土している。

所見 本跡は, 後世の耕作により大きく削平及び攪乱を受けており, 規模や形状をとらえることができなかったが, 本来は掘り込みを伴う地点貝塚と思われる。時期は, 出土土器から10世紀後葉と考えられる。



第153図 第1号地点貝塚出土遺物実測図

第1号地点貝塚出土遺物観察表 (第153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
646	土師器	高台付椀	-	(2.3)	[6.8]	長石・石英・針状 鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部回転ヘ ラ切り後高台貼り付け	覆土中	10%
647	土師器	皿	[15.6]	3.6	[7.0]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部回転糸切り	覆土中	30%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP157	土玉	1.9	1.9	0.4	7.2	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP158	土玉	1.8	1.5	0.5	3.9	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61
DP159	管状土錘	2.1	5.1	0.8	17.3	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL61

(5) 遺物包含層

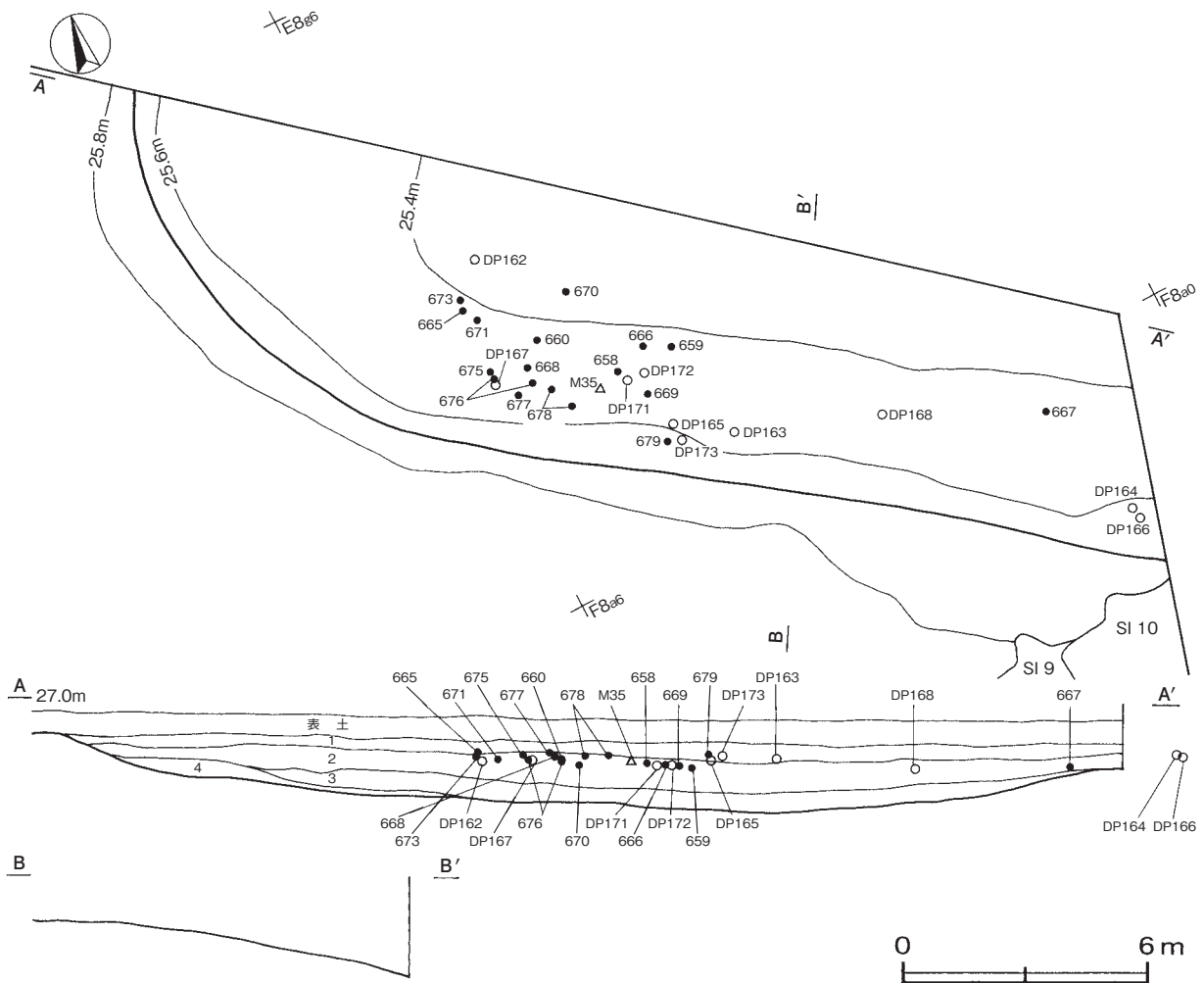
第2号遺物包含層 (第154～157図)

位置 調査I区北東部のE 8g5～F 8b8区、標高25.8～25.2mの台地上から北東側に傾斜する斜面に位置している。

調査方法 確認面に遺物を包含する黒色土が広がっていたため、調査区域境に沿って土層観察用トレンチを設定し、調査を行った。また、遺物を包含している第2層を除去した段階で地形の測量を行った。

規模と形状 地形的には南東方向から入り込んだ谷津頭であるが、北東及び東側が調査区域外に延びているため、確認できたのは長軸方向(北西-南東)26m、短軸方向(北東-南西)8mである。

土層 確認できた部分は4層に分けられる。遺物を包含している層は、現在の地表面から約0.6～1.8m下にかけて自然堆積している黒褐色を主体とする第1・2層である。



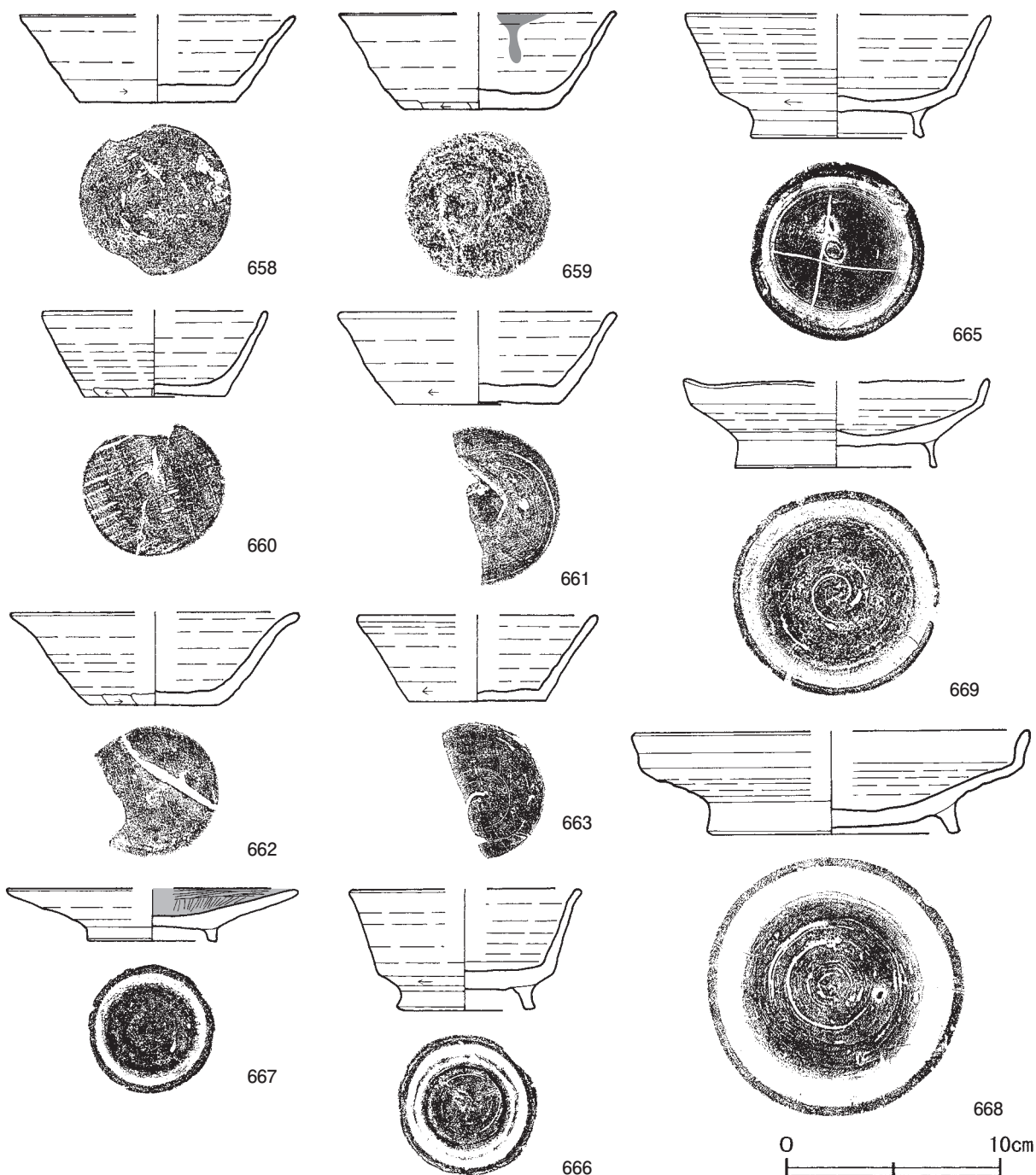
第154図 第2号遺物包含層実測図

土層解説

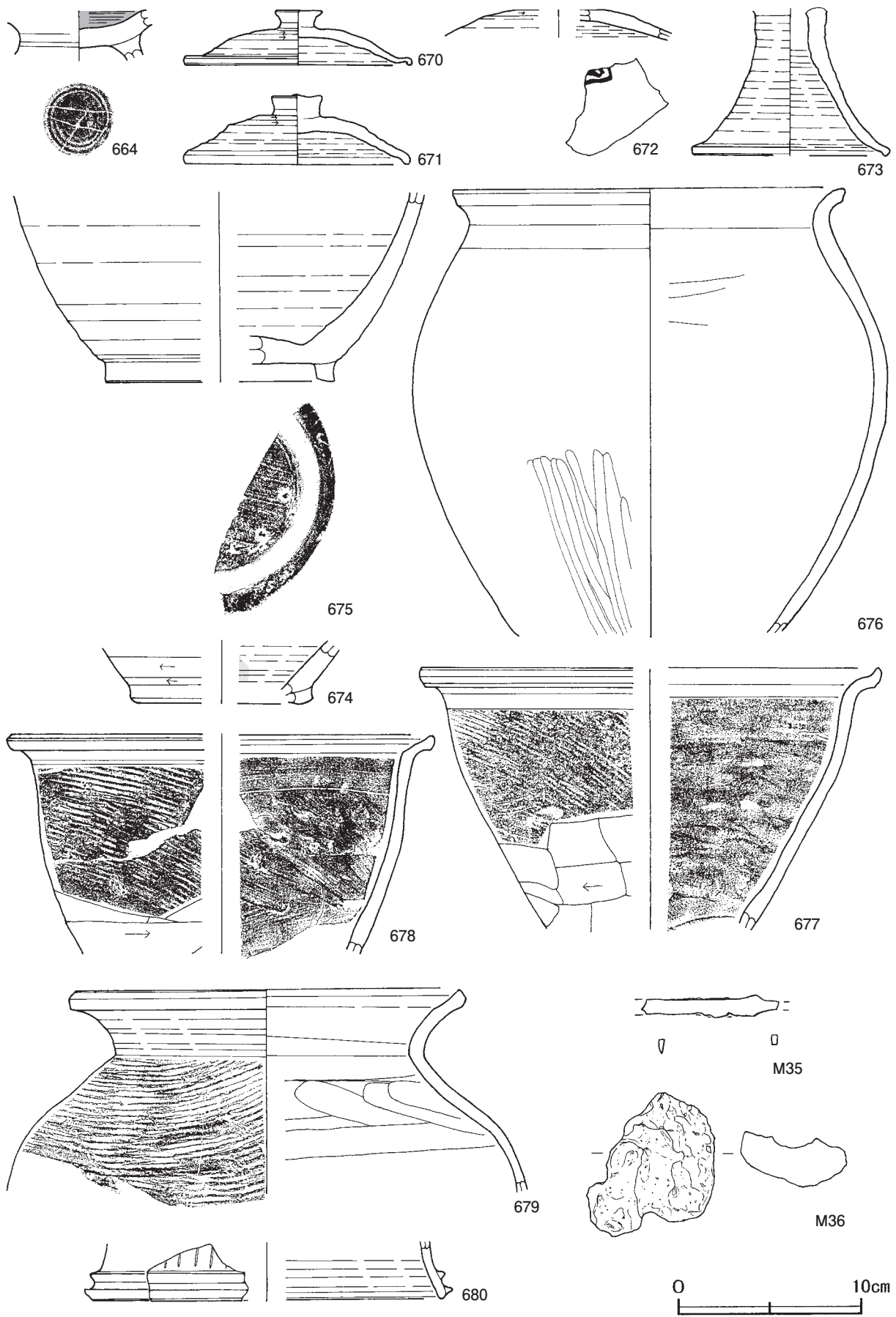
1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
 4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片6437点(坏類1974・高台付碗37・皿14・高台付皿2・甕類4404, 甑6), 須恵器片1448点(坏類481・高台付坏37・盤33・蓋123・高盤5・鉄鉢3・瓶類40・長頸瓶1・短頸壺12・甕類695・甑17・円面硯1), 灰釉陶器片2点(長頸瓶), 土製品53点(土玉類25・管状土錘28), 石器3点(砥石), 鉄製品6点(刀子1, 不明5), 鉄滓4点が出土している。遺物の散布状況は, E 8 i6区付近が最も濃密で, 周辺へいくに従って希薄となる。

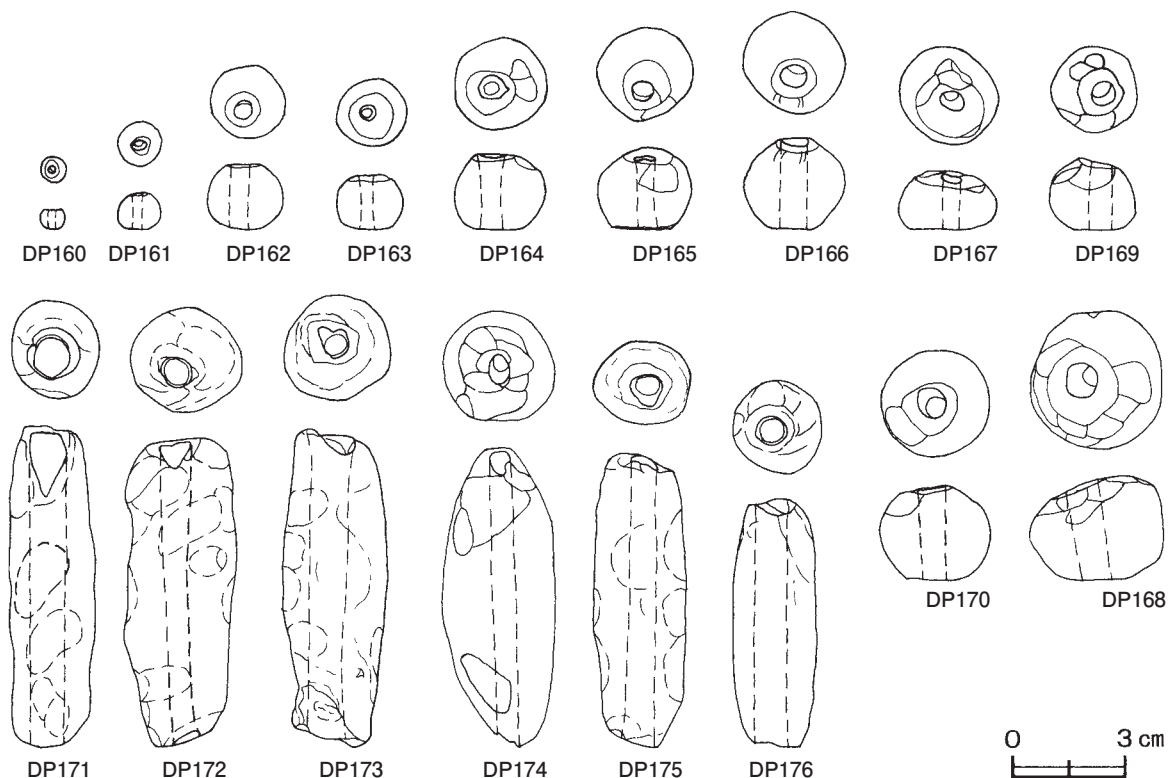


第155図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第156图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(2)

所見 本包含層は、南東方向から入り込んだ谷津頭にあたり、その南西側の台地平坦部には奈良・平安時代の集落跡が存在している。出土した遺物群は、南西側の集落から投棄されたものや、流入したものと思われる。当遺物包含層の形成時期は、出土土器から8～10世紀と考えられる。



第157図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第2号遺物包含層出土遺物観察表 (第155～157図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
658	須恵器	坏	[12.8]	4.1	7.2	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り	1・2層中	50% 稲敷B
659	須恵器	坏	[12.8]	4.5	6.8	長石・石英・ 針状鉱物	黄灰	普通 二次焼成	体部下端手持ちヘラ削り 底部回 転ヘラ削り	1・2層中	40% 稲敷A 口縁部内面煤付着
660	須恵器	坏	[10.4]	4.0	6.6	長石・石英・ 赤色粒子	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手 持ちヘラ削り	1・2層中	50% 新治B
661	須恵器	坏	[12.8]	4.3	7.6	長石・石英・ 針状鉱物	黄灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り後回転ヘラ削り	埋没土中	40% 稲敷A
662	須恵器	坏	[13.4]	4.3	6.0	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部手 持ちヘラ削り	埋没土中	30% 稲敷A
663	須恵器	坏	[11.0]	4.0	6.4	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り	埋没土中	40% 稲敷A
664	土師器	高台付椀	-	(2.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後 高台貼り付け	埋没土中	10% 底部外面 刻書「天」
665	須恵器	高台付坏	[14.2]	5.8	8.0	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り後高台貼り付け	1・2層中	60% 稲敷B 底 部外面ヘラ磨き「十」
666	須恵器	高台付坏	[10.4]	5.6	6.6	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転 ヘラ削り後高台貼り付け 底部外 面に沈線が巡る	1・2層中	60% 稲敷A
667	土師器	高台付皿	[13.4]	2.4	6.0	長石・石英・針状 鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面横位のヘラ磨き 底部ナデ後 高台貼り付け	1・2層中	40%
668	須恵器	盤	[18.4]	4.8	11.8	長石・石英・針状 鉱物・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	1・2層中	60% 稲敷A
669	須恵器	盤	[14.2]	4.1	9.6	長石・石英	灰	良好	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	1・2層中	60% 新治B
670	須恵器	蓋	12.4	3.0	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り 付け	1・2層中	70% PL58 稲敷B
671	須恵器	蓋	12.2	3.8	-	長石・石英・ 針状鉱物	にぶい黄 橙	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り 付け	1・2層中	60% PL59 稲敷A
672	須恵器	蓋	-	(1.6)	-	長石・石英・ 白雲母	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り	埋没土中	10% PL58 稲敷A 天部内面刻書「十」

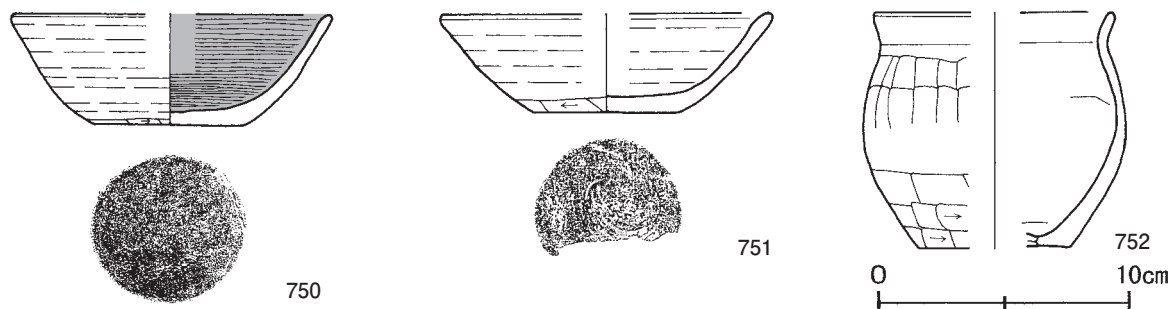
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
673	須恵器	高盤	-	(7.9)	[10.4]	長石・石英	灰	良好		1・2層中	40% 新治B
674	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.4)	[9.0]	緻密	釉オリーブ灰胎土灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部高台貼り付け	埋没土中	10% PL59 猿投
675	須恵器	短頸壺	-	(10.3)	[12.4]	長石・石英・ 黒色粒子	灰黄	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部ヘラ削り後高台貼り付け	1・2層中	30% PL59 猿投
676	土師器	甕	21.2	(29.3)	-	長石・石英・ 白雲母	にぶい黄 橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ、下半縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	1・2層中	20%
677	須恵器	鉢	[25.0]	(14.2)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰白	良好	体部横位の平行叩き、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	1・2層中	20% 稲敷A
678	須恵器	鉢	[23.0]	(11.8)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰黄	良好	体部横位の平行叩き、下端横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	1・2層中	20% 稲敷A
679	須恵器	甕	21.2	(11.1)	-	長石・石英・ 針状鉱物	灰	良好	体部横位の平行叩き 頸部から体部内面ヘラナデ	1・2層中	20% 稲敷A
680	須恵器	円面硯	-	(3.1)	[19.0]	長石・石英・ 黒色粒子	橙	良好	脚部に5条以上の鋭い沈線	埋没土中	10% PL59 稲敷B

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP160	小玉	0.7	0.6	0.2	0.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60
DP161	土玉	1.2	1.0	0.4	1.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60
DP162	土玉	2.0	1.7	0.5	6.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP163	土玉	1.8	1.5	0.4	5.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP164	球状土錘	2.4	2.0	0.8	11.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP165	球状土錘	2.6	2.2	0.6	13.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP166	球状土錘	2.7	2.4	0.7	16.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP167	球状土錘	2.7	1.6	0.6	10.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP168	球状土錘	3.5	2.8	0.9	34.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP169	球状土錘	2.3	1.9	0.6	10.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60
DP170	球状土錘	2.9	2.6	0.8	20.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60
DP171	管状土錘	2.3	8.5	0.9	41.8	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP172	管状土錘	3.0	8.2	0.8	50.5	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP173	管状土錘	3.0	7.9	0.6	58.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	1・2層中	PL60
DP174	管状土錘	2.5	6.6	0.9	40.5	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60
DP175	管状土錘	2.8	8.5	1.3	56.5	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60
DP176	管状土錘	2.5	7.8	1.0	49.2	粘土	ナデ 指頭痕 一方向からの穿孔	埋没土中	PL60

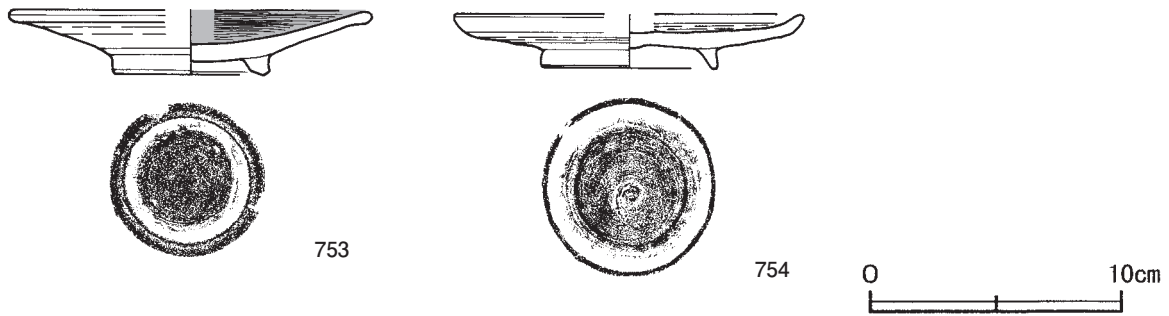
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 35	刀子	(7.6)	1.2	0.4	(6.1)	鉄	刃部・茎部一部欠損	1・2層中	
M 36	鉄滓	7.8	7.0	3.0	141.6	鉄	椀状滓	埋没土中	PL62

(6) 遺構外出土遺物 (第158・159図)

今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない奈良・平安時代の遺物が出土している。ここでは、土師器・須恵器など特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第158図 遺構外出土遺物実測図(1)



第159図 遺構外出土遺物実測図(2)

奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表 (第158・159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
750	土師器	坏	[12.6]	4.4	6.0	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 内面横位のへら磨き 底部手持ちへら削り	E 7区表土	50%
751	土師器	坏	[13.0]	3.9	5.8	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部回転糸切り	F 8区表土	30%
753	土師器	高台付皿	[14.2]	2.5	6.2	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	内面横位のへら磨き 底部回転へら削り後高台貼り付け	SI16 覆土中	30%
754	須恵器	盤	[13.8]	2.1	6.8	長石・石英・針状鉍物・赤色粒子	灰白	良好	底部回転へら削り後高台貼り付け	SI16 覆土中	60% 稲敷A
752	土師器	小形甕	[9.4]	9.4	[6.0]	長石・石英・針状鉍物	赤	普通	口縁部内・外面横ナデ体部外面縦位のへらナデ、下端横位のへら削り 内面へらナデ 底部へら削り	F 8区表土	30%

5 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、方形竪穴遺構 5 基、火葬土坑 5 基、土坑 7 基、溝跡 14 条が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 方形竪穴遺構

第 1 号方形竪穴遺構 (第161図)

位置 調査 I 区中央部の E 7 g0 区、標高 26.7m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 36・50 号住居跡、第 20 号土坑を掘り込み、第 16 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.36m、短軸 1.74m の長方形で、長軸方向は N - 28° - E である。壁高は 26 ~ 34cm で、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2 層に分けられる。ロームブロックや小円礫を含むことから人為堆積と思われる。

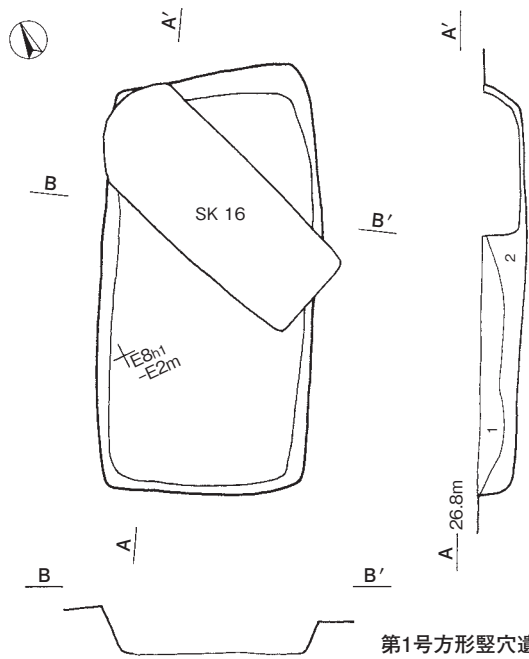
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・小円礫微量

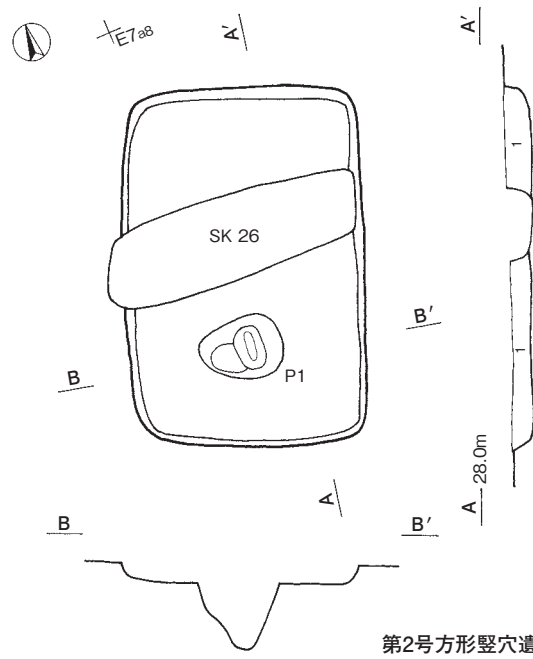
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 70 点 (坏類 22・高台付碗 1・甕類 47)、須恵器片 2 点 (坏類・甕類)、土製品 1 点 (球状土錘) が出土しているが、いずれも混入したものと思われる。

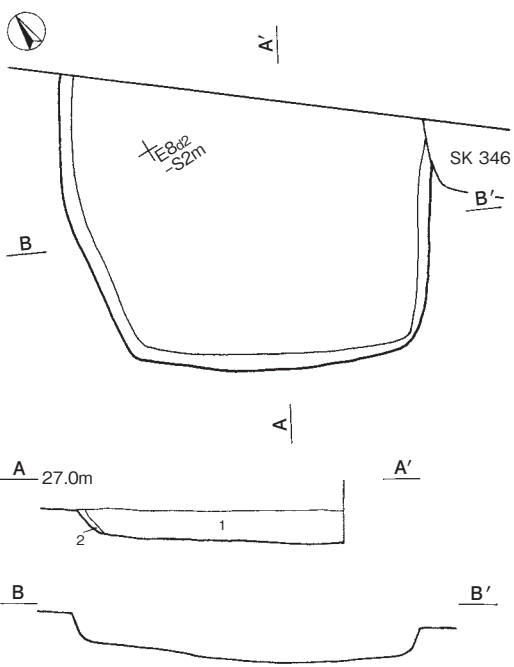
所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は重複関係や覆土の状況などから中世と考えられる。



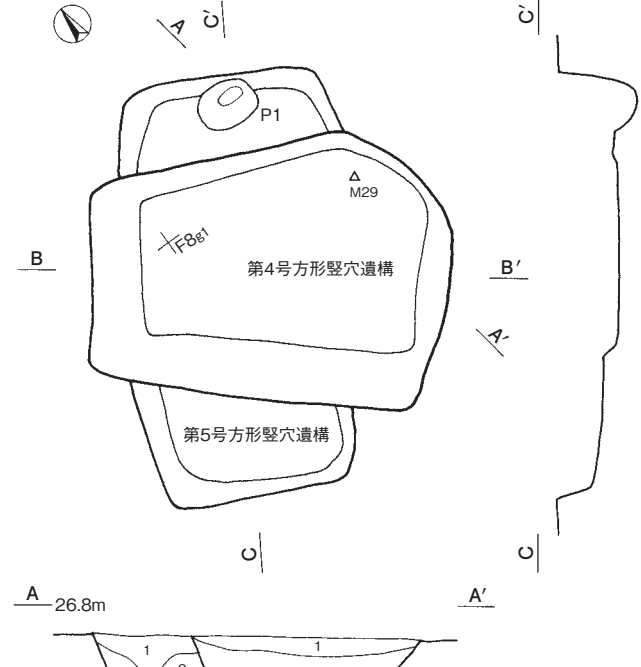
第1号方形竖穴遺構



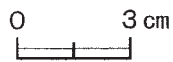
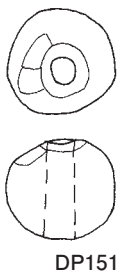
第2号方形竖穴遺構



第3号方形竖穴遺構



第4・5号方形竖穴遺構



第160图 第1~5号方形竖穴遺構, 第1・4号方形竖穴遺構出土遺物実測图

第1号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第160図）

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP151	球状土錘	2.9	2.6	0.8	20.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第2号方形竪穴遺構（第160図）

位置 調査I区北部のE7a8区、標高27.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第39号住居跡、第36・51号土坑を掘り込み、第26号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.86m、短軸1.92mの長方形で、長軸方向はN-20°-Eである。壁高は12～22cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

ピット 中央部南壁寄りに1か所。深さ56cmで、性格は不明である。

覆土 ロームブロックや粘土を含む単一層で、一度に埋めたような堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片12点（坏類9・甕類3）が出土しているが、いずれも混入したものと思われる。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は重複関係や覆土の状況などから中世と考えられる。

第3号方形竪穴遺構（第160図）

位置 調査I区北部のE8d2区、標高27.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号溝跡を掘り込み、第346号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びるため、確認できた規模は東西軸2.96m、南北軸2.2mで、長軸方向がN-32°-Eの方形と推定される。壁高は24～32cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片21点（坏類10・甕類11）が出土しているが、いずれも混入したものと思われる。

所見 本跡は、他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は重複関係や覆土の状況などから中世と考えられる。

第4号方形竪穴遺構（第160図）

位置 調査I区中央部のE8g1区、標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第50号住居跡、第5号方形竪穴遺構、第353号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.88m、短軸2.18mの不整長方形で、長軸方向はN-53°-Wである。壁高は42～48cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片4点(坏類2・甕類2), 古銭1点(皇宋通寶カ)が出土しているが, 土師器片は混入したと思われる。M29は覆土下層から出土している。

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。時期は, 出土遺物や重複関係, 覆土の状況などから中世と考えられる。

第4号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第160図)

番号	器種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	古銭	(2.2)	0.1	[0.6]	(0.7)	銅	欠け 皇宋通寶カ	下層	

第5号方形竪穴遺構(第160図)

位置 調査I区中央部のE8fl区, 標高26.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第50号住居跡を掘り込み, 第4号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.34m, 短軸1.82mの長方形で, 主軸方向はN-31°-Eである。壁高は32~42cmで, 外傾している。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

ピット 北東壁下に1か所。深さ18cmで, 性格は不明である。

覆土 2層に分けられる。ロームブロックを含むことから人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量

所見 本跡は, 他の類似遺構との比較から方形竪穴遺構と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが, 時期は重複関係や覆土の状況などから中世と考えられる。

表7 方形竪穴遺構一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		底面	内部施設		覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		主柱穴	ピット				
1	E7g0	N-28°-E	長方形	3.36×1.74	26~34	平坦	-	-	人為	球状土錘	中世	SI36・50, SK20 → 本跡 → SK16
2	E7a8	N-20°-E	長方形	2.86×1.92	12~22	平坦	-	1	人為	-	中世	SI39, SK36・51 → 本跡 → SK26
3	E8d2	N-32°-E	[方形]	2.96×(2.2)	24~32	平坦	-	-	人為	-	中世	SD13 → 本跡 → SK346
4	E8g1	N-53°-W	不整形長方形	2.88×2.18	42~48	平坦	-	-	人為	古銭	中世	SI50, 第5号方形竪穴, SK353 → 本跡
5	E8fl	N-31°-E	長方形	3.34×1.82	32~42	平坦	-	1	人為	-	中世	SI50 → 本跡 → 第4号方形竪穴

(2) 火葬土坑

第1号火葬土坑(第161図)

位置 調査I区北部のE7c9区, 標高27.4mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 主軸方向N-88°-WのT字形を呈している。燃焼部は長軸1.10m, 短軸0.74mの隅丸長方形である。深さは4~8cmで, 底面はほぼ平坦である。通気溝は長さ0.58m, 上幅0.48m, 下幅0.24mで, 深さは10cmである。燃焼部の底面及び壁面の赤変硬化はあまり認められない。

覆土 5層に分けられる。焼土や炭化物を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・火葬骨片少量、ロームブロック・炭化物微量	3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・火葬骨片微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物・火葬骨片微量	4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		5 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 本跡は、火葬骨片が確認できた火葬土坑である。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は覆土の状況などから中世と考えられる。

第2号火葬土坑（第161図）

位置 調査I区西部のF7d5区、標高24.3mの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 主軸方向N-60°-Wの不整T字形を呈している。燃烧部は長軸0.74m、短軸0.50mの長方形である。深さは18～20cmで、底面に段を有している。通気溝は長さ0.34m、上幅0.46m、下幅0.38mで、深さは12cmである。燃烧部の底面及び壁面は赤変硬化している。

覆土 12層に分けられる。焼土や炭化物を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 にぶい褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7 褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒色	炭化物・火葬骨片少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	8 黄褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量
4 黒色	炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
5 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量	10 褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子・火葬骨片微量
		11 黒色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土粒子・火葬骨片微量
		12 にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

所見 本跡は、火葬骨片が確認できた火葬土坑である。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は覆土の状況などから中世と考えられる。

第3号火葬土坑（第161図）

位置 調査I区西部のF7c3区、標高23.6mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向N-56°-WのT字形を呈している。燃烧部は長軸0.76m、短軸0.48mの隅丸長方形である。深さは8～14cmで、底面は通気溝に向かってやや傾斜している。通気溝は長さ0.80m、上幅0.30m、下幅0.18mで、深さは10cmである。通気溝の先端には、径0.76m、深さ8cmの空気孔が遺存している。燃烧部の底面及び壁面は赤変硬化している。

覆土 6層に分けられる。焼土や炭化物を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック・火葬骨片微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・火葬骨片少量、ローム粒子微量	5 黒色	炭化物多量、ロームブロック・焼土粒子・火葬骨片微量
3 黒色	焼土ブロック・炭化物・火葬骨片少量、ロームブロック・粘土ブロック微量	6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 須恵器片1点（坏類）が出土しているが、混入したものと思われる。

所見 本跡は、火葬骨片が確認できた火葬土坑である。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は覆土の状況などから中世と考えられる。

第4号火葬土坑（第161図）

位置 調査I区中央部のE8f2区，標高26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 主軸方向N-74°-Wの8字形を呈している。燃烧部は長径0.74m，短径0.72mの円形である。深さは14～18cmで，底面はほぼ平坦である。通气溝は長さ0.90m，上幅0.38m，下幅0.10mで，深さは10cmである。通气溝の先端には，径0.60m，深さ20cmの空気孔が遺存している。燃烧部の底面及び壁面の赤変硬化はあまり認められない。

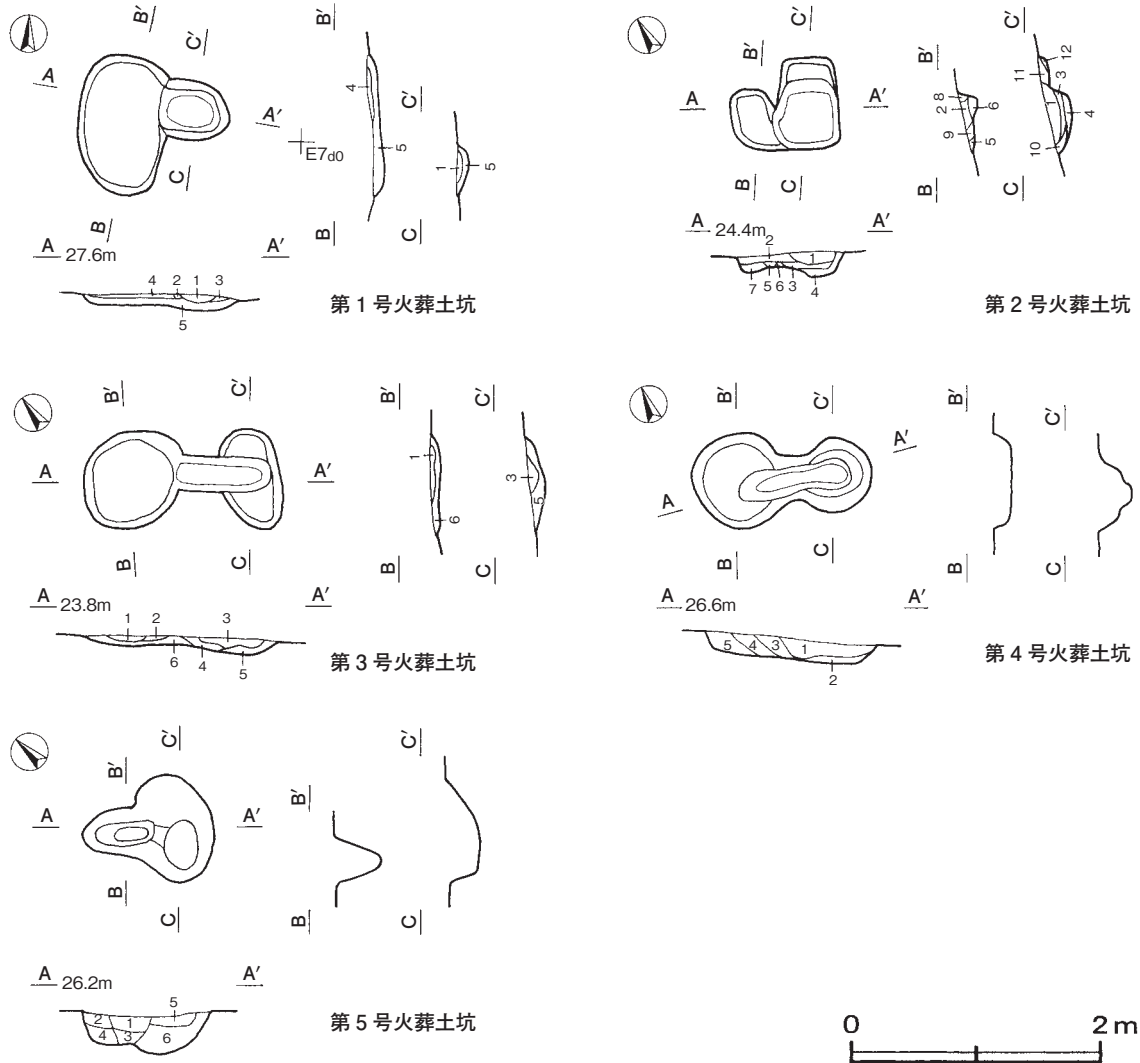
覆土 5層に分けられる。焼土や炭化物を含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1点（甕類）が出土しているが，混入したものと思われる。

所見 本跡は，火葬骨片を確認できなかったが，他の類似遺構との比較から火葬土坑と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが，時期は覆土の状況などから中世と考えられる。



第161図 第1～5号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑（第161図）

位置 調査I区中央部のF7b7区、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 主軸方向N-44°-WのT字形を呈している。燃焼部は長径0.86m、短径0.46mの楕円形である。深さは26～28cmで、底面はほぼ平坦である。通気溝は長さ0.60m、上幅0.36m、下幅0.12mで、深さは38cmである。燃焼部の底面及び壁面の赤変硬化はあまり認められない。

覆土 6層に分けられる。焼土や炭化物を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量	4 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 褐色 ロームブロック中量
3 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量	6 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点（坏類）が出土しているが、混入したものと思われる。

所見 本跡は、火葬骨片を確認できなかったが、他の類似遺構との比較から火葬土坑と思われる。本跡に伴う遺物は出土していないが、時期は覆土の状況などから中世と考えられる。

表8 火葬土坑一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模								覆土	人骨出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
				燃焼部				通気溝							
				長径・軸× 短径・軸(m)	深さ (cm)	平面形	底面	長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)				
1	E7c9	N-88°-W	T字形	1.10×0.74	4～8	楕円長方形	平坦	0.58	0.48	0.24	10	人為	火葬骨片	中世	
2	F7d5	N-60°-W	不整T字形	0.74×0.50	18～20	長方形	二段	0.34	0.46	0.38	12	人為	火葬骨片	中世	
3	F7c3	N-56°-W	T字形	0.76×0.48	8～14	楕円長方形	傾斜	0.80	0.30	0.18	10	人為	火葬骨片	中世	
4	E8f2	N-74°-W	8字形	0.74×0.72	14～18	円形	平坦	0.90	0.38	0.10	10	人為	-	中世	SB10→本跡
5	F7b7	N-44°-W	T字形	0.86×0.46	26～28	楕円形	平坦	0.60	0.36	0.12	38	人為	-	中世	

(3) 土坑（第162図）

土坑については、中世・近世の陶磁器類の出土の有無や重複関係から当該期の遺構として判断したが、図示できるような陶磁器類はなく、性格も不明であるため、実測図及び一覧表で掲載する。

第16号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第66号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第206号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第229号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第272号土坑土層解説

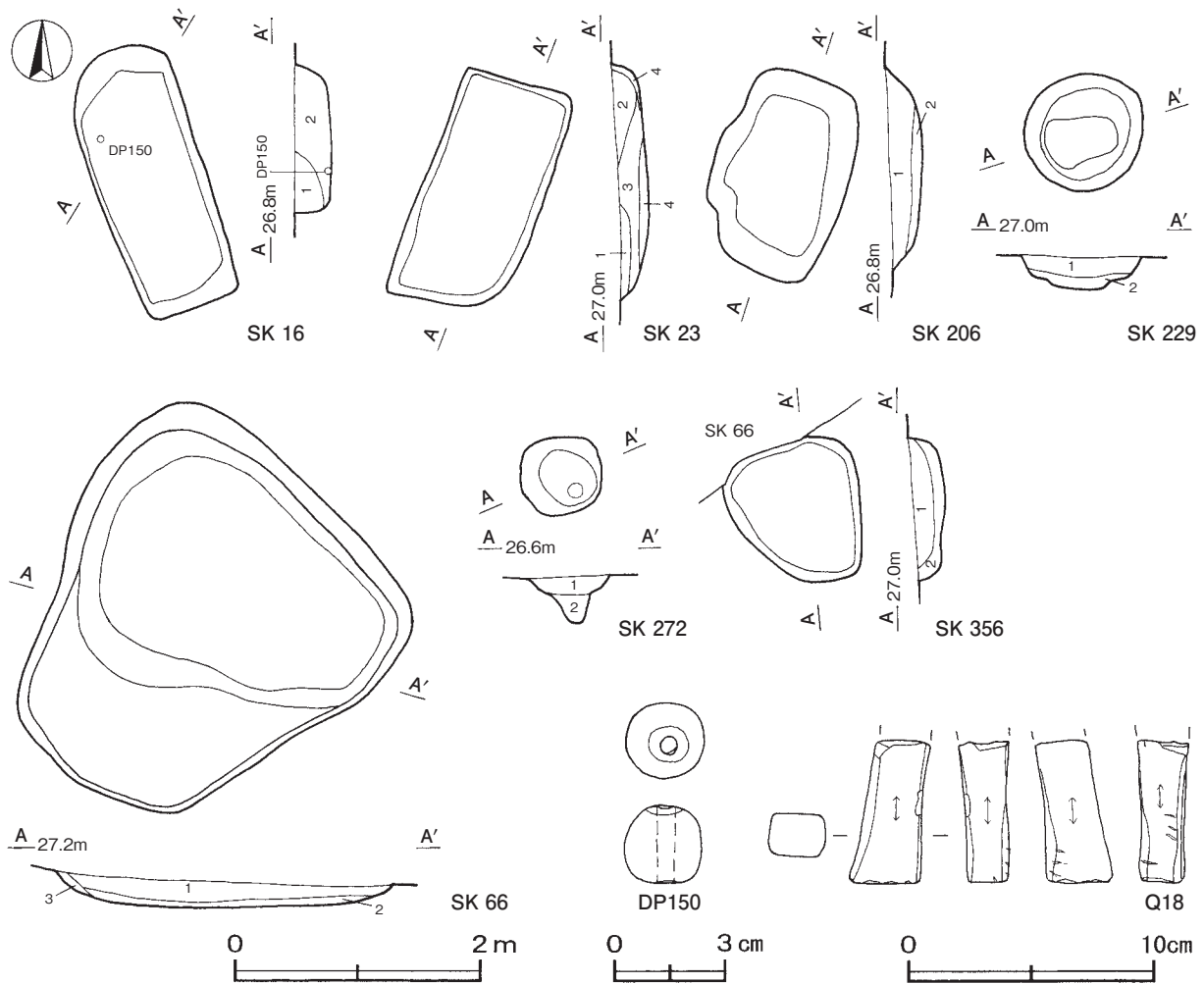
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第356号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第16号土坑出土遺物観察表（第162図）

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP150	球状土錘	2.1	2.1	0.5	9.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	底面	



第162図 第16・23・66・206・229・272・356号, 第16・66号土坑出土遺物実測図

第66号土坑出土遺物観察表 (第162図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 18	砥石	(5.8)	3.3	2.1	(54.3)	凝灰岩	砥面4面のうち3面に溝状研磨痕	覆土中	PL64

表9 土坑一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
16	E 7 g0	N - 17° - W	長方形	2.20×0.86	32	平坦	外傾	人為	球状土錘	近世	SI36・50, 第1号方形堅穴, SK20→本跡
23	E 7 g5	N - 20° - E	長方形	1.96×1.00	24	平坦	緩斜	人為	磁器	近世	SI38→本跡
66	E 7 f9	N - 40° - E	不定形	3.02×2.88	24	二段	緩斜	人為	砥石	近世	SI50, SK356, SD14→本跡
206	E 7 h7	N - 20° - E	不整長方形	1.66×1.14	28	平坦	緩斜	人為	陶器, 磁器	近世	
229	E 7 h7	N - 48° - E	楕円形	1.04×0.94	24	平坦	緩斜	人為	陶器	近世	SB12→本跡
272	E 7 j8	-	円形	1.40×1.40	42	平坦	外傾	人為	陶器(常滑)	中世	
356	E 7 g9	N - 48° - W	不整長方形	1.42×1.08	30	平坦	緩斜	人為	陶器(常滑)	中世	SI50→本跡→SK66

(4) 溝跡

溝跡については、中世・近世の陶磁器類の出土の有無や重複関係から当該期の遺構として判断したが、図示できるような陶磁器類は少なく、性格も不明なものが多い。ここでは、特徴的な溝跡と出土遺物についてのみ取り上げ、その他は全体図及び一覧表で掲載する。

第1号溝跡（第163図）

位置 調査I区中央部から南部のF 8 a2～F 7 f8区、標高26.2～25.3mの台地平坦部から緩斜面に位置している。

重複関係 第12・25・58号住居跡、第15号掘立柱建物跡、第147・148号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外に延びるため、確認できた長さは26.2mである。走行方向はN-149°-Wで、南西方向へほぼ直線的に延びている。上幅0.6～1.0m、下幅0.2～0.6m、深さは14～26cmである。断面形は浅いU字状で、両壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土中から陶器片4点（瀬戸・美濃灰釉皿2、常滑片口鉢I類1、碗1）、鉄製品片1点、鉄滓1点が出土しているが、いずれも細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したものと思われる土師器片74点、須恵器片26点、管状土錘片1点が出土している。

所見 本跡は、東側に平行して位置する第2号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。時期は、出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第2号溝跡（第163図）

位置 調査I区中央部のF 8 c1～F 8 d1区、標高26.2～26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第58号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは6.8mである。走行方向はN-153°-Wで、南西方向へほぼ直線的に延びている。上幅0.3～0.6m、下幅0.1～0.5m、深さは6～8cmである。断面形は浅いU字状で、両壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 覆土中から陶器片1点（瀬戸・美濃灰釉平碗）が出土しているが、細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したものと思われる土師器片14点、須恵器片3点が出土している。

所見 本跡は、西側に平行して位置する第1号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。時期は、出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第3号溝跡（第163・164図）

位置 調査I区中央部のE 8 i3～F 8 a3区、標高26.2～26.1mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号住居跡、第11号掘立柱建物跡、第2・119号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長さは10.5mである。走行方向はN-4°-Eで、北方向へほぼ直線的に延びている。上幅0.7～0.9m、下幅0.5～0.7m、深さは6～12cmである。断面形は浅いU字状で、両壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土中から陶器片2点（瀬戸・美濃長石釉志野皿，碗），石器2点（砥石）が出土しているが、砥石以外いずれも細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したものと思われる土師器片24点、須恵器片14点が出土している。

所見 本跡は、区画溝と思われるが詳細は不明である。時期は、出土遺物や重複関係から近世前半と考えられる。

第3号溝跡出土遺物観察表（第164図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 20	砥石	9.0	7.2	2.7	(171.4)	砂岩	砥面2面	覆土中	PL64

第4号溝跡（第163・164図）

位置 調査I区南西部のF7c7～F7f7区、標高25.4～24.8mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側が段切状の平場に削平されているため、確認できた長さは12.0mである。走行方向はN-151°-Wで、南西方向へほぼ直線的に延びている。上幅1.3～1.9m、下幅0.8～1.2m、深さは28～32cmである。断面形は浅いU字状で、両壁は緩やかに立ち上がっている。確認できた南側は、さらに底面が26～36cm深く掘り込まれている。

覆土 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 4 灰 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片1点（内耳鍋），陶器片6点（瀬戸・美濃灰釉反り皿1・鉄釉袴腰形香炉1・錆釉挿鉢1，碗2・瓶類1），磁器片1点（碗）が出土している。そのほかにも、混入あるいは流入したものと思われる土師器片31点、須恵器片4点が出土している。

所見 本跡は、西側に平行して位置する第5～7号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。時期は、出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第4号溝跡出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
757	土師質土器	内耳鍋	[28.8]	(5.7)	-	長石・石英・金雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部凹む 口縁部内面横ナデ	覆土中	10% PL61
758	陶器	反り皿	[12.8]	(2.0)	-	緻密	釉浅黄胎土灰白	良好	内・外面灰釉を施釉 口縁端部反る 削り出し高台	覆土中	10% PL61 瀬戸・美濃大窯 4段階

第5号溝跡（第164図）

位置 調査I区南西部のF7c8～F7e6区、標高25.6～24.8mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第4号溝跡を掘り込み、第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側が第6号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは12.0mである。走行方向はN-148°-Wで、南西方向へほぼ直線的に延びている。上幅0.6～0.8m、下幅0.2～0.5m、深さは6～16cmである。断面

形は浅いU字状で、両壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片1点（小皿）、陶器片2点（鉢・挿鉢）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したと思われる土師器片12点、須恵器片2点が出土している。

所見 本跡は、東側に平行して位置する第4号溝、合流する第6・7号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。時期は、出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第7号溝跡（第163・164図）

位置 調査I区南西部のF7d6～F7f6区、標高24.4～23.4mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が段切状の平場によって削平されているため、確認できた長さは4.1mである。走行方向はN-145°-Wで、南西方向へほぼ直線的に延びている。上幅4.1～4.8m、下幅0.3～0.5m、深さは180～192cmである。断面形はV字状で、両壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 3 黒 褐 色 粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子
微量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片1点（内耳鍋）、陶器片5点（常滑片口鉢Ⅱ類1、碗1・鉢1・瓶類2）、磁器片1点（蓋）、石器2点（砥石）が出土しているが、砥石以外いずれも細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したと思われる土師器片3点、須恵器片4点が出土している。

所見 本跡は、東側に平行して位置する第4号溝、合流する第6・7号溝と機能的に関連する区画溝と思われる。また、調査区域外でも埋没しきっていない本跡を確認することができ、本来は断面形が逆三角形の薬研状、あるいは逆台形の箱薬研状の堀であった可能性が高い。時期は、出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第7号溝跡出土遺物観察表（第164図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 21	砥石	(7.2)	3.9	2.0	(74.8)	凝灰岩	砥面3面 1面に鑿状工具による痕跡	覆土中	PL64
Q 22	砥石	10.6	3.9	2.6	93.4	凝灰岩	砥面3面	覆土中	PL64

第10号溝跡（第164図）

位置 調査I区西部のE7h4～E7i3区、標高26.6～26.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号土坑、第11号溝跡を掘り込み、第22号土坑、第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西側が調査区域外に延びるため、確認できた長さは6.8mである。走行方向はN-156°-Wで、南西方向へほぼ直線的に延びている。確認できた上幅は0.7m、下幅は0.3m、深さは36～48cmである。東壁は

緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 覆土中から陶器片2点（瀬戸・美濃茶の灰釉平碗・灰釉筒形香炉）が出土しているが、いずれも細片で図示できない。そのほかにも、混入あるいは流入したものと思われる土師器片2点、須恵器片1点が出土している。

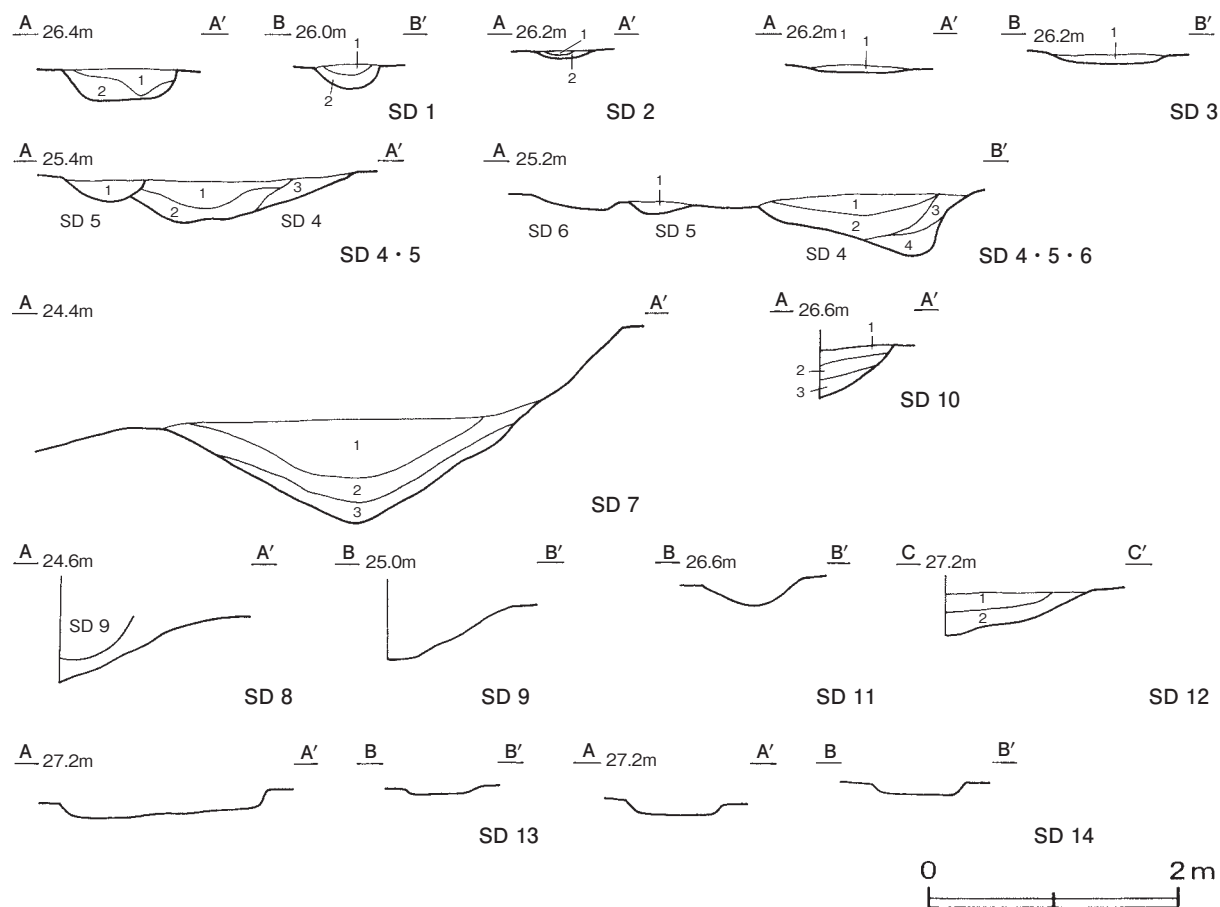
所見 本跡は、南側に位置する第8・9号溝，合流する第11号溝，北側に位置する第12号溝と機能的に関連する区画溝と思われる，西側に平行する農道との地境に当たる。時期は，出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

第12号溝跡（第163図）

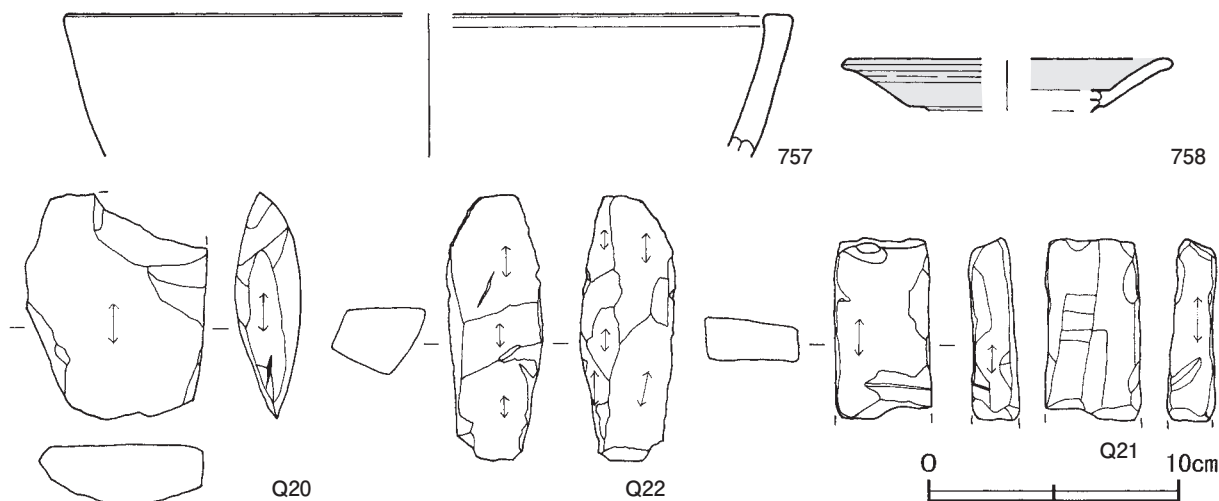
位置 調査I区西部のE7c6～E7i3区，標高27.5～26.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第38号住居跡，第42号土坑，第10号溝跡を掘り込み，第29～31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西側が調査区域外に延びるため，確認できた長さは22.7mである。主軸方向はN-146°-Wで，南西方向へほぼ直線的に延びる。確認できた上幅は1.2m，下幅は0.9m，深さは20～42cmである。東壁は緩やかに立ち上がる。



第163図 第1～14号溝跡実測図



第164図 第3・4・7号溝跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片1点(内耳鍋), 陶器片5点(碗2・瓶類2・香炉1), 磁器片2点(碗)が出土しているが, いずれも細片で図示できない。そのほかにも, 混入あるいは流入したと思われる土師器片55点, 須恵器片2点, 土製支脚片1点が出土している。

所見 本跡は, 南側に位置する第8・9・10号溝と機能的に関連する区画溝と思われる, 西側に平行する農道との地境に当たる。時期は, 出土遺物や重複関係から中世後半から近世前半と考えられる。

表10 溝跡一覧表

遺構番号	位置	走行方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
1	F8a2~F7f8	N-149°-W	ほぼ直線	(26.2)	0.6~1.0	0.2~0.6	14~26	浅いU字状	緩斜	自然	陶器, 鉄製品, 鉄滓	中世後半~近世前半	SI12・25・58, SB15, SK147・148 →本跡
2	F8c1~F8d1	N-153°-W	ほぼ直線	6.8	0.3~0.6	0.1~0.5	6~8	浅いU字状	緩斜	自然	陶器	中世後半~近世前半	SI58 →本跡
3	E8i3~F8a3	N-4°-E	ほぼ直線	10.5	0.7~0.9	0.5~0.7	6~12	浅いU字状	緩斜	不明	陶器, 砥石	近世前半	SI20, SB11, SK2・119 →本跡
4	F7c7~F7f7	N-151°-W	ほぼ直線	(12.0)	1.3~1.9	0.8~1.2	28~32	浅いU字状	緩斜	自然	土師質土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器	中世後半~近世前半	本跡 → SD5
5	F7c8~F7e6	N-148°-W	ほぼ直線	(12.0)	0.6~0.8	0.2~0.5	6~16	浅いU字状	緩斜	不明	土師質土器, 陶器	中世後半~近世前半	SD4 → 本跡 → SD6
6	F7d7~F7e6	N-143°-W	ほぼ直線	(5.8)	0.6~0.8	0.3~0.5	8~18	浅いU字状	緩斜	不明	-	中世後半~近世前半	SK177, SD5 → 本跡 → SD7
7	F7d6~F7f6	N-145°-W	ほぼ直線	(4.1)	4.1~4.8	0.3~0.5	180~192	V字状	外傾	自然	土師質土器, 陶器, 磁器, 砥石	中世後半~近世前半	SK177・178, SD6 → 本跡
8	F7b1	N-151°-W	[[ほぼ直線]]	(2.0)	(1.4)	(0.9)	48~52	-	緩斜	自然	-	中世・近世	本跡 → SD9
9	F7a2~F7b1	N-150°-W	[[ほぼ直線]]	(7.4)	(0.6)	(0.5)	44~56	-	緩斜	自然	-	中世・近世	SD8 → 本跡
10	E7h4~E7i3	N-156°-W	[[ほぼ直線]]	(6.8)	(0.7)	(0.3)	36~48	-	緩斜	自然	陶器	中世後半~近世前半	SK21, SD11 → 本跡 → SK22, SD12
11	E7h4	N-79°-W	ほぼ直線	(1.9)	0.4~1.1	0.2~0.6	20~26	浅いU字状	緩斜	自然	-	中世後半~近世前半	本跡 → SK22・SD10
12	E7c6~E7i3	N-146°-W	[[ほぼ直線]]	(22.7)	(1.2)	(0.9)	20~42	-	緩斜	自然	土師質土器, 陶器, 磁器	中世後半~近世前半	SI38, SK42, SD10 → 本跡 → SK29・30・31
13	E7d0~E8d1	N-96°-E	ほぼ直線	(5.5)	0.4~1.8	(0.3~1.6)	4~28	浅いU字状	緩斜	自然	-	中世	本跡 → 第3号方形竪穴
14	E7e9~E7g9	N-164°-W	ほぼ直線	7.4	0.4~0.9	0.2~0.7	10~12	浅いU字状	緩斜	自然	-	近世	本跡 → SK66

(5) 遺構外出土遺物 (第165図)

今回の調査で、表土層等から遺構に伴わない中世・近世の遺物が出土している。ここでは、土師質土器・陶器など特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第165図 遺構外出土遺物実測図

中世・近世遺構外出土遺物観察表 (第165図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
759	陶器	折縁小皿	[8.0]	2.0	[3.8]	緻密	釉にふい黄橙胎土淡黄	良好	内・口縁部外面灰釉を施釉 口縁部折れる 底部回転糸切り	E 7区表土	10% PL61 古瀬戸後II期
760	土師質土器	小皿	[9.8]	2.4	[4.4]	長石・金雲母・針状鉱物・赤色粒子	にふい橙	普通	底部突出する	E 8区表土	30% PL61
761	陶器	平碗	[15.4]	(5.9)	-	緻密	釉浅黄胎土浅黄	良好	内・外面灰釉を施釉 体部下端回転ヘラ削り 底部露胎 削り出し高台	F 7区表土	20% PL61 古瀬戸後III期

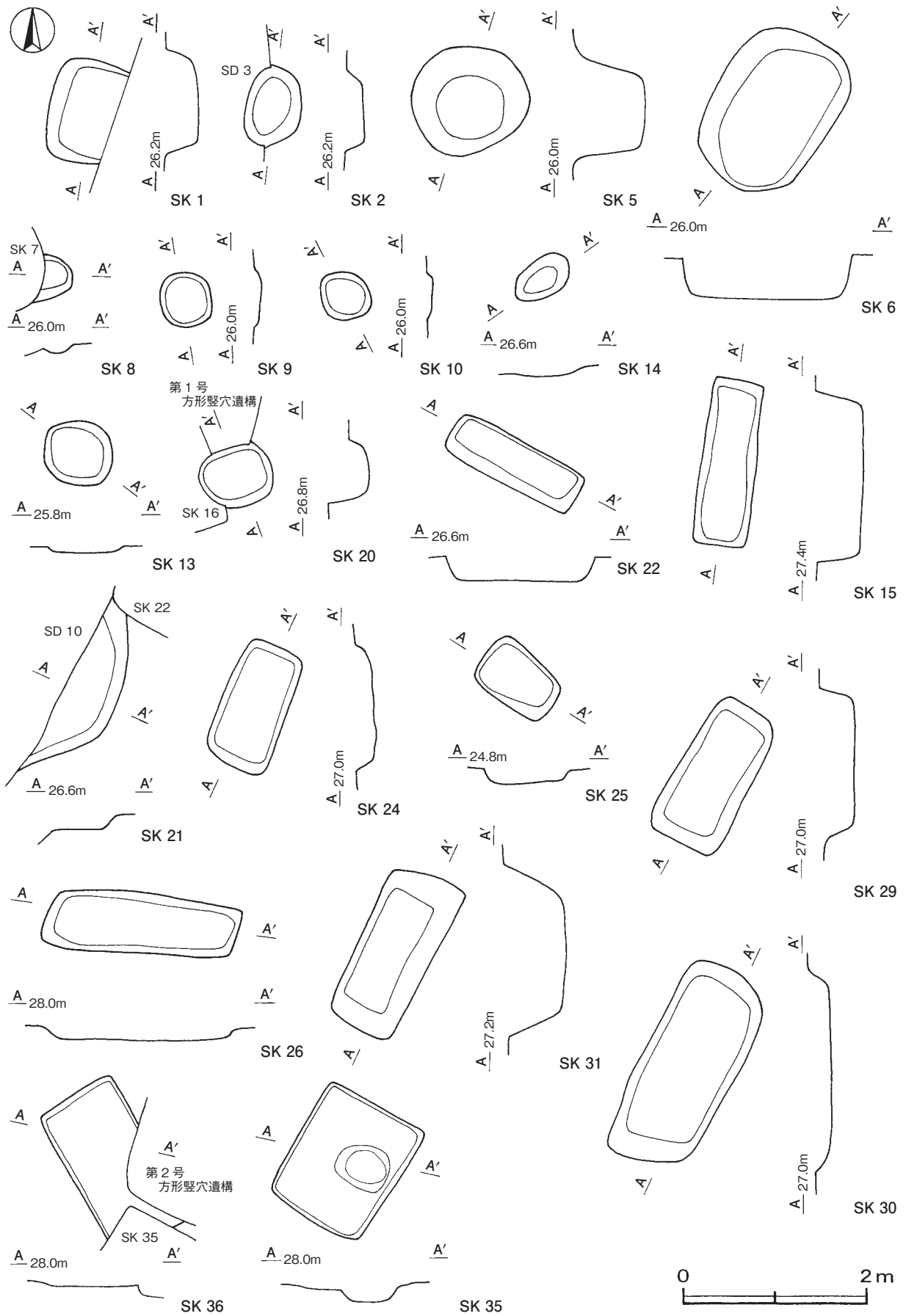
6 その他の遺構

土坑 (第166～175図)

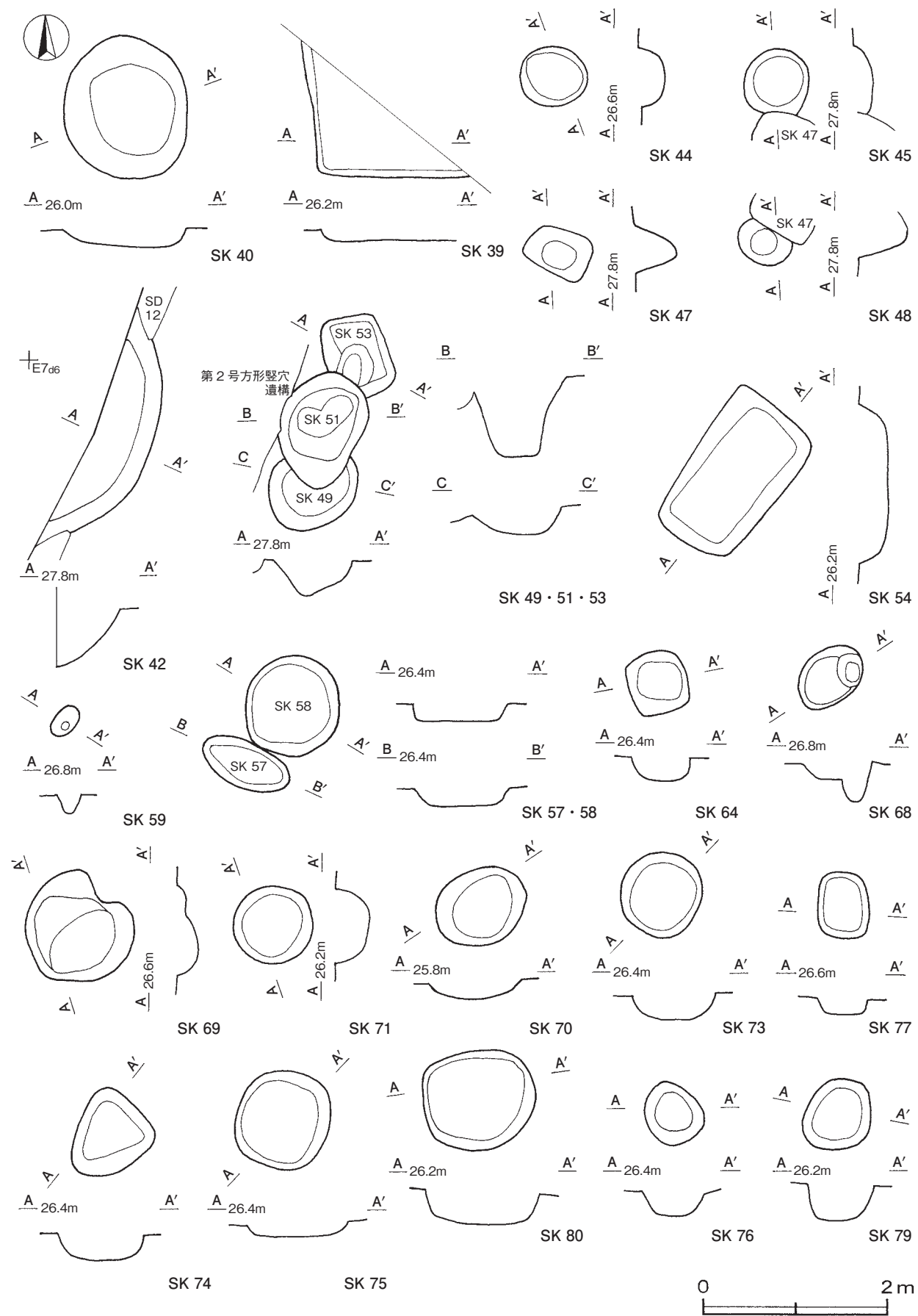
今回の調査では、土坑と思われる遺構に第1～390号まで番号をつけたが、調査の過程で、他の遺構の一部であることや遺構でないことが判明したものについては欠番とした。また、縄文時代の陥し穴、古墳時代の土坑、奈良・平安時代の土坑、中世・近世の方形竪穴遺構・火葬土坑・土坑については、項を設けて前述した。その他の土坑262基については、図示できるような出土遺物もなく、性格・時期も不明であるため、実測図及び一覧表で掲載する。

表11 その他の土坑一覧表

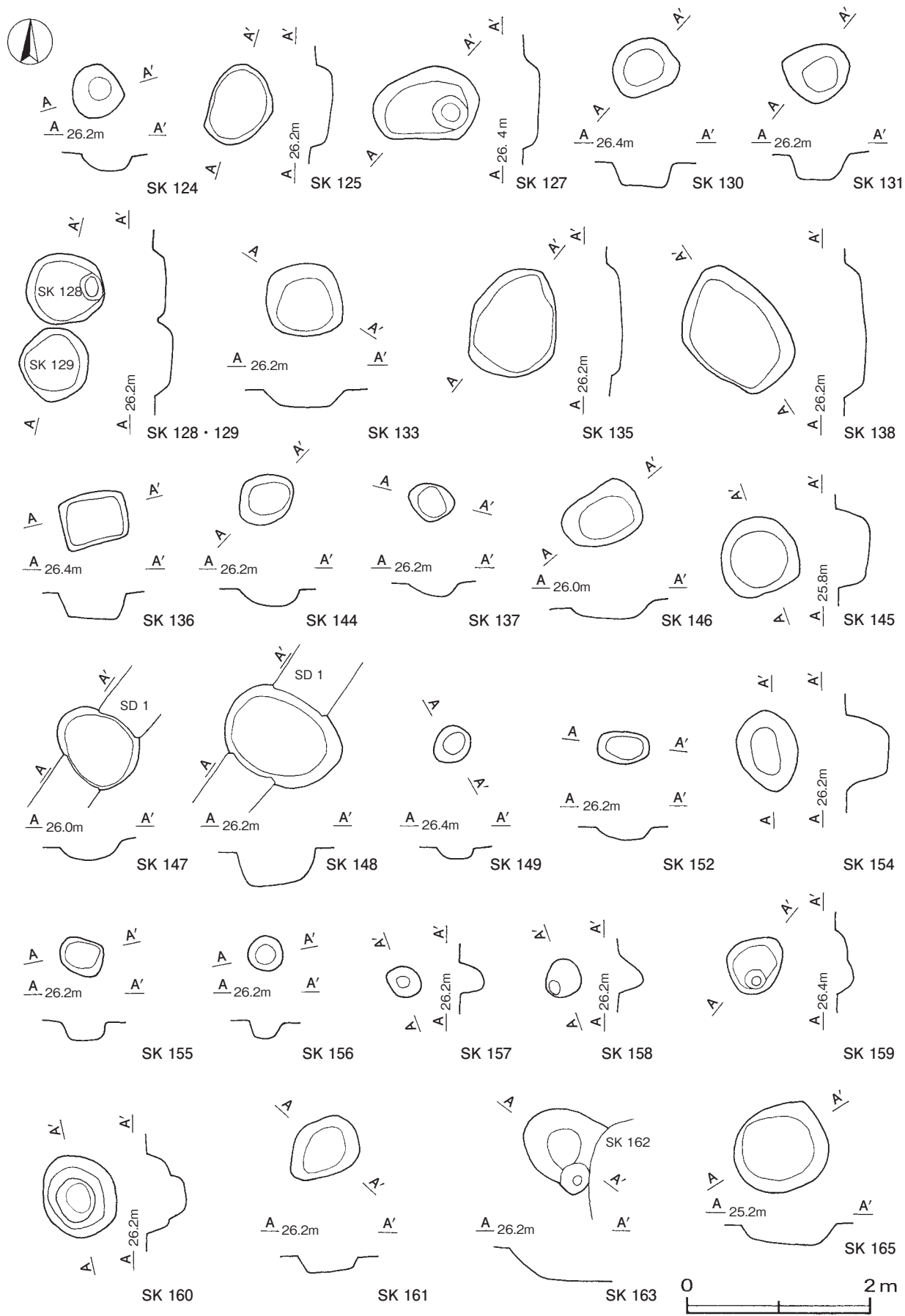
遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸 (m)	深さ (cm)						
1	F 8 d8	[N-12°-E]	[隅丸方形]	1.12×(0.8)	40	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	不明	SI4→本跡
2	E 8 j3	N-15°-E	[楕円形]	0.88×(0.64)	20	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	本跡→SD3
5	F 8 f3	-	円形	1.24×1.16	76	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	不明	SI6→本跡
6	F 8 g2	N-33°-E	楕円形	1.84×1.30	46	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	不明	SI6→本跡
8	F 8 g3	[N-82°-W]	[楕円形]	(0.5)×0.46	10	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI6→本跡→SK7
9	F 8 g3	-	円形	0.64×0.58	8	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI6→本跡
10	F 8 g2	-	円形	0.60×0.54	8	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI6→本跡
13	F 8 g2	N-51°-W	楕円形	0.80×0.72	6	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI6→本跡
14	E 7 j8	N-47°-E	楕円形	0.68×0.42	12	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI27→本跡
15	E 7 e6	N-8°-E	長方形	1.80×0.60	54	平坦	外傾	人為	-	不明	SI37→本跡
20	E 8 g1	[N-74°-E]	[楕円形]	(0.9)×(0.7)	44	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI36・50→本跡→第1号方形竪穴, SK16
21	E 7 h4	-	[円形]	(2.1)×(0.6)	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	本跡→SK22, SD10
22	E 7 h4	N-63°-W	長方形	1.56×0.50	30	平坦	外傾	人為	-	不明	SK21, SD10・11→本跡
24	E 7 g4	N-23°-E	長方形	1.38×0.72	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI38→本跡



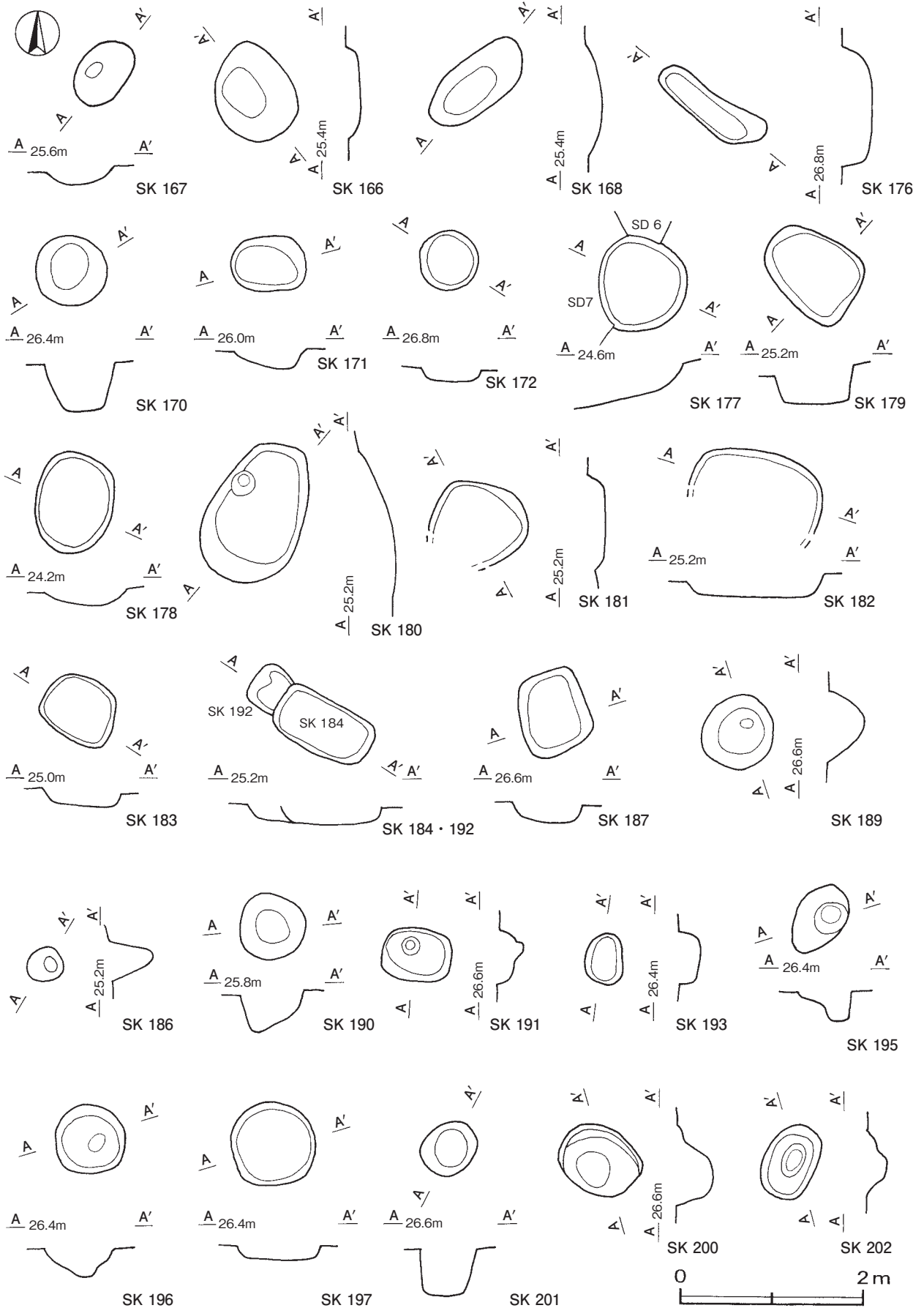
第166图 土坑实测图(1)



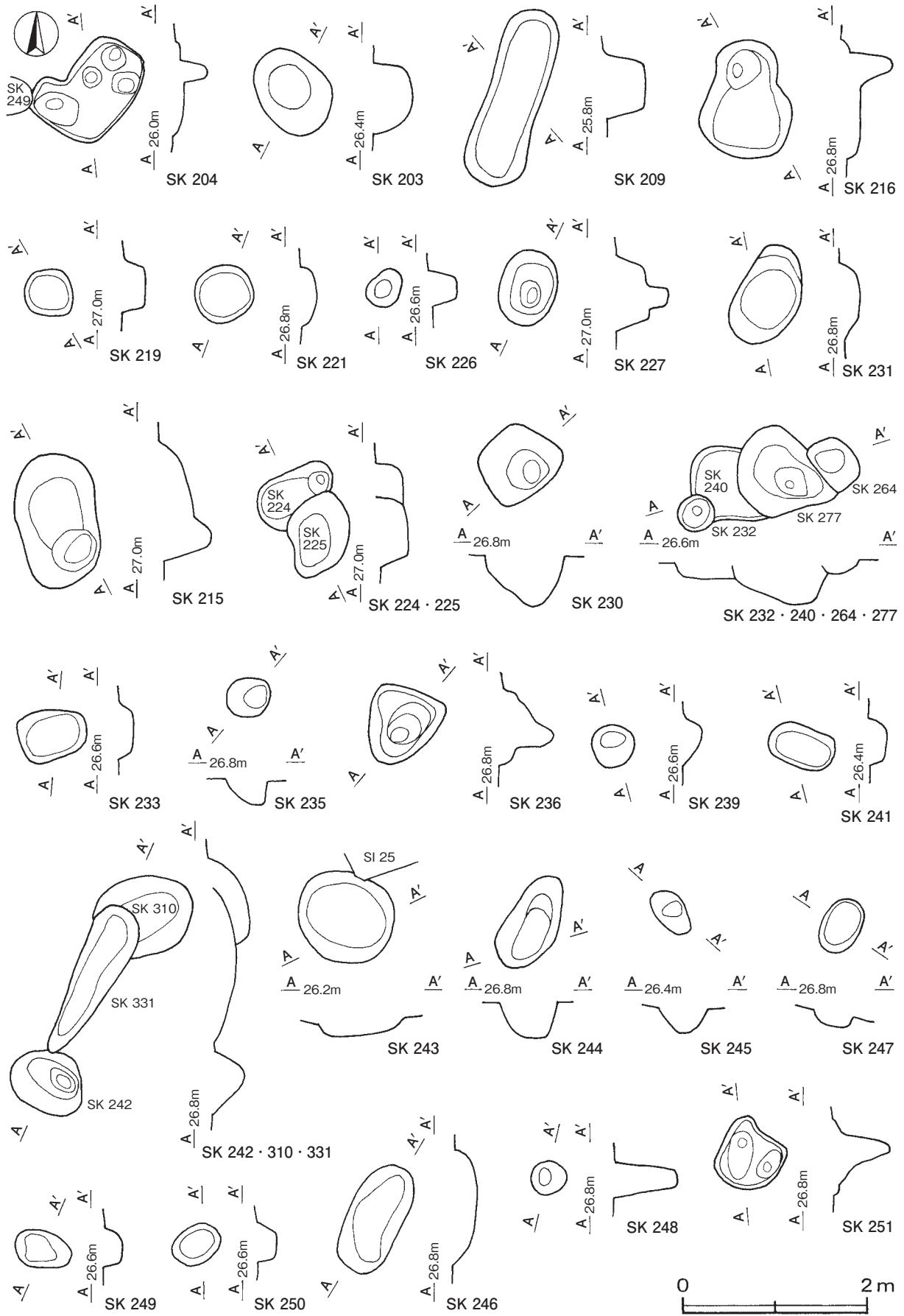
第 167 图 土坑实测图(2)



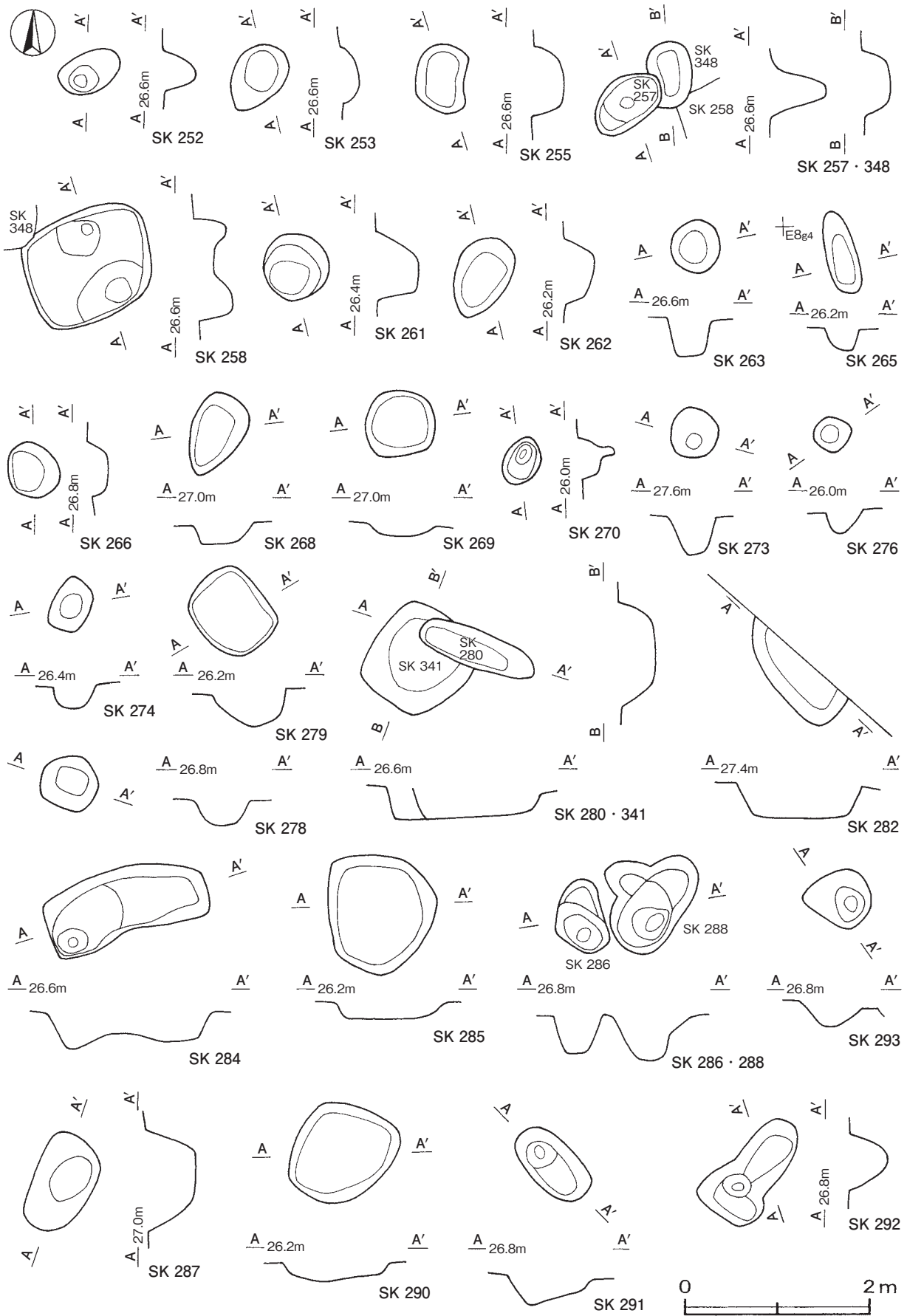
第169图 土坑实测图(4)



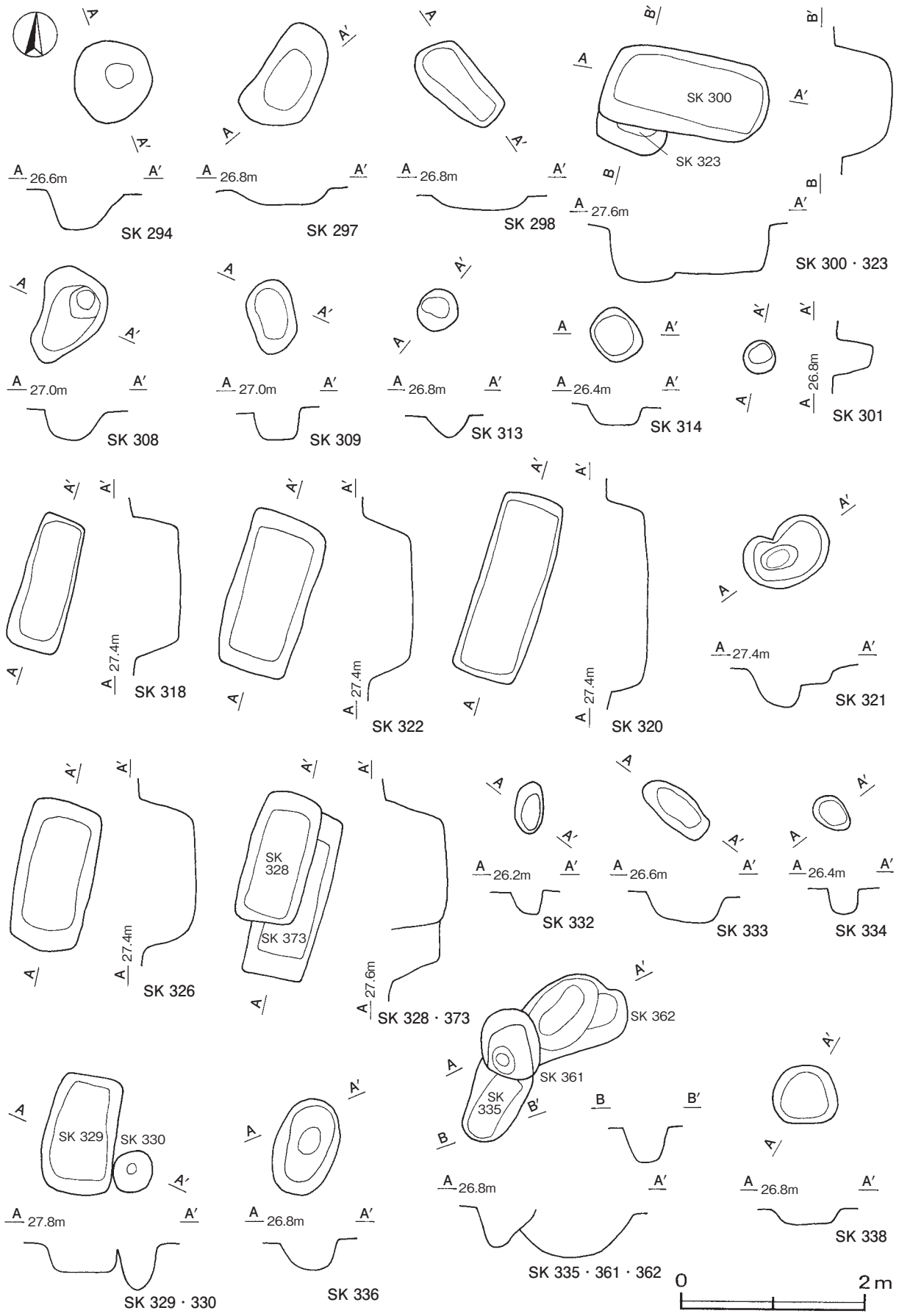
第170图 土坑实测图(5)



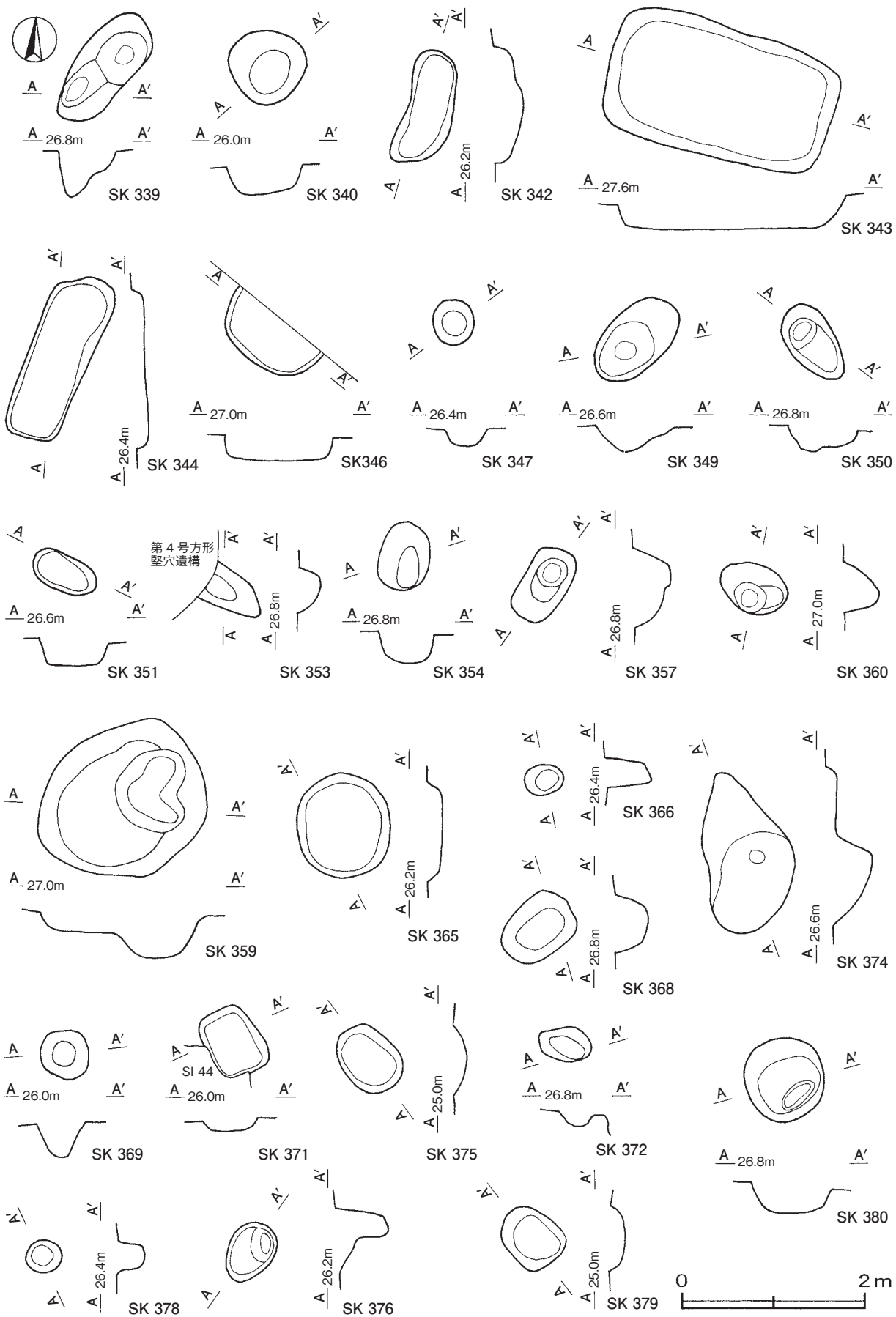
第171图 土坑实测图(6)



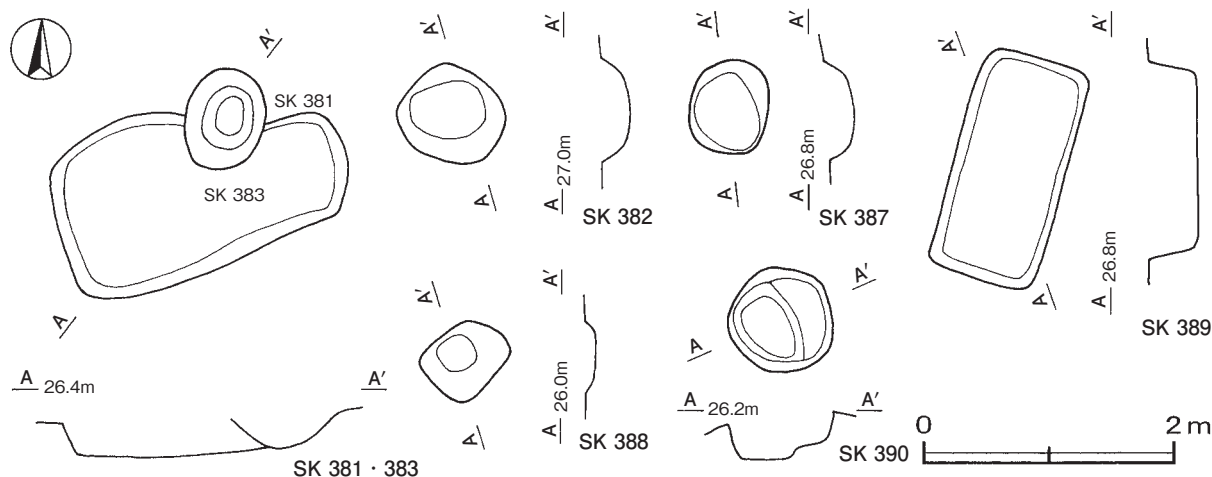
第172图 出坑实测图(7)



第173图 出坑实测图(8)



第174图 土坑实测图(9)



第175図 土坑実測図(10)

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
25	F 7 b4	N-54°-W	隅丸長方形	0.94×0.62	18	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI23 → 本跡
26	E 7 a8	N-88°-W	隅丸長方形	2.10×0.66	12	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	第2号方形竪穴, SK36 → 本跡
29	E 7 g4	N-28°-E	長方形	1.66×0.84	36	平坦	外傾	人為	-	不明	SD12 → 本跡
30	E 7 f4	N-28°-E	隅丸長方形	2.36×1.04	24	平坦	緩斜	人為	-	不明	SD12 → 本跡
31	E 7 f5	N-26°-E	長方形	1.86×0.86	64	平坦	外傾	人為	鉄製品	不明	SD12 → 本跡
35	E 7 b7	N-29°-E	長方形	1.46×1.16	8 (14)	ピット	緩斜	人為	-	不明	SI39, SK36 → 本跡
36	E 7 a7	N-29°-W	長方形	1.78×0.90	4	平坦	緩斜	人為	-	不明	本跡 → 第2号方形竪穴, SK35
39	F 8 b7	[N-5°-W]	[方形]	(1.8) × (1.6)	12	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	
40	F 7 c9	N-20°-W	楕円形	1.60×1.40	18	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	SI41 → 本跡
42	E 7 d6	-	[円形]	(3.0) × (0.7)	66	皿状	外傾	人為	-	不明	本跡 → SD12
44	E 8 j1	-	円形	0.66×0.64	26	皿状	緩斜	人為	土師器, 須恵器	不明	SB17 → 本跡
45	E 7 b8	-	[円形]	0.74 × (0.7)	22	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI39 → 本跡 → SK47
47	E 7 b8	N-59°-W	隅丸長方形	0.70×0.52	48	皿状	外傾	人為	-	不明	SI39, SK45・48 → 本跡
48	E 7 b8	-	[円形]	0.60 × (0.5)	50	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器	不明	SI39 → 本跡 → SK47
49	E 7 a8	[N-64°-E]	[楕円形]	1.02 × (0.8)	30	平坦	外傾	人為	-	不明	SI39 → 本跡 → SK51
51	E 7 a8	N-7°-E	楕円形	1.32×0.94	88	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI39, SK49・53 → 本跡 → 第2号方形竪穴
53	E 7 a8	N-10°-W	長方形	0.90×0.70	20(10)	ピット	緩斜	人為	-	不明	SI39 → 本跡 → SK51
54	F 7 c9	N-38°-E	長方形	1.76×1.06	32	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	不明	SI47, SK55 → 本跡
57	F 8 e3	N-67°-W	楕円形	1.02×0.50	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	SB5 → 本跡
58	F 8 d3	-	円形	1.08×1.02	20	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 鉄製品	不明	SB5 → 本跡
59	E 7 h0	N-34°-E	楕円形	0.38×0.26	24	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI36 → 本跡
64	E 8 j1	N-20°-W	隅丸方形	0.70×0.66	24	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI53, SB17 → 本跡
68	E 7 h8	N-32°-E	楕円形	0.82×0.66	18(26)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	
69	E 7 j9	N-13°-W	不定形	1.22×1.16	22	二段	緩斜	自然	土師器	不明	
70	F 8 j5	N-55°-E	楕円形	1.02×0.84	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
71	F 7 a9	-	円形	0.90×0.86	38	平坦	外傾	人為	-	不明	
73	F 8 g5	-	円形	0.88×0.88	28	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
74	F 8 d4	N-10°-W	不定形	0.94×0.86	30	平坦	外傾	人為	土師器	不明	SI55 → 本跡
75	F 8 f5	-	円形	1.10×1.10	16	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	

遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
76	F 8 g6	N-38°-W	楕円形	0.72×0.62	28	皿状	緩斜	人為	-	不明	
77	F 8 e6	N-2°-W	隅丸長方形	0.74×0.56	16	皿状	緩斜	人為	-	不明	
79	F 8 d8	N-28°-E	楕円形	0.82×0.72	40	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI4 →本跡
80	F 8 c8	-	円形	1.22×1.12	34	平坦	外傾	人為	土師器, 須 恵器	不明	SI4・9 →本跡
81	F 8 c6	N-70°-E	楕円形	1.68×1.20	28	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI49 →本跡
84	F 7 e9	-	円形	0.74×0.72	33	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
85	F 8 b6	N-0°	隅丸方形	0.62×0.60	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	
87	F 8 c6	N-35°-W	楕円形	1.10×0.80	22	平坦	緩斜	人為	-	不明	SI49 →本跡
89	F 8 b6	N-17°-W	楕円形	0.78×0.54	18	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
90	F 8 b7	N-0°	隅丸方形	0.76×0.74	16	皿状	緩斜	自然	須恵器	不明	SI33 →本跡
91	F 7 e9	-	円形	0.68×0.66	22	皿状	緩斜	人為	-	不明	
92	F 8 b6	-	円形	0.98×0.96	22(6)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	
93	F 7 c0	-	円形	0.92×0.90	36	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
96	F 8 d2	N-72°-E	楕円形	0.88×0.64	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	本跡→SI28, SB5
98	F 8 d1	-	円形	0.46×0.42	28	皿状	緩斜	人為	-	不明	
99	F 8 d1	N-12°-W	楕円形	0.54×0.42	18	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
100	F 7 d9	-	円形	0.84×0.78	14(12)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	SI47・57 →本跡
101	F 7 b9	-	円形	0.84×0.76	46	皿状	外傾	自然	土師器, 須 恵器	不明	SI34・52 →本跡
102	F 8 d1	N-9°-W	楕円形	0.92×0.68	64	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI43 →本跡
103	F 8 e1	N-83°-E	隅丸長方形	0.76×0.68	26	二段	緩斜	自然	土師器	不明	SI43 →本跡
105	F 8 b5	N-38°-W	楕円形	1.22×0.82	8(12)	ピット	緩斜	人為	-	不明	
106	F 7 f0	-	円形	0.96×0.90	40	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI40, SB14, SK107 →本跡
107	F 7 f0	-	円形	1.36×1.26	40(30)	ピット	外傾	人為	土師器, 須 恵器	不明	SI40, SB14 →本跡 →SK106
108	F 7 f9	-	円形	0.92×0.84	28	皿状	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	SI40 →本跡
109	F 7 f9	-	円形	0.72×0.70	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
110	F 7 e0	-	円形	0.64×0.60	18	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI40 →本跡
111	F 7 e0	-	円形	0.68×0.68	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	
112	F 7 b9	-	円形	0.72×0.68	22	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SI34 →本跡
114	F 8 c1	N-46°-E	楕円形	0.64×0.56	16	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI58 →本跡
115	F 8 b3	N-51°-E	不整楕円形	1.30×0.98	58	二段	外傾	人為	土師器, 須 恵器	不明	
116	F 7 d0	-	[円形]	0.86×(0.7)	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK117
118	F 8 c2	-	円形	0.46×0.42	24	皿状	緩斜	人為	-	不明	
119	E 8 j3	N-32°-W	楕円形	0.84×0.66	44	皿状	外傾	人為	-	不明	本跡→SD3
121	F 8 d2	N-77°-E	楕円形	0.76×0.60	18(16)	ピット	緩斜	自然	土師器	不明	
122	E 8 j3	N-47°-W	楕円形	0.94×0.82	14	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
123	F 8 b2	N-85°-E	楕円形	0.60×0.50	16	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
124	E 8 j4	-	円形	0.58×0.54	18	皿状	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	
125	F 8 b6	N-18°-E	楕円形	0.86×0.70	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	
127	E 8 i3	N-79°-E	楕円形	1.12×0.76	18(16)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	
128	E 8 i3	N-77°-W	楕円形	0.86×0.76	12(6)	ピット	緩斜	自然	-	不明	
129	E 8 j3	N-9°-E	楕円形	0.84×0.76	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	
130	E 8 i2	N-41°-E	楕円形	0.72×0.62	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
131	F 8 e3	-	円形	0.72×0.68	28	皿状	緩斜	人為	-	不明	
133	F 8 a6	-	円形	0.84×0.80	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	
135	F 8 f3	N-26°-E	楕円形	1.24×1.02	16	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	SI16 →本跡
136	F 8 d3	N-79°-E	長方形	0.72×0.58	28	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI28 →本跡

遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
137	F 8 e3	N-77°-W	楕円形	0.50×0.38	14	皿状	緩斜	自然	須恵器	不明	
138	E 8 j5	N-38°-W	楕円形	1.44×1.00	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	
144	F 8 a5	N-52°-E	楕円形	0.68×0.56	16	皿状	緩斜	人為	-	不明	
145	F 7 f0	-	円形	0.94×0.88	34	皿状	外傾	人為	土師器, 須 恵器	不明	SI8, SB14 →本跡
146	F 7 d0	N-55°-E	楕円形	0.90×0.62	20	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI31 →本跡
147	F 7 d0	[N-47°-W]	[楕円形]	0.96×(0.8)	14	皿状	緩斜	自然	-	不明	本跡→SD1
148	F 7 d0	[N-61°-W]	[楕円形]	1.30×(1.0)	38	平坦	外傾	人為	土師器	不明	本跡→SD1
149	F 8 b3	-	円形	0.46×0.40	14	皿状	緩斜	人為	-	不明	
152	E 8 j4	N-84°-W	隅丸長方形	0.58×0.36	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI3, SB11 →本跡
154	E 8 i4	N-10°-W	楕円形	0.90×0.64	46	皿状	外傾	人為	-	不明	SI3, SB11 →本跡
155	E 8 i3	N-75°-W	隅丸長方形	0.48×0.40	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
156	E 8 i4	-	円形	0.40×0.38	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
157	F 8 i3	-	円形	0.36×0.32	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
158	E 8 h3	N-6°-W	楕円形	0.44×0.38	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
159	E 8 j2	N-38°-E	楕円形	0.72×0.58	10(8)	ピット	緩斜	自然	-	不明	
160	F 8 b1	-	円形	0.92×0.84	26(18)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	SI25 →本跡
161	F 8 a3	N-68°-E	楕円形	0.78×0.62	24	皿状	緩斜	自然	土師器, 須 恵器	不明	SI20 →本跡
163	F 7 b0	[N-65°-W]	[楕円形]	(0.8)×0.80	32	皿状	外傾	人為	-	不明	SI25・58 →本跡 → SK162
165	F 7 g9	-	円形	1.04×0.90	26	平坦	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	SB15 →本跡
166	F 7 f8	N-36°-W	楕円形	1.06×0.86	22	平坦	緩斜	自然	土師器, 須 恵器	不明	SI12 →本跡
167	F 7 e8	N-45°-E	楕円形	0.78×0.56	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
168	F 7 e8	N-48°-E	楕円形	1.22×0.58	16	平坦	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	SI12 →本跡
170	F 7 b0	-	円形	0.80×0.78	52	皿状	外傾	人為	-	不明	SI34 →本跡
171	F 7 b7	N-84°-W	楕円形	0.84×0.60	22	皿状	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	
172	E 8 f2	-	円形	0.66×0.66	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	
176	E 8 g1	N-57°-W	不整長方形	1.32×0.36	42	平坦	外傾	自然	-	不明	SI50 →本跡
177	F 7 e6	-	円形	1.06×0.98	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	本跡→SD6・7
178	F 7 e6	N-8°-W	楕円形	1.12×0.84	18	平坦	緩斜	自然	-	不明	本跡→SD7
179	F 7 c4	N-52°-W	隅丸長方形	1.14×0.82	38	平坦	外傾	人為	-	不明	HG1 →本跡
180	F 7 c5	N-21°-E	楕円形	1.60×1.06	20(26)	ピット	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	HG1 →本跡
181	F 7 b5	-	[円形]	1.00×(0.8)	18	平坦	緩斜	人為	-	不明	HG1 →本跡
182	F 7 c4	[N-68°-W]	[隅丸方形]	1.48×(0.7)	24	平坦	緩斜	人為	-	不明	HG1 →本跡
183	F 7 b3	N-59°-W	隅丸長方形	0.84×0.70	20	皿状	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	HG1 →本跡
184	F 7 a3	N-59°-W	長方形	1.08×0.60	20	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	SK192, HG1 →本跡
186	F 7 c5	-	円形	0.42×0.38	48	皿状	外傾	人為	-	不明	HG1 →本跡
187	E 7 j0	N-12°-W	隅丸長方形	1.00×0.40	24	平坦	緩斜	自然	土師器	不明	SB13・17 →本跡
189	E 7 j9	-	円形	0.82×0.76	44	皿状	外傾	自然	-	不明	
190	F 7 a5	-	円形	0.74×0.74	42	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
191	E 8 g2	N-80°-W	隅丸長方形	0.78×0.58	22(8)	ピット	緩斜	人為	-	不明	
192	F 7 a3	-	[円形]	0.50×(0.4)	16	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	HG1 →本跡→SK184
193	F 7 a7	N-10°-E	楕円形	0.58×0.42	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
195	F 7 a8	N-32°-E	楕円形	0.82×0.54	30	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
196	F 8 a1	-	円形	0.80×0.80	34	皿状	外傾	人為	-	不明	
197	F 7 b0	-	円形	0.98×0.96	8	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
200	E 8 h1	N-56°-W	楕円形	0.90×0.72	40	二段	外傾	人為	-	不明	
201	E 7 j0	N-26°-E	楕円形	0.64×0.54	50	皿状	外傾	人為	-	不明	

遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
202	E 8 i1	N-29°-E	楕円形	0.86×0.56	10(14)	ビット	緩斜	自然	-	不明	
203	F 7 a0	N-44°-W	楕円形	1.00×0.76	40	平坦	外傾	人為	-	不明	
204	E 8 h1	N-28°-E	不定形	1.18×0.94	10(28)	凹凸	外傾	人為	-	不明	本跡→SK249
209	E 7 i7	N-17°-E	隅丸長方形	1.98×0.60	44	平坦	外傾	人為	土師器, 須 恵器	不明	
215	E 8 e1	N-11°-W	楕円形	1.42×0.90	40(18)	ビット	外傾	自然	-	不明	
216	E 8 f1	N-16°-W	不定形	1.28×1.02	22(34)	ビット	緩斜	人為	-	不明	
219	E 7 f0	-	円形	0.58×0.54	26	平坦	緩斜	人為	-	不明	
221	E 7 g0	-	円形	0.68×0.66	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	
224	E 7 g9	[N-60°-E]	[楕円形]	0.92×(0.4)	30(10)	ビット	外傾	人為	-	不明	本跡→SK225
225	E 7 g9	N-17°-E	楕円形	0.96×0.68	34	皿状	外傾	人為	-	不明	SK224 →本跡
226	E 8 g1	N-26°-E	楕円形	0.46×0.34	32	皿状	外傾	自然	-	不明	
227	E 7 g0	N-24°-E	楕円形	0.92×0.60	36(22)	ビット	外傾	人為	土師器	不明	SI50 →本跡
230	E 7 h8	N-44°-E	隅丸方形	0.80×0.76	60	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
231	E 7 h8	N-20°-E	楕円形	1.20×0.68	28	平坦	緩斜	人為	-	不明	
232	E 7 j7	N-30°-E	楕円形	0.44×0.36	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK240 →本跡
233	E 8 g2	N-74°-E	隅丸長方形	0.74×0.58	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
235	E 8 f1	-	円形	0.46×0.42	30	皿状	外傾	人為	-	不明	SI50 →本跡
236	E 7 h9	N-39°-E	不定形	0.86×0.72	24(40)	ビット	緩斜	自然	-	不明	
239	E 8 g2	-	円形	0.48×0.46	22	皿状	緩斜	人為	-	不明	
240	E 7 j8	[N-37°-W]	[楕円形]	(1.0)×(0.8)	20	平坦	緩斜	人為	-	不明	本跡→SK237・277
241	E 8 h2	N-67°-W	隅丸長方形	0.72×0.44	20	皿状	緩斜	人為	-	不明	
242	E 7 h9	N-66°-W	楕円形	0.84×0.70	20(18)	ビット	緩斜	自然	-	不明	本跡→SK331
243	F 7 b0	-	円形	1.10×1.00	18	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SI58 →本跡→SI25
244	E 7 h8	N-26°-E	楕円形	0.98×0.58	40	二段	緩斜	自然	-	不明	
245	E 8 g2	N-40°-W	楕円形	0.56×0.32	32	皿状	外傾	自然	-	不明	
246	E 8 f1	N-29°-E	隅丸長方形	1.08×0.60	26	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	
247	E 8 e2	N-23°-E	楕円形	0.60×0.42	14	皿状	緩斜	自然	-	不明	
248	E 8 h1	-	円形	0.40×0.38	66	皿状	外傾	自然	-	不明	SI50 →本跡
249	E 8 h1	N-65°-W	楕円形	0.62×0.42	24	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK204 →本跡
250	E 8 g1	N-57°-E	楕円形	0.54×0.40	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
251	E 8 g1	N-5°-E	不定形	0.80×0.74	66	凹凸	外傾	人為	-	不明	
252	E 8 g1	N-61°-E	楕円形	0.68×0.42	34	皿状	外傾	自然	土師器, 須 恵器	不明	
253	E 8 h2	N-30°-E	楕円形	0.90×0.56	32	皿状	外傾	人為	-	不明	
255	E 7 j8	N-45°-W	楕円形	1.56×0.90	34	平坦	外傾	人為	-	不明	
257	E 7 j8	N-47°-E	楕円形	0.84×0.52	62	二段	外傾	人為	土製品	不明	SK348 →本跡
258	E 7 j8	N-68°-E	隅丸長方形	1.38×1.16	36	凹凸	外傾	自然	土師器, 須 恵器	不明	本跡→SK348
261	F 7 b9	-	円形	0.74×0.70	46	皿状	外傾	人為	-	不明	SI34 →本跡
262	E 8 h1	N-24°-E	楕円形	0.90×0.56	32	皿状	外傾	人為	-	不明	
263	E 7 j8	N-8°-W	楕円形	1.16×1.04	42	平坦	外傾	人為	-	不明	
264	E 7 j8	N-56°-E	隅丸長方形	0.64×0.58	16	皿状	緩斜	自然	-	不明	SK277 →本跡
265	E 8 g4	N-16°-W	楕円形	0.94×0.34	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
266	E 8 f1	N-14°-W	楕円形	0.62×0.54	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	
268	E 7 g9	N-23°-E	楕円形	0.90×0.58	22	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	
269	E 7 g0	-	円形	0.78×0.76	12	皿状	緩斜	自然	-	不明	
270	F 7 c8	N-22°-E	楕円形	0.54×0.38	22(16)	ビット	緩斜	人為	-	不明	SI41 →本跡
273	E 7 d8	-	円形	0.54×0.50	42	皿状	外傾	人為	土師器	不明	
274	E 7 j9	N-22°-E	楕円形	0.60×0.42	26	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SB13 →本跡

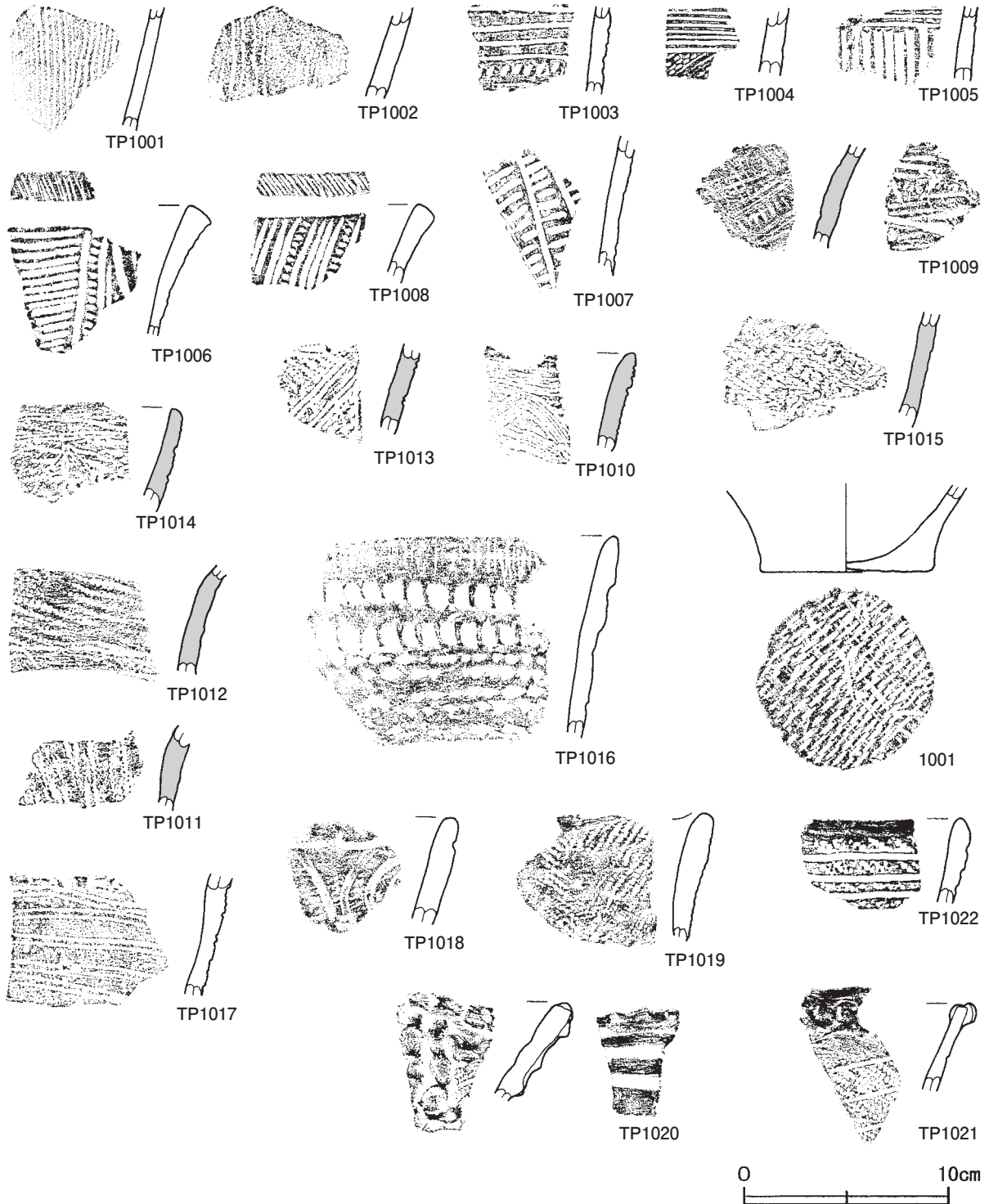
遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
276	F 7 a6	-	円形	0.42×0.34	26	皿状	緩斜	人為	土師器	不明	SI44 →本跡
277	E 7 j8	[N-24°-W]	[楕円形]	1.08×(0.8)	26(24)	ピット	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	SK240 →本跡→SK264
278	E 7 i0	N-72°-W	楕円形	0.64×0.56	28	皿状	緩斜	自然	-	不明	
279	F 7 a7	N-39°-W	隅丸方形	0.84×0.78	40	皿状	外傾	人為	-	不明	
280	E 7 j9	N-71°-W	楕円形	1.32×0.40	34	平坦	外傾	自然	-	不明	SK341 →本跡
282	E 8 c1	-	[円形]	1.34×(0.5)	38	平坦	外傾	人為	-	不明	
284	E 7 j0	N-72°-E	不整形	1.16×0.70	26(16)	ピット	緩斜	自然	-	不明	
285	F 8 c6	-	円形	1.32×1.24	20	平坦	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	SI49, SB6 →本跡
286	E 7 i9	N-9°-W	楕円形	0.84×0.54	40	二段	外傾	人為	-	不明	
287	E 7 e0	N-26°-E	楕円形	1.06×0.64	32	平坦	外傾	人為	土師器	不明	
288	E 7 i9	N-36°-E	不定形	1.16×0.96	20(30)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	
290	F 8 c5	-	円形	1.10×1.02	22	平坦	緩斜	人為	土師器	不明	SI49 →本跡
291	E 7 i9	N-44°-W	楕円形	0.96×0.52	26(6)	ピット	緩斜	自然	須恵器	不明	
292	E 7 i9	N-37°-E	不定形	1.26×0.70	38(18)	ピット	外傾	人為	土師器	不明	
293	E 7 h9	N-76°-W	楕円形	0.72×0.62	30	皿状	外傾	自然	-	不明	
294	E 7 j0	-	円形	0.90×0.84	40	皿状	外傾	人為	土師器, 須 恵器	不明	SB13・17 →本跡
297	E 7 h6	N-25°-E	楕円形	1.18×0.66	16	平坦	緩斜	人為	土師器, 須 恵器	不明	
298	E 7 i9	N-47°-W	隅丸長方形	1.12×0.52	22	平坦	緩斜	自然	-	不明	
300	E 7 c8	N-80°-W	隅丸長方形	1.80×0.88	54	平坦	外傾	人為	-	不明	SK323 →本跡
301	E 8 g1	N-20°-W	楕円形	0.38×0.34	38	皿状	外傾	自然	-	不明	SI50 →本跡
308	E 7 f0	N-24°-E	不定形	1.06×0.68	34(18)	ピット	外傾	人為	-	不明	
309	E 7 f0	N-10°-W	楕円形	0.80×0.52	34	皿状	外傾	人為	-	不明	
310	E 7 g0	[N-50°-E]	[楕円形]	(1.1)×0.88	46	平坦	外傾	人為	-	不明	SI50 →本跡→SK331
313	E 8 f1	-	円形	0.46×0.42	22	皿状	緩斜	人為	-	不明	
314	E 8 g3	N-35°-W	隅丸長方形	0.58×0.50	22	皿状	緩斜	人為	-	不明	
318	E 7 d9	N-15°-E	長方形	1.48×0.60	50	平坦	外傾	人為	-	不明	
320	E 7 e8	N-15°-E	長方形	2.08×0.76	44	平坦	外傾	人為	-	不明	
321	E 7 d8	N-52°-E	不定形	0.96×0.64	18(26)	ピット	緩斜	人為	-	不明	
322	E 7 d8	N-16°-E	長方形	1.78×0.88	52	平坦	外傾	人為	土師器	不明	
323	E 7 c8	N-10°-E	隅丸長方形	1.10×0.82	60	平坦	外傾	人為	-	不明	本跡→SK300
326	E 7 d8	N-12°-E	長方形	1.66×0.86	60	平坦	外傾	人為	-	不明	
328	E 7 d7	N-15°-E	長方形	1.44×0.70	68	平坦	外傾	人為	-	不明	SK373 →本跡
329	E 7 c7	N-10°-E	長方形	1.30×0.80	32	平坦	外傾	人為	-	不明	
330	E 7 c7	-	円形	0.46×0.46	52	皿状	外傾	人為	-	不明	
331	E 7 h9	N-28°-E	楕円形	1.34×0.42	30	平坦	外傾	人為	-	不明	SI50, SK242・310 →本跡
332	E 8 g2	N-5°-E	楕円形	0.56×0.34	26	皿状	緩斜	自然	-	不明	
333	E 8 g2	N-54°-W	隅丸長方形	0.84×0.38	32	皿状	外傾	自然	土師器	不明	
334	E 8 g2	N-52°-W	楕円形	0.46×0.34	36	皿状	外傾	人為	-	不明	
335	E 7 h0	[N-21°-E]	[楕円形]	(0.8)×0.60	40	皿状	外傾	人為	-	不明	本跡→SK361
336	E 7 h9	N-14°-E	楕円形	1.06×0.68	44	平坦	外傾	自然	-	不明	
338	E 8 f2	-	円形	0.70×0.64	18	皿状	緩斜	自然	-	不明	
339	E 7 h9	N-39°-E	楕円形	1.38×0.60	48	凹凸	外傾	自然	-	不明	
340	F 7 e0	-	円形	0.84×0.82	32	皿状	外傾	自然	土師器	不明	SI31 →本跡
341	E 7 j9	N-31°-E	隅丸方形	1.12×0.86	38	平坦	外傾	自然	-	不明	本跡→SK280
342	E 8 h3	N-14°-E	楕円形	1.22×0.50	36	平坦	外傾	人為	-	不明	SB8・9 →本跡
343	E 7 c9	N-73°-W	長方形	3.00×1.40	30	平坦	外傾	人為	-	不明	

遺構 番号	位 置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備 考 重複関係 (古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
344	E 8 f3	N-23°-E	隅丸長方形	1.88×0.70	16	平坦	緩斜	自然	土師器, 須 恵器	不明	SB10→本跡
346	E 8 d2	[N-40°-W]	[隅丸方形]	1.16×[0.6]	28	平坦	緩斜	人為	-	不明	第3号方形竪穴→本跡
347	F 7 a9	-	円形	0.48×0.46	20	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	
348	E 7 j8	[N-12°-W]	[楕円形]	0.72×(0.5)	30	皿状	外傾	人為	-	不明	SK258→本跡→ SK257
349	E 7 i8	N-45°-E	楕円形	2.16×1.28	30	二段	外傾	人為	-	不明	
350	E 8 g2	N-44°-W	楕円形	0.94×0.52	20(6)	ピット	緩斜	人為	土師器	不明	
351	E 8 g2	N-63°-W	楕円形	0.76×0.38	32	皿状	外傾	自然	-	不明	
353	E 8 g1	[N-31°-E]	[楕円形]	(0.7)×0.42	22	皿状	緩斜	人為	-	不明	SI50→本跡→第4 号方形竪穴
354	E 8 f1	N-6°-E	楕円形	0.76×0.54	34	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI50→本跡
357	E 7 h9	N-30°-E	隅丸長方形	0.88×0.50	34(10)	ピット	外傾	人為	-	不明	
359	E 7 g9	N-61°-E	楕円形	1.92×1.60	52	二段	外傾	人為	須恵器	不明	
360	E 7 g8	N-63°-E	楕円形	0.78×0.56	40	二段	外傾	自然	-	不明	
361	E 7 h0	N-63°-W	楕円形	0.82×0.62	26(16)	ピット	緩斜	自然	-	不明	SK335・362→本跡
362	E 7 h0	[N-64°-E]	[不定形]	(1.1)×0.82	52	二段	外傾	自然	-	不明	本跡→SK361
365	F 8 b4	-	円形	1.14×1.04	18	平坦	緩斜	自然	-	不明	SI48→本跡
366	E 8 g2	N-60°-E	楕円形	0.42×0.32	50	皿状	外傾	人為	-	不明	
368	E 7 i8	N-44°-E	隅丸長方形	0.84×0.64	38	皿状	外傾	自然	-	不明	
369	F 7 a5	-	円形	0.58×0.54	42	皿状	外傾	人為	土師器	不明	SI44→本跡
371	F 7 a6	N-25°-W	長方形	0.76×0.60	14	皿状	緩斜	自然	土師器	不明	SI46→本跡→SI44, SB3
372	E 7 i8	N-72°-W	楕円形	0.56×0.36	22	皿状	緩斜	自然	土師器, 須 恵器	不明	
373	E 7 d7	N-15°-E	長方形	1.84×0.74	54	平坦	外傾	人為	-	不明	本跡→SK328
374	E 7 j9	N-10°-W	不定形	1.76×0.96	48	二段	外傾	人為	土師器	不明	
375	F 7 c6	N-42°-W	楕円形	0.82×0.60	16	皿状	緩斜	人為	-	不明	
376	F 7 a7	N-34°-E	楕円形	0.70×0.50	24(32)	ピット	緩斜	人為	-	不明	
378	E 7 j7	-	円形	0.38×0.36	30	皿状	外傾	人為	-	不明	
379	F 7 c5	N-42°-W	隅丸長方形	0.74×0.58	18	皿状	緩斜	人為	-	不明	HG1→本跡
380	E 8 e2	-	円形	0.90×0.86	30(18)	ピット	緩斜	人為	須恵器	不明	
381	F 7 a0	N-12°-E	楕円形	0.82×0.62	22	皿状	緩斜	自然	-	不明	SB13, SK383→本跡
382	E 7 h7	-	円形	0.84×0.80	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
383	F 7 a0	N-70°-E	隅丸長方形	2.34×1.36	30	平坦	外傾	人為	-	不明	SB13→本跡→SK381
387	E 7 h8	N-8°-E	楕円形	0.76×0.64	26	皿状	緩斜	人為	-	不明	
388	F 7 a6	N-42°-E	楕円形	0.66×0.56	10	皿状	緩斜	自然	-	不明	SI44・46→本跡
389	E 7 i0	N-15°-E	長方形	1.84×1.40	40	平坦	外傾	人為	-	不明	SI51→本跡
390	F 8 e3	-	円形	0.84×0.80	34	二段	外傾	人為	-	不明	SI16→本跡

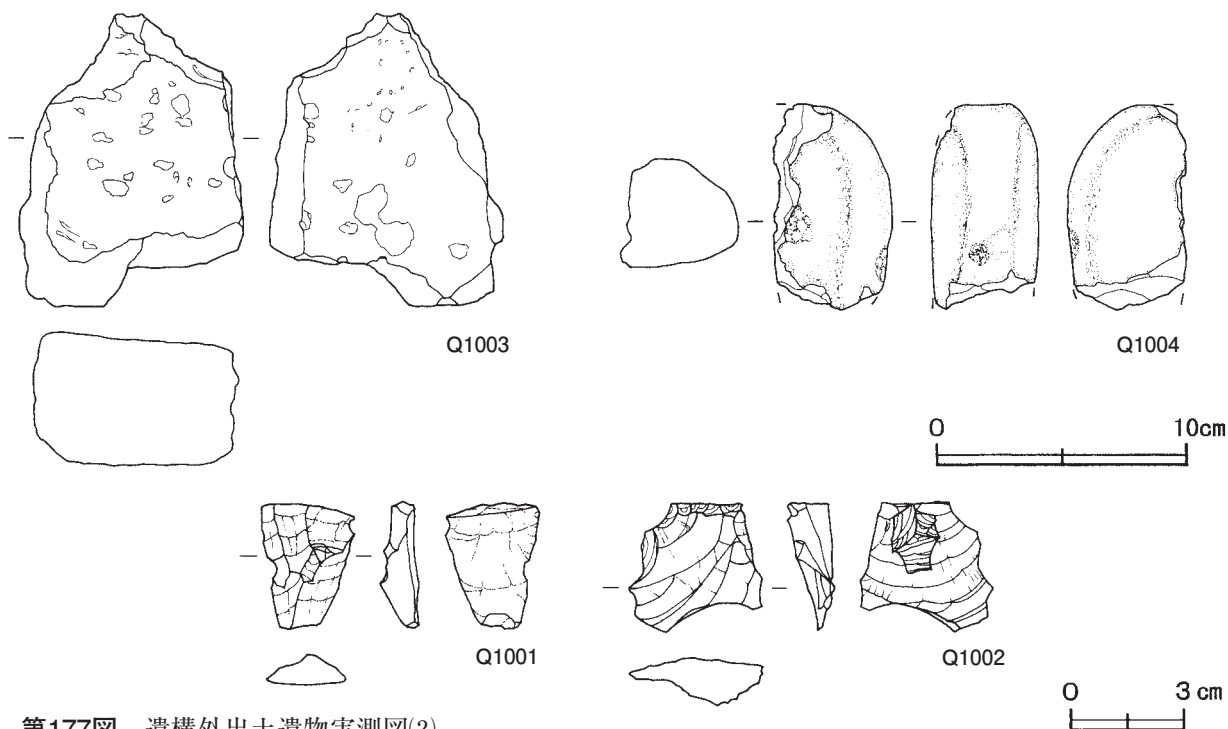
第4節 II区の遺構と遺物

1 縄文時代の遺物

II区では当時代の遺構は確認できなかったが、調査区全域から遺物が出土している。特に、標高28m以上の北部平坦地と標高27m以下の南東部包含層周辺からの出土が多い。以下、縄文時代の遺構外出土遺物について記述する。



第176図 遺構外出土遺物実測図(1)



第177図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第176・177図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1001	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	8.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面に網代圧痕	SI120 覆土中	後期中葉

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1001	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	撚糸文	SI137 覆土中	早期前葉
TP1002	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	撚糸文	SI112 覆土中	早期前葉
TP1003	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	横位の沈線文と刺突文	SI154 覆土中	早期中葉
TP1004	縄文土器	深鉢	長石・雲母	灰黄	普通	横位の沈線文と刺突文	SI141 覆土中	早期中葉
TP1005	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	普通	縦位の太沈線文	SI144 覆土中	早期中葉
TP1006	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部にキザミ 横位の沈線文と三角刺突文	HG5 覆土中	早期中葉
TP1007	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線文	表土	早期中葉
TP1008	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部にキザミ 斜位の沈線文と三角刺突文	HG5 覆土中	早期中葉
TP1009	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	普通	条痕文	SI151 覆土中	早期後葉
TP1010	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による沈線文	SI133 覆土中	前期前葉
TP1011	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母	にぶい褐	普通	貝殻腹縁文	SI133 覆土中	前期後葉
TP1012	縄文土器	深鉢	長石	にぶい褐	普通	地文単節縄文 R L 沈線文	SI127 覆土中	前期前葉
TP1013	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄	普通	地文複節縄文 R L 半截竹管による斜位の沈線文	SI116 覆土中	前期前葉
TP1014	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地文単節縄文 R L 半截竹管による押し文	SD30 覆土中	前期前葉
TP1015	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母	明赤褐	普通	絡条体圧痕文	SI113 覆土中	前期後葉
TP1016	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口縁部にキザミ 貝殻による押し 三角刺突文	HG5 覆土中	前期後葉
TP1017	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	半截竹管による平行沈線文	HG5 覆土中	前期後葉
TP1018	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線文	SI116 覆土中	後期前葉
TP1019	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	単節縄文による縦位の羽状縄文	SI115 覆土中	後期
TP1020	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部に押し 押しをもつ隆帯縦・横2条	SI117 覆土中	後期
TP1021	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	口縁部に指頭圧痕をもつ隆帯 地文単節縄文 R L 沈線文	SI137 覆土中	後期
TP1022	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文単節縄文 R L 沈線文	SI131 覆土中	後期

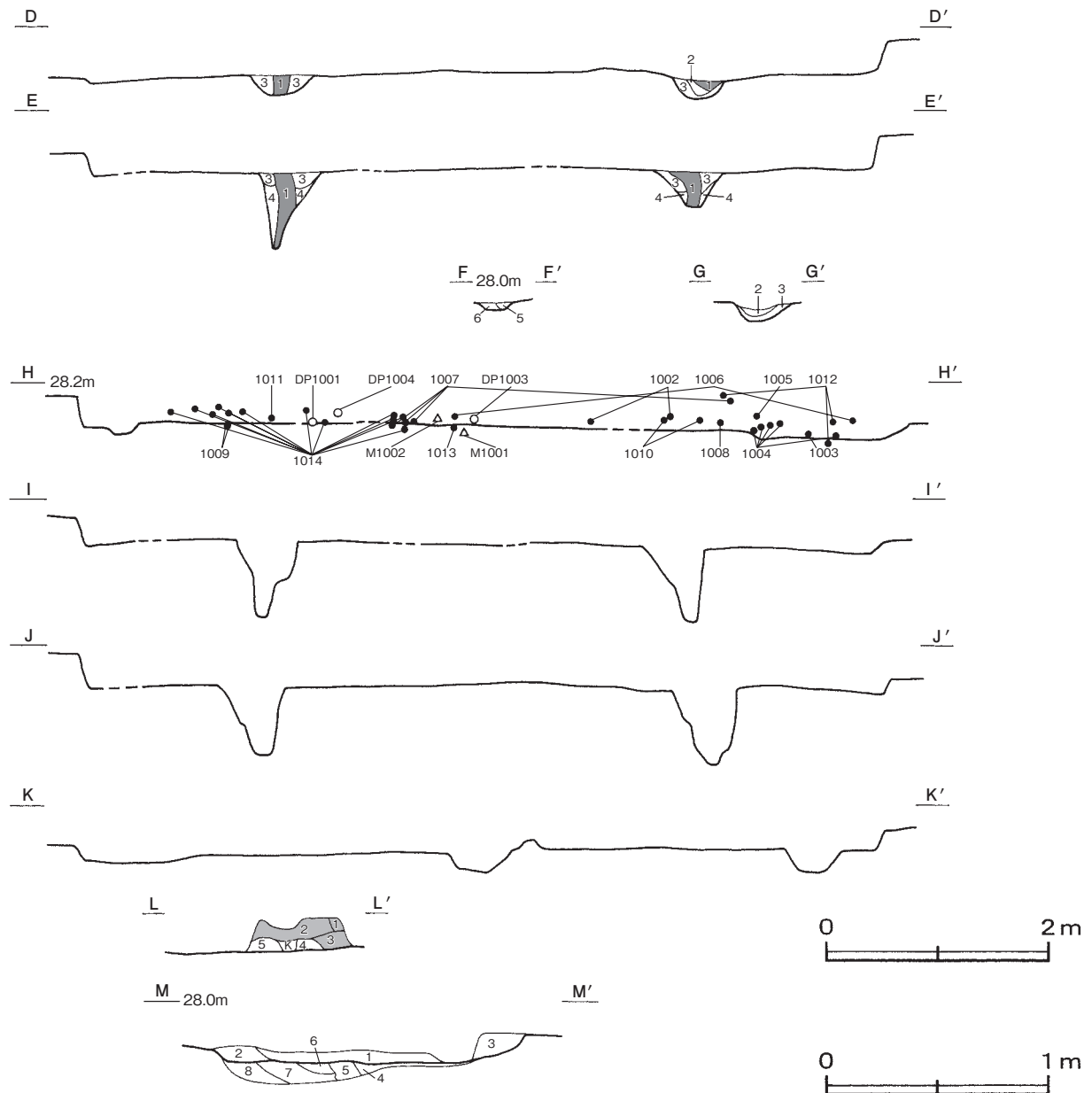
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1001	剥片	3.3	2.5	1.0	6.9	安山岩	平坦打面 上部からの剥面	SI-114 覆土中	PL119
Q 1002	剥片	3.4	3.5	1.3	9.6	黒曜石	平坦打面 上部からの剥面	SI-120 覆土中	PL119
Q 1003	石皿	(11.6)	(9.3)	5.3	(482.2)	安山岩	機能面凹む	SI-133 覆土中	
Q 1004	磨石	(8.3)	(4.7)	4.3	(238.8)	安山岩	側面部使用痕 表面に凹む	表土	凹石転用

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東コーナー部から粘土塊が確認された。これは、住居廃絶後に
 投棄されたものである。

粘土塊土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|---------------------------------------|---|-------|---------------------------------|
| 1 | にぶい橙色 | 粘土ブロック・砂粒多量, 焼土ブロック・ローム
粒子・炭化粒子微量 | 3 | 灰褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 | 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土ブロッ
ク・炭化物・砂粒少量 | 4 | にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| | | | 5 | 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒
子微量 |

竈 北壁の中央部に付設されており、左袖部は遺存していない。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで
 142cm、燃焼部幅70cmである。覆土の第1～3層は天井部の崩落土または袖部の砂質粘土で、第4～8層は掘
 方への埋土である。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から7cmほどくぼん
 でいるが、火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がって
 いる。左袖部が失われ、竈の左脇に粘土が投棄されていたことや覆土の様子から、住居廃絶時に竈を壊し、埋
 め戻したと思われる。



第179図 第111号住居跡実測図(2)

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	4	明褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
2	褐色	粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック微量	5	にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	にぶい褐色	粘土ブロック多量, ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量	6	明褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量
			7	褐色	ロームブロック少量
			8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ64～68cmで、主柱穴である。P 5は深さ8cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P 6は深さ22cmで、性格不明である。第1層は柱の抜き取り痕と考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	4	明褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ロームブロック微量	6	褐色	ロームブロック中量

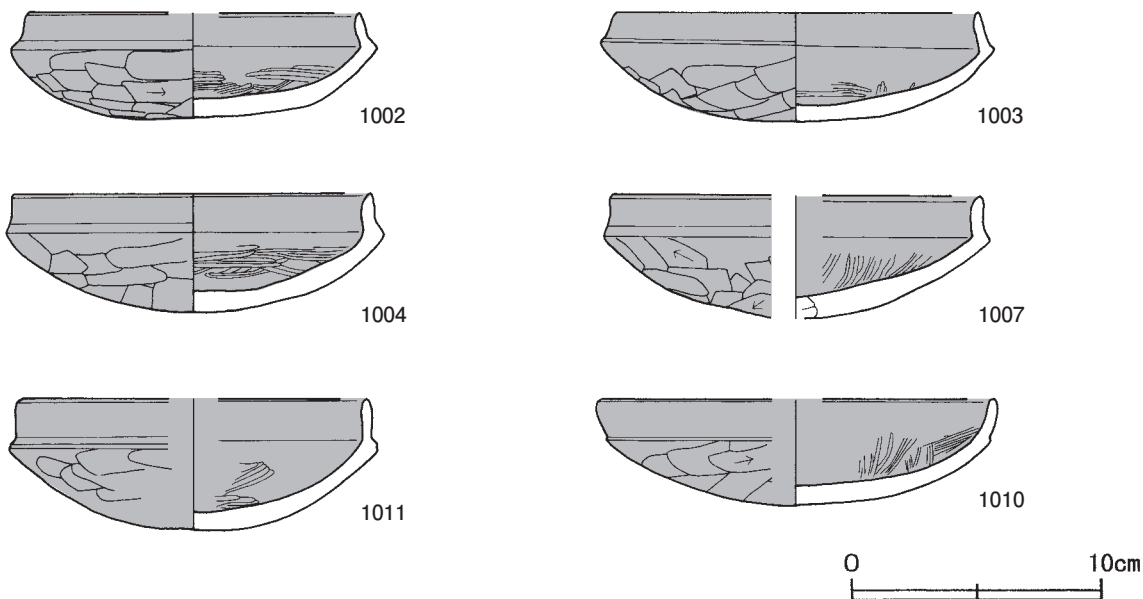
覆土 20層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

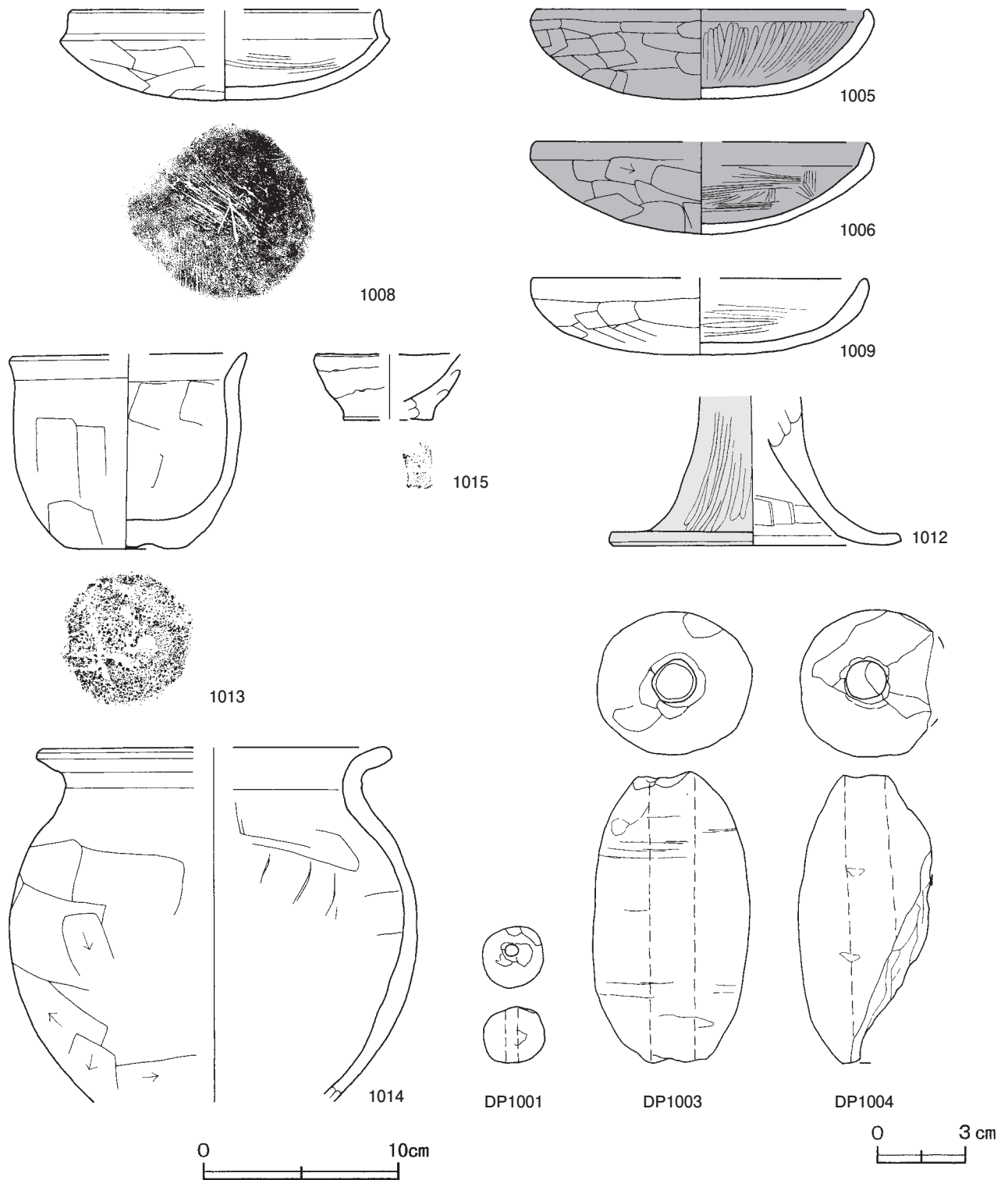
1	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12	にぶい褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量	14	にぶい褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	15	明褐色	ロームブロック少量
6	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量	16	にぶい褐色	ロームブロック少量
7	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	17	明褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
8	褐色	ロームブロック中量	18	明褐色	ロームブロック中量
9	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	19	褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量
10	にぶい褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	20	明褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片1097点（坏類170・埴1・高坏7・甕類915・甌3・手捏土器1），土製品4点（土玉1・球状土錘1・管状土錘2），金属製品2点（鉄鏃・釘）が出土している。遺物の大半は西壁を除く，覆土上層から下層にかけて出土している。1002は東壁寄りの覆土下層と中央部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。1003はP 6直上，1004は竈周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。また，DP1001・1003・1004は中央部の覆土下層からまとまって出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第180図 第111号住居跡出土遺物実測図(1)



第181図 第111号住居跡出土遺物実測図(2)

第111号住居跡出土遺物観察表 (第180・181図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1002	土師器	坏	[13.2]	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	体部手持ちヘラ削り ヘラ磨き	内面横位の	中層～下層	90% PL99
1003	土師器	坏	14.4	4.2	-	砂粒・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	体部手持ちヘラ削り ヘラ磨き	内面横位の	P 6直上	90% PL99
1004	土師器	坏	14.0	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り ヘラ磨き	内面横位の	下層	80% PL99

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1005	土師器	坏	16.8	4.5	-	長石・雲母	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層	80% PL99
1006	土師器	坏	[17.0]	4.7	-	長石・石英	にぶい橙 色	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	中層～下層	60% PL99
1007	土師器	坏	[14.6]	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	上層～下層	50%
1008	土師器	坏	[15.7]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	下層	40% 底部外面ヘラ書き
1009	土師器	坏	[17.0]	3.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	下層	50%
1010	土師器	坏	[15.6]	4.2	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	40%
1011	土師器	坏	[13.7]	5.2	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	下層	30%
1012	土師器	高坏	-	(7.6)	14.9	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	40%
1013	土師器	小形甕	[11.9]	9.9	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層	60% PL99
1014	土師器	甕	[17.6]	(18.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	上層～下層	40%
1015	土師器	手捏土器	[7.4]	3.3	[4.5]	長石・雲母	橙	普通	内・外面ナデ	上層	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1001	土玉	2.0	1.9	0.4	(6.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1002	球状土錘	2.3	2.1	0.6	(6.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1003	管状土錘	4.9	9.9	1.5	240.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL117
DP1004	管状土錘	5.0	9.8	1.3	(173.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1001	鉄鏃	(3.9)	0.7	0.3	(1.3)	鉄	茎部のみ	下層	計測のみ
M1002	鉄鏃	(3.8)	0.5	0.3	(1.9)	鉄	茎部のみ	下層	計測のみ

第112号住居跡（第182～185図）

位置 調査Ⅱ区北部のC 5 i9区、標高28.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.90m、短軸6.76mの方形で、主軸方向はN-65°-Eである。壁高は26～58cmで、ほぼ直立している。

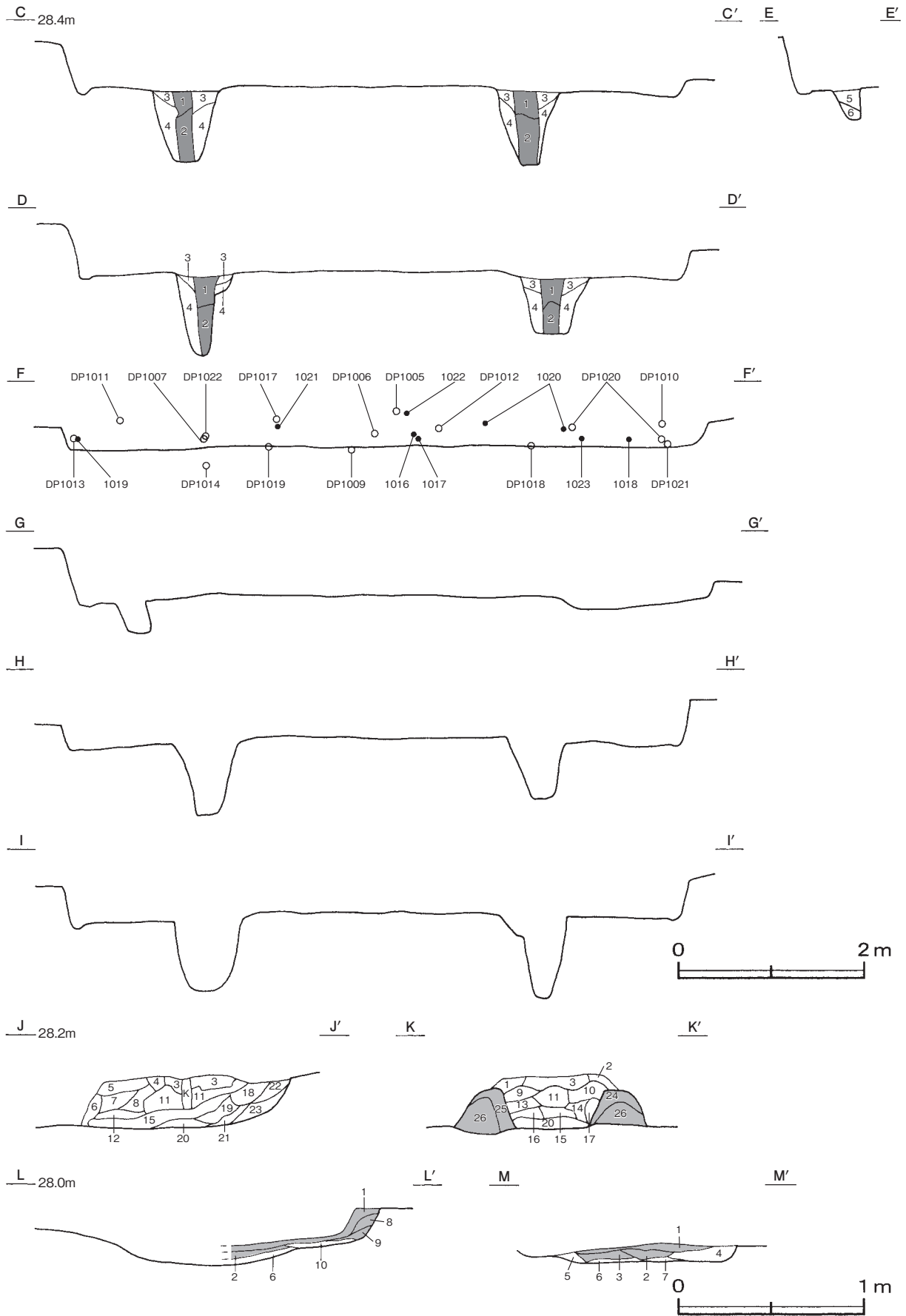
床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西壁と南西壁の一部を除き、壁下には幅10～20cm、深さ2～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 2か所。竈1は北東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで122cm、燃焼部幅60cmである。袖部は第24～26層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

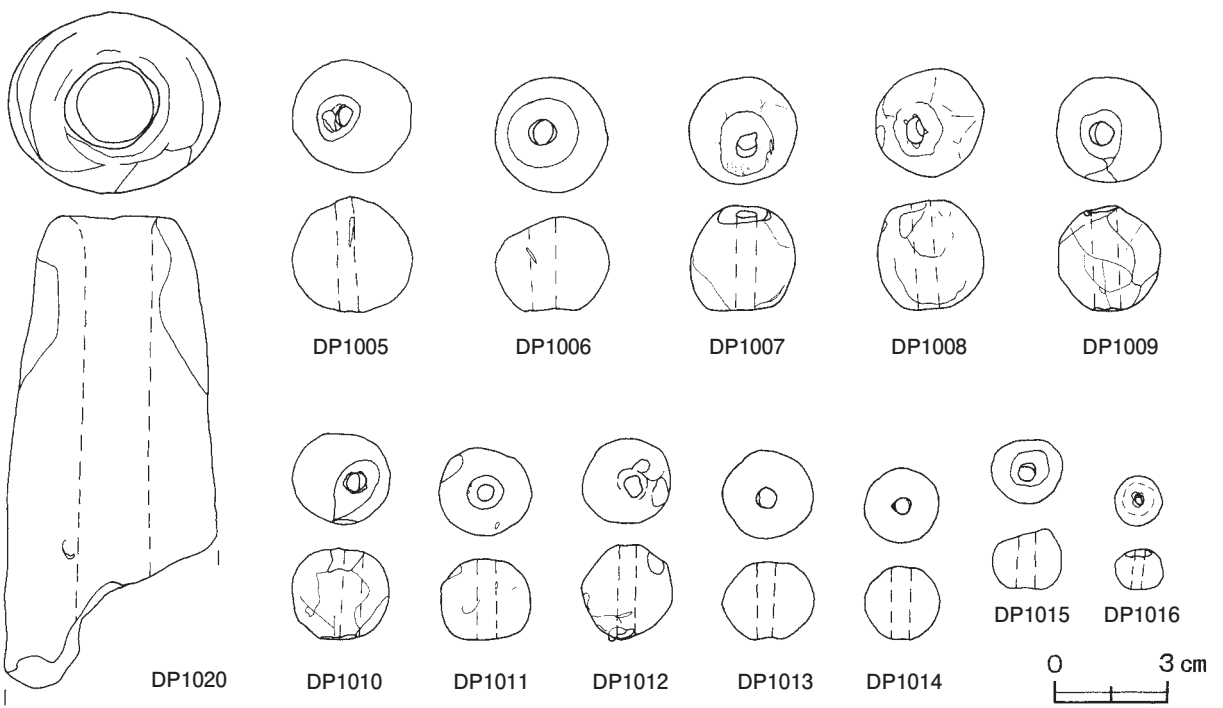
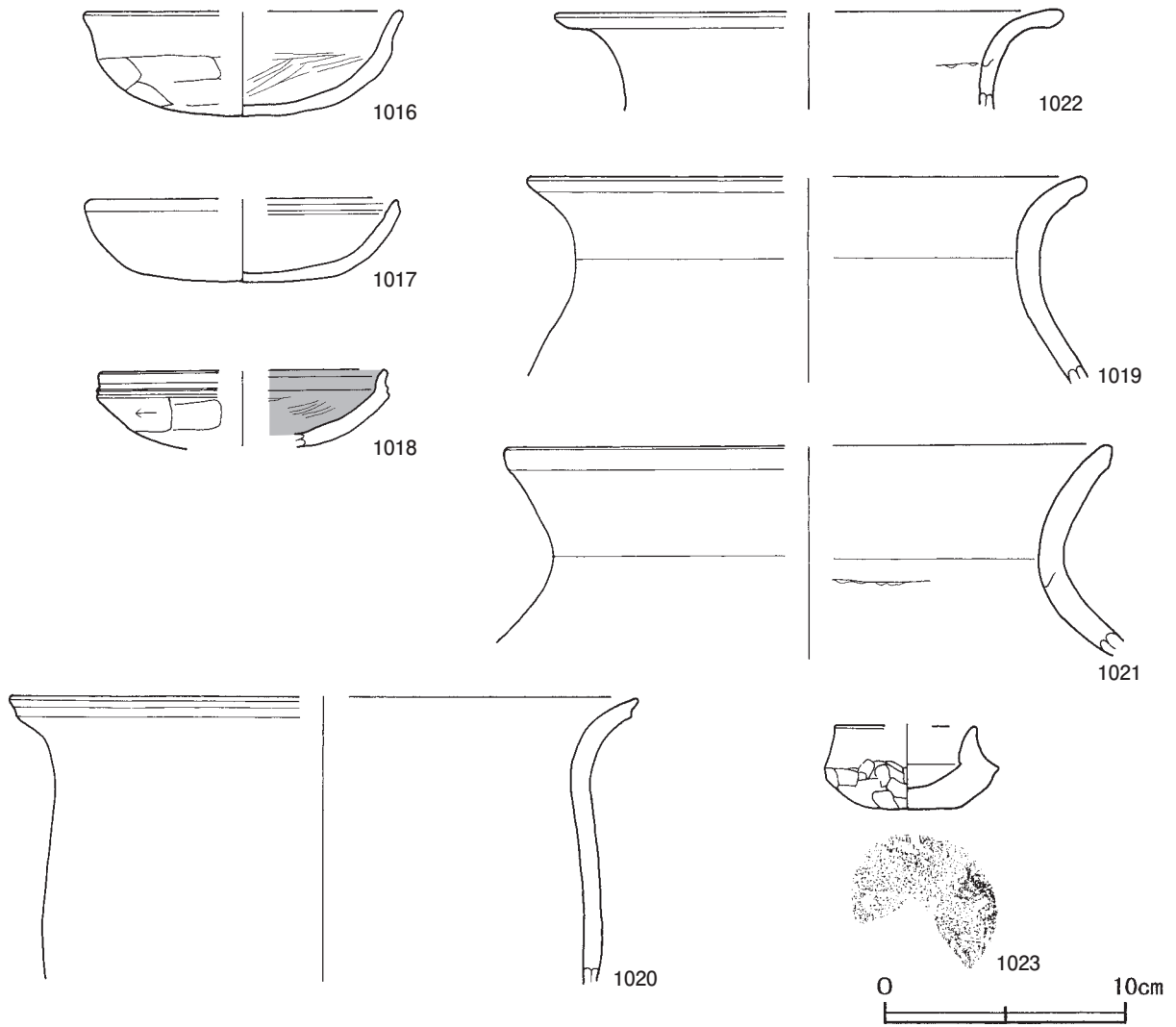
竈2は北西壁の中央部に付設されている。袖部は遺存しておらず、確認できた規模は、焚口部から煙道部まで180cm、火床部幅56cmである。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。竈1は良好に依存し、竈2は一部しか確認できないことから、竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。

竈1土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	6	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
2	にぶい橙色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量	7	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	8	黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
4	暗褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	9	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・炭化材・焼土粒子微量	10	灰褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第183图 第112号住居跡実測図(2)



第184图 第112号住居跡出土遺物実測図(1)

ピット 5か所。P1～P4は深さ62～78cmで、支柱穴である。P5は深さ34cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。第1・2層は柱の抜取り痕と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |

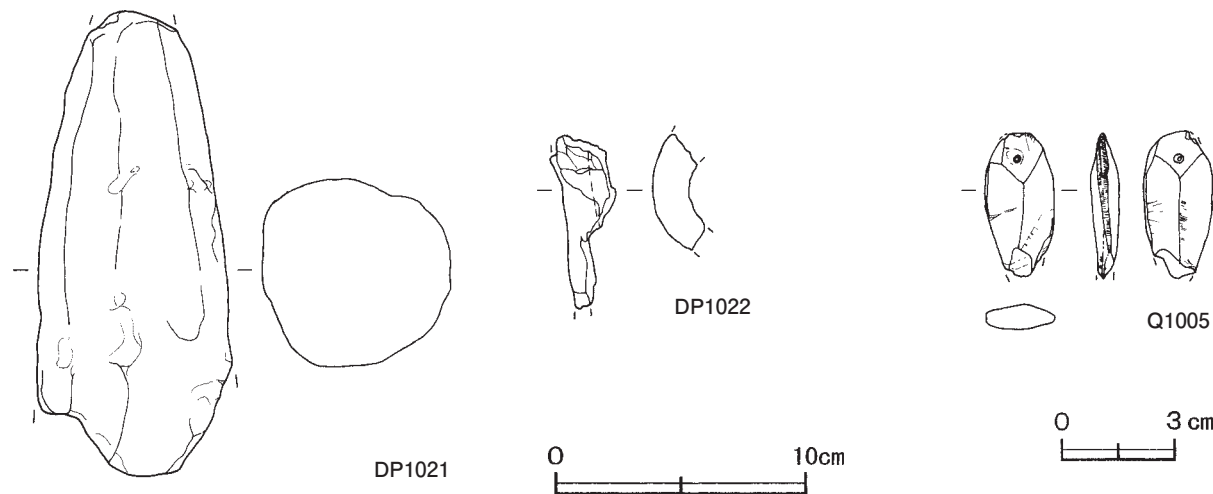
覆土 23層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 15 明褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 16 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 19 灰褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量 | 20 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量 | 21 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 22 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 23 灰褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ローム粒子微量 |
| 12 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片1465点（坏類278・高坏11・甕類1172・甑2・手捏土器2）、土製品21点（土玉15・管状土錘1・支脚1・羽口2）、石製模造品1点（剣形）が出土している。遺物の大半は南西壁寄りを除く、覆土上層から下層にかけて出土している。1023・DP1021は竈右袖部脇の覆土下層、DP1014はP2の覆土上層、DP1022は西コーナー部寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第185図 第112号住居跡出土遺物実測図(2)

第112号住居跡出土遺物観察表（第184・185図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1016	土師器	坏	[13.0]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	中層	30%
1017	土師器	坏	[12.6]	3.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	下層	10%
1018	土師器	坏	[11.7]	(3.2)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	下層	10%
1019	土師器	甕	[22.9]	(8.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面ナデ	下層	10%
1020	土師器	甕	[25.6]	(11.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	上層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1021	土師器	甕	[25.0]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面ナデ	上層	10%
1022	土師器	甕	[20.9]	(4.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面ナデ	上層	10%
1023	土師器	手捏土器	[5.5]	3.5	4.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	良好	体部外面ヘラナデ、指頭痕、内面ナデ	下層	80% PL116

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1014	土玉	1.9	1.9	0.5	6.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	P 2 上層	
DP1015	土玉	1.9	1.7	0.5	4.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1016	土玉	1.3	1.1	0.3	1.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1018	土玉	-	(2.1)	-	(6.1)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	計測のみ
DP1019	土玉	-	2.1	-	(5.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	計測のみ
DP1005	球状土錘	3.1	3.1	0.5	27.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1006	球状土錘	2.9	2.5	0.7	22.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1007	球状土錘	2.8	2.8	0.5	20.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1008	球状土錘	2.8	2.9	0.5	20.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1009	球状土錘	2.8	2.8	0.7	18.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1010	球状土錘	2.6	2.4	0.5	13.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 煤付着	上層	
DP1011	球状土錘	2.4	2.1	0.5	10.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1012	球状土錘	2.3	2.5	0.5	10.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1013	球状土錘	2.4	2.1	0.5	11.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1017	球状土錘	2.6	2.4	0.6	(6.9)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	計測のみ
DP1020	管状土錘	5.6	(12.5)	2.5	(234)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層・下層	

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1021	支脚	(18.2)	(7.9)	(3.5)	(768.0)	粘土	ナデ 明赤褐	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1022	羽口	(6.8)	(2.5)	-	(43)	粘土	ナデ 鉄滓付着 明赤褐	上層	PL118

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1005	銅形模造品	(3.8)	1.8	0.7	(6.4)	滑石	孔径0.2 一部欠損 全面研磨	覆土中	PL119

第113号住居跡（第186・187図）

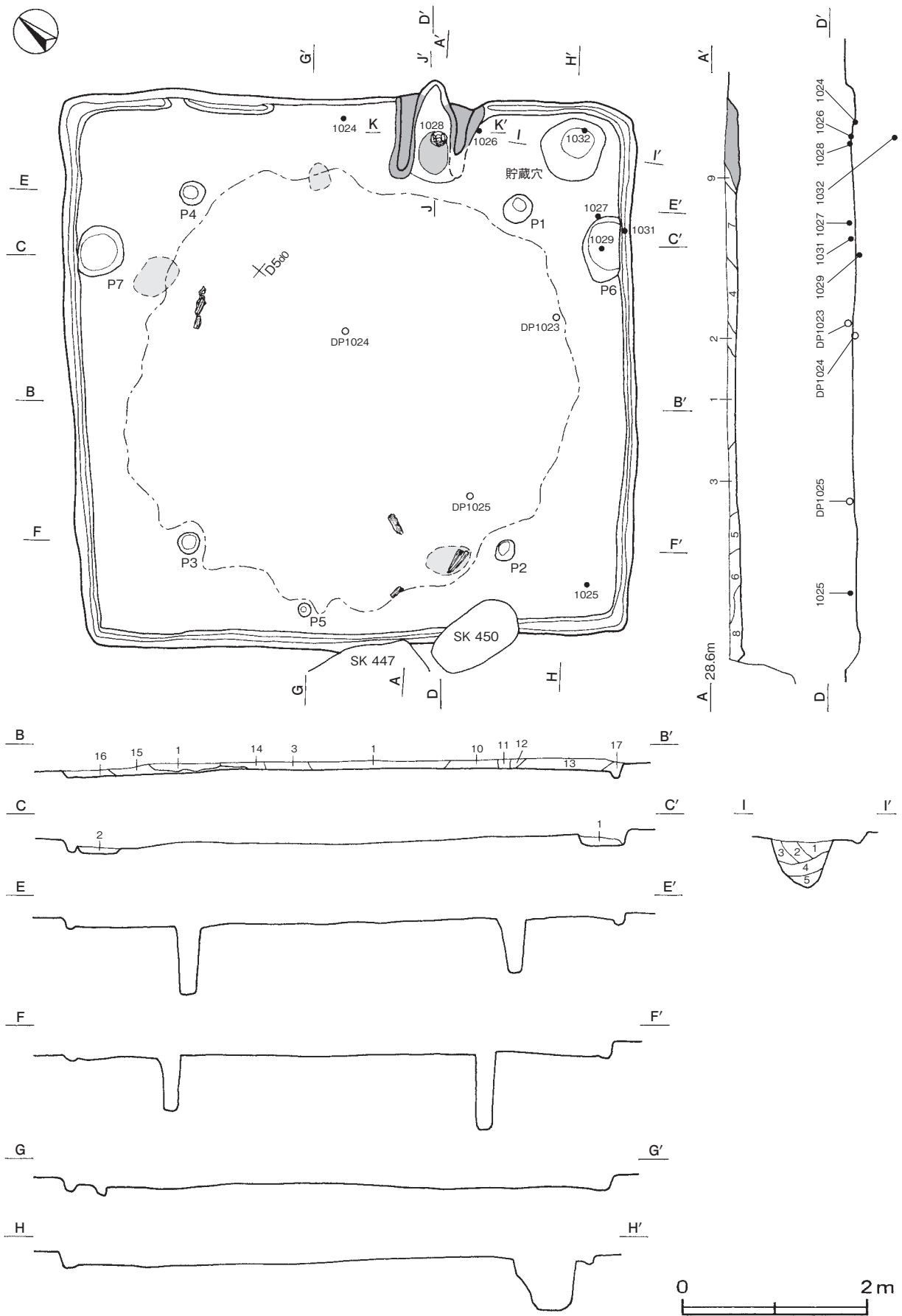
位置 調査Ⅱ区北部のD 5 d9区、標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第447・450号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.06m、短軸5.96mの方形で、主軸方向はN-53°-Eである。壁高は5～16cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には幅11～25cm、深さ3～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。北コーナー部と南コーナー部寄りから焼土塊と炭化材が、確認されている。これらは、住居廃絶後に投棄されたものである。

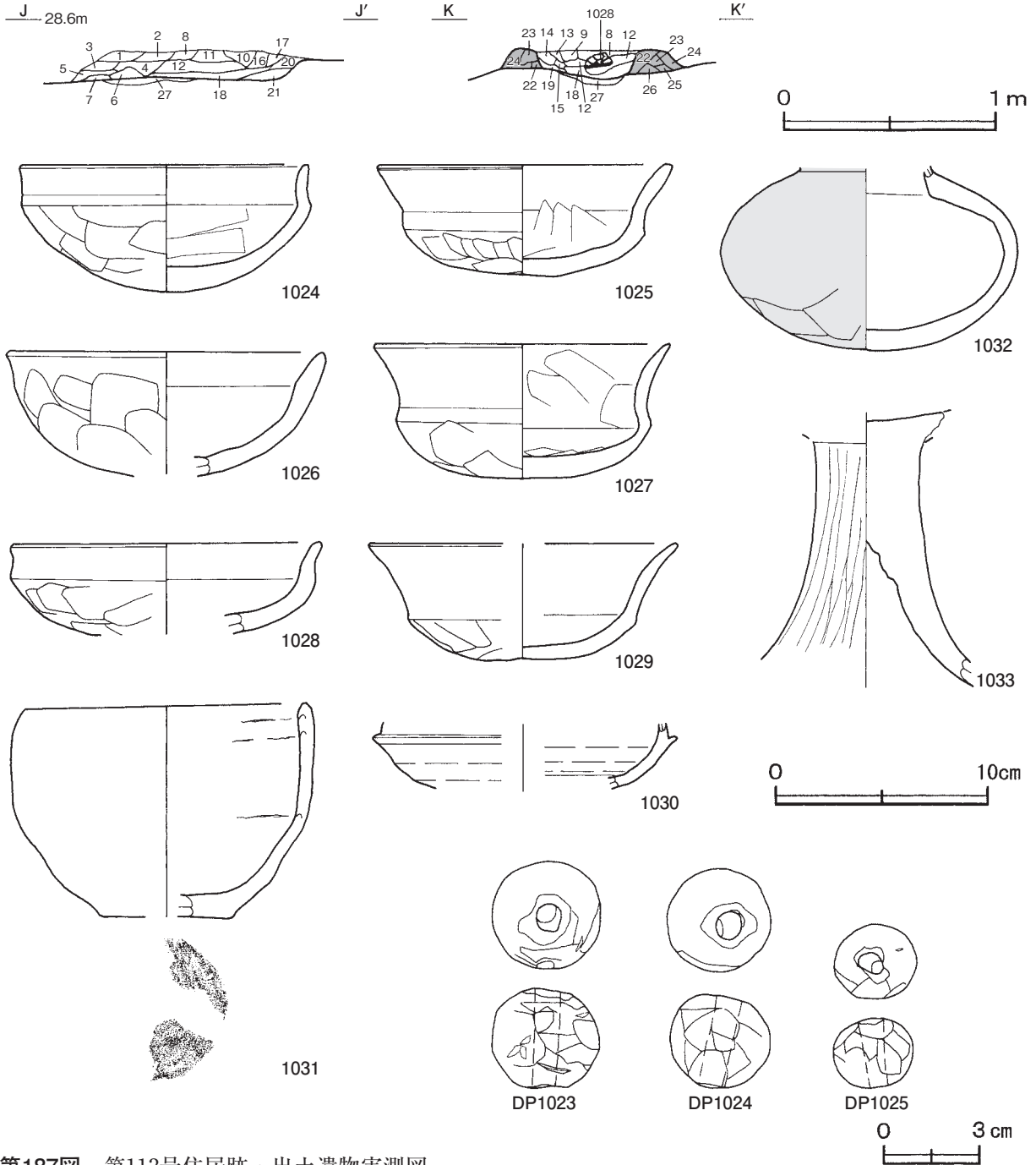
竈 北東壁の東コーナー部寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで111cm、燃焼部幅39cmである。袖部は第22～26層の砂質粘土やロームを混ぜた土で構築されている。第27層は掘方の埋土である。火床部は床面から5cmほど高く、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。



第186图 第113号住居跡実測図

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量
2	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量	15	極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	16	褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	17	にぶい褐色	ロームブロック少量
5	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	18	褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量	19	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
7	赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量	20	にぶい褐色	ロームブロック微量
8	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	21	褐色	ロームブロック中量
9	褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量	22	褐灰色	粘土粒子中量, 焼土ブロック微量
10	褐灰色	焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量	23	明褐灰色	粘土粒子多量
11	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	24	灰褐色	粘土粒子中量, ローム粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	25	にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
13	褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量	26	にぶい褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
			27	赤褐色	焼土ブロック多量, ローム粒子微量



第187図 第113号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第129号住居跡を掘り込み、第117・130号住居、第50号溝、第542号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.93m、短軸8.58mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は40～66cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、コーナー部を除き、全面が踏み固められている。壁下には幅25～56cm、深さ4～18cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。中央部と北東コーナー部寄りから焼土塊と炭化材が確認されている。これらは、住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊A・B土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|--------------|
| 1 明赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 明赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子微量 | | |

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで180cm、燃焼部幅54cmである。覆土の第2～4・8・18層は天井部の崩落土で、袖部は第31～36層の砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 20 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、砂粒微量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 21 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒少量、粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 | 22 灰褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 23 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 6 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・砂粒微量 | 24 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 25 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 8 暗褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 | 26 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 | 27 明赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量 | 28 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・砂粒微量 |
| 11 褐色 | ロームブロック少量 | 29 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 12 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土粒子少量 | 30 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック微量 |
| 13 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 31 褐灰色 | 粘土ブロック・砂粒多量、焼土粒子微量 |
| 14 にぶい黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 32 明褐灰色 | 粘土ブロック・砂粒中量、焼土粒子微量 |
| 15 灰褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量 | 33 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 16 にぶい褐色 | ローム粒子・砂粒少量、粘土粒子微量 | 34 明褐灰色 | 粘土ブロック・砂粒多量、焼土粒子中量 |
| 17 にぶい褐色 | ロームブロック少量、砂粒微量 | 35 灰白色 | 粘土ブロック・砂粒多量 |
| 18 極暗赤褐色 | 粘土ブロック中量、砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 36 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子・砂粒微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ44～94cmで、主柱穴である。P5は深さ38cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱の抜き取り痕と考えられる。

ピット土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|------|-----------|
| 1 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | | |

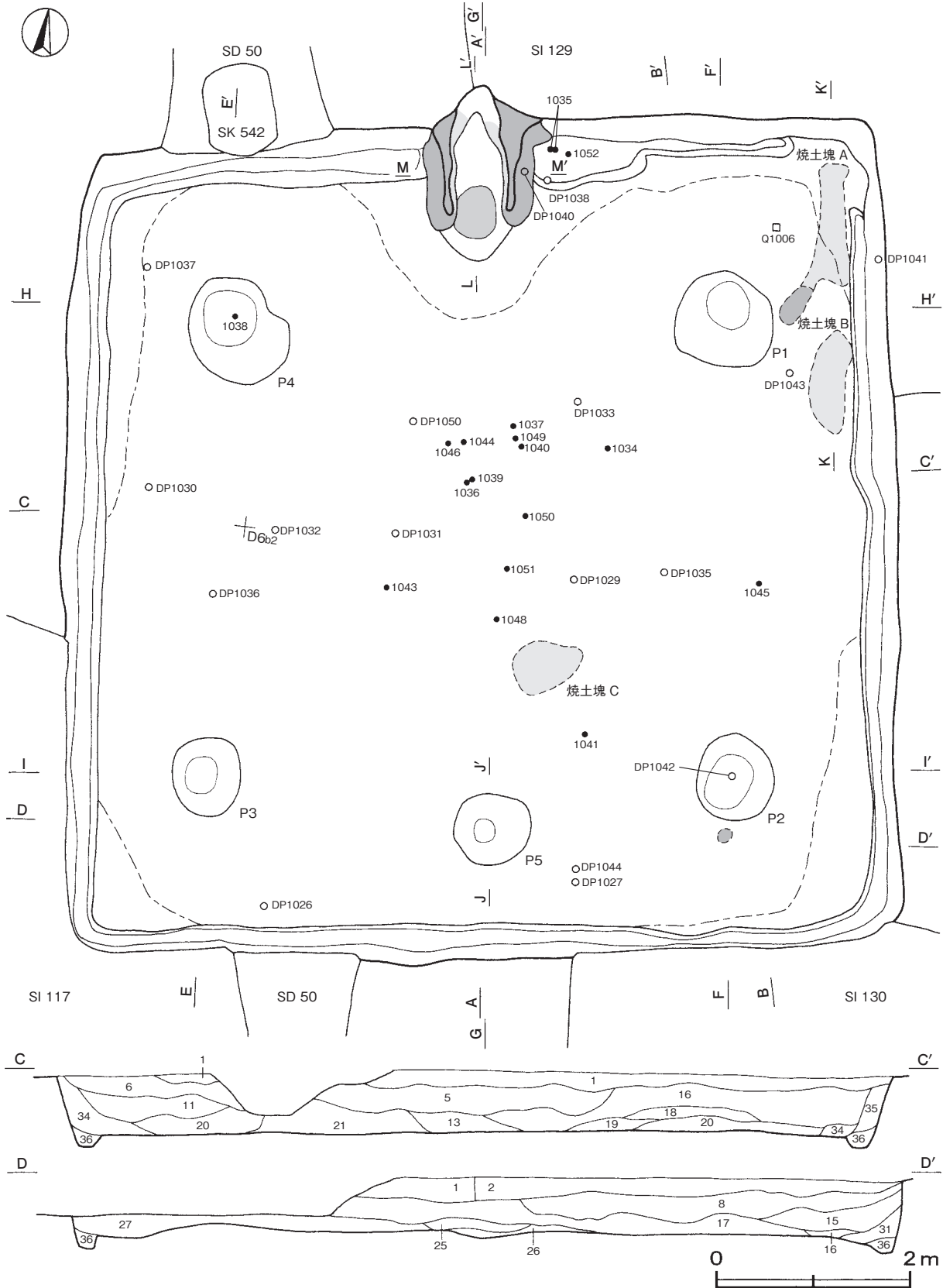
覆土 36層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

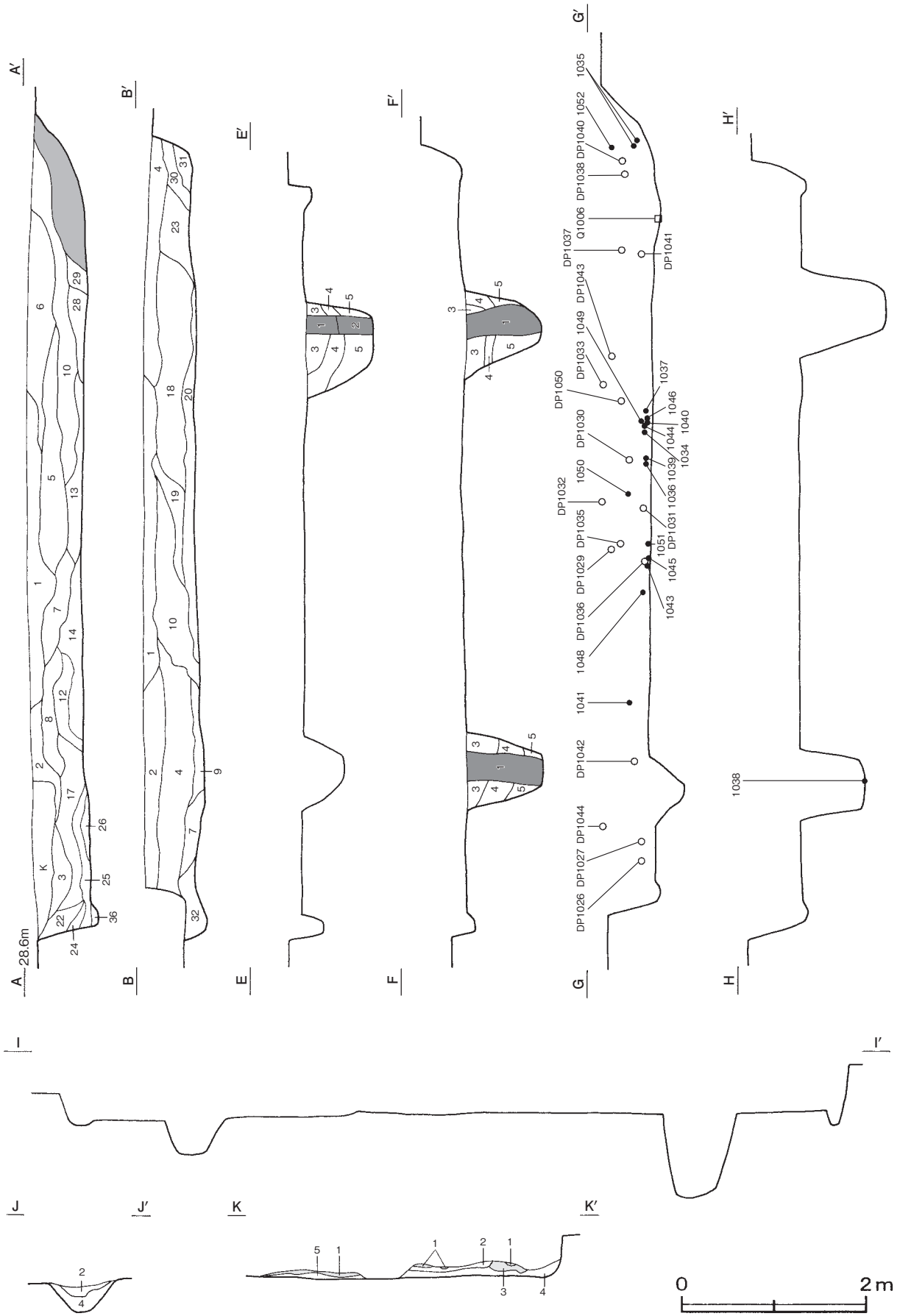
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|---------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック中量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック多量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 20 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 21 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 22 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 23 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 11 灰褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 24 灰褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 12 褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 | 25 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 13 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

- 26 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 27 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 28 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 29 暗 褐 色 ローム粒子・砂粒少量
- 30 灰 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 31 灰 褐 色 ロームブロック少量

- 32 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 33 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 34 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 35 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 36 褐 色 ロームブロック少量



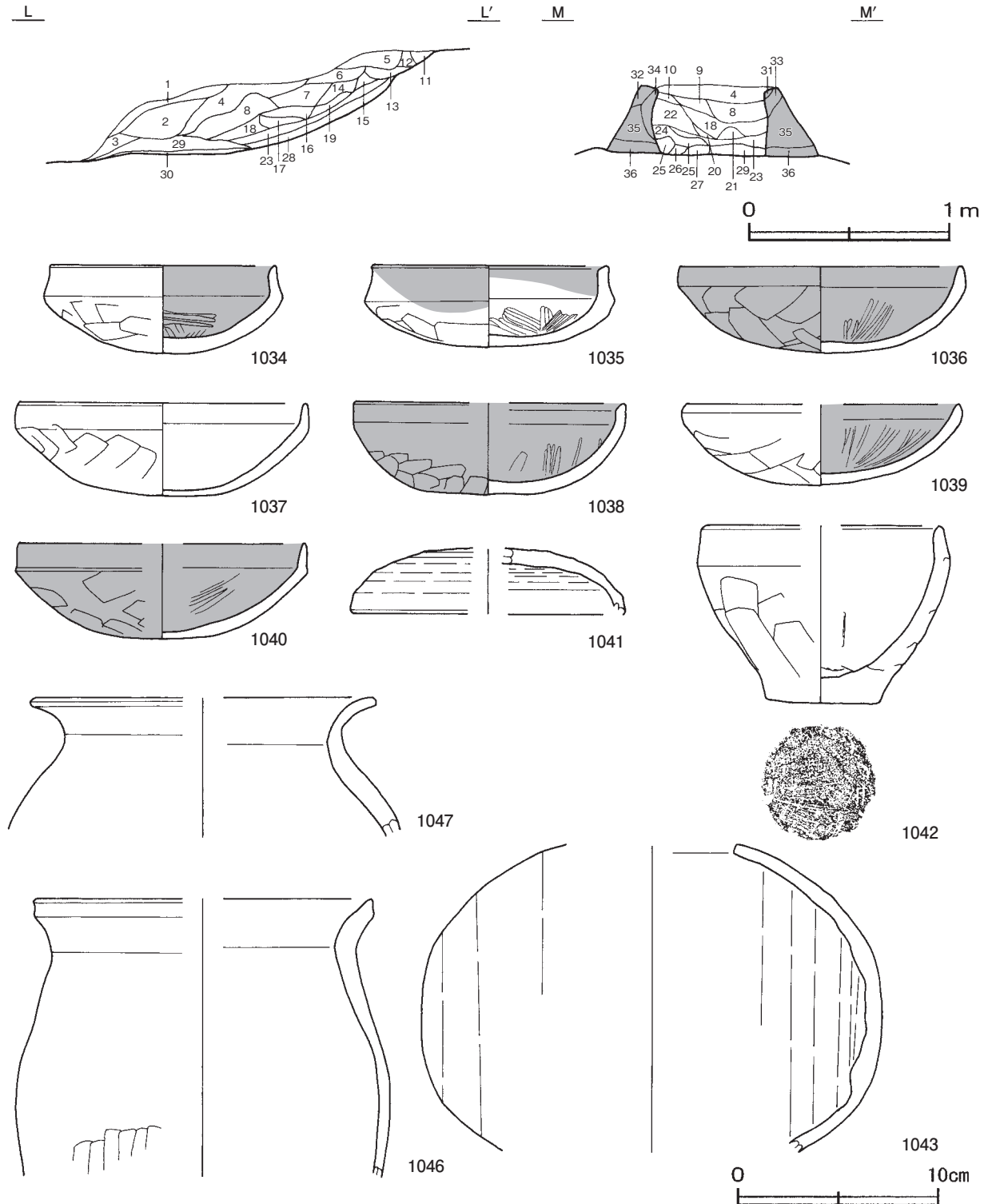
第188図 第114号住居跡実測図(1)



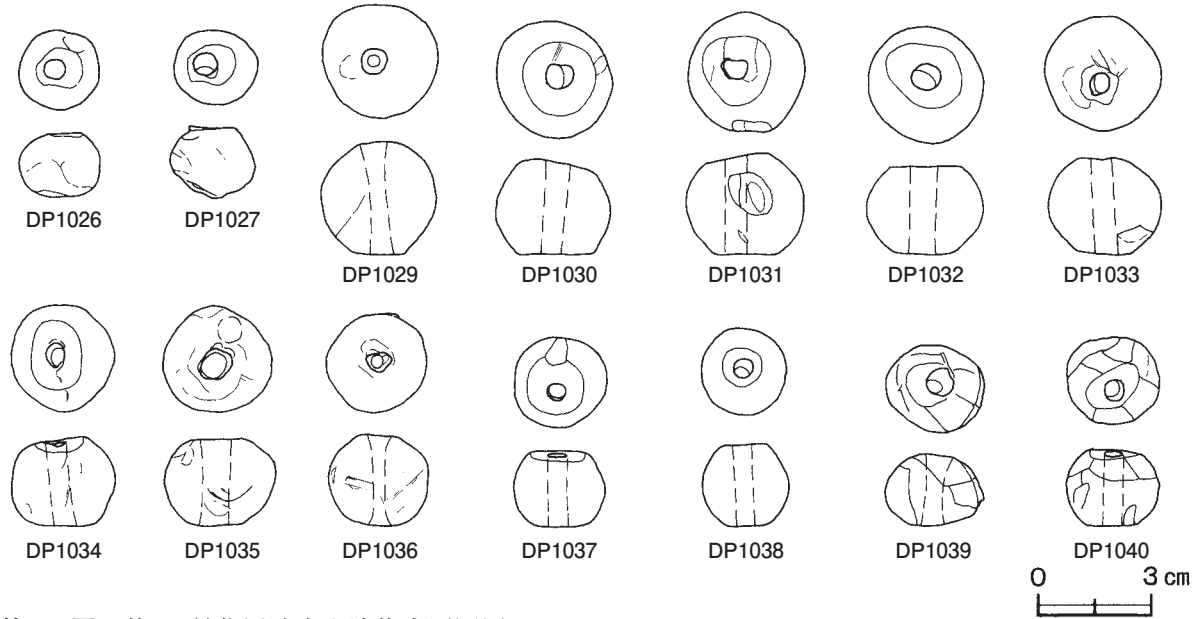
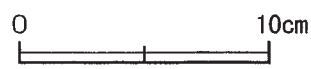
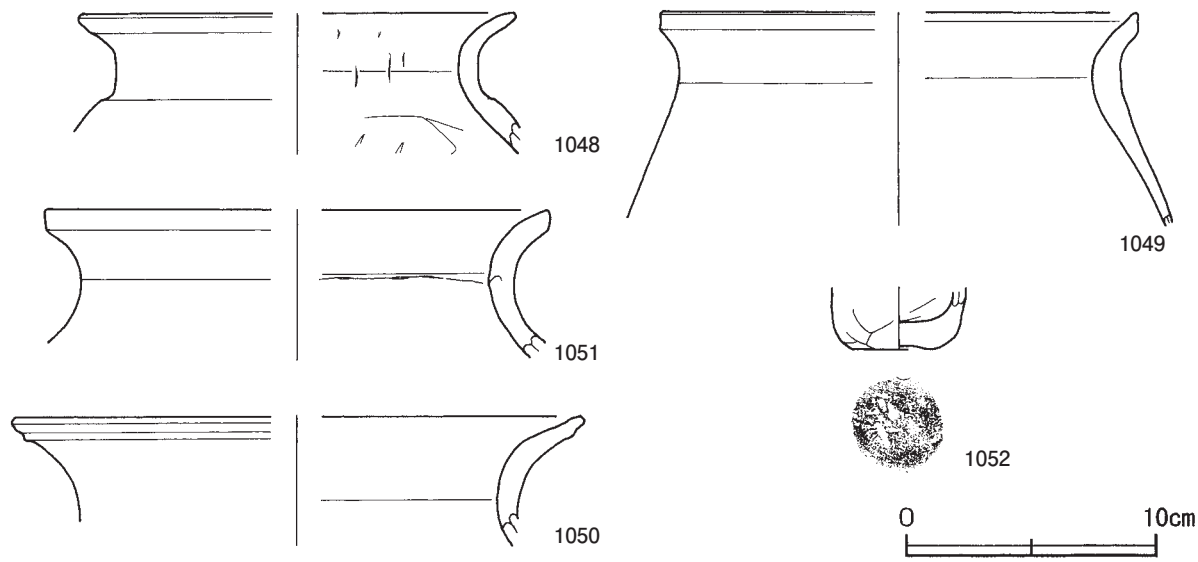
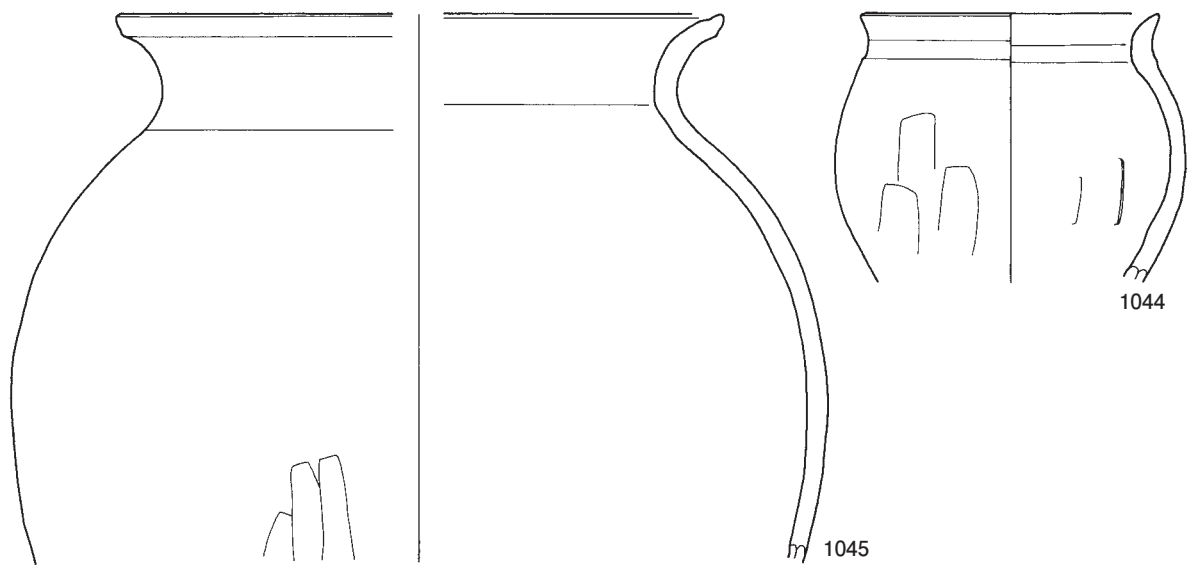
第189图 第114号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片3672点（坏類764・高坏8・甕類2889・甑10・手捏土器1），須恵器片4点（蓋1・横瓶3），土製品58点（土玉3・球状土錘21・管状土錘1・支脚片33），石製模造品1点（双孔円板）が出土している。遺物の大半は西壁寄りを除く，覆土上層から下層にかけて出土している。1034・1036・1043は中央部の覆土下層から正位で，1035は竈右袖部脇の覆土中層，1038はP 4の覆土下層，Q1006が北東コーナー部寄りの床面直上からそれぞれ出土している。

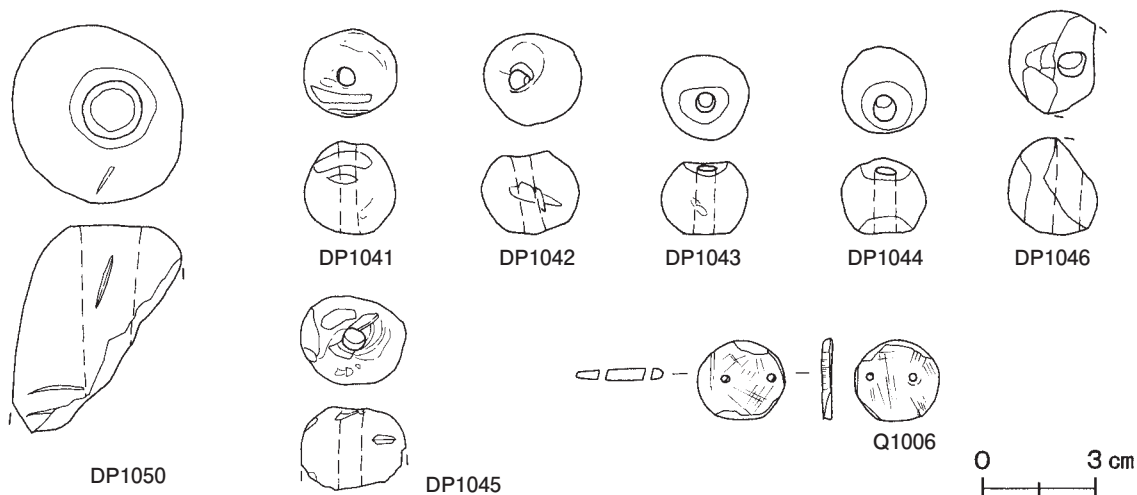
所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第190図 第114号住居跡・出土遺物実測図



第191图 第114号住居跡出土遺物実測図(1)



第192図 第114号住居跡出土遺物実測図(2)

第114号住居跡出土遺物観察表 (第190～192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1034	土師器	坏	11.1	4.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	下層	95% PL100
1035	土師器	坏	11.5	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	中層	90% PL100
1036	土師器	坏	13.8	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	90% PL100
1037	土師器	坏	14.4	4.6	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り	下層	60% PL100
1038	土師器	坏	[13.4]	4.6	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	P4 下層	40%
1039	土師器	坏	[13.5]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	40%
1040	土師器	坏	[14.2]	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	40%
1042	土師器	椀	[11.6]	8.8	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	40%
1041	須恵器	蓋	[13.3]	(3.2)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面回転ヘラ削り	中層	10%
1043	須恵器	横瓶	-	(15.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好		下層	20% PL100
1044	土師器	小形甕	11.6	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	30%
1045	土師器	甕	[23.8]	(21.8)	-	長石・石英・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面下位ヘラ削り 内面ナデ	床面直上	30%
1046	土師器	甕	[16.6]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面下位ヘラ削り 内面ナデ	下層	20%
1047	土師器	甕	[16.8]	(6.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	10%
1048	土師器	甕	[17.2]	(5.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	下層	10%
1049	土師器	甕	[19.0]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	10%
1050	土師器	甕	[22.6]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	中層	10%
1051	土師器	甕	[20.0]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面直上	10%
1052	土師器	手捏土器	-	(2.4)	3.0	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	上層	40%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1028	土玉	-	1.9	-	(3.6)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
DP1026	球状土錘	2.2	1.7	0.5	7.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1027	球状土錘	2.2	1.9	0.6	7.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1029	球状土錘	3.0	3.0	0.6	27.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	
DP1030	球状土錘	3.0	2.5	0.6	23.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1031	球状土錘	3.1	2.6	0.5	25.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1032	球状土錘	3.1	2.9	0.7	21.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1033	球状土錘	3.0	2.6	0.6	20.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP1034	球状土錘	2.7	2.4	0.7	18.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1035	球状土錘	2.9	2.3	0.8	15.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1036	球状土錘	2.7	2.4	0.5	14.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1037	球状土錘	2.4	2.0	0.5	12.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1038	球状土錘	2.4	2.2	0.5	12.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1039	球状土錘	2.6	1.9	0.7	10.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1040	球状土錘	2.4	2.1	0.5	11.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1041	球状土錘	2.4	2.5	0.5	11.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1042	球状土錘	2.7	2.2	0.5	11.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1043	球状土錘	2.2	1.9	0.5	9.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1044	球状土錘	2.3	2.0	0.6	9.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1045	球状土錘	(2.8)	(2.2)	0.6	(12.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1046	球状土錘	(2.8)	(2.6)	0.7	(12.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	
DP1047	球状土錘	2.9	2.8	0.6	(12.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	計測のみ
DP1048	球状土錘	-	(2.7)	-	(7.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
DP1049	球状土錘	-	2.3	0.5	(7.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
DP1050	管状土錘	(4.7)	(5.5)	1.1	(79.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q1006	双孔円板	2.2	0.3	0.2	(2.5)	滑石	全面研磨	下層	PL119

第115号住居跡（第193・194図）

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 d5区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第130号住居、第449号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.66m、短軸4.43mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は13～32cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南東コーナー部寄りから焼土塊は確認されている。これは、住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊土層解説

1 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、燃焼部幅40cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に23cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	8 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	9 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
4 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量	10 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック微量	11 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
6 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ35～65cmで、主柱穴である。

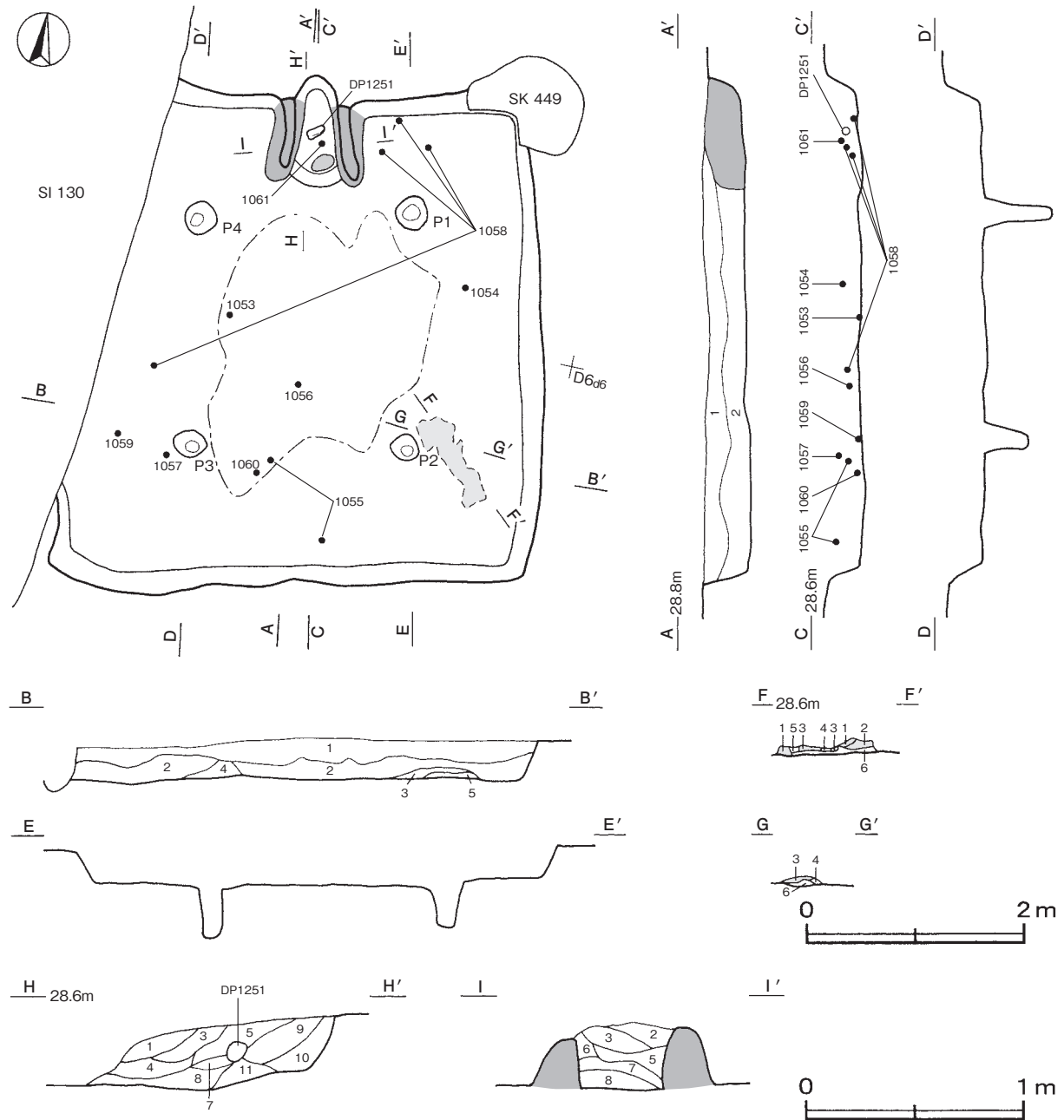
覆土 5層に分けられる。ロームブロックと焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

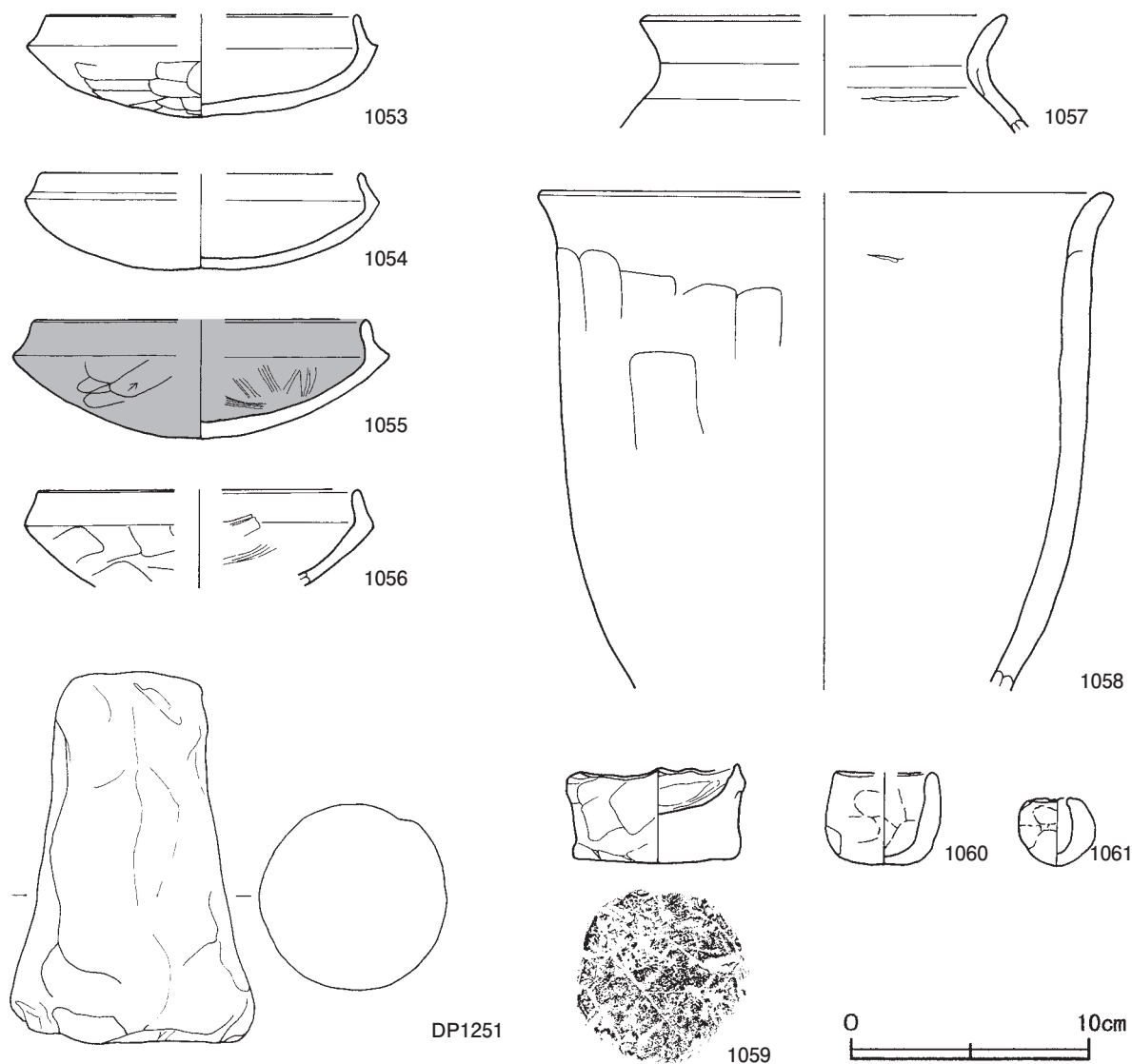
- | | | | |
|--------|------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 極暗赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片365点（坏類77・甕類283・甌2・手捏土器3），土製品1点（支脚片）が出土している。遺物の大半は北西コーナー部を除く，覆土上層から下層にかけて出土している。1053と1058は住居全域の覆土上層から下層にかけて，1059は西壁寄りの覆土下層，1060は南壁寄りの覆土下層，1061とDP1251は竈の火床部の中央からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第193図 第115号住居跡実測図



第194図 第115号住居跡出土遺物実測図

第115号住居跡出土遺物観察表 (第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1053	土師器	坏	[13.0]	4.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ナデ	上層～下層	80% PL101
1054	土師器	坏	[13.4]	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	上層	25%
1055	土師器	坏	[13.8]	4.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状鉱物	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	上層	20%
1056	土師器	坏	[13.2]	(4.0)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ, 縦位のヘラ磨き	下層	10%
1057	土師器	小形甕	[14.8]	(4.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	上層	10%
1058	土師器	甕	[23.8]	(20.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ	中層～下層	20%
1059	土師器	手捏土器	6.6	4.2	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	100% PL116
1060	土師器	手捏土器	[4.0]	3.9	2.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ 内・外面指頭痕	下層	95% PL116
1061	土師器	手捏土器	1.9	2.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面指頭痕	竈内	100% PL116

番号	器種	長さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1251	支脚	15.4	10.2	5.4	(1004)	粘土	ナデ 被熱痕 端部欠損	竈火床部	PL118

第118号住居跡（第195・196図）

位置 調査Ⅱ区北部のC 5 j8区，標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第119号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.28m，短軸2.98mの長方形で，主軸方向はN-96°-Eである。壁高は7～28cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，燃焼部幅28cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。第4層は天井部の崩落土である。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

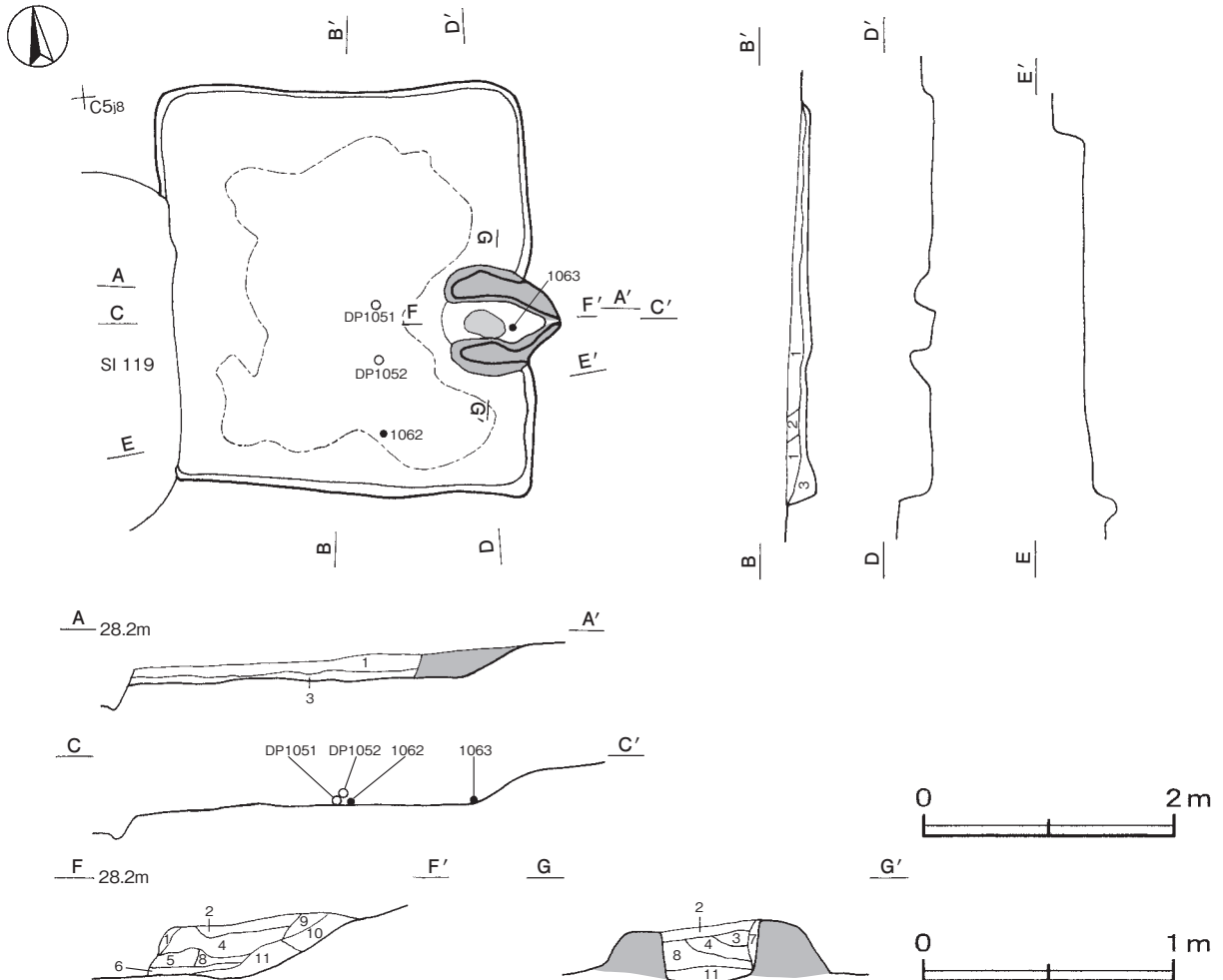
竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 にぶい褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 2 にぶい褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量，ロームブロック微量 | 8 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 9 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 粘土粒子多量 | 10 極暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | 11 極暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | |

覆土 3層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

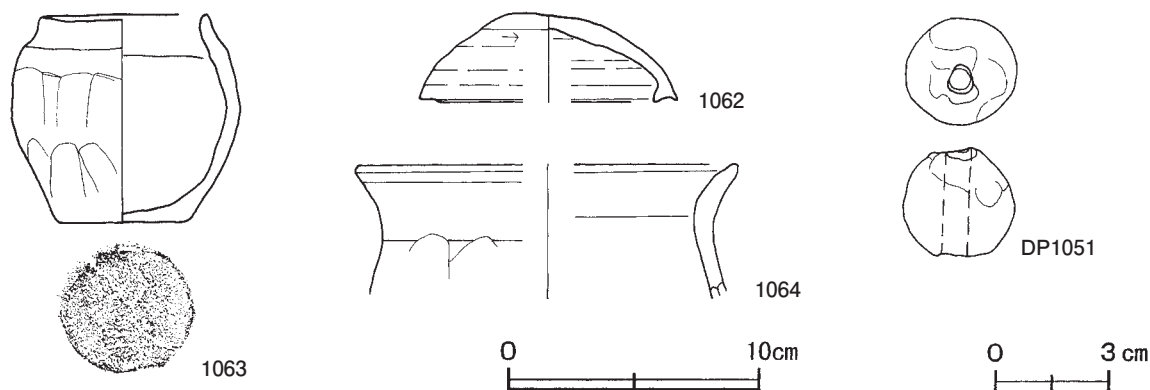
- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量 | |



第195図 第118号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片116点（高坏1・甕類114・ミニチュア土器1），須恵器片1点（蓋），土製品4点（球状土錘2・支脚片2）が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1062は南壁寄り，DP1051は中央部の覆土下層，1063は竈煙道部から正位で，DP1052は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から7世紀後葉と考えられる。



第196図 第118号住居跡出土遺物実測図

第118号住居跡出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1062	須恵器	蓋	[8.7]	3.6	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	下層	50% PL100
1063	土師器	小形甕	6.5	8.2	4.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り 体部外面底部ヘラナデ	竈内下層	90% PL100
1064	土師器	小形甕	[15.0]	(5.2)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1051	球状土錘	3.0	2.9	0.6	20.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1052	球状土錘	-	(2.3)	0.5	(7.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	計測のみ

第127号住居跡（第196図）

位置 調査Ⅱ区東部のD5b9区，標高28.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.86m，短軸3.64mの方形で，主軸方向はN-22°-Wである。壁高は14～26cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，壁際を除いて踏み固められている。南東コーナー部寄りと南西コーナー部寄りに焼土塊が確認されている。これらは住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊土層解説

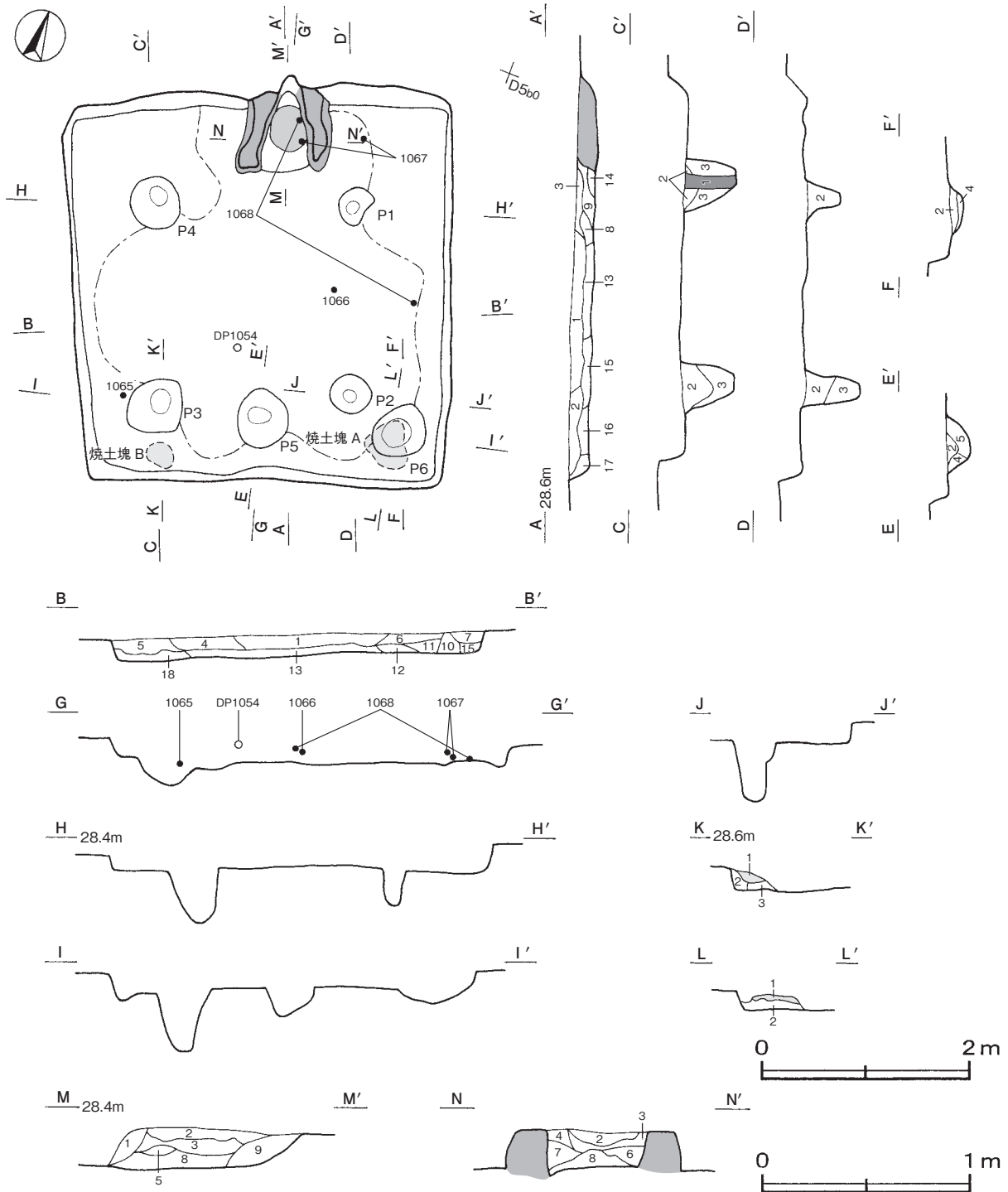
- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
3 明褐色 ロームブロック中量

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで76cm，燃烧部幅50cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に16cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック微量 |
| 2 にぶい褐色 | 粘土粒子中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 | 7 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| | | 9 にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 |

ピット 6か所。P1～P4は深さ35～59cmで、支柱穴である。P5は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ14cmで、性格不明である。なお、第1層は柱の抜き取り痕である。



第197図 第127号住居跡実測図

ピット土層解説

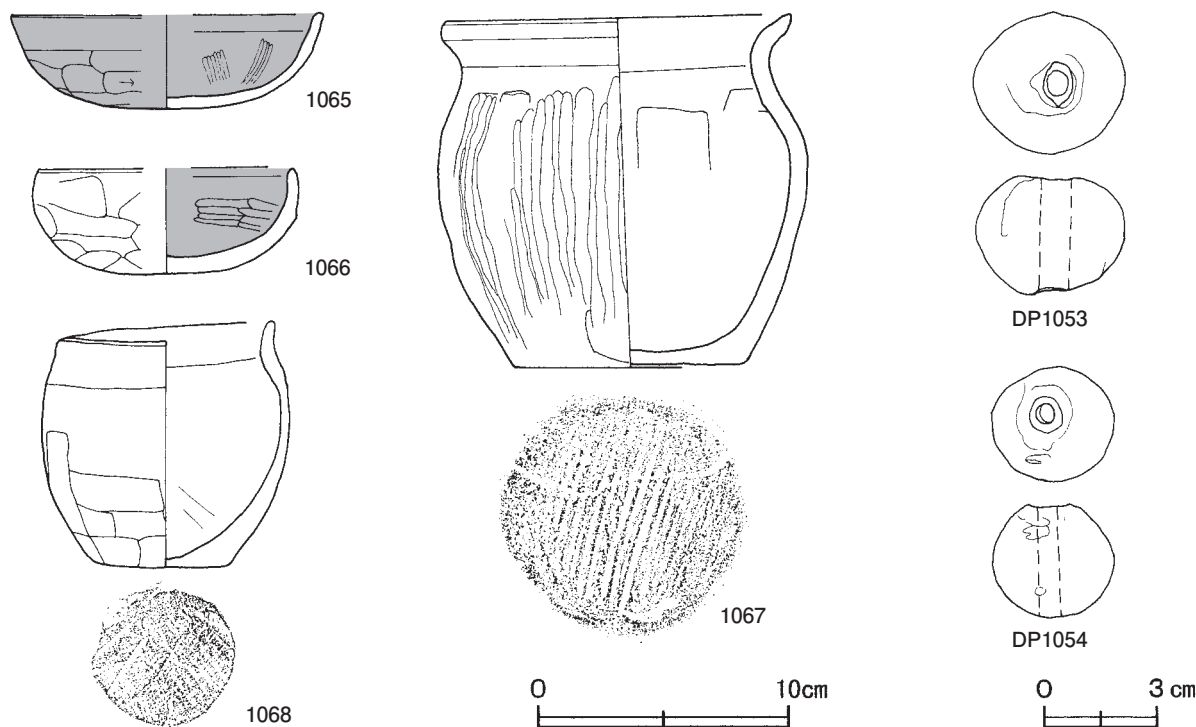
- | | | | |
|--------|------------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | | |

覆土 18層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 明褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 | 13 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 15 褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 17 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 18 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片244点（坏35・甕類200・甑9），土製品13点（球状土錘2・支脚片11）が出土している。遺物の大半は北西コーナー部を除く、覆土上層から下層にかけて出土している。1065は南西コーナー部の覆土下層，DP1054は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。1067は竈内と竈周辺の覆土上層，覆土中から出土した破片が，1068は竈の覆土中層と東壁寄りの覆土上層、覆土中から出土した破片が接合したものである。所見 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第198図 第127号住居跡出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表（第198図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1065	土師器	坏	[12.2]	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	50%
1066	土師器	坏	[10.2]	4.2	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	中層	40%
1067	土師器	小形甕	13.6	14.1	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部ヘラ磨き	竈内・上層	80% PL101
1068	土師器	小形甕	8.4	9.8	5.1	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部手持ちヘラ削り	竈内・上層	80% PL101

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1053	球状土錘	3.9	3.1	0.8	39.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1054	球状土錘	3.2	3.0	0.5	25.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	

第128号住居跡（第200図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 d2区，標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第117・130号住居，第535・536号土坑，第50号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.31m，短軸5.02mの方形で，主軸方向はN-7°-Wである。壁高は10～35cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，北東コーナー部，西壁・南壁の一部を除き，踏み固められている。東壁・西壁・南壁の一部を除く壁下には，幅12～26cm，深さ3～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで115cm，燃焼部幅30cmである。袖部は第14～18層の砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。また，第2～6層は天井部の崩落土，第19層は掘方への埋土である。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に18cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量	11	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	明褐色	粘土粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量	12	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子微量
3	灰褐色	粘土粒子中量，ロームブロック少量	13	灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4	灰褐色	ロームブロック・粘土粒子中量，焼土粒子微量	14	褐灰色	粘土粒子中量，砂粒少量，焼土ブロック微量
5	灰褐色	粘土粒子中量，ロームブロック少量	15	明褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子微量
6	褐灰色	粘土粒子多量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	16	灰褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量	17	灰白色	粘土粒子・灰中量，ロームブロック・砂粒少量
8	灰褐色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量	18	にぶい橙色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量
9	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量	19	明褐色	ロームブロック少量，粘土粒子微量
10	褐灰色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量			

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ55～76cmで，支柱穴である。P 5は深さ31cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	2	褐色	ロームブロック中量
---	-----	-----------	---	----	-----------

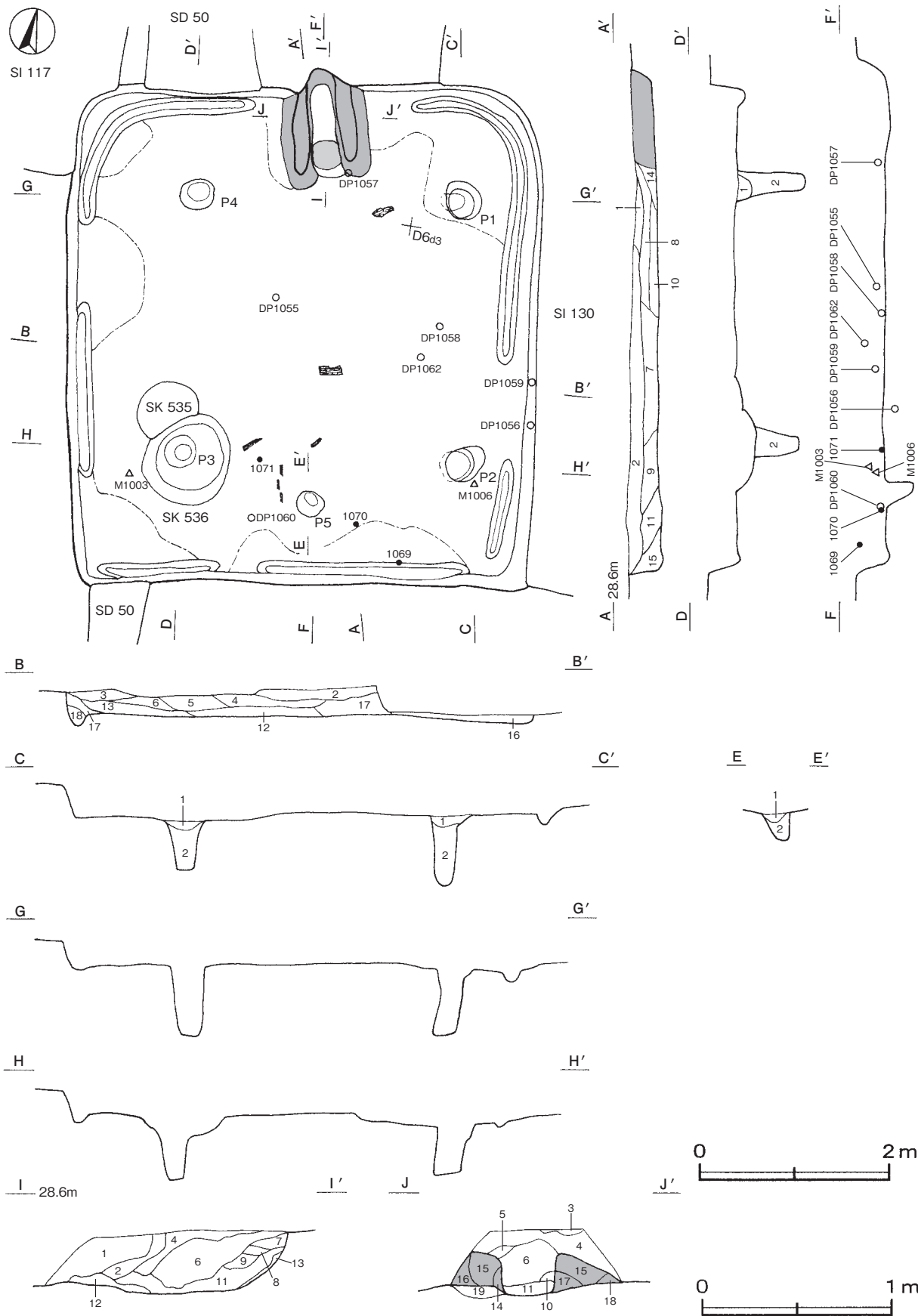
覆土 18層に分けられる。ロームブロック・焼土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

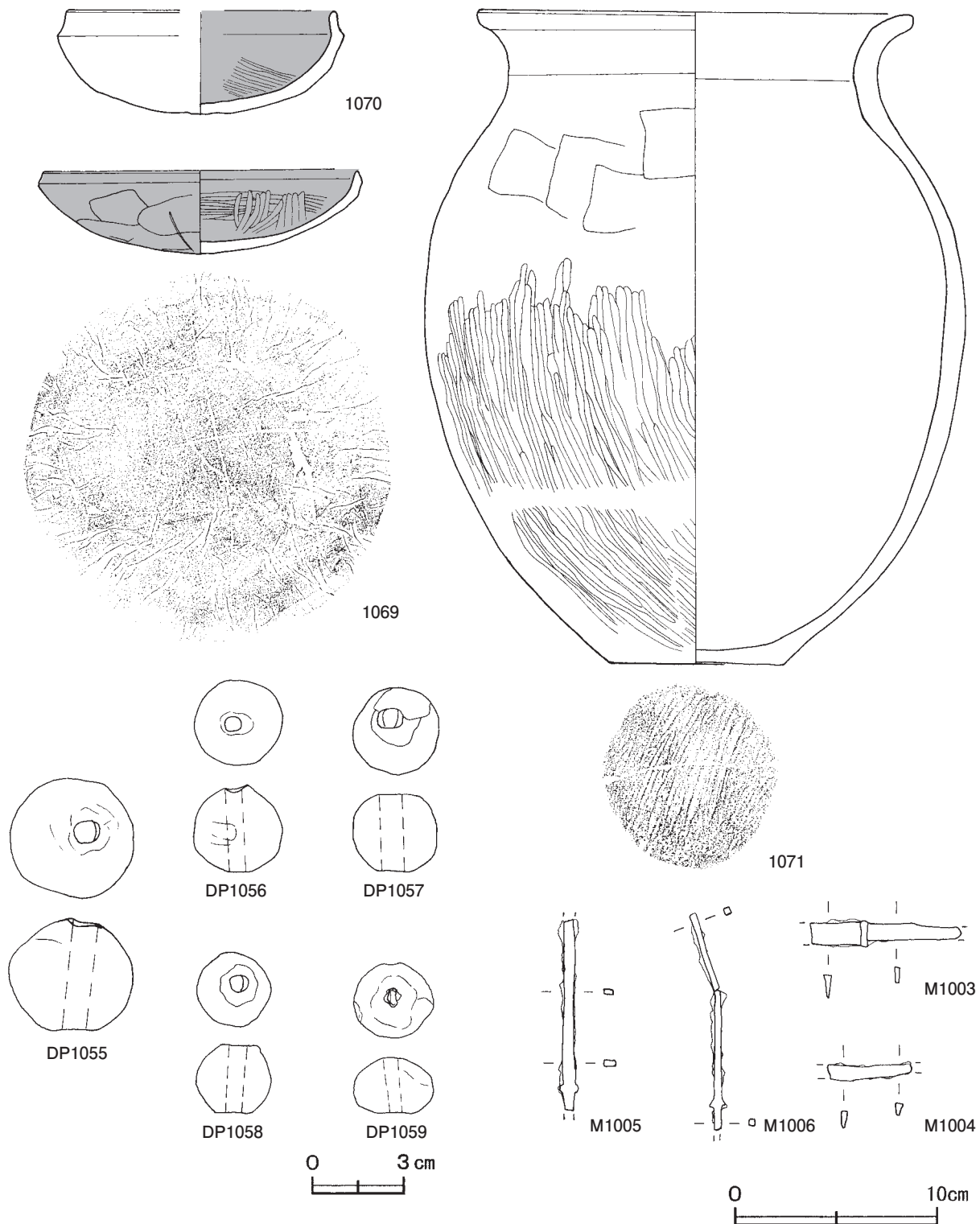
1	明褐色	ロームブロック少量	10	黒色	ロームブロック少量
2	暗褐色	炭化材少量，ロームブロック微量	11	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	12	極暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
5	灰褐色	ロームブロック少量	14	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	15	明褐色	ロームブロック多量
7	極暗褐色	ロームブロック中量	16	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
8	褐色	ロームブロック・炭化物少量	17	褐色	ロームブロック少量
9	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	18	明褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1815点（坏197・高坏8・甕類1607・甑3），土製品43点（球状土錘9・不明土製品34），金属製品4点（刀子2・鉄鏝1・不明鉄製品1），礫4点，鉄滓4点が出土している。遺物の大半は中央部から東壁・南壁寄りの覆土上層から下層にかけて出土している。1069は南壁寄りの覆土上層，1071は覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土している。DP1055～DP1062は中央部から東壁寄りにかけての覆土中層から下層に散在して出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第199図 第128号住居跡実測図



第200図 第128号住居跡出土遺物実測図

第128号住居跡出土遺物観察表 (第200図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1069	土師器	坏	15.4	4.2	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ 削り 内面ヘラ磨き 底部「+」ヘラ書き	上層	90% PL101
1070	土師器	坏	[13.0]	5.1	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部内面ヘラ 磨き	中層	40%
1071	土師器	甕	21.2	32.3	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 中位ヘラ磨き	中層～下層	90% PL101

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP1055	球状土錘	4.1	3.7	0.8	52.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1056	球状土錘	2.9	2.8	0.6	20.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1057	球状土錘	2.8	2.6	0.8	(17.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	
DP1058	球状土錘	2.5	2.2	0.6	12.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1059	球状土錘	2.6	1.9	0.5	11.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1060	球状土錘	3.2	(2.3)	0.7	(20.6)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	計測のみ
DP1061	球状土錘	-	2.7	0.8	(14.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1062	球状土錘	-	2.1	-	(4.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M 1003	刀子	(7.5)	1.3	0.3	(9.1)	鉄	茎部 刀身部先端・茎部欠損	中層	PL120
M 1004	刀子	(4.2)	0.9	0.3 0.4	(3.7)	鉄	茎部 刀身部・茎部欠損	覆土中	
M 1005	不明鉄製品	(9.3)	0.6	0.3	(8.6)	鉄	先端・茎部欠損	覆土中	PL120
M 1006	鉄鏃	(10.7)	0.4	0.3	(8.9)	鉄	刀身部・茎部欠損	下層	PL120

第129号住居跡（第201～203図）

位置 調査Ⅱ区北部のC 6 j3区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第114号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は調査区域外である。東西軸が5.40mで、南北軸は4.44mしか確認できなかった。方形と推測され、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は30～40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 2か所。竈1は北壁の北東コーナー部寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで90cm、燃焼部幅38cmである。袖部は第16・17層の砂質粘土やロームを混ぜた黄褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。壁外への掘り込みは不明であるが、煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈2は東壁の中央部に付設されている。袖部は遺存しておらず、確認できた規模は、焚口部から煙道部まで96cm、火床部幅38cmである。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受け赤変硬化している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。竈1は良好に遺存し、竈2は一部しか確認できないことから、竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。

竈1土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	10	褐灰色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2	褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	12	灰褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量
4	褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	13	にぶい褐色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
5	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ローム粒子中量
6	灰褐色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量	15	赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子微量
7	灰褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	16	灰黄褐色	粘土粒子・砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子微量
8	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	17	にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
9	灰褐色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子微量			

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ27～80cmで、支柱穴である。

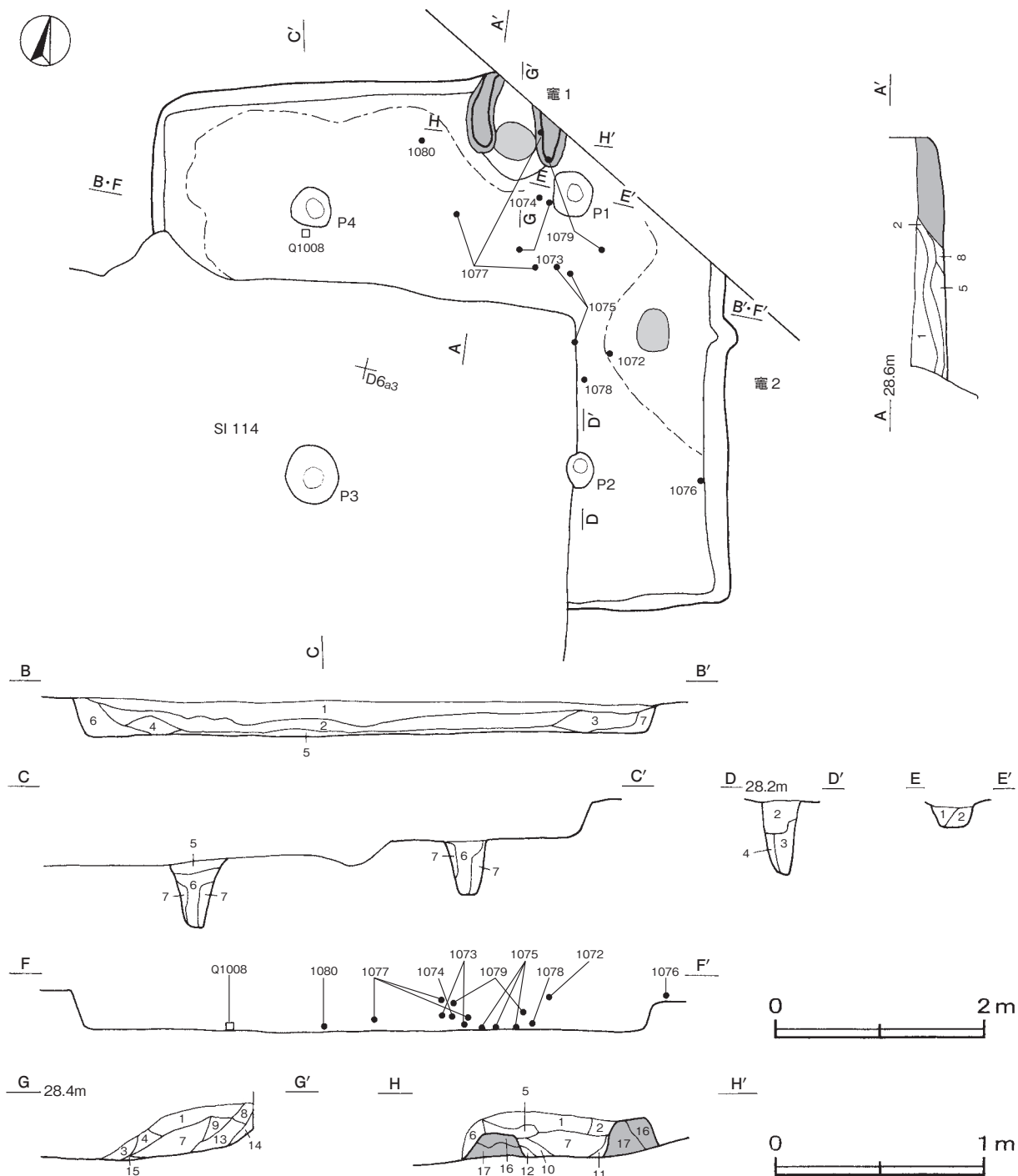
ピット土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|-----------|---|-----|-----------------------|
| 1 | にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 5 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量 | | | |

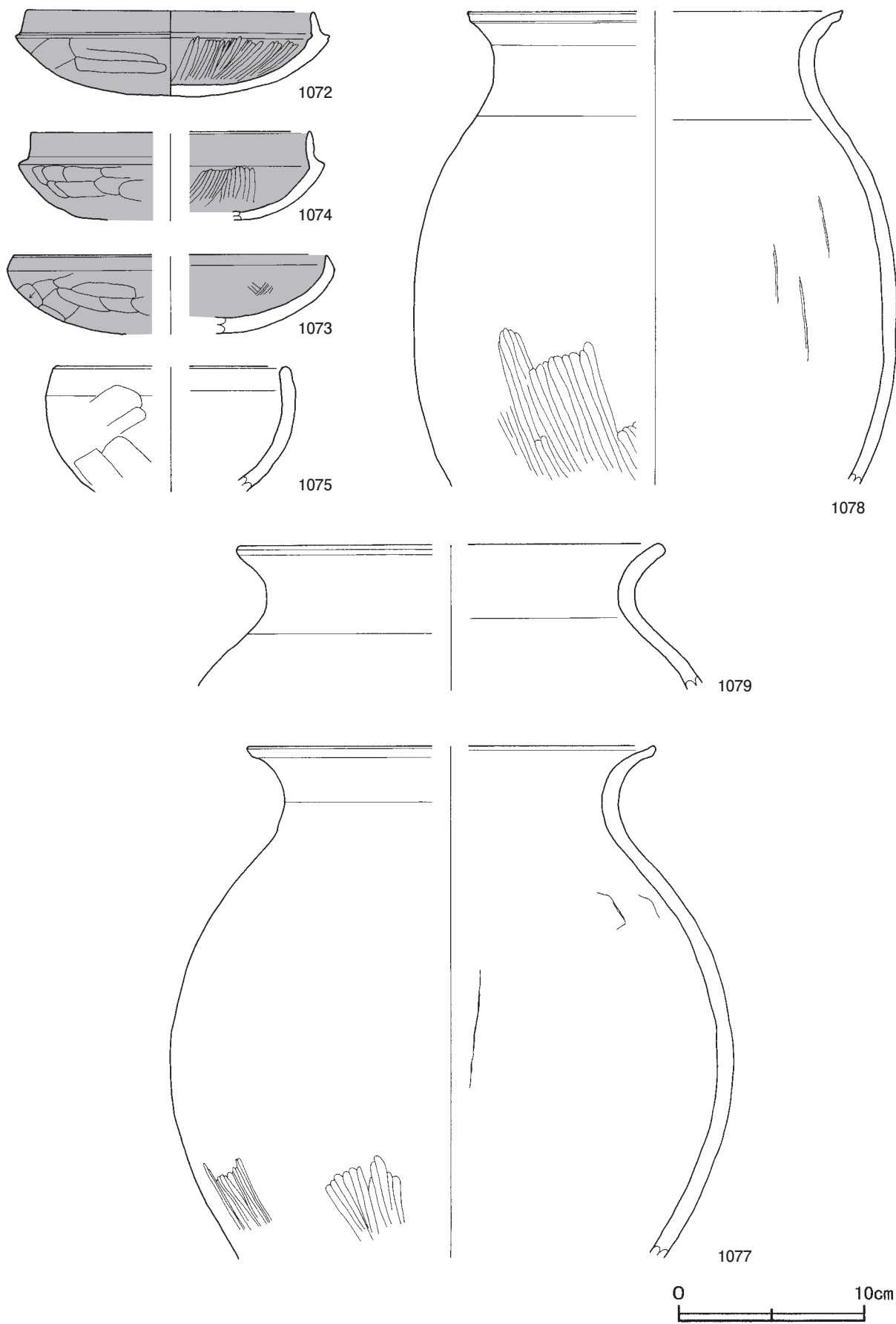
覆土 8層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

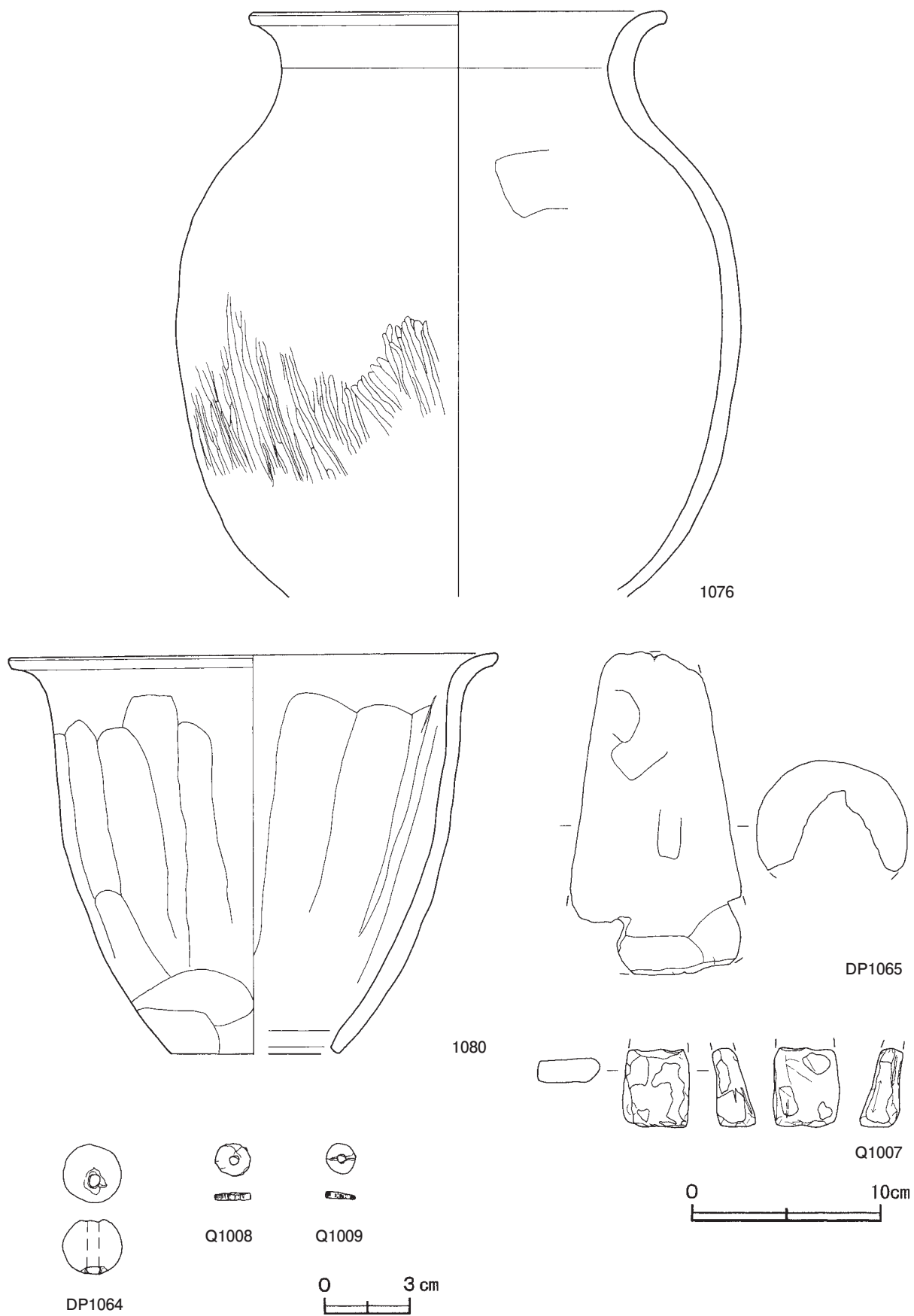
- | | | | | | |
|---|-----|-----------|---|-----|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック多量 | 7 | 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 | 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | | | |
| 5 | 褐色 | ロームブロック少量 | | | |



第201図 第129号住居跡実測図



第202図 第129号住居跡出土遺物実測図(1)



第203図 第129号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片369点（坏類88・高坏10・甕類269・甌2），石製品1点（砥石），石製模造品2点（白玉），土製品13点（土玉1・支脚片9・不明製品3），礫1点が出土している。遺物の大半は東壁寄りの覆土上層から下層にかけて出土している。1072は竈内と東壁寄りの覆土上層から出土した破片が接合したものである。1075は中央部，1080は竈左袖部脇の覆土下層，Q1008は南壁寄りの床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。

第129号住居跡出土遺物観察表（第202・203図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1072	土師器	坏	15.3	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	竈内上層・上層	70% PL102
1073	土師器	坏	[16.8]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層～下層	30%
1074	土師器	坏	[15.0]	(4.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層	20%
1075	土師器	椀	[12.4]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り	下層～床面	40%
1076	土師器	甕	21.6	(31.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	上層	40%
1077	土師器	甕	[21.6]	(27.6)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	上層～下層	30%
1078	土師器	甕	[20.0]	(25.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	30%
1079	土師器	甕	[22.4]	(7.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ	上層～中層	10%
1080	土師器	甌	25.6	21.2	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 下位ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	90% PL101

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1064	球状土錘	2.1	1.9	0.6	7.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1065	支脚	16.9	(9.1)	(4.3)	(600)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1007	砥石	(4.1)	(3.6)	(2.3)	(39.2)	凝灰岩	砥面1面	竈内	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1008	白玉	1.2	0.3	0.3	0.5	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	床面直上	
Q1009	白玉	1.1	0.3	0.4	0.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	竈内	PL119

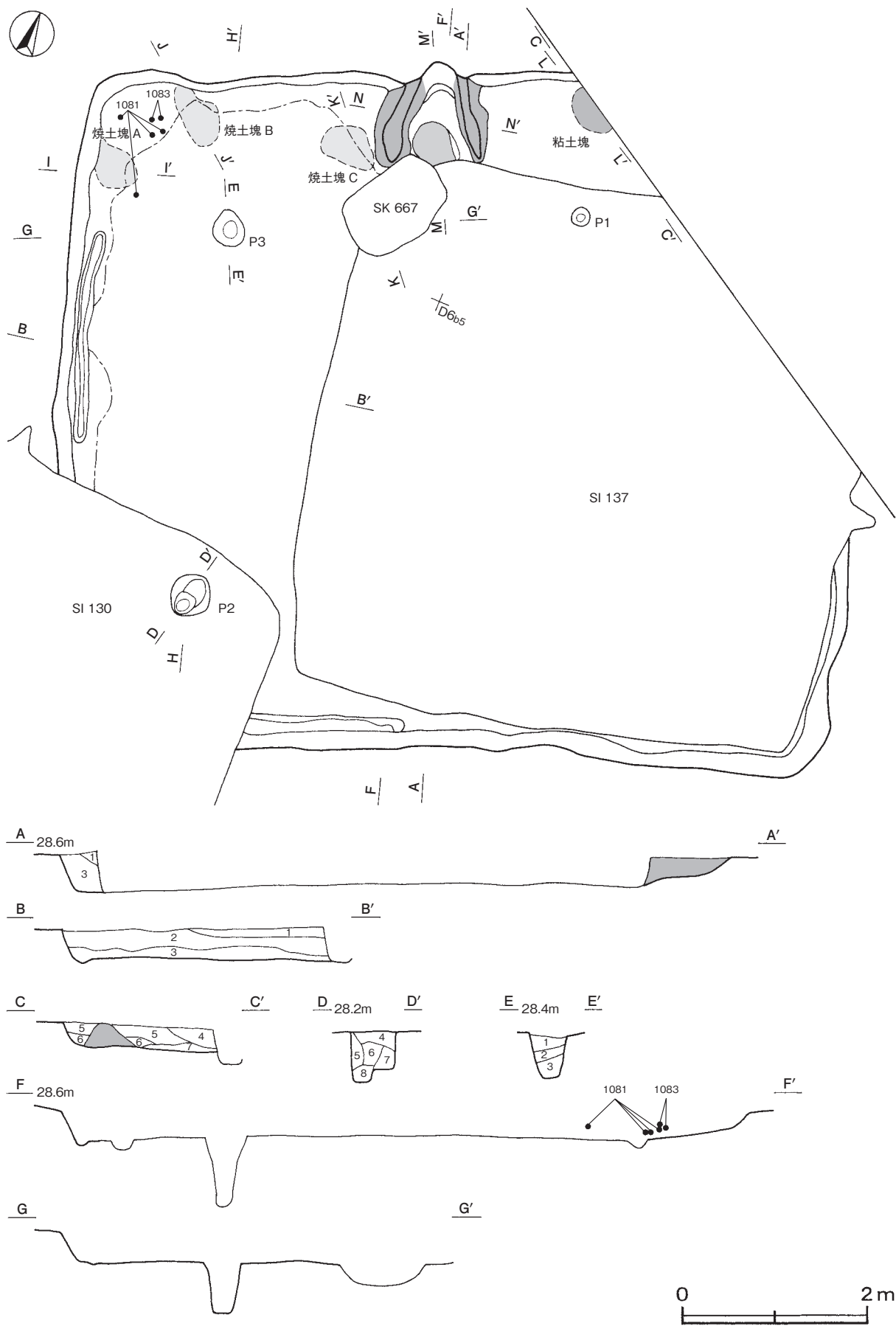
第131号住居跡（第204～206図）

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 b4区，標高28.5mの台地平坦部に位置している。

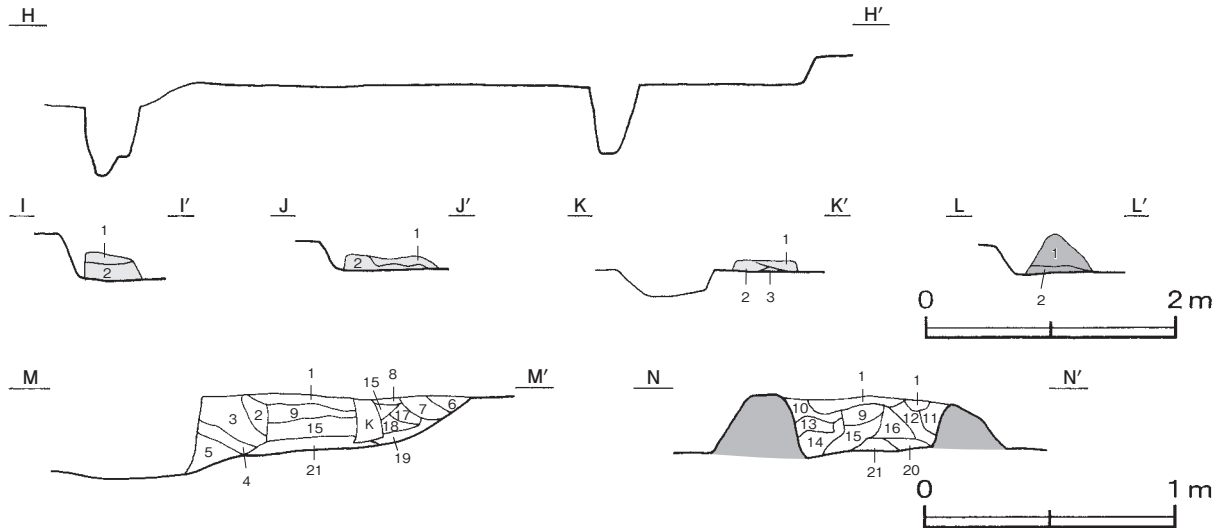
重複関係 第130・137号住居，第677号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部は調査区域外で，南コーナー部と中央部から東コーナー部にかけて第130・137号住居に掘り込まれている。南北軸が7.29mで，東西軸は8.54mと推定される。長方形と推測され，主軸方向はN-23°-Wである。壁高は20～40cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，全面が踏み固められている。南西壁と南東壁の壁下には幅2～18cm，深さ1～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。また，北西壁寄りに焼土塊と粘土塊が確認されている。焼土塊A・Bは住居廃絶後に投棄されたものである。焼土塊Cは竈が壊されたときに流れ出たものと考えられる。粘土塊は竈の構築材の可能性が考えられるが，調査区域外なので不明である。



第204图 第131号住居跡実测图(1)



第205図 第131号住居跡実測図(2)

焼土塊 A・B 土層解説

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
|---|-------------------------------------|

焼土塊 C 土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック微量 | |

粘土塊土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1 明褐色 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
|---------------------------------|-------------------------|

竈 北西壁の中央部寄りに付設されている。規模は、火床部から煙道部まで110cm, 燃焼部幅60cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。また、第13・16層は天井部の崩落土である。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に13cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 12 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 灰赤色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック中量 |
| 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 極暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 15 褐灰色 粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 16 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 褐色 ロームブロック少量 | 17 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 | 18 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 8 にぶい褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 19 極暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 9 褐灰色 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 20 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 10 灰黄褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 | 21 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 11 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 | |

ピット 3か所。P1～P3は深さ54～57cmで、支柱穴である。第4層は第130号住居跡の貼床構築土と思われる。また、P3の覆土はローム粒子を含む暗褐色土である。

ピット土層解説

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 明褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 8 にぶい褐色 ロームブロック少量 |

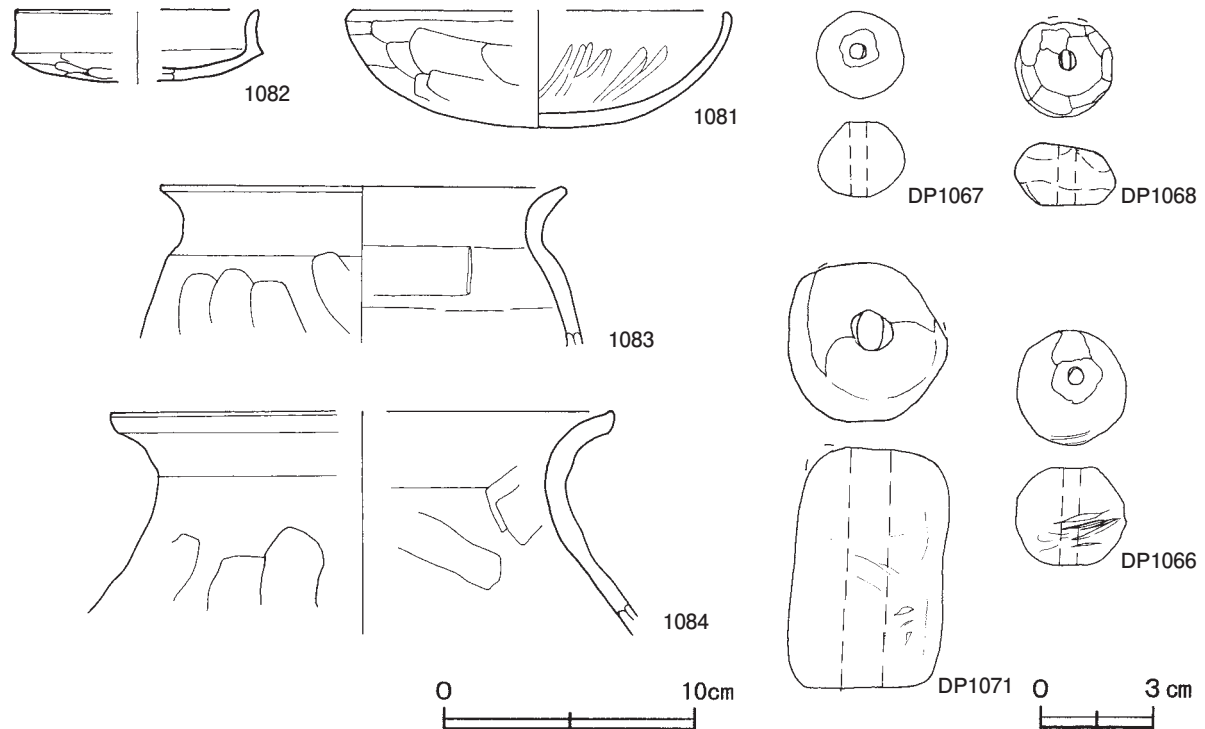
覆土 7層に分けられる。ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | 炭化物・焼土粒子・砂粒少量、ロームブロック・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片1139点（坏185・高坏11・甕類938・甑5），土製品24点（球状土錘5・管状土錘1・不明土製品18），鉄滓2点，礫1点が出土している。遺物の大半は，西コーナー部から竈にかけての覆土下層から出土している。1081は西コーナー部寄りの覆土中層から下層に出土した破片が，1083は西コーナー部寄りの覆土中層と竈内から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀中葉と考えられる。



第206図 第131号住居跡出土遺物実測図

第131号住居跡出土遺物観察表（第206図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1081	土師器	坏	[15.0]	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	60%
1082	土師器	坏	[9.5]	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り	確認面	10%
1083	土師器	甕	16.0	(6.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	竈内・下層	20%
1084	土師器	甕	[20.0]	(8.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1066	球状土錘	2.9	2.6	0.4	(22.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1067	球状土錘	2.3	2.0	0.4	10.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1068	球状土錘	2.6	1.7	0.5	(11.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1069	球状土錘	3.4	3.6	0.8	(19.4)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1070	球状土錘	-	(2.2)	-	(4.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1071	管状土錘	4.2	6.4	1.1	(119.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	PL117

第133号住居跡（第207～210図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 f6区，標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号住居，第5号地点貝塚，第567・568号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺8.70mの方形で，主軸方向はN-6°-Wである。壁高は42～60cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，壁際を除き踏み固められている。西壁際を除く壁下には，幅8～40cm，深さ2～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。また，東壁際のP 2とP 5の直上に炭化粒子を多量に含む暗褐色土が広がっているのが確認され，住居廃絶後に埋め戻す際の土砂とともに投棄されたものと考えられる。

炭化粒子を多量含む暗褐色土A土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック少量 | 3 灰褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子少量 | |

炭化粒子を多量含む暗褐色土B土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子多量，ロームブロック中量，焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，砂粒微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量 | |

竈 2か所。竈1は北壁のやや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで157cm，燃烧部幅50cmである。袖部は第17～20層の砂質粘土やロームを混ぜた褐灰色土で構築されている。また，第1・11層は天井部の崩落土である。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈2は北壁中央部に付設されている。袖部と火床部は遺存しておらず，焚き口部の掘方と煙道部が確認された。規模は，焚口部から煙道部まで142cm，焚き口部幅58cmである。第1層は天井部の崩落土である。また，第5～10層は掘方への埋土である。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。竈1が残り，竈2が煙道部しか確認できないことから，竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。

竈1土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 褐灰色 粘土粒子多量，砂粒中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量 | 12 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 13 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・砂粒微量 |
| 4 褐灰色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 14 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化材焼土粒子微量 | 15 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量 |
| 6 にぶい褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 16 灰白色 灰多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量 | 17 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量 |
| 8 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 18 明褐灰色 粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック少量 |
| 9 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 19 褐灰色 粘土粒子・砂粒多量，焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 20 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

竈2土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量，ロームブロック少量 | 6 明褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 7 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量，粘土粒子・砂粒微量 | 8 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

ピット 10か所。P 1～P 4は深さ68～72cmで，主柱穴である。P 5・P 6は深さ39・42cmで，主柱穴と掘方に違いがあることから，補助的な柱穴と考えられる。P 7は深さ30cmで，南壁際の中央部に位置し，周囲が馬蹄状に盛り上がっていることから，出入り口施設に伴うピットである。P 8～P 10は深さ25～36cmで，性格不明である。また，第2層は柱の抜取り痕と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	8 灰褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	9 灰褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック中量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量	12 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
6 灰黄褐色	ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
7 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量		

覆土 30層に分けられる。ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	17 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	18 褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19 灰褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	20 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	21 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
6 灰褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	22 褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	23 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量	24 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
9 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	25 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	26 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
11 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土ブロック微量	27 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量
12 暗褐色	炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量	28 褐色	ロームブロック少量
13 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	29 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
14 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	30 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
15 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量		
16 極暗褐色	炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量		

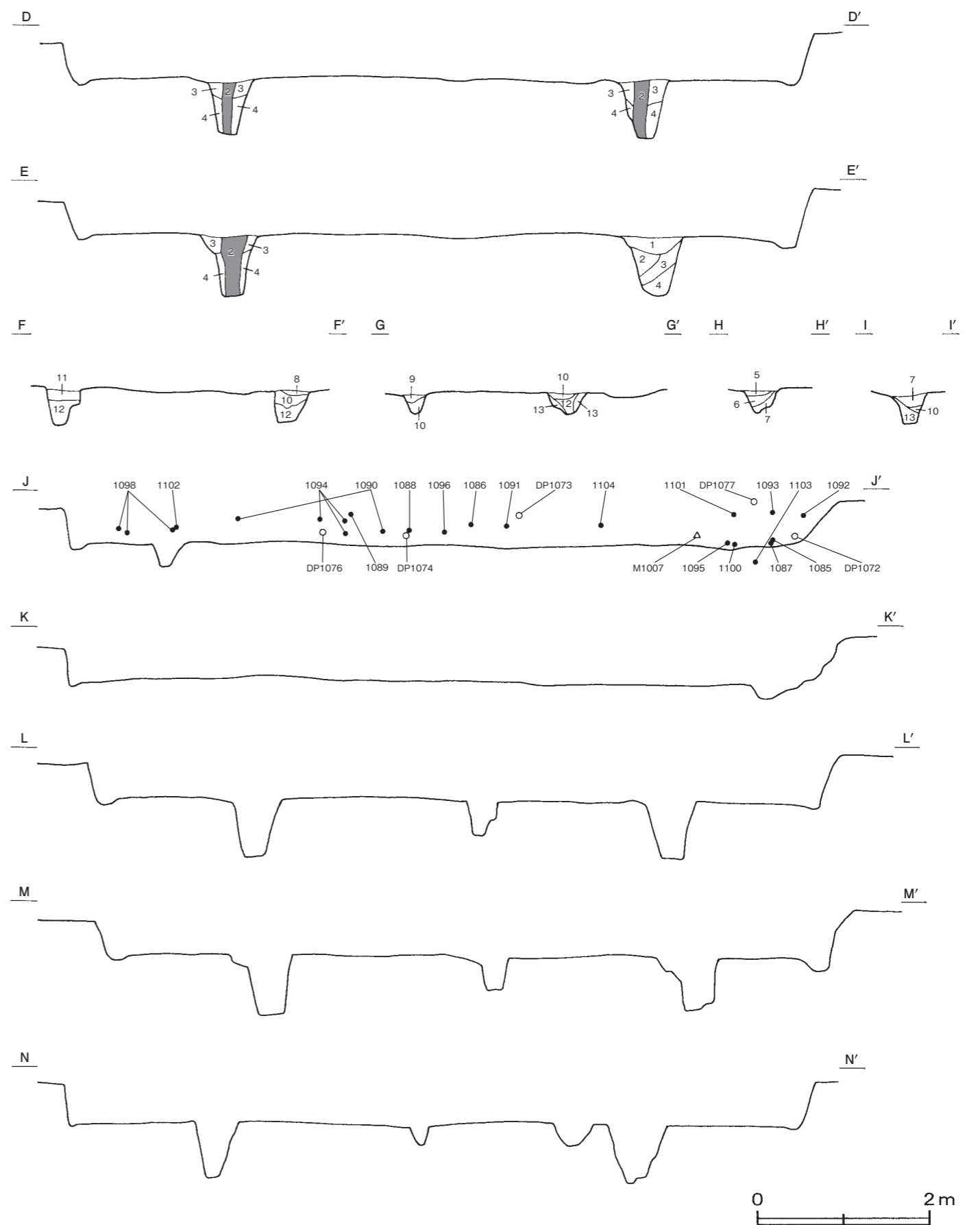
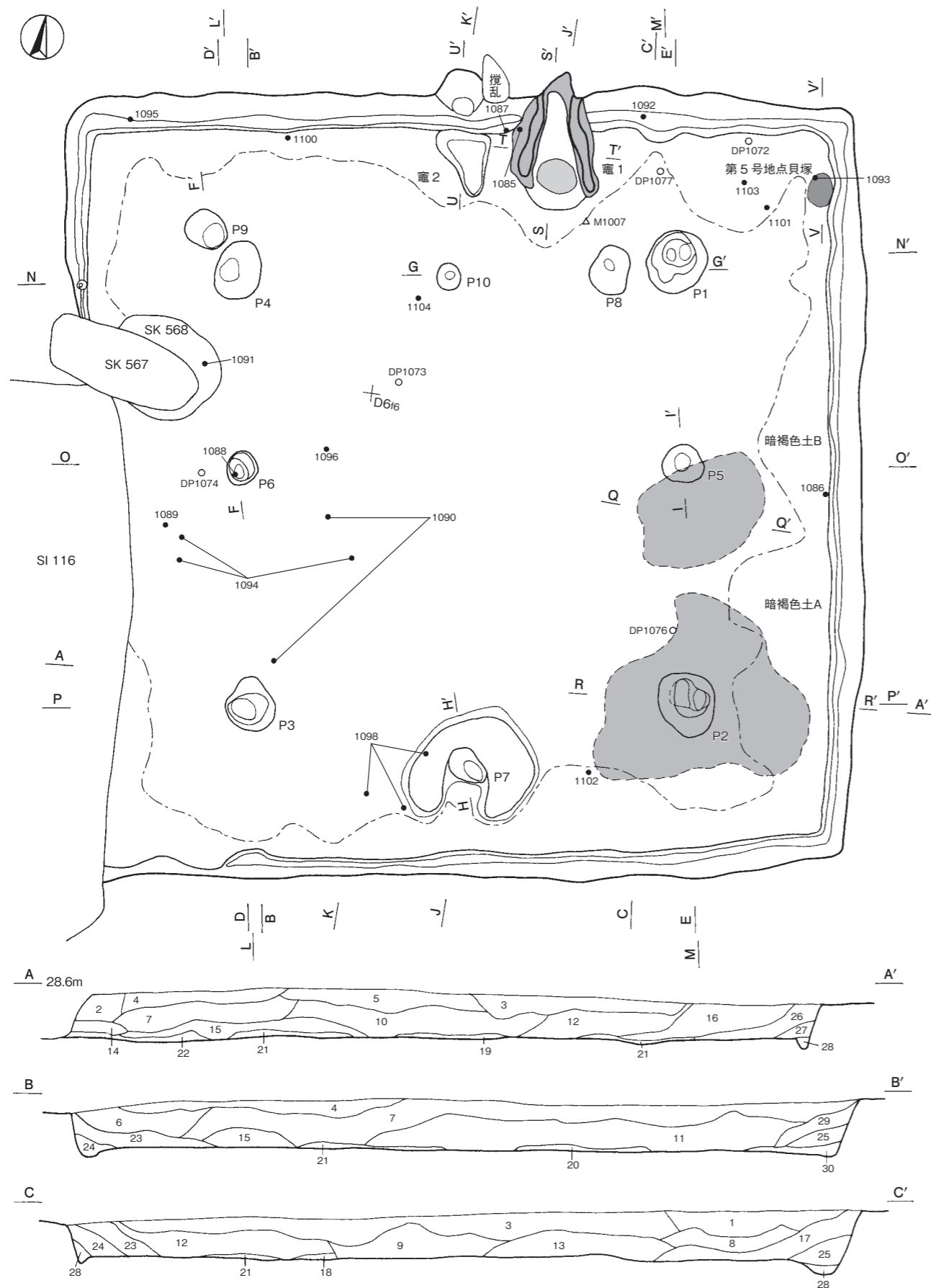
第5号地点貝塚 北東コーナー部の覆土第1層中に長径0.40m, 短径0.26mの楕円形の範囲で貝層が確認された。貝層は単一の純貝層で、厚さ10～16cmである。出土した貝は、ヤマトシジミ173点(右殻70, 左殻103), カキ1点である。これらの貝殻は、住居が埋め戻された途中で廃棄されたものである。

遺物出土状況 土師器片3817点(坏類994・高坏18・鉢3・甕類2794・甌8), 石製模造品2点(白玉), 土製品17点(小玉1・土玉1・球状土錘7・管状土錘1・支脚片7), 金属製品3点(刀子1・不明鉄製品2), 鉄滓4点が出土している。遺物の大半は、竈周辺、西壁から南壁にかけての覆土中層から下層に出土している。1085・1087は竈左袖部脇, 1088・DP1074は西壁寄り, 1102は南壁寄り, DP1072は北東コーナー部, DP1076は東壁寄り, M1007は竈手前の覆土下層から, 1086は東壁寄り, 1092は竈右袖部脇, DP1073は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

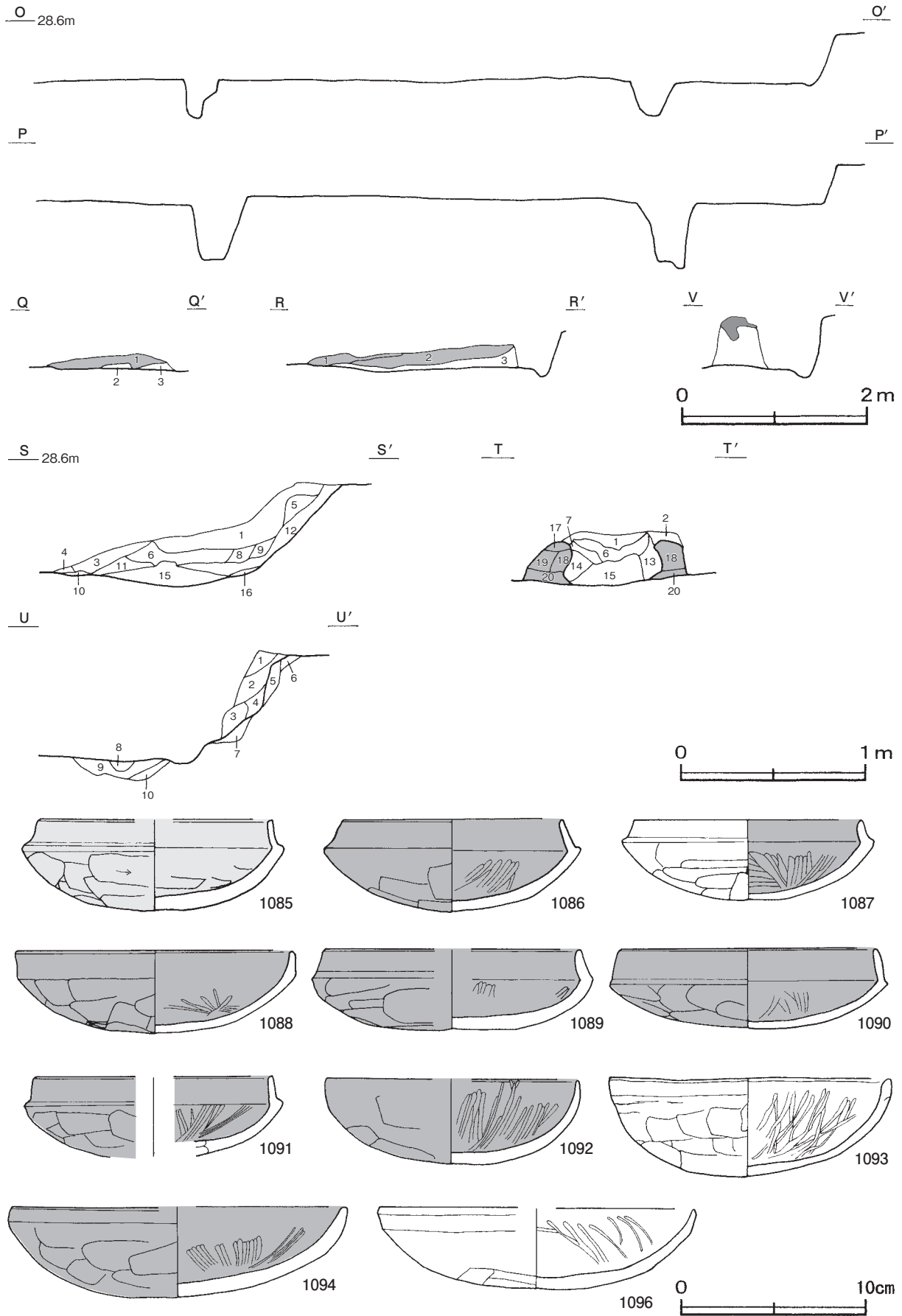
所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。第5号地点貝塚の形成時期は、住居廃絶後、埋め戻す段階で廃棄され、住居廃絶とそれほど時期差はないものと考えられる。

第133号住居跡出土遺物観察表(第208～210図)

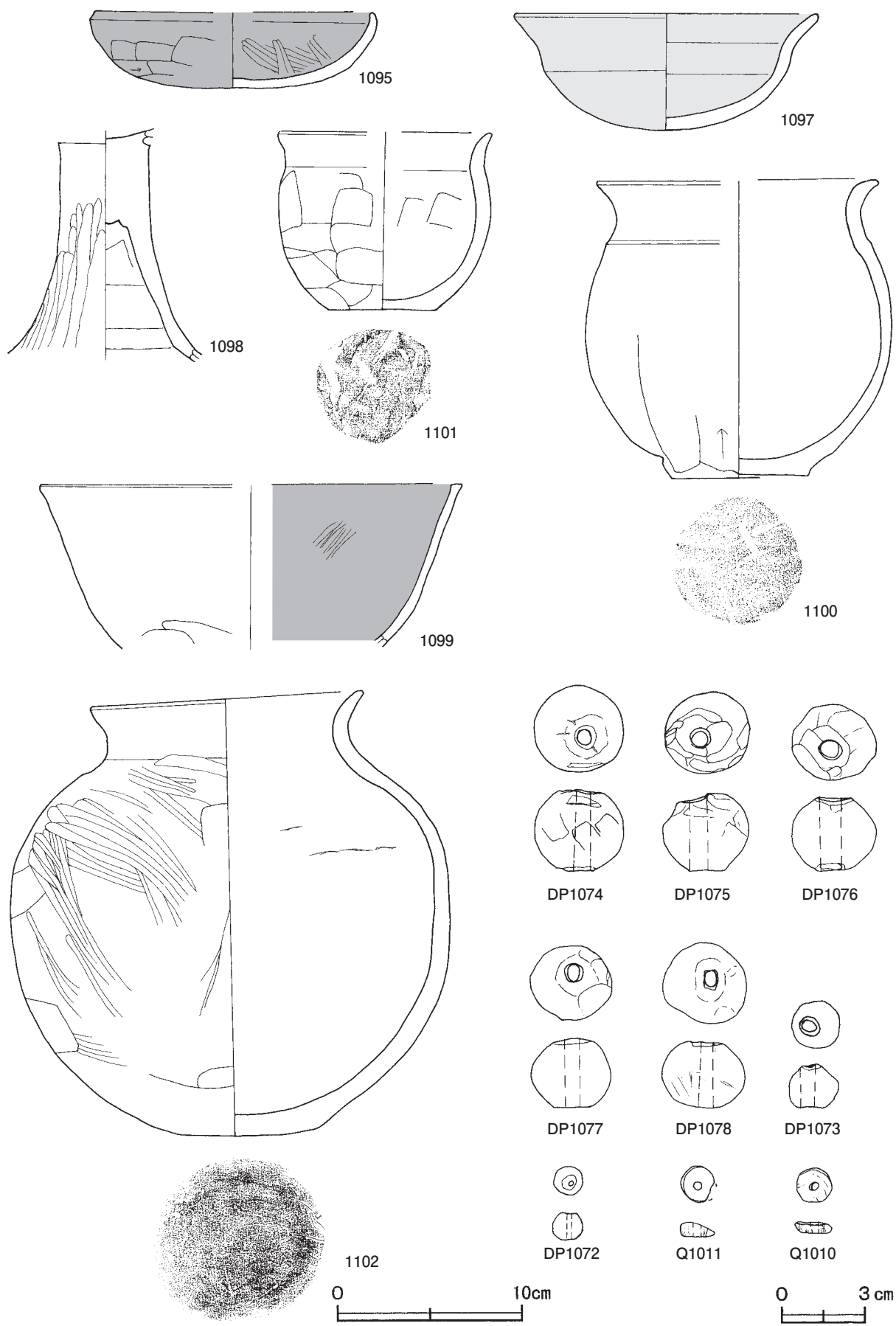
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1085	土師器	坏	[12.4]	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	80% PL102
1086	土師器	坏	11.7	5.0	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層	90% PL102
1087	土師器	坏	12.2	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	90% PL102
1088	土師器	坏	14.8	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	80% PL102



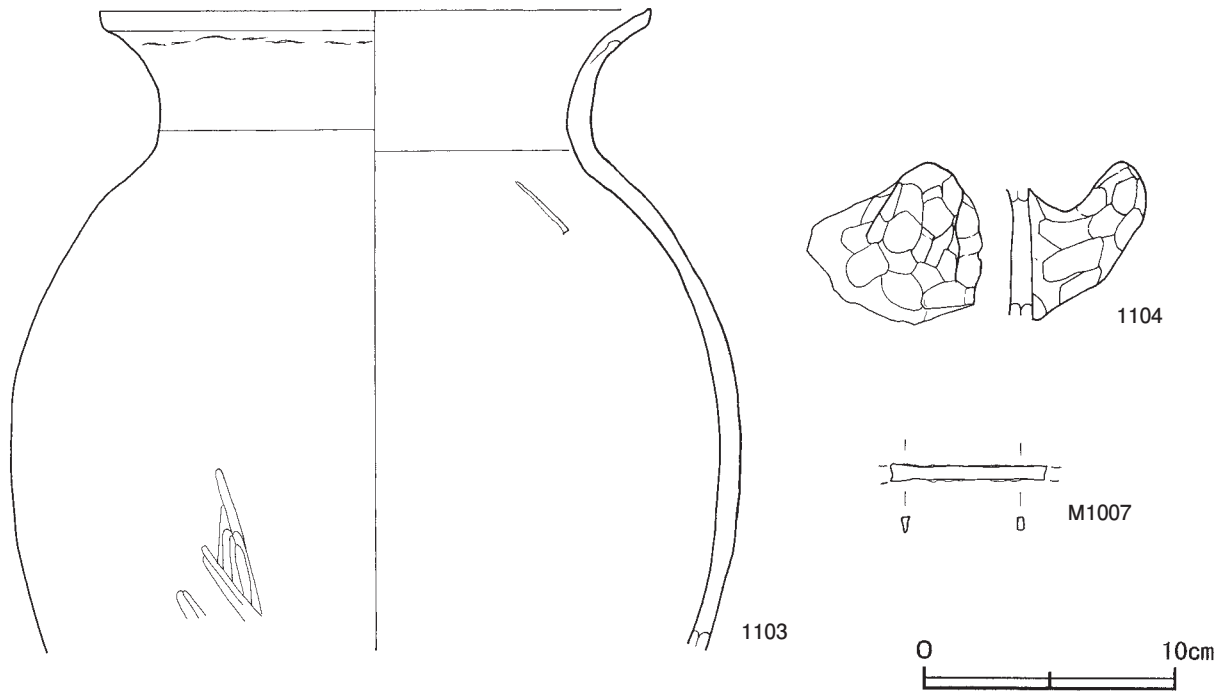
第207图 第133号住居迹实测图



第208图 第133号住居跡・出土遺物実測図



第209图 第133号住居跡出土遺物実測図(1)



第210図 第133号住居跡出土遺物実測図(2)

第133号住居跡出土遺物観察表 (第208 ~ 210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1089	土師器	坏	[13.8]	4.8	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層	40%
1090	土師器	坏	13.9	4.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層~下層	40%
1091	土師器	坏	[12.8]	(4.2)	-	長石・石英	赤灰	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	30%
1092	土師器	坏	[13.6]	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層	70% PL102
1093	土師器	坏	15.0	5.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層	60% PL102
1094	土師器	坏	[18.2]	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	中層~下層	60% PL102
1095	土師器	坏	[15.0]	4.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	30%
1096	土師器	坏	[17.0]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	30%
1097	土師器	椀	16.2	6.3	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部内・外面ナデ	覆土中	60% PL102
1098	土師器	高坏	-	(12.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	40%
1099	土師器	鉢	[22.8]	(8.7)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	覆土中	10%
1100	土師器	小形甕	[14.6]	16.0	7.0	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面下半ヘラ削り 内面ナデ	下層	60% PL103
1101	土師器	小形甕	[11.3]	9.6	5.8	長石・石英	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層	60%
1102	土師器	甕	14.4	24.0	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ、ヘラ磨き 内面ヘラナデ	下層	90% PL103
1103	土師器	甕	21.9	(25.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面下半ヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面直上	30% PL103
1104	土師器	甌	-	(6.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	把手部外面ヘラ削り	下層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1072	小玉	1.0	1.0	0.1	1.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1073	土玉	1.7	1.6	0.5	4.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1074	球状土錘	3.2	3.0	0.6	23.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP1075	球状土錘	3.1	2.8	0.7	(28.4)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1076	球状土錘	3.0	2.6	0.7	19.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1077	球状土錘	2.9	2.9	0.6	19.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1078	球状土錘	3.0	2.9	0.6	20.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1079	球状土錘	3.3	(3.1)	0.6	(19.1)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1080	球状土錘	2.8	2.4	0.5	(8.6)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1081	管状土錘	4.6	(6.2)	1.7	(49.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q1010	白玉	1.3	0.4	0.4	0.8	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	
Q1011	白玉	1.2	0.6	0.3	(0.9)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M1007	刀子	(6.2)	0.7	0.3	(5.4)	鉄	茎部 刀身部欠損	下層	

第135号住居跡（第211・212図）

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 d8区，標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第136号住居跡を掘り込み，第663号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナー部が調査区域外であるが，長軸4.10m，短軸4.05mの方形と推測される。主軸方向はN-2°-Wである。壁高は6～23cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，竈周辺から中央部にかけて踏み固められている。西壁から中央部にかけて貼床が施されている。

竈 北壁の中央寄りに付設されている。両袖部と煙道部の一部は遺存しておらず，焚き口部と火床部が確認された。規模は，焚き口部から煙道部まで66cm，燃焼部幅58cmである。袖部は第14層の砂質粘土やローム粒子を混ぜたにぶい黄褐色土で構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の，壁外への掘り込みと立ち上がりは調査区域外のため，不明である。

竈土層解説

1 にぶい黄褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量	7 にぶい褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
2 にぶい黄褐色	粘土粒子・砂粒中量	8 にぶい褐色	焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
3 にぶい褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	9 にぶい褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子微量
4 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒少量	10 暗赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子微量
5 灰褐色	ロームブロック少量	11 にぶい黄褐色	焼土粒子少量，粘土粒子・砂粒微量
6 にぶい褐色	焼土ブロック多量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
		13 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，砂粒微量
		14 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，砂粒少量

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ47・53cmで，主柱穴である。P 3は深さ31cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットである。第1層は柱の抜き取り痕である。

ピット土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	4 褐色	ロームブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 褐色	ローム粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量		

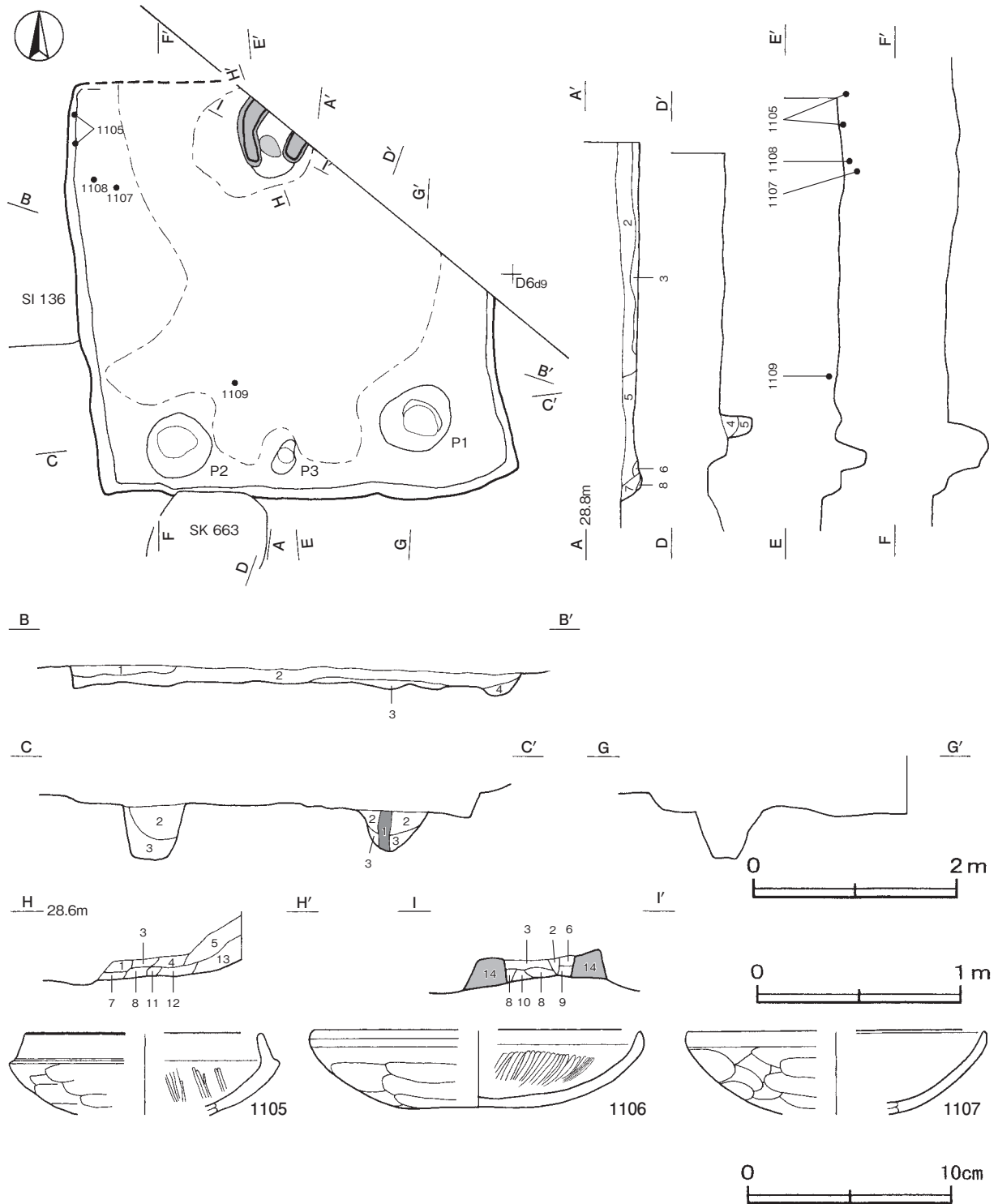
覆土 8層に分けられる。ロームブロック・粘土粒子を含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

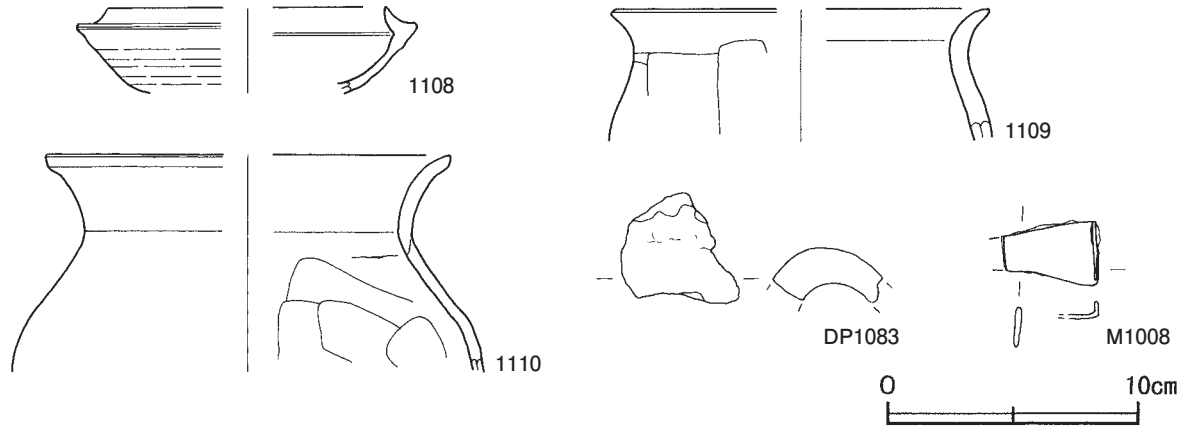
1 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	5 褐色	ロームブロック中量
2 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量	6 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量，粘土粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片238点（坏類33・高坏2・甕類203），須恵器1点（坏），土製品5点（球状土錘1・羽口2・不明土製品2），金属製品1点（鎌），鉄滓1点が出土している。遺物の大半は西壁寄りの覆土中層から下層にかけて出土している。1106はP2内と第136号住居跡の覆土中から出土した破片が接合したものである。1105・1107・1108は北西コーナー部の覆土下層，1109は南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀末から7世紀初めと考えられる。



第211図 第135号住居跡・出土遺物実測図



第212図 第135号住居跡出土遺物実測図

第135号住居跡出土遺物観察表（第211・212図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1105	土師器	坏	[11.5]	(4.4)	-	長石・雲母	黄灰	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	30%
1106	土師器	坏	[16.0]	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	P2内・SI-136 覆土中	40%
1107	土師器	坏	[14.6]	(4.0)	-	長石・石英	灰白	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面ナデ	下層	10%
1108	須恵器	坏	[13.4]	(3.4)	-	長石・石英	灰	普通		下層	10%
1109	土師器	甕	[14.8]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ	中層	10%
1110	土師器	甕	[16.0]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	上層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1082	球状土錘	3.0	(3.0)	0.6	(10.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部破損	覆土中	計測のみ

番号	器種	長さ	最大径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1083	羽口	(4.3)	(4.7)	-	(27.2)	粘土	ナデ 鉄滓付着	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1008	鎌	(3.8)	2.6	0.2	(9.5)	鉄	茎部	覆土中	PL121

第136号住居跡（第213・214図）

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 c7区，標高28.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第135号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナー部が調査区域外である。確認できた規模は，南北軸6.72m，東西軸7.60mで，長方形または方形と推測される。主軸方向はN-86-E°である。壁高は22～38cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。西壁の壁下には，幅28～34cm，深さ7cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

ピット 深さ71cmで，主柱穴である。

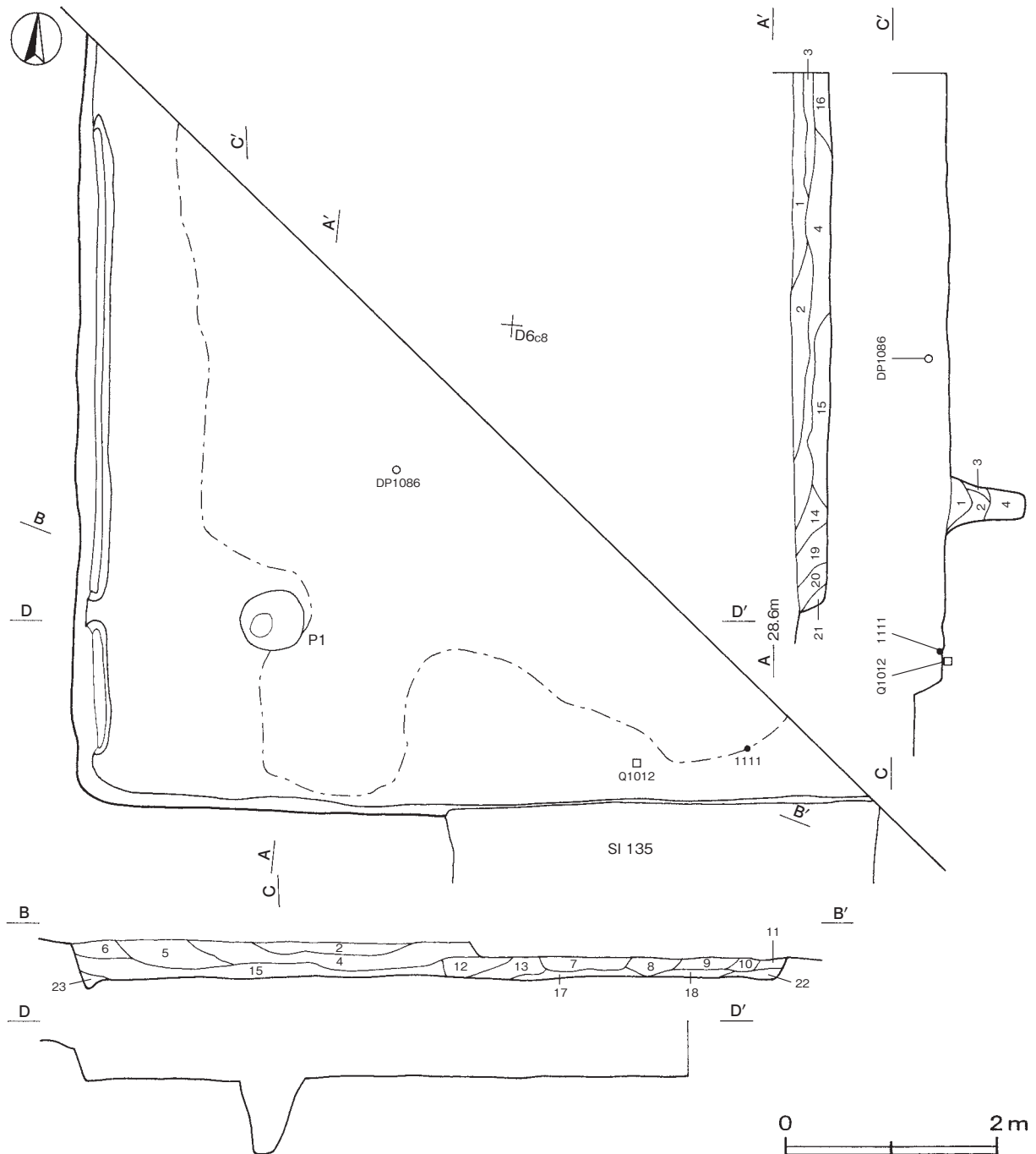
ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 23層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

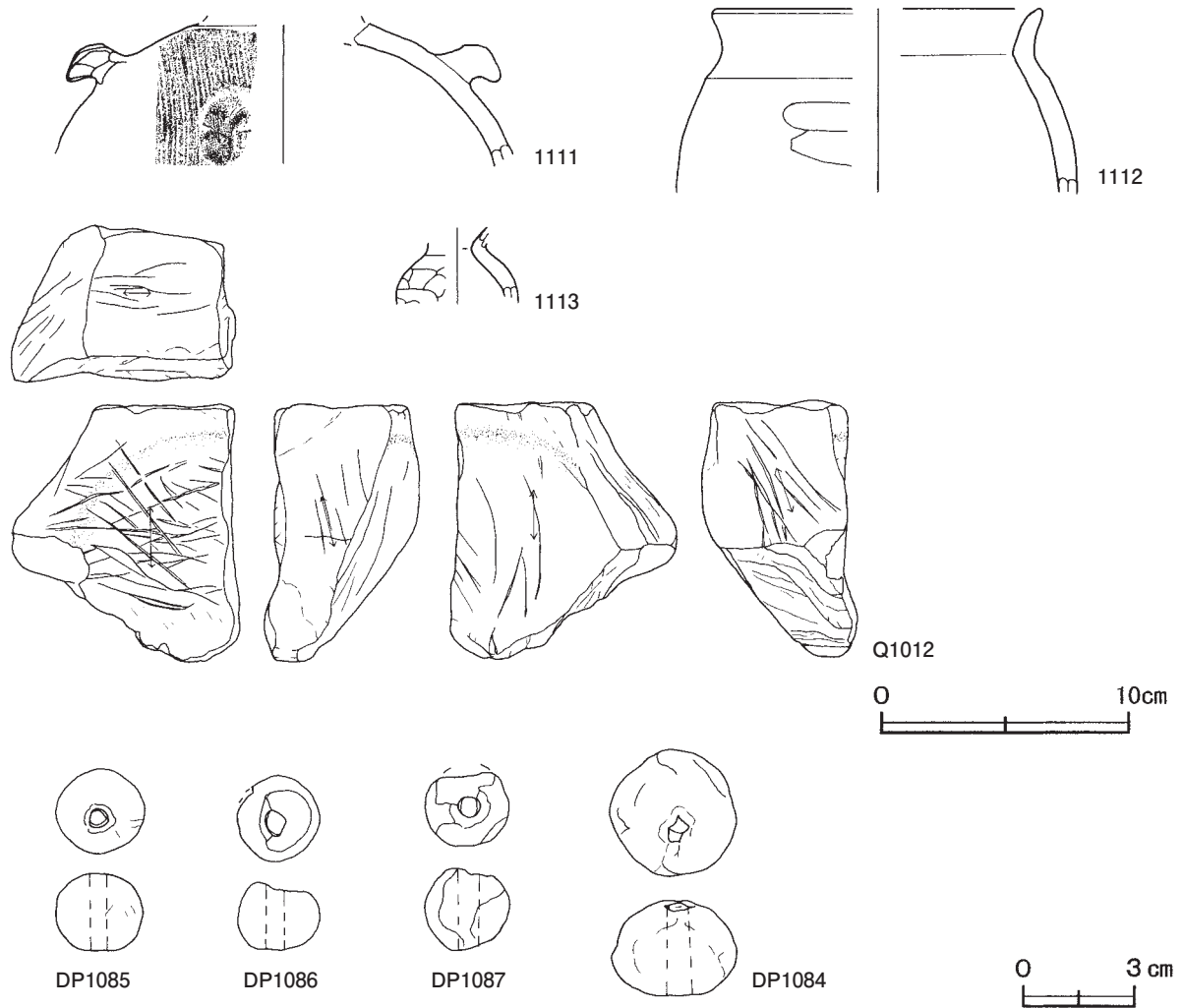
- | | | | |
|--------|------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 14 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | 粘土粒子微量 | 17 褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 粘土粒子少量, 砂粒微量 | 18 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 19 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 20 灰褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 褐色 | ロームブロック多量, 粘土粒子少量 | 21 褐色 | ロームブロック多量 |
| 10 暗褐色 | 粘土ブロック・砂粒少量, ロームブロック微量 | 22 褐色 | ローム粒子少量 |
| 11 褐色 | ロームブロック少量 | 23 褐色 | ローム粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ロームブロック多量, 粘土粒子少量 | | |



第213図 第136号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片256点（坏類40・高坏1・甕類212・甌2・ミニチュア土器1），須恵器7点（提瓶1・瓶2・甕4），土製品4点（球状土錘），石器1点（砥石），礫2点が出土している。遺物の大半は全域の覆土中層から下層にかけて出土している。1111は南壁寄り，DP1086は中央部の覆土上層，Q1012は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第214図 第136号住居跡出土遺物実測図

第136号住居跡出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1111	須恵器	提瓶	-	(5.6)	-	長石	灰	良好	把手部ヘラ削り	下層	10%
1112	土師器	小形甕	[13.2]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土中	20%
1113	土師器	ミニチュア土器	-	(3.0)	-	長石・雲母	橙	普通	頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	30%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1084	球状土錘	3.4	2.6	0.5	27.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1085	球状土錘	2.3	2.1	0.5	10.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1086	球状土錘	2.3	1.8	0.5	(8.7)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	上層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1087	球状土錘	2.3	2.2	0.6	(88)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部破損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1012	砥石	10.4	9.1	6.3	(230.4)	砂岩	石皿から転用 砥面5面	下層	

第137号住居跡（第215～218図）

位置 調査Ⅱ区北部のD6b5区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第131号住居跡を掘り込み、第677号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナー部が調査区域外である。規模は、長軸5.81m、短軸5.78mの方形で、主軸方向はN-78°-Eである。壁高は24～45cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、柱穴際を除き、踏み固められている。北東コーナー部を除く壁下には、幅13～30cm、深さ4～18cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。また、西壁から中央部の一部に貼床が施されている。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、燃焼部幅52cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	10 灰黄褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	12 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
4 極暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量	13 灰赤色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
6 褐色	ロームブロック少量	15 灰赤色	粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック中量
7 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、粘土粒子・砂粒微量	16 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量
8 にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量		
9 褐灰色	粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ65～74cmで、主柱穴である。P5は深さ30cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。第2層は柱痕である。

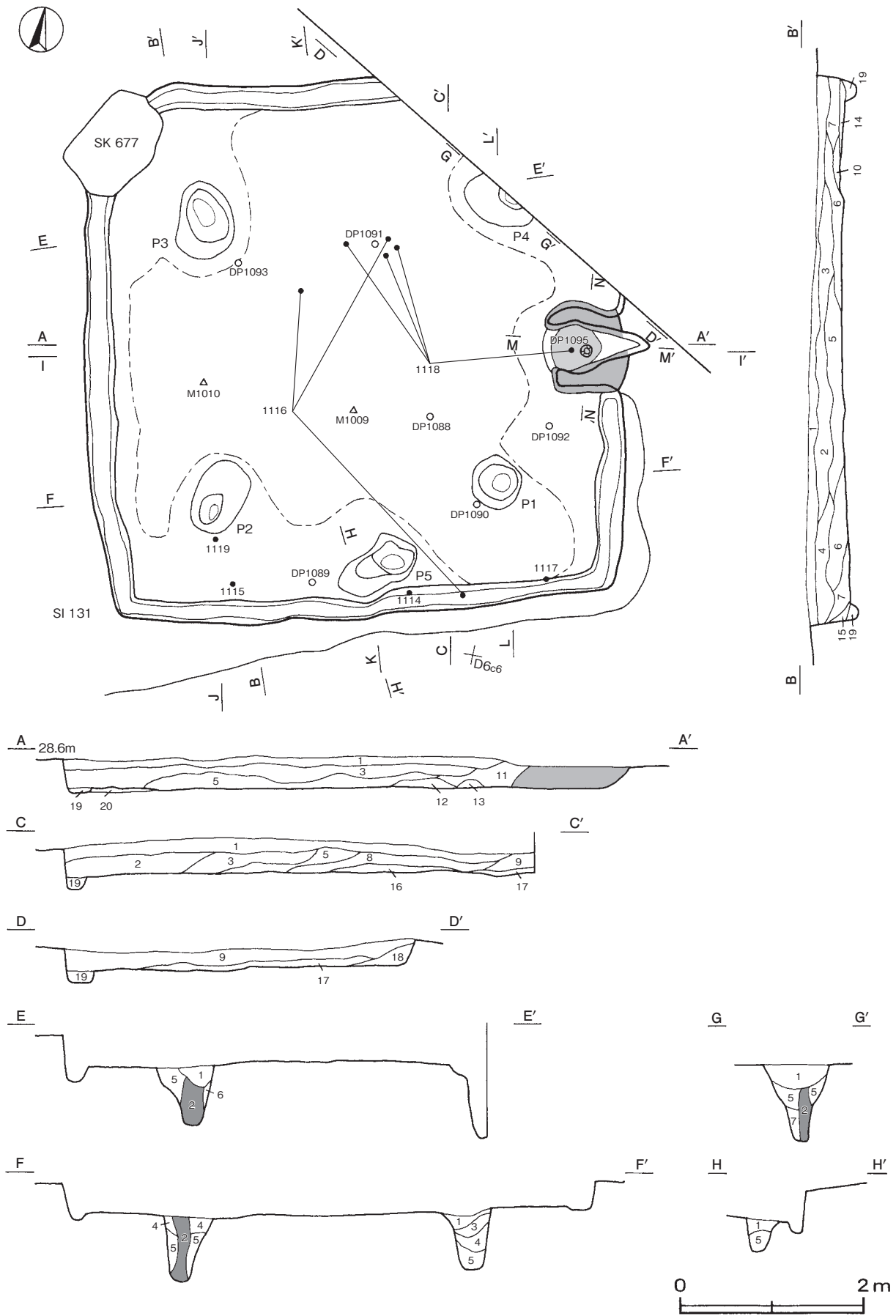
ピット土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	5 明褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
3 褐色	ローム粒子中量	7 褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量		

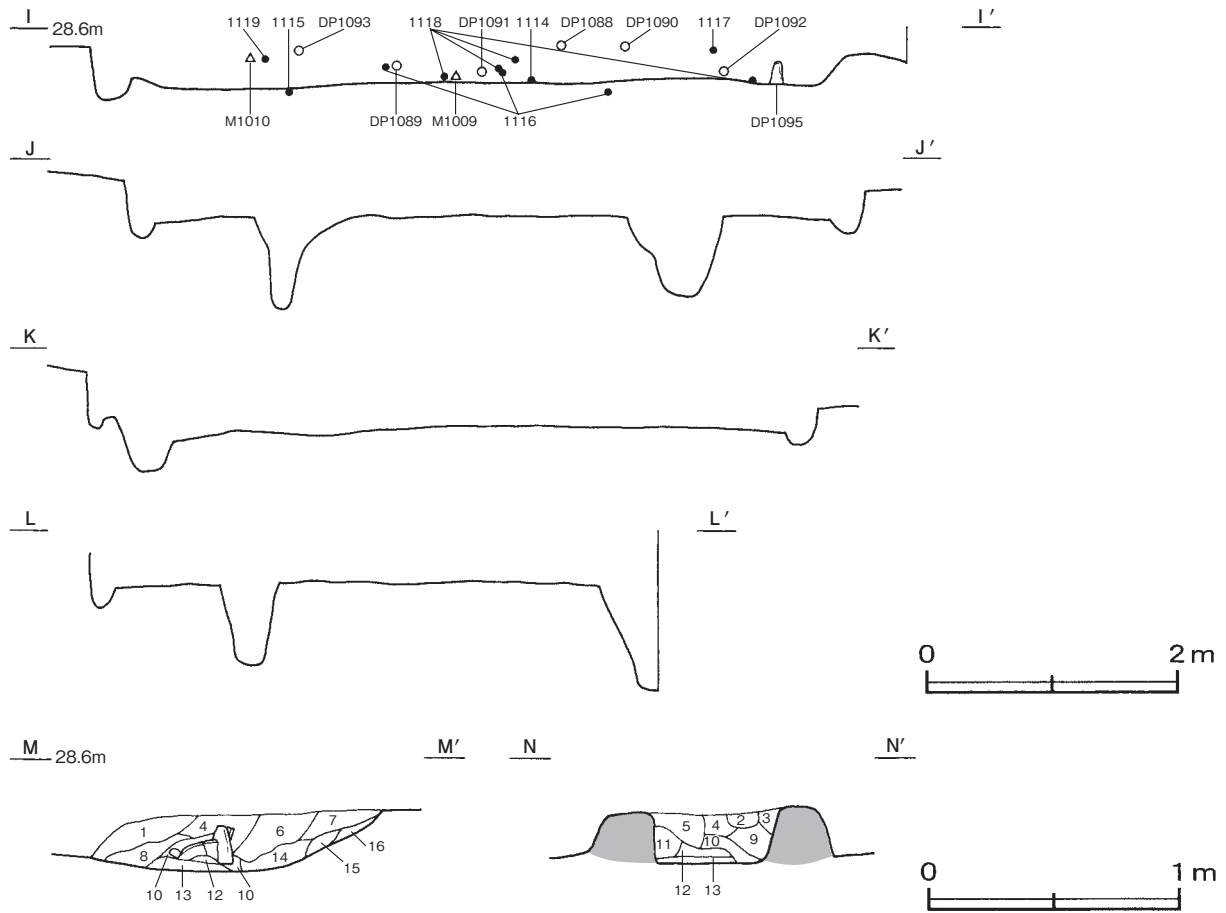
覆土 20層に分けられる。ロームブロック・粘土粒子を含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	炭化物・焼土粒子・砂粒少量、ロームブロック・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量	12 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
3 灰褐色	ロームブロック少量	13 暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
5 暗褐色	炭化物・焼土粒子・砂粒少量、ロームブロック・粘土粒子微量	15 灰褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量	16 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量	17 暗褐色	炭化物・焼土粒子・砂粒少量、ロームブロック・粘土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量	18 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量
9 灰褐色	ロームブロック少量	19 暗褐色	ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック微量
10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	20 暗褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量（貼床構築土）



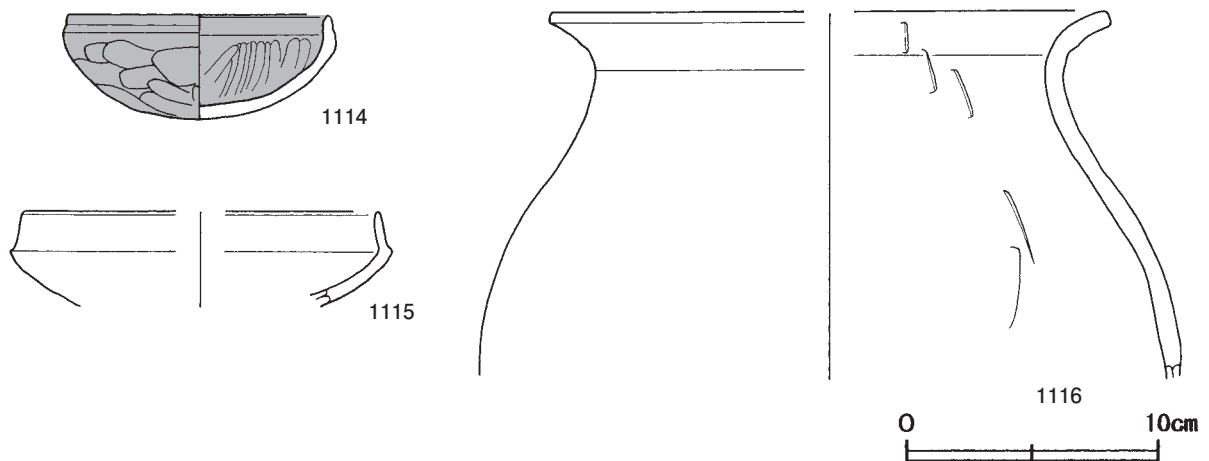
第215图 第137号住居跡実測図(1)



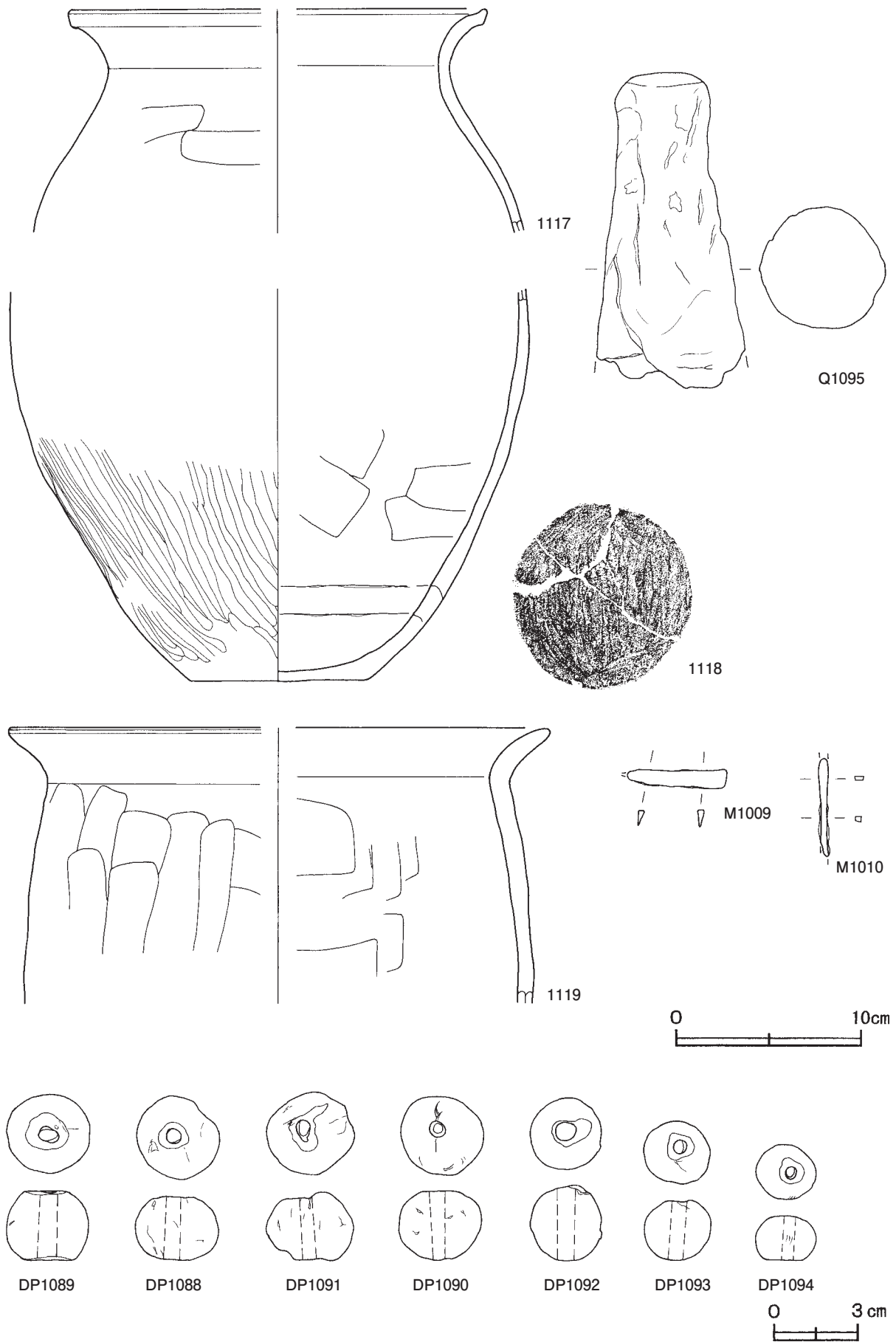
第216図 第137号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片626点(坏95・甕類531), 土製品13点(球状土錘7・支脚1・不明土製品5), 金属製品3点(刀子2・鉄鏃1)が出土している。遺物の大半は全域の覆土上層から下層にかけて出土している。1114は南壁寄り覆土下層から出土している。1118は, 竈火床部と中央部の覆土中層から下層に出土した破片が接合したものである。DP1088～DP1094は, 竈内と中央部から南壁にいたる覆土上層から下層にかけて, 散在した状態で出土している。また, DP1095は竈火床部中央に据えられて出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第217図 第137号住居跡出土遺物実測図(1)



第218図 第137号住居跡出土遺物実測図(2)

第137号住居跡出土遺物観察表（第217・218図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1114	土師器	坏	10.4	4.1	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き	下層	80% PL
1115	土師器	坏	[15.7]	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	淡黄	普通	口縁部外面横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	10%
1116	土師器	甕	[22.0]	(14.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	中層～下層	10%
1117	土師器	甕	[22.2]	(11.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ナデ	上層・SI-131 覆土中	10%
1118	土師器	甕	-	(21.0)	9.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ	竈内下層・中層～下層	50%
1119	土師器	甗	[29.0]	(14.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	中層・SI-131 覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1088	球状土錘	3.0	2.3	0.5	20.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1089	球状土錘	3.0	2.5	0.6	22.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1090	球状土錘	3.0	2.5	0.5	20.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1091	球状土錘	3.1	2.4	0.5	21.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1092	球状土錘	2.5	2.7	0.7	16.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	竈内下層	
DP1093	球状土錘	2.4	2.1	0.5	11.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1094	球状土錘	2.1	1.6	0.4	6.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1095	支脚	(16.9)	7.9	4.7	(556)	粘土	ナデ 端部破損	竈内	PL118

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1009	刀子	(5.4)	1.0	0.3	(5.7)	鉄	刃部	下層	PL120
M1010	不明鉄製品	(5.3)	0.5	0.3	(2.8)	鉄	基部	中層	

第140号住居跡（第219・220図）

位置 調査Ⅱ区東部のD7i3区、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第141・143号住居と第28号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.30m、短軸5.90mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は26～36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、各コーナー部を除き、踏み固められている。北壁際と南東コーナー部の一部を除く壁下には、幅19～24cm、深さ4～20cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。竈左袖部脇に粘土塊が確認された。これは、住居廃絶後に投棄されたものである。

粘土塊土層解説

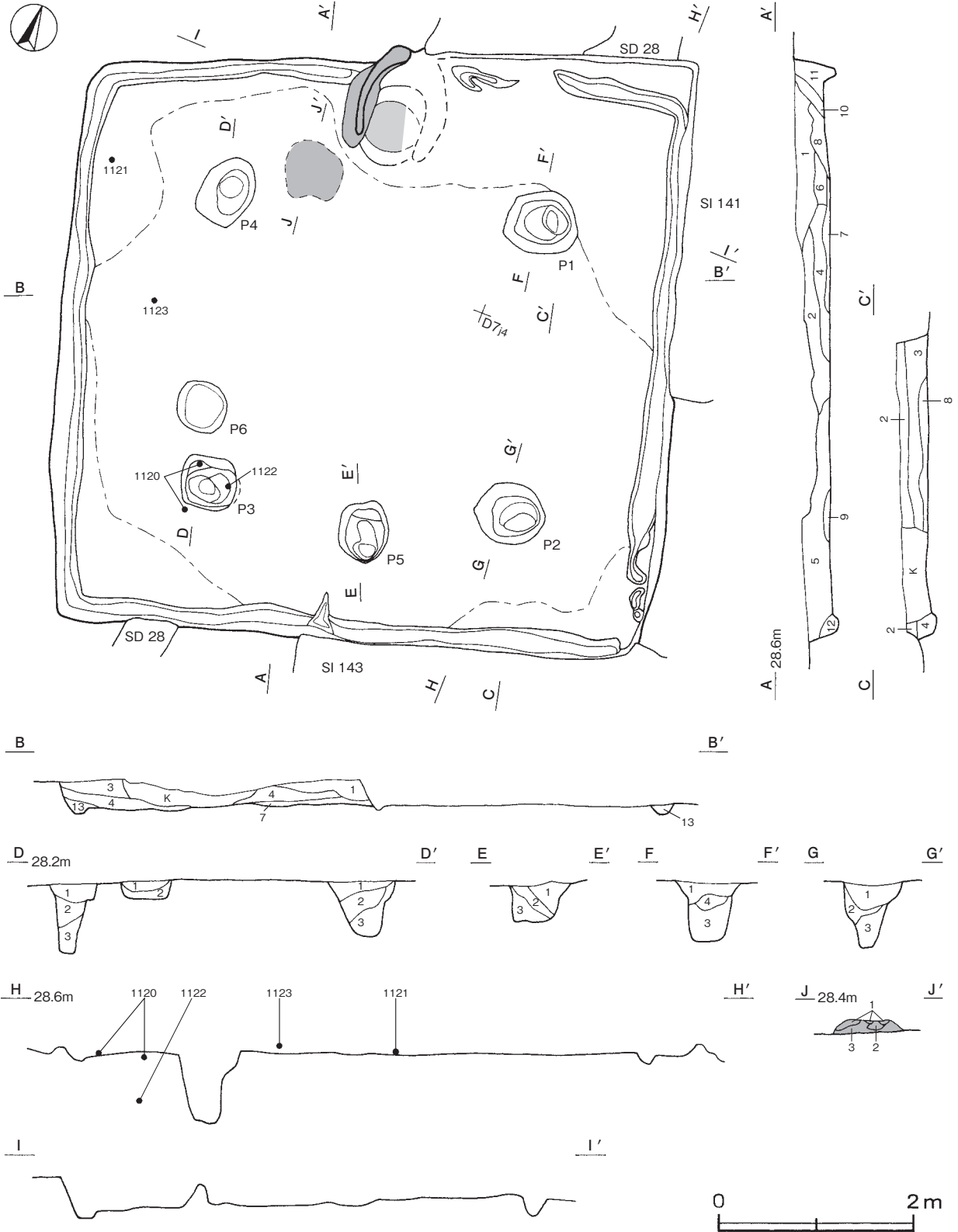
- 1 灰褐色 粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック中量

竈 北壁の中央部に付設されている。東部を第141号住居に掘り込まれているため、左半分しか遺存していない。確認された規模は、焚口部から煙道部まで108cm、燃焼部幅39cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。土層は、第141号住居に掘り込まれているため、観察することができなかった。

ピット 6か所。P1～P4は深さ58～78cmで、支柱穴である。P5は深さ41cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P6は深さ19cmで、性格不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |



第219図 第140号住居跡実測図

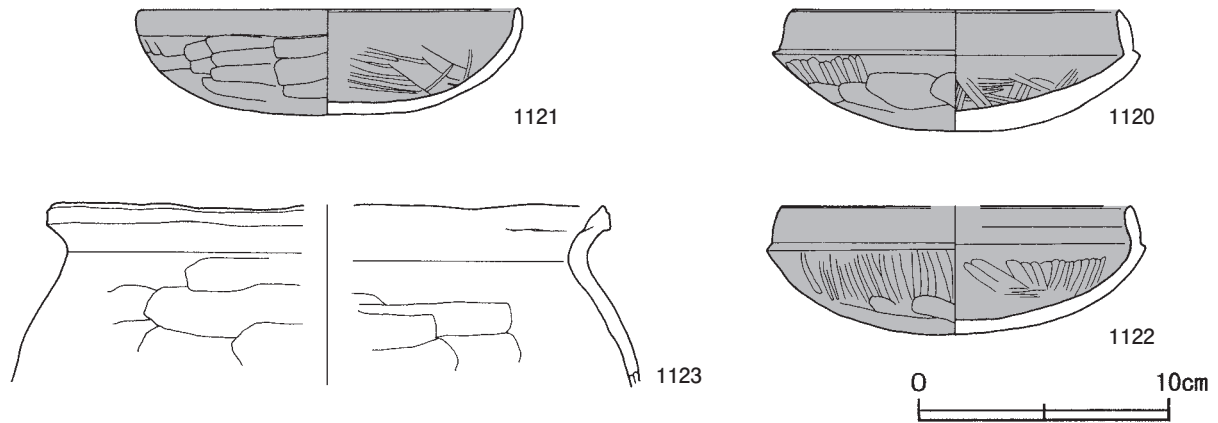
覆土 13層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 5 灰褐色 | ロームブロック中量 | 12 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 灰褐色 | 粘土粒子多量 | 13 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 7 灰褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片334点（坏121・甕類213）、土製品12点（支脚片）が出土している。遺物の大半は西壁寄りの覆土上層から下層にかけて出土している。1120は南西コーナー部の床面直上と覆土下層から出土した破片が、1122はP3の覆土中と北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1121は北西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第220図 第140号住居跡出土遺物実測図

第140号住居跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1120	土師器	坏	12.9	4.9	-	長石	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内・外面縦位のヘラ磨き	床面直上・下層	90% PL
1121	土師器	坏	15.0	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面縦位のヘラ磨き 底部ヘラ切り後、手持ちヘラ削り	下層	70% PL
1122	土師器	坏	[13.8]	5.2	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内・外面縦位のヘラ磨き	P3内下層	50%
1123	土師器	甕	[21.8]	(7.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	下層	10%

第143号住居跡（第221・222図）

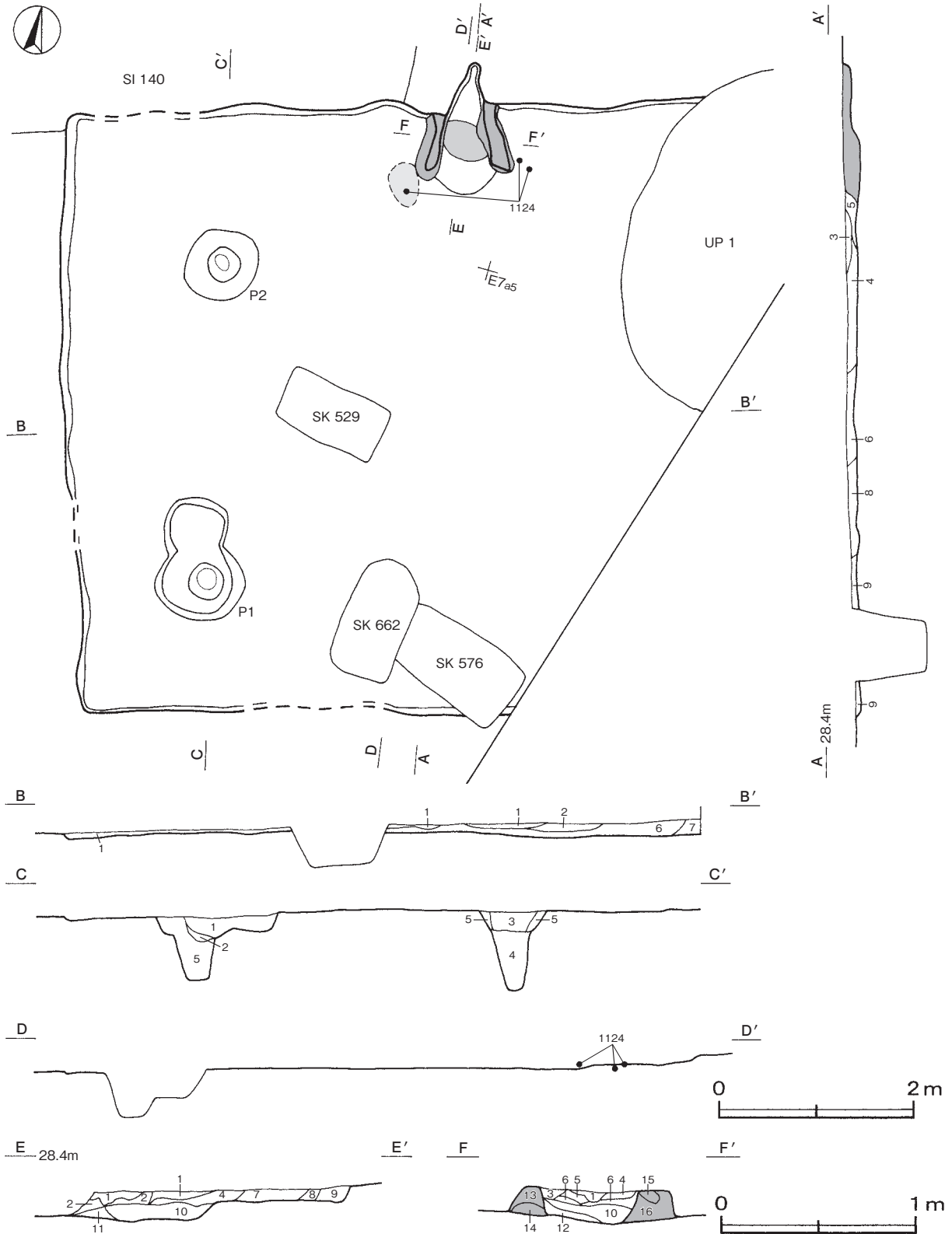
位置 調査Ⅱ区東部のE7a4区、標高28.3mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第140号住居跡を掘り込み、第1号地下式坑、第529・576・662号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東壁から南東コーナー部にかけて調査区域外である。南北軸が6.50mで、東西軸は6.28mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は6～24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、踏み固められていない。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで133cm， 燃焼部幅56cmである。袖部は第13～16層の砂質粘土や焼土粒子を混ぜたにぶい黄褐色土で構築されている。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に43cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。



第221図 第143号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 褐 灰 色 粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 9 褐 色 ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 灰 黄 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 灰 褐 色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 11 にぶい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 にぶい褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | 12 にぶい褐色 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 明 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 13 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・砂粒少量 |
| 6 暗 赤 褐 色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 14 暗 褐 色 粘土粒子・砂粒少量 |
| 7 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 15 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 砂粒中量, 粘土粒子少量 |
| 8 暗 褐 色 ロームブロック少量, 砂粒微量 | 16 にぶい黄褐色 粘土粒子・砂粒中量 |

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ65・81cmで、主柱穴である。

ピット土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 褐 色 ロームブロック少量 | 4 暗 褐 色 ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐 色 ローム粒子少量 | 5 褐 色 ロームブロック微量 |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

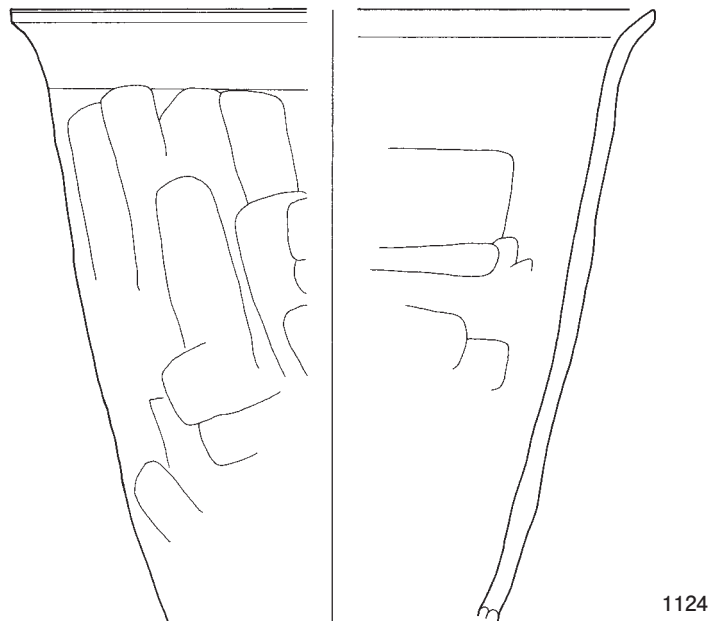
覆土 9層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 灰 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 7 黒 褐 色 ローム粒子微量 |
| 3 灰 褐 色 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 | 8 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 9 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 5 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 | |

遺物出土状況 土師器片144点（坏類25・甕類117・甌2），土製品17点（支脚片）が出土している。遺物の大半は北部の覆土上層から下層にかけて出土している。1124は竈両袖部脇の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から7世紀代と考えられる。



第222図 第143号住居跡出土遺物実測図

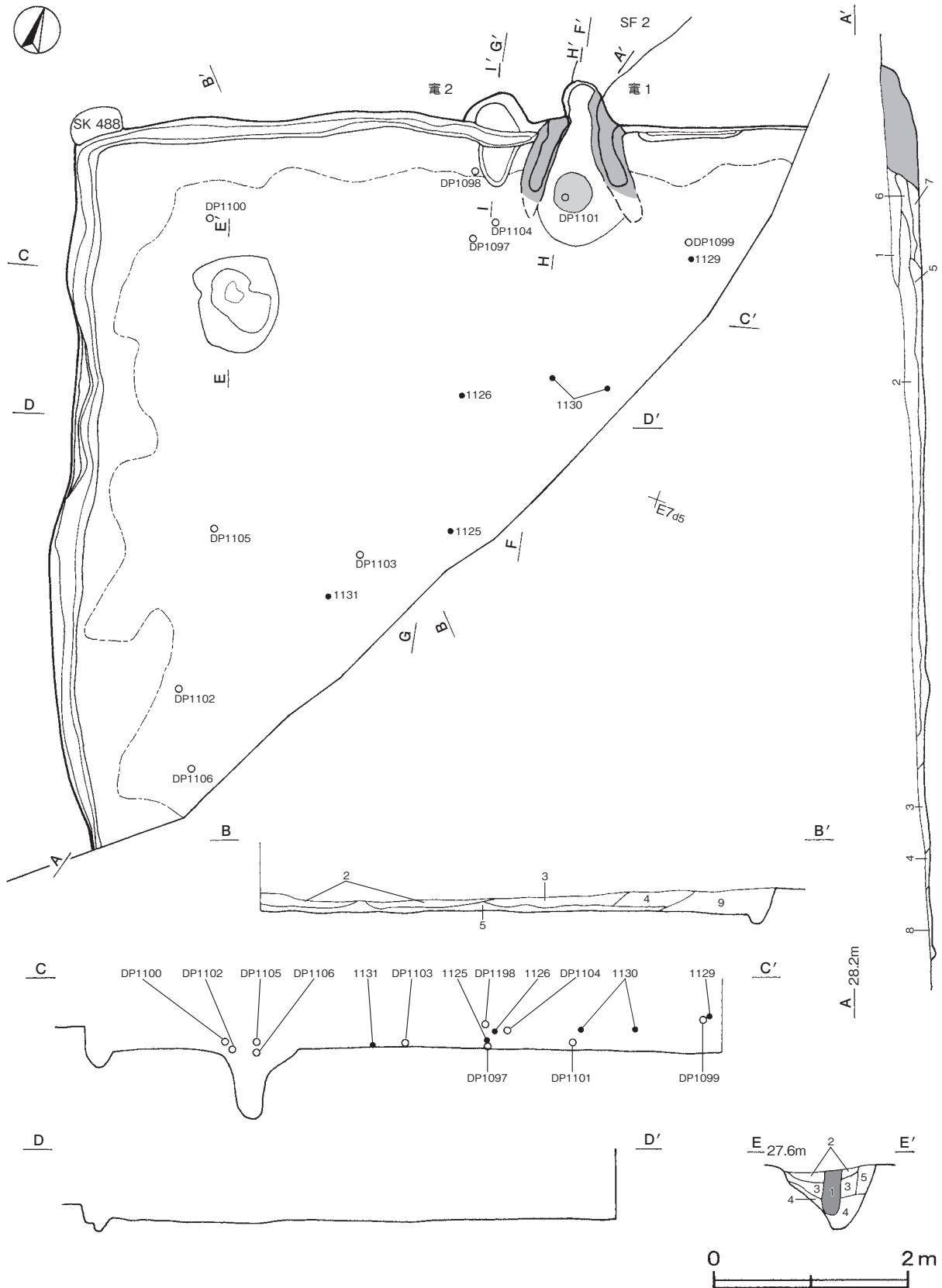
第143号住居跡出土遺物観察表（第222図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1124	土師器	甌	[25.4]	(24.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	下層	20%

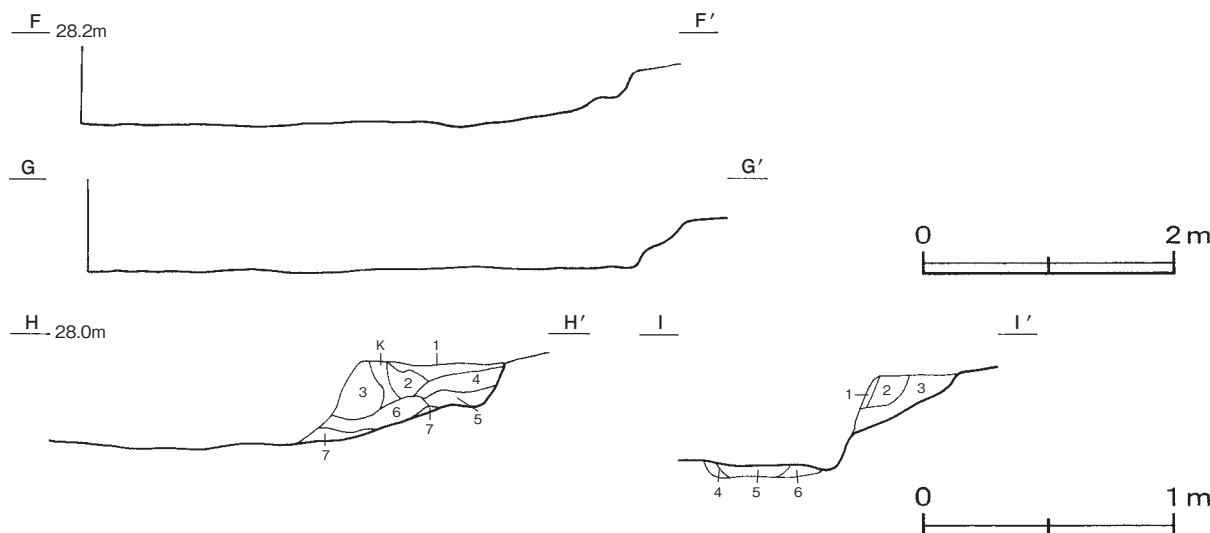
第144号住居跡（第223～225図）

位置 調査Ⅱ区東部のE7c4区、標高27.9mの緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第2号道路、第488号土坑に掘り込まれている。



第223図 第144号住居跡実測図(1)



第224図 第144号住居跡実測図(2)

規模と形状 東壁から南壁にかけて調査区域外のため、確認できた規模は、南北軸7.13m、東西軸7.53mで、長方形または方形と推測される。主軸方向はN-14°-Wである。壁高は14～23cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北壁・西壁際を除いて、踏み固められている。北壁から西壁にかけての壁下には、幅8～34cm、深さ9～14cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 2か所。竈1は北壁やや東寄りに付設されている。両袖部の先端が欠損している。規模は、焚口部から煙道部まで169cm、燃焼部幅74cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰白色土で構築されている。また、第2・3・6層は天井部の崩落土である。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈2は北壁の中央部に付設されている。袖部と火床部は遺存しておらず、焚き口部の掘方と煙道部が確認された。規模は、焚口部から煙道部まで96cm、焚き口部幅36cmである。第4～6層は掘方への埋土である。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈1が残り、竈2が煙道部しか確認できないことから、竈2から竈1へ作り替えられたと考えられる。

竈1土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 褐灰色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 褐灰色 | 粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 7 にぶい褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 褐灰色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 | | |

竈2土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|----------|---------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土粒子中量、ロームブロック・砂粒微量 | 5 にぶい黄褐色 | 砂粒中量、ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 灰黄褐色 | 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、砂粒微量 |

ピット 深さ74cmで、主柱穴である。第1層は柱痕である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック微量 | 5 灰褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 灰褐色 | ロームブロック少量 | | |

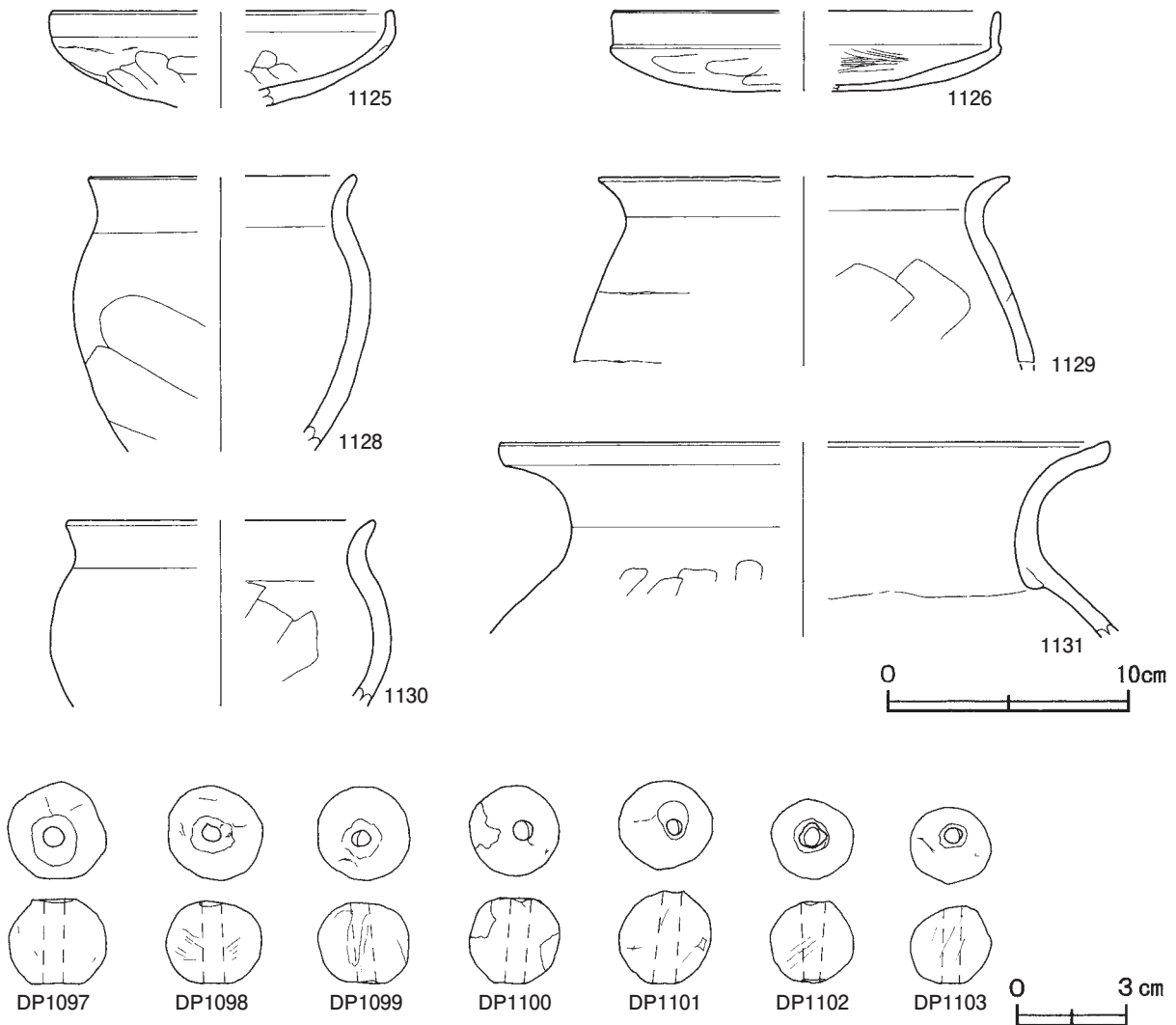
覆土 9層に分けられる。ロームブロック・粘土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 極 暗 褐 色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック中量 | 8 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子多量 | 9 極 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 5 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片369点(坏113・甕類250・甑5・手捏土器1), 土製品25点(土玉1・球状土錘10・管状土錘1・不明品13)が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1125・1131・DP1103・DP1105は中央部, DP1100は北西コーナー部, DP1102・DP1106は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。また, DP1097～DP1099・DP1101・DP1104は竈周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。



第225図 第144号住居跡出土遺物実測図

第144号住居跡出土遺物観察表(第225図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1125	土師器	坏	[14.0]	(3.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面手持ちへら削り	体部内・	下層 20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1126	土師器	坏	[15.8]	(3.2)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面手持ちヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	中層	10%
1128	土師器	小形甕	[10.9]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ	覆土中	10%
1129	土師器	小形甕	[17.0]	(7.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 輪積痕	上層	10%
1130	土師器	小形甕	[12.6]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	中層	10%
1131	土師器	甕	[25.1]	(8.0)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面輪積痕	下層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1096	土玉	2.0	(1.5)	0.5	(3.3)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1097	球状土錘	2.7	2.3	0.5	15.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1098	球状土錘	2.5	2.2	0.5	15.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1099	球状土錘	2.5	2.2	0.5	13.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1100	球状土錘	2.5	2.3	0.5	(13.4)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	
DP1101	球状土錘	2.5	2.5	0.5	14.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1102	球状土錘	2.3	2.2	0.7	10.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1103	球状土錘	2.2	2.1	0.5	9.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1104	球状土錘	2.7	2.3	0.5	(7.5)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	計測のみ
DP1105	球状土錘	2.2	2.1	0.4	(4.8)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	計測のみ
DP1106	球状土錘	2.4	(2.0)	0.5	(5.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	下層	計測のみ
DP1107	管状土錘	3.6	(3.3)	-	(19.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	計測のみ

第150号住居跡（第226図）

位置 調査Ⅱ区西部のE 5 b4区、標高28.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第151号住居，第577号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部と北部がトレンチにより攪乱を受けている。壁が削平されており，硬化面の広がりから，南北軸4.32m，東西軸3.36mしか確認できなかった。主軸方向がN-15°-Eの長方形または方形と推測される。壁高は5cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されており，左袖部・火床部・煙道部の一部しか遺存していない。確認できた規模は，焚口部から煙道部まで62cm，燃焼部幅42cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。北壁が削平されているため，壁外への掘り込みは不明であるが，煙道部は火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

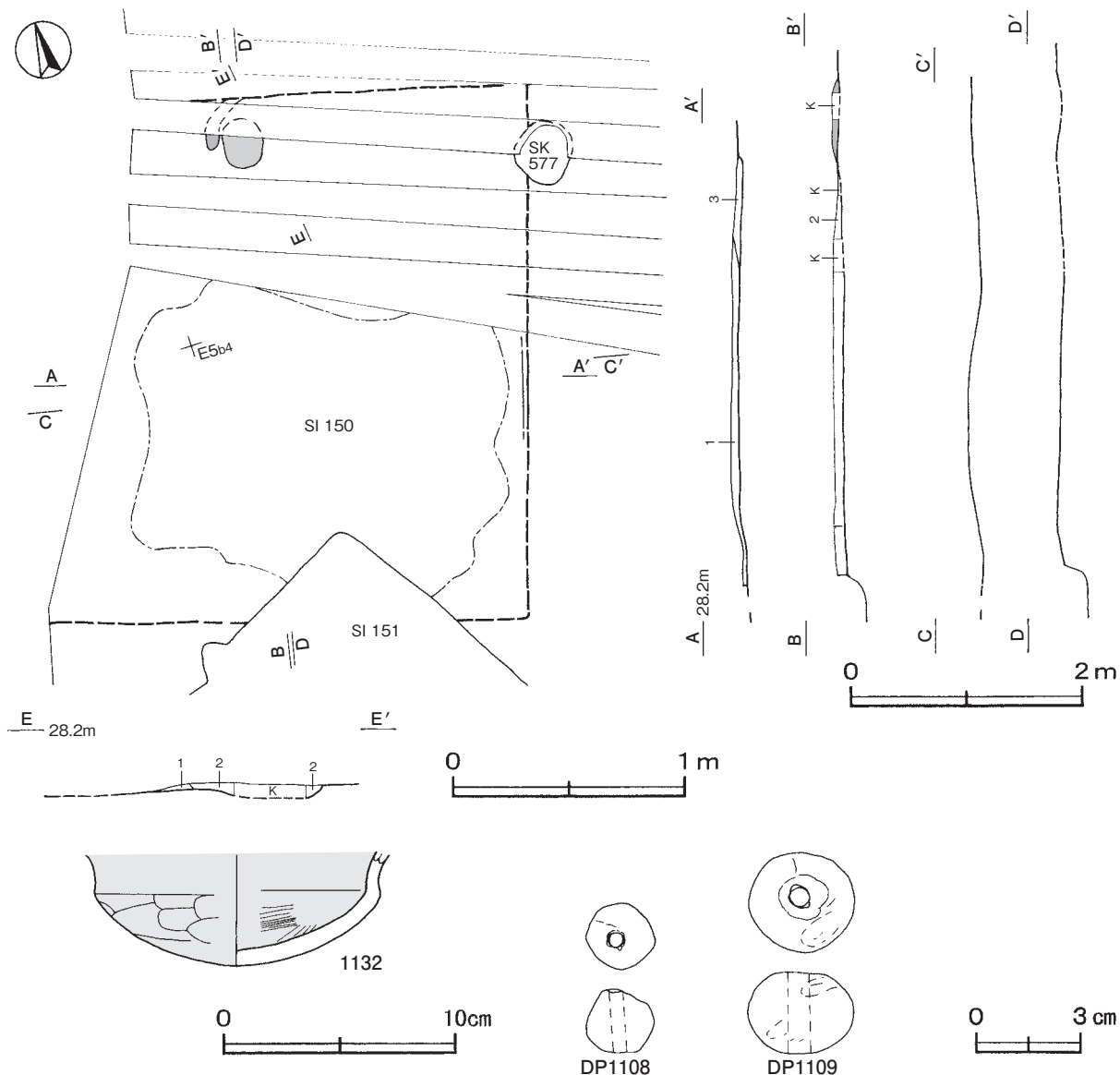
覆土 3層に分けられる。層厚が薄く，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 3 褐色 ローム粒子中量
2 にぶい褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片51点（坏16・甕類35），須恵器片6点（甕），土製品2点（土玉・球状土錘），礫2点が出土している。1132・DP1108・DP1109は，覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器や重複関係から6世紀前葉と考えられる



第226図 第150号住居跡・出土遺物実測図

第150号住居跡出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴		出土位置	備考
									体部外面	手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き		
1132	土師器	坏	-	(4.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面	手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	20%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
DP1108	土玉	2.0	1.8	0.4	6.3	粘土	ナデ	一方向からの穿孔	覆土中	
DP1109	球状土錘	3.0	2.3	0.6	20.2	粘土	ナデ	一方向からの穿孔	覆土中	

第151号住居跡（第227～229図）

位置 調査Ⅱ区西部のE5b4区、標高27.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第150号住居跡を掘り込み、第30号溝に掘り込まれている。

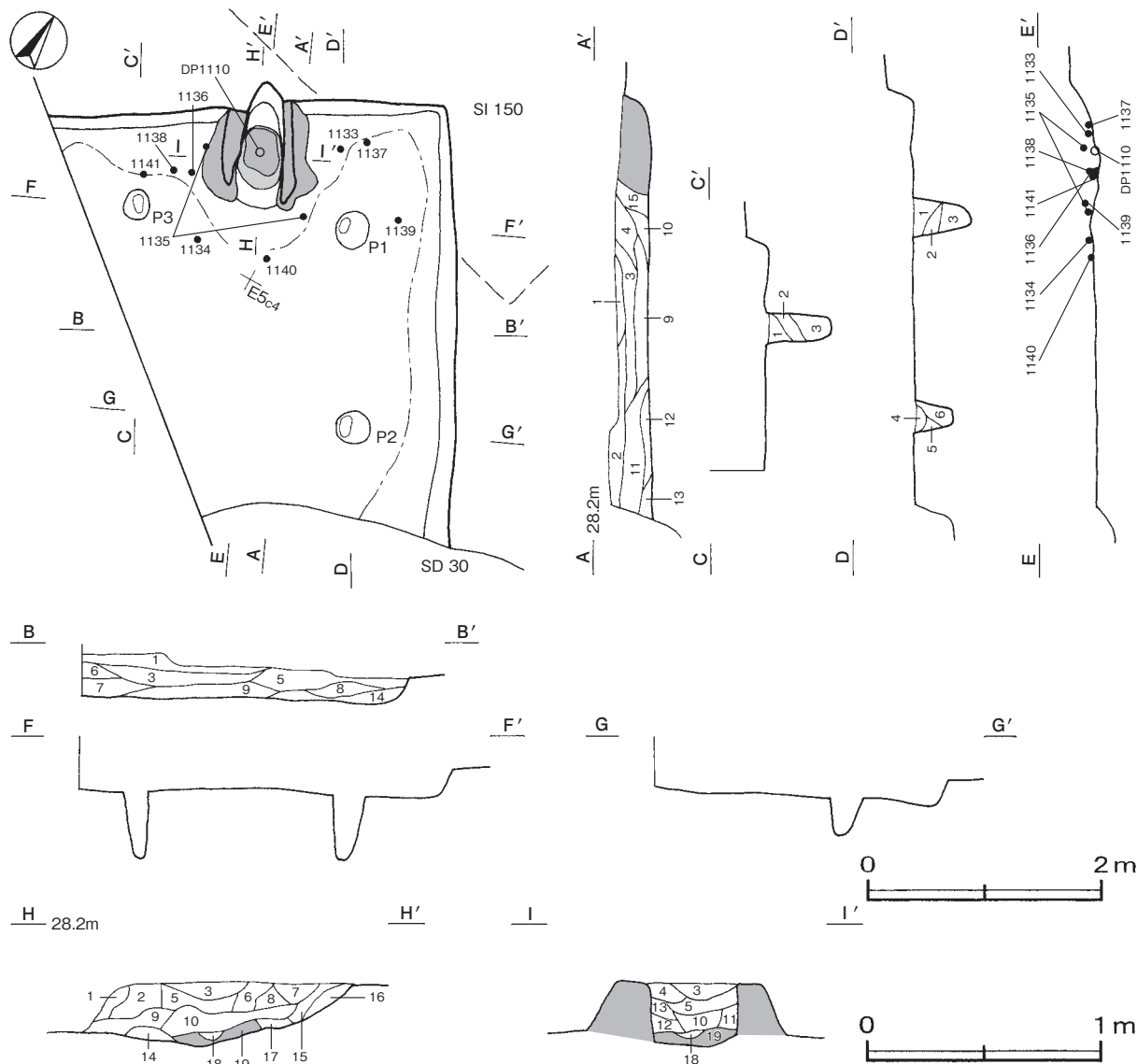
規模と形状 南西部が調査区域外である。確認できた規模は、南北軸3.74m、東西軸3.40mで、長方形又は方形と推測される。主軸方向はN-27°-Wである。壁高は20～24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

竈 北西壁の北寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで108cm、燃烧部幅36cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。第2～6層は天井部の崩落土である。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部の最下層に灰が多量に確認された。煙道部は壁外に19cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------------------|----|------|----------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 | 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐灰色 | 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 10 | 褐灰色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 3 | 灰褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 11 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 | 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 褐灰色 | 粘土粒子・砂粒多量, 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 13 | 暗褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 6 | 明褐灰色 | 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 7 | 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量, 粘土粒子・砂粒微量 | 15 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 16 | 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| | | | 17 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・灰微量 |
| | | | 18 | 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・灰微量 |
| | | | 19 | 明褐灰色 | 灰多量 |



第227図 第151号住居跡実測図

ピット 3か所。P1～P3は深さ34～56cmで、支柱穴である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

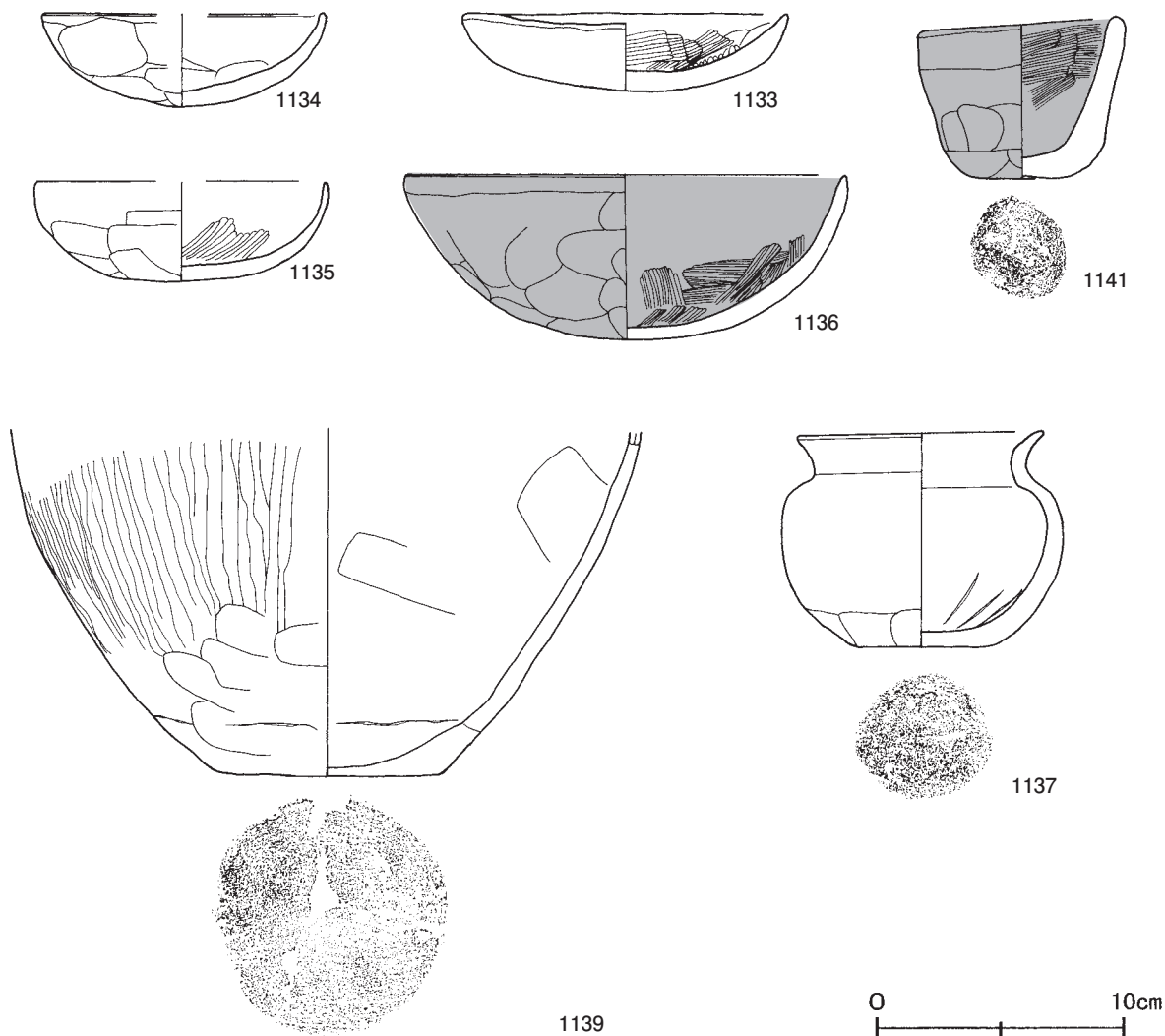
覆土 15層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

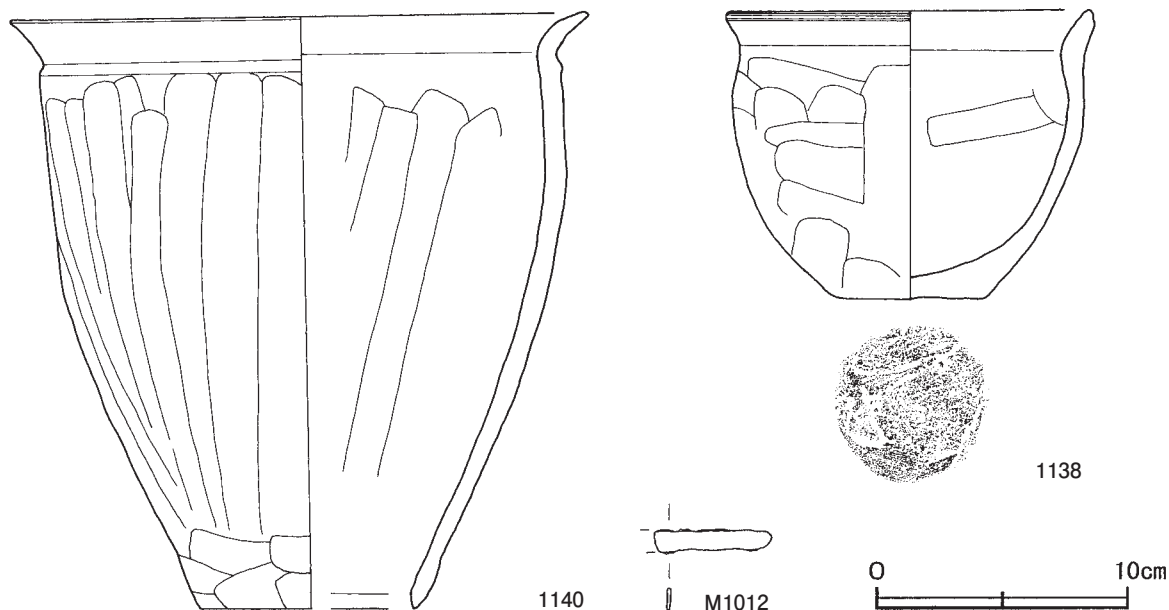
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|---------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 灰褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量 | 15 褐色灰 | ロームブロック・粘土粒子少量, 砂粒微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片252点(坏41・高台付碗1・鉢1・甕類207・甑1・コップ形土器1), 須恵器片4点(蓋1・甕3), 土製品4点(支脚片), 金属製品2点(刀子・不明鉄製品)が出土している。遺物の大半は竈周辺の覆土下層から出土している。1133・1137は竈右袖部脇, 1134・1140は竈手前の覆土下層, 1136・1138・1141は竈左袖部脇の床面直上, DP1110は竈の火床部中央からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から7世紀初頭と考えられる。



第228図 第151号住居跡出土遺物実測図(1)



第229図 第151号住居跡出土遺物実測図(2)

第151号住居跡出土遺物観察表 (第228・229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1133	土師器	坏	13.0	3.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	下層	90% PL103
1134	土師器	坏	[11.3]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	80% PL104
1135	土師器	坏	[11.6]	4.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	30%
1136	土師器	鉢	17.7	6.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面直上	80% PL103
1137	土師器	小形甕	9.8	8.8	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ, 下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	90% PL104
1138	土師器	小形甕	14.5	11.5	5.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面直上	80% PL104 煤付着
1139	土師器	甕	-	(14.0)	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 下位ヘラ削り 内面ヘラナデ 一部剥離	下層	50% 煤付着
1140	土師器	甗	22.6	23.8	8.4	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	90% PL104
1141	土師器	コップ形土器	8.0	6.5	3.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面直上	90% PL104

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1110	支脚	(3.5)	6.0	-	(88.4)	粘土	ナデ	竈火床部	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1012	不明鉄製品	(4.6)	0.9	0.1	(2.2)	鉄	茎部	覆土中	

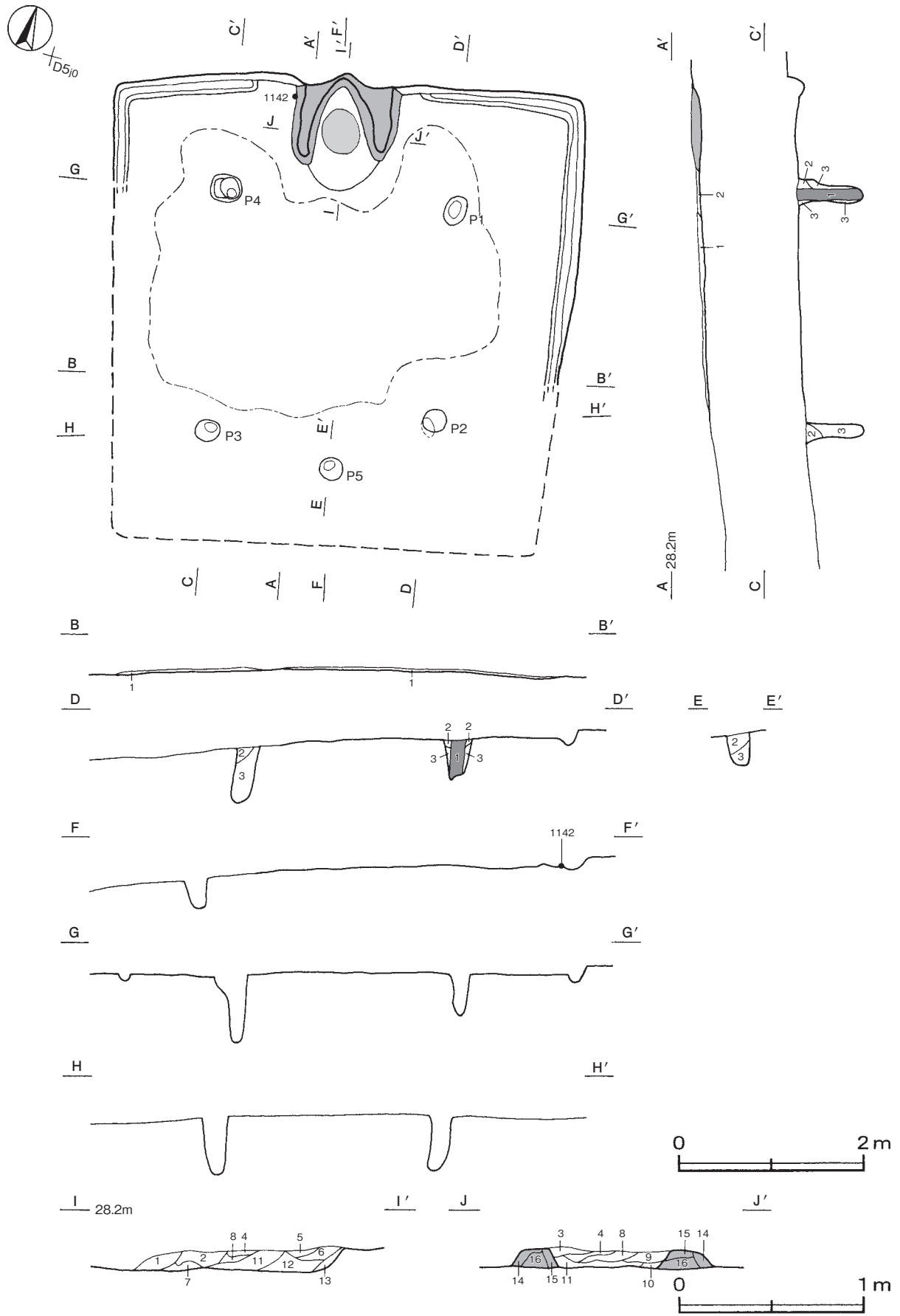
第153号住居跡 (第230・231図)

位置 調査Ⅱ区中央部のD5j0区, 標高28.0mの台地斜面部 (段切り状の斜面部) に位置している。

規模と形状 斜面部のために, 南部の壁と床が削平されている。東西軸が5.10mで, 南北軸は4.40mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され, 主軸方向はN-10°-Wである。壁高は9cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部を踏み固められている。北西コーナー部から東壁にかけての壁下には, 幅14~21cm, 深さ4~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで126cm, 燃焼部幅62cmである。袖部は第



第230图 第153号住居迹实测图

14～16層の砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 8 黒 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量, ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 にぶい褐色 | 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 9 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 暗 褐 色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 褐 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量 | 11 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 5 暗 赤 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量 | 12 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・砂粒微量 |
| 6 褐 色 | 粘土粒子中量, 炭化物・焼土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 | 13 黒 褐 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 7 暗 褐 色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 褐 灰 色 | 粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック少量 |
| | | 15 灰 褐 色 | 粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量 |
| | | 16 灰 褐 色 | 粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ42～70cmで、主柱穴である。P5は深さ38cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。第1層は柱痕である。

ピット土層解説

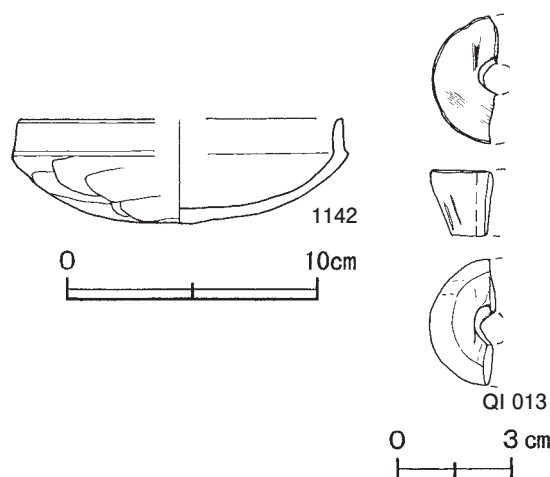
- | | |
|---------|-------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |

覆土 2層に分けられる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片84点(坏20・甕類64), 土製品1点(不明製品), 石製品1点(紡錘車)が出土している。1142は竈左袖部脇の覆土下層, Q1013はP4の覆土中からそれぞれ出土している。



所見 時期は、出土土器から7世紀初頭と考えられる。 **第231図** 第153号住居跡・出土遺物実測図

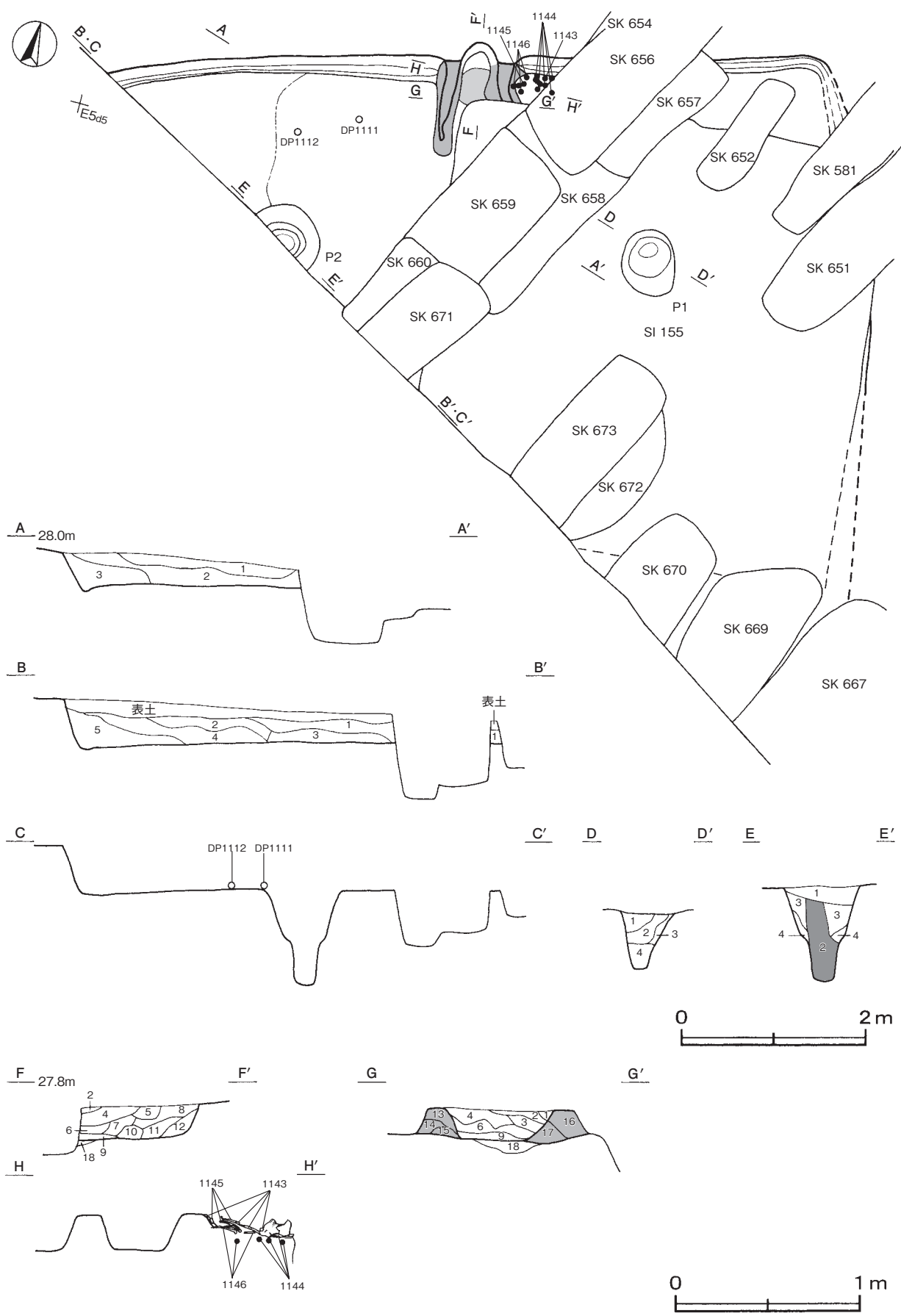
第153号住居跡出土遺物観察表 (第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1142	土師器	坏	[12.8]	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちへラ削り	下層	50%
番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q1013	紡錘車	(3.4)	1.8	(0.9)	(16.2)	滑石	両面研磨		P4内		

第154号住居跡 (第232～234図)

位置 調査Ⅱ区西部のE5 d6区, 標高28.0mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第155号住居, 第581・651・652・654・656～660・667・669～673号土坑に掘り込まれている。



第232图 第154号住居跡実測図

規模と形状 南西部が調査区域外で、確認できた規模は、南北軸4.38m、東西軸7.80mで、長方形又は方形と推測される。主軸方向はN-10°-Wである。壁高は35～42cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈左袖部からP2にかけて、踏み固められている。北壁から東壁にかけての壁下には、幅13～23cm、深さ2～5cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北西壁の中央部に付設されている。焚き口部と右袖部の一部が掘り込まれていることから、確認できる規模は、焚き口部から煙道部まで68cm、燃焼部幅30cmである。袖部は第13～17層の砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。第1～4層は天井部の崩落土である。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐 灰 色	粘土粒子・砂粒中量, 焼土ブロック少量	9 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量, 炭化物・粘土粒子・砂粒微量
2 灰 褐 色	粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック・焼土ブロック微量	10 灰 黄 褐 色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3 褐 灰 色	粘土粒子・砂粒多量, ロームブロック・焼土ブロック微量	11 にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
4 灰 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量	12 黄 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量	13 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量, ロームブロック微量
6 にぶい褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	14 褐 灰 色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量
7 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	15 灰 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量
8 暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量	16 明 褐 色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
		17 灰 褐 色	粘土粒子・砂粒多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
		18 暗 褐 色	焼土ブロック・ローム粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さ66・100cmで、支柱穴である。P2の第2層は柱痕である。

ピット土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	3 褐 色	ローム粒子中量
2 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 褐 色	ロームブロック中量

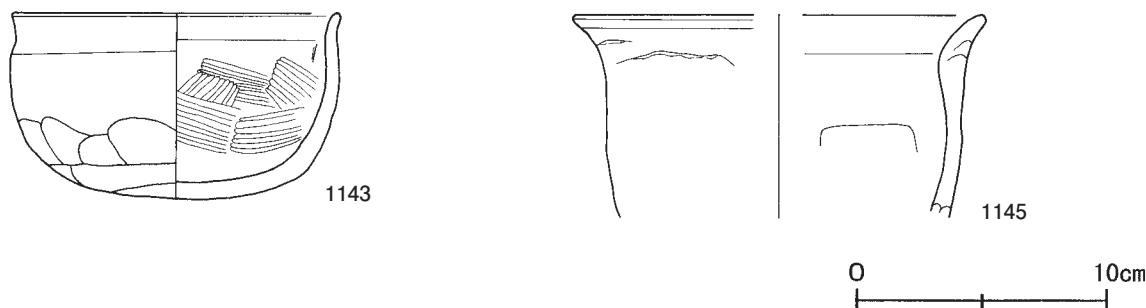
覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

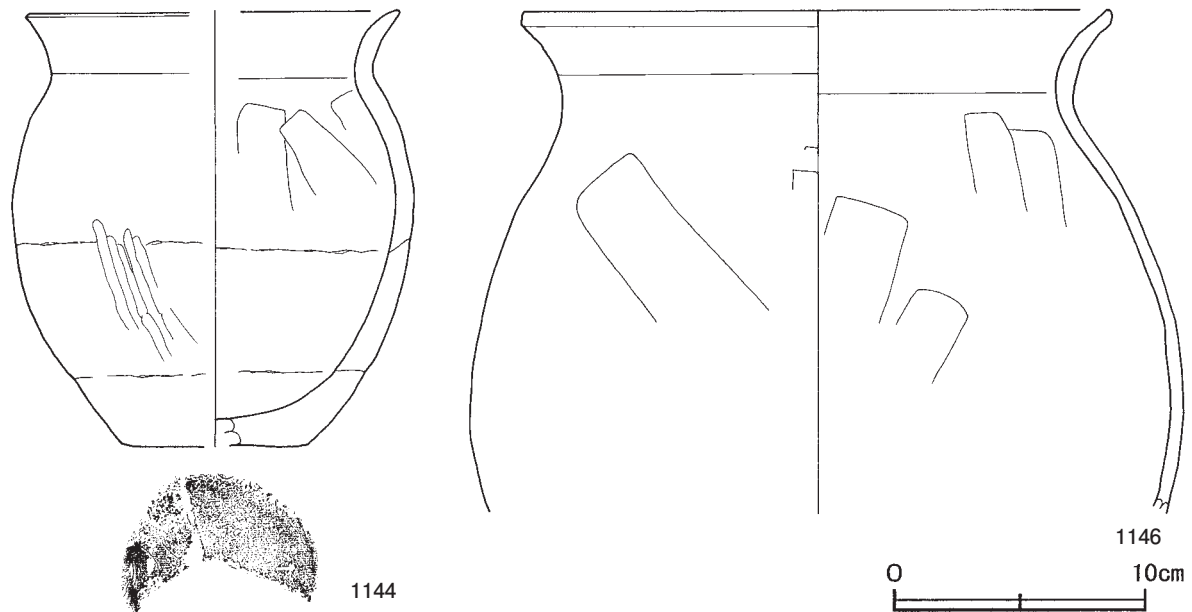
1 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック中量, 炭化物微量	5 暗 褐 色	ロームブロック微量
3 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片212点（坏22・椀類2・甕類188）、土製品5点（支脚片2、不明製品3）、礫1点が出土している。遺物の大半は、竈右袖部脇と竈左袖部脇の覆土上層から下層にかけて出土している。1143～1146は竈右袖部脇の覆土上層から下層、DP1111は竈左袖部脇の覆土下層、DP1112は竈左袖部脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から6世紀後葉と考えられる。



第233図 第154号住居跡出土遺物実測図(1)



第234図 第154号住居跡出土遺物実測図(2)

第154号住居跡出土遺物観察表 (第233・234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1143	土師器	椀	12.9	7.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下位手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	上層～下層・覆土中	70% PL105
1144	土師器	小形甕	[14.6]	17.3	7.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層～下層	70%
1145	土師器	小形甕	[16.2]	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	上層・覆土中	20%
1146	土師器	甕	23.4	(19.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	下層	20%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1111	支脚	(9.6)	-	-	(85.5)	粘土	ナデ	下層	計測のみ
DP1112	支脚	(5.6)	5.0	-	(71.0)	粘土	ナデ	下層	計測のみ

第157号住居跡 (第235～237図)

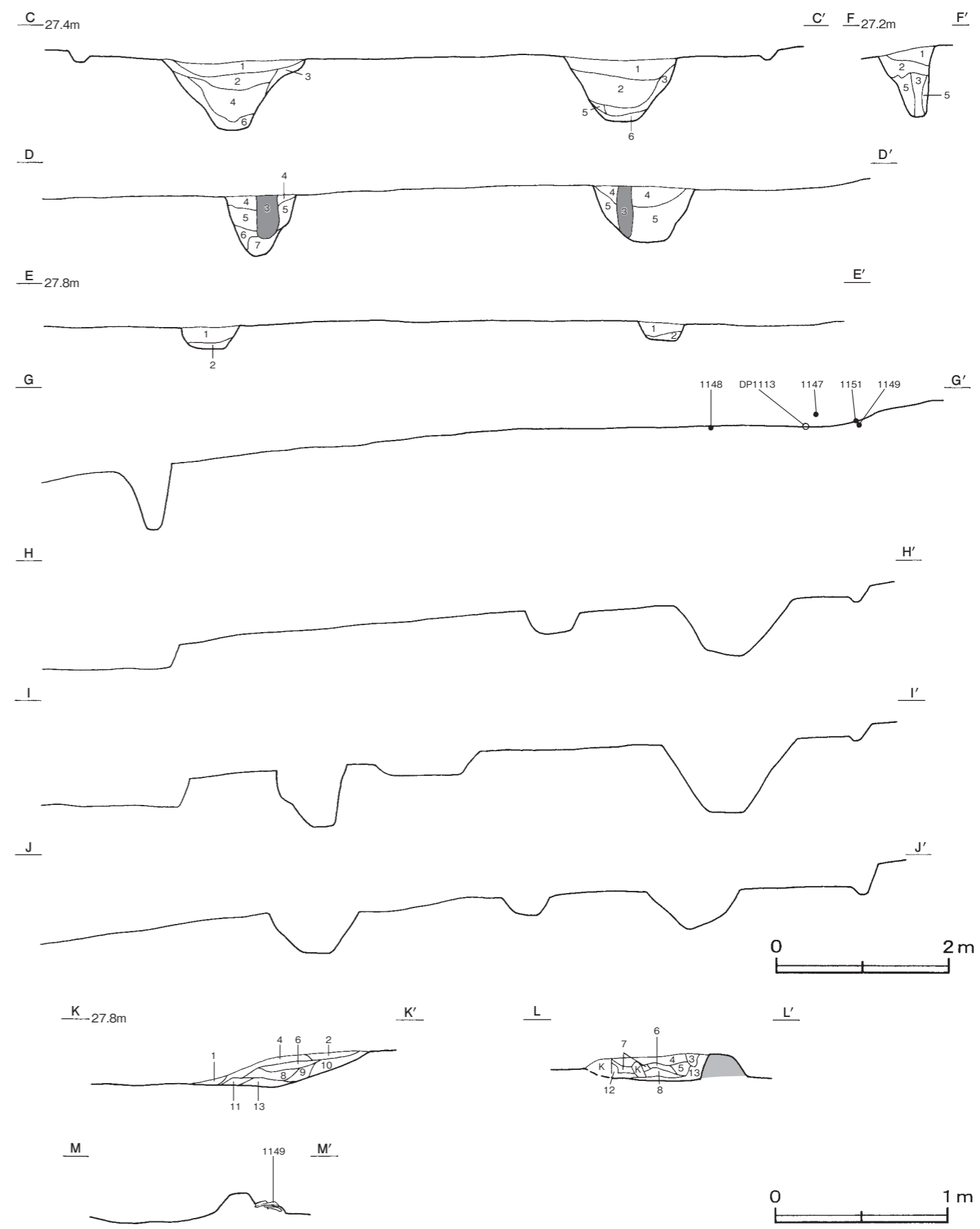
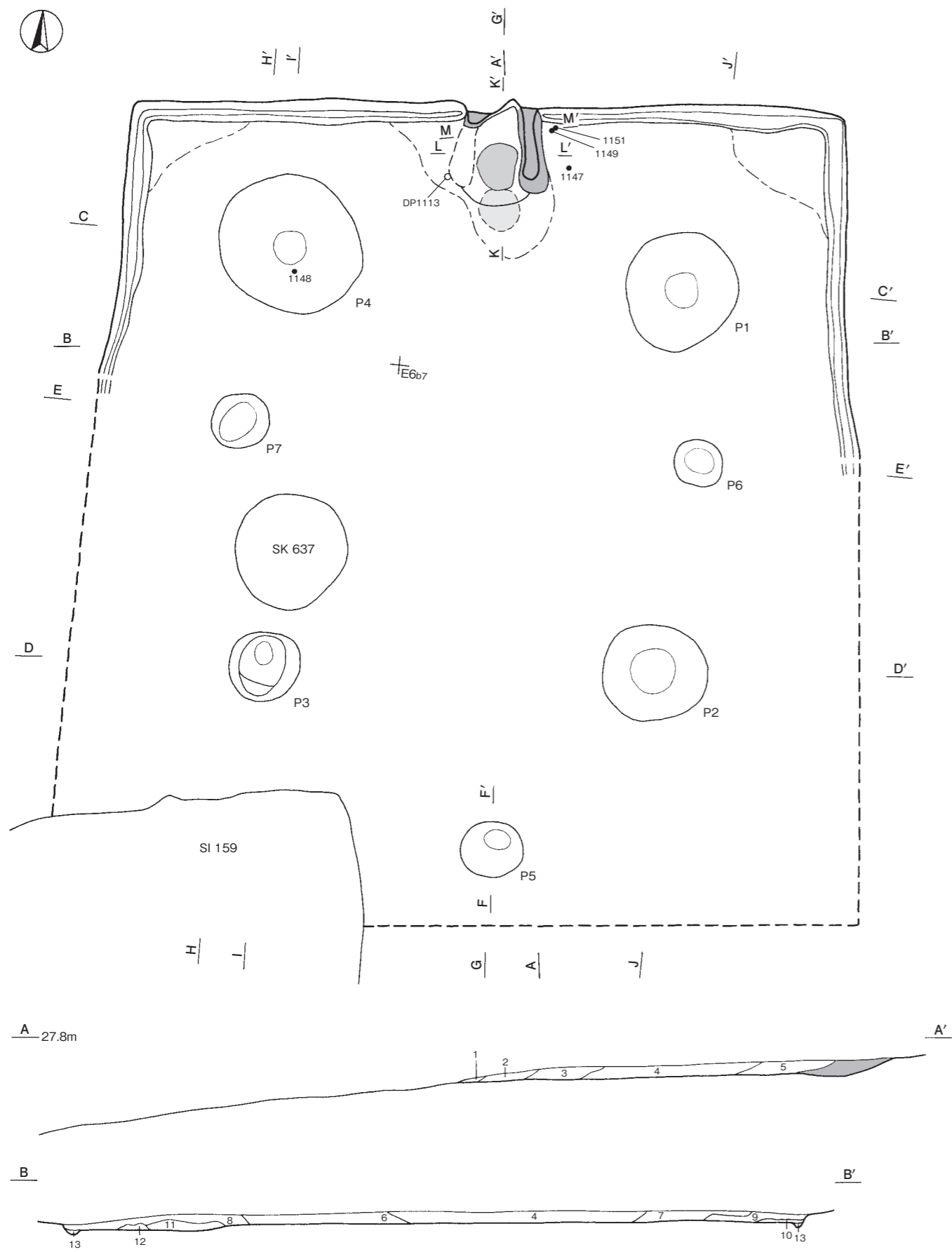
位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 b7区、標高27.7mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第159号住居と第637号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 斜面部のため、中央部から南部の壁と床が削平されている。東西軸が8.40mで、南北軸は5.06mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は5～26cmでほぼ直立している。

床 平坦で、北西コーナー部と北東コーナー部を除いて踏み固められている。西壁から東壁にかけての壁下には、幅16～31cm、深さ3～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認された。

竈 北壁の中央部に付設されている。左袖部が欠損している。規模は、焚口部から煙道部まで120cm、燃焼部幅48cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。焚き口部の手前から火床部にかけて、焼土粒子を多量に含む赤褐色土が硬く締まっており、古い火床部の可能性がある。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に6cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第235图 第157号住居跡実測図

竈土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒微量	7 にぶい黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック微量	8 灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3 灰黄褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 にぶい褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子微量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6 灰褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	12 灰黄褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
		13 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量

ピット 7か所。P1～P4は深さ50～83cmで、支柱穴である。P5・P6は深さ23・27cmで、支柱穴と掘方の違いがあることから、補助的な柱穴と考えられる。P7は深さ78cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。P2・P3の第3層は柱痕である。

P1・P4土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 にぶい褐色	ロームブロック中量	6 明褐色	ロームブロック中量

P2・P3・P5土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、砂粒微量	5 灰褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ロームブロック中量	6 明褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7 にぶい褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量		

P6・P7土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	2 褐色	ロームブロック中量
-------	------------------	------	-----------

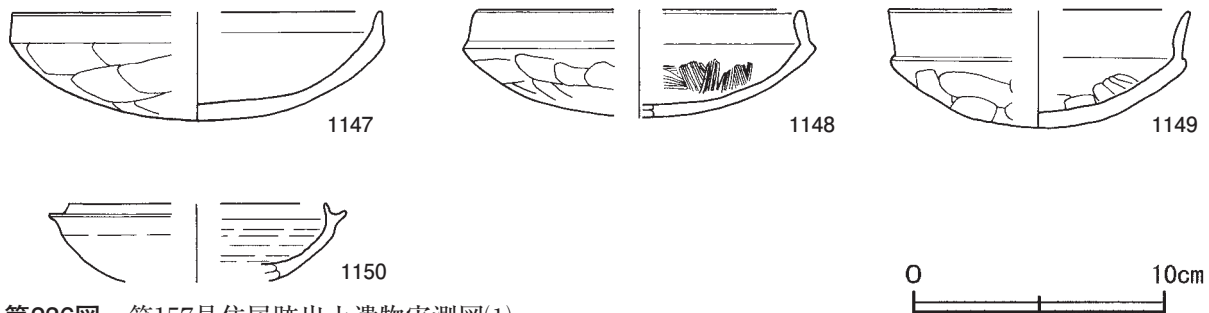
覆土 13層に分けられる。ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

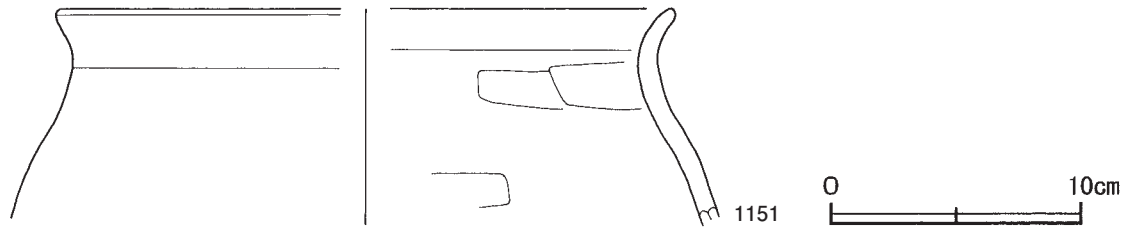
1 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック微量
4 灰褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土粒子微量	11 褐色	ロームブロック多量
5 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 褐色	ロームブロック中量
6 灰褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ローム粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片1040点（坏147・高台付椀2・高坏1・鉢5・甕類885）、須恵器片14点（坏6・平瓶2・長頸瓶2・甕4）、土製品10点（支脚片5・不明製品5）、鉄滓1点、礫1点が出土している。遺物の大半は、竈とP1・P4周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。1147は竈右袖部脇の覆土中層と覆土中から出土した破片が、1150はP1とP4の覆土中から出土した破片が接合したものである。1148は北西コーナー部、DP1113は竈手前の覆土下層、1149は竈右袖部脇の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から7世紀初頭と考えられる。



第236図 第157号住居跡出土遺物実測図(1)



第237図 第157号住居跡出土遺物実測図(2)

第157号住居跡出土遺物観察表 (第236・237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1147	土師器	坏	[14.6]	7.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り	中層・覆土中	50% 煤附着
1148	土師器	坏	[12.8]	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き	下層	30%
1149	土師器	坏	[11.8]	4.6	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	床面直上	20%
1150	須恵器	坏	[10.2]	(3.2)	-	長石	灰白	普通	ロクロ目弱い	P1・4 覆土中	20%
1151	土師器	甕	[24.3]	(8.5)	-	長石・石英・金雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	下層	10%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1113	支脚	(8.5)	5.0	-	(123)	粘土	ナデ	下層	計測のみ

第159号住居跡 (第238図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE 6 c6区, 標高26.9mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第157号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 斜面部のため, 中央部から南部の壁と床が削平されている。東西軸が4.00mで, 南北軸は3.36mしか確認できなかった。長方形または方形と推測され, 主軸方向はN-10°-Wである。壁高は18~34cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 北西コーナー部と北東コーナー部を除いて踏み固められている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで90cm, 燃烧部幅38cmである。袖部は砂質粘土やローム粒子を混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に8cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

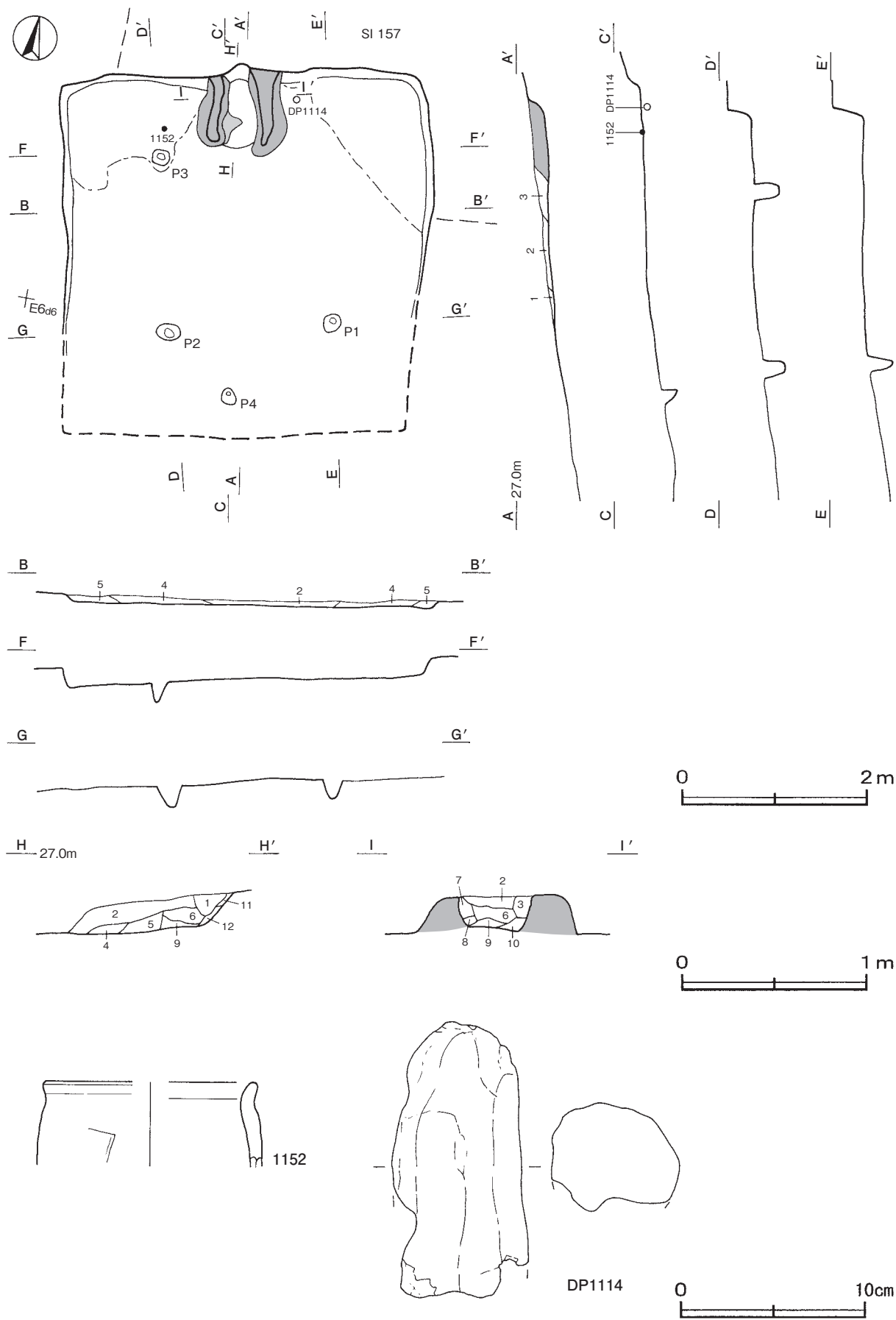
1 灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 褐色	粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 にぶい褐色	ローム粒子中量
3 明赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量	10 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11 にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量	12 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
6 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子微量		
7 灰褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量		

ピット 4か所。P1~P3は深さ25~33cmの支柱穴で, P4は深さ18cmで出入り口ピットと推測される。

覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含み, 不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1 にぶい褐色	ロームブロック少量	4 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 灰褐色	粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		



第238图 第159号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片131点(坏24・高坏1・甕類106), 須恵器1点(坏), 土製品1点(支脚片)が出土している。遺物の大半は北部の覆土上層から下層にかけて出土している。1152は竈左袖部脇, DP1114は竈右袖部脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられる。

第159号住居跡出土遺物観察表(第238図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1152	土師器	小形甕	[11.4]	(45)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ	下層	10%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1114	支脚	(15.0)	(7.3)	(6.9)	(444)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	

表12 竈穴住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)	壁高(cm)		壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
111	D 5 b7	N-22°-W	方形	7.12×7.05	10~32	平坦	-	4	1	1	-	竈1	人為	土師器 土玉 球状土錘 管状土錘 鉄鎌 釘	7世紀前葉	
112	C 5 i9	N-65°-E	方形	6.09×6.76	26~58	平坦	ほぼ全周	4	1	-	-	竈2	人為	土師器 管状土錘 支脚 羽口 刺形模造品	6世紀中葉	
113	D 5 d9	N-53°-E	方形	6.06×5.96	5~16	平坦	ほぼ全周	4	1	2	1	竈1	人為	土師器 球状土錘 支脚 鉄滓	6世紀前葉	本跡→SK447・450
114	D 6 a2	N-6°-W	方形	8.93×8.58	40~66	平坦	全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器 須恵器 球状土錘 管状土錘 双孔門板	6世紀後葉	SI129→本跡→SI117・130, SK542, SD50
115	D 6 d5	N-11°-W	方形	4.66×4.43	13~32	平坦	-	4	-	-	-	竈1	人為	土師器, 支脚	6世紀後葉	本跡→SI130, SK449
118	C 5 j8	N-96°-E	長方形	3.28×2.98	7~28	平坦	-	-	-	-	-	竈1	人為	土師器 須恵器 球状土錘 支脚	7世紀後葉	本跡→SI119
127	D 5 b9	N-22°-W	方形	3.86×3.64	14~26	平坦	-	4	1	1	-	竈1	人為	土師器 球状土錘 支脚	7世紀前葉	
128	D 6 d2	N-7°-W	方形	5.31×5.02	10~35	平坦	ほぼ全周	4	1	-	-	竈1	人為	土師器 球状土錘 刀子 鉄鎌 鉄滓	6世紀後葉	本跡→SI117・130, SD50, SK535・536
129	C 6 j3	N-10°-W	[方形]	5.40×(4.44)	30~40	平坦	-	4	-	-	-	竈2	人為	土師器 砥石 白土玉 支脚	6世紀後葉	本跡→SI114
131	D 6 b4	N-23°-W	[長方形]	[8.54]×7.29	20~40	平坦	一部	3	-	-	-	竈1	人為	土師器 球状土錘 管状土錘 鉄滓	6世紀中葉	本跡→SI130・137, SK677
133	D 6 f6	N-6°-W	方形	8.70×8.70	42~60	平坦	ほぼ全周	4	1	5	-	竈2	人為	土師器 白土玉 小土玉 球状土錘 管状土錘 刀子	6世紀後葉	本跡→SI116, SK567・568, SI15が形成される
135	D 6 d8	N-2°-W	[方形]	4.10×4.05	6~23	平坦	-	2	1	-	-	竈1	人為	土師器 須恵器 球状土錘 羽口 鉄滓	6世紀末~7世紀初	SI136→本跡→SK663
136	D 6 c7	N-86°-E	[長方形・方形]	(7.60)×(6.72)	22~38	平坦	一部	1	-	-	-	人為	土師器 須恵器 球状土錘 砥石	6世紀後葉	本跡→SI135	
137	D 6 b5	N-78°-E	方形	5.81×5.78	24~45	平坦	[全周]	4	1	-	-	竈1	人為	土師器 球状土錘 支脚 刀子 鉄鎌	7世紀後葉	SI131→本跡→SK677
140	D 7 j3	N-17°-W	方形	6.30×5.90	26~36	平坦	全周	4	1	1	-	竈1	人為	土師器 支脚	6世紀後葉	本跡→SI141・143, SD28
143	E 7 a4	N-11°-W	[長方形・方形]	6.50×(6.28)	4~6	平坦	-	2	-	-	-	竈1	人為	土師器 支脚	7世紀代	SI140→本跡→UPL, SK529・576・662
144	E 7 c4	N-14°-W	[長方形・方形]	(7.53)×(7.13)	14~23	平坦	一部	1	-	-	-	竈2	人為	土師器 土玉 球状土錘 管状土錘	7世紀前葉	本跡→SK488, SF2
150	E 5 b4	N-15°-E	[長方形・方形]	(4.32)×(3.36)	5	平坦	-	-	-	-	-	竈1	不明	土師器 須恵器 土玉 球状土錘	6世紀前葉	本跡→SI151, SK577
151	E 5 c4	N-27°-W	[長方形・方形]	(3.74)×(3.40)	20~24	平坦	-	3	-	-	-	竈1	人為	土師器 須恵器 支脚 刀子	7世紀初頭	SI150→本跡→SD30
153	D 5 j0	N-10°-W	[長方形・方形]	5.10×(4.40)	9	ほぼ平坦	一部	4	1	-	-	竈1	不明	土師器 紡錘車	7世紀初頭	
154	E 5 d6	N-10°-W	[長方形・方形]	(7.80)×(4.38)	35~42	平坦	一部	2	-	-	-	竈1	人為	土師器 支脚	6世紀後葉	本跡→SI155, SK530・601・602・604・606・609・613
157	E 6 b7	N-4°-W	[長方形・方形]	8.40×(5.06)	5~26	ほぼ平坦	一部	4	1	2	-	竈1	人為	土師器 須恵器 支脚 鉄滓	7世紀初頭	本跡→SI159, SK637
159	E 6 c6	N-10°-W	[長方形・方形]	4.00×(3.36)	18~34	平坦	-	3	1	-	-	竈1	人為	土師器 須恵器 支脚	7世紀前葉	SI157→本跡

(2) 土坑

第448号土坑 (第239図)

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 c5区で、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第449号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.33m、短径0.63mの長楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。深さは22cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片2点(坏)が出土している。1153は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられるが、性格は不明である。

第449号土坑 (第239図)

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 c5区で、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第115号住居跡、第448号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.09m、短径0.83mの不整楕円形で、長径方向はN-84°-Wである。深さは36cmで、底面は北へ向かってなだらかに傾斜し、壁は外傾して立ち上がっている。

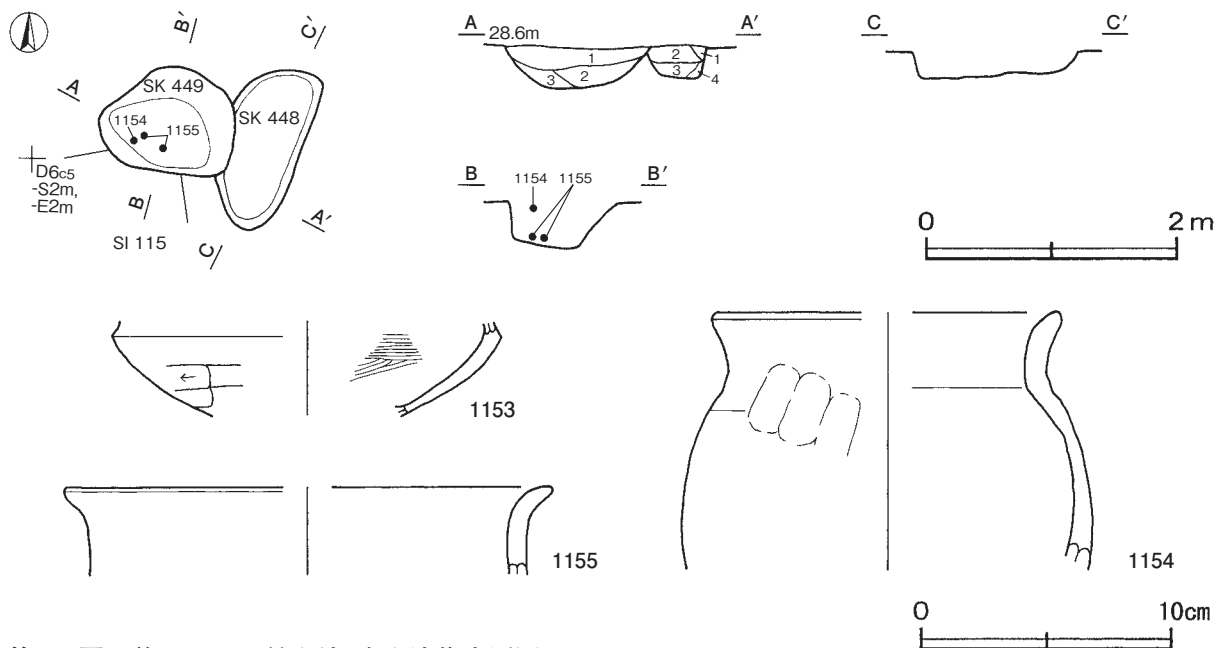
覆土 3層に分けられる。ロームブロックや炭化物を含んでいることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片5点(甕類4・甑1)が出土している。1154は覆土上層、1155は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から7世紀前葉と考えられるが、性格は不明である。



第239図 第448・449号土坑・出土遺物実測図

第448号土坑出土遺物観察表（第239図）

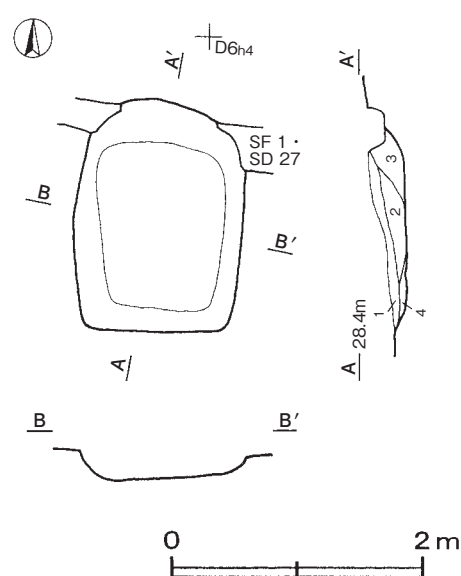
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1153	土師器	坏	-	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	5%

第449号土坑出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1154	土師器	甕	[13.5]	(10.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 指頭痕 内面ヘラナデ	上層	10%
1155	土師器	甗	[18.9]	(3.5)	-	長石・石英	橙	普通	内・外面ヘラナデ	下層	5%

第458号土坑（第240図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 h3区で、標高28.3mの台地平坦部に位置している。



第240図 第458号土坑実測図

重複関係 上面を第1号道路，第27号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.84m，短軸1.35mの隅丸長方形で，長軸方向はN-1°-Eである。深さは22cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分けられる。ロームブロックを含み，不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片38点（坏6・甕類32）が出土している。細片で図示できない。

所見 時期は，出土土器や重複関係から7世紀代と考えられるが，性格は不明である。

第469号土坑（第241図）

位置 調査Ⅱ区北部のD 6 d6区で，標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第470号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第470号土坑に掘り込まれているため，南北径は0.57mで，東西径は0.45mだけ確認できた。南北径方向はN-15°-Wで，楕円形と推測できる。深さは62cm，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

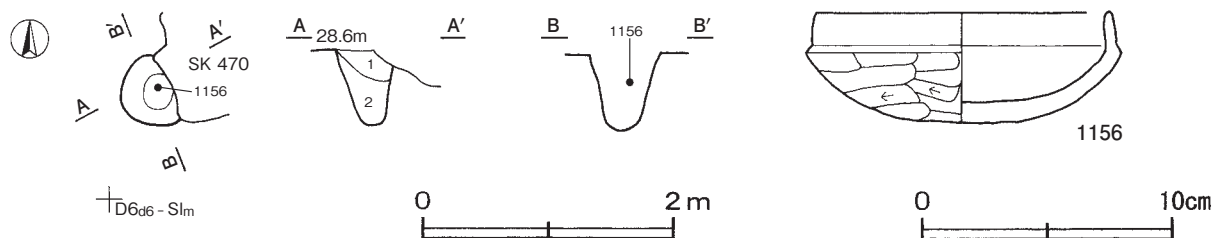
覆土 2層に分けられる。不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片8点（坏4・甕類4）が出土している。1156は，覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられるが，性格は不明である。



第241図 第469号土坑・出土遺物実測図

第469号土坑出土遺物観察表（第241図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1156	土師器	坏	11.7	4.6	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層	99%

表13 土坑一覧表

遺構番号	位置	長径・軸方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径・軸×短径・軸(m)	深さ(cm)						
448	D 6 c5	N-20°-E	長楕円形	1.33 × 0.63	22	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土師器	6世紀後葉	本跡→SK449
449	D 6 c5	N-84°-W	不整楕円形	1.09 × 0.83	36	傾斜	外傾	人為	土師器	7世紀前葉	SI115, SK448→本跡
458	D 6 h3	N-1°-E	隅丸長方形	1.84 × 1.35	22	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土師器	7世紀代	本跡→SF1, SD27
469	D 6 d6	N-15°-W	楕円形	0.57 × (0.45)	62	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土師器	7世紀前葉	本跡→SK470

(3) 遺物包含層

第5号遺物包含層（第242～244図）

位置 調査Ⅱ区南東部のE 6 c9～F 6 b8区，標高26.7～22.7mの緩やかな斜面部に位置している。北側には古墳時代から平安時代にかけての集落跡が確認されている。

調査方法 確認面に遺物を包含する暗褐色土が広がっていたため，土層観察用のベルトを設定し，トレンチ調査を行った。また，遺物が集中している地点は，必要に応じて小グリットごとに掘り下げを行った。

規模と形状 南方向から入り込んだ谷津頭に堆積している土砂であり，南側が調査区域外に延びているため確認されたのは，南北軸方向34mほど，東西軸方向23mほどである。

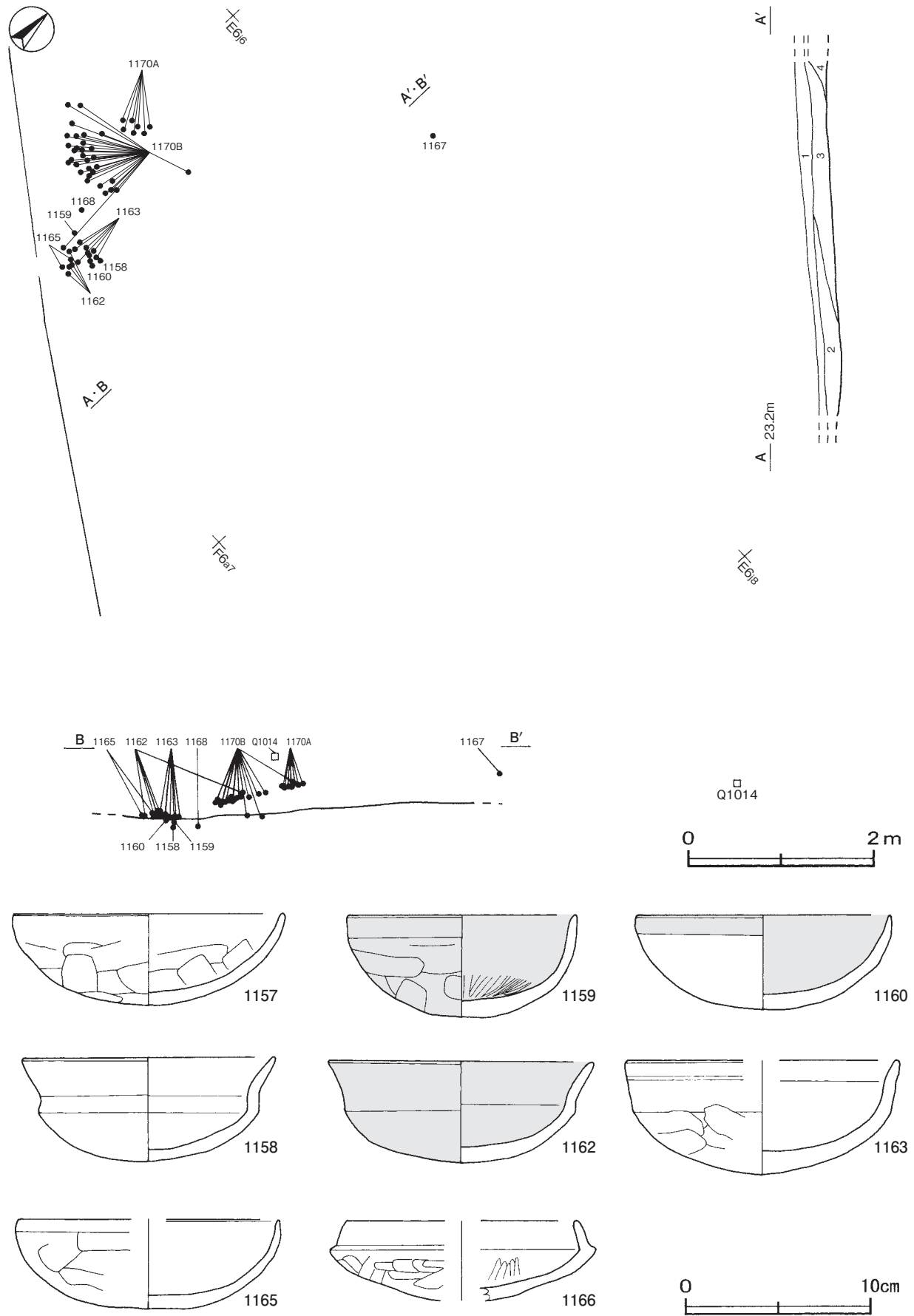
土層 4層に分層できる。周囲から流入した自然堆積である。

土層解説

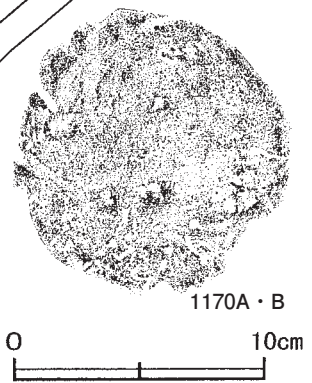
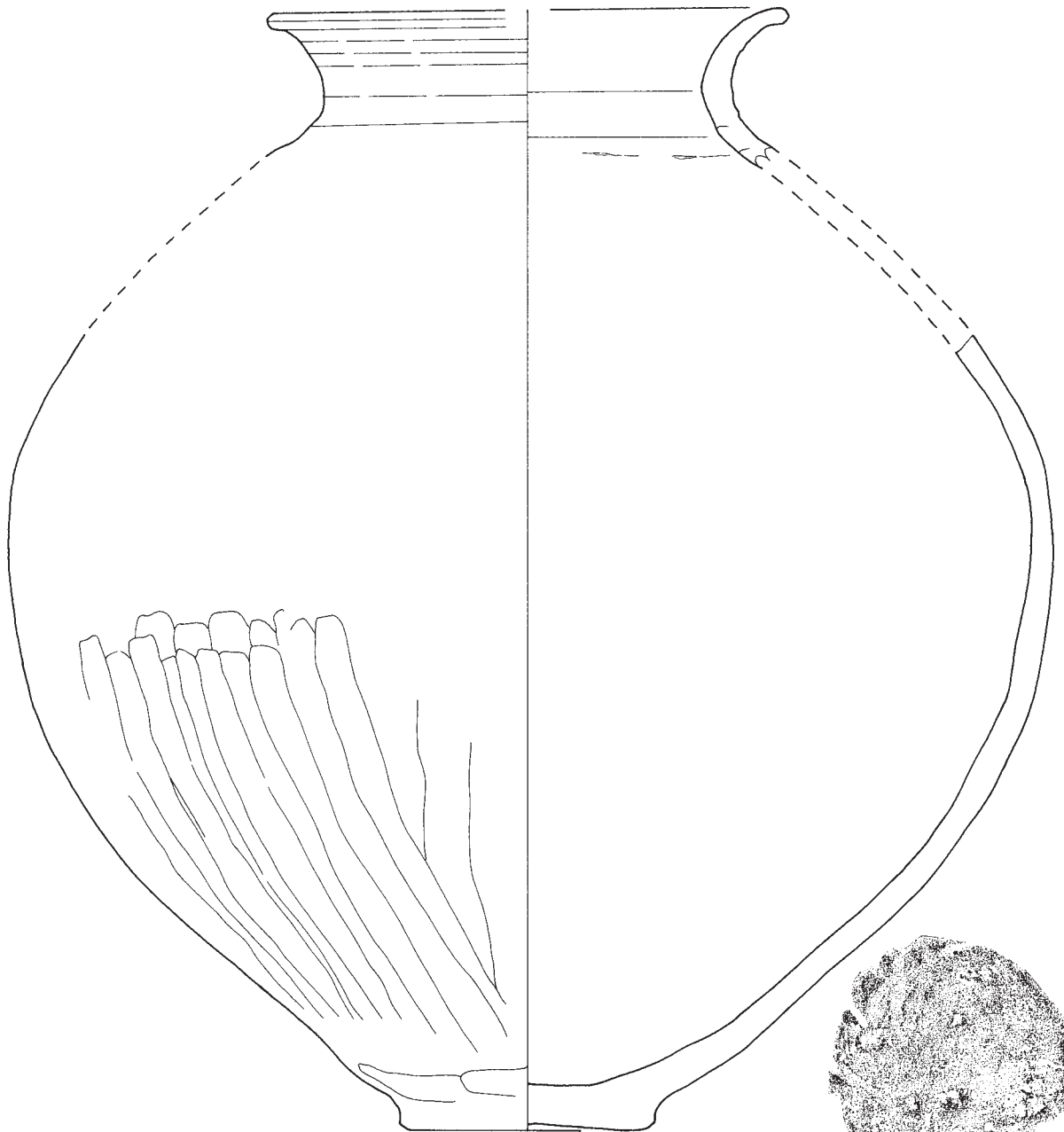
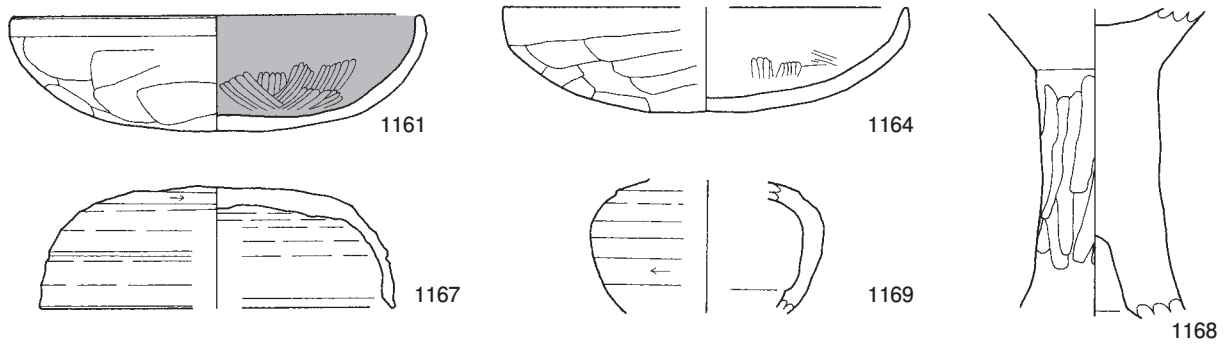
- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片68点(深鉢)，土師器片1929点(坏120, 高台付坏19, 高坏9, 甕1771, 甗3, 手捏土器7)，須恵器片186点(坏37, 高台付皿2, 蓋12, 長頸壺8, 甕127)，陶器1点(碗)，磁器2点，土製品4点(球状土錘2, 不明2)，石器2点(砥石)，滑石片9点，剥片5点が出土している。遺物のほとんどが小片及び細片で，自然堆積している第1層から第4層にかけて各時代の遺物が混じった状態で出土している。1158～1160は，完形及びほぼ完形の土器で地山面から出土している。周辺を精査したが，遺構は確認されなかった。

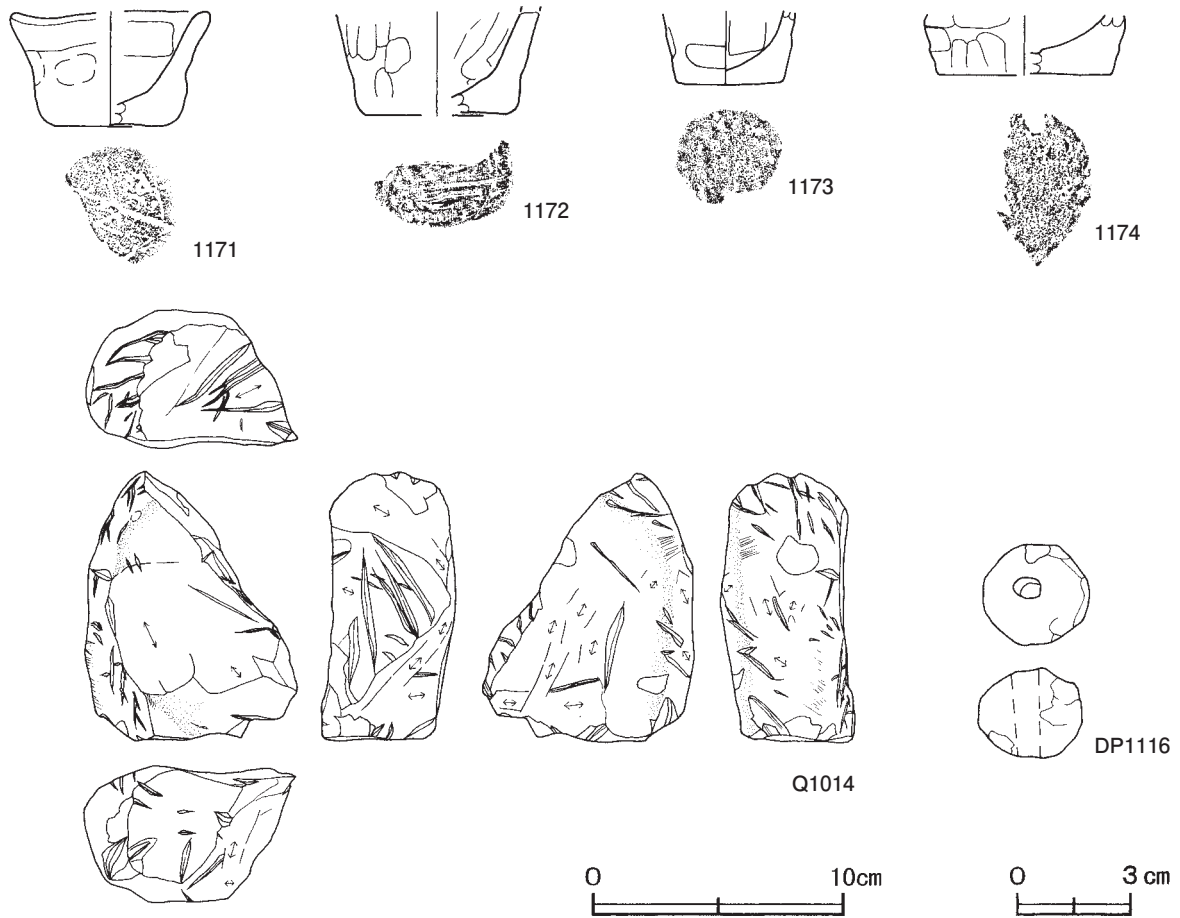
所見 台地平坦部から緩やかな斜面部にかけて古墳時代から平安時代の集落跡が確認されている。本包含層は，縄文土器もみられるが，主として古墳時代後期から平安時代にかけて堆積したものと考えられる。



第242图 第5号遺物包含層・出土遺物実測図



第243图 第5号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第244図 第5号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第5号遺物包含層出土遺物観察表 (第242～244図)

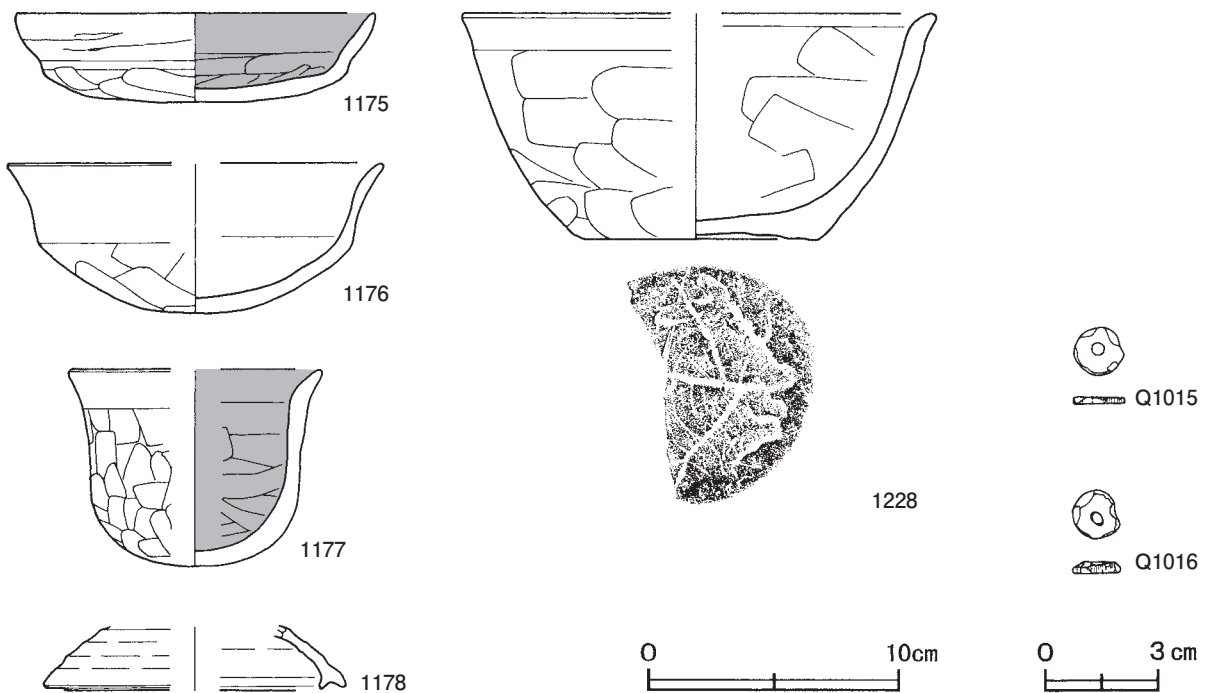
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1157	土師器	坏	14.4	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	淡橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ナデ	包含層中	100% PL105
1158	土師器	坏	13.6	5.5	-	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ナデ	地山面	100% PL105
1159	土師器	坏	12.2	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き	地山面	95% PL105
1160	土師器	坏	13.6	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ナデ	地山面	90% PL105
1161	土師器	坏	16.2	4.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き	包含層中	75% PL105
1162	土師器	坏	14.1	5.4	-	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ナデ	第2層中	55%
1163	土師器	坏	[14.5]	6.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	淡橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ナデ	第2層中	55% PL105
1164	土師器	坏	[15.9]	4.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き	包含層中	50% PL105
1165	土師器	坏	[14.0]	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ナデ	第2層中	40%
1166	土師器	坏	[12.4]	(4.2)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り後ナデ内面ヘラ磨き	包含層中	40%
1167	須恵器	蓋	[14.0]	4.8	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	第1層中	70% PL105
1168	土師器	高坏	-	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部外面ヘラナデ・ナデ	地山面	40%
1169	須恵器	瓶	-	(5.2)	-	長石・石英	灰	普通	体部下半回転ヘラ削り	包含層中	10%
1170 A・B	土師器	甕	[22.8]	(35.7)	10.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ・ナデ 内面ナデ 輪積痕	第1・2層中	30%
1171	土師器	手捏土器	[7.6]	4.6	4.3	長石・石英	橙	普通	外面指頭押圧・ナデ 内面ヘラナデ・ナデ 底部木葉痕	包含層中	45%
1172	土師器	手捏土器	-	(4.1)	[5.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面ナデ 内面ヘラナデ・ナデ	包含層中	45%
1173	土師器	手捏土器	-	(2.9)	3.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面ナデ	包含層中	45%
1174	土師器	手捏土器	-	(2.3)	[6.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面ヘラナデ・ナデ 内面ナデ	包含層中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q1014	砥石	10.6	8.4	5.3	(522.3)	凝灰岩	砥面6面	第1層中	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1115	球状土錘	[2.1]	1.7	0.6	(4.1)	粘土	ナデ 一部欠損	包含層中	計測のみ
DP1116	球状土錘	2.7	2.4	0.7	(18.6)	粘土	ナデ 一部欠損	包含層中	

(4) 遺構外出土遺物 (第245図)

今回の調査で、表土層などから遺構に伴わない古墳時代の遺物が出土している。ここでは、特徴的な遺物について、実測図及び遺物観察表で掲載する。



第245図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1175	土師器	坏	14.2	3.5	-	長石・石英	橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	SI117 覆土中	60%
1176	土師器	坏	[14.8]	5.9	-	長石・石英	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	SI148 覆土中	50%
1177	土師器	碗	[9.8]	7.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部手持ちヘラ削り 内面ヘラナデ	SI116 覆土中	20%
1178	須恵器	蓋	[10.2]	(2.5)	-	長石・石英	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り 外面一部自然釉	SI116 覆土中	10%
1228	土師器	鉢	[18.4]	8.9	9.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ 底部木葉痕	SI122 覆土中	50%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1015	白玉	1.3	0.2	0.3	(0.9)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 一部欠損	UP1 覆土中	
Q1016	白玉	1.3	0.3	0.3	(0.5)	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔 一部欠損	UP1 覆土中	

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡26軒、堅穴状遺構2基、土坑9基、地点貝塚1か所（第138号住居跡内）が確認されている。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第116号住居跡（第246図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD 6 g4区、標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第133号住居跡を掘り込み、第478・479・567号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.00m、短軸6.80mの方形で、南壁中央部に、幅2.64m、奥行き1.26mの長方形を呈する張出部を持っている。主軸方向はN-4°-Wである。壁高は28～55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、東壁際、北西コーナー部、南西コーナー部を除いて、全面が踏み固められている。張出部、北西コーナー部、東壁の中央部を除き、壁下には幅10～32cm、深さ4～15cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。南東コーナー部寄りと貼出部、竈左脇から焼土塊と粘土塊が確認されている。これらは、住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 2 灰褐色 ロームブロック少量

粘土塊土層解説

1 灰褐色 粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

竈 北壁中央部に付設されており、規模は焚口部から煙道部まで152cm、燃焼部幅56cmである。袖部は第16・17層の砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

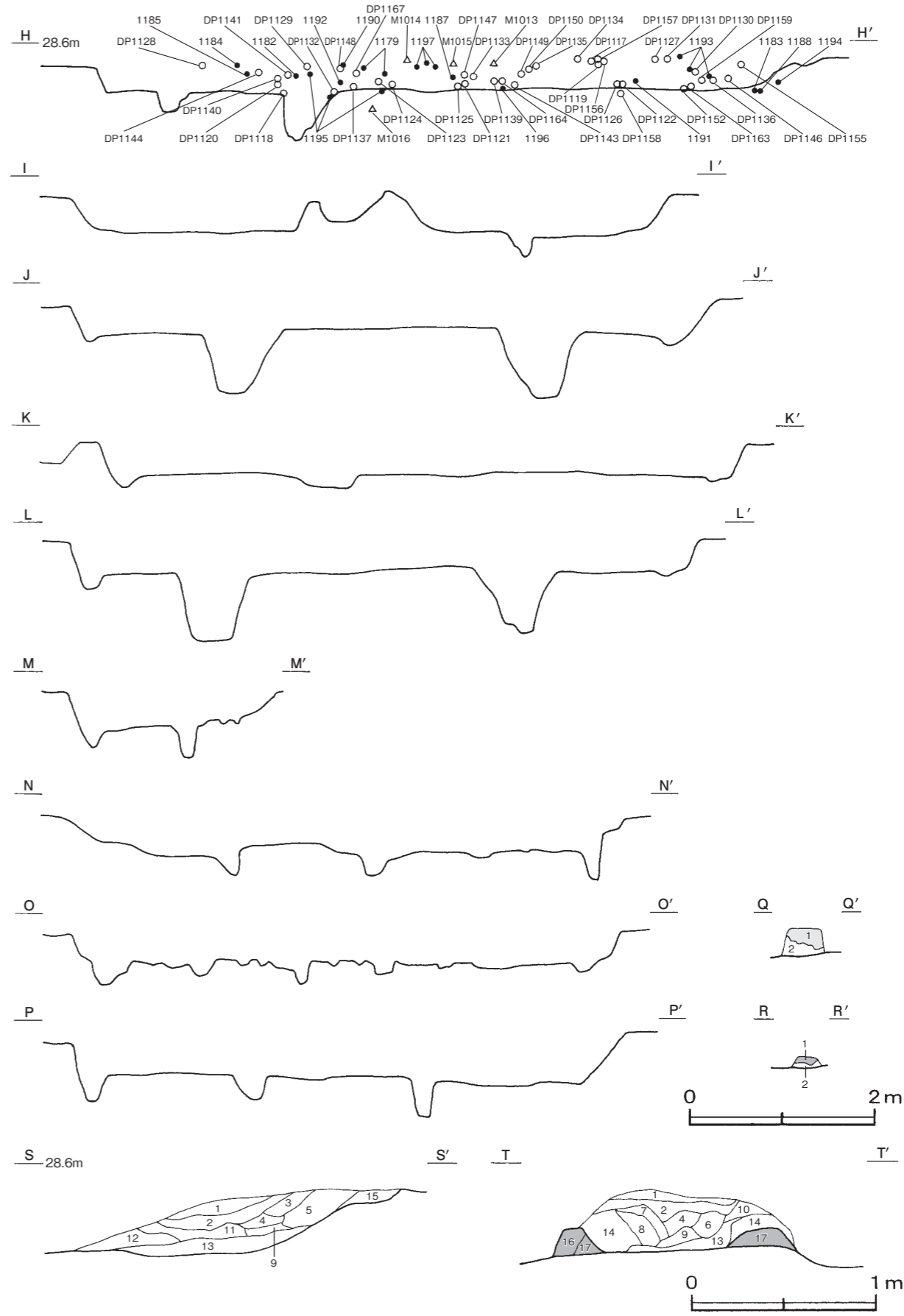
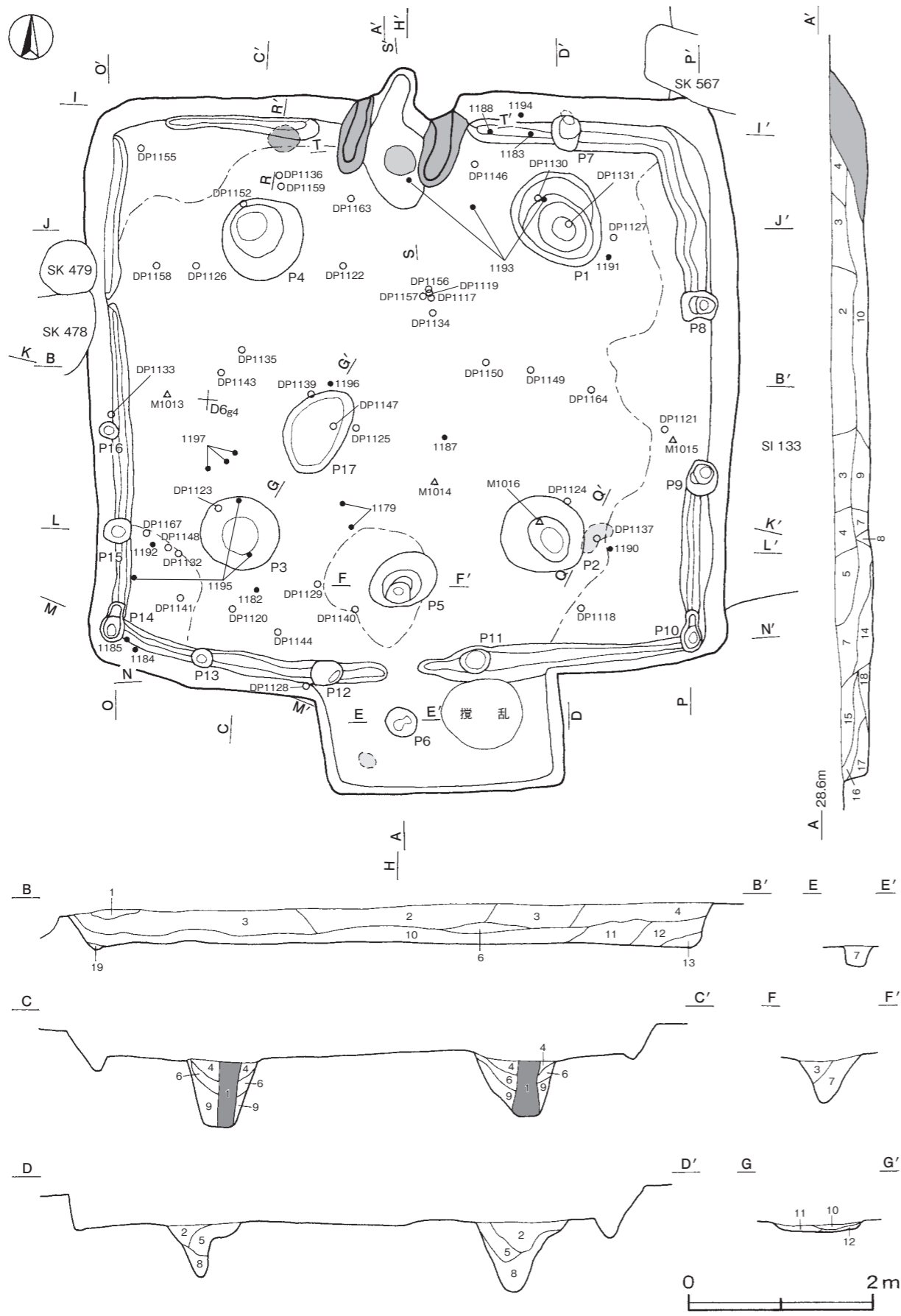
竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量	10 にぶい橙色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量, 粘土焼土微量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子少量	12 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
4 灰褐色	ロームブロック少量, 粘土粒子微量	13 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子微量	14 褐灰色	粘土粒子・砂粒多量
6 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量	16 灰褐色	粘土粒子中量, ロームブロック・砂粒少量
8 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子量, 粘土粒子・砂粒微量	17 明褐灰色	粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子少量
9 暗褐色	ロームブロック少量		

ピット 17か所。P 1～P 4は深さ66～73cmで、主柱穴である。P 5は深さ38cm、P 6は深さ22cmで、南壁際中央部と張出部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7～P 16は深さ12～55cmで、壁柱穴である。P 17は深さ12cmで、性格不明である。第1層は柱の抜取り痕と考えられる。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子微量	8 明褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	10 橙褐色	焼土ブロック中量, 粘土粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 粘土粒子微量
6 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	12 橙褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量



第246图 第116号住居跡実測図

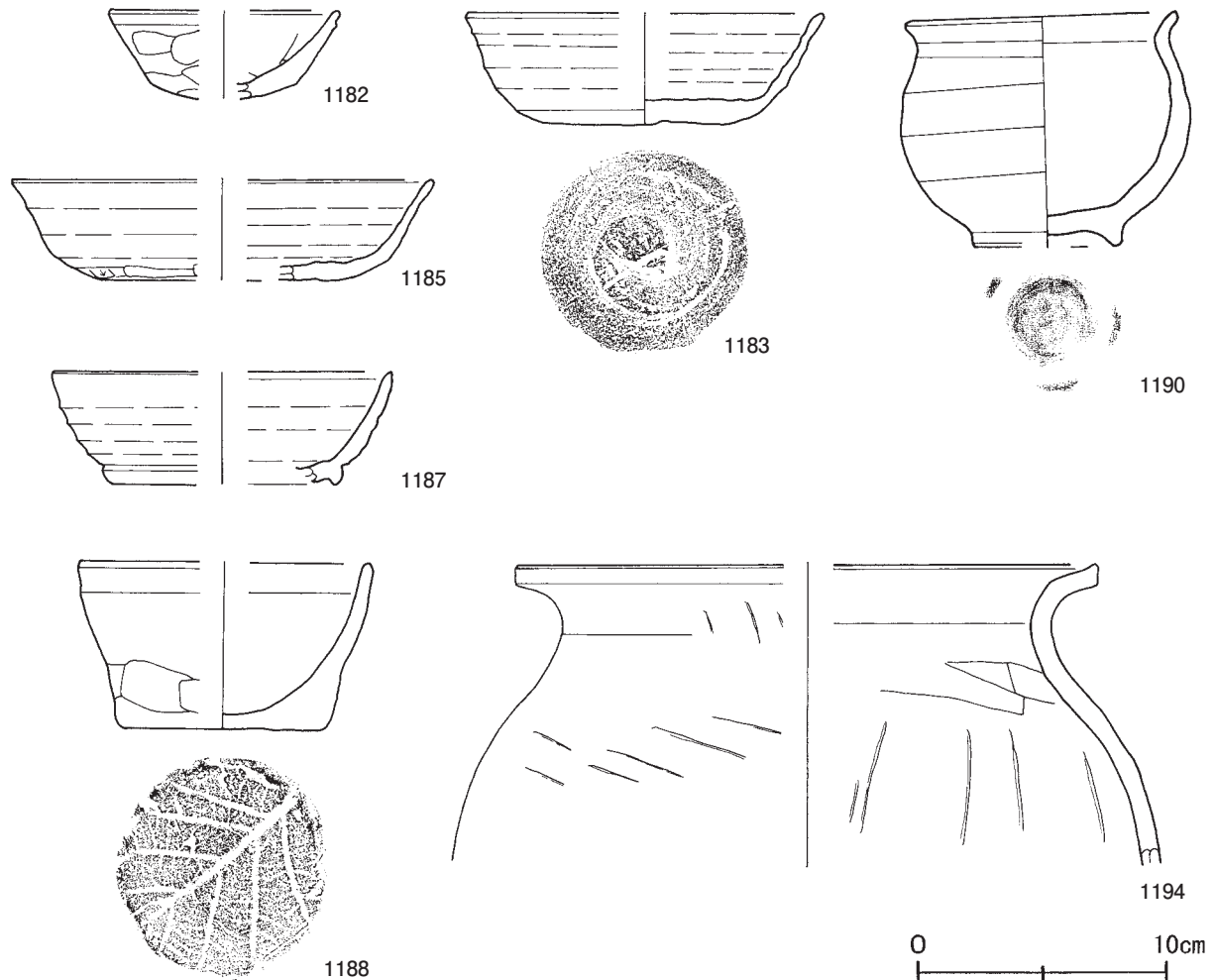
覆土 19層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

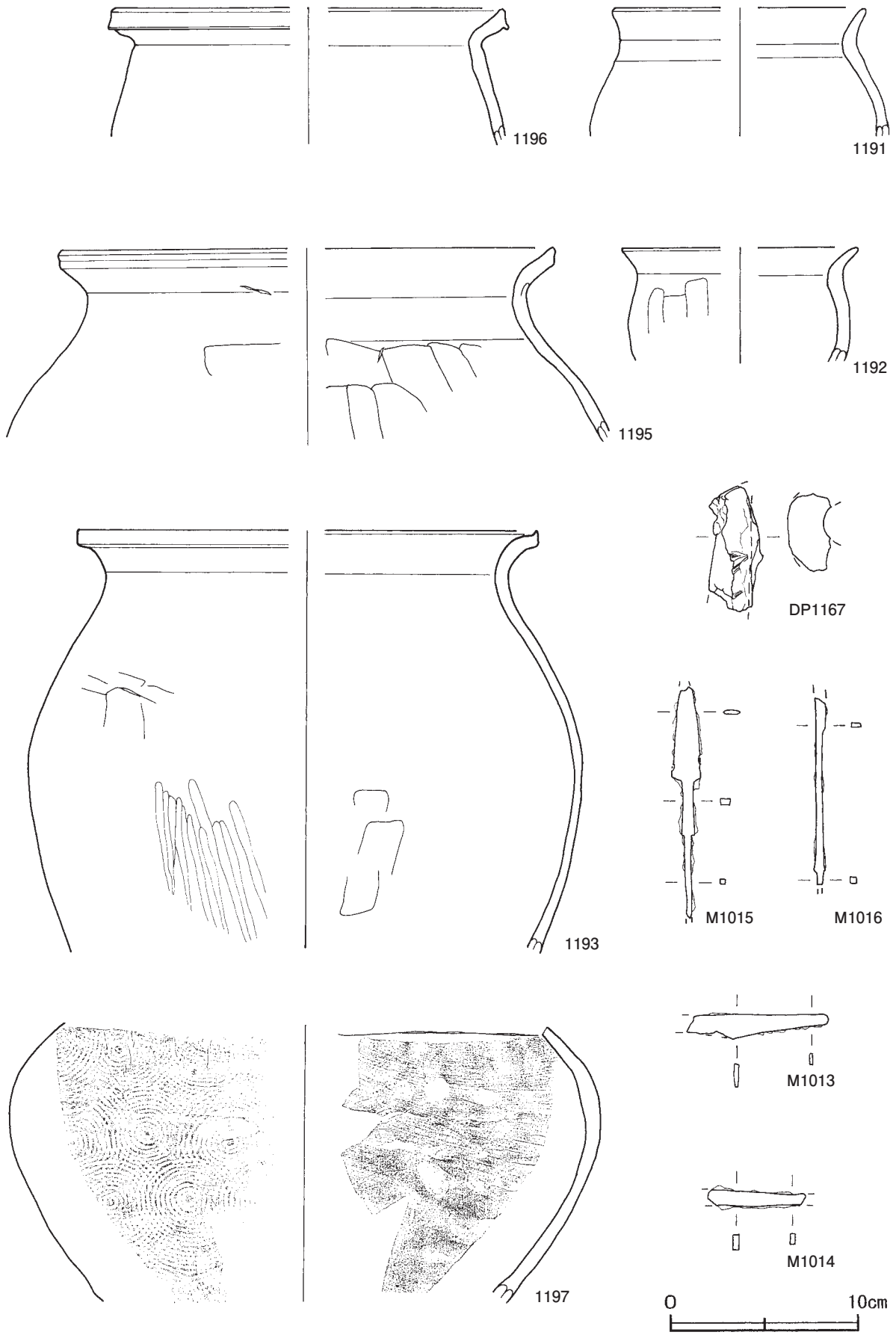
1 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量	11 極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	13 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子少量	15 暗褐色	焼土ブロック中量, ロームブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
7 明褐色	ローム粒子・砂粒中量	17 褐色	ロームブロック中量
8 にぶい褐色	ローム粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック少量
9 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	19 暗褐色	ローム粒子中量
10 極暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師器片4775点（坏類680・高台付碗5・鉢1・甕類4088・甑1），須恵器片457点（坏類324・高台付坏3・蓋97・瓶類17・甕類12・甑4），灰釉陶器6点（長頸瓶），土製品80点（土玉1・球状土錘49・支脚片29・羽口1），金属製品8点（刀子2・鉄鎌3・鎌3），鉄滓11点，礫2点が出土している。遺物の大半は，中央部と南東コーナー部を除く，覆土上層から下層に出土している。1183・1188は竈右袖部脇，DP1118・DP1124・M1016は南東コーナー部，DP1120・DP1123・DP1132は南西コーナー部，DP1121は東壁寄り，DP1122・DP1125・DP1139は中央部，DP1126・DP1143・DP1158は中央寄り，DP1136・1159は北壁寄り，DP1152は北西コーナー部の覆土下層，1190は南東コーナー部，M1015は東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

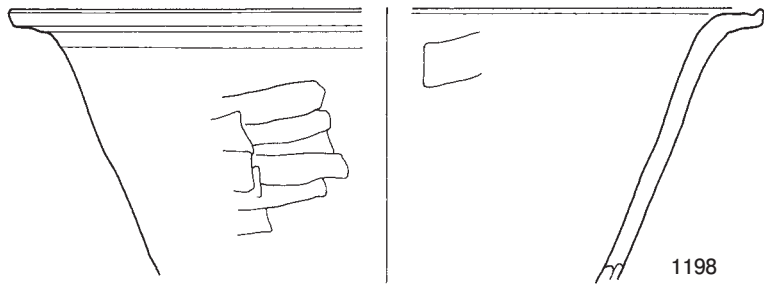
所見 時期は，出土土器や重複関係から8世紀中葉と考えられる。



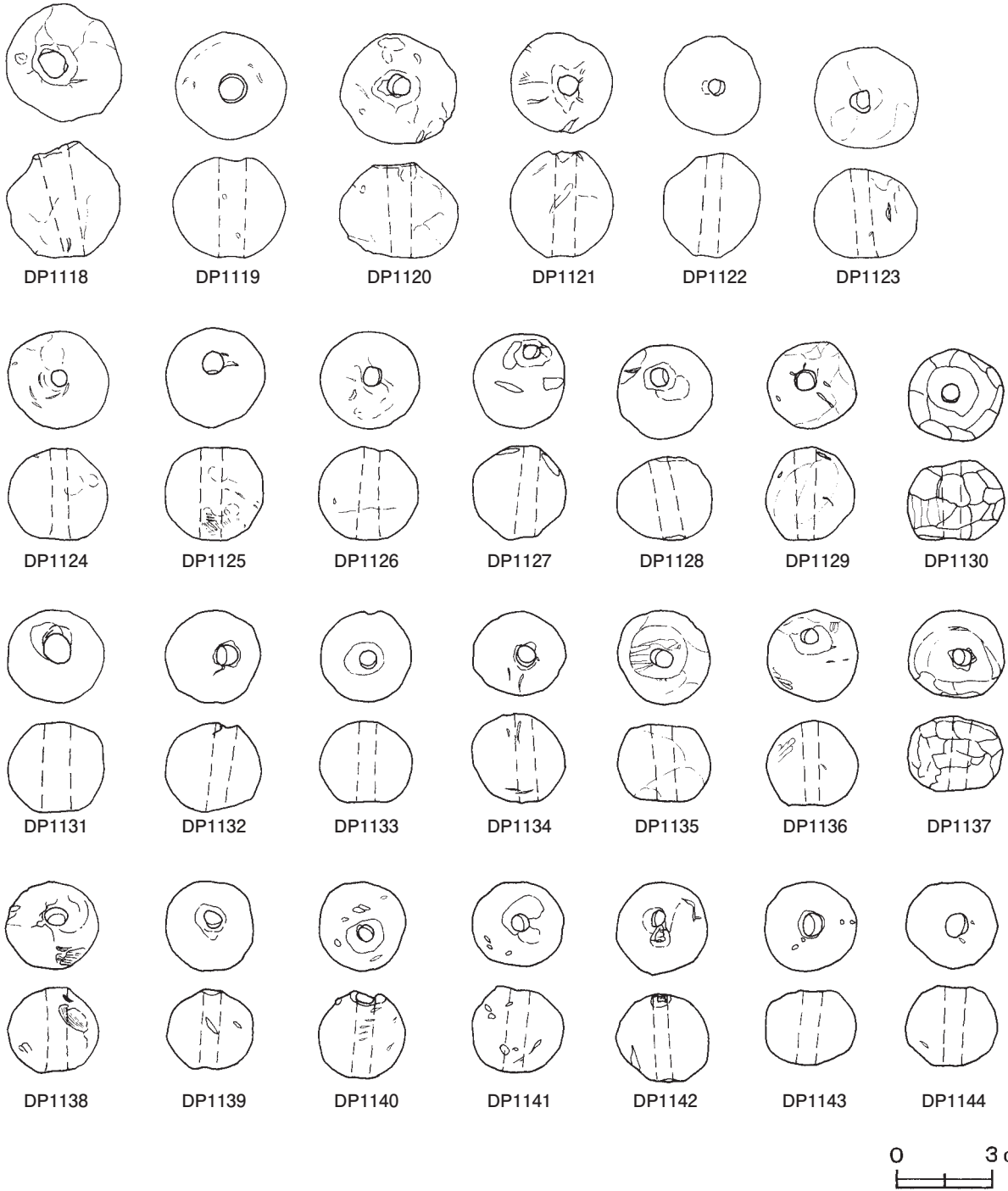
第247図 第116号住居跡出土遺物実測図(1)



第248图 第116号住居跡出土遺物実測図(2)



1198



DP1118

DP1119

DP1120

DP1121

DP1122

DP1123

DP1124

DP1125

DP1126

DP1127

DP1128

DP1129

DP1130

DP1131

DP1132

DP1133

DP1134

DP1135

DP1136

DP1137

DP1138

DP1139

DP1140

DP1141

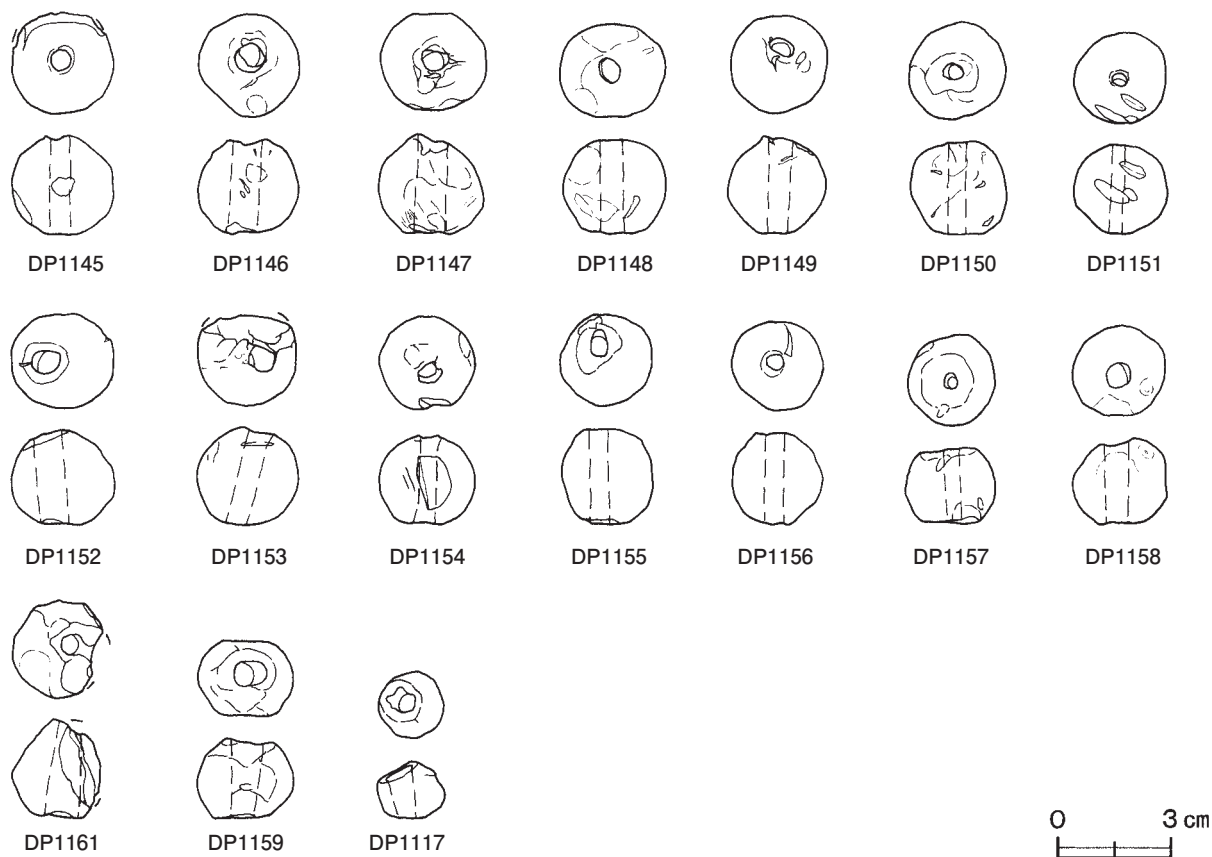
DP1142

DP1143

DP1144



第249图 第116号住居跡出土遺物実測図(3)



第250図 第116号住居跡出土遺物実測図(4)

第116号住居跡出土遺物観察表 (第247 ~ 250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1182	土師器	坏	[9.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部手持ちヘラ削り	中層	20%
1183	須恵器	坏	[7.2]	4.5	6.5	長石・石英・雲母	灰白褐	普通	底部回転ヘラ切り	下層	60% PL109
1185	須恵器	坏	[16.8]	4.0	[9.3]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り	中層	20%
1187	須恵器	高台付坏	[13.5]	4.4	[8.8]	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	ロクロ目が強い	中層	20%
1188	土師器	鉢	[11.6]	6.7	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ 底部木葉痕	下層	60%
1198	土師器	鉢	[29.8]	(10.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	覆土中	10%
1190	土師器	台付小形甕	10.6	9.3	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面横ナデ	上層	95% PL110
1191	土師器	小形甕	[13.4]	(6.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	10%
1192	土師器	小形甕	[12.4]	(6.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	20%
1193	土師器	甕	[24.4]	(22.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り, 下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ	上層~下層	30%
1194	土師器	甕	[23.0]	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	下層	20%
1195	土師器	甕	[26.0]	(10.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	中層~下層	20%
1196	土師器	甕	[20.7]	(7.2)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	10%
1197	須恵器	甕	-	(14.6)	-	長石・石英・雲母	橙	良好	体部同心円状の叩き 内面当具痕	上層	10%

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1117	土玉	1.7	1.6	0.7	3.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1118	球状土錘	3.7	3.6	0.8	39.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP1119	球状土錘	3.5	3.1	0.9	31.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1120	球状土錘	3.7	3.0	0.8	30.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1121	球状土錘	3.2	3.3	0.8	29.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1122	球状土錘	3.1	3.2	0.6	29.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1123	球状土錘	3.2	2.8	0.7	26.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1124	球状土錘	3.1	2.8	0.6	26.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1125	球状土錘	3.1	2.9	0.7	25.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1126	球状土錘	3.1	3.0	0.6	24.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1127	球状土錘	2.9	2.9	0.6	24.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1128	球状土錘	3.0	2.5	0.8	22.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1129	球状土錘	2.8	2.9	0.8	22.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1130	球状土錘	3.0	2.5	0.6	21.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1131	球状土錘	3.0	2.8	0.9	21.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1132	球状土錘	2.9	2.8	0.7	21.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1133	球状土錘	2.8	2.5	0.5	20.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1134	球状土錘	2.7	2.8	0.5	20.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1135	球状土錘	2.9	2.4	0.7	19.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1136	球状土錘	2.9	2.6	0.5	19.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1137	球状土錘	3.0	2.3	0.6	18.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	床面直上	
DP1138	球状土錘	2.9	2.6	0.6	18.1	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1139	球状土錘	2.8	2.5	0.5	17.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1140	球状土錘	2.7	2.7	0.5	17.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1141	球状土錘	2.8	2.7	0.7	17.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1142	球状土錘	2.9	2.7	0.6	17.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1143	球状土錘	2.8	2.3	0.6	16.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1144	球状土錘	2.8	2.5	0.7	16.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1145	球状土錘	2.7	2.6	0.5	(16.0)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1146	球状土錘	2.7	2.5	0.8	15.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1147	球状土錘	2.8	2.8	0.8	15.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1148	球状土錘	2.8	2.5	0.6	15.0	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1149	球状土錘	2.6	2.5	0.5	14.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1150	球状土錘	2.5	2.4	0.5	14.3	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1151	球状土錘	2.4	2.4	0.3	13.5	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1152	球状土錘	2.7	2.5	0.7	13.4	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1153	球状土錘	2.6	2.6	0.7	(13.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1154	球状土錘	2.5	2.4	0.6	12.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP1155	球状土錘	2.4	2.5	0.5	12.7	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1156	球状土錘	2.4	2.4	0.5	11.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1157	球状土錘	2.4	2.0	0.4	10.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1158	球状土錘	2.5	2.2	0.7	10.9	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1159	球状土錘	2.5	2.1	0.9	9.6	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1160	球状土錘	3.0	(2.5)	0.6	(14.3)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1161	球状土錘	2.6	2.6	0.9	(12.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中	
DP1162	球状土錘	3.1	(2.4)	0.5	(11.2)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1163	球状土錘	-	2.9	0.5	(9.4)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	計測のみ
DP1164	球状土錘	-	2.4	-	(7.6)	粘土	ナデ 一部欠損	下層	計測のみ
DP1165	球状土錘	-	(2.4)	0.6	(7.0)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ
DP1166	球状土錘	-	1.9	-	(5.0)	粘土	ナデ 一部欠損	覆土中	計測のみ

番号	器種	長さ	最大径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1167	羽口	(6.7)	(3.0)	-	(58.2)	粘土	鉄滓附着	上層	PL118

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1013	刀子	(7.5)	1.3	0.15~0.3	(7.7)	鉄	茎部 刀身部欠損	上層	PL120
M1014	刀子	(5.2)	0.8	0.3	(9.9)	鉄	茎部	上層	PL120
M1015	鉄鏃	(12.2)	1.6	0.3	(16.6)	鉄	先端部・茎部一部欠損	上層	PL120
M1016	鉄鏃	(9.9)	(0.6)	0.2~0.3	(7.1)	鉄	鏃身部・茎部一部欠損	下層	PL120
M1017	鉄滓	(5.2)	(4.6)	(2.1)	(53.8)	鉄	椀状滓	覆土中	計測のみ

第117号住居跡（第251～254図）

位置 調査Ⅱ区北部のD6b1区，標高28.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第114・128号住居跡を掘り込み，第50号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.68m，短軸6.57mの方形で，主軸方向はN-2°-Wである。壁高は16～37cmで，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。北壁際の一部を除き，壁下には幅8～20cm，深さ5～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。。南西コーナー部寄りから焼土塊が確認されている。これは，住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 明褐色 ロームブロック少量 | |

竈 北壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで106cm，燃焼部幅38cmである。袖部は第12～15層の砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土で構築されている。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に2cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 9 灰褐色 砂粒中量，焼土ブロック少量 |
| 2 灰褐色 ローム粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量 |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量 | 11 褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 4 褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・砂粒微量 | 12 にぶい褐色 焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量 | 13 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 6 灰褐色 砂粒中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 14 灰褐色 砂粒多量，ローム粒子微量 |
| 7 明褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 15 明褐色 ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 焼土ブロック・砂粒少量 | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ45～95cmで，主柱穴である。P5・P6はともに深さ32cmで，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。第1層は柱の抜き取り痕と考えられる。

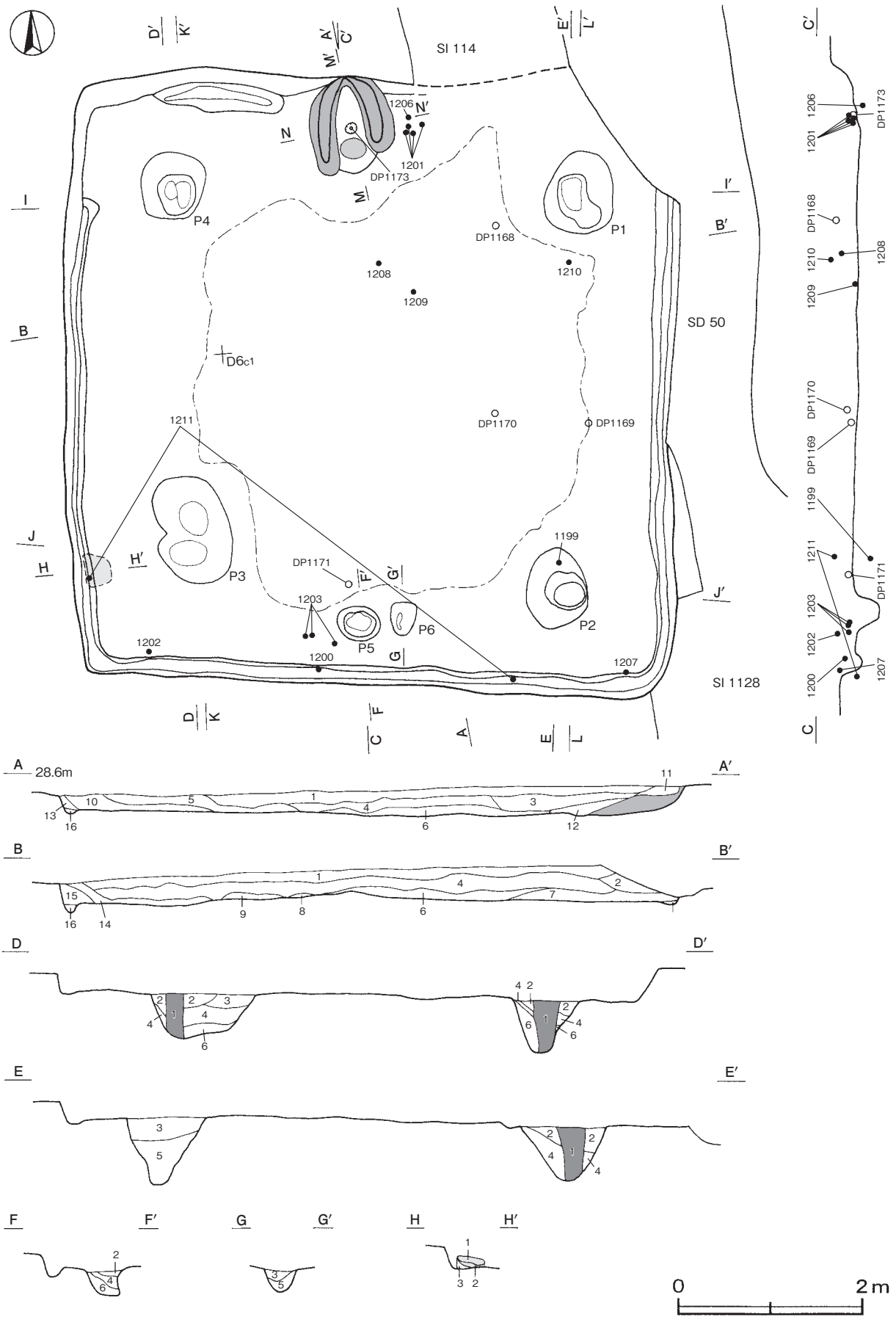
ピット土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ローム粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子少量 |

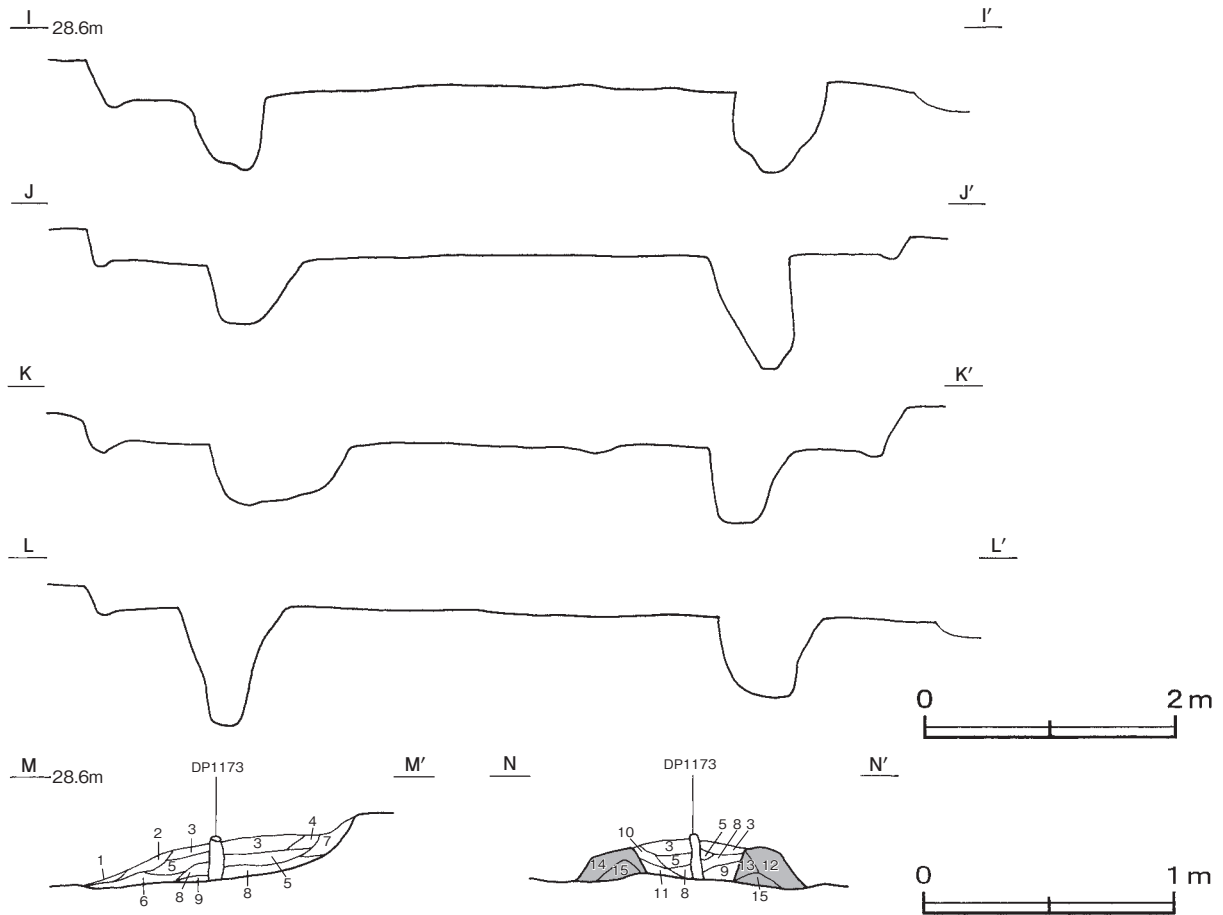
覆土 16層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------------|
| 1 灰褐色 ロームブロック少量 | 9 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量 | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 | 11 灰褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 12 褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 5 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 13 灰褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 6 褐色 ローム粒子少量 | 14 灰褐色 ロームブロック中量 |
| 7 黒褐色 ロームブロック中量 | 15 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 8 褐色 ロームブロック多量，粘土粒子少量 | 16 褐色 ローム粒子微量 |



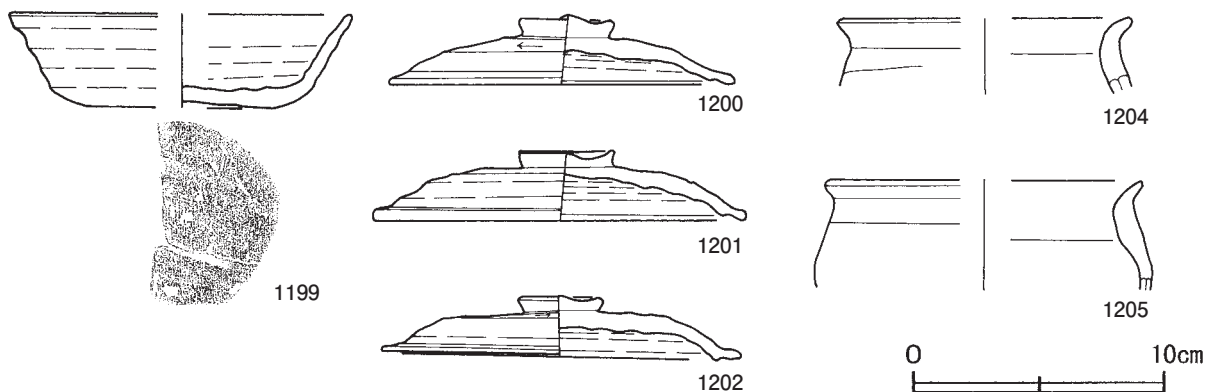
第251图 第117号居住迹实测图 (1)



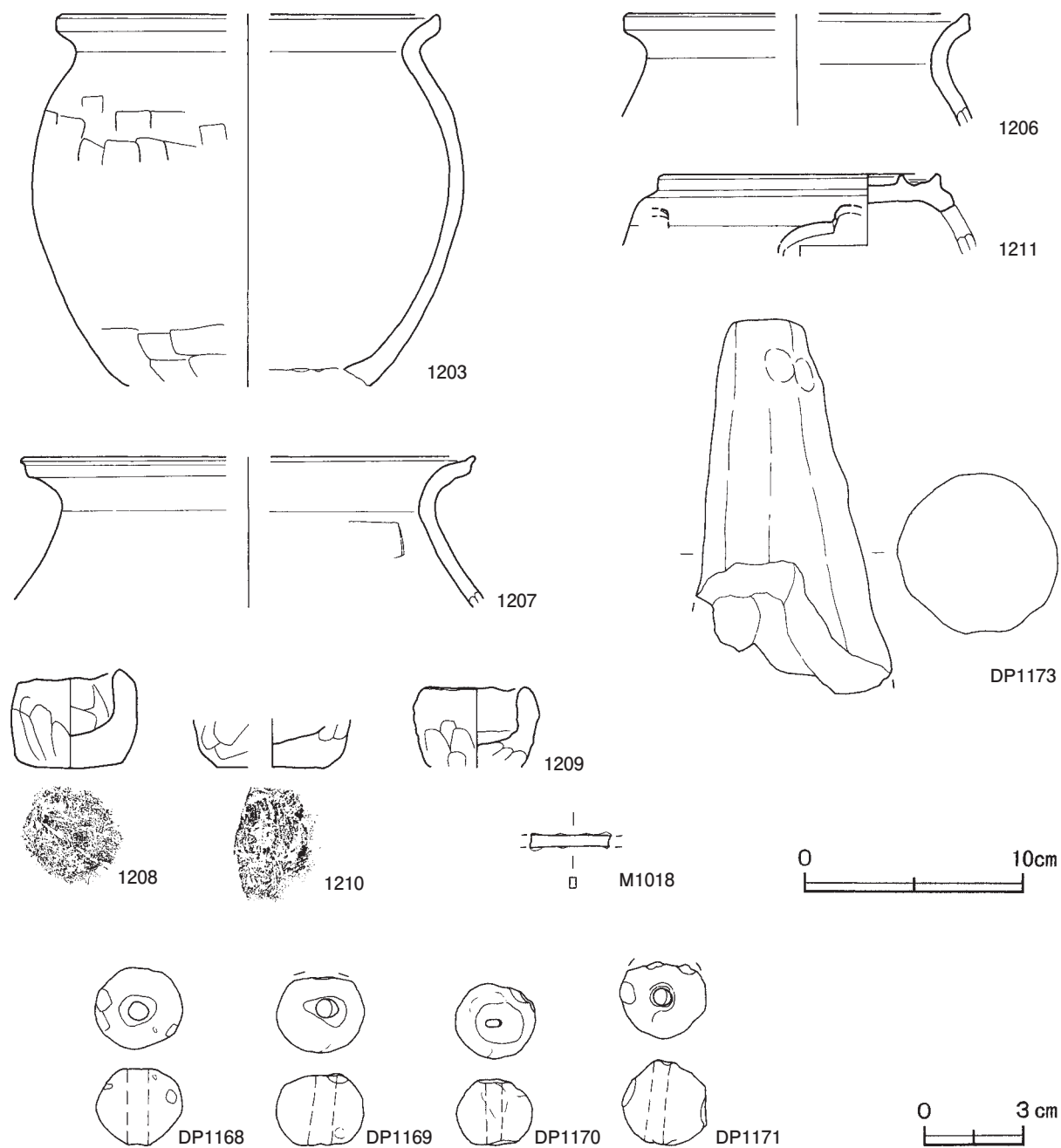
第252図 第117号居住跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片1056点（坏類117・高台付碗5・甕類926・ミニチュア土器2・手捏土器6）、須恵器片82点（坏類53・高台付坏1・蓋18・瓶類1・甕類8・円面硯1）、灰釉陶器9点（長頸瓶）、土製品6点（球状土錘5・支脚片1）、金属製品1点（刀子）、鉄滓1点が出土している。遺物の大半は、竈周辺、東壁から南壁にかけての覆土上層から下層に出土している。1200・1203は南壁寄り、DP1170は東壁寄りの覆土中層、1202は南西コーナー部、DP1168は東壁寄りの覆土上層、1209は中央部、DP1169は東壁寄りの覆土下層、DP1173は竈火床部中央からそれぞれ出土している。また、1201は竈右袖部脇の覆土中層から覆土下層にかけて出土した破片が、1211は南西コーナー部の覆土上層と南東コーナー部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や重複関係から8世紀前葉と考えられる。



第253図 第117号住居跡出土遺物実測図(1)



第254図 第117号住居跡出土遺物実測図(2)

第117号住居跡出土遺物観察表 (第253・254図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1199	須恵器	坏	[13.4]	3.7	[6.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	上層～下層	30%
1200	須恵器	蓋	13.6	2.7	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	中層	95% PL109
1201	須恵器	蓋	14.5	2.8	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	中層～下層	95% PL109
1202	須恵器	蓋	12.6	2.4	-	長石・雲母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ貼り付け	上層	90% PL109
1203	土師器	小形甕	[15.4]	(5.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	10%
1204	土師器	甕	[20.4]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	上層	10%
1205	土師器	小形甕	[17.2]	(16.8)	-	長石・石英	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	30%
1206	土師器	小形甕	[11.4]	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1207	土師器	小形甕	[12.3]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%
1208	土師器	手捏土器	4.6	4.5	4.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	上層	100% PL116
1209	土師器	手捏土器	4.8	(3.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ	下層	40%
1210	土師器	手捏土器	-	(2.2)	[4.8]	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラナデ	上層	10%
1211	須恵器	円面硯	12.6	(3.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	透し孔5か所	上層～下層	40% PL110

番号	器種	径	厚さ・長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1168	球状土錘	2.6	2.3	0.6	12.8	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	上層	
DP1169	球状土錘	2.7	2.2	0.6	(12.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	下層	
DP1170	球状土錘	2.4	2.0	0.5	9.2	粘土	ナデ 一方向からの穿孔	中層	
DP1171	球状土錘	2.6	2.6	0.6	(13.2)	粘土	ナデ 一方向からの穿孔 一部欠損	中層	
DP1172	球状土錘	2.8	2.2	0.6	(9.4)	粘土	ナデ 一部欠損	中層	計測のみ

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1173	支脚	22.3	(10.9)	3.2	(1002)	粘土	ナデ 被熱痕	下層	PL118

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1018	刀子	(3.7)	0.6	0.3	(5.6)	鉄	茎部	覆土中	

第119号住居跡（第255・256図）

位置 調査Ⅱ区北部のC 5 j7区，標高27.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第118号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.50m・短軸3.20mの方形で・主軸方向はN-3°-Eである。壁高は21～25cmで・ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。北壁際を除いて，壁下には幅14～36cm，深さ5～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認されている。南壁寄りから焼土塊2か所が確認されている。これらは，住居廃絶後に投棄されたものである。

焼土塊土層解説

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黄橙色 焼土ブロック多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 | |

竈 北壁中央部に付設されており，規模は焚口部から煙道部まで110cm，燃焼部幅36cmである。袖部は砂質粘土やロームを混ぜた灰褐色土を壁に貼り付けられて構築されている。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量 | 6 赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 3 褐色 砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量 | 9 赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子微量 |
| 5 灰褐色 砂粒中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 |

ピット 2か所。P1・P2はともに深さ4cmで，性格不明である。

ピット土層解説

- | |
|----------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量 |
|----------------|

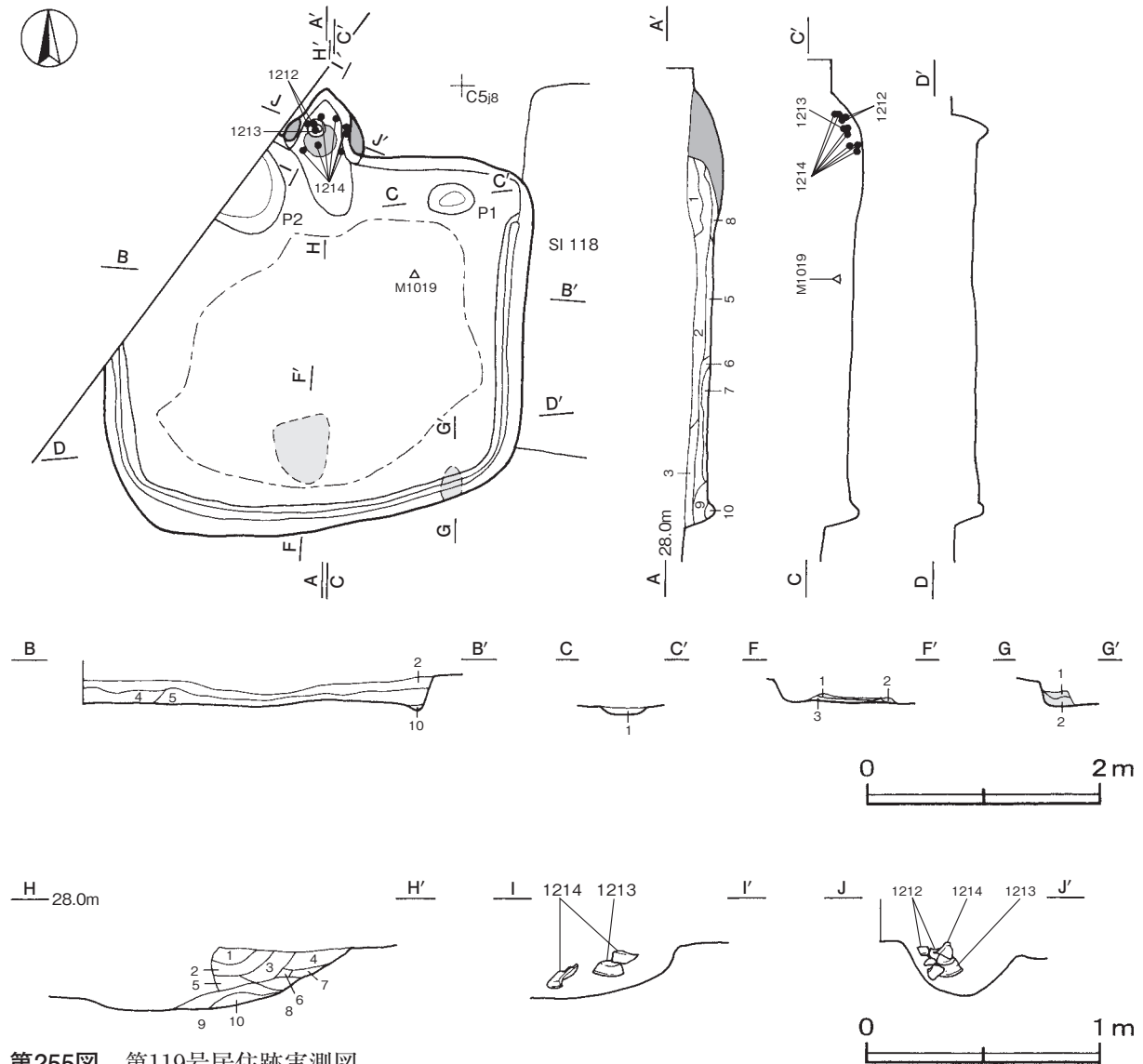
覆土 10層に分けられる。ロームブロックや焼土ブロックを含み、不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

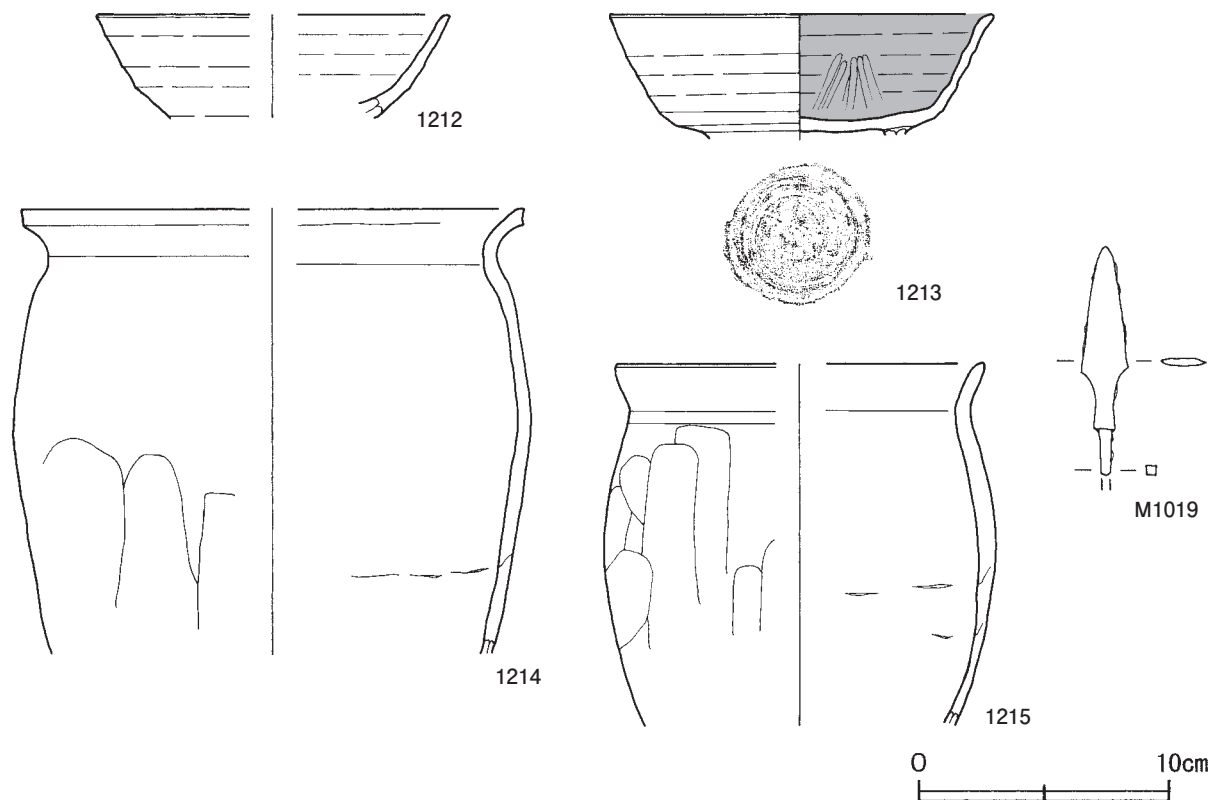
- | | | | |
|---------|------------------------|----------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片61点（坏類8・高台付椀4・甕類49）、須恵器片4点（坏類1・蓋1・甕類2）、金属製品1点（鉄鏃）が出土している。1212は竈火床部の上層、1213は竈火床部の上層から逆位で、1214は竈火床部の上層から下層にかけて、M1019は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。1213は火熱を受けておらず、竈の廃絶時に何らかの目的で置かれたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉と考えられる。



第255図 第119号居住跡実測図



第256図 第119号住居跡出土遺物実測図

第119号住居跡出土遺物観察表（第256図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1212	須恵器	坏	[13.9]	(4.1)	-	長石・石英・針状鉱物・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロ目が強い	竈内上層	30%
1213	土師器	高台付椀	15.0	(4.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	内面縦位のへら磨き 底部回転へら切り	竈火床部	30%
1214	土師器	甕	[20.0]	(17.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ へら削り 輪積痕 体部外面	竈火床部	30%
1215	土師器	小形甕	[14.5]	(14.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ へら削り 内面へらナデ 体部外面	竈内	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1019	鉄鏃	(9.0)	1.9	0.35~0.4	(16.4)	鉄	茎部欠損	上層	PL120

茨城県教育財団文化財調査報告第308集

薬 師 後 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 巻

平成21（2009）年3月18日 印刷

平成21（2009）年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505